

「基礎ゼミナール」（担当者：青山 悦子）の履修の手引き

科目名：	基礎ゼミナール
担当者：	青山 悦子
対象学生：	経営経済学部1年
設置学期：	通年
概要：	大学での学習は、皆さんが高校までで慣れ親しんできた「お勉強」とはだいぶ様子が違います。講義に出てみれば、多くの教員は板書をそれほどしませんし、教科書もそれほど使いません。なかには、全く板書をしない教員もいますし、教科書自体がないという授業もあります。また、学生が自分の意見を持ち、それをある理屈にしたがって表現することを要求されることもしばしばです。その結果、こういった違いに戸惑うあまり、大学で学ぶべき内容を学び損ねてしまう学生が、実はかなり多くいます。この授業は、学生諸君がこのようなことにならないように、大学ではどのような学習態度で望めばよいかということ、様々な実践を通じて、体得してもらうことを目的としています。
授業方法：	基本的に演習形式で行いますので、学生諸君の積極的な取り組みが求められます。
履修の留意点：	春学期に取り扱うテーマ：論理性のトレーニング・講義ノートの取り方・資料収集のやり方・読書ノートの作り方・レポートの書き方 秋学期に取り扱うテーマ：パブリックスピーキング・プレゼンテーション・ディベート・会議なお、担当教員によっては、上記以外のテーマを取り扱うこともありますし、教科書や参考書を使用することもありますので、初回の授業には必ず出席するようにして下さい。
目標と評価：	毎回の授業において課せられる課題の達成度を総合的に評価します。ですから、試験期間中に筆答試験は行いません。
教科書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「基礎ゼミナール」（担当者：内田 和夫）の履修の手引き

科目名：	基礎ゼミナール
担当者：	内田 和夫
対象学生：	経営経済学部1年
設置学期：	通年
概要：	大学での学習は、皆さんが高校までで慣れ親しんできた「お勉強」とはだいぶ様子が違います。講義に出てみれば、多くの教員は板書をそれほどしませんし、教科書もそれほど使いません。なかには、全く板書をしない教員もいますし、教科書自体がないという授業もあります。また、学生が自分の意見を持ち、それをある理屈にしたがって表現することを要求されることもしばしばです。その結果、こういった違いに戸惑うあまり、大学で学ぶべき内容を学び損ねてしまう学生が、実はかなり多くいます。この授業は、学生諸君がこのようなことにならないように、大学ではどのような学習態度で望めばよいかということ、様々な実践を通じて、体得してもらうことを目的としています。
授業方法：	基本的に演習形式で行いますので、学生諸君の積極的な取り組みが求められます。
履修の留意点：	春学期に取り扱うテーマ：論理性のトレーニング・講義ノートの取り方・資料収集のやり方・読書ノートの作り方・レポートの書き方 秋学期に取り扱うテーマ：パブリックスピーキング・プレゼンテーション・ディベート・会議なお、担当教員によっては、上記以外のテーマを取り扱うこともありますし、教科書や参考書を使用することもありますので、初回の授業には必ず出席するようにして下さい。
目標と評価：	毎回の授業において課せられる課題の達成度を総合的に評価します。ですから、試験期間中に筆答試験は行いません。
教科書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「基礎ゼミナール」（担当者：戎野 淑子）の履修の手引き

科目名：	基礎ゼミナール
担当者：	戎野 淑子
対象学生：	経営経済学部1年
設置学期：	通年
概要：	大学での学習は、皆さんが高校までで慣れ親しんできた「お勉強」とはだいぶ様子が違います。講義に出てみれば、多くの教員は板書をそれほどしませんし、教科書もそれほど使いません。なかには、全く板書をしない教員もいますし、教科書自体がないという授業もあります。また、学生が自分の意見を持ち、それをある理屈にしたがって表現することを要求されることもしばしばです。その結果、こういった違いに戸惑うあまり、大学で学ぶべき内容を学び損ねてしまう学生が、実はかなり多くいます。この授業は、学生諸君がこのようなことにならないように、大学ではどのような学習態度で望めばよいかということ、様々な実践を通じて、体得してもらうことを目的としています。
授業方法：	基本的に演習形式で行いますので、学生諸君の積極的な取り組みが求められます。
履修の留意点：	春学期に取り扱うテーマ：論理性のトレーニング・講義ノートの取り方・資料収集のやり方・読書ノートの作り方・レポートの書き方 秋学期に取り扱うテーマ：パブリックスピーキング・プレゼンテーション・ディベート・会議なお、担当教員によっては、上記以外のテーマを取り扱うこともありますし、教科書や参考書を使用することもありますので、初回の授業には必ず出席するようにして下さい。
目標と評価：	毎回の授業において課せられる課題の達成度を総合的に評価します。ですから、試験期間中に筆答試験は行いません。
教科書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「基礎ゼミナール」（担当者：嘉悦 康太）の履修の手引き

科目名：	基礎ゼミナール
担当者：	嘉悦 康太
対象学生：	経営経済学部1年
設置学期：	通年
概要：	大学での学習は、皆さんが高校までで慣れ親しんできた「お勉強」とはだいぶ様子が違います。講義に出てみれば、多くの教員は板書をそれほどしませんし、教科書もそれほど使いません。なかには、全く板書をしない教員もいますし、教科書自体がないという授業もあります。また、学生が自分の意見を持ち、それをある理屈にしたがって表現することを要求されることもしばしばです。その結果、こういった違いに戸惑うあまり、大学で学ぶべき内容を学び損ねてしまう学生が、実はかなり多くいます。この授業は、学生諸君がこのようなことにならないように、大学ではどのような学習態度で望めばよいかということ、様々な実践を通じて、体得してもらうことを目的としています。
授業方法：	基本的に演習形式で行いますので、学生諸君の積極的な取り組みが求められます。
履修の留意点：	春学期に取り扱うテーマ：論理性のトレーニング・講義ノートの取り方・資料収集のやり方・読書ノートの作り方・レポートの書き方 秋学期に取り扱うテーマ：パブリックスピーキング・プレゼンテーション・ディベート・会議なお、担当教員によっては、上記以外のテーマを取り扱うこともありますし、教科書や参考書を使用することもありますので、初回の授業には必ず出席するようにして下さい。
目標と評価：	毎回の授業において課せられる課題の達成度を総合的に評価します。ですから、試験期間中に筆答試験は行いません。
教科書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「基礎ゼミナール」（担当者：加藤 敦宣）の履修の手引き

科目名：	基礎ゼミナール
担当者：	加藤 敦宣
対象学生：	短期大学部1年
設置学期：	通年
概要：	大学での学習は、皆さんが高校までで慣れ親しんできた「お勉強」とはだいぶ様子が違います。講義に出てみれば、多くの教員は板書をそれほどしませんし、教科書もそれほど使いません。なかには、全く板書をしない教員もいますし、教科書自体がないという授業もあります。また、学生が自分の意見を持ち、それをある理屈にしたがって表現することを要求されることもしばしばです。その結果、こういった違いに戸惑うあまり、大学で学ぶべき内容を学び損ねてしまう学生が、実はかなり多くいます。この授業は、学生諸君がこのようなことにならないように、大学ではどのような学習態度で望めばよいかということ、様々な実践を通じて、体得してもらうことを目的としています。
授業方法：	基本的に演習形式で行いますので、学生諸君の積極的な取り組みが求められます。
履修の留意点：	春学期に取り扱うテーマ：論理性のトレーニング・講義ノートの取り方・資料収集のやり方・読書ノートの作り方・レポートの書き方 秋学期に取り扱うテーマ：パブリックスピーキング・プレゼンテーション・ディベート・会議なお、担当教員によっては、上記以外のテーマを取り扱うこともありますし、教科書や参考書を使用することもありますので、初回の授業には必ず出席するようにして下さい。
目標と評価：	毎回の授業において課せられる課題の達成度を総合的に評価します。ですから、試験期間中に筆答試験は行いません。
教科書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「基礎ゼミナール」（担当者：久保 真）の履修の手引き

科目名：	基礎ゼミナール
担当者：	久保 真
対象学生：	短期大学部1年
設置学期：	通年
概要：	大学での学習は、皆さんが高校までで慣れ親しんできた「お勉強」とはだいぶ様子が違います。講義に出てみれば、多くの教員は板書をそれほどしませんし、教科書もそれほど使いません。なかには、全く板書をしない教員もいますし、教科書自体がないという授業もあります。また、学生が自分の意見を持ち、それをある理屈にしたがって表現することを要求されることもしばしばです。その結果、こういった違いに戸惑うあまり、大学で学ぶべき内容を学び損ねてしまう学生が、実はかなり多くいます。この授業は、学生諸君がこのようなことにならないように、大学ではどのような学習態度で望めばよいかということ、様々な実践を通じて、体得してもらうことを目的としています。
授業方法：	基本的に演習形式で行いますので、学生諸君の積極的な取り組みが求められます。
履修の留意点：	春学期に取り扱うテーマ：論理性のトレーニング・講義ノートの取り方・資料収集のやり方・読書ノートの作り方・レポートの書き方 秋学期に取り扱うテーマ：パブリックスピーキング・プレゼンテーション・ディベート・会議なお、担当教員によっては、上記以外のテーマを取り扱うこともありますし、教科書や参考書を使用することもありますので、初回の授業には必ず出席するようにして下さい。
目標と評価：	毎回の授業において課せられる課題の達成度を総合的に評価します。ですから、試験期間中に筆答試験は行いません。
教科書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「基礎ゼミナール」（担当者：下河邊 元春）の履修の手引き

科目名：	基礎ゼミナール
担当者：	下河邊 元春
対象学生：	短期大学部1年
設置学期：	通年
概要：	大学での学習は、皆さんが高校までで慣れ親しんできた「お勉強」とはだいぶ様子が違います。講義に出てみれば、多くの教員は板書をそれほどしませんし、教科書もそれほど使いません。なかには、全く板書をしない教員もいますし、教科書自体がないという授業もあります。また、学生が自分の意見を持ち、それをある理屈にしたがって表現することを要求されることもしばしばです。その結果、こういった違いに戸惑うあまり、大学で学ぶべき内容を学び損ねてしまう学生が、実はかなり多くいます。この授業は、学生諸君がこのようなことにならないように、大学ではどのような学習態度で望めばよいかということ、様々な実践を通じて、体得してもらうことを目的としています。
授業方法：	基本的に演習形式で行いますので、学生諸君の積極的な取り組みが求められます。
履修の留意点：	春学期に取り扱うテーマ：論理性のトレーニング・講義ノートの取り方・資料収集のやり方・読書ノートの作り方・レポートの書き方 秋学期に取り扱うテーマ：パブリックスピーキング・プレゼンテーション・ディベート・会議なお、担当教員によっては、上記以外のテーマを取り扱うこともありますし、教科書や参考書を使用することもありますので、初回の授業には必ず出席するようにして下さい。
目標と評価：	毎回の授業において課せられる課題の達成度を総合的に評価します。ですから、試験期間中に筆答試験は行いません。
教科書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「基礎ゼミナール」（担当者：高野 秀之）の履修の手引き

科目名：	基礎ゼミナール
担当者：	高野 秀之
対象学生：	経営経済学部1年
設置学期：	通年
概要：	大学での学習は、皆さんが高校までで慣れ親しんできた「お勉強」とはだいぶ様子が違います。講義に出てみれば、多くの教員は板書をそれほどしませんし、教科書もそれほど使いません。なかには、全く板書をしない教員もいますし、教科書自体がないという授業もあります。また、学生が自分の意見を持ち、それをある理屈にしたがって表現することを要求されることもしばしばです。その結果、こういった違いに戸惑うあまり、大学で学ぶべき内容を学び損ねてしまう学生が、実はかなり多くいます。この授業は、学生諸君がこのようなことにならないように、大学ではどのような学習態度で望めばよいかということ、様々な実践を通じて、体得してもらうことを目的としています。
授業方法：	基本的に演習形式で行いますので、学生諸君の積極的な取り組みが求められます。
履修の留意点：	春学期に取り扱うテーマ：論理性のトレーニング・講義ノートの取り方・資料収集のやり方・読書ノートの作り方・レポートの書き方 秋学期に取り扱うテーマ：パブリックスピーキング・プレゼンテーション・ディベート・会議なお、担当教員によっては、上記以外のテーマを取り扱うこともありますし、教科書や参考書を使用することもありますので、初回の授業には必ず出席するようにして下さい。
目標と評価：	毎回の授業において課せられる課題の達成度を総合的に評価します。ですから、試験期間中に筆答試験は行いません。
教科書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。



「基礎ゼミナール」（担当者：内藤 勝）の履修の手引き

科目名：	基礎ゼミナール
担当者：	内藤 勝
対象学生：	経営経済学部1年
設置学期：	通年
概要：	大学での学習は、皆さんが高校までで慣れ親しんできた「お勉強」とはだいぶ様子が違います。講義に出てみれば、多くの教員は板書をそれほどしませんし、教科書もそれほど使いません。なかには、全く板書をしない教員もいますし、教科書自体がないという授業もあります。また、学生が自分の意見を持ち、それをある理屈にしたがって表現することを要求されることもしばしばです。その結果、こういった違いに戸惑うあまり、大学で学ぶべき内容を学び損ねてしまう学生が、実はかなり多くいます。この授業は、学生諸君がこのようなことにならないように、大学ではどのような学習態度で望めばよいかということ、様々な実践を通じて、体得してもらうことを目的としています。
授業方法：	基本的に演習形式で行いますので、学生諸君の積極的な取り組みが求められます。
履修の留意点：	春学期に取り扱うテーマ：論理性のトレーニング・講義ノートの取り方・資料収集のやり方・読書ノートの作り方・レポートの書き方 秋学期に取り扱うテーマ：パブリックスピーキング・プレゼンテーション・ディベート・会議なお、担当教員によっては、上記以外のテーマを取り扱うこともありますし、教科書や参考書を使用することもありますので、初回の授業には必ず出席するようにして下さい。
目標と評価：	毎回の授業において課せられる課題の達成度を総合的に評価します。ですから、試験期間中に筆答試験は行いません。
教科書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「基礎ゼミナール」（担当者：滑川 光裕）の履修の手引き

科目名：	基礎ゼミナール
担当者：	滑川 光裕
対象学生：	経営経済学部1年
設置学期：	通年
概要：	大学での学習は、皆さんが高校までで慣れ親しんできた「お勉強」とはだいぶ様子が違います。講義に出てみれば、多くの教員は板書をそれほどしませんし、教科書もそれほど使いません。なかには、全く板書をしない教員もいますし、教科書自体がないという授業もあります。また、学生が自分の意見を持ち、それをある理屈にしたがって表現することを要求されることもしばしばです。その結果、こういった違いに戸惑うあまり、大学で学ぶべき内容を学び損ねてしまう学生が、実はかなり多くいます。この授業は、学生諸君がこのようなことにならないように、大学ではどのような学習態度で望めばよいかということ、様々な実践を通じて、体得してもらうことを目的としています。
授業方法：	基本的に演習形式で行いますので、学生諸君の積極的な取り組みが求められます。
履修の留意点：	春学期に取り扱うテーマ：論理性のトレーニング・講義ノートの取り方・資料収集のやり方・読書ノートの作り方・レポートの書き方 秋学期に取り扱うテーマ：パブリックスピーキング・プレゼンテーション・ディベート・会議なお、担当教員によっては、上記以外のテーマを取り扱うこともありますし、教科書や参考書を使用することもありますので、初回の授業には必ず出席するようにして下さい。
目標と評価：	毎回の授業において課せられる課題の達成度を総合的に評価します。ですから、試験期間中に筆答試験は行いません。
教科書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「基礎ゼミナール」（担当者：馮 雪梅）の履修の手引き

科目名：	基礎ゼミナール
担当者：	馮 雪梅
対象学生：	経営経済学部1年
設置学期：	通年
概要：	大学での学習は、皆さんが高校までで慣れ親しんできた「お勉強」とはだいぶ様子が違います。講義に出てみれば、多くの教員は板書をそれほどしませんし、教科書もそれほど使いません。なかには、全く板書をしない教員もいますし、教科書自体がないという授業もあります。また、学生が自分の意見を持ち、それをある理屈にしたがって表現することを要求されることもしばしばです。その結果、こういった違いに戸惑うあまり、大学で学ぶべき内容を学び損ねてしまう学生が、実はかなり多くいます。この授業は、学生諸君がこのようなことにならないように、大学ではどのような学習態度で望めばよいかということ、様々な実践を通じて、体得してもらうことを目的としています。
授業方法：	基本的に演習形式で行いますので、学生諸君の積極的な取り組みが求められます。
履修の留意点：	春学期に取り扱うテーマ：論理性のトレーニング・講義ノートの取り方・資料収集のやり方・読書ノートの作り方・レポートの書き方 秋学期に取り扱うテーマ：パブリックスピーキング・プレゼンテーション・ディベート・会議なお、担当教員によっては、上記以外のテーマを取り扱うこともありますし、教科書や参考書を使用することもありますので、初回の授業には必ず出席するようにして下さい。
目標と評価：	毎回の授業において課せられる課題の達成度を総合的に評価します。ですから、試験期間中に筆答試験は行いません。
教科書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「基礎ゼミナール」（担当者：松嶋 哲雄）の履修の手引き

科目名：	基礎ゼミナール
担当者：	松嶋 哲雄
対象学生：	短期大学部1年
設置学期：	通年
概要：	大学での学習は、皆さんが高校までで慣れ親しんできた「お勉強」とはだいぶ様子が違います。講義に出てみれば、多くの教員は板書をそれほどしませんし、教科書もそれほど使いません。なかには、全く板書をしない教員もいますし、教科書自体がないという授業もあります。また、学生が自分の意見を持ち、それをある理屈にしたがって表現することを要求されることもしばしばです。その結果、こういった違いに戸惑うあまり、大学で学ぶべき内容を学び損ねてしまう学生が、実はかなり多くいます。この授業は、学生諸君がこのようなことにならないように、大学ではどのような学習態度で望めばよいかということ、様々な実践を通じて、体得してもらうことを目的としています。
授業方法：	基本的に演習形式で行いますので、学生諸君の積極的な取り組みが求められます。
履修の留意点：	春学期に取り扱うテーマ：論理性のトレーニング・講義ノートの取り方・資料収集のやり方・読書ノートの作り方・レポートの書き方 秋学期に取り扱うテーマ：パブリックスピーキング・プレゼンテーション・ディベート・会議なお、担当教員によっては、上記以外のテーマを取り扱うこともありますし、教科書や参考書を使用することもありますので、初回の授業には必ず出席するようにして下さい。
目標と評価：	毎回の授業において課せられる課題の達成度を総合的に評価します。ですから、試験期間中に筆答試験は行いません。
教科書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「基礎ゼミナール」（担当者：南 憲一）の履修の手引き

科目名：	基礎ゼミナール
担当者：	南 憲一
対象学生：	短期大学部1年
設置学期：	通年
概要：	大学での学習は、皆さんが高校までで慣れ親しんできた「お勉強」とはだいぶ様子が違います。講義に出てみれば、多くの教員は板書をそれほどしませんし、教科書もそれほど使いません。なかには、全く板書をしない教員もいますし、教科書自体がないという授業もあります。また、学生が自分の意見を持ち、それをある理屈にしたがって表現することを要求されることもしばしばです。その結果、こういった違いに戸惑うあまり、大学で学ぶべき内容を学び損ねてしまう学生が、実はかなり多くいます。この授業は、学生諸君がこのようなことにならないように、大学ではどのような学習態度で望めばよいかということ、様々な実践を通じて、体得してもらうことを目的としています。
授業方法：	基本的に演習形式で行いますので、学生諸君の積極的な取り組みが求められます。
履修の留意点：	春学期に取り扱うテーマ：論理性のトレーニング・講義ノートの取り方・資料収集のやり方・読書ノートの作り方・レポートの書き方 秋学期に取り扱うテーマ：パブリックスピーキング・プレゼンテーション・ディベート・会議なお、担当教員によっては、上記以外のテーマを取り扱うこともありますし、教科書や参考書を使用することもありますので、初回の授業には必ず出席するようにして下さい。
目標と評価：	毎回の授業において課せられる課題の達成度を総合的に評価します。ですから、試験期間中に筆答試験は行いません。
教科書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「基礎ゼミナール」（担当者：宮本 勉）の履修の手引き

科目名：	基礎ゼミナール
担当者：	宮本 勉
対象学生：	短期大学部1年
設置学期：	通年
概要：	大学での学習は、皆さんが高校までで慣れ親しんできた「お勉強」とはだいぶ様子が違います。講義に出てみれば、多くの教員は板書をそれほどしませんし、教科書もそれほど使いません。なかには、全く板書をしない教員もいますし、教科書自体がないという授業もあります。また、学生が自分の意見を持ち、それをある理屈にしたがって表現することを要求されることもしばしばです。その結果、こういった違いに戸惑うあまり、大学で学ぶべき内容を学び損ねてしまう学生が、実はかなり多くいます。この授業は、学生諸君がこのようなことにならないように、大学ではどのような学習態度で望めばよいかということ、様々な実践を通じて、体得してもらうことを目的としています。
授業方法：	基本的に演習形式で行いますので、学生諸君の積極的な取り組みが求められます。
履修の留意点：	春学期に取り扱うテーマ：論理性のトレーニング・講義ノートの取り方・資料収集のやり方・読書ノートの作り方・レポートの書き方 秋学期に取り扱うテーマ：パブリックスピーキング・プレゼンテーション・ディベート・会議なお、担当教員によっては、上記以外のテーマを取り扱うこともありますし、教科書や参考書を使用することもありますので、初回の授業には必ず出席するようにして下さい。
目標と評価：	毎回の授業において課せられる課題の達成度を総合的に評価します。ですから、試験期間中に筆答試験は行いません。
教科書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「基礎ゼミナール」（担当者：森本 孝）の履修の手引き

科目名：	基礎ゼミナール
担当者：	森本 孝
対象学生：	経営経済学部1年
設置学期：	通年
概要：	大学での学習は、皆さんが高校までで慣れ親しんできた「お勉強」とはだいぶ様子が違います。講義に出てみれば、多くの教員は板書をそれほどしませんし、教科書もそれほど使いません。なかには、全く板書をしない教員もいますし、教科書自体がないという授業もあります。また、学生が自分の意見を持ち、それをある理屈にしたがって表現することを要求されることもしばしばです。その結果、こういった違いに戸惑うあまり、大学で学ぶべき内容を学び損ねてしまう学生が、実はかなり多くいます。この授業は、学生諸君がこのようなことにならないように、大学ではどのような学習態度で望めばよいかということ、様々な実践を通じて、体得してもらうことを目的としています。
授業方法：	基本的に演習形式で行いますので、学生諸君の積極的な取り組みが求められます。
履修の留意点：	春学期に取り扱うテーマ：論理性のトレーニング・講義ノートの取り方・資料収集のやり方・読書ノートの作り方・レポートの書き方 秋学期に取り扱うテーマ：パブリックスピーキング・プレゼンテーション・ディベート・会議なお、担当教員によっては、上記以外のテーマを取り扱うこともありますし、教科書や参考書を使用することもありますので、初回の授業には必ず出席するようにして下さい。
目標と評価：	毎回の授業において課せられる課題の達成度を総合的に評価します。ですから、試験期間中に筆答試験は行いません。
教科書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「基礎ゼミナール」（担当者：安田 利枝）の履修の手引き

科目名：	基礎ゼミナール
担当者：	安田 利枝
対象学生：	経営経済学部1年
設置学期：	通年
概要：	大学での学習は、皆さんが高校までで慣れ親しんできた「お勉強」とはだいぶ様子が違います。講義に出てみれば、多くの教員は板書をそれほどしませんし、教科書もそれほど使いません。なかには、全く板書をしない教員もいますし、教科書自体がないという授業もあります。また、学生が自分の意見を持ち、それをある理屈にしたがって表現することを要求されることもしばしばです。その結果、こういった違いに戸惑うあまり、大学で学ぶべき内容を学び損ねてしまう学生が、実はかなり多くいます。この授業は、学生諸君がこのようなことにならないように、大学ではどのような学習態度で望めばよいかということ、様々な実践を通じて、体得してもらうことを目的としています。
授業方法：	基本的に演習形式で行いますので、学生諸君の積極的な取り組みが求められます。
履修の留意点：	春学期に取り扱うテーマ：論理性のトレーニング・講義ノートの取り方・資料収集のやり方・読書ノートの作り方・レポートの書き方 秋学期に取り扱うテーマ：パブリックスピーキング・プレゼンテーション・ディベート・会議なお、担当教員によっては、上記以外のテーマを取り扱うこともありますし、教科書や参考書を使用することもありますので、初回の授業には必ず出席するようにして下さい。
目標と評価：	毎回の授業において課せられる課題の達成度を総合的に評価します。ですから、試験期間中に筆答試験は行いません。
教科書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。



「基礎ゼミナール」（担当者：山崎 康之）の履修の手引き

科目名：	基礎ゼミナール
担当者：	山崎 康之
対象学生：	経営経済学部1年
設置学期：	通年
概要：	大学での学習は、皆さんが高校までで慣れ親しんできた「お勉強」とはだいぶ様子が違います。講義に出てみれば、多くの教員は板書をそれほどしませんし、教科書もそれほど使いません。なかには、全く板書をしない教員もいますし、教科書自体がないという授業もあります。また、学生が自分の意見を持ち、それをある理屈にしたがって表現することを要求されることもしばしばです。その結果、こういった違いに戸惑うあまり、大学で学ぶべき内容を学び損ねてしまう学生が、実はかなり多くいます。この授業は、学生諸君がこのようなことにならないように、大学ではどのような学習態度で望めばよいかということ、様々な実践を通じて、体得してもらうことを目的としています。
授業方法：	基本的に演習形式で行いますので、学生諸君の積極的な取り組みが求められます。
履修の留意点：	春学期に取り扱うテーマ：論理性のトレーニング・講義ノートの取り方・資料収集のやり方・読書ノートの作り方・レポートの書き方 秋学期に取り扱うテーマ：パブリックスピーキング・プレゼンテーション・ディベート・会議なお、担当教員によっては、上記以外のテーマを取り扱うこともありますし、教科書や参考書を使用することもありますので、初回の授業には必ず出席するようにして下さい。
目標と評価：	毎回の授業において課せられる課題の達成度を総合的に評価します。ですから、試験期間中に筆答試験は行いません。
教科書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「基礎ゼミナール」（担当者：和田 耕治）の履修の手引き

科目名：	基礎ゼミナール
担当者：	和田 耕治
対象学生：	経営経済学部1年
設置学期：	通年
概要：	大学での学習は、皆さんが高校までで慣れ親しんできた「お勉強」とはだいぶ様子が違います。講義に出てみれば、多くの教員は板書をそれほどしませんし、教科書もそれほど使いません。なかには、全く板書をしない教員もいますし、教科書自体がないという授業もあります。また、学生が自分の意見を持ち、それをある理屈にしたがって表現することを要求されることもしばしばです。その結果、こういった違いに戸惑うあまり、大学で学ぶべき内容を学び損ねてしまう学生が、実はかなり多くいます。この授業は、学生諸君がこのようなことにならないように、大学ではどのような学習態度で望めばよいかということ、様々な実践を通じて、体得してもらうことを目的としています。
授業方法：	基本的に演習形式で行いますので、学生諸君の積極的な取り組みが求められます。
履修の留意点：	春学期に取り扱うテーマ：論理性のトレーニング・講義ノートの取り方・資料収集のやり方・読書ノートの作り方・レポートの書き方 秋学期に取り扱うテーマ：パブリックスピーキング・プレゼンテーション・ディベート・会議なお、担当教員によっては、上記以外のテーマを取り扱うこともありますし、教科書や参考書を使用することもありますので、初回の授業には必ず出席するようにして下さい。
目標と評価：	毎回の授業において課せられる課題の達成度を総合的に評価します。ですから、試験期間中に筆答試験は行いません。
教科書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「基礎ゼミナール」（担当者：尾村 敬二）の履修の手引き

科目名：	基礎ゼミナール
担当者：	尾村 敬二
対象学生：	短期大学部1年
設置学期：	通年
概要：	大学での学習は、皆さんが高校までで慣れ親しんできた「お勉強」とはだいぶ様子が違います。講義に出てみれば、多くの教員は板書をそれほどしませんし、教科書もそれほど使いません。なかには、全く板書をしない教員もいますし、教科書自体がないという授業もあります。また、学生が自分の意見を持ち、それをある理屈にしたがって表現することを要求されることもしばしばです。その結果、こういった違いに戸惑うあまり、大学で学ぶべき内容を学び損ねてしまう学生が、実はかなり多くいます。この授業は、学生諸君がこのようなことにならないように、大学ではどのような学習態度で望めばよいかということ、様々な実践を通じて、体得してもらうことを目的としています。
授業方法：	基本的に演習形式で行いますので、学生諸君の積極的な取り組みが求められます。
履修の留意点：	春学期に取り扱うテーマ：論理性のトレーニング・講義ノートの取り方・資料収集のやり方・読書ノートの作り方・レポートの書き方 秋学期に取り扱うテーマ：パブリックスピーキング・プレゼンテーション・ディベート・会議なお、担当教員によっては、上記以外のテーマを取り扱うこともありますし、教科書や参考書を使用することもありますので、初回の授業には必ず出席するようにして下さい。
目標と評価：	毎回の授業において課せられる課題の達成度を総合的に評価します。ですから、試験期間中に筆答試験は行いません。
教科書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「基礎ゼミナール」（担当者：石川 直弘）の履修の手引き

科目名：	基礎ゼミナール
担当者：	石川 直弘
対象学生：	短期大学部1年
設置学期：	通年
概要：	大学での学習は、皆さんが高校までで慣れ親しんできた「お勉強」とはだいぶ様子が違います。講義に出てみれば、多くの教員は板書をそれほどしませんし、教科書もそれほど使いません。なかには、全く板書をしない教員もいますし、教科書自体がないという授業もあります。また、学生が自分の意見を持ち、それをある理屈にしたがって表現することを要求されることもしばしばです。その結果、こういった違いに戸惑うあまり、大学で学ぶべき内容を学び損ねてしまう学生が、実はかなり多くいます。この授業は、学生諸君がこのようなことにならないように、大学ではどのような学習態度で望めばよいかということ、様々な実践を通じて、体得してもらうことを目的としています。
授業方法：	基本的に演習形式で行いますので、学生諸君の積極的な取り組みが求められます。
履修の留意点：	春学期に取り扱うテーマ：論理性のトレーニング・講義ノートの取り方・資料収集のやり方・読書ノートの作り方・レポートの書き方 秋学期に取り扱うテーマ：パブリックスピーキング・プレゼンテーション・ディベート・会議なお、担当教員によっては、上記以外のテーマを取り扱うこともありますし、教科書や参考書を使用することもありますので、初回の授業には必ず出席するようにして下さい。
目標と評価：	毎回の授業において課せられる課題の達成度を総合的に評価します。ですから、試験期間中に筆答試験は行いません。
教科書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「基礎ゼミナール」（担当者：俵 尚申）の履修の手引き

科目名：	基礎ゼミナール
担当者：	俵 尚申
対象学生：	短期大学部1年
設置学期：	通年
概要：	大学での学習は、皆さんが高校までで慣れ親しんできた「お勉強」とはだいぶ様子が違います。講義に出てみれば、多くの教員は板書をそれほどしませんし、教科書もそれほど使いません。なかには、全く板書をしない教員もいますし、教科書自体がないという授業もあります。また、学生が自分の意見を持ち、それをある理屈にしたがって表現することを要求されることもしばしばです。その結果、こういった違いに戸惑うあまり、大学で学ぶべき内容を学び損ねてしまう学生が、実はかなり多くいます。この授業は、学生諸君がこのようなことにならないように、大学ではどのような学習態度で望めばよいかということ、様々な実践を通じて、体得してもらうことを目的としています。
授業方法：	基本的に演習形式で行いますので、学生諸君の積極的な取り組みが求められます。
履修の留意点：	春学期に取り扱うテーマ：論理性のトレーニング・講義ノートの取り方・資料収集のやり方・読書ノートの作り方・レポートの書き方 秋学期に取り扱うテーマ：パブリックスピーキング・プレゼンテーション・ディベート・会議なお、担当教員によっては、上記以外のテーマを取り扱うこともありますし、教科書や参考書を使用することもありますので、初回の授業には必ず出席するようにして下さい。
目標と評価：	毎回の授業において課せられる課題の達成度を総合的に評価します。ですから、試験期間中に筆答試験は行いません。
教科書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「基礎ゼミナール」（担当者：古閑 博美）の履修の手引き

科目名：	基礎ゼミナール
担当者：	古閑 博美
対象学生：	短期大学部1年
設置学期：	通年
概要：	大学での学習は、皆さんが高校までで慣れ親しんできた「お勉強」とはだいぶ様子が違います。講義に出てみれば、多くの教員は板書をそれほどしませんし、教科書もそれほど使いません。なかには、全く板書をしない教員もいますし、教科書自体がないという授業もあります。また、学生が自分の意見を持ち、それをある理屈にしたがって表現することを要求されることもしばしばです。その結果、こういった違いに戸惑うあまり、大学で学ぶべき内容を学び損ねてしまう学生が、実はかなり多くいます。この授業は、学生諸君がこのようなことにならないように、大学ではどのような学習態度で望めばよいかということ、様々な実践を通じて、体得してもらうことを目的としています。
授業方法：	基本的に演習形式で行いますので、学生諸君の積極的な取り組みが求められます。
履修の留意点：	春学期に取り扱うテーマ：論理性のトレーニング・講義ノートの取り方・資料収集のやり方・読書ノートの作り方・レポートの書き方 秋学期に取り扱うテーマ：パブリックスピーキング・プレゼンテーション・ディベート・会議なお、担当教員によっては、上記以外のテーマを取り扱うこともありますし、教科書や参考書を使用することもありますので、初回の授業には必ず出席するようにして下さい。
目標と評価：	毎回の授業において課せられる課題の達成度を総合的に評価します。ですから、試験期間中に筆答試験は行いません。
教科書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「日本語表現法Ⅰ」（担当者：井口 浩一）の履修の手引き

科目名：	日本語表現法Ⅰ
担当者：	井口 浩一
対象学生：	経営経済学部1年
設置学期：	春
概要：	<p>専門科目を理解し、発展させるための基礎的日本語能力を養う。 このために、一定量の読書をこなし、その正しい理解を自己の言葉で表現してみる。 その際、次の事項に留意する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 読書の対象 論文</li> <li>2. ノートの活用</li> <li>3. 文章・構成</li> <li>4. 文字表現</li> <li>5. 他者への伝達</li> </ol> <p>以上の作業を身につけるには、常々、日本語に関心を持つこと・古典を尊重し座右に1～2冊は常備し、読み感ずること・話し言葉に注意し、生活を美しくすることに意を用いたい。 このことが、人が生きるうえでの問題意識を喚起し、文章表現に結びつきます。</p>
授業方法：	<p>◎ 日本語（読み・書き・聞き・話すこと）の特徴を区分けして講義します。 ◎ この講義の要点をノート筆記し、定められた日限に提出する。 ノートには疑問・質問・発見・同感等認めてください。 提出時、それに応じます。（無論、口頭で、いつでも可） ◎ 第4週くらいまで講義を正しく聴講しますと、 春学期・最大の課題である「解説・広報文」を執筆するにあたり 自分としては、どの分野の論文が選定したらよいか、ほぼ見当が付きましますので、 急ぎ、書名を確定・報告・（購入）・読了・課題執筆準備（留意点・5）をしてください。 ◎ 授業をおもしろくする方法は、言語をウチからみることです。 ソトにおくと興味が薄らぎがちになるものです。 ◎ プリントは必ず読み、ノートに貼っておきます。（番号順に） ◎ 板書の事項は必ずノートにとってください。 ◎ 欠席した場合、必ず友人のノートから転記、プリントはコピーして貼付しておくこと。 ◎ 質問を自由にしてください。</p>
履修の留意点：	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 4月第1週に配布するプリント①に貼り、指示の通り、第2週目授業前までに「日本語表現法」Ⅰ専用ノートを準備・持参する。 《プリント①・記載事項：1ノート作成、2解説・広報文、対象書籍名等報告書、3評価について、4平成十五年度・春学期 日本語表現法ノート〔ノート表紙に貼付〕》</li> <li>2. ノート．．．月1回提出、検印を受ける。（春学期終了時点で4回となる）</li> <li>3. 解説・広報文．．．対象書籍名の報告（第4週から第6週の間に行う） ．．．解説・広報文の提出（第10週から第12週の間に行う） ．．．文種（日本十進分類法・類目表1～8の論文とする）</li> <li>4. 作文．．．秀・優・良・可・不可5段階のうち、可（2）以上を取得する。 不可（1）の場合は、ただちに再提出する。</li> <li>5. 読書対象書籍が決定したい．．．何故、その論文が書かれたのか、テーマは何か、どのようなところに興心があったのか、また理由、全体の解説、不特定多数の人々への広報はどういう表現にするかなどを、必ずノートに記録する。（その後、原稿用紙に清書する） 係．．．各クラス2～4名を第1週目の授業時に決定する。（年間）</li> </ol>
目標と評価：	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 目標 長文読解</li> <li>2. 評価 出欠状況、授業中の態度、提出物による総合評価</li> </ol>
教科書：	<p>→副読本（希望者のみ） 国語表現ハンドブック・新訂版 編集者・・・長谷川 泉 明治書院 03 - 5292-0117 昭和61年11月20日</p>

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「日本語表現法Ⅰ」（担当者：井口 浩一）の履修の手引き

科目名：	日本語表現法Ⅰ
担当者：	井口 浩一
対象学生：	経営経済学部1年
設置学期：	春
概要：	<p>専門科目を理解し、発展させるための基礎的日本語能力を養う。 このために、一定量の読書をこなし、その正しい理解を自己の言葉で表現してみる。 その際、次の事項に留意する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 読書の対象 論文</li> <li>2. ノートの活用</li> <li>3. 文章・構成</li> <li>4. 文字表現</li> <li>5. 他者への伝達</li> </ol> <p>以上の作業を身につけるには、常々、日本語に関心を持つこと・古典を尊重し座右に1～2冊は常備し、読み感ずること・話し言葉に注意し、生活を美しくすることに意を用いたい。 このことが、人が生きるうえでの問題意識を喚起し、文章表現に結びつきます。</p>
授業方法：	<p>◎ 日本語（読み・書き・聞き・話すこと）の特徴を区分けして講義します。 ◎ この講義の要点をノート筆記し、定められた日限に提出する。 ノートには疑問・質問・発見・同感等認めてください。 提出時、それに応じます。（無論、口頭で、いつでも可） ◎ 第4週くらいまで講義を正しく聴講しますと、 春学期・最大の課題である「解説・広報文」を執筆するにあたり 自分としては、どの分野の論文が選定したらよいか、ほぼ見当がつかってきますので、 急ぎ、書名を確定・報告・（購入）・読了・課題執筆準備（留意点・5）をしてください。 ◎ 授業をおもしろくする方法は、言語をウチからみることです。 ソトにおくと興味が薄らぎがちになるものです。 ◎ プリントは必ず読み、ノートに貼っておきます。（番号順に） ◎ 板書の事項は必ずノートにとってください。 ◎ 欠席した場合、必ず友人のノートから転記、プリントはコピーして貼付しておくこと。 ◎ 質問を自由にしてください。</p>
履修の留意点：	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 4月第1週に配布するプリント①に貼り、指示の通り、第2週目授業前までに「日本語表現法」Ⅰ専用ノートを準備・持参する。 《プリント①・記載事項：1ノート作成、2解説・広報文、対象書籍名等報告書、3評価について、4平成十五年度・春学期 日本語表現法ノート{ノート表紙に貼付}》</li> <li>2. ノート．．．月1回提出、検印を受ける。（春学期終了時点で4回となる）</li> <li>3. 解説・広報文．．．対象書籍名の報告（第4週から第6週の間に行う） ．．．解説・広報文の提出（第10週から第12週の間に行う） ．．．文種（日本十進分類法・類目表1～8の論文とする）</li> <li>4. 作文．．．秀・優・良・可・不可5段階のうち、可（2）以上を取得する。 不可（1）の場合は、ただちに再提出する。</li> <li>5. 読書対象書籍が決定したい．．．何故、その論文が書かれたのか、テーマは何か、どのようなところに関心があったのか、また理由、全体の解説、不特定多数の人々への広報はどういう表現にするかなどを、必ずノートに記録する。（その後、原稿用紙に清書する） 係．．．各クラス2～4名を第1週目の授業時に決定する。（年間）</li> </ol>
目標と評価：	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 目標 長文読解</li> <li>2. 評価 出欠状況、授業中の態度、提出物による総合評価</li> </ol>
教科書：	<p>→副読本（希望者のみ） 国語表現ハンドブック・新訂版 編集者・・・長谷川 泉 明治書院 03 - 5292-0117 昭和61年11月20日</p>

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。



「日本語表現法Ⅰ」（担当者：井口 浩一）の履修の手引き

科目名：	日本語表現法Ⅰ
担当者：	井口 浩一
対象学生：	経営経済学部1年
設置学期：	春
概要：	<p>専門科目を理解し、発展させるための基礎的日本語能力を養う。 このために、一定量の読書をこなし、その正しい理解を自己の言葉で表現してみる。 その際、次の事項に留意する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 読書の対象 論文</li> <li>2. ノートの活用</li> <li>3. 文章・構成</li> <li>4. 文字表現</li> <li>5. 他者への伝達</li> </ol> <p>以上の作業を身につけるには、常々、日本語に関心を持つこと・古典を尊重し座右に1～2冊は常備し、読み感ずること・話し言葉に注意し、生活を美しくすることに意を用いたい。 このことが、人が生きるうえでの問題意識を喚起し、文章表現に結びつきます。</p>
授業方法：	<p>◎ 日本語（読み・書き・聞き・話すこと）の特徴を区分けして講義します。 ◎ この講義の要点をノート筆記し、定められた日限に提出する。 ノートには疑問・質問・発見・同感等認めてください。 提出時、それに応じます。（無論、口頭で、いつでも可） ◎ 第4週くらいまで講義を正しく聴講しますと、 春学期・最大の課題である「解説・広報文」を執筆するにあたり 自分としては、どの分野の論文が選定したらよいか、ほぼ見当が付きましますので、 急ぎ、書名を確定・報告・（購入）・読了・課題執筆準備（留意点・5）をしてください。 ◎ 授業をおもしろくする方法は、言語をウチからみることです。 ソトにおくと興味が薄らぎがちになるものです。 ◎ プリントは必ず読み、ノートに貼っておきます。（番号順に） ◎ 板書の事項は必ずノートにとってください。 ◎ 欠席した場合、必ず友人のノートから転記、プリントはコピーして貼付しておくこと。 ◎ 質問を自由にしてください。</p>
履修の留意点：	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 4月第1週に配布するプリント①に貼り、指示の通り、第2週目授業前までに「日本語表現法」Ⅰ専用ノートを準備・持参する。 《プリント①・記載事項：1ノート作成、2解説・広報文、対象書籍名等報告書、3評価について、4平成十五年度・春学期 日本語表現法ノート{ノート表紙に貼付}》</li> <li>2. ノート．．．月1回提出、検印を受ける。（春学期終了時点で4回となる）</li> <li>3. 解説・広報文．．．対象書籍名の報告（第4週から第6週の間に行う） ．．．解説・広報文の提出（第10週から第12週の間に行う） ．．．文種（日本十進分類法・類目表1～8の論文とする）</li> <li>4. 作文．．．秀・優・良・可・不可5段階のうち、可（2）以上を取得する。 不可（1）の場合は、ただちに再提出する。</li> <li>5. 読書対象書籍が決定したい．．．何故、その論文が書かれたのか、テーマは何か、どのようなところに関心があったのか、また理由、全体の解説、不特定多数の人々への広報はどういう表現にするかなどを、必ずノートに記録する。（その後、原稿用紙に清書する） 係．．．各クラス2～4名を第1週目の授業時に決定する。（年間）</li> </ol>
目標と評価：	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 目標 長文読解</li> <li>2. 評価 出欠状況、授業中の態度、提出物による総合評価</li> </ol>
教科書：	<p>→副読本（希望者のみ） 国語表現ハンドブック・新訂版 編集者・・・長谷川 泉 明治書院 03 - 5292-0117 昭和61年11月20日</p>

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「日本語表現法Ⅰ」（担当者：井口 浩一）の履修の手引き

科目名：	日本語表現法Ⅰ
担当者：	井口 浩一
対象学生：	経営経済学部1年
設置学期：	春
概要：	<p>専門科目を理解し、発展させるための基礎的日本語能力を養う。 このために、一定量の読書をこなし、その正しい理解を自己の言葉で表現してみる。 その際、次の事項に留意する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 読書の対象 論文</li> <li>2. ノートの活用</li> <li>3. 文章・構成</li> <li>4. 文字表現</li> <li>5. 他者への伝達</li> </ol> <p>以上の作業を身につけるには、常々、日本語に関心を持つこと・古典を尊重し座右に1～2冊は常備し、読み感ずること・話し言葉に注意し、生活を美しくすることに意を用いたい。 このことが、人が生きるうえでの問題意識を喚起し、文章表現に結びつきます。</p>
授業方法：	<p>◎ 日本語（読み・書き・聞き・話すこと）の特徴を区分けして講義します。 ◎ この講義の要点をノート筆記し、定められた日限に提出する。 ノートには疑問・質問・発見・同感等認めてください。 提出時、それに応じます。（無論、口頭で、いつでも可） ◎ 第4週くらいまで講義を正しく聴講しますと、 春学期・最大の課題である「解説・広報文」を執筆するにあたり 自分としては、どの分野の論文が選定したらよいか、ほぼ見当が付きましますので、 急ぎ、書名を確定・報告・（購入）・読了・課題執筆準備（留意点・5）をしてください。 ◎ 授業をおもしろくする方法は、言語をウチからみることです。 ソトにおくと興味が薄らぎがちになるものです。 ◎ プリントは必ず読み、ノートに貼っておきます。（番号順に） ◎ 板書の事項は必ずノートにとってください。 ◎ 欠席した場合、必ず友人のノートから転記、プリントはコピーして貼付しておくこと。 ◎ 質問を自由にしてください。</p>
履修の留意点：	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 4月第1週に配布するプリント①に貼り、指示の通り、第2週目授業前までに「日本語表現法」Ⅰ専用ノートを準備・持参する。 《プリント①・記載事項：1ノート作成、2解説・広報文、対象書籍名等報告書、3評価について、4平成十五年度・春学期 日本語表現法ノート{ノート表紙に貼付}》</li> <li>2. ノート．．．月1回提出、検印を受ける。（春学期終了時点で4回となる）</li> <li>3. 解説・広報文．．．対象書籍名の報告（第4週から第6週の間に行う） ．．．解説・広報文の提出（第10週から第12週の間に行う） ．．．文種（日本十進分類法・類目表1～8の論文とする）</li> <li>4. 作文．．．秀・優・良・可・不可5段階のうち、可（2）以上を取得する。 不可（1）の場合は、ただちに再提出する。</li> <li>5. 読書対象書籍が決定したい．．．何故、その論文が書かれたのか、テーマは何か、どのようなところに興心があつたのか、また理由、全体の解説、不特定多数の人々への広報はどういう表現にするかなどを、必ずノートに記録する。（その後、原稿用紙に清書する） 係．．．各クラス2～4名を第1週目の授業時に決定する。（年間）</li> </ol>
目標と評価：	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 目標 長文読解</li> <li>2. 評価 出欠状況、授業中の態度、提出物による総合評価</li> </ol>
教科書：	<p>→副読本（希望者のみ） 国語表現ハンドブック・新訂版 編集者・・・長谷川 泉 明治書院 03 - 5292-0117 昭和61年11月20日</p>

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「日本語表現法Ⅰ」（担当者：倉田 安里）の履修の手引き

科目名：	日本語表現法Ⅰ
担当者：	倉田 安里
対象学生：	短期大学部1年
設置学期：	春
概要：	大学生生活にとって必要最低限の日本語表現、特に、レポートおよび論文作成に必要な知識の修得と、その実践を内容の主眼とする。 その中で特に、基本となる文字表記、漢字の知識、口語体と文語体の違いを完全に把握し、各種文章の書き方を具体的違いとともに修得し、さらに会話においても正しい表現が可能となるよう学習する。
授業方法：	講義中心となるが、状況によって実際の文章作成、会話の練習等の実習を随所で行う場合がある。
履修の留意点：	教科書を指定していないので、毎回の出席できちんと授業を受けることが大切である。
目標と評価：	学期末に定期試験を実施する。
教科書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「日本語表現法Ⅰ」（担当者：倉田 安里）の履修の手引き

科目名：	日本語表現法Ⅰ
担当者：	倉田 安里
対象学生：	短期大学部1年
設置学期：	春
概要：	大学生生活にとって必要最低限の日本語表現、特に、レポートおよび論文作成に必要な知識の修得と、その実践を内容の主眼とする。 その中で特に、基本となる文字表記、漢字の知識、口語体と文語体の違いを完全に把握し、各種文章の書き方を具体的違いとともに修得し、さらに会話においても正しい表現が可能となるよう学習する。
授業方法：	講義中心となるが、状況によって実際の文章作成、会話の練習等の実習を随所で行う場合がある。
履修の留意点：	教科書を指定していないので、毎回の出席できちんと授業を受けることが大切である。
目標と評価：	学期末に定期試験を実施する。
教科書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「日本語表現法Ⅰ」（担当者：倉田 安里）の履修の手引き

科目名：	日本語表現法Ⅰ
担当者：	倉田 安里
対象学生：	短期大学部1年
設置学期：	春
概要：	大学生生活にとって必要最低限の日本語表現、特に、レポートおよび論文作成に必要な知識の修得と、その実践を内容の主眼とする。 その中で特に、基本となる文字表記、漢字の知識、口語体と文語体の違いを完全に把握し、各種文章の書き方を具体的違いとともに修得し、さらに会話においても正しい表現が可能となるよう学習する。
授業方法：	講義中心となるが、状況によって実際の文章作成、会話の練習等の実習を随所で行う場合がある。
履修の留意点：	教科書を指定していないので、毎回の出席できちんと授業を受けることが大切である。
目標と評価：	学期末に定期試験を実施する。
教科書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「日本語表現法Ⅰ」（担当者：倉田 安里）の履修の手引き

科目名：	日本語表現法Ⅰ
担当者：	倉田 安里
対象学生：	短期大学部1年
設置学期：	春
概要：	大学生生活にとって必要最低限の日本語表現、特に、レポートおよび論文作成に必要な知識の修得と、その実践を内容の主眼とする。 その中で特に、基本となる文字表記、漢字の知識、口語体と文語体の違いを完全に把握し、各種文章の書き方を具体的違いとともに修得し、さらに会話においても正しい表現が可能となるよう学習する。
授業方法：	講義中心となるが、状況によって実際の文章作成、会話の練習等の実習を随所で行う場合がある。
履修の留意点：	教科書を指定していないので、毎回の出席できちんと授業を受けることが大切である。
目標と評価：	学期末に定期試験を実施する。
教科書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「日本語表現法 I (留学生用)」 (担当者: 鶴田 昭子) の履修の手引き

科目名:	日本語表現法 I (留学生用)
担当者:	鶴田 昭子
対象学生:	経営経済学部1年
設置学期:	春
概要:	日本語の四技能(読む、書く、聞く、話す)を高め、大学の授業を受ける際の困難を減らすことが目的だが、その中でも、聞く・書く(文章語の聴解、書き言葉での作文)に重点をおいて学習していく。
授業方法:	演習形式で、学生の皆さんの積極的な参加、発言を重視して授業をすすめる。
履修の留意点:	一回一回の授業に集中し、その時間内に最大限に学習項目を習得していただきたい。
目標と評価:	<p>目標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・読んで理解できる程度の内容(新聞記事など)を、聞いて理解できるようになること。</li> <li>・書き言葉と話し言葉の区別ができ、レポート作成の基本を習得する。</li> </ul> <p>評価</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・平常点重視</li> </ul>
教科書:	大学・大学院留学生の日本語 ②作文編 アカデミック・ジャパニーズ研究会 株式会社アルク 2001年初版 _____ _____ _____

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「日本語表現法Ⅱ」（担当者：井口 浩一）の履修の手引き

科目名：	日本語表現法Ⅱ
担当者：	井口 浩一
対象学生：	経営経済学部1年
設置学期：	秋
概要：	<p>「専門科目を理解し、発展させるための基礎的日本語能力を養う」として、春学期の目的は、根本に人間形成があつて、具体化するものであります。この観点から、秋学期は敬語を柱として、学習いたします。実務・実用としての日本語領域も、人間形成上かかせぬ敬語の習得により、きわめて大きく・豊かなものを授けてくれるでしょう。このことのために、次の事項に留意しましょう。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 学園内における、特に話し言葉にじゅうぶん心をかよわす。</li> <li>2. 生活を美しくすることの意義をわきまえ、実践する。</li> <li>3. 手紙・はがき・文書類について、敬語を中心におきながら、その実習を欠かさぬこと。</li> <li>4. 古典にたしむ。</li> <li>5. ノートの活用。</li> </ol>
授業方法：	<p>○ 春学期・本欄；第3番目の項以外は、春学期（Ⅰ）と同じ。 なお、第1番目の項目は、敬語が中心となります。</p> <p>○ 人間形成とは、絶えず、徳・体・知を身につけるべく自らを興奮・精励させ、生活の場で体現していく、その過程を言う言葉です。 特に授業中が絶好の場でありますから、個々人それぞれすすんで自ら徳・体・知を身につけるよう勉勵をおしまいでください。 授業の方法は、このことから自律に基調をおいた展開となります。</p>
履修の留意点：	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ノート 春学期・第1時限目配布プリント①④をコピーし、表紙に貼付する。 春学期継続使用の場合も同じ ノートのとり方も、同プリントによる。提出・検印も春学期と同じ。</li> <li>2. 作文 春学期本欄4と同じ。</li> <li>3. 授業中は、とりわけ敬語の正しい・美しい活用を実践すること。</li> <li>4. 手紙・はがき・文書類は履修のつど提出します。 提出結果は、春学期本欄4項と同じ。</li> <li>5. 年度終了までに、漢字(楷書)《但し、手紙・はがき・は必ずしも楷書体でなくても可》・ひらがな・カタカナが、正しく、速く、美しく書けるようにすること。 このために、自主的にノートへ、「いろは」「五十音」「当用漢字」あるいは「百人一首」などを書き、すすんで提出する。</li> </ol>
目標と評価：	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 目標 生活における基礎的・基本的な言語表現（読み、書き、聞き、話すこと）を充実させるため、敬語の習得を柱とした人間形成を目標とする。</li> <li>2. 評価 出欠状況・授業中の態度・提出物による総合評価。</li> </ol>
教科書：	<p>国語表現ハンドブック・新訂版 編集者 長谷川 泉 明治書院 昭和61年11月20日 【※ 副読本（但し希望者のみ）】</p>

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。



「日本語表現法Ⅱ」（担当者：井口 浩一）の履修の手引き

科目名：	日本語表現法Ⅱ
担当者：	井口 浩一
対象学生：	経営経済学部1年
設置学期：	秋
概要：	<p>「専門科目を理解し、発展させるための基礎的日本語能力を養う」として、春学期の目的は、根本に人間形成があつて、具体化するものであります。この観点から、秋学期は敬語を柱として、学習いたします。実務・実用としての日本語領域も、人間形成上かかせぬ敬語の習得により、きわめて大きく・豊かなものを授けてくれるでしょう。このことのために、次の事項に留意しましょう。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 学園内における、特に話し言葉にじゅうぶん心をかよわす。</li> <li>2. 生活を美しくすることの意義をわきまえ、実践する。</li> <li>3. 手紙・はがき・文書類について、敬語を中心におきながら、その実習を欠かさぬこと。</li> <li>4. 古典にたしむ。</li> <li>5. ノートの活用。</li> </ol>
授業方法：	<p>○ 春学期・本欄；第3番目の項以外は、春学期（Ⅰ）と同じ。 なお、第1番目の項目は、敬語が中心となります。</p> <p>○ 人間形成とは、絶えず、徳・体・知を身につけるべく自らを興奮・精励させ、生活の場で体現していく、その過程を言う言葉です。 特に授業中が絶好の場でありますから、個々人それぞれすすんで自ら徳・体・知を身につけるよう勉勵をおしまないでください。 授業の方法は、このことから自律に基調をおいた展開となります。</p>
履修の留意点：	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ノート 春学期・第1時限目配布プリント①④をコピーし、表紙に貼付する。 春学期継続使用の場合も同じ ノートのとり方も、同プリントーによる。提出・検印も春学期と同じ。</li> <li>2. 作文 春学期本欄4と同じ。</li> <li>3. 授業中は、とりわけ敬語の正しい・美しい活用を実践すること。</li> <li>4. 手紙・はがき・文書類は履修のつど提出します。 提出結果は、春学期本欄4項と同じ。</li> <li>5. 年度終了までに、漢字(楷書)《但し、手紙・はがき・は必ずしも楷書体でなくても可》・ひらがな・カタカナが、正しく、速く、美しく書けるようにすること。 このために、自主的にノートへ、「いろは」「五十音」「当用漢字」あるいは「百人一首」などを書き、すすんで提出する。</li> </ol>
目標と評価：	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 目標 生活における基礎的・基本的な言語表現（読み、書き、聞き、話すこと）を充実させるため、敬語の習得を柱とした人間形成を目標とする。</li> <li>2. 評価 出欠状況・授業中の態度・提出物による総合評価。</li> </ol>
教科書：	<p>国語表現ハンドブック・新訂版 編集者 長谷川 泉 明治書院 昭和61年11月20日 【※ 副読本（但し希望者のみ）】</p>

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「日本語表現法Ⅱ」（担当者：井口 浩一）の履修の手引き

科目名：	日本語表現法Ⅱ
担当者：	井口 浩一
対象学生：	経営経済学部1年
設置学期：	秋
概要：	<p>「専門科目を理解し、発展させるための基礎的日本語能力を養う」として、春学期の目的は、根本に人間形成があつて、具体化するものであります。この観点から、秋学期は敬語を柱として、学習いたします。実務・実用としての日本語領域も、人間形成上かかせぬ敬語の習得により、きわめて大きく・豊かなものを授けてくれるでしょう。このことのために、次の事項に留意しましょう。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 学園内における、特に話し言葉にじゅうぶん心をかよわす。</li> <li>2. 生活を美しくすることの意義をわきまえ、実践する。</li> <li>3. 手紙・はがき・文書類について、敬語を中心におきながら、その実習を欠かさぬこと。</li> <li>4. 古典にたしむ。</li> <li>5. ノートの活用。</li> </ol>
授業方法：	<p>○ 春学期・本欄；第3番目の項以外は、春学期（Ⅰ）と同じ。 なお、第1番目の項目は、敬語が中心となります。</p> <p>○ 人間形成とは、絶えず、徳・体・知を身につけるべく自らを興奮・精励させ、生活の場で体現していく、その過程を言う言葉です。 特に授業中が絶好の場でありますから、個々人それぞれすすんで自ら徳・体・知を身につけるよう勉勵をおしまいでください。 授業の方法は、このことから自律に基調をおいた展開となります。</p>
履修の留意点：	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ノート 春学期・第1時限目配布プリント①④をコピーし、表紙に貼付する。 春学期継続使用の場合も同じ ノートのとり方も、同プリントによる。提出・検印も春学期と同じ。</li> <li>2. 作文 春学期本欄4と同じ。</li> <li>3. 授業中は、とりわけ敬語の正しい・美しい活用を実践すること。</li> <li>4. 手紙・はがき・文書類は履修のつど提出します。 提出結果は、春学期本欄4項と同じ。</li> <li>5. 年度終了までに、漢字(楷書)《但し、手紙・はがきは必ずしも楷書体でなくても可》・ひらがな・カタカナが、正しく、速く、美しく書けるようにすること。 このために、自主的にノートへ、「いろは」「五十音」「当用漢字」あるいは「百人一首」などを書き、すすんで提出する。</li> </ol>
目標と評価：	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 目標 生活における基礎的・基本的な言語表現（読み、書き、聞き、話すこと）を充実させるため、敬語の習得を柱とした人間形成を目標とする。</li> <li>2. 評価 出欠状況・授業中の態度・提出物による総合評価。</li> </ol>
教科書：	<p>国語表現ハンドブック・新訂版 編集者 長谷川 泉 明治書院 昭和61年11月20日 【※ 副読本（但し希望者のみ）】</p>

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「日本語表現法Ⅱ」（担当者：井口 浩一）の履修の手引き

科目名：	日本語表現法Ⅱ
担当者：	井口 浩一
対象学生：	経営経済学部1年
設置学期：	秋
概要：	<p>「専門科目を理解し、発展させるための基礎的日本語能力を養う」として、春学期の目的は、根本に人間形成があつて、具体化するものであります。この観点から、秋学期は敬語を柱として、学習いたします。実務・実用としての日本語領域も、人間形成上かかせぬ敬語の習得により、きわめて大きく・豊かなものを授けてくれるでしょう。このことのために、次の事項に留意しましょう。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 学園内における、特に話し言葉にじゅうぶん心をかよわす。</li> <li>2. 生活を美しくすることの意義をわきまえ、実践する。</li> <li>3. 手紙・はがき・文書類について、敬語を中心におきながら、その実習を欠かさぬこと。</li> <li>4. 古典にたしむ。</li> <li>5. ノートの活用。</li> </ol>
授業方法：	<p>○ 春学期・本欄；第3番目の項以外は、春学期（Ⅰ）と同じ。 なお、第1番目の項目は、敬語が中心となります。</p> <p>○ 人間形成とは、絶えず、徳・体・知を身につけるべく自らを興奮・精励させ、生活の場で体現していく、その過程を言う言葉です。 特に授業中が絶好の場でありますから、個々人それぞれすすんで自ら徳・体・知を身につけるよう勉勵をおしまいでください。 授業の方法は、このことから自律に基調をおいた展開となります。</p>
履修の留意点：	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ノート 春学期・第1時限目配布プリント①④をコピーし、表紙に貼付する。 春学期継続使用の場合も同じ ノートのとり方も、同プリントーによる。提出・検印も春学期と同じ。</li> <li>2. 作文 春学期本欄4と同じ。</li> <li>3. 授業中は、とりわけ敬語の正しい・美しい活用を実践すること。</li> <li>4. 手紙・はがき・文書類は履修のつど提出します。 提出結果は、春学期本欄4項と同じ。</li> <li>5. 年度終了までに、漢字(楷書)《但し、手紙・はがき・は必ずしも楷書体でなくても可》・ひらがな・カタカナが、正しく、速く、美しく書けるようにすること。 このために、自主的にノートへ、「いろは」「五十音」「当用漢字」あるいは「百人一首」などを書き、すすんで提出する。</li> </ol>
目標と評価：	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 目標 生活における基礎的・基本的な言語表現（読み、書き、聞き、話すこと）を充実させるため、敬語の習得を柱とした人間形成を目標とする。</li> <li>2. 評価 出欠状況・授業中の態度・提出物による総合評価。</li> </ol>
教科書：	<p>国語表現ハンドブック・新訂版 編集者 長谷川 泉 明治書院 昭和61年11月20日 【※ 副読本（但し希望者のみ）】</p>

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「日本語表現法Ⅱ」（担当者：倉田 安里）の履修の手引き

科目名：	日本語表現法Ⅱ
担当者：	倉田 安里
対象学生：	短期大学部1年
設置学期：	秋
概要：	日本語表現法Ⅰで修得した内容を基に、さらに高度な文章表現、会話表現を学ぶ。 特に、社会人として必要な各種文書の作成方法と、状況に応じた会話表現の使い分け、各種辞書の活用法、専門分野における文章の読解と、それと同程度の文章作成能力を身に付けることを目標とする。
授業方法：	講義中心であるが、実際の文章作成を実習として行う場合がある。
履修の留意点：	完全な予習が中心となる。毎日一時間以上の自宅学習をそつなくこなす努力を必要とする。 なお、最初の授業で参考書を指定する場合がある。
目標と評価：	平常点および学期末の試験によって評価する。
教科書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「日本語表現法Ⅱ」（担当者：倉田 安里）の履修の手引き

科目名：	日本語表現法Ⅱ
担当者：	倉田 安里
対象学生：	短期大学部1年
設置学期：	秋
概要：	日本語表現法Ⅰで修得した内容を基に、さらに高度な文章表現、会話表現を学ぶ。 特に、社会人として必要な各種文書の作成方法と、状況に応じた会話表現の使い分け、各種辞書の活用法、専門分野における文章の読解と、それと同程度の文章作成能力を身に付けることを目標とする。
授業方法：	講義中心であるが、実際の文章作成を実習として行う場合がある。
履修の留意点：	完全な予習が中心となる。毎日一時間以上の自宅学習をそつなくこなす努力を必要とする。 なお、最初の授業で参考書を指定する場合がある。
目標と評価：	平常点および学期末の試験によって評価する。
教科書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「日本語表現法Ⅱ」（担当者：梅澤 亜由美）の履修の手引き

科目名：	日本語表現法Ⅱ
担当者：	梅澤 亜由美
対象学生：	短期大学部1年
設置学期：	秋
概要：	<p>これまで、日本語というものは話すことも書くこともできて当然という風潮が強く、また、「文才」という言葉からも分かるように、日本語で文章を書く能力というものも「才能」の問題とされてきたように思います。これは外国語と異なり、日本語が「学ぶ」ものだという意識が薄かったためでしょう。こういった事情もあり、多くの人は文章の書き方が分からないまま、作文嫌いになってしまっているのではないのでしょうか？</p> <p>日本語表現法Ⅱでは、上手に書くためには、日本語もまた「学ぶ」べきものであるという考えのもとに授業をすすめます。日本語による文章といっても、客観性が重視される報告文や意見文、人間性などの主観的な要素がよく伝わった方がいいエッセイと、種類は様々です。そして、報告文なら正確さ、エッセイなら個性ある比喩表現など、当然のことながらそれらの文章は要求されるものも書き方も違います。文章というのは、目的に応じて書き分けることが大切なのです。日本語表現法Ⅱでは、目的に応じた様々な文章を書くための型や技術を身につけることを目的とします。</p>
授業方法：	文章を書く技術を身につけるには、とにかく書いてみるのが大切です。よって学期の中で数回、講義の内容をふまえて、実際に文章を書いてもらうことを予定しています。教科書はとく指定しませんので、毎時間プリントを配布し授業をすすめます。
履修の留意点：	文章を書く機会が何度かあります。その際には、できれば国語辞典を携帯して、分からない漢字、語句をすぐに調べましょう。文章を書く時に辞書をひく習慣がつくと、漢字や語句の知識が自然に増えます。
目標と評価：	学期を通して、文章を書くための型、必要な技術を講義します。授業において、これらの型や技術を確実に身につけ、今後の文章を書く機会で応用できるようになって欲しいです。評価については、出席点の他、授業で数回書いてもらう作文でつける予定です。
教科書：	特になし

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「日本語表現法Ⅱ」（担当者：高根沢 紀子）の履修の手引き

科目名：	日本語表現法Ⅱ
担当者：	高根沢 紀子
対象学生：	短期大学部1年
設置学期：	秋
概要：	毎日使用している日本語だが、それを〈表現〉する方法は多彩であり、意外と難しいものである。それぞれの場合にふさわしい使い方が必要となってくるが、基礎的な〈言葉〉の使い方や〈表現〉の仕方を確認しつつ進めていく。日本語表現法Ⅰの発展として、大学生活において必要なレポート、論文をより論理的な形で展開するための具体的な実践を試みる。 論理的な思考を身につけるためには、「読む力」がもっとも必要である。さまざまな文章に触れることで、正しく「読む力」を身につけ、広い物の見方を得ることを目標とする。また小論文課題を通して、それを自分の意見として表せるようにする。また、優れた文学作品などを題材に、比喩表現やレトリックについて学ぶ。特に〈表現〉や〈言葉〉そのものについて書かれた作品を読むことで、〈言葉〉で〈表現〉することへの自覚を高めることをめざす。
授業方法：	講義を中心とするが、実際に文章を作成してもらい、それを元に進めていく。
履修の留意点：	毎時提出物があり、それが評価となるので、出席することが重要である。また、積極的に授業に参加する（課題に取り組む）姿勢をのぞむ。
目標と評価：	目標：論理的な物の考え方を意識し、それを表現する能力を身につける。 評価：毎時の提出物の評価に平常点を加味する。
教科書：	特になし

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「日本語表現法Ⅱ（留学生用）」（担当者：鶴田 昭子）の履修の手引き

科目名：	日本語表現法Ⅱ（留学生用）
担当者：	鶴田 昭子
対象学生：	経営経済学部1年
設置学期：	秋
概要：	日本語の四技能(読む、書く、聞く、話す)を高め、大学の授業を受ける際の困難を減らすことを目的とする。 その中でも、聴解と作文(カタカナ語、書き言葉等)に重点をおいて学習していく。
授業方法：	演習形式で、学生の皆さんの積極的な参加、発言を重視して授業を進める。
履修上の留意点：	一回一回の授業に集中し、その時間内に最大限に学習項目を習得してほしい。
目標と評価：	基本的なカタカナ語を含む文を聞いて理解できるようになること。適切な書き言葉を用いて文章を書けるようになること。 以上の二点を目標とする。評価については、課題への取り組み姿勢や提出状況等、平常点を重視する。
教科書：	プリントを用意しますのでありません。



「近現代史」（担当者：飯島 正義）の履修の手引き

科目名：	近現代史
担当者：	飯島 正義
対象学生：	経営経済学部1年・短期大学部1年
設置学期：	秋
概要：	この科目は、これから皆さんが学んでいく科目の基礎となっていくものです。授業では、近代以降の資本主義社会について学んでいきます。具体的には、資本主義社会の成立・発展過程を経済的に見ていきますが、日本が世界資本主義体制にどのように組み込まれていったのか、また、その後の日本の経済的なあゆみがどのようになっていったのかについても講義していきます。
授業方法：	講義形式で行います。
履修の留意点：	毎回の授業の積み重ねが大切であると思います。積極的に取り組むことを期待いたします。
目標と評価：	人類史における資本主義社会の位置づけや私たちが生活している資本主義社会について考えていくことを目標としています。 評価はレポート、試験の成績で総合的に評価します。
教科書：	特に使用しません。    

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「近現代史」（担当者：飯島 正義）の履修の手引き

科目名：	近現代史
担当者：	飯島 正義
対象学生：	経営経済学部1年・短期大学部1年
設置学期：	春
概要：	この科目は、これから皆さんが学んでいく科目の基礎となっていくものです。授業では、近代以降の資本主義社会について学んでいきます。具体的には、資本主義社会の成立・発展過程を経済的に見ていきますが、日本が世界資本主義体制にどのように組み込まれていったのか、また、その後の日本の経済的なあゆみがどのようになっていったのかについても講義していきます。
授業方法：	講義形式で行います。
履修の留意点：	毎回の授業の積み重ねが大切であると思います。積極的に取り組むことを期待いたします。
目標と評価：	人類史における資本主義社会の位置づけや私たちが生活している資本主義社会について考えていくことを目標としています。 評価はレポート、試験の成績で総合的に評価します。
教科書：	特に使用しません。    

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「近現代史」（担当者：飯島 正義）の履修の手引き

科目名：	近現代史
担当者：	飯島 正義
対象学生：	経営経済学部1年・短期大学部1年
設置学期：	秋
概要：	この科目は、これから皆さんが学んでいく科目の基礎となっていくものです。授業では、近代以降の資本主義社会について学んでいきます。具体的には、資本主義社会の成立・発展過程を経済的に見ていきますが、日本が世界資本主義体制にどのように組み込まれていったのか、また、その後の日本の経済的なあゆみがどのようになっていったのかについても講義していきます。
授業方法：	講義形式で行います。
履修の留意点：	毎回の授業の積み重ねが大切であると思います。積極的に取り組むことを期待いたします。
目標と評価：	人類史における資本主義社会の位置づけや私たちが生活している資本主義社会について考えていくことを目標としています。 評価はレポート、試験の成績で総合的に評価します。
教科書：	特に使用しません。    

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「近現代史」（担当者：飯島 正義）の履修の手引き

科目名：	近現代史
担当者：	飯島 正義
対象学生：	経営経済学部1年・短期大学部1年
設置学期：	春
概要：	この科目は、これから皆さんが学んでいく科目の基礎となっていくものです。授業では、近代以降の資本主義社会について学んでいきます。具体的には、資本主義社会の成立・発展過程を経済的に見ていきますが、日本が世界資本主義体制にどのように組み込まれていったのか、また、その後の日本の経済的なあゆみがどのようになっていったのかについても講義していきます。
授業方法：	講義形式で行います。
履修の留意点：	毎回の授業の積み重ねが大切であると思います。積極的に取り組むことを期待いたします。
目標と評価：	人類史における資本主義社会の位置づけや私たちが生活している資本主義社会について考えていくことを目標としています。 評価はレポート、試験の成績で総合的に評価します。
教科書：	特に使用しません。    

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「近現代史」（担当者：飯島 正義）の履修の手引き

科目名：	近現代史
担当者：	飯島 正義
対象学生：	経営経済学部1年・短期大学部1年
設置学期：	春
概要：	この科目は、これから皆さんが学んでいく科目の基礎となっていくものです。授業では、近代以降の資本主義社会について学んでいきます。具体的には、資本主義社会の成立・発展過程を経済的に見ていきますが、日本が世界資本主義体制にどのように組み込まれていったのか、また、その後の日本の経済的なあゆみがどのようになっていったのかについても講義していきます。
授業方法：	講義形式で行います。
履修の留意点：	毎回の授業の積み重ねが大切であると思います。積極的に取り組むことを期待いたします。
目標と評価：	人類史における資本主義社会の位置づけや私たちが生活している資本主義社会について考えていくことを目標としています。 評価はレポート、試験の成績で総合的に評価します。
教科書：	特に使用しません。

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「コンピュータリテラシ I (初級)」 (担当者: 仲島 暁美) の履修の手引き

科目名:	コンピュータリテラシ I (初級)
担当者:	仲島 暁美
対象学生:	経営経済学部1年・短期大学部1年
設置学期:	春
概要:	現在執筆中です。もうしばらくお待ち下さい。

「コンピュータリテラシ I (初級)」 (担当者: 仲島 暁美) の履修の手引き

科目名:	コンピュータリテラシ I (初級)
担当者:	仲島 暁美
対象学生:	経営経済学部1年・短期大学部1年
設置学期:	春
概要:	現在執筆中です。もうしばらくお待ち下さい。

「コンピュータリテラシ I (初級)」 (担当者: 仲島 暁美) の履修の手引き

科目名:	コンピュータリテラシ I (初級)
担当者:	仲島 暁美
対象学生:	経営経済学部1年・短期大学部1年
設置学期:	春
概要:	現在執筆中です。もうしばらくお待ち下さい。



「コンピュータリテラシ I (初級)」 (担当者: 仲島 暁美) の履修の手引き

科目名:	コンピュータリテラシ I (初級)
担当者:	仲島 暁美
対象学生:	経営経済学部1年・短期大学部1年
設置学期:	春
概要:	現在執筆中です。もうしばらくお待ち下さい。

「コンピュータリテラシ I (初級)」 (担当者: 仲島 暁美) の履修の手引き

科目名:	コンピュータリテラシ I (初級)
担当者:	仲島 暁美
対象学生:	経営経済学部1年・短期大学部1年
設置学期:	春
概要:	現在執筆中です。もうしばらくお待ち下さい。

「コンピュータリテラシ I (初級)」 (担当者: 仲島 暁美) の履修の手引き

科目名:	コンピュータリテラシ I (初級)
担当者:	仲島 暁美
対象学生:	経営経済学部1年・短期大学部1年
設置学期:	春
概要:	現在執筆中です。もうしばらくお待ち下さい。

「コンピュータリテラシ I (初級)」 (担当者: 仲島 暁美) の履修の手引き

科目名:	コンピュータリテラシ I (初級)
担当者:	仲島 暁美
対象学生:	経営経済学部1年・短期大学部1年
設置学期:	春
概要:	現在執筆中です。もうしばらくお待ち下さい。

「コンピュータリテラシ I (初級)」 (担当者: 仲島 暁美) の履修の手引き

科目名:	コンピュータリテラシ I (初級)
担当者:	仲島 暁美
対象学生:	経営経済学部1年・短期大学部1年
設置学期:	春
概要:	現在執筆中です。もうしばらくお待ち下さい。

「コンピュータリテラシ I (初級)」 (担当者: 仲島 暁美) の履修の手引き

科目名:	コンピュータリテラシ I (初級)
担当者:	仲島 暁美
対象学生:	経営経済学部1年・短期大学部1年
設置学期:	春
概要:	現在執筆中です。もうしばらくお待ち下さい。

「コンピュータリテラシ I (初級)」 (担当者: 仲島 暁美) の履修の手引き

科目名:	コンピュータリテラシ I (初級)
担当者:	仲島 暁美
対象学生:	経営経済学部1年・短期大学部1年
設置学期:	春
概要:	現在執筆中です。もうしばらくお待ち下さい。

「コンピュータリテラシ I (初級)」 (担当者: 仲島 暁美) の履修の手引き

科目名:	コンピュータリテラシ I (初級)
担当者:	仲島 暁美
対象学生:	経営経済学部1年・短期大学部1年
設置学期:	春
概要:	現在執筆中です。もうしばらくお待ち下さい。



「コンピュータリテラシ I (初級)」 (担当者: 堤 郁子) の履修の手引き

科目名:	コンピュータリテラシ I (初級)
担当者:	堤 郁子
対象学生:	経営経済学部1年・短期大学部1年
設置学期:	春
概要:	現在執筆中です。もうしばらくお待ち下さい。

「コンピュータリテラシ I (中上級)」 (担当者: 堤 郁子) の履修の手引き

科目名:	コンピュータリテラシ I (中上級)
担当者:	堤 郁子
対象学生:	経営経済学部1年・短期大学部1年
設置学期:	春
概要:	現在執筆中です。もうしばらくお待ち下さい。

「コンピュータリテラシI（初級）」（担当者：堤 郁子）の履修の手引き

科目名：	コンピュータリテラシI（初級）
担当者：	堤 郁子
対象学生：	経営経済学部1年・短期大学部1年
設置学期：	春
概要：	現在執筆中です。もうしばらくお待ち下さい。

「コンピュータリテラシ I (中上級)」 (担当者: 堤 郁子) の履修の手引き

科目名:	コンピュータリテラシ I (中上級)
担当者:	堤 郁子
対象学生:	経営経済学部1年・短期大学部1年
設置学期:	春
概要:	現在執筆中です。もうしばらくお待ち下さい。

「コンピュータリテラシ I (中上級)」 (担当者: 堤 郁子) の履修の手引き

科目名:	コンピュータリテラシ I (中上級)
担当者:	堤 郁子
対象学生:	経営経済学部1年・短期大学部1年
設置学期:	春
概要:	現在執筆中です。もうしばらくお待ち下さい。

「コンピュータリテラシ I (初級)」 (担当者: 堤 郁子) の履修の手引き

科目名:	コンピュータリテラシ I (初級)
担当者:	堤 郁子
対象学生:	経営経済学部1年・短期大学部1年
設置学期:	春
概要:	現在執筆中です。もうしばらくお待ち下さい。

「コンピュータリテラシI（初級）」（担当者：堤 郁子）の履修の手引き

科目名：	コンピュータリテラシI（初級）
担当者：	堤 郁子
対象学生：	経営経済学部1年・短期大学部1年
設置学期：	春
概要：	現在執筆中です。もうしばらくお待ち下さい。

「コンピュータリテラシ I (中上級)」 (担当者: 堤 郁子) の履修の手引き

科目名:	コンピュータリテラシ I (中上級)
担当者:	堤 郁子
対象学生:	経営経済学部1年・短期大学部1年
設置学期:	春
概要:	現在執筆中です。もうしばらくお待ち下さい。



「コンピュータリテラシI（初級）」（担当者：堤 郁子）の履修の手引き

科目名：	コンピュータリテラシI（初級）
担当者：	堤 郁子
対象学生：	経営経済学部1年・短期大学部1年
設置学期：	春
概要：	現在執筆中です。もうしばらくお待ち下さい。

「コンピュータリテラシ I (中上級)」 (担当者: 堤 郁子) の履修の手引き

科目名:	コンピュータリテラシ I (中上級)
担当者:	堤 郁子
対象学生:	経営経済学部1年・短期大学部1年
設置学期:	春
概要:	現在執筆中です。もうしばらくお待ち下さい。

「コンピュータリテラシI（初級）」（担当者：堤 郁子）の履修の手引き

科目名：	コンピュータリテラシI（初級）
担当者：	堤 郁子
対象学生：	経営経済学部1年・短期大学部1年
設置学期：	春
概要：	現在執筆中です。もうしばらくお待ち下さい。

「コンピュータリテラシⅡ（初級）」（担当者：仲島 暁美）の履修の手引き

科目名：	コンピュータリテラシⅡ（初級）
担当者：	仲島 暁美
対象学生：	経営経済学部1年・短期大学部1年
設置学期：	秋
概要：	現在執筆中です。もうしばらくお待ち下さい。

「コンピュータリテラシⅡ（初級）」（担当者：仲島 暁美）の履修の手引き

科目名：	コンピュータリテラシⅡ（初級）
担当者：	仲島 暁美
対象学生：	経営経済学部1年・短期大学部1年
設置学期：	秋
概要：	現在執筆中です。もうしばらくお待ち下さい。

「コンピュータリテラシⅡ（初級）」（担当者：仲島 暁美）の履修の手引き

科目名：	コンピュータリテラシⅡ（初級）
担当者：	仲島 暁美
対象学生：	経営経済学部1年・短期大学部1年
設置学期：	秋
概要：	現在執筆中です。もうしばらくお待ち下さい。

「コンピュータリテラシⅡ（初級）」（担当者：仲島 暁美）の履修の手引き

科目名：	コンピュータリテラシⅡ（初級）
担当者：	仲島 暁美
対象学生：	経営経済学部1年・短期大学部1年
設置学期：	秋
概要：	現在執筆中です。もうしばらくお待ち下さい。

「コンピュータリテラシⅡ（初級）」（担当者：仲島 暁美）の履修の手引き

科目名：	コンピュータリテラシⅡ（初級）
担当者：	仲島 暁美
対象学生：	経営経済学部1年・短期大学部1年
設置学期：	秋
概要：	現在執筆中です。もうしばらくお待ち下さい。



「コンピュータリテラシⅡ（初級）」（担当者：仲島 暁美）の履修の手引き

科目名：	コンピュータリテラシⅡ（初級）
担当者：	仲島 暁美
対象学生：	経営経済学部1年・短期大学部1年
設置学期：	秋
概要：	現在執筆中です。もうしばらくお待ち下さい。

「コンピュータリテラシⅡ（初級）」（担当者：仲島 暁美）の履修の手引き

科目名：	コンピュータリテラシⅡ（初級）
担当者：	仲島 暁美
対象学生：	経営経済学部1年・短期大学部1年
設置学期：	秋
概要：	現在執筆中です。もうしばらくお待ち下さい。

「コンピュータリテラシⅡ（初級）」（担当者：仲島 暁美）の履修の手引き

科目名：	コンピュータリテラシⅡ（初級）
担当者：	仲島 暁美
対象学生：	経営経済学部1年・短期大学部1年
設置学期：	秋
概要：	現在執筆中です。もうしばらくお待ち下さい。

「コンピュータリテラシⅡ（初級）」（担当者：仲島 暁美）の履修の手引き

科目名：	コンピュータリテラシⅡ（初級）
担当者：	仲島 暁美
対象学生：	経営経済学部1年・短期大学部1年
設置学期：	秋
概要：	現在執筆中です。もうしばらくお待ち下さい。

「コンピュータリテラシⅡ（初級）」（担当者：仲島 暁美）の履修の手引き

科目名：	コンピュータリテラシⅡ（初級）
担当者：	仲島 暁美
対象学生：	経営経済学部1年・短期大学部1年
設置学期：	秋
概要：	現在執筆中です。もうしばらくお待ち下さい。

「コンピュータリテラシⅡ（初級）」（担当者：仲島 暁美）の履修の手引き

科目名：	コンピュータリテラシⅡ（初級）
担当者：	仲島 暁美
対象学生：	経営経済学部1年・短期大学部1年
設置学期：	秋
概要：	現在執筆中です。もうしばらくお待ち下さい。

「コンピュータリテラシⅡ（中上級）」（担当者：堤 郁子）の履修の手引き

科目名：	コンピュータリテラシⅡ（中上級）
担当者：	堤 郁子
対象学生：	経営経済学部1年・短期大学部1年
設置学期：	秋
概要：	現在執筆中です。もうしばらくお待ち下さい。

「コンピュータリテラシⅡ（中上級）」（担当者：堤 郁子）の履修の手引き

科目名：	コンピュータリテラシⅡ（中上級）
担当者：	堤 郁子
対象学生：	経営経済学部1年・短期大学部1年
設置学期：	秋
概要：	現在執筆中です。もうしばらくお待ち下さい。



「コンピュータリテラシⅡ（初級）」（担当者：堤 郁子）の履修の手引き

科目名：	コンピュータリテラシⅡ（初級）
担当者：	堤 郁子
対象学生：	経営経済学部1年・短期大学部1年
設置学期：	秋
概要：	現在執筆中です。もうしばらくお待ち下さい。

「コンピュータリテラシⅡ（初級）」（担当者：堤 郁子）の履修の手引き

科目名：	コンピュータリテラシⅡ（初級）
担当者：	堤 郁子
対象学生：	経営経済学部1年・短期大学部1年
設置学期：	秋
概要：	現在執筆中です。もうしばらくお待ち下さい。

「コンピュータリテラシⅡ（初級）」（担当者：堤 郁子）の履修の手引き

科目名：	コンピュータリテラシⅡ（初級）
担当者：	堤 郁子
対象学生：	経営経済学部1年・短期大学部1年
設置学期：	秋
概要：	現在執筆中です。もうしばらくお待ち下さい。

「コンピュータリテラシⅡ（中上級）」（担当者：堤 郁子）の履修の手引き

科目名：	コンピュータリテラシⅡ（中上級）
担当者：	堤 郁子
対象学生：	経営経済学部1年・短期大学部1年
設置学期：	秋
概要：	現在執筆中です。もうしばらくお待ち下さい。

「コンピュータリテラシⅡ（中上級）」（担当者：堤 郁子）の履修の手引き

科目名：	コンピュータリテラシⅡ（中上級）
担当者：	堤 郁子
対象学生：	経営経済学部1年・短期大学部1年
設置学期：	秋
概要：	現在執筆中です。もうしばらくお待ち下さい。

「コンピュータリテラシⅡ（中上級）」（担当者：堤 郁子）の履修の手引き

科目名：	コンピュータリテラシⅡ（中上級）
担当者：	堤 郁子
対象学生：	経営経済学部1年・短期大学部1年
設置学期：	秋
概要：	現在執筆中です。もうしばらくお待ち下さい。

「コンピュータリテラシⅡ（初級）」（担当者：堤 郁子）の履修の手引き

科目名：	コンピュータリテラシⅡ（初級）
担当者：	堤 郁子
対象学生：	経営経済学部1年・短期大学部1年
設置学期：	秋
概要：	現在執筆中です。もうしばらくお待ち下さい。

「コンピュータリテラシⅡ（中上級）」（担当者：堤 郁子）の履修の手引き

科目名：	コンピュータリテラシⅡ（中上級）
担当者：	堤 郁子
対象学生：	経営経済学部1年・短期大学部1年
設置学期：	秋
概要：	現在執筆中です。もうしばらくお待ち下さい。



「コンピュータリテラシⅡ（初級）」（担当者：堤 郁子）の履修の手引き

科目名：	コンピュータリテラシⅡ（初級）
担当者：	堤 郁子
対象学生：	経営経済学部1年・短期大学部1年
設置学期：	秋
概要：	現在執筆中です。もうしばらくお待ち下さい。

「体育」（担当者：平田 貴）の履修の手引き

科目名：	体育
担当者：	平田 貴
対象学生：	経営経済学部1年・短期大学部1年
設置学期：	通年
概要：	<p>近年、青少年の体力・運動能力が著しく低下している。このことは、文部省の調査でも明らかであるが、体格は年々良くなっているのに、なぜ体力は低下するのだろうか。まさに文明病・現代病といえるか、我々の生活レベルが上がって、全てのものが便利になり、結果としてからだを動かさなくなった。そういった社会の中で子どものあそびや興味も変わり、スポーツよりゲーム・ファミコンを選ぶ、といったことも一因であろう。IT革命などといわれ、社会があらたに変化を遂げる時、学校体育として何ができるかを考えなければならない。本科目では、スポーツの楽しみを学びながら、学生の体力の維持・向上を目指す。そして今後迎える高齢化社会にむけて、生涯、スポーツと関われるライフスタイルの布石にしたい。</p> <p>1) オリエンテーション（授業計画・評価についてなどの説明）                  2) 講義：生涯スポーツ・健康                  3) 実技：運動量が多く、かつ集団で楽しめるスポーツを実施する。                  男子の場合：春学期はゴルフ・ソフトボール・講義                  秋学期はサッカー・講義</p>
授業方法：	<p>男子・女子の授業は別々に行う。                  春学期は実技中心（体育館及びグラウンド）                  秋学期は実技及び講義</p>
履修の留意点：	<p>第一週目の授業の際当該種目のオリエンテーションを行い、授業内容・評価・スケジュール・その他体育に必要な事項について連絡するので必ず出席すること。</p>
目標と評価：	<p>最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出しますが詳細は第1回目の授業（オリエンテーション）説明する。実技試験は春・秋それぞれ学期末、授業内試験とする。但し、実技科目なので出欠席を重視する。講義の評価も行う。</p> <p>* 体育は出席を重視し、運動能力が低くとも、積極的にからだを動かし、結果として運動量の多い学生を評価します。</p>
教科書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「体育」（担当者：平田 貴）の履修の手引き

科目名：	体育
担当者：	平田 貴
対象学生：	経営経済学部1年・短期大学部1年
設置学期：	通年
概要：	<p>近年、青少年の体力・運動能力が著しく低下している。このことは、文部省の調査でも明らかであるが、体格は年々良くなっているのに、なぜ体力は低下するのだろうか。まさに文明病・現代病といえるか、我々の生活レベルが上がって、全てのものが便利になり、結果としてからだを動かさなくなった。そういった社会の中で子どものあそびや興味も変わり、スポーツよりゲーム・ファミコンを選ぶ、といったことも一因であろう。IT革命などといわれ、社会があらたに変化を遂げる時、学校体育として何ができるかを考えなければならない。本科目では、スポーツの楽しみを学びながら、学生の体力の維持・向上を目指す。そして今後迎える高齢化社会にむけて、生涯、スポーツと関われるライフスタイルの布石にしたい。</p> <p>1) オリエンテーション（授業計画・評価についてなどの説明）                  2) 講義：生涯スポーツ・健康                  3) 実技：運動量が多く、かつ集団で楽しめるスポーツを実施する。                  男子の場合：春学期はゴルフ・ソフトボール・講義                  秋学期はサッカー・講義</p>
授業方法：	<p>男子・女子の授業は別々に行う。                  春学期は実技中心（体育館及びグラウンド）                  秋学期は実技及び講義</p>
履修の留意点：	<p>第一週目の授業の際当該種目のオリエンテーションを行い、授業内容・評価・スケジュール・その他体育に必要な事項について連絡するので必ず出席すること。</p>
目標と評価：	<p>最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出しますが詳細は第1回目の授業（オリエンテーション）説明する。実技試験は春・秋それぞれ学期末、授業内試験とする。但し、実技科目なので出欠席を重視する。講義の評価も行う。</p> <p>* 体育は出席を重視し、運動能力が低くとも、積極的にからだを動かし、結果として運動量の多い学生を評価します。</p>
教科書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「体育」（担当者：平田 貴）の履修の手引き

科目名：	体育
担当者：	平田 貴
対象学生：	経営経済学部1年・短期大学部1年
設置学期：	通年
概要：	<p>近年、青少年の体力・運動能力が著しく低下している。このことは、文部省の調査でも明らかであるが、体格は年々良くなっているのに、なぜ体力は低下するのだろうか。まさに文明病・現代病といえるか、我々の生活レベルが上がリ、全てのものが便利になり、結果としてからだを動かさなくなった。そういった社会の中で子どものあそびや興味も変わり、スポーツよりゲーム・ファミコンを選ぶ、といったことも一因であろう。IT革命などといわれ、社会があらたに変化を遂げる時、学校体育として何ができるかを考えなければならない。本科目では、スポーツの楽しみを学びながら、学生の体力の維持・向上を目指す。そして今後迎える高齢化社会にむけて、生涯、スポーツと関われるライフスタイルの布石にしたい。</p> <p>1) オリエンテーション（授業計画・評価についてなどの説明）                  2) 講義：生涯スポーツ・健康                  3) 実技：運動量が多く、かつ集団で楽しめるスポーツを実施する。                  男子の場合：春学期はゴルフ・ソフトボール・講義                  秋学期はサッカー・講義</p>
授業方法：	<p>男子・女子の授業は別々に行う。                  春学期は実技中心（体育館及びグラウンド）                  秋学期は実技及び講義</p>
履修の留意点：	<p>第一週目の授業の際当該種目のオリエンテーションを行い、授業内容・評価・スケジュール・その他体育に必要な事項について連絡するので必ず出席すること。</p>
目標と評価：	<p>最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出しますが詳細は第1回目の授業（オリエンテーション）説明する。実技試験は春・秋それぞれ学期末、授業内試験とする。但し、実技科目なので出欠席を重視する。講義の評価も行う。</p> <p>* 体育は出席を重視し、運動能力が低くとも、積極的にからだを動かし、結果として運動量の多い学生を評価します。</p>
教科書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「体育」（担当者：平田 貴）の履修の手引き

科目名：	体育
担当者：	平田 貴
対象学生：	経営経済学部1年・短期大学部1年
設置学期：	通年
概要：	<p>近年、青少年の体力・運動能力が著しく低下している。このことは、文部省の調査でも明らかであるが、体格は年々良くなっているのに、なぜ体力は低下するのだろうか。まさに文明病・現代病といえるか、我々の生活レベルが上がって、全てのものが便利になり、結果としてからだを動かさなくなった。そういった社会の中で子どものあそびや興味も変わり、スポーツよりゲーム・ファミコンを選ぶ、といったことも一因であろう。IT革命などといわれ、社会があらたに変化を遂げる時、学校体育として何ができるかを考えなければならない。本科目では、スポーツの楽しみを学びながら、学生の体力の維持・向上を目指す。そして今後迎える高齢化社会にむけて、生涯、スポーツと関われるライフスタイルの布石にしたい。</p> <p>1) オリエンテーション（授業計画・評価についてなどの説明）                  2) 講義：生涯スポーツ・健康                  3) 実技：運動量が多く、かつ集団で楽しめるスポーツを実施する。                  男子の場合：春学期はゴルフ・ソフトボール・講義                  秋学期はサッカー・講義</p>
授業方法：	<p>男子・女子の授業は別々に行う。                  春学期は実技中心（体育館及びグラウンド）                  秋学期は実技及び講義</p>
履修の留意点：	<p>第一週目の授業の際当該種目のオリエンテーションを行い、授業内容・評価・スケジュール・その他体育に必要な事項について連絡するので必ず出席すること。</p>
目標と評価：	<p>最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出しますが詳細は第1回目の授業（オリエンテーション）説明する。実技試験は春・秋それぞれ学期末、授業内試験とする。但し、実技科目なので出欠席を重視する。講義の評価も行う。</p> <p>* 体育は出席を重視し、運動能力が低くとも、積極的にからだを動かし、結果として運動量の多い学生を評価します。</p>
教科書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「体育」（担当者：平田 貴）の履修の手引き

科目名：	体育
担当者：	平田 貴
対象学生：	経営経済学部1年・短期大学部1年
設置学期：	通年
概要：	<p>近年、青少年の体力・運動能力が著しく低下している。このことは、文部省の調査でも明らかであるが、体格は年々良くなっているのに、なぜ体力は低下するのだろうか。まさに文明病・現代病といえるか、我々の生活レベルが上がって、全てのものが便利になり、結果としてからだを動かさなくなった。そういった社会の中で子どものあそびや興味も変わり、スポーツよりゲーム・ファミコンを選ぶ、といったことも一因であろう。IT革命などといわれ、社会があらたに変化を遂げる時、学校体育として何ができるかを考えなければならない。本科目では、スポーツの楽しみを学びながら、学生の体力の維持・向上を目指す。そして今後迎える高齢化社会にむけて、生涯、スポーツと関われるライフスタイルの布石にしたい。</p> <p>1) オリエンテーション（授業計画・評価についてなどの説明）                  2) 講義：生涯スポーツ・健康                  3) 実技：運動量が多く、かつ集団で楽しめるスポーツを実施する。                  男子の場合：春学期はゴルフ・ソフトボール・講義                  秋学期はサッカー・講義</p>
授業方法：	<p>男子・女子の授業は別々に行う。                  春学期は実技中心（体育館及びグラウンド）                  秋学期は実技及び講義</p>
履修の留意点：	<p>第一週目の授業の際当該種目のオリエンテーションを行い、授業内容・評価・スケジュール・その他体育に必要な事項について連絡するので必ず出席すること。</p>
目標と評価：	<p>最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出しますが詳細は第1回目の授業（オリエンテーション）説明する。実技試験は春・秋それぞれ学期末、授業内試験とする。但し、実技科目なので出欠席を重視する。講義の評価も行う。</p> <p>* 体育は出席を重視し、運動能力が低くとも、積極的にからだを動かし、結果として運動量の多い学生を評価します。</p>
教科書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「体育」（担当者：星 ひろみ）の履修の手引き

科目名：	体育
担当者：	星 ひろみ
対象学生：	経営経済学部1年・短期大学部1年
設置学期：	通年
概要：	<p>近年、青少年の体力・運動能力が著しく低下している。このことは、文部省の調査でも明らかであるが、体格は年々良くなっているのに、なぜ体力は低下するのだろうか。まさに文明病・現代病といえるか、我々の生活レベルが向上し、全てのものが便利になり、結果としてからだを動かさなくなった。そういった社会の中で子どものあそびや興味も変わり、スポーツよりゲーム・ファミコンを選ぶ、といったことも一因であろう。IT革命などといわれ、社会があらたに変化を遂げる時、学校体育として何ができるかを考えなければならない。本科目では、スポーツの楽しみを学びながら、学生の体力の維持・向上を目指す。そして今後迎える高齢化社会にむけて、生涯、スポーツと関われるライフスタイルの布石にしたい。</p> <p>1) オリエンテーション（授業計画・評価についての説明）                  2) 講義：実技理論・女性と健康（女子のみ）                  3) 実技：運動量が多くかつ、楽しめるスポーツを行う。</p> <p>女子の場合：春学期…ゴルフ、エアロビクス・ダンス・講義                  秋学期…ソフトバレーボール・講義</p>
授業方法：	<ul style="list-style-type: none"> <li>・男子・女子の授業は別々に行う。</li> <li>・春学期は実技中心（体育館及びグラウンド）</li> <li>・秋学期は実技及び講義</li> </ul>
履修の留意点：	<p>* 授業の第1週目にオリエンテーションを行い授業内容・評価・スケジュール・その他体育に必要な事項について連絡するので必ず出席すること。</p> <p>* 女子は星で履修すること（女子と男子の授業別々に行う。）</p>
目標と評価：	<p>最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出しますが詳細は第1回目の授業（オリエンテーション）説明する。実技試験は春・秋それぞれ学期末、授業内試験とする。但し、実技科目なので出欠席を重視する。講義の評価も行う。</p> <p>* 体育は出席を重視し、運動能力が低くとも、積極的にからだを動かし、結果として運動量の多い学生を評価します。</p>
教科書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「体育」（担当者：星 ひろみ）の履修の手引き

科目名：	体育
担当者：	星 ひろみ
対象学生：	経営経済学部1年・短期大学部1年
設置学期：	通年
概要：	<p>近年、青少年の体力・運動能力が著しく低下している。このことは、文部省の調査でも明らかであるが、体格は年々良くなっているのに、なぜ体力は低下するのだろうか。まさに文明病・現代病といえるか、我々の生活レベルが向上し、全てのものが便利になり、結果としてからだを動かさなくなった。そういった社会の中で子どものあそびや興味も変わり、スポーツよりゲーム・ファミコンを選ぶ、といったことも一因であろう。IT革命などといわれ、社会があらたに変化を遂げる時、学校体育として何ができるかを考えなければならない。本科目では、スポーツの楽しみを学びながら、学生の体力の維持・向上を目指す。そして今後迎える高齢化社会にむけて、生涯、スポーツと関われるライフスタイルの布石にしたい。</p> <p>1) オリエンテーション（授業計画・評価についての説明）                  2) 講義：実技理論・女性と健康（女子のみ）                  3) 実技：運動量が多くかつ、楽しめるスポーツを行う。</p> <p>女子の場合：春学期…ゴルフ、エアロビクス・ダンス・講義                  秋学期…ソフトバレーボール・講義</p>
授業方法：	<ul style="list-style-type: none"> <li>・男子・女子の授業は別々に行う。</li> <li>・春学期は実技中心（体育館及びグラウンド）</li> <li>・秋学期は実技及び講義</li> </ul>
履修の留意点：	<p>* 授業の第1週目にオリエンテーションを行い授業内容・評価・スケジュール・その他体育に必要な事項について連絡するので必ず出席すること。</p> <p>* 女子は星で履修すること（女子と男子の授業別々に行う。）</p>
目標と評価：	<p>最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出しますが詳細は第1回目の授業（オリエンテーション）説明する。実技試験は春・秋それぞれ学期末、授業内試験とする。但し、実技科目なので出欠席を重視する。講義の評価も行う。</p> <p>* 体育は出席を重視し、運動能力が低くとも、積極的にからだを動かし、結果として運動量の多い学生を評価します。</p>
教科書：	<p> </p> <p> </p> <p> </p> <p> </p>

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。



「体育」（担当者：星 ひろみ）の履修の手引き

科目名：	体育
担当者：	星 ひろみ
対象学生：	経営経済学部1年・短期大学部1年
設置学期：	通年
概要：	<p>近年、青少年の体力・運動能力が著しく低下している。このことは、文部省の調査でも明らかであるが、体格は年々良くなっているのに、なぜ体力は低下するのだろうか。まさに文明病・現代病といえるか、我々の生活レベルが向上し、全てのものが便利になり、結果としてからだを動かさなくなった。そういった社会の中で子どものあそびや興味も変わり、スポーツよりゲーム・ファミコンを選ぶ、といったことも一因であろう。IT革命などといわれ、社会があらたに変化を遂げる時、学校体育として何ができるかを考えなければならない。本科目では、スポーツの楽しみを学びながら、学生の体力の維持・向上を目指す。そして今後迎える高齢化社会にむけて、生涯、スポーツと関われるライフスタイルの布石にしたい。</p> <p>1) オリエンテーション（授業計画・評価についての説明）                  2) 講義：実技理論・女性と健康（女子のみ）                  3) 実技：運動量が多くかつ、楽しめるスポーツを行う。</p> <p>女子の場合：春学期…ゴルフ、エアロビクス・ダンス・講義                  秋学期…ソフトバレーボール・講義</p>
授業方法：	<ul style="list-style-type: none"> <li>・男子・女子の授業は別々に行う。</li> <li>・春学期は実技中心（体育館及びグラウンド）</li> <li>・秋学期は実技及び講義</li> </ul>
履修の留意点：	<p>* 授業の第1週目にオリエンテーションを行い授業内容・評価・スケジュール・その他体育に必要な事項について連絡するので必ず出席すること。</p> <p>* 女子は星で履修すること（女子と男子の授業別々に行う。）</p>
目標と評価：	<p>最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出しますが詳細は第1回目の授業（オリエンテーション）説明する。実技試験は春・秋それぞれ学期末、授業内試験とする。但し、実技科目なので出欠席を重視する。講義の評価も行う。</p> <p>* 体育は出席を重視し、運動能力が低くとも、積極的にからだを動かし、結果として運動量の多い学生を評価します。</p>
教科書：	<p> </p> <p> </p> <p> </p> <p> </p>

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「体育」（担当者：星 ひろみ）の履修の手引き

科目名：	体育
担当者：	星 ひろみ
対象学生：	経営経済学部1年・短期大学部1年
設置学期：	通年
概要：	<p>近年、青少年の体力・運動能力が著しく低下している。このことは、文部省の調査でも明らかであるが、体格は年々良くなっているのに、なぜ体力は低下するのだろうか。まさに文明病・現代病といえるか、我々の生活レベルが向上し、全てのものが便利になり、結果としてからだを動かさなくなった。そういった社会の中で子どものあそびや興味も変わり、スポーツよりゲーム・ファミコンを選ぶ、といったことも一因であろう。IT革命などといわれ、社会があらたに変化を遂げる時、学校体育として何ができるかを考えなければならない。本科目では、スポーツの楽しみを学びながら、学生の体力の維持・向上を目指す。そして今後迎える高齢化社会にむけて、生涯、スポーツと関われるライフスタイルの布石にしたい。</p> <p>1) オリエンテーション（授業計画・評価についての説明）                  2) 講義：実技理論・女性と健康（女子のみ）                  3) 実技：運動量が多くかつ、楽しめるスポーツを行う。</p> <p>女子の場合：春学期…ゴルフ、エアロビクス・ダンス・講義                  秋学期…ソフトバレーボール・講義</p>
授業方法：	<ul style="list-style-type: none"> <li>・男子・女子の授業は別々に行う。</li> <li>・春学期は実技中心（体育館及びグラウンド）</li> <li>・秋学期は実技及び講義</li> </ul>
履修の留意点：	<p>* 授業の第1週目にオリエンテーションを行い授業内容・評価・スケジュール・その他体育に必要な事項について連絡するので必ず出席すること。</p> <p>* 女子は星で履修すること（女子と男子の授業別々に行う。）</p>
目標と評価：	<p>最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出しますが詳細は第1回目の授業（オリエンテーション）説明する。実技試験は春・秋それぞれ学期末、授業内試験とする。但し、実技科目なので出欠席を重視する。講義の評価も行う。</p> <p>* 体育は出席を重視し、運動能力が低くとも、積極的にからだを動かし、結果として運動量の多い学生を評価します。</p>
教科書：	<hr/> <hr/> <hr/> <hr/>

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「体育」（担当者：星 ひろみ）の履修の手引き

科目名：	体育
担当者：	星 ひろみ
対象学生：	経営経済学部1年・短期大学部1年
設置学期：	通年
概要：	<p>近年、青少年の体力・運動能力が著しく低下している。このことは、文部省の調査でも明らかであるが、体格は年々良くなっているのに、なぜ体力は低下するのだろうか。まさに文明病・現代病といえるか、我々の生活レベルが向上し、全てのものが便利になり、結果としてからだを動かさなくなった。そういった社会の中で子どものあそびや興味も変わり、スポーツよりゲーム・ファミコンを選ぶ、といったことも一因であろう。IT革命などといわれ、社会があらたに変化を遂げる時、学校体育として何ができるかを考えなければならない。本科目では、スポーツの楽しみを学びながら、学生の体力の維持・向上を目指す。そして今後迎える高齢化社会にむけて、生涯、スポーツと関われるライフスタイルの布石にしたい。</p> <p>1) オリエンテーション（授業計画・評価についての説明）                  2) 講義：実技理論・女性と健康（女子のみ）                  3) 実技：運動量が多くかつ、楽しめるスポーツを行う。</p> <p>女子の場合：春学期…ゴルフ、エアロビクス・ダンス・講義                  秋学期…ソフトバレーボール・講義</p>
授業方法：	<ul style="list-style-type: none"> <li>・男子・女子の授業は別々に行う。</li> <li>・春学期は実技中心（体育館及びグラウンド）</li> <li>・秋学期は実技及び講義</li> </ul>
履修の留意点：	<p>* 授業の第1週目にオリエンテーションを行い授業内容・評価・スケジュール・その他体育に必要な事項について連絡するので必ず出席すること。</p> <p>* 女子は星で履修すること（女子と男子の授業別々に行う。）</p>
目標と評価：	<p>最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出しますが詳細は第1回目の授業（オリエンテーション）説明する。実技試験は春・秋それぞれ学期末、授業内試験とする。但し、実技科目なので出欠席を重視する。講義の評価も行う。</p> <p>* 体育は出席を重視し、運動能力が低くとも、積極的にからだを動かし、結果として運動量の多い学生を評価します。</p>
教科書：	<hr/> <hr/> <hr/> <hr/>

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「体育」（担当者：俵 尚申）の履修の手引き

科目名：	体育
担当者：	俵 尚申
対象学生：	経営経済学部1年・短期大学部1年
設置学期：	通年
概要：	<p>近年、青少年の体力・運動能力が著しく低下している。このことは、文部省の調査でも明らかであるが、体格は年々良くなっているのに、なぜ体力は低下するのだろうか。まさに文明病・現代病といえるか、我々の生活レベルが上がリ、全てのものが便利になり、結果として体を動かさなくなった。そういった社会の中で子どものあそびや興味も変わり、スポーツよりゲーム・ファミコンを選ぶ、といったことも一因であろう。IT革命などといわれ、社会があらたに変化を遂げる時、学校体育として何ができるかを考えなければならない。本科目では、スポーツの楽しみを学びながら、学生の体力の維持・向上を目指す。そして今後迎える高齢化社会に向けて、生涯、スポーツと関われるライフスタイルの布石にしたい。</p> <p>1) オリエンテーション（授業計画・評価についての説明）                  2) 講義：実技理論・体育史・健康                  3) 実技：運動量が多く、かつ楽しめるスポーツを行う。</p> <p>男子の場合：春学期ゴルフ・ソフトボール（クラス人数で変更場合があります。）・講義                  秋学期バスケット・サッカー（クラス人数で変更場合があります。）・講義</p>
授業方法：	<ul style="list-style-type: none"> <li>・男子・女子の授業は別々に行う。</li> <li>・春学期は実技中心（体育館及びグラウンド）</li> <li>・秋学期は実技及び講義</li> </ul>
履修の留意点：	* 授業の第1週目にオリエンテーションを行い授業内容・評価・スケジュール・その他、体育にに必要な事項について連絡するので必ず出席すること。
目標と評価：	<p>* 最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出しますが詳細は第1回目の授業（オリエンテーション）で説明する。実技試験は春・秋それぞれ学期末、授業内試験とする。但し、実技科目なので欠席を重視する。講義の評価も行う。</p> <p>* 体育は出席を重視し、運動能力が低くとも、積極的にからだを動かし、結果として運動量の多い学生を評価します。</p>
教科書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「体育」（担当者：俵 尚申）の履修の手引き

科目名：	体育
担当者：	俵 尚申
対象学生：	経営経済学部1年・短期大学部1年
設置学期：	通年
概要：	<p>近年、青少年の体力・運動能力が著しく低下している。このことは、文部省の調査でも明らかであるが、体格は年々良くなっているのに、なぜ体力は低下するのだろうか。まさに文明病・現代病といえるか、我々の生活レベルが上がリ、全てのものが便利になり、結果として体を動かさなくなった。そういった社会の中で子どものあそびや興味も変わり、スポーツよりゲーム・ファミコンを選ぶ、といったことも一因であろう。IT革命などといわれ、社会があらたに変化を遂げる時、学校体育として何ができるかを考えなければならない。本科目では、スポーツの楽しみを学びながら、学生の体力の維持・向上を目指す。そして今後迎える高齢化社会に向けて、生涯、スポーツと関われるライフスタイルの布石にしたい。</p> <p>1) オリエンテーション（授業計画・評価についての説明）                  2) 講義：実技理論・体育史・健康                  3) 実技：運動量が多く、かつ楽しめるスポーツを行う。</p> <p>男子の場合：春学期ゴルフ・ソフトボール（クラス人数で変更場合があります。）・講義                  秋学期バスケット・サッカー（クラス人数で変更場合があります。）・講義</p>
授業方法：	<ul style="list-style-type: none"> <li>・男子・女子の授業は別々に行う。</li> <li>・春学期は実技中心（体育館及びグラウンド）</li> <li>・秋学期は実技及び講義</li> </ul>
履修の留意点：	* 授業の第1週目にオリエンテーションを行い授業内容・評価・スケジュール・その他、体育にに必要な事項について連絡するので必ず出席すること。
目標と評価：	<p>* 最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出しますが詳細は第1回目の授業（オリエンテーション）で説明する。実技試験は春・秋それぞれ学期末、授業内試験とする。但し、実技科目なので欠席を重視する。講義の評価も行う。</p> <p>* 体育は出席を重視し、運動能力が低くとも、積極的にからだを動かし、結果として運動量の多い学生を評価します。</p>
教科書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「体育」（担当者：俵 尚申）の履修の手引き

科目名：	体育
担当者：	俵 尚申
対象学生：	経営経済学部1年・短期大学部1年
設置学期：	通年
概要：	<p>近年、青少年の体力・運動能力が著しく低下している。このことは、文部省の調査でも明らかであるが、体格は年々良くなっているのに、なぜ体力は低下するのだろうか。まさに文明病・現代病といえるか、我々の生活レベルが上がリ、全てのものが便利になり、結果として体を動かさなくなった。そういった社会の中で子どものあそびや興味も変わり、スポーツよりゲーム・ファミコンを選ぶ、といったことも一因であろう。IT革命などといわれ、社会があらたに変化を遂げる時、学校体育として何ができるかを考えなければならない。本科目では、スポーツの楽しみを学びながら、学生の体力の維持・向上を目指す。そして今後迎える高齢化社会に向けて、生涯、スポーツと関われるライフスタイルの布石にしたい。</p> <p>1) オリエンテーション（授業計画・評価についての説明）                  2) 講義：実技理論・体育史・健康                  3) 実技：運動量が多く、かつ楽しめるスポーツを行う。</p> <p>男子の場合：春学期ゴルフ・ソフトボール（クラス人数で変更場合があります。）・講義                  秋学期バスケット・サッカー（クラス人数で変更場合があります。）・講義</p>
授業方法：	<ul style="list-style-type: none"> <li>・男子・女子の授業は別々に行う。</li> <li>・春学期は実技中心（体育館及びグラウンド）</li> <li>・秋学期は実技及び講義</li> </ul>
履修の留意点：	* 授業の第1週目にオリエンテーションを行い授業内容・評価・スケジュール・その他、体育にに必要な事項について連絡するので必ず出席すること。
目標と評価：	<p>* 最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出しますが詳細は第1回目の授業（オリエンテーション）で説明する。実技試験は春・秋それぞれ学期末、授業内試験とする。但し、実技科目なので欠席を重視する。講義の評価も行う。</p> <p>* 体育は出席を重視し、運動能力が低くとも、積極的にからだを動かし、結果として運動量の多い学生を評価します。</p>
教科書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「体育」（担当者：俵 尚申）の履修の手引き

科目名：	体育
担当者：	俵 尚申
対象学生：	経営経済学部1年・短期大学部1年
設置学期：	通年
概要：	<p>近年、青少年の体力・運動能力が著しく低下している。このことは、文部省の調査でも明らかであるが、体格は年々良くなっているのに、なぜ体力は低下するのだろうか。まさに文明病・現代病といえるか、我々の生活レベルが上がリ、全てのものが便利になり、結果として体を動かさなくなった。そういった社会の中で子どものあそびや興味も変わり、スポーツよりゲーム・ファミコンを選ぶ、といったことも一因であろう。IT革命などといわれ、社会があらたに変化を遂げる時、学校体育として何ができるかを考えなければならない。本科目では、スポーツの楽しみを学びながら、学生の体力の維持・向上を目指す。そして今後迎える高齢化社会に向けて、生涯、スポーツと関われるライフスタイルの布石にしたい。</p> <p>1) オリエンテーション（授業計画・評価についての説明）                  2) 講義：実技理論・体育史・健康                  3) 実技：運動量が多く、かつ楽しめるスポーツを行う。</p> <p>男子の場合：春学期ゴルフ・ソフトボール（クラス人数で変更場合があります。）・講義                  秋学期バスケット・サッカー（クラス人数で変更場合があります。）・講義</p>
授業方法：	<ul style="list-style-type: none"> <li>・男子・女子の授業は別々に行う。</li> <li>・春学期は実技中心（体育館及びグラウンド）</li> <li>・秋学期は実技及び講義</li> </ul>
履修の留意点：	* 授業の第1週目にオリエンテーションを行い授業内容・評価・スケジュール・その他、体育にに必要な事項について連絡するので必ず出席すること。
目標と評価：	<p>* 最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出しますが詳細は第1回目の授業（オリエンテーション）で説明する。実技試験は春・秋それぞれ学期末、授業内試験とする。但し、実技科目なので欠席を重視する。講義の評価も行う。</p> <p>* 体育は出席を重視し、運動能力が低くとも、積極的にからだを動かし、結果として運動量の多い学生を評価します。</p>
教科書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「体育」（担当者：俵 尚申）の履修の手引き

科目名：	体育
担当者：	俵 尚申
対象学生：	経営経済学部1年・短期大学部1年
設置学期：	通年
概要：	<p>近年、青少年の体力・運動能力が著しく低下している。このことは、文部省の調査でも明らかであるが、体格は年々良くなっているのに、なぜ体力は低下するのだろうか。まさに文明病・現代病といえるか、我々の生活レベルが上がリ、全てのものが便利になり、結果として体を動かさなくなった。そういった社会の中で子どものあそびや興味も変わり、スポーツよりゲーム・ファミコンを選ぶ、といったことも一因であろう。IT革命などといわれ、社会があらたに変化を遂げる時、学校体育として何ができるかを考えなければならない。本科目では、スポーツの楽しみを学びながら、学生の体力の維持・向上を目指す。そして今後迎える高齢化社会に向けて、生涯、スポーツと関われるライフスタイルの布石にしたい。</p> <p>1) オリエンテーション（授業計画・評価についての説明）                  2) 講義：実技理論・体育史・健康                  3) 実技：運動量が多く、かつ楽しめるスポーツを行う。</p> <p>男子の場合：春学期ゴルフ・ソフトボール（クラス人数で変更場合があります。）・講義                  秋学期バスケット・サッカー（クラス人数で変更場合があります。）・講義</p>
授業方法：	<ul style="list-style-type: none"> <li>・男子・女子の授業は別々に行う。</li> <li>・春学期は実技中心（体育館及びグラウンド）</li> <li>・秋学期は実技及び講義</li> </ul>
履修の留意点：	* 授業の第1週目にオリエンテーションを行い授業内容・評価・スケジュール・その他、体育にに必要な事項について連絡するので必ず出席すること。
目標と評価：	<p>* 最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出しますが詳細は第1回目の授業（オリエンテーション）で説明する。実技試験は春・秋それぞれ学期末、授業内試験とする。但し、実技科目なので欠席を重視する。講義の評価も行う。</p> <p>* 体育は出席を重視し、運動能力が低くとも、積極的にからだを動かし、結果として運動量の多い学生を評価します。</p>
教科書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。



「TOEIC英語 I (Grammar & Reading)」 (担当: 松嶋 哲雄) の履修の手引き

科目名:	TOEIC英語 I (Grammar & Reading)
担当者:	松嶋 哲雄
対象学生:	短期大学部1年
設置学期:	春
概要:	TOEICとはTest of English for International Communicationといい、英語コミュニケーション能力測定テストのことです。日本の多くの企業がこのテストを非常に重要視しております。またTOEICは英検と違い合格・不合格の判定はありません。得点結果で英語能力が専門別、職業別にどのレベルに位置するのか知るために活用されるテストです。TOEICは大きくリスニングとリーディングの2つの部門から成り、リスニングは4つのパートに、リーディングは3つのパートに分かれています。リスニングのPart 1が写真描写問題で4選択肢で20問、Part 2は応答問題で短い英文を聞き質問も選択肢もテープから流れてくるだけで3選択肢が30問、Part 3は会話問題でダイアログ形式の4選択肢が30問、Part 4は説明文問題で比較的長い文を聞いて答える形式の20問。リーディングはPart 5が文法・語彙問題の40問、Part 6は誤文訂正形式の20問、Part 7が読解問題で40問となっています。なるべく欠席しないこと。
授業方法:	ほぼ毎回オーディオテープでリスニングの練習。ビデオテープは適宜使用。毎回復習テスト(文法・語彙)を実施。リーディング・リスニング・文法と語彙の各能力強化のために自宅での復習と下調べが必要。
履修の留意点:	この授業では得点力アップを目指し、指定されたテキストを基にリスニング、リーディング、文法と語彙の3部門の学力と得点スキルのアップを行います。そのために、自宅での復習や暗記作業及び予習として下調べが求められます。各授業の始めに前回のテキスト内容や表現の復習、授業の最後には文法・語彙の復習小テストを実施します。学期の終りの2回くらいでTOEICのミニ模擬テストをテスト得点技術強化と力だめしのために行います。この授業のない日は自宅で自己リスニング練習への取組をすすめます。なお、指定したテキストはリスニングとリーディング用ですので、文法・語彙のテキストは授業中にこちらで準備したプリントを使用します。なるべく欠席しないこと。
目標と評価:	最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。普段点評価方式。 目標はTOEICのリーディングセクションで170点以上。
教科書:	LONGMAN PRIMER FOR THE TOEIC TEST NAN'UN-DO PHOENIX 南雲堂 2003

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「TOEIC英語 I (Grammar & Reading)」 (担当: 安富 成良) の履修の手引き

科目名:	TOEIC英語 I (Grammar & Reading)
担当者:	安富 成良
対象学生:	短期大学部1年
設置学期:	春
概要:	TOEICは「英語圏で必要とされるコミュニケーション能力」を問う英語能力テストで4パートから成るListeningと3パートから成るReadingの二つのセクションに分かれています。この授業ではListening能力強化の為に2つの異なったテキストを用いて総合的に、かつ実際に旅行などでも使える英語力の向上を目指して学習をします。Reading能力強化の為に高校までに学習した基礎的な文法事項を文法項目別にプリントした教材を用いて、TOEICテストの練習問題を通して確認し文法力の定着を目指します。
授業方法:	1) プリントを用いて基礎的な文法事項の学習 (練習問題にも取り組む) 2) テキストにあるListeningパートの問題のうち毎回2パートを学習 (小テストあり) 3) 旅行英語のReading練習とペアー学習をし、Listening問題にも取り組む
履修の留意点:	1. 2冊のテキストとプリントは毎時間必携 2. 第1回目の授業で座席を決定し、学期を通してその席を固定させる 3. 毎回小テストあり 4. 春学期の終わりに旅行英語のテキストのEssay 1~4のうち一つを選択しReading Testを行う。(希望者には旅行英語のテキストのテープのダビングをする)
目標と評価:	最終目標として学年末に実施するTOEIC (IP) のテストで平均350点をを目指す。 評価は学期末の定期試験の結果を中心に、毎時間の授業の取り組み、Reading Testを加味して、評価点の70%を決定する。残りの30%は出席点により自動的に算出される。
教科書:	Listening Tactics for the TOEIC Test Vanessa Shibata & Robert West 南雲堂 1999年 Travel English 研究社 古閑・ネイラー・安富 1995年   

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「TOEIC英語 I (Grammar & Reading)」 (担当: 安富 成良) の履修の手引き

科目名:	TOEIC英語 I (Grammar & Reading)
担当者:	安富 成良
対象学生:	短期大学部1年
設置学期:	春
概要:	TOEICは「英語圏で必要とされるコミュニケーション能力」を問う英語能力テストで4パートから成るListeningと3パートから成るReadingの二つのセクションに分かれています。この授業ではListening能力強化の為に2つの異なったテキストを用いて総合的に、かつ実際に旅行などでも使える英語力の向上を目指して学習をします。Reading能力強化の為に高校までに学習した基礎的な文法事項を文法項目別にプリントした教材を用いて、TOEICテストの練習問題を通して確認し文法力の定着を目指します。
授業方法:	1) プリントを用いて基礎的な文法事項の学習 (練習問題にも取り組む) 2) テキストにあるListeningパートの問題のうち毎回2パートを学習 (小テストあり) 3) 旅行英語のReading練習とペアー学習をし、Listening問題にも取り組む
履修の留意点:	1. 2冊のテキストとプリントは毎時間必携 2. 第1回目の授業で座席を決定し、学期を通してその席を固定させる 3. 毎回小テストあり 4. 春学期の終わりに旅行英語のテキストのEssay 1~4のうち一つを選択しReading Testを行う。(希望者には旅行英語のテキストのテープのダビングをする)
目標と評価:	最終目標として学年末に実施するTOEIC (IP) のテストで平均350点をを目指す。 評価は学期末の定期試験の結果を中心に、毎時間の授業の取り組み、Reading Testを加味して、評価点の70%を決定する。残りの30%は出席点により自動的に算出される。
教科書:	Listening Tactics for the TOEIC Test Vanessa Shibata & Robert West 南雲堂 1999年 Travel English 研究社 古閑・ネイラー・安富 1995年   

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「TOEIC英語 I (Grammar&Reading)」 (担当者：小野 勝) の履修の手引き

科目名：	TOEIC英語 I (Grammar&Reading)
担当者：	小野 勝
対象学生：	短期大学部1年
設置学期：	春
概要：	TOEICは近年において、社会的評価と重要度を急速に高めてきている。そのため、希望する企業への就職に際して、TOEICの成績は、自己をアピールする有力な手段のひとつになると言っても過言ではない。そうした現実認識に立ち、大学で実施されるIPテストだけではなく、なるべく早い時期から積極的に一般テストを受験することが望まれる。 春学期においては、TOEICで出題される問題の形式に習熟し、学習の仕方のコツを学んでいく事が大きなテーマとなる。
授業方法：	リスニング問題、リーディング問題を、週単位で交互に取り上げる。 リスニングにおいては、英語の音をなるべく多く聞き、また各パートの問題形式の特徴を踏まえ、その取り組み方を説明、確認しながら練習問題を行っていく。 リーディングでは、各回のトピックス（文法事項）について簡単に解説し、練習問題を行なった後に、解説を加えながら重要ポイントを示す。
履修の留意点：	隔週ごとにリスニングの課題を出す。各自でCDを繰り返して聞き、必ず自分の解答を用意しておくこと。 また授業を離れても、日常生活の中で、目と耳の両面から英語に接し、なおかつ、毎日少しずつでも、英語のボキャブラリーを増やすように心がけてもらいたい。外国語学習の成果は、日々の積み重ねの結果として現れるものである。
目標と評価：	340点レベルを春学期の達成目標とする。 評価については、数回行う復習テスト、及び単語テストの成績を50%、授業への出席回数、参加姿勢を50%として、総合評価を出す。ただし、3分の1以上欠席した場合、実質的に単位の取得は困難である。
教科書：	テーマ別 TOEICテスト総合演習 塚野、山本、大須賀、Benthuyzen 成美堂 2003年 _____ _____ _____ _____

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「TOEIC英語 I (Grammar&Reading)」 (担当者：小野 勝) の履修の手引き

科目名：	TOEIC英語 I (Grammar&Reading)
担当者：	小野 勝
対象学生：	短期大学部1年
設置学期：	春
概要：	TOEICは近年において、社会的評価と重要度を急速に高めてきている。そのため、希望する企業への就職に際して、TOEICの成績は、自己をアピールする有力な手段のひとつになると言っても過言ではない。そうした現実認識に立ち、大学で実施されるIPテストだけではなく、なるべく早い時期から積極的に一般テストを受験することが望まれる。 春学期においては、TOEICで出題される問題の形式に習熟し、学習の仕方のコツを学んでいく事が大きなテーマとなる。
授業方法：	リスニング問題、リーディング問題を、週単位で交互に取り上げる。 リスニングにおいては、英語の音をなるべく多く聞き、また各パートの問題形式の特徴を踏まえ、その取り組み方を説明、確認しながら練習問題を行っていく。 リーディングでは、各回のトピックス（文法事項）について簡単に解説し、練習問題を行なった後に、解説を加えながら重要ポイントを示す。
履修の留意点：	隔週ごとにリスニングの課題を出す。各自でCDを繰り返して聞き、必ず自分の解答を用意しておくこと。 また授業を離れても、日常生活の中で、目と耳の両面から英語に接し、なおかつ、毎日少しずつでも、英語のボキャブラリーを増やすように心がけてもらいたい。外国語学習の成果は、日々の積み重ねの結果として現れるものである。
目標と評価：	340点レベルを春学期の達成目標とする。 評価については、数回行う復習テスト、及び単語テストの成績を50%、授業への出席回数、参加姿勢を50%として、総合評価を出す。ただし、3分の1以上欠席した場合、実質的に単位の取得は困難である。
教科書：	テーマ別 TOEICテスト総合演習 塚野、山本、大須賀、Benthuyzen 成美堂 2003年 _____ _____ _____ _____

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「TOEIC英語 I (Grammar & Reading)」 (担当者: 栗野 恵子) の履修の手引き

科目名:	TOEIC英語 I (Grammar & Reading)
担当者:	栗野 恵子
対象学生:	短期大学部1年
設置学期:	春
概要:	本講座では、「英語を使った必要最低限のコミュニケーション能力を表すTOEIC テスト470点獲得可能な英語力を身につける」ことを到達目標とします。 TOEICテスト対策としての試験内容・構成説明や受験テクニック等の指導を中心にコミュニケーション英語を楽しく体験的に学んでいきます。 又、無理なくできる英語環境作り等も紹介していきますので日頃より英語を「生きた言葉」として身になじませておきましょう。
授業方法:	演習を通じて各パート ( PART?~ ? ) ごとに対処方法を学んでいきます。 基本書ならびに補助プリントで実践に慣れてください。 ( 随時、学習に役立つコラムをカルチャートークコーナーで紹介していく予定です。 )  * 基本授業体系 * 1. Warm-up quiz ( 既出の表現・課題の確認と定着 ) 2. Let's Chant! ( English Song を用いてListening Pointと基本語彙をマスター ) 3. パート別 Exercises とその解法 4. Key Expressions 5. Vocabulary Review
履修の留意点:	授業は、日頃より自分なりに積みあげているものの確認とチェックする場所という意識で臨んでください。
目標と評価:	quiz・定期考査・提出物状況・授業内での積極性等
教科書:	All About TOEIC Takayuki Ishii Yuko Matsumura KINSEIDO 2003年 _____ _____ _____

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「TOEIC英語 I (Grammar&Reading)」 (担当者: 栗野 恵子) の履修の手引き

科目名:	TOEIC英語 I (Grammar&Reading)
担当者:	栗野 恵子
対象学生:	短期大学部1年
設置学期:	春
概要:	本講座では、「英語を使った必要最低限のコミュニケーション能力を表すTOEIC テスト470点獲得可能な英語力を身につける」ことを到達目標とします。 TOEICテスト対策としての試験内容・構成説明や受験テクニック等の指導を中心にコミュニケーション英語を楽しく体験的に学んでいきます。 又、無理なくできる英語環境作り等も紹介していきますので日頃より英語を「生きた言葉」として身になじませておきましょう。
授業方法:	演習を通じて各パート ( PART?~ ? ) ごとに対処方法を学んでいきます。 基本書ならびに補助プリントで実践に慣れてください。 ( 随時、学習に役立つコラムをカルチャートークコーナーで紹介していく予定です。 )  * 基本授業体系 * 1. Warm-up quiz ( 既出の表現・課題の確認と定着 ) 2. Let's Chant! ( English Song を用いてListening Pointと基本語彙をマスター ) 3. パート別 Exercises とその解法 4. Key Expressions 5. Vocabulary Review
履修の留意点:	授業は、日頃より自分なりに積みあげているものの確認とチェックする場所という意識で臨んでください。
目標と評価:	quiz・定期考査・提出物状況・授業内での積極性等
教科書:	All About TOEIC Takayuki Ishii Yuko Matsumura KINSEIDO 2003年 _____ _____ _____

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「TOEIC英語 I (Grammar & Reading)」 (担当者：藤岡 阿由未) の履修の手引き

科目名：	TOEIC英語 I (Grammar & Reading)
担当者：	藤岡 阿由未
対象学生：	短期大学部1年
設置学期：	春
概要：	TOEIC(Test of English for International Communication)の内容は、日常生活やビジネスで実際に使われている英語で、ネイティブ・スピーカーと同じスピードで英語を聞き、読む能力が求められます。このテストの準備に取り組むことで、将来ビジネスの場面で必要となる、英語の総合的なコミュニケーション能力を高めることができます。この授業では、TOEICのReading Sectionを中心に扱い、語彙、文法、読解能力を基礎から養うことを目標とします。
授業方法：	TOEICの傾向をふまえ、指定教科書及び、他の教材（プリントによる配布）の練習問題の解説を中心に授業を進めます。また、TOEIC対策としての自主学習能力を養うべく学習方法を紹介し、関連の課題を出す予定です。
履修の留意点：	授業内容を完全に理解し定着させるには、予習・復習を含む自主学習が非常に重要であり、自主学習の有無が成績にも反映します。
目標と評価：	TOEICの語彙、文法、読解能力の基礎を養うことを目的とし、自主学習を含む授業への取り組みの姿勢、数回の小テスト、課題により総合的に評価します。
教科書：	ECC外語学院著『TOEICテストのための基本総合演習』南雲堂、1999年。 _____ _____ _____ _____

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。



「TOEIC英語 I (Grammar & Reading)」 (担当者：藤岡 阿由未) の履修の手引き

科目名：	TOEIC英語 I (Grammar & Reading)
担当者：	藤岡 阿由未
対象学生：	短期大学部1年
設置学期：	春
概要：	TOEIC(Test of English for International Communication)の内容は、日常生活やビジネスで実際に使われている英語で、ネイティブ・スピーカーと同じスピードで英語を聞き、読む能力が求められます。このテストの準備に取り組むことで、将来ビジネスの場面で必要となる、英語の総合的なコミュニケーション能力を高めることができます。この授業では、TOEICのReading Sectionを中心に扱い、語彙、文法、読解能力を基礎から養うことを目標とします。
授業方法：	TOEICの傾向をふまえ、指定教科書及び、他の教材（プリントによる配布）の練習問題の解説を中心に授業を進めます。また、TOEIC対策としての自主学習能力を養うべく学習方法を紹介し、関連の課題を出す予定です。
履修の留意点：	授業内容を完全に理解し定着させるには、予習・復習を含む自主学習が非常に重要であり、自主学習の有無が成績にも反映します。
目標と評価：	TOEICの語彙、文法、読解能力の基礎を養うことを目的とし、自主学習を含む授業への取り組みの姿勢、数回の小テスト、課題により総合的に評価します。
教科書：	ECC外語学院著『TOEICテストのための基本総合演習』南雲堂、1999年。 _____ _____ _____ _____

※最終評価は、評価点7割，出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「TOEIC英語Ⅱ（Grammar&Reading）」（担当者：松嶋 哲雄）の履修の手引き

科目名：	TOEIC英語Ⅱ（Grammar&Reading）
担当者：	松嶋 哲雄
対象学生：	短期大学部1年
設置学期：	秋
概要：	TOEICとはTest of English for International Communicationといい、英語コミュニケーション能力測定テストのことです。日本の多くの企業がこのテストを非常に重要視しております。またTOEICは英検と違い合格・不合格の判定はありません。得点結果で英語能力が専門別、職業別にどのレベルに位置するのか知るために活用されるテストです。TOEICは大きくリスニングとリーディングの2つの部門から成り、リスニングは4つのパートに、リーディングは3つのパートに分かれています。リスニングのPart1が写真描写問題で4選択肢で20問、Part2は応答問題で短い英文を聞き質問も選択肢もテープから流れてくるだけで3選択肢が30問、Part3は会話問題でダイアログ形式の4選択肢が30問、Part4は説明文問題で比較的長い文を聞いて答える形式の20問。リーディングはPart5が文法・語彙問題の40問、Part6は誤文訂正形式の20問、Part7が読解問題で40問となっています。なるべく欠席しないこと。
授業方法：	ほぼ毎回オーディオテープでリスニングの練習。ビデオテープは適宜使用。毎回復習テスト（文法・語彙）を実施。リーディング・リスニング・文法と語彙の各能力強化のために自宅での復習と下調べが必要。
履修の留意点：	受講者全員TOEICテストを秋学期終了後受験しなければなりません。この授業では得点力アップを目指し、指定されたテキストを基にリスニング、リーディング、文法と語彙の3部門の学力と得点スキルのアップを行います。そのために、自宅での復習や暗記作業及び予習として下調べが求められます。各授業の始めに前回のテキスト内容や表現の復習、授業の最後には文法・語彙の復習小テストを実施します。学期の終りの2回くらいでTOEICのミニ模擬テストをテスト得点技術強化と力ためしのために行います。この授業のない日は自宅で自己リスニング練習への取組をすすめます。なお、指定したテキストはリスニングとリーディング用ですので、文法・語彙のテキストは授業中にこちらで準備したプリントを使用します。なるべく欠席しないこと。
目標と評価：	最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。 普段点
教科書：	LONGMAN PRIMER FOR THE TOEIC TEST NAN'UN-DO PHOENIX 南雲堂 2003

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「TOEIC英語Ⅱ（Grammar&Reading）」（担当者：安富 成良）の履修の手引き

科目名：	TOEIC英語Ⅱ（Grammar&Reading）
担当者：	安富 成良
対象学生：	短期大学部1年
設置学期：	秋
概要：	TOEICは「英語圏で必要とされるコミュニケーション能力」を問う英語能力テストで4パートから成るListeningと3パートから成るReadingの二つのセクションに分かれています。この授業ではListening能力強化の為に2つの異なったテキストを用いて総合的に、かつ実際に旅行などでも使える英語力の向上を目指して学習をします。Reading能力強化の為に高校までに学習した基礎的な文法事項を文法項目別にプリントした教材を用いて、TOEICテストの練習問題を通して確認し文法力の定着を目指します。
授業方法：	1) プリントを用いて基礎的な文法事項の学習（練習問題にも取り組む） 2) テキストにあるListeningパートの問題のうち毎回2パートを学習（小テストあり） 3) 旅行英語のReading練習とペーパー学習をし、Listening問題にも取り組む
履修の留意点：	1. 2冊のテキストとプリントは毎時間必携 2. 座席は基本的には前学期のままとする。 3. 毎回小テストあり 4. 秋学期の終わりに旅行英語のテキストのEssay 5～7のうち一つを選択しReading Testを行う。
目標と評価：	最終目標として学年末に実施するTOEIC（IP）のテストで平均350点を目指す。 評価は学期末の定期試験の結果を中心に、毎時間の授業の取り組み、Reading Testを加味し、更にTOEIC（IP）のテスト結果を組み入れて（出席点を含めた全評価点100点のうち21点）、評価点の70%を決定する。残りの30%は出席点により自動的に算出される。
教科書：	Listening Tactics for the TOEIC Test Vanessa Shibata & Robert West 南雲堂 1999年 Travel English 古閑・ネイラー・安富 研究社 1995年

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「TOEIC英語Ⅱ（Grammar&Reading）」（担当者：安富 成良）の履修の手引き

科目名：	TOEIC英語Ⅱ（Grammar&Reading）
担当者：	安富 成良
対象学生：	短期大学部1年
設置学期：	秋
概要：	TOEICは「英語圏で必要とされるコミュニケーション能力」を問う英語能力テストで4パートから成るListeningと3パートから成るReadingの二つのセクションに分かれています。この授業ではListening能力強化の為に2つの異なったテキストを用いて総合的に、かつ実際に旅行などでも使える英語力の向上を目指して学習をします。Reading能力強化の為に高校までに学習した基礎的な文法事項を文法項目別にプリントした教材を用いて、TOEICテストの練習問題を通して確認し文法力の定着を目指します。
授業方法：	1) プリントを用いて基礎的な文法事項の学習（練習問題にも取り組む） 2) テキストにあるListeningパートの問題のうち毎回2パートを学習（小テストあり） 3) 旅行英語のReading練習とペーパー学習をし、Listening問題にも取り組む
履修の留意点：	1. 2冊のテキストとプリントは毎時間必携 2. 座席は基本的には前学期のままとする。 3. 毎回小テストあり 4. 秋学期の終わりに旅行英語のテキストのEssay 5～7のうち一つを選択しReading Testを行う。
目標と評価：	最終目標として学年末に実施するTOEIC（IP）のテストで平均350点を目指す。 評価は学期末の定期試験の結果を中心に、毎時間の授業の取り組み、Reading Testを加味し、更にTOEIC（IP）のテスト結果を組み入れて（出席点を含めた全評価点100点のうち21点）、評価点の70%を決定する。残りの30%は出席点により自動的に算出される。
教科書：	Listening Tactics for the TOEIC Test Vanessa Shibata & Robert West 南雲堂 1999年 Travel English 古閑・ネイラー・安富 研究社 1995年

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「TOEIC英語Ⅱ（Grammar&Reading）」（担当者：小野 勝）の履修の手引き

科目名：	TOEIC英語Ⅱ（Grammar&Reading）
担当者：	小野 勝
対象学生：	短期大学部1年
設置学期：	秋
概要：	TOEICは近年において、社会的評価と重要度を急速に高めてきている。そのため、希望する企業への就職に際して、TOEICの成績は、自己をアピールする有力な手段のひとつになると言っても過言ではない。そうした現実認識に立ち、大学で実施されるIPテストだけではなく、なるべく早い時期から積極的に一般テストを受験することが望まれる。 秋学期では、春学期において築いた基礎を確実なものとし、さらに応用力を高め、TOEICの実際の試験で出題されるレベルの問題へと迫っていきたい。
授業方法：	リスニング問題、リーディング問題を、週単位で交互に取り上げる。 リスニングにおいては、英語の音をなるべく多く聞き、また各パートの問題形式の特徴を踏まえ、その取り組み方を確認しながら練習問題を行っていく。 リーディングでは、各回のトピックス（文法事項）について簡単に解説し、練習問題を行なった後に、解説を加えながら重要ポイントを示す。
履修の留意点：	隔週ごとにリスニングの課題を出す。各自でCDを繰り返して聞き、必ず自分の解答を用意しておくこと。 また授業を離れても、日常生活の中で、目と耳の両面から英語に接し、なおかつ、毎日少しずつでも、英語のボキャブラリーを増やすように心がけてもらいたい。外国語学習の成果は、日々の積み重ねの結果として現れるものである。
目標と評価：	440点レベルを秋学期の達成目標とする。 評価については、数回行う復習テスト、及び単語テストの成績を50%、授業への出席回数、参加姿勢を50%として、総合評価を出す。ただし、3分の1以上欠席した場合、実質的に単位の取得は困難である。
教科書：	テーマ別 TOEICテスト総合演習（春学期と同じ） 塚野、山本、大須賀、Benthuyssen 成美堂 2003年 _____ _____ _____ _____

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「TOEIC英語Ⅱ（Grammar&Reading）」（担当者：小野 勝）の履修の手引き

科目名：	TOEIC英語Ⅱ（Grammar&Reading）
担当者：	小野 勝
対象学生：	短期大学部1年
設置学期：	秋
概要：	TOEICは近年において、社会的評価と重要度を急速に高めてきている。そのため、希望する企業への就職に際して、TOEICの成績は、自己をアピールする有力な手段のひとつになると言っても過言ではない。そうした現実認識に立ち、大学で実施されるIPテストだけではなく、なるべく早い時期から積極的に一般テストを受験することが望まれる。 秋学期では、春学期において築いた基礎を確実なものとし、さらに応用力を高め、TOEICの実際の試験で出題されるレベルの問題へと迫っていきたい。
授業方法：	リスニング問題、リーディング問題を、週単位で交互に取り上げる。 リスニングにおいては、英語の音をなるべく多く聞き、また各パートの問題形式の特徴を踏まえ、その取り組み方を確認しながら練習問題を行っていく。 リーディングでは、各回のトピックス（文法事項）について簡単に解説し、練習問題を行なった後に、解説を加えながら重要ポイントを示す。
履修の留意点：	隔週ごとにリスニングの課題を出す。各自でCDを繰り返して聞き、必ず自分の解答を用意しておくこと。 また授業を離れても、日常生活の中で、目と耳の両面から英語に接し、なおかつ、毎日少しずつでも、英語のボキャブラリーを増やすように心がけてもらいたい。外国語学習の成果は、日々の積み重ねの結果として現れるものである。
目標と評価：	440点レベルを秋学期の達成目標とする。 評価については、数回行う復習テスト、及び単語テストの成績を50%、授業への出席回数、参加姿勢を50%として、総合評価を出す。ただし、3分の1以上欠席した場合、実質的に単位の取得は困難である。
教科書：	テーマ別 TOEICテスト総合演習（春学期と同じ） 塚野、山本、大須賀、Benthuyssen 成美堂 2003年 _____ _____ _____ _____

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「TOEIC英語Ⅱ（Grammar&Reading）」（担当者：栗野 恵子）の履修の手引き

科目名：	TOEIC英語Ⅱ（Grammar&Reading）
担当者：	栗野 恵子
対象学生：	短期大学部1年
設置学期：	秋
概要：	本講座では、「英語を使った必要最低限のコミュニケーション能力を表すTOEICテスト470点獲得可能な英語力を身につける」ことを到達目標とします。 TOEIC?の内容を発展させ、自分の伸ばしたいPARTの確認と強化に努めます。 又、総合的英語力をアップさせるため全体の学習のまとめをしながら、体験的に学んでいきます。 「どこが解答のポイントなのか・・・」等を考えながらご自身の学習を進めていってください。
授業方法：	基本的には、TOEIC I と同じです。
履修の留意点：	TOEIC I と同様。
目標と評価：	quiz ・ 定期考査 ・ 提出物状況 ・ 授業内の積極性 等
教科書：	All About TOEIC Takayuki Ishii Yuko Matsumura KINSEIDO 2003    

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「TOEIC英語Ⅱ（Grammar&Reading）」（担当者：栗野 恵子）の履修の手引き

科目名：	TOEIC英語Ⅱ（Grammar&Reading）
担当者：	栗野 恵子
対象学生：	短期大学部1年
設置学期：	秋
概要：	本講座では、「英語を使った必要最低限のコミュニケーション能力を表すTOEICテスト470点獲得可能な英語力を身につける」ことを到達目標とします。 TOEIC?の内容を発展させ、自分の伸ばしたいPARTの確認と強化に努めます。 又、総合的英語力をアップさせるため全体の学習のまとめをしながら、体験的に学んでいきます。 「どこが解答のポイントなのか・・・」等を考えながらご自身の学習を進めていってください。
授業方法：	基本的には、TOEICⅠと同じです。
履修の留意点：	TOEICⅠと同様。
目標と評価：	quiz・定期考査・提出物状況・授業内の積極性等
教科書：	All About TOEIC Takayuki Ishii Yuko Matsumura KINSEIDO 2003    

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。



「TOEIC英語Ⅱ（Grammar&Reading）」（担当者：藤岡 阿由未）の履修の手引き

科目名：	TOEIC英語Ⅱ（Grammar&Reading）
担当者：	藤岡 阿由未
対象学生：	短期大学部1年
設置学期：	秋
概要：	(Test of English for International Communication)の内容は、日常生活やビジネスで実際に使われている英語で、ネイティブ・スピーカーと同じスピードで英語を聞き、読む能力が求められます。このテストの準備に取り組むことで、将来ビジネスの場面で必要となる、英語の総合的なコミュニケーション能力を高めることができます。この授業では、TOEICのReading Sectionを中心に扱い、語彙、文法、読解能力をさらに高めることを目標とします。
授業方法：	TOEICの傾向をふまえ、指定教科書及び、他の教材（プリントによる配布）の練習問題の解説を中心に授業を進めます。また、TOEIC対策としての自主学習能力を養うべく学習方法を紹介し、関連の課題を出す予定です。
履修の留意点：	授業内容を完全に理解し定着させるには、予習・復習を含む自主学習が非常に重要であり、自主学習の有無が成績にも反映します。
目標と評価：	TOEICの語彙、文法、読解能力の基礎を養うことを目的とし、自主学習を含む授業への取り組みの姿勢、数回の小テスト、課題により総合的に評価します。 使用教科書：ECC外語学院著『TOEICテストのための基本総合演習』南雲堂、1999年。
教科書：	ECC外語学院著『TOEICテストのための基本総合演習』 1999年

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「TOEIC英語Ⅱ（Grammar&Reading）」（担当者：藤岡 阿由未）の履修の手引き

科目名：	TOEIC英語Ⅱ（Grammar&Reading）
担当者：	藤岡 阿由未
対象学生：	短期大学部1年
設置学期：	秋
概要：	(Test of English for International Communication)の内容は、日常生活やビジネスで実際に使われている英語で、ネイティブ・スピーカーと同じスピードで英語を聞き、読む能力が求められます。このテストの準備に取り組むことで、将来ビジネスの場面で必要となる、英語の総合的なコミュニケーション能力を高めることができます。この授業では、TOEICのReading Sectionを中心に扱い、語彙、文法、読解能力をさらに高めることを目標とします。
授業方法：	TOEICの傾向をふまえ、指定教科書及び、他の教材（プリントによる配布）の練習問題の解説を中心に授業を進めます。また、TOEIC対策としての自主学習能力を養うべく学習方法を紹介し、関連の課題を出す予定です。
履修の留意点：	授業内容を完全に理解し定着させるには、予習・復習を含む自主学習が非常に重要であり、自主学習の有無が成績にも反映します。
目標と評価：	TOEICの語彙、文法、読解能力の基礎を養うことを目的とし、自主学習を含む授業への取り組みの姿勢、数回の小テスト、課題により総合的に評価します。 使用教科書：ECC外語学院著『TOEICテストのための基本総合演習』南雲堂、1999年。
教科書：	ECC外語学院著『TOEICテストのための基本総合演習』 1999年

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「プレゼミナール」（担当者：青山 悦子）の履修の手引き

科目名：	プレゼミナール
担当者：	青山 悦子
対象学生：	経営経済学部2年
設置学期：	通年
概要：	プレゼミナールは、3・4年次の専門ゼミナールへの導入がスムーズに行われるよう、その基礎となる部分を、履修者自身が作り上げていくことを目的としている。 本プレゼミでは、担当者の専門分野である「労働」を中心にすえながら、①年間を通して労働分野のみでなく、経営、経済、社会問題への関心を、新聞を活用することで広げていく、②履修者の問題関心を考慮しながら、入門書となるような本を選定し、その内容の報告、質疑、討論を重ねていく。
授業方法：	年間を通して、新聞の活用を図る。履修者の問題関心を考慮したうえで選定したテキストを、その内容の報告と、質疑、討論を中心に、学生主体に運営する。なお、基礎ゼミで学習した「スタディ・スキルズ」についても再度、確認する。
履修の留意点：	専門ゼミナール（必修）履修のための導入教育なので、多くの学生の受講を希望。
目標と評価：	本プレゼミの目標は、①経営、経済に関する関心を広げていく、②報告、討論する力を養う、③自分の頭で考える力を養うことなど、評価については、ゼミナールなので、出席とゼミへの関わり方で評価される。
教科書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「プレゼミナール」(担当者:内田 和夫)の履修の手引き

科目名:	プレゼミナール
担当者:	内田 和夫
対象学生:	経営経済学部2年
設置学期:	通年
概要:	<p>テーマ: アルバイトから考える「仕事と社会」</p> <p>2年生になったことだし、大学生としての勉強を深めていくきっかけがほしいと思っている人はいませんか。そんな人向けに用意したゼミです。ほとんどの学生諸君がしているアルバイトを題材に進めます。</p> <p>アルバイトの第1の目的はもちろんお金を稼ぐことだとおもいます。でも、アルバイトをしている中で、それ以外にもいろいろなことを考えたり、発見したりしているのではないのでしょうか。</p> <p>改めて自分のアルバイトについて調べ、考え、ゼミの仲間同士でいろいろ話してみませんか。できれば、社会科学的な調査方法も加えてみましょう。そうした作業をしてみると、自身のアルバイトから、いろいろなものが見えてきたり、気になってくるのではないのでしょうか。</p> <p>お店が繁盛する条件であったり、店長の人望であったり、経営の収支勘定のあり方であったり、消費者というものの行動であったり、その業界の行く末であったり、商店街が栄える条件だったり、ごみ問題だったり、人の理不尽さだったり、いろいろあると思います。</p> <p>わかったことは、考えたこと、調べたことをレポートとして書き留めてみましょう。できれば、参考図書も少しは読んで。</p> <p>ゼミでのおしゃべりや、書く作業の中で、自分は本当のところ何が知りたくて大学で勉強したいのかにふと気づいたりして。</p> <p>あなた自身にとって、そんなゼミになることを願っています。</p>
授業方法:	<p>開講時に、改めて相談しますが、つぎのような構成で進める予定です。</p> <p>(1) わたしのアルバイト紹介 メモをもとにみんなに自分自身のアルバイト内容を紹介すると同時にどこを中心にアルバイトについて考えるか、しほりこんでいきます。</p> <p>(2) アルバイト先の仕事内容・営業内容調査 お店の人へのインタビューをはじめ、簡単な現場調査をして、アルバイト先の業務が実はどういうものなのか、整理をしてみます。</p> <p>また、その業界は全国的にみてどういう業界なのかも調べます。</p> <p>(3) アルバイトはどのような役割を果たしているのかの整理作業アルバイト先で、アルバイトの人々が果たしている役割は何かも調べ、考えます。</p> <p>(4) 視野を広げた見方をしてみるための文献を読むそもそも働かってなんでしょう。アルバイトが全国の雇用市場ではどんな役割を果たしているのでしょうか。そういえばフリーターとアルバイトの違いは——。などについて、文献を読んだり、ゲストの話の聞いたり、いろいろデータを集めて分析してみたりします。</p> <p>(5) 研究結果の取りまとめ——やった気のするゼミにするため、ひとりひとりが調べ、考えた成果を調査研究レポートにまとめます。</p>
履修の留意点:	<p>(1) 身近なアルバイトをもとに、人と社会について考えを深めたい人なら、だれでも歓迎します。</p> <p>(2) 自分の考えをまとめること。人と議論すること。インタビュー調査をすること。資料を検索して調べること。しっかりした構成で文章を書くこと。これらは人生をどう送るにしても、身につけて損のない、知的作業のイロハです。こうした手順を踏んで考えると、いままで考えも及ばなかったことも知ることとなり、世界が広がり、世界の見方も深まるはず。こうしたことをいままでしてこなかったとしてもかまいません。大学生らしいことを2年生になったらしようという人はだれでも歓迎します。</p> <p>(3) どのメインコースを選んでいる諸君も歓迎します。</p>
目標と評価:	<p>(1) 日々のゼミ活動の中で、知的作業の面白さを実感すること。自分のつかんだことと考えたことを調査研究レポートとして仕上げることを通じて、考えることを楽しむこと。なるほどな、とか ふん、という場面にであうこと。以上を目標にしようと思います。</p> <p>(2) 出席点3割、毎回のゼミ活動3割、調査研究レポート4割で評価点をつけます。</p>
教科書:	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「プレゼミナール」（担当者：戎野 淑子）の履修の手引き

科目名：	プレゼミナール
担当者：	戎野 淑子
対象学生：	経営経済学部2年
設置学期：	通年
概要：	「仕事」や「働く」というテーマを取り上げ、ゼミナールを行う。アルバイトをしている人も多いであろう。また、就職について考えることも出てくると思う。まずは、「働く」ということについて、体験を話し合ったり、文献を読むことにより現状を見つめ、将来の自分の働き方を考えていく第一歩としたい。
授業方法：	「仕事」や「働く」事に関する課題を考えているが、受講生との話し合いの下で、具体的なテーマについては決める。そして、授業は、 1、文献・資料を読む 2、ディスカッションを行う 3、レポートを作成する 4、発表 という内容で進める。
履修の留意点：	3年次に、私のゼミを希望するものは、ぜひ取っておいてほしい。
目標と評価：	原則として、レポートと発表によって評価するが、授業態度の平常店も考慮する。
教科書：	

※最終評価は、評価点7割，出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「プレゼミナール」（担当者：尾村 敬二）の履修の手引き

科目名：	プレゼミナール
担当者：	尾村 敬二
対象学生：	経営経済学部2年
設置学期：	通年
概要：	本プレゼミナールの目的は、国際経済コースを選択する学生を主対象とし、国際経済学を学ぶためのトレーニングをすることにある。学習内容は履修生の自発的選択を重視し、自分で学習課題を完成することにより、経済学、地域問題、金融問題、環境問題など、多岐にわたる。
授業方法：	学習方法は履修生各自の調査、発表などを重視する。担当教員が何かを授けるのではなく、履修生自らの自発的勉強が期待される。インターネット情報を活用する授業なので、授業にはパソコン必携である。
履修の留意点：	国際経済を勉強する入り口として、英語力を強化する。それゆえ、英語の教材を読む訓練をするので、英語を勉強する努力をしてほしい。ただし、履修登録時に英語読解力に自信がなくてもよい。
目標と評価：	目標は自分で選択した課題について、自分なりの見解を他人に対して説得力を持って説明できるようにすること。勉学の過程で、日本経済新聞を読みこなせるようになることは確実である。成績評価は、積極的な授業参加度、レポートの提出と発表などによる。
教科書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「プレゼミナール」（担当者：内藤 勝）の履修の手引き

科目名：	プレゼミナール
担当者：	内藤 勝
対象学生：	経営経済学部2年
設置学期：	通年
概要：	<p>「環境経済」「農業経済論」の専門的な講義を受けるための、準備、及び基礎を学習する。考えの土台に「自然」を据える。</p> <p>( 平常点による。                      (5)履修の条件 自然に興味があり、自然に順応しようとする「志」のある学生。</p>
授業方法：	2) 授業の方法 文献からの考察をする。その後自然の観察、田植え、稲刈り、餅つき等を通じて自然と人、農業と民族の生活、文化、経済の本質を体得する。
履修の留意点：	<p>((3) 授業の体系 現代の政治、経済、哲学、宗教、都市、コンピュータ、自動車、ミサイル等すべて人の脳が生み出したものである。それが今や限界に達しようとしている。二酸化炭素の増大による地球の温暖化、酸性雨による生態系の汚染、フロンによるオゾン層の破壊（その穴は最大日本の面積の約8倍に達している。）もはや脳やその集積である過去の学問を基準としていたのではこれらに回答を出せないであろう。脳を越える尺度は「自然」だけである。自然の摂理を知りこれに従う、「自然順応」の生活こそ今後の方向であろう。そこで学問の基礎に自然体験を置く。この土台の上に学問、思想の再構築を試みる。</p>
目標と評価：	最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。
教科書：	<p>自然と人のための経済学 内藤勝 高文堂出版社 1996</p> <p> </p> <p> </p> <p> </p>

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「プレゼミナール」（担当者：平井 東幸）の履修の手引き

科目名：	プレゼミナール
担当者：	平井 東幸
対象学生：	経営経済学部2年
設置学期：	通年
概要：	<p>「新聞を読んで、経済・産業・企業について学ぼう」</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 新聞の経済欄や生活欄を読んで、新聞の読み方を身に着けるとともに、経済・産業・企業・ビジネス等について基本的な学習をすることを目標にします。</li> <li>2 一般的な常識の習得と時事問題への理解と関心を高めましょう。</li> <li>3 レポートの書き方、説明・発表の仕方を練習して、3年からのゼミナールに備えたいです。</li> <li>4 あわせて、社会人としてのマナーも指導します。</li> </ol>
授業方法：	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 毎回、各自が関心のある新聞記事（日経、朝日、毎日、読売、サンケイ）あるいは雑誌記事（エコノミスト、東洋経済、ダイヤモンド）を持ち寄り、教材にします。</li> <li>2 年末までに、各自で調査したことをまとめて、レポートを書いてください。</li> </ol>
履修の留意点：	参考書としては、『日経 経済記事の読み方』『経済新語辞典』『日本経済新聞 きょうのことば』（いずれも、日本経済新聞社から刊行）を使用する予定です。
目標と評価：	<p>目標は上記の概要で述べた通りです。</p> <p>評価については、とくに出席・平常点を重視します。</p>
教科書：	

※最終評価は、評価点7割，出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。



「プレゼミナール」（担当者：安田 利枝）の履修の手引き

科目名：	プレゼミナール
担当者：	安田 利枝
対象学生：	経営経済学部2年
設置学期：	通年
概要：	<p>国境を越える地球規模の問題群である、人権、紛争と平和、貧困と開発などの中で、みなさんが最も関心をもつ領域は、おそらく「環境問題」でしょう。環境問題と一口に言っても、その内容やレベルは様々です。酸性雨や国際河川の水質汚染など、越境型の広域環境汚染の問題、先進工業諸国による「公害輸出」の問題、熱帯林の破壊など国際分業を通じた資源と環境の収奪の問題、貧困と生態系破壊の問題、そして温暖化など地球の共有財産の汚染と破壊の問題などです。環境問題は、自然科学と哲学や倫理をベースに政治経済学的に解かれなければならないのです。課題はあまりに重く、そして厳しい状況にあります。どのような方向で解決への道筋が見えるのか、一緒に探って行きましょう。</p> <p>授業の体系</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 宇宙船地球号の前途</li> <li>2. 大気と雨とオゾン層</li> <li>3. 土壌と食物連鎖</li> <li>4. 人為的災害と公害問題</li> <li>5. 人口増加と経済発展</li> <li>6. 循環型社会への転換</li> <li>7. 法律・経済・技術の新しい手法</li> <li>8. 環境保護の先駆者達</li> </ol>
授業方法：	春学期は、文献講読を中心に、地球環境問題のドキュメンタリー番組の視聴を一部取り入れながら行ないます。教科書の1章ずつを担当して自分なりにまとめてきたものを発表してもらい、その内容について質疑応答をしていきます。秋学期はゼミ生が、それぞれ自分なりのテーマを設定して調べた結果をゼミで発表、そしてNGOや企業などの訪問を行なうというかたちで進めます。
履修の留意点：	プレゼミナールという科目は、本ゼミナールの準備段階ですので、どのように学ぶのかを念頭においた授業をします。「教えられる」のではなく、「覚える」のではなく、どのように問題をたてるのか、調べるのか、本や資料を探し、得られた情報を整理するのか、発表するのかを考えながら授業に臨んでください。
目標と評価：	<p>この科目を履修することにより、次のような成果を期待します。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 責任感をもって課題をやり遂げる</li> <li>2. 問題の整理の仕方を真似つつ学ぶ</li> <li>3. 調べ、自分なりの仕方でもとめ、発表する手順に馴れる</li> <li>4. 環境問題への様々な実際の取り組みとアプローチを知る</li> </ol> <p>評価の方法は次の通りです。 授業への参加度と責任感 50% 発表の内容と学年末レポートの内容 50%</p>
教科書：	地球環境読本：人間と地球の環境を考えるための30のヒント 加藤尚武 編 丸善 平成13年7月

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「プレゼミナール」（担当者：山田 寛）の履修の手引き

科目名：	プレゼミナール
担当者：	山田 寛
対象学生：	経営経済学部2年
設置学期：	通年
概要：	「日本と中国と世界について——日中の対話」 世界の中でどう生きて行くべきか、世界は日本をどう見ているか、日本と中国の関係はどうか、日本人と中国人の問題点は何か——政治・経済から社会、文化、スポーツまでいろいろな問題を日本人学生と中国人学生の間で話し合い、討論してもらう。それが、このプレゼミのねらい。日本人学生と中国人学生がいろいろ考え、“本音トーク”で問題を理解し、お互いを理解し合ってもらい。というわけで、日本人学生、中国人学生両方の参加を求めます。
授業方法：	演習。そのときどきで興味深いテーマを選び、意見を言い合うのを基本とする。教科書は使わない。ぶっつけ本番で討論する場合と、前もってテーマについて調べてきて討論する場合と。題材は新聞記事や本の一部のコピー、テレビ番組のビデオ、インターネットその他何でも。外部の人に来てもらい、その話を聞いてから討論することも考えています。
履修の留意点：	どの演習も同じだが、出席し、積極的に参加することが大事です。
目標と評価：	試験は実施しない。平常点と期末のリポートで評価するが、平常点を重視する。 目標は、①国際問題、日中関係などへの関心と理解を深める②意見をはっきり言えるよう、議論・討論の能力をみがく③日本人、中国人学生同士の理解と交流を深める——などです。
教科書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「プレゼミナール」（担当者：和田 耕治）の履修の手引き

科目名：	プレゼミナール
担当者：	和田 耕治
対象学生：	経営経済学部2年
設置学期：	通年
概要：	講義担当者の専門である起業、創業、中小企業といった分野の研究を通じて、主体的に学習をするためのトレーニングを行う。 基礎ゼミナールで行った内容をさらに発展させ、研究レポートの書き方、研究発表の方法、ゼミナールでの質疑応答の方法などを学習する。
授業方法：	中小企業に関する基本的な文献の輪読 起業、創業、中小企業にかかわる研究レポートの作成
履修の留意点：	無断欠席はしないように
目標と評価：	平常点による評価
教科書：	21世紀型中小企業論 渡辺幸男他 有斐閣 2001年 _____ _____ _____

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

## ゼミナール 履修の手引き

担当者：	青山 悦子 (E-407研究室)
テーマ：	日本企業における人事労務管理研究
概要：	日本企業における人事労務管理は、現在大きな変革期にあります。終身雇用や年功制はすでに“博物館”には入りつつあるとさえ言われています。代わって登場したのが、多様化、弾力化、成果主義、個人主義などのキーワードに代表される新たな人事労務管理システムです。 日本企業は、どのように変わろうとしているのでしょうか。人事労務管理と労使関係の新たな動向を検証し、それについて深く議論することが、本ゼミナールの主要なテーマとなります。あわせて、ゼミ生各自のこれからの「働き方」を、深く考え、議論する「場」となることを希望しています。
授業方法：	春学期は、人事労務管理に関する文献（参加者と相談して決定）の輪読を行います。毎回レポーターによる報告と討論を積み重ねながら、自分自身の問題関心を絞りこんでいきます。また当該研究にかかわる資料収集の方法も身につけてもらう予定です。 秋学期は、テーマごとに分かれたグループでの共同研究を進めます。共同研究の成果はゼミ内での討論を経ながら、最終的にはレポートとしてまとめることで、卒業論文作成のためのスキルの向上を目指します。 なお、参加者と相談した上で、本ゼミの準備（レジュメ作成の指導など）を行うサブゼミを弾力的に運営する予定です。
履修の留意点：	サブゼミの弾力的運営がゼミ生と合意された場合は、週2コマの参加が必要になる場合があります。 また、夏季合宿や企業・工場見学などをゼミの重要なイベントとして取り組む予定なので、各種の役割を積極的に引き受け、ゼミを主体的に「つくりあげていこう」とする意欲的な学生の参加を希望します。
目標と評価：	最終的には、卒業論文（資料などを含めて、約2万字程度）の作成が目標となります。卒業論文を提出できないと単位は認定されません。 3年次の評価は、出席、報告、ゼミ活動への取り組みなど、総合的に評価します。4年次は、それに卒業論文の評価が加味されます。
選考方法：	面談（志望理由など）の上、決定します。
履修が望ましい科目：	3年次設置科目「労務管理論Ⅰ」、「労務管理論Ⅱ」

## ゼミナール 履修の手引き

担当者：	井上 行忠 (C-605研究室)
テーマ：	簿記論・財務諸表論
概要：	本ゼミナールでは「財務会計」を研究対象とする。財務会計とは、企業の経営成績および財政成績を外部利害関係者（株主、債権者、従業員、税務官庁、監督官庁、取引先、消費者等に報告する会計である。したがって、財務会計は、単に一部の利害関係者の利害に基づくものではなく、企業を取り巻く不特定多数の利害関係者の意思決定に役立つものである。本ゼミナールは、公認会計士試験二次試験・税理士試験・日商簿記検定1級における「簿記論・財務諸表論」の計算および理論の理解を深めることを主要なテーマとする。
授業方法：	授業方法は、各テーマごとに担当者を決定し、発表（報告）形式で行う。 春学期のテーマは、「企業会計の基本原則」「企業会計制度と財務諸表」「損益計算原理と損益計算書の構造」「貸借対照表の構造と貸借対照表原則」「流動資産」「有形固定資産」「無形固定資産および投資その他の資産」「繰延資産」を中心に学習を行う。 秋学期のテーマは、「負債会計」「資本会計」「金融商品会計」「外貨換算会計」「税効果会計」「財務諸表の作成」「連結会計」を中心に学習を行う。 なお、学習内容については、ゼミ受講者と相談して決定する。 注：使用テキストは、ゼミ受講者の目標内容により決定する。
履修の留意点：	将来職業会計人（会計士、税理士、会計事務所、会社経理等）を志す学生の参加を希望します。ゼミ受講者は、平常の授業週において、週2コマの参加を必要とする。
目標と評価：	最終的には、卒業論文の作成を目標とする。卒業論文の作成（資料の収集方法、論文の書き方等）については、3年次に指導を行う。 評価については、目標資格の取得状況、出席状況、報告内容等、総合的に評価を行う。
選考方法：	志望理由、面談の上、決定する。
履修が望ましい科目：	3年次設置科目：財務会計論、管理会計論、連結会計論

## ゼミナール 履修の手引き



担当者	<p>内田 和夫 (E-505研究室)</p> <p>★研究歴⇒ 法政大学大学院社会科学部研究科 (政治学) 修士課程修了、 (財) 地方自治総合研究所研究員</p> <p>★趣味⇒ 散策</p> <p>★特技⇒ 考え事をしながら、うろうろすること</p> <p>★夢⇒ 1年間の休暇</p>
テーマ	市民としての「まち育て」、私のプランニング
概要	<p>道路や建物重視の「まちづくり」から、人と人の関係を重視する「まち育て」へ。市民と市民が、互いを支えあい、はぐくみ合う関係が、地域の中にさまざまに生まれる「まち育て」に注目が集まっています。ボランティアに私たちが心を魅かれるのも、無意識のうちにそうしたものを求めているからではないでしょうか。非営利で公益の実現をはかるNPOやNGOはそうした「まち育て」そのものでもあります。そうした、市民の「まち育て」は、自治体とのパートナーシップへと発展します。私たちの暮らしを身近で支える政府である自治体の役割もまた重要であるからです。そのことはまた、自治体自体が変わることも求められます。型どおりのことしかできない職員から、現場からの創造型職員へ。職員自身も変わります。このゼミでは、さまざまな「まち育て」の事例に学びながら、あなた自身の「まち育て」プランを作ることを目的とします。</p>
授業方法	<p>春学期は「まち育て」の現場にいたり、ビデオを見たり、文献を読んだり、参加者自身が行いたいのは、どういう「まち育て」なのか、見出す作業をします。また、どういう「調査」やしくみの理解が必要なのかも考えます。</p> <p>秋学期は、プランの素描と材料の仕込みをします。</p>
履修の留意点	2時間続きで、現場にいてみることもあります。現場でがんばっている人との出会いで、刺激を受けたい人、人と人の協力を夢持ちたい人、非営利の公益活動に興味のある人、自治体の仕事に関心のある人を歓迎します。
目標と評価	「私のまち育てプラン」(4000字から、10000字)を卒業論文として、作成することを目標とします。3年次の評価は、出席、現場調査、報告、ゼミ活動への取り組みなどを総合して評価します〔、4年次はこれらの評価は前提ですが、卒業論文を軸に据えて評価します〕。
選考方法	志望理由を書いた作文(400字程度)と面接によります。
履修が望ましい科目	地方自治論1、地方自治論2、ボランティア論、NGO/NPO論

## ゼミナール 履修の手引き

担当者：	戎野 淑子 (E-510研究室)
テーマ：	「働くこと」と「企業」
概要：	<p>現在、人々の「働き方」が大きく変わりつつあります。正社員として、終身雇用を前提として働く働き方が少なくなってきたり、フリーターや派遣社員など多様な働き方が多く見られるようになってきました。また、若くして新規事業を成功させている人もいます。転職も珍しくなくなり、学校卒業後短期間で仕事を辞めてしまう人も少なくありません。給料の支払われ方も、年功序列から成果主義的になってきていると言われていています。このように状況がどうして起きているのでしょうか？働く場である「企業」の変化と、人々の働くことへの意識・行動の変化の両方が大きいと思われる。そこで、「企業」と「働く人々（会社で働く人や起業家等々）」の双方の視点から、現在の変化について考えてみたいと思います。そして、その時に、日本経済全体の仕組みを理解しつつ、国際化や技術革新など私たちを取り巻く環境の変化についても、検討していきたいです。</p>
授業方法：	<p>春学期は、「働き方と企業」に関する文献（参加者と相談して決定）の輪読を行います。報告と討論を通じて、自分の問題意識を明らかにし、卒業論文のテーマを絞っていきます。</p> <p>秋学期は、卒業論文のテーマについて、具体的に討論をし、グループでの共同研究を行います。</p>
履修の留意点：	<p>本ゼミナールは、グループでの共同研究も多く、全員が毎回出席することによって、初めて成り立つ授業です。皆で作っていく授業ですので、欠席や無責任な行動は、ゼミナールの全員に迷惑をかけることであることを理解していただきたいです。合宿や企業・工場見学などのイベントも行いたいと考えておりますので、「協力して、楽しいゼミを作ろう」と思ってくださいの方の参加を希望します。</p>
目標と評価：	<p>最終的には、卒業論文の作成（グループによる作成）が目標となります。</p> <p>3年次は、日ごろのゼミへの取り組み状況（出席、発表、レポートなど）を評価します。</p> <p>4年次は、それと卒業論文とを総合的に評価します。</p>
選考方法：	簡単に志望理由を書いていただき、面談します。
履修が望ましい科目：	「日本企業と雇用システム」「労働と余暇の経済学」

## ゼミナール 履修の手引き

担当者：	大木 麗子 (B-305研究室)
テーマ：	現代の食糧問題
概要：	グローバル経済が進展する中で、消費生活・食生活も様変わりしています。また近年は、0157やBSE問題などの発生により、食料の安全性が国民的関心事となり、「食と農」のあり方が問われています。そこで、わが国の食料の需要と供給の構造およびその問題点を経済学的に検討します。
授業方法：	春学期には『現代たべもの事情』（山本博史著、岩波書店、193頁、1995初版、2002第11刷）を輪読します。具体的には、文献の特定部分を分担してその内容や問題点を報告してもらい、それについて他の参加者から質問したり、疑問点を出して議論することによって理解を深めていきます。秋学期には、受講生の興味関心にしたがってテキストを選びたいと思います。
履修の留意点：	暮らしを取り巻く経済・社会環境、とりわけ「食と農」の問題に関心を持つ方の参加を歓迎します。ゼミナールの開講は、平常の授業週において週一コマを予定しています。春期休業中には、海外から食料が荷揚げされる横浜港の見学を計画しています。また、可能ならば農家・農村の見学も実施したいと考えています。
目標と評価：	最終的には、四年次に卒業論文を作成することですので、三年次の履修を通じて得られた知識や視点を踏まえて、「食と農」をめぐる理論問題、政策問題あるいは実態調査について、各自（共同も可）の興味あるテーマを探し当てることです。テーマの設定および卒業論文の作成は、何度かの中間報告を経て仕上げることとなります。なお、卒業論文の字数は、16,000～20,000字程度を想定しています。三年次の評価は、ゼミナールへの参加状況、すなわち出席回数、報告内容、および討論への加わり方などを総合して行います。
選考方法：	面接により、本ゼミナールへの関心と意欲の程度を主な判断基準にして選考します。
履修が望ましい科目：	三年次設置科目の「食糧経済論」。そのほか「現代消費論」、「流通論」の履修をお勧めします。



## ゼミナール 履修の手引き

担当者：	尾村 敬二 (B-303研究室)
テーマ：	国際経済協力を学び参加する
概要：	<p>国際経済協力とは何か。この問題は範囲が広く、その具体的なイメージはつかみにくい。いくつかの項目をあげると以下の諸点である。</p> <p>1. 国際間の貿易および投資。2. 先進国からの開発途上国に対する援助。3. 開発途上国あるいは地域の抱える経済・政治・社会問題。4. 貧困問題。5. 資源と環境。6. 人材開発。7. 民主儀などの政治問題。等々である。</p> <p>こうした問題はすべて連関しており、1つを取り上げて論じるわけにはいかない。しかし、逆に言えば、ひとつの問題に焦点を当てながら、その視点から協力問題を探求しなければならない。国際協力を実際に理解しようとする、あらゆる局面で論理的矛盾が生じる。これからの世界はこの矛盾をいかにして解消するかが大きな課題である。本ゼミでは、国際経済協力を具体的に解き明かし、実際に参加行動の道を探ることが目的である。</p>
授業方法：	<p>授業方法はゼミ履修生の自発的テーマ設定を基本とし、そのテーマを2年間かけて卒業制作としてまとめる。もちろんテーマ設定について、担当教員である尾村から適切なアドバイスを行う。学習は学生個人の調査研究能力の向上を図るため、毎月のレポート作成と発表、およびそれについてのゼミ生間の討論を行う。調査はインターネットを活用し、資料収集を行うとともに、基本的文献を読む。</p> <p>個人の調査能力の向上とともに重視することは、共同作業による成果の作成をすることである。3~4人の小グループを編成し、共通するテーマ（必ずしも同じテーマでなくてもよい）について共同調査・研究を行う。その過程で、各グループでリーダーシップを発揮できる学生を育成する。</p> <p>2年度目には4年生学生による3年生の指導を行う。</p>
履修の留意点：	<p>まず強調したいことは出席の重視である。年8回以上の欠席者は単位取得を不可とする。</p> <p>国際経済協力をテーマとするのであるから、英語文献を読めるようにすることが不可欠である。ただし、履修申請時において高い英語読解力を必要としないが、英語読解能力をつけたいという意味とそのための努力を示す必要がある。</p> <p>経済学についての知識は必要であり、新聞の経済記事が読めるようにしておくことが履修の条件である。</p>
目標と評価：	<p>本ゼミの目標は、4年次卒業にあたり、社会人として活躍できる最低限の国際問題についての知識と理解力を得ることである。そのためには日常の勉強の積み重ねとして、毎月のレポートを義務付ける。調査・研究能力の向上を評価するために、レポート作成による書く力を評価するとともに、発表および討論能力を観察することで、課題についての理解力を審査する。</p> <p>具体的な目標設定は、テーマを決定した後に、学生個人は学習計画を作成し、担当教員との相談によって、その学習計画達成度をチェックする。チェックは各人の能力に応じて、柔軟に行う。</p>
選考方法：	定員に満たない履修申請者の数であれば、全員受け入れる。選考が必要な場合には面接を行う。
履修が望ましい科目：	経済学および国際関係に関する科目の履修が望ましい。これは必須条件ではない。

## ゼミナール 履修の手引き

担当者：	古賀 義弘（学部長）
テーマ：	産業論
概要：	本ゼミナールの研究は「産業論」です。特に現代日本の産業及び企業の構造や、直面している諸問題について研究を進めます。長い不況のもとにあって、苦境に陥っている産業、経営努力をしている企業、海外に展開している企業などを経営の側や労働の側から分析していきます。具体的なテーマの設定は個人あるいは複数で行います。
授業方法：	春学期には『日本のビッグ・インダストリー』8巻シリーズ（古賀他編著大月書店）の中から取り上げて輪読から始めます。全員が必ず分担部分をまとめて発表し、それをもとに論議をして認識を深めていきます。また秋学期には、4年次に向けてテーマ設定を頭においた発表形成で進みます。
履修の留意点：	オリジナルな卒業論文に仕上げていくことが大きな目標ですから、多くの本や資料に直接あたって研究を進めていきます。さらに、夏合宿も予定しています。
目標と評価：	最終的に卒業論文を作成します。したがって3年次の輪読などで蓄えた知識と方法をもとにテーマを設定し、4年次では中間報告やミーティングによって完成させていきます。また4年次になれば、3年生の学習上の指導をすることで力量アップを図ります。評価については、ゼミナールへの参加と受講態度など総合的に判断して決めます。卒業論文は2万字程度を規定とします。
選考方法：	面接と小論文による決定
履修が望ましい科目：	経済史、戦後日本経済史、産業構造論

## ゼミナール 履修の手引き

担当者：	佐野 陽子（学長室研究室）
テーマ：	ビジネスのサクセスストーリー
概要：	<p>経営者として、専門家として、ビジネスを成功させた人はたくさんいます。ビル・ゲーツ、孫正義、森英恵、中内功、手塚治虫、などなど、いろいろなタイプがあります。好きな人物を選んで、その生い立ちや時代の環境、そして仕事との出会いや変転など、たどってみましょう。成功の秘訣を探りたいものです。分野は、スポーツ、アニメ、デザイン、映像、音響、研究開発、経営、情報、金融、投資、建築、税務、広告、法律、不動産、ソフトウェア、など、どのような分野でも、ビジネスとして成功した人を見つけてください。</p>
授業方法：	一回の授業で、各人、一度は短い発表をしてもらいます。プレゼンテーションをいつも考えたいです。
履修の留意点：	「ビジネスで成功するにはどうしたらいいか」をいつも考えることが大切だと思います。
目標と評価：	<p>納得の行く卒業制作を作ってください。論文でもいいし、ビデオやアルバムでも結構です。論文はできるだけ、図表やグラビアなどを入れて、楽しく読めるようにしましょう。CDでもできます。自分で本を作るのも簡単にできます。＜市場価値があって、売れるものをつくった場合は最高の評価をつけます。＞</p>
選考方法：	面接（変更しました）
履修が望ましい科目：	ビジネスを成功させるのに、役に立つ科目を選んでください。

## ゼミナール 履修の手引き

担当者：	下河邊 元春 (C-604研究室)
テーマ：	経済摩擦
概要：	本ゼミナールの研究対象は「経済摩擦」です。経済がグローバル化が進展する中で、経済力において、世界で一、二位を占める日米両国間には経済摩擦が絶え間なく発生しています。1955年以降、日米双方がどのようにして経済摩擦を生じさせてきたのか、また生じさせているのか、その原因は何か——を日米双方の主張を批判的に捉えることを通じて、検討していきます。
授業方法：	春学期は『日米経済摩擦』（Stephen D. Cohen著 TBSブリタニカ 1985 絶版）の抜粋コピーを輪読します。毎回レポーター（複数）を指名し、特定部分の内容や問題点を報告してもらい、他の参加者との質疑応答を通じて、内容の理解を深めてもらうと同時に、各自の問題意識の醸成を図ります。秋学期は、春学期の学習成果を踏まえて、さらに輪読を進めます。輪読する文献は受講生の関心と興味を踏まえて選択したいと思います。
履修の留意点：	経済・政治・社会・文化・歴史を幅広い視点から考察することに関心を持つ学生諸君の参加を歓迎します。履修者には、『日本経済新聞』の経済、政治記事を日常的に読み、実体経済ならびに国際社会の動向について、基礎知識を蓄積することを求めます。また、夏季休暇中に2泊3日程度の合宿を予定しています。
目標と評価：	最終的には卒業論文（最低20000字を想定しています）の作成を目標とします。卒業論文を提出できない場合は、単位は認定されません。3年次の輪読の過程で、資料の調べ方、報告・討論の仕方を習得してもらいます。3年次の評価は、出席ならびに報告、質疑などゼミナールへの取り組み状況により総合評価します。4年次の評価は、これらに卒業論文の評価を50%組み入れます。
選考方法：	200字程度にまとめた志望動機を提出してもらい、それをもとに面談の上、決定します。
履修が望ましい科目：	国際貿易論、多国籍企業論、国際金融論、欧米経済論の履修を勧めます。

## ゼミナール 履修の手引き

担当者：	内藤 勝 (E-502研究室)
テーマ：	自然と農業
概要：	<p>・・・自然を尺度として現代を考え生きる。・・・</p> <p>現代は総て人の頭つまり大脳が考え出したmonoである。パソコン、ジャンボ機、ミサイル、共産主義、資本主義、自由主義、哲学、物理学、化学、宗教、経済学等である。それは人の願望や欲望を満たしてきた。経済的欲望を満たした物的要素は石油である。この大量消費によって大都市が出現し、豊かな生活が可能になった。他方、それは大量の排ガスを排出する。二酸化炭素は年間64億t(1997)大気中に捨てられ地球の温暖化、酸性雨、肺ガン、小児喘息の原因にもなっている。このまま、この増大が続けば臨界点を越え70~80年で人類の歴史も終わるであろうと予測される。(松井孝典)現代はエントロピー(エネルギーの汚れ)的限界に達しようとしている。</p>
授業方法：	<p>以上の問題を既成の学問、宗教が解けるとは思えない。以上の世界に入らないものは「自然」だけである。自然の摂理を体得しそれに従う学問と生活こそ現代の行き詰まりを解く鍵であろう。</p> <p>それを知るために「農業体験」を重視する。5月田植え 8月稲刈り 11月餅つき、12月おしるこ大会 1月聞き酒大会 2月座禅の体験を通して「自然の摂理を体得する。」実践による直感力を磨きたい。</p>
履修の留意点：	特になし。知性よりも肉体労働を喜べる頑丈な手と足そして根性を尊ぶ。
目標と評価：	体験した者には、体得しただけの評価をしたい。
選考方法：	tokuni nasi
履修が望ましい科目：	tokuni nasi

## ゼミナール 履修の手引き

担当者：	中野 正健（副学長室研究室）
テーマ：	現代世界経済下の企業経営
概要：	共通通貨ユーロ誕生下の欧州経済、I.T革命を軸に発展又I.Tバブル崩壊と9.11後経済異変と戦う米国経済、WTO加盟を基軸に発展中の中国経済、デフレ経済不況に悩む日本経済。こうした世界経済情勢下における企業経営を研究対象とします。
授業方法：	講義を軸に討議討論を重ね、これを基軸に各自独自に主題を研究。アドバイスを受け乍らこの成果を研究論文として取り纏め発表。
履修の留意点：	世界政治経済社会と企業経営に、幅広い視点から考察することに興味をもつ意欲的な学生諸君の参加を歓迎します。 履修者は、平常の授業週において、週一コマの参加を必要とします。
目標と評価：	最終的には、卒業論文（20000字程度）の作成が目標となります。卒業論文を提出できないと単位は認定されません。 3年次の評価は、出席、分担報告、ゼミ活動への取り組みなど、総合的に評価します。4年次は、それに卒業論文の評価が加味されます。
選考方法：	志望理由、面談の上、決定します。
履修が望ましい科目：	3年次設置科目「資金調達論」「投資戦略論」の履修。

## ゼミナール 履修の手引き

担当者：	中原 章吉 (E-401研究室)
テーマ：	環境会計
概要：	本ゼミナールの研究対象は「環境会計」です。環境会計とは、生産活動・社会活動が循環的に行われるように、世界的に各国経済体が活動するように役立つ会計のことです。今年は、環境会計とは基本的にどのようなものかを検討したいと思います。
授業方法：	春学期には、わが国で発行された「環境会計」の入門書の最新のを輪読します。輪読というのは、一人で読みこなすのが難しいような文献を集団で読む方法で、グループのなかの一人ないし数人にその内容や問題点を報告してもらって、他の参加者に質問してもらって内容を理解するものです。
履修の留意点：	会計・経営を幅広い現実から考察することに興味を持つ学生諸君の参加を望みます。
目標と評価：	最終的には、卒業論文の作成を目標としていますが、その過程で資料の調べ方や討論・報告のやり方を習得してもらいたいと思います。
選考方法：	二年春学期までの成績表のコピーを提出してください。
履修が望ましい科目：	簿記・会計学関係科目の履修を望みます。

## ゼミナール 履修の手引き

担当者：	中村 修 (E-403研究室)
テーマ：	社会活動における情報処理技術の位置づけと応用形態の研究
概要：	<p>少人数のゼミナール形式で専門的なテーマについて学習し、学生が各自のテーマに従って研究する手法を学び、独自の考えを引き出す手がかりをつかむことを目的とする。そのために、社会活動に必須となっている関連情報処理技術を対象に、テーマ選定、関連分野の調査と分析、および問題点の整理とテーマの方向付けを行う。関連情報処理技術として、情報メディアと変換技術、情報の検索と発信、計算機アーキテクチャと通信技術等を扱う。また、学生の個人の指向を反映した研究テーマの設定も可能とし、自主的に率先して学ぶ姿勢、真実をつきとめていく姿勢を重視したい。</p>
授業方法：	<ul style="list-style-type: none"> <li>★費用と、時間の無駄を廃し、効率的なゼミナール運用を進めていく。</li> <li>★受講生は自ら専門図書を選定し、自己管理に従って、購読を進めていく。</li> <li>★定期的に購読内容および検討経過の報告を義務づける。</li> <li>★春学期と秋学期との区別は特に設けない。</li> <li>★担当講師からは、適宜、受講生の研究内容に補足することとする。</li> <li>★必要とあらば、ゼミナール共通の図書を選定し、この輪読も行うこととする。</li> <li>★当ゼミナールの看板テーマは先に掲げたとおりであるが、受講生の研究テーマ設定に対する制約とはしないこととする。</li> <li>★評価は、参加度と、内容よりも取り組む姿勢を重視する。</li> </ul>
履修の留意点：	<p>以下の条件を満足することが条件である。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 約束を守れること。</li> <li>(2) 欠席をしないこと(過去の実績で評価する)。</li> <li>(3) 自主的に目標とする時間、準備を行うことができること。 (例：最低1時間以上/日を毎日など)</li> <li>(4) 考えることが好きであること。</li> <li>(5) 継続して1つのことがやり通せること。</li> <li>(6) 他人の意見に素直に耳を傾けることができること。</li> </ol> <p>※特に情報処理に関して詳しい必要はない。</p>
目標と評価：	<p>以下を個人の成長の基準としたい。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 論理的にプレゼンテーションができる。</li> <li>(2) 自己の調査結果を報告書としてまとめられる。</li> <li>(3) 自己の検討結果を、調査結果と区別してまとめられる。</li> </ol> <p>これらの結果が、最終的に論文などに結びついていけばよいが、あえてその論文としての質は問わない(プロセスを重視する)。</p>
選考方法：	<ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 別途定める申込書による選考</li> <li>(2) 必要に応じ抽選</li> </ol>
履修が望ましい科目：	<ul style="list-style-type: none"> <li>★標準的な履修科目の単位を取得していることを条件とする。</li> <li>★当該時期における必修科目を取得していないものは原則的に除外する。</li> </ul>



## ゼミナール 履修の手引き

担当者：	滑川 光裕 (C-608研究室)
テーマ：	システム情報論、システムシミュレーション、モデリング論
概要：	<p>現在、一般に利用されているパーソナルコンピュータの能力は、一時代前の大型コンピュータに匹敵するほどの能力を持っています。このような高性能のコンピュータを活用するための一つの方法として、システムシミュレーションというものがああります。システムシミュレーションとは、社会（経済・経営）システム・物理システムなど、あるシステム（体系）に対して模擬実験を行い、そのシステムが有効に活用されているかを評価し、より良い利用方法を考えるものです。</p> <p>シミュレーションを行うためには、現実のシステムを数値・数式として表し、コンピュータ内で処理できるようにする（「モデリング」という）ことを行う必要があります。このモデリングの際に、カオス理論、ファジィ理論などを用いて人間の感覚を数値的に表現したり、遺伝的アルゴリズムやエージェント理論などを用いて、効率性についての追求をすることもあります。</p> <p>このように、本ゼミナールでは、シミュレーションあるいはモデリングを通じて、情報技術の仕組みと利用方法についての勉強を行います。</p>
授業方法：	<p>春学期には、プログラミングの課題を課すとともに、シミュレーションを中心に、ファジィ理論、遺伝的アルゴリズムなどの文献を輪読します。これらの最新技術は、海外の学会誌を原文（英語）で読む必要もあります。ただし、初期段階では、日本語で書かれた書籍を数冊利用する予定です。</p> <p>秋学期の途中からは、これらの理論を理解した上で、プログラム言語を利用してモデリングを行います。ここでは、すでにゼミナールⅡとしての卒業研究および論文を目指した展開になります。</p>
履修の留意点：	<p>CやJavaなどのプログラム言語が必須となります。これらは、勉強した内容を具現するために必須となるツールですので、3年生春学期には命がけで習得してもらいます。ただし、Excelという選択肢もあります。</p> <p>合宿も必須です。ここでは、その時点までに研究（勉強）した内容について、一通りまとめてもらい、プレゼンテーションを行うとともに、様々な議論についても行う予定です。</p> <p>さらに、学生によっては、ソフトウェアライセンスや依存するハードウェアなどの問題、あるいは、より専門的な連携教育のため、他大学に出向いてプログラミングをしたり、そこでの教員・学生たちと一緒に議論する場合があります。</p>
目標と評価：	<p>卒業制作を目標とします。具体的には、それまで勉強してきた内容に関するプログラミングを行い、成果を出すことです。それをもとに講演論文程度の文書を書いてもらい、プレゼンテーションを行います。そして、質問事項への対応などの議論ができることを確認して、ゼミナールⅠとしての評価を出します。</p>
選考方法：	2年生春学期までの成績、作文およびそれをもとにした面接によります。
履修が望ましい科目：	コンピュータ入門、情報システム論Ⅰ・Ⅱ

## ゼミナール 履修の手引き

担当者：	平井 東幸 (E-501研究室)
テーマ：	流通業の研究
概要：	経済活動を身体にたとえると、「流通」は血管のようなものです。これがなくては経済は一日たりとも成り立ちません。このゼミナールでは、この流通業を具体的な事例を取り上げて調査します。100円ショップや、アウトレットなどの新しい業態はなぜ登場するのか、あるいは、安売りや特売はなぜ常態化するのか、メーカーから小売業までの流通経路はどうなっているのかなどを調べて、消費者としてもっとも身近な小売業を中心に流通業界と流通企業についての理解を深めたいと思います。
授業方法：	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 新聞・雑誌・ビデオの利用して、コンビニなどの事例を研究します。</li> <li>2 可能であれば、外部講師を招いたり、企業見学も実施したい。</li> <li>3 春学期末までにレポートのテーマを決め、秋学期ではその発表を行います。</li> </ol> なお、テーマは流通業に限定せず、広く経営経済に関係するものであればよく、また、このレポートは4年次において卒業制作（本ゼミでは卒業論文）に発展させてもらいます。 4 使用するテキスト、参考書については、追って指示します。
履修の留意点：	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 流通業に関心を有する諸君、および流通業を通して経済経営を勉強しようとする諸君を歓迎します。</li> <li>2 毎回、トピックをめぐって意見交換をしたいので、各人が新聞・雑誌の記事を持参すること。</li> <li>3 企業見学等にも参加できること。</li> </ol>
目標と評価：	目標：流通業の研究を通じて、経済の動向、企業の実態、日々のビジネスの動き等を理解してもらいたいと思います。あわせて、よき社会人としてのマナーを身につけてもらうよう指導します。 評価：平常点とレポートを中心に行います。また、4年次では卒業論文（12000字以上）の評価を中心に行う予定です。
選考方法：	面談によります。成績表を持参して下さい。
履修が望ましい科目：	とくにありません。

## ゼミナール 履修の手引き

担当者：	松行 彬子 (B-302研究室)
テーマ：	グローバル企業と経営
概要：	<p>20世紀末から21世紀にかけて経営環境の激変とともに企業経営のパラダイムは根底から転換しました。市場のグローバル化・技術革新の加速化などにより、多くの日本企業はグローバル企業へと変容しています。</p> <p>本ゼミナールでは'企業グローバル経営とは何か'を追求します。その中でも特に'企業の競争力'に焦点を当て、新しい時代の真の企業の競争力を理論的に、実証的に検討します。分析のツールとして、基礎的な経営分析を用います。また、一方では、現代経営学でもっとも注目されている知識を中心としたナレッジ・マネジメントにも踏み込んでいきます。</p> <p>1,2年で培った経営学の学習を基礎に、受講生が広く経営学に関して問題意識を持ち、問題解決へと発展するよう指導したいと思っています。</p>
授業方法：	<p>春学期には企業の競争力に関する最新の文献を輪読します。毎回、指名された各レポーターが内容を発表し、全員で問題点を討論します。基礎的な経営分析を全員で学習し、それを用いて、企業の業績を分析・比較する方法を習得します。</p> <p>秋学期には、ケース・スタディを行います。ケースごとにグループに別れ、資料収集、競争力を分析し、その結果を比較し、成果をレポートにまとめます。このときに、経営学に関するレポートの書き方を指導します。</p>
履修の留意点：	<p>企業経営に広く興味を持ち、ゼミナール活動に積極的に取り組む熱意ある学生の参加を歓迎します。</p> <p>合宿、工場見学、企業訪問などを予定していますが、参加者との相談により選択します。</p>
目標と評価：	<p>4年次の卒業制作を最終目的とします。そのために、3年次には、資料収集、企業評価方法、基本的な専門知識などをゼミ活動を通じて習得します。</p> <p>3年次の評価は、出席、授業時の報告・発表、ゼミナールへの取り組みの熱意などを総合的に評価します。</p>
選考方法：	<p>面談によって決定します。そのときに、成績表・本ゼミナールへの志望動機を400字程度にまとめたものを持参してください。</p>
履修が望ましい科目：	経営戦略論、経営学Ⅰ、経営学Ⅱ

## ゼミナール 履修の手引き

担当者：	安田 利枝 (E-507研究室)
テーマ：	国際協力 (開発援助と環境)
概要：	<p>今日の国際社会には、地雷や小型武器の拡散を始め、少数民族の抑圧、人権侵害、貧困、紛争、内戦、難民、人口爆発、食糧と水の危機など、国境を越えた諸問題が山積しています。これらの諸問題は相互に深く関連していると同時に私達の暮らしとも実は深いところで結びついています。</p> <p>このゼミでは、特に環境と開発援助(貧困の緩和)の関係に焦点をあてて、地球的諸問題につながる国際、国内、地域の問題とその解決の方途を考えます。私達一人一人が、有権者であり、納税者であり、労働者であり、消費者であり、そして直接・間接に投資家でもあります。そうした市民の立場にたって物事を考えていくことを前提にします。</p>
授業方法：	<p>理論と事例研究を両軸にして現場体験型の学習方法をとります。すなわち、前期は、問題の所在を指摘し、分析している文献を読書発表会の形式でどんどん読んでいきます。国際関係の諸理論、社会開発論なども勉強します。途中、適切なビデオがあれば、ビデオ学習も取り入れます。1人の報告・発表に対してゼミ生全員で質疑応答・ディスカッションをしていく形になります。後期には様々な活動報告を事例として考察する一方で、問題解決の現場で苦闘し活躍している人たちとの交流を含めたプログラムを組んでいきます。</p> <p>頭で考えたり本で読んだりするだけでなく、見たり、聞いたり、匂いを感じたり、体全体で何かを感じることを、そして素晴らしい人たちに出会ったという体験こそが、私達のなかの何かを変えてくれるはずです。何か問題を考える時、その現場やそこに生き暮らす人々の姿や顔が思い浮かぶようになり、それがまた、本や資料の読み方を変えるのです。</p>
履修の留意点：	<p>ゼミ活動に取られる時間はかなりのものになるはずですが、前期に読破しなければならない文献の数は多く、現場や活動団体を訪問したりする際には、相応の時間が必要ですし、事前のアポイントや質問事項の用意など先方との連絡、帰ってからのお礼状書きなど様々な事柄がついてきます。</p> <p>これらの活動に対して、決して嫌な顔をする事なく、知的好奇心に満ちて、周囲の人々への暖かな気持ちを失わず、主体的に取り組む学生を募集します。アルバイトを優先させる学生は実質的にこのゼミと両立させることは難しいと覚悟してください。</p> <p>本ゼミでの活動以外に、社会開発、コミュニティ開発に取り組む日本や途上国のNGOが主催するスタディ・ツアーに是非参加して欲しいと思っています。(義務ではありません。)</p>
目標と評価：	<p>最終的には卒業論文(20000字以上)を作成してもらいます。</p> <p>3年次は、ゼミ活動への主体的な参加度によって、4年次には、参加度50%、卒業論文の評価50%で成績評価をします。</p>
選考方法：	<p>自分のプロフィール、ゼミ志望動機を含めた学習計画書の2つを提出してください。</p> <p>希望者が多い場合には、面談の上、受講生を決定します。</p>
履修が望ましい科目：	<p>2年次秋学期科目「生活環境論」「地方自治論Ⅰ・Ⅱ」および3・4年次春学期科目「NGO・NPO論」「環境と開発」の履修を強く勧めます。</p>

## ゼミナール 履修の手引き

担当者：	山崎 康之 (E-503研究室)
テーマ：	ミクロ経済学—戦略的アプローチ
概要：	<p>本ゼミナールの研究対象は、「ミクロ経済学」(価格理論)です。それを戦略という視点から考えようというのが、本ゼミの目的です。</p> <p>ある一定の目標を持った個人が、様々な可能な行動の中から、その目標に照らして最適な行動を選択することを合理的意思決定と呼びます。戦略的アプローチ(ゲームの理論)は複数の個人の利害が相互に依存しあっている場での各個人のこの意思決定、すなわち、利害が対立する状況における合理的行動とはいかなるものであるべきかという問題を研究します。それは、相手がこちらを出し抜こうとしていることを知った上で、さらにその上をいこうと試みる戦略的行動の分析を通じて、競争と協調をめぐる紛争の一般理論であることを目指します。</p> <p>このゼミナールでは、社会科学の多くの分野でその応用が最近著しいこの瀬略的アプローチを取り上げ、そのミクロ経済学への応用について学びます。</p>
授業方法：	<p>春学期にはウォームアップとして梶井厚志『戦略的思考の技術—ゲーム理論を実践する』中公新書、2002年を輪読します。輪読というのは、一人で読了するのが難しいような文献を集団で読破する方法で、ゼミの受講生の一人もしくは数名に文献の特定部分の内容や問題点を報告してもらい、他の参加者がそれについて質問・討議を行うことによって、その内容を理解していくものです。秋学期には梶井厚志・松井彰彦『ミクロ経済学—戦略的アプローチ』日本評論社、2000年の輪読を予定しています。授業は4時限目に行います。</p>
履修の留意点：	<p>ミクロ経済学の理論とその応用に興味を持っている学生諸君の参加を歓迎します。</p> <p>また、数学を多少使います。</p>
目標と評価：	<p>最終的には、卒業論文の作成を目標としていますが、その過程において、文献の調べ方や討論・報告のやり方を習得していただきたいと思っています。具体的には、四年次に三年次の輪読によってえられた知識や視点をもとに、履修者各自の興味あるテーマを設定し、卒業論文を何度かの中間報告を経て書き上げてもらいます。</p> <p>したがって、三年次の評価は、ゼミナールへの参加程度(出席をしたかどうかではなく、報告をちゃんと行ったかとか質問を積極的に行ったとか)に基づいて下されます。四年次のそれは、卒業論文の評価によります。なお卒業論文は、最低20000字の字数を想定しています。四年次は個別指導になります。</p>
選考方法：	二年次春学期までの成績および面接により決定します。
履修が望ましい科目：	経済学関係の科目(経済学Ⅰ、Ⅱなど)を出来るだけ多く履修してください

## ゼミナール 履修の手引き

担当者：	山田 寛 (B-304研究室)
テーマ：	ゼミナール I = 世界の子どもたちの諸問題
概要：	<p>いま世界の子どもたちの上には、沢山の問題がのしかかっています。子どもたちの悩みを通して、国際政治・経済上の問題、国際関係の課題を調べ、研究する予定です。</p> <p>とりわけ発展途上国の子どもたちには、戦争・紛争の犠牲、地雷による死傷、子供兵士、幼児の飢えや栄養失調による死亡、エイズ、ストリート・チルドレン、人身売買、子供の売春・ポルノ、子供の重労働、教育を受けられない・・・などの問題があります。先進工業国でも、家庭内暴力・虐待、学校でのいじめ、少年犯罪その他の問題を抱えています。</p> <p>そうした問題を認識し、理解し、世界の子どもたちに共感を持って、国際問題への関心を深めることがねらいです。</p>
授業方法：	<p>春学期は、いくつかのテーマを選んで、ユニセフ（国連児童基金）の「世界子供白書」「年次報告」、WHO（世界保健機構）の報告書など国連機関、国際組織の資料、そのほかの文献を検討します。さらにさまざまな情報、データを収集し、関係者の話を取材して、報告してもらいます。</p> <p>秋学期は、テーマごとに分かれたグループの共同研究を進めます。</p>
履修の留意点：	<p>このテーマでは、ゼミでこれさえ輪読（みんなで読んで、それぞれ受け持ち部分について報告する）すればOK・・・といった文献はありません。国際問題に積極的関心のある学生、示された文献を読むだけでなく、いろいろの情報に積極的にあたろうとする学生の参加を歓迎します。</p> <p>2泊3日程度の夏休み合宿その他を予定しています。</p>
目標と評価：	<p>3年次のゼミナール I の評価は、出席状況 15%、日常の取り組み（分担報告の内容や質問、討論への参加の度合い）40%、合宿などでの取り組み 15%、秋のグループ共同研究発表 30%を予定しています。4年次は、ほかのゼミと同様、2万字程度の長さの卒業論文を書いてもらいます（ただし、長いだけではだめ）。卒論の評価は45%。つまり、書かなければ不合格です。</p>
選考方法：	面談で決定。
履修が望ましい科目：	国際経済コース科目、社会理解科目をできるだけとっていることが望ましい。しかし、特定の科目はありません。

## ゼミナール 履修の手引き

担当者：	山本 孝夫 (E-402研究室)
テーマ：	財務会計
概要：	本ゼミナールでは、企業会計の基礎理論を体系的に理解するため、財務会計の構造を考察して、実証的かつ理論的研究能力の涵養を計りたいと思います。企業における経営活動は、営利活動と非営利活動に分けられますが、とくに営利活動に限定して、社会人に必要な基礎知識、すなわち貸借対照表項目・損益計算書項目と資金計算書項目の関連性を学問的に修得することを目指したいと思います。
授業方法：	3年次は、春学期に簿記学・会計学の基礎理論を深めるため、資産会計論、資本会計論、株式会社会計論などの諸問題を取り上げ、関連する文献の輪読を行います。秋学期には、有価証券報告書を利用して財務分析を行い、企業の収益性や安全性など財務諸表の読み方について研究したいと思います。4年次は、卒業論文の作成に目指して、論文の進捗状況に合わせた発表と問題提起等を行います。
履修の留意点：	ゼミナールは、学生が主体で授業が進められるので、簿記・会計に興味を持つ学生であり、簿記の検定資格試験の取得者（少なくとも、会計リテラシの単位取得者）であることが望ましい。意欲的な学生諸君の参加を期待したい。なお、定期的にゼミ合宿と他大学との合同ゼミ（コンパ）を予定しています。
目標と評価：	主体的な研究姿勢を身に付け、特定の学問について問題意識を明確に持つことができる人材を育成したいと考えております。評価は、卒業論文が最終的なものとなりますが、ゼミナールへの積極的な参加と研究姿勢も重要な要素となります。
選考方法：	(1) 面接を重視します。 (2) 1・2年次の成績を参考にします。 (3) ゼミ生としてのマナーが身に付いている者を条件とします。
履修が望ましい科目：	3・4年次科目「財務会計論」、「国際会計論」、「連結会計論」、「経営分析論」

## ゼミナール 履修の手引き

担当者：	和田 耕治 (E-406研究室)
テーマ：	中小企業論、事業創造論
概要：	本ゼミナールでは、わが国の中小企業の実態、経営、政策などに関して、多面的に検討します。中小企業に対するイメージは人それぞれ、まちまちで、プラスのイメージとマイナスのイメージが混在しています。また、そうした企業の実態も創業まもない従業員10人未満の小規模企業と店頭公開直前の100人程度の中堅企業とでは全く異なります。さらに、これらの実態は株式を公開している上場企業とも全く異なります。本ゼミナールではわが国における中小企業の実態について、大企業との比較を意識しつつ、マクロ的な動向を捉えた上で、それぞれの受講者の問題意識に従い、研究内容を発展させていきたいと思っています。
授業方法：	春学期にはわが国における中小企業論に関する基本的な知識を修得するために渡辺幸男、黒瀬直弘他著『21世紀型中小企業論』有斐閣を輪読します。また、秋学期にはわが国における中小企業の動向を把握するために中小企業庁編『中小企業白書』ぎょうせい、を輪読することを予定しています。
履修の留意点：	中小企業、ベンチャー企業、創業、起業について興味を持っている学生の参加を歓迎します。卒業後の進路として、家業を継ぐもの、起業したいもの、公的機関や金融機関等において中小企業に対する支援を職業としたい学生の参加を歓迎します。履修者は、平常の授業週において、週ニコマの参加を必要とします。さらに、九月と三月に、それぞれ二泊三日程度の合宿を予定しています。また、工場団地や商店街やショッピングセンターの視察や経済産業省・中小企業庁等が主催する「ベンチャープラザ」「中小企業テクノフェア」の見学を考えています。
目標と評価：	最終的には卒業制作を目標としますが、三年次はその過程における基本となる知識の修得、問題意識の設定に重きをおきます。三年次の評価は、ゼミナールへの出席と授業中での報告、発言などに基づいて下されます。四年次に行う卒業制作は、論文あるいはビジネスプランの作成のいずれかを選択してください。論文については、16000字以上、ビジネスプランに関してはパワーポイントを使っての30分程度のプレゼンテーションと2千字程度の要旨を作成してください。
選考方法：	面接と簡単な作文を書いてもらいます。
履修が望ましい科目：	中小企業論と事業創造論は履修してください。



## ゼミナール 履修の手引き

担当者：	劉 暢 (B-305研究室)
テーマ：	日中比較経済論
概要：	このゼミナールは日中比較経済研究の前提・分析方法・日中両国（特に中国）の経済に関する基礎知識などの学習に重点を置きます。基本的な知識の導入に合わせ、現代日中両国経済体制について比較検討を行う予定です。
授業方法：	春学期では、まず比較経済論の基本概念・研究手法などについて、簡単な説明を行います。これに基づき、「図説 中国経済」（渡辺利夫など編 日本評論社 1999年）を輪読します（ゼミ報告）。 秋学期において、論文の書き方を説明する目的で、いくつかの日中経済の比較考察を行った参考文献（日本語）を取り上げ、同じく輪読という形でゼミを進めます。そして受講生に卒業論文計画をゼミで発表させる予定です。
履修の留意点：	<ul style="list-style-type: none"> <li>●日中両国の経済発展を自分の目で見つめたい学生の参加を歓迎します。</li> <li>●中国語を履修することをこのゼミ選考の前提とはしません。</li> </ul>
目標と評価：	<p>目標：卒業論文計画書の完成・計画書に関連する基礎知識の習得</p> <p>評価：卒業論文計画書の内容・受講態度・ゼミ報告などに基づき総合的に評価します。</p>
選考方法：	面接（成績表を持参して下さい）
履修が望ましい科目：	春学期設置科目「戦後日本経済史」 秋学期設置科目「日中比較経済論」

「ゼミナール」（担当者：井口 浩一）の履修の手引き

科目名：	ゼミナール
担当者：	井口 浩一
対象学生：	短期大学部2年
設置学期：	通年
概要：	<p>「知恵の輪」は、はずす方法を実行すれば、誰にでもはずせます。このようにあたりまえのこと（はずす方法）を、あたりまえにすれば（実行）、誰にでも、希望がかなうものであります。それが知恵（真理）であります。「知恵の輪」とは、あらわれていながら隠されている、この世の法則（真理）の象徴であります。</p> <p>イエスや釈迦、孔子や老子は、この「知恵の輪」をはずす方法（あたりまえのこと）と、その実行方法とを説き且つ、実践（生活化）し、その一部が現代に伝わっています。</p> <p>このゼミナールでは、（1）自分にとって「知恵の輪」をはずす方法（あたりまえのこと）とは、どういう言葉で表現できるのか、それを探究します。そのために（2）古来からの知恵（イエスや釈迦の説かれた、あたりまえの言葉）を学び、（1）に役立てていきます。</p> <p>科学が、一見あたりまえでないことを、あたりまえにするように思われるのですが、本当は、単に、あたりまえのことを、あたりまえにすることこそがその本姿なのです。ニュートンやガリレオも、また空海や道元も、萬葉の恋も、みな、単純な科学の子ども達でありました。</p>
授業方法：	<p>春学期 主として「新約聖書」からイエスの言葉を学びます。 秋学期 主として「般若心経」から釈迦の言葉を学びます。</p> <p>通常の授業方法で実施される、この学習の過程で、各自、興味・関心をもったことがらを1～2枚決め、ゼミの形式で深めます。</p> <p>深められたことをメモしておき、7月最終授業時に、所定の用紙に記述して提出します。</p> <p>秋学期開始から2週間目の授業時にそれを清書します。 清書したものを一冊にし、飛翔祭に展示・配布します。</p> <p>飛翔祭後は、各自の清書した言葉に基づいて、日本人としての歴史・伝統を踏まえ、更に肉づけし、生活化できるようにします。</p>
履修の留意点：	<p>1. 学習のコツは、授けられるのではなく、逆に、授けることにあるという知恵を実践いたしましょう。無論、この場合の授けるというのは、世俗上のミカエリがないから成立するものであります。</p> <p>2. 飛翔祭参加が履修の条件です。飛翔祭（マツリ）に、私達・日本人の知恵は凝縮しております。その知恵を経験いたしましょう。 このために、4月1～2週間で、次の係を決めておきます。 責任者 1 副責任者 1 会計 1 連絡調整 1～2</p>
目標と評価：	<p>1. 目標 「私の知恵の言葉」の創造と実践</p> <p>2. 評価 出・欠状況、授業中の態度、提出物による総合評価。</p>
教科書：	なし

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「ゼミナール」（担当者：大澤 薫）の履修の手引き

科目名：	ゼミナール
担当者：	大澤 薫
対象学生：	短期大学部2年
設置学期：	通年
概要：	このゼミナールのテーマは「生きる」です。文学作品にはその国の風土や時代背景、社会構造、生活習慣、さらにはそこに生きる人々の心や考え方、価値観などが映し出されています。読書という旅の中で出会う人々の考えや行動を通して、喜びや苦しみに思いをめぐらし、自分の世界を見つめなおすこと、言いかえれば自分自身の生き方を確かめること、これが皆さんの取り組む課題です。はじめに幾つかの作品を挙げ、テーマに添って問題点の捉え方や解釈の方法を説明し、ゼミ生が主体的に作品に取り組めるよう方向付けをします。
授業方法：	① 読書会形式。ゼミ生は各自テキストとなる作品を選び、毎回1名がリポーターとなり、自分の選んだ作品について発表、全員で討論、意見交換を行い、理解を深める。 ② 読了した作品、ゼミ生が提案した課題等について、年数回のレポートを制作。
履修の留意点：	リポーターが指定した作品を毎回読了してくること。
目標と評価：	① 目標：卒業論文制作 ② 評価：発表内容・表現、課題レポート、卒業論文等の総合評価
教科書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「ゼミナール」（担当者：加藤 敦宣）の履修の手引き

科目名：	ゼミナール
担当者：	加藤 敦宣
対象学生：	短期大学部2年
設置学期：	通年
概要：	このゼミナールは経営学系のゼミナールで、その中でも経営戦略論を中心に研究することを予定しています。企業はどのようなことをすることで競争力を強化しているのか、そのときその中で働いている人たちはどのような活動をしているのか、競い合っている相手の企業はどのようなことをするのか、など企業活動を自分たちの視点で考える能力を養うことを目的とし、その成果として最終授業における卒業論文（卒論）の提出を義務付けています。
授業方法：	演習形式（テキストの輪読、発表およびそれに基づく討論）。
履修の留意点：	特になし。
目標と評価：	<p>春学期</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・テキストの輪読を中心に行う。</li> <li>・並行作業として卒論テーマを決定する。</li> <li>・夏休み明けにレポート提出（4000字以上）。</li> </ul> <p>秋学期</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・テキストの輪読。</li> <li>・卒業論文の途中報告を中心に行う。</li> <li>・最終授業にて卒業論文提出（8000字以上）。</li> </ul>
教科書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「ゼミナール」（担当者：久保 真）の履修の手引き

科目名：	ゼミナール
担当者：	久保 真
対象学生：	短期大学部2年
設置学期：	通年
概要：	テーマは「現代日本経済」です。 最終的な目的は、卒業論文の制作です。ただし、卒業論文のテーマは必ずしも日本経済に限られるわけではないので、経済・社会・歴史を幅広い視点から考察することに興味を持つ学生諸君の参加を期待しています。
授業方法：	春学期は、科目担当者や履修者が準備した文献や新聞記事を輪読することを通じて、現代日本経済の問題点を理解することを目的とします。輪読とは、一人で読するのが難しいような文献を集団で読破する方法で、グループのなかの一人（もしくは数名）に文献の特定部分の内容やその問題点を報告してもらい、他の参加者がそれについての質問をすることによって、内容を理解していくものです。また、秋学期には、春学期の輪読によって得られた知識や視点をヒントに、履修者各自の興味あるテーマを設定し、卒業論文を何度かの中間報告を経て書き上げてもらいます。
履修の留意点：	履修を希望する学生は、必ず3月3日の説明会に参加するようにして下さい。その際に、参考文献などの説明もいたします。
目標と評価：	自分で問題を設定し、自分なりの答えを導くことのできる能力を身につけてもらいたいと思います。評価は、出席状況・演習中の報告内容・卒業論文を総合して下します。
教科書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「ゼミナール」（担当者：倉田 安里）の履修の手引き

科目名：	ゼミナール
担当者：	倉田 安里
対象学生：	短期大学部2年
設置学期：	通年
概要：	戦争は全ての国の文明活動に多大な影響を与えてきた。前大戦の祈り、日本は物質・精神・行動の面で、良くも悪しくも諸外国とは違った文明発達を現出し、それが現代社会に多大な影響を与えていることは否めない。 本講座では、日本文明の中でも、特に近代以降の機械工業・電子技術といった物質的な要素と、思想・概念といった精神文化的な要素の両面から、日本の文明とは何か、戦争が戦後の日本文明に与えた影響とは何かを考察し、受講生独自の結果を導き出すものである。
授業方法：	春学期は主として教員主導のもと、ここの指定された事例を検証し、受講生が私見を述べる。秋学期は受講生自身の特定したテーマに基づき、発表・討議を中心とする。
履修の留意点：	ゼミナール説明会に出席し、指示された予習をしてきた者に限る。
目標と評価：	出席と年度末提出の論文により評価する。如何なる理由があろうとも、年度終了時に論文を提出しないものは評価を一切行わない。
教科書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「ゼミナール」（担当者：生井 良一）の履修の手引き

科目名：	ゼミナール
担当者：	生井 良一
対象学生：	短期大学部2年
設置学期：	通年
概要：	<p>現在ごみは大きな社会問題となっている。年々深刻化する埋立地の不足、またダイオキシンの問題もある。ごみを減らすために各地でリサイクルや有料化などの取り組みが行われている。その実態について学習し、理解を深める。</p> <p>理解を深めるには実践することだ。まずゼミではごみ処理に取り組んでみたい。ごみは重量にして家庭ごみの30%と大きな割合を占めている。ごみは焼却場ではダイオキシン発生の一因ともなっている。このごみを家庭から出ないようにしたい。そのためには簡単にできて、においの出ない、虫のわかないごみ処理を目指す。ごみ処理器があるので、それを使って全員に体験してもらいたい。場合によっては、できた堆肥で花を栽培するもよし、野菜をつくるもよしである。</p> <p>一方、小平市のリサイクルセンターに見学に行き、ごみの実情を直接知ってもらいたい。また、ごみ拾いに出かけたり、町の環境調査に出かけたりしたい。その後で、グループごとにまとめて発表して、それを元に皆でいろいろと話し合いたい。</p> <p>さらに、ビンやカン、紙、ペットボトルやトレイ、その他のプラスチック、パソコン、車などのリサイクルの実情についても学習する。そして、リサイクルの流れや問題点、我々にもできることは何かを考える。</p> <p>夏休みには、夏休みだからこそできる合宿、あるいはごみの埋立地見学も実施したい。ときには、多摩川の清流や下水処理場などの水問題も取り上げてみたい。</p> <p>また、学園祭には必ず参加するものとする。</p>
授業方法：	<p>直接体験し、体で環境問題を知る」、これがこのゼミのモットーである。ごみ拾いなど、町の環境調査もぜひやってみよう。そうは言っても、時間内にできることは限られている。そういう時には、ビデオ教材を使って、いろいろな事例を学ぶこととする。</p>
履修の留意点：	<p>重視しているのは、結果より取り組んでいるプロセスである。その意味でも積極的に取り組んで欲しい。どんなことでも意見や質問があれば遠慮なく言って欲しい。「失敗」と書いて「たいけん」と読む、その気持を大事にしたい。</p>
目標と評価：	@?
教科書：	<p>とくに教科書は使わない。雑誌「月刊廃棄物」には最新の情報が満載されている。出版年の古いものは内容が現状とちがってきていることに注意。ごみ問題の対応も最近は大変な変化が大きいのである</p>

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「ゼミナール」（担当者：南 憲一）の履修の手引き

科目名：	ゼミナール
担当者：	南 憲一
対象学生：	短期大学部2年
設置学期：	通年
概要：	<p>コンピュータの用途はかつての計算機能にとどまらず、さまざまな分野に及んでいる。現在では、インターネットに代表される通信、画像・音声を含むマルチメディアの処理などが脚光をあびている。本ゼミナールでは最も身近なコンピュータであるパソコンの活用方法を中心に学習を進める。Windowsの構成と機能について学んだ上で、インターネットの利用、Webページの作成、画像・音声情報の処理について学んでいく。</p> <p>内容 Windowsの構成と機能 インターネットの利用 Webページの作成 画像処理 音声処理 ビデオ画像の処理 Webページ上のプログラミング</p>
授業方法：	実習を中心として授業を進める。
履修の留意点：	夏期合宿・学園祭への参加ができることを受講の条件とする。 Webページの基本的な作成技法については1年次に身につけていることが望ましい。
目標と評価：	通常の授業よりワンランク上の高度なWebページの作成を目標とする。 卒業制作として作成するWebページで評価する。
教科書：	授業時間内に指示する

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。



「ゼミナール」（担当者：宮本 勉）の履修の手引き

科目名：	ゼミナール
担当者：	宮本 勉
対象学生：	短期大学部2年
設置学期：	通年
概要：	今日、企業活動はコンピュータの存在なくしては語れない。この現状はますますインターネットの利用とIT化の加速とともにさらに進んでいます。その結果、新たなビジネスも次々に出てきています。さらに、SOHOや無線LANの導入ということが新たに出てきました。この授業ではSOHOや無線LANの事例の研究を行い実際の状況を再現して実際に学び研究する。
授業方法：	春学期 1) パソコンとネットワークについて 2) 企業における実態の研究 3) 無線LANの実習 夏合宿 1) 文献を通しての研究 2) SOHO、無線LANのパソコンの実習 秋学期 1) 各自のレポートのテーマ 2) SOHO、無線LANについての実習 まとめとレポート作成
履修の留意点：	自ら学ぶ意思のある学生 特にパソコンのマニア歓迎、パソコンの利用に興味のある学生 自ら、授業に取り組む意欲的な学生の参加を希望する。 さらに、パソコンを利用するのでパソコンの習得に意欲のある学生が望ましい。 この授業では見学、合宿等を行うので全員参加すること。
目標と評価：	平常の授業の意欲と最終的なレポート、それらを総合して評価する。
教科書：	授業時に指示する

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「ゼミナール」（担当者：森 康夫）の履修の手引き

科目名：	ゼミナール
担当者：	森 康夫
対象学生：	短期大学部2年
設置学期：	通年
概要：	芸術は古くから「人間の心の癒し」と関わりがあると考えられてきた。現代も人々は様々な悩みや不安を抱えている訳だが、どうしたらそれを解消できるのか。または、和らげられるのか。当ゼミではそれを美術の面から考えていく。悩みや不安は考えているだけでは解消されない。頭で考えているだけでなく行動することが大事であり、体験することで何かが始まると考える。そこで、当ゼミでは「造形の遊び」を通して心の解放を目指し、どんなことが「心の癒し」に効果があるのかを探究していく。様々な体験を通して、新たな発見や感動、創造することの喜びなどを実感して欲しい。
授業方法：	*前提講義の後、各テーマに添って作業をする。主に立体に取り組む。 *造形とは何か、人とどのように関わっているのかについて講義する。  <各テーマの講義と実習> 1、抽象的な立体を作る。（既成概念にとらわれない自由な表現） 2、具体的な立体を作る。（心地良い形、かわいい形の物を作る） 3、自由な発想を養う。（既製品を使って再構成する） 4、発想の転換を試みる。（創造することの喜びの中に充実感と心の安らぎを得る）
履修の留意点：	*手を使って何かを創造することが好きな学生が望ましい。
目標と評価：	授業への取り組み及び、口頭発表と作品提出状況により決定する。
教科書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「ゼミナール」（担当者：石川 直弘）の履修の手引き

科目名：	ゼミナール
担当者：	石川 直弘
対象学生：	短期大学部2年
設置学期：	通年
概要：	この演習は、心理現象を自分の主観によってではなく、行動科学的に把握することを目的とする。春学期には、心理学の基本的な実験を実施する。学生は、自ら実験者もしくは被験者として実験に参加することになる。実験に際して、刺激操作、条件統制がいかにか厳密に行われるか、またいかに細心の注意をもって被験者を扱い、その反応を観察、記録、測定していかなければならないかを学んでいく。実験後には、実験レポートの提出が義務づけられる。秋学期には、子どもの認知発達について文献購読を中心にして学んでいく。意欲的にこれに取り組む学生の参加を求める。
授業方法：	文献購読、実験、レポート作成を繰り返す。
履修の留意点：	特になし
目標と評価：	実験レポートおよび平常点によって評価する。
教科書：	子どものユーモア—その起源と発達— ポール・マッギー 誠信書房

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「ゼミナール」（担当者：古閑 博美）の履修の手引き

科目名：	ゼミナール
担当者：	古閑 博美
対象学生：	短期大学部2年
設置学期：	通年
概要：	「魅力行動学」のキーワードは、「魅力」「行動」「出会い」です。日本文化を視野に入れ、魅力行動を質、意味、形等の観点から考察します。体験学習を豊富に導入し、具体的に魅力行動に迫ります。学園祭に参加します。
授業方法：	講義以外に、学外研修を実施する。
履修の留意点：	何事にも積極的に参加し、卒業制作を仕上げる意気込みを持続すること。教科書を通読したうえで授業に参加すること。教科書携帯のこと。
目標と評価：	学外研修への積極的参加を期待する。魅力行動の観点から態度能力を高める。授業と学外研修への参加、提出物等から総合的に評価する。
教科書：	『魅力行動学入門』 古閑博美 学文社 1996年

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「ゼミナール」（担当者：藤井 秀子）の履修の手引き

科目名：	ゼミナール
担当者：	藤井 秀子
対象学生：	短期大学部2年
設置学期：	通年
概要：	<p>社会人を目前にした短大生としての常識・教養を深めるため、日本語表現能力の開発のひとつとして四字熟語を探り上げる。          故事に基づく四字熟語を学ぶことにより、言葉の意味のみならず、その基となっている歴史的背景から現在の表現方法に至るまで、深い理解と知識の修得を目指す。          さらに、その言葉を自分のものとして十分使いこなせるようにするため、短文を作成し、プレゼンテーション能力の開発もかねて、口頭での発表を行う。          発表者だけでなく、聴く側も大事な核心をつかむ聴き方の練習をする。</p>
授業方法：	<p>&lt;前期&gt; 2人でペアを組み、好きな四字熟語を選んで、研究発表をする。          発表後、全員がその熟語を使って短文を作成し、発表する。</p> <p>&lt;後期&gt; 個人研究発表とする。進め方は前期と同じ。</p>
履修の留意点：	研究発表の際、レジュメをパソコンで作成して皆に配布するので、各自パソコンを修得しておくこと。
目標と評価：	<p>&lt;目標&gt; 日ごろから漢字や熟語に関心を持ち、目に触れた四字熟語は必ず調べて理解し、文章を作って自分のものにする姿勢をもってほしい。できれば、漢字検定にも挑戦してほしい。</p> <p>&lt;評価&gt; 次の4つからの総合評価とする。          1、個人研究発表          2、期末テスト          3、随時行う小テスト          4、聴く態度</p>
教科書：	四字熟語辞典（編）日本文芸社 日本文芸社 平成13年4月

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「ゼミナール」（担当者：柴生田 俊一）の履修の手引き

科目名：	ゼミナール
担当者：	柴生田 俊一
対象学生：	短期大学部2年
設置学期：	通年
概要：	<p>&lt;観光都市・東京の研究&gt;                  2003年度は嘉悦100周年にあたる。嘉悦学園は1903年（明治36年）に創立された。過去100年間の観光都市・東京（*）の変遷を、嘉悦学園の変遷と重ね合わせながら、調査・研究する。                  （*）東京の観光的魅力の変遷を、アンケートや実地調査を交えて、具体的に研究する。                  嘉悦大学図書館やインターネットを活用し、グループに分れて、調査・研究・討議を進める。                  光風会などの協力を得ながら、卒業生たちの取材やアンケート調査を行う。                  9月に軽井沢セミナーハウスで2泊3日のゼミ合宿を行う。                  学園祭「飛翔祭」に出展・出演し、研究成果を発表する。                  学園祭終了後は、グループ研究のまとめとともに、個人研究に着手する。</p>
授業方法：	<p>①講義。②グループ討議。③ナビ検索。④グループ発表。</p> <p>授業の体系                  1. 使用参考書の輪番レポート                  2. グループ別の研究・討議・発表                  3. グループ内の役割分担（研究総括・合宿・学園祭・アンケートなど）                  4. 卒業生・在校生対象のアンケートの計画・実施・まとめ                  5. 光風会と打ち合せ、個別ヒヤリング                  6. 学園祭への参加計画、発表準備の進行                  7. 学園祭の会場設営、研究成果の発表。                  8. グループ研究のレポート作成                  9. 個人研究のレポート作成                  10. 観光ゼミ2003年度のレポート編集</p>
履修の留意点：	<p>履修の条件                  ゼミ合宿への参加、使用参考書の購入・必読                  使用参考書                  「東京」陣内秀信著 文芸春秋 1992</p>
目標と評価：	<p>評価の方法                  レポート作成・研究発表・チームワークの各能力、自発性・向上意欲</p>
教科書：	<p>東京 陣内秀信 文芸春秋 1992</p> <hr/> <hr/> <hr/> <hr/>

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「英語 I」（担当者：大澤 薫）の履修の手引き

科目名：	英語 I
担当者：	大澤 薫
対象学生：	経営経済学部1年
設置学期：	春
概要：	英語の基本的な構造を中心に、高校で学んだ内容を徹底的に復習します。次に基本文型が理解できたら時制と語の活用を練習し、完了と進行の意味を捉えなおします。更に、能動態と受動態の使い分けを通じて、英語らしい表現のバリエーションを広げます。
授業方法：	第1回目の授業でクラス分けテストを行います。各クラスは、それぞれの弱点別に異なるアプローチで同じ内容を学習します。
履修の留意点：	第1回目の授業を欠席すると、受講生に最適なクラスで受講することができなくなるので、十分に注意すること。担当者別に履修クラスの指定を受けた後、履修登録の修正が必要となります。第2回目の授業に、十分充電されたPCを忘れないように注意してください。
目標と評価：	全クラスで統一試験を行います。その結果と平常授業とをおよそ7：3の割合で計算し、出席点とともに最終評価とします。
教科書：	Essential Grammar In Use Raymond Murphy Cambridge University Press 1997

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「英語 I」（担当者：嘉悦 康太）の履修の手引き

科目名：	英語 I
担当者：	嘉悦 康太
対象学生：	経営経済学部1年
設置学期：	春
概要：	英語の基本的な構造を中心に、高校で学んだ内容を徹底的に復習します。次に基本文型が理解できたら時制と語の活用を練習し、完了と進行の意味を捉えなおします。更に、能動態と受動態の使い分けを通じて、英語らしい表現のバリエーションを広げます。
授業方法：	第1回目の授業でクラス分けテストを行います。各クラスは、それぞれの弱点別に異なるアプローチで同じ内容を学習します。
履修の留意点：	第1回目の授業を欠席すると、受講生に最適なクラスで受講することができなくなるので、十分に注意すること。担当者別に履修クラスの指定を受けた後、履修登録の修正が必要となります。第2回目の授業に、十分充電されたPCを忘れないように注意してください。
目標と評価：	全クラスで統一試験を行います。その結果と平常授業とをおよそ7：3の割合で計算し、出席点とともに最終評価とします。
教科書：	Essential Grammar In Use Raymond Murphy Cambridge University Press 1997

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。



「英語 I」（担当者：サイモン クレイ）の履修の手引き

科目名：	英語 I
担当者：	サイモン クレイ
対象学生：	経営経済学部1年
設置学期：	春
概要：	英語の基本的な構造を中心に、高校で学んだ内容を徹底的に復習します。次に基本文型が理解できたら時制と語の活用を練習し、完了と進行の意味を捉えなおします。更に、能動態と受動態の使い分けを通じて、英語らしい表現のバリエーションを広げます。
授業方法：	第1回目の授業でクラス分けテストを行います。各クラスは、それぞれの弱点別に異なるアプローチで同じ内容を学習します。
履修の留意点：	第1回目の授業を欠席すると、受講生に最適なクラスで受講することができなくなるので、十分に注意すること。担当者別に履修クラスの指定を受けた後、履修登録の修正が必要となります。第2回目の授業に、十分充電されたPCを忘れないように注意してください。
目標と評価：	全クラスで統一試験を行います。その結果と平常授業とをおよそ7：3の割合で計算し、出席点とともに最終評価とします。
教科書：	Essential Grammar In Use Raymond Murphy Cambridge University Press 1997

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「英語 I」（担当者：高野 秀之）の履修の手引き

科目名：	英語 I
担当者：	高野 秀之
対象学生：	経営経済学部1年
設置学期：	春
概要：	英語の基本的な構造を中心に、高校で学んだ内容を徹底的に復習します。次に基本文型が理解できたら時制と語の活用を練習し、完了と進行の意味を捉えなおします。更に、能動態と受動態の使い分けを通じて、英語らしい表現のバリエーションを広げます。
授業方法：	第1回目の授業でクラス分けテストを行います。各クラスは、それぞれの弱点別に異なるアプローチで同じ内容を学習します。
履修の留意点：	第1回目の授業を欠席すると、受講生に最適なクラスで受講することができなくなるので、十分に注意すること。担当者別に履修クラスの指定を受けた後、履修登録の修正が必要となります。第2回目の授業に、十分充電されたPCを忘れないように注意してください。
目標と評価：	全クラスで統一試験を行います。その結果と平常授業とをおよそ7：3の割合で計算し、出席点とともに最終評価とします。
教科書：	Essential Grammar In Use Raymond Murphy Cambridge University Press 1997

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「英語 I (再履修用)」 (担当: 高野 秀之) の履修の手引き

科目名:	英語 I (再履修用)
担当者:	高野 秀之
対象学生:	経営経済学部2年
設置学期:	春
概要:	外国語を身につけるためには、4つの能力(聴く、話す、読む、書く)を同時に高めていくことが必要となります。そして身についた総合力は、受講生の実力となっていきます。これまで個々に学んできた力をつなぎ合わせていく過程で、受講生は自分の弱点を知らされることとなります。しかし、その弱点を克服することとられるより、得意な分野を伸ばしていくことの大切さを実感してもらいます。授業開始直後は、これまでとは違ったアプローチに戸惑う受講生もいるでしょう。授業のスタイルにはゆっくり慣れていけばよいので、一所懸命勉強して、一緒に力をつけていきましょう。
授業方法:	耳で聴いたことを声に出す、声に出したことを書いてみる。そして、それが誰にでも通じるものであるかどうかをたずねる。このように、日常的な行為として接する言葉に対して、同じ方法でアプローチしていきます。毎回異なるトピック(或いは、ターゲット)に触れながら、それぞれの場面で最も効果的な表現を身につけていきます。学習した内容は、その時間中に用いることが求められますので、受講生は作業に追われる時間が30分ほどあります。次に、小さなテキストを読み、その内容把握を行います。英語の質問に対応するには十分な予習が必要となるでしょう。授業の最後は、小テストとアンケートを行い、どれだけの力が身についたかを確認します。
履修の留意点:	毎回の授業でPCを利用しますから、忘れずに用意しておきましょう(特に、充電)。また、出席点の不足で学期末に困らないよう、十分に注意してください。
目標と評価:	毎回の授業が評価対象となるので、欠席すると出席点の下がるだけでなく、授業点が減ることになります。十分に注意してください。試験は第13回目の授業中に行い、最終授業では春学期のまとめをします。授業点と試験は、およそ3:7の割合で計算され、出席点とともに最終評価を出します。
教科書:	American Headway 1A Liz and John Soars Oxford University Press 2001

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「英語 I」（担当者：松嶋 哲雄）の履修の手引き

科目名：	英語 I
担当者：	松嶋 哲雄
対象学生：	経営経済学部1年
設置学期：	春
概要：	英語の基本的な構造を中心に、高校で学んだ内容を徹底的に復習します。次に基本文型が理解できたら時制と語の活用を練習し、完了と進行の意味を捉えなおします。更に、能動態と受動態の使い分けを通じて、英語らしい表現のバリエーションを広げます。
授業方法：	第1回目の授業でクラス分けテストを行います。各クラスは、それぞれの弱点別に異なるアプローチで同じ内容を学習します。
履修の留意点：	第1回目の授業を欠席すると、受講生に最適なクラスで受講することができなくなるので、十分に注意すること。担当者別に履修クラスの指定を受けた後、履修登録の修正が必要となります。第2回目の授業に、十分充電されたPCを忘れないように注意してください。
目標と評価：	全クラスで統一試験を行います。その結果と平常授業とをおよそ7：3の割合で計算し、出席点とともに最終評価とします。
教科書：	Essential Grammar In Use Raymond Murphy Cambridge University Press 1997

※最終評価は、評価点7割，出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「英語 I」（担当者：安富 成良）の履修の手引き

科目名：	英語 I
担当者：	安富 成良
対象学生：	経営経済学部1年
設置学期：	春
概要：	英語の基本的な構造を中心に、高校で学んだ内容を徹底的に復習します。次に基本文型が理解できたら時制と語の活用を練習し、完了と進行の意味を捉えなおします。更に、能動態と受動態の使い分けを通じて、英語らしい表現のバリエーションを広げます。
授業方法：	第1回目の授業でクラス分けテストを行います。各クラスは、それぞれの弱点別に異なるアプローチで同じ内容を学習します。
履修の留意点：	第1回目の授業を欠席すると、受講生に最適なクラスで受講することができなくなるので、十分に注意すること。担当者別に履修クラスの指定を受けた後、履修登録の修正が必要となります。第2回目の授業に、十分充電されたPCを忘れないように注意してください。
目標と評価：	全クラスで統一試験を行います。その結果と平常授業とをおよそ7：3の割合で計算し、出席点とともに最終評価とします。
教科書：	Essential Grammar In Use Raymond Murphy Cambridge University Press 1997

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「英語 I (再履修用)」 (担当者: 栗野 恵子) の履修の手引き

科目名:	英語 I (再履修用)
担当者:	栗野 恵子
対象学生:	経営経済学部2年
設置学期:	春
概要:	本講座では、すでに学んできた英語の知識を再度点検・確認しながら語彙を増やすとともに基本的な文章構造・文法を確実に身につけ、英語力の総合的な向上を図ります。
授業方法:	下記の1から4を基本体系に、随時 individual presentation & group presentation を実施する予定です。 * 基本体系 1. その日に学ぶ文法事項を写真やイラストでイメージ付け 2. 設定テーマの文法事項の解説。 3. 問題と解法 4. 音声確認
履修の留意点:	五感をフル活用の授業展開を心がけますのでリラックスと緊張の中、積極的に参加してください。
目標と評価:	quiz ・ 提出物状況 ・ 定期考査 ・ 授業内での積極性 等
教科書:	Bridge to College English Kei Mihara Yukiko Fukumoto NAN' UN-DO 2003年 _____ _____ _____

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「英語 I (再履修用)」 (担当者: 高野 秀之) の履修の手引き

科目名:	英語 I (再履修用)
担当者:	高野 秀之
対象学生:	経営経済学部1年
設置学期:	秋
概要:	外国語を身につけるためには、4つの能力(聴く、話す、読む、書く)を同時に高めていくことが必要となります。そして身についた総合力は、受講生の実力となっていくでしょう。これまで個々に学んできた力をつなぎ合わせていく過程で、受講生は自分の弱点を知らされることとなります。しかし、その弱点を克服することにとられるより、得意な分野を伸ばしていくことの大切さを実感してもらいます。授業開始直後は、これまでとは違ったアプローチに戸惑う受講生もいるでしょう。授業のスタイルにはゆっくり慣れていけばよいので、一所懸命勉強して、一緒に力をつけていきましょう。
授業方法:	耳で聴いたことを声に出す、声に出したことを書いてみる。そして、それが誰にでも通じるものであるかどうかをたずねる。このように、日常的な行為として接する言葉に対して、同じ方法でアプローチしていきます。毎回異なるトピック(或いは、ターゲット)に触れながら、それぞれの場面で最も効果的な表現を身につけていきます。学習した内容は、その時間中に用いることが求められますので、受講生は作業に追われる時間が30分ほどあります。次に、小さなテキストを読み、その内容把握を行います。英語の質問に対応するには十分な予習が必要となるでしょう。授業の最後は、小テストとアンケートを行い、どれだけの力が身についたかを確認します。
履修の留意点:	毎回の授業でPCを利用しますから、忘れずに用意しておきましょう(特に、充電)。また、出席点の不足で学期末に困らないよう、十分に注意してください。
目標と評価:	毎回の授業が評価対象となるので、欠席すると出席点の下がるだけでなく、授業点が減ることになります。十分に注意してください。試験は第13回目の授業中に行い、最終授業では春学期のまとめをします。授業点と試験は、およそ3:7の割合で計算され、出席点とともに最終評価を出します。
教科書:	American Headway 1B Liz and John Soars Oxford University Press 2001

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「英語Ⅱ」（担当者：大澤 薫）の履修の手引き

科目名：	英語Ⅱ
担当者：	大澤 薫
対象学生：	経営経済学部1年
設置学期：	秋
概要：	春学期に学んだ内容をふまえ、会話表現に取り組みます。次に、名詞句の特殊な修飾表現を練習します。後半には仮定法を学び、そこから助動詞の意味を確認します。
授業方法：	春学期の統一試験結果でクラス分けをします。各クラスは、それぞれの弱点別に異なるアプローチで同じ内容を学習します。
履修の留意点：	特になし
目標と評価：	全クラスで統一試験を行います。その結果と平常授業とをおよそ7：3の割合で計算し、出席点とともに最終評価とします。
教科書：	Essential Grammar In Use Raymond Murphy Cambridge University Press 1997

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。



「英語Ⅱ（再履修用）」（担当：嘉悦 康太）の履修の手引き

科目名：	英語Ⅱ（再履修用）
担当者：	嘉悦 康太
対象学生：	経営経済学部2年
設置学期：	秋
概要：	経営経済学部1年次春学期で総括した英文法の知識を基礎に、秋学期の本科目では英語の構文について学習する。英文法の知識が英語を学ぶ上で、最低限必要となる「ルールの習得」だとすれば、本講義がその習得を目指す構文は、英文を組み立てる際の様々な「テクニック」と位置付けることが出来る。前提となるルールに加え、実用的なテクニックを学ぶことにより、自分で英文を意識的に組み立てることができるようになり、学期末までに各自が英語を読み、書き、そして話す総合的な力をもう数レベル上げられる事を目的とする。
授業方法：	例文を使って行う講義が中心。
履修の留意点：	特になし。
目標と評価：	<p>上記の目的を達成するために踏むべきステップは以下の通り：</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 主語と動詞を確認する</li> <li>2) 補語という概念になじむ</li> <li>3) どこまでがブロックかを把握する</li> <li>4) 修飾要素という「化粧品」の扱い方を知る</li> <li>5) カスタマイズの方法を知る（その1）：否定文、疑問文</li> <li>6) カスタマイズの方法を知る（その2）：倒置</li> <li>7) カスタマイズの方法を知る（その3）：比較</li> <li>8) カスタマイズの方法を知る（その4）：挿入</li> <li>9) カスタマイズの方法を知る（その5）：共通関係</li> <li>10) 「別世界」の英語に触れる：時制と仮定法</li> </ol> <p>評価方法は、毎回の小テスト（10回分）10%+中間テスト20%+期末テスト70%の合計を100点満点で換算したものとにする。</p>
教科書：	<p>オリジナルのテキストを毎授業前に各自WEBからダウンロード／プリントアウトして授業時に持参。</p> <hr/> <hr/> <hr/> <hr/>

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「英語Ⅱ」（担当者：嘉悦 康太）の履修の手引き

科目名：	英語Ⅱ
担当者：	嘉悦 康太
対象学生：	経営経済学部1年
設置学期：	秋
概要：	春学期に学んだ内容をふまえ、会話表現に取り組みます。次に、名詞句の特殊な修飾表現を練習します。後半には仮定法を学び、そこから助動詞の意味を確認します。
授業方法：	春学期の統一試験結果でクラス分けをします。各クラスは、それぞれの弱点別に異なるアプローチで同じ内容を学習します。
履修の留意点：	特になし
目標と評価：	全クラスで統一試験を行います。その結果と平常授業とをおおよそ7：3の割合で計算し、出席点とともに最終評価とします。
教科書：	Essential Grammar In Use Raymond Murphy Cambridge University Press 1997

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「英語Ⅱ」（担当者：サイモン クレイ）の履修の手引き

科目名：	英語Ⅱ
担当者：	サイモン クレイ
対象学生：	経営経済学部1年
設置学期：	秋
概要：	春学期に学んだ内容をふまえ、会話表現に取り組みます。次に、名詞句の特殊な修飾表現を練習します。後半には仮定法を学び、そこから助動詞の意味を確認します。
授業方法：	春学期の統一試験結果でクラス分けをします。各クラスは、それぞれの弱点別に異なるアプローチで同じ内容を学習します。
履修の留意点：	特になし
目標と評価：	全クラスで統一試験を行います。その結果と平常授業とをおよそ7：3の割合で計算し、出席点とともに最終評価とします。
教科書：	Essential Grammar In Use Raymond Murphy Cambridge University Press 1997

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「英語Ⅱ」（担当者：高野 秀之）の履修の手引き

科目名：	英語Ⅱ
担当者：	高野 秀之
対象学生：	経営経済学部1年
設置学期：	秋
概要：	春学期に学んだ内容をふまえ、会話表現に取り組みます。次に、名詞句の特殊な修飾表現を練習します。後半には仮定法を学び、そこから助動詞の意味を確認します。
授業方法：	春学期の統一試験結果でクラス分けをします。各クラスは、それぞれの弱点別に異なるアプローチで同じ内容を学習します。
履修の留意点：	特になし
目標と評価：	全クラスで統一試験を行います。その結果と平常授業とをおよそ7：3の割合で計算し、出席点とともに最終評価とします。
教科書：	Essential Grammar In Use Raymond Murphy Cambridge University Press 1997

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「英語Ⅱ」（担当者：松嶋 哲雄）の履修の手引き

科目名：	英語Ⅱ
担当者：	松嶋 哲雄
対象学生：	経営経済学部1年
設置学期：	秋
概要：	春学期に学んだ内容をふまえ、会話表現に取り組みます。次に、名詞句の特殊な修飾表現を練習します。後半には仮定法を学び、そこから助動詞の意味を確認します。
授業方法：	春学期の統一試験結果でクラス分けをします。各クラスは、それぞれの弱点別に異なるアプローチで同じ内容を学習します。
履修の留意点：	特になし
目標と評価：	全クラスで統一試験を行います。その結果と平常授業とをおよそ7：3の割合で計算し、出席点とともに最終評価とします。
教科書：	Essential Grammar In Use Raymond Murphy Cambridge University Press 1997

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「英語Ⅱ」（担当者：安富 成良）の履修の手引き

科目名：	英語Ⅱ
担当者：	安富 成良
対象学生：	経営経済学部1年
設置学期：	秋
概要：	春学期に学んだ内容をふまえ、会話表現に取り組みます。次に、名詞句の特殊な修飾表現を練習します。後半には仮定法を学び、そこから助動詞の意味を確認します。
授業方法：	春学期の統一試験結果でクラス分けをします。各クラスは、それぞれの弱点別に異なるアプローチで同じ内容を学習します。
履修の留意点：	特になし
目標と評価：	全クラスで統一試験を行います。その結果と平常授業とをおよそ7：3の割合で計算し、出席点とともに最終評価とします。
教科書：	Essential Grammar In Use Raymond Murphy Cambridge University Press 1997

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「英語Ⅱ（再履修用）」（担当者：栗野 恵子）の履修の手引き

科目名：	英語Ⅱ（再履修用）
担当者：	栗野 恵子
対象学生：	経営経済学部2年
設置学期：	秋
概要：	本講座では、「英語Ⅰ」に引き続き、基礎学力の定着を図り、更に幅広い語彙の修得とその活用を学ぶことにより運用能力の向上を目指します。
授業方法：	<p>基本的には、英語？と同じですが随時ドラマ的メソッドを取り入れ、さまざまな状況設定のもと楽しく学んでいきます。</p> <p>（ドラマメソッド）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>*Use of the whole body , mind, heart</li> <li>*Use of common English</li> <li>*discovery of the meaning from oneself</li> <li>*ability to speak about oneself</li> </ul>
履修の留意点：	<p>pair work や skit ・ gameなどでグループ内の協力性がとても大切になってきます。</p> <p>出席は、必要条件です。</p>
目標と評価：	quiz ・ 定期考査 ・ 提出物状況 ・ 授業内における積極性 等
教科書：	<p>Bridge to College English Kei Mihara Yukiko Fukumoto NAN' UNDO 2003年</p> <p> </p> <p> </p> <p> </p> <p> </p>

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「英語Ⅱ（再履修用）」（担当者：高野 秀之）の履修の手引き

科目名：	英語Ⅱ（再履修用）
担当者：	高野 秀之
対象学生：	経営経済学部2年
設置学期：	春
概要：	<p>外国語を身につけるためには、4つの能力（聴く、話す、読む、書く）を同時に高めていくことが必要となります。そうして身についた総合力は、受講生の実力となっていくでしょう。これまで個々に学んできた力をつなぎ合わせていく過程で、受講生は自分の弱点を知らされることとなります。しかし、その弱点を克服することととられるより、得意な分野を伸ばしていくことの大切さを実感してもらいます。授業開始直後は、これまでとは違ったアプローチに戸惑う受講生もいるでしょう。授業のスタイルにはゆっくり慣れていけばよいので、一所懸命勉強して、一緒に力をつけていきましょう。耳で聞いたことを声に出す、声に出したことを書いてみる。そして、それが誰にでも通じるものであるかどうかをたずねる。このように、日常的な行為として接する言葉に対して、同じ方法でアプローチしていきます。</p>
授業方法：	<p>毎回異なるトピック（或いは、ターゲット）に触れながら、それぞれの場面で最も効果的な表現を身につけていきます。学習した内容は、その時間中に用いることが求められますので、受講生は作業に追われる時間が30分ほどあります。次に、小さなテキストを読み、その内容把握を行います。英語の質問に対応するには十分な予習が必要となるでしょう。授業の最後は、小テストとアンケートを行い、どれだけの力が身についたかを確かめます。</p>
履修の留意点：	<p>毎回の授業でPCを利用しますから、忘れずに用意しておきましょう（特に、充電）。また、出席点の不足で学期末に困らないよう、十分に注意してください。</p>
目標と評価：	<p>毎回の授業が評価対象となるので、欠席すると出席点の下がるだけでなく、授業点が減ることになります。十分に注意してください。試験は第13回目の授業中に行い、最終授業では春学期のまとめをします。授業点と試験は、およそ3：7の割合で計算され、出席点とともに最終評価を出します。</p>
教科書：	<p>American Headway 1A Liz and John Soars Oxford University Press 2001</p>

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。



「英文講読Ⅰ（再履修用）」（担当者：大澤 薫）の履修の手引き

科目名：	英文講読Ⅰ（再履修用）
担当者：	大澤 薫
対象学生：	経営経済学部2年・短期大学部2年
設置学期：	秋
概要：	現在執筆中です。もうしばらくお待ち下さい。

「英文講読Ⅰ」（担当者：大澤 薫）の履修の手引き

科目名：	英文講読Ⅰ
担当者：	大澤 薫
対象学生：	経営経済学部2年
設置学期：	春
概要：	1年生で学んだ内容をふまえ、それぞれの担当者が選んだテキストをできるだけ多く読み進めていきます。その過程で、受講生は構文、慣用句や熟語表現、単語の数を増やし、内容把握に取り組みます。
授業方法：	第1回目の授業でクラス分けテストを行います。具体的な授業の方法は第2回目の授業で担当者から発表されますが、講義形式の授業ですから、予習が非常に大切です。
履修の留意点：	担当者別に履修クラスの指定を受けた後で履修登録の修正が必要となります。第2回目の授業に、十分充電されたPCを忘れないように注意してください。
目標と評価：	全クラスで統一試験を行います。その結果と平常授業とをおよそ3：7の割合で計算し、出席点とともに最終評価とします。
教科書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「英文講読Ⅰ（再履修用）」（担当者：嘉悦 康太）の履修の手引き

科目名：	英文講読Ⅰ（再履修用）
担当者：	嘉悦 康太
対象学生：	経営経済学部2年
設置学期：	春
概要：	<p>すでに学んできた英語の知識を再度点検・確認しながら語彙を増やすとともに基本的な文章構造・文法を確実に身につけ、英文読解能力の向上を図る。具体的には春学期14週を掛けてネイティブ作成の「良質の英文」をテキストに文法・語彙の両面の基礎的知識を総括する。</p> <p>また上記の過程・結果が、TOEICのスコアアップを通じて客観的かつ国際的標準で判断できるようにするために、本認定試験の対策も念頭に起き、過去問等の演習を通じ、随時そのための実戦力も鍛える。</p>
授業方法：	基本的には教室での講義授業であるが、上に述べたTOEIC対策の他にも、毎回の授業開始時の単語・熟語小テストを行う演習授業も含まれる。
履修の留意点：	特になし。
目標と評価：	<p>本授業は以下の3つの柱を組み合わせる：</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 「5文型」「動詞・時制」「助動詞」「準動詞」、<small>、、、</small>「仮定法」等の高校英語で重要な10の文法項目を復習する。</li> <li>2. 受験英語で必要とされた単語・熟語等の語彙力（約1500語レベル）を毎週の授業開始時に行う10分程度の小テストで補強・確認する。</li> <li>3. 上の1~2の学習成果を、TOEICの過去問題を授業内でといてみることを通じて実践的に試す。</li> </ol> <p>評価方法は毎回の小テストの合計10%。（第7週目に予定している）中間テストの結果10%。期末試験の結果80%。</p>
教科書：	<p>特になし。適宜こちらで指示するか、もしくはコピーのハンドアウトを用意する。</p> <p>_____</p> <p>_____</p> <p>_____</p>

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「英文講読 I」（担当者：嘉悦 康太）の履修の手引き

科目名：	英文講読 I
担当者：	嘉悦 康太
対象学生：	経営経済学部2年
設置学期：	春
概要：	1年生で学んだ内容をふまえ、それぞれの担当者が選んだテキストをできるだけ多く読み進めていきます。その過程で、受講生は構文、慣用句や熟語表現、単語の数を増やし、内容把握に取り組みます。
授業方法：	第1回目の授業でクラス分けテストを行います。具体的な授業の方法は第2回目の授業で担当者から発表されますが、講義形式の授業ですから、予習が非常に大切です。
履修の留意点：	担当者別に履修クラスの指定を受けた後で履修登録の修正が必要となります。第2回目の授業に、十分充電されたPCを忘れないように注意してください。
目標と評価：	全クラスで統一試験を行います。その結果と平常授業とをおよそ3：7の割合で計算し、出席点とともに最終評価とします。
教科書：	授業中にプリントを配布します

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「英文講読 I」（担当者：サイモン クレイ）の履修の手引き

科目名：	英文講読 I
担当者：	サイモン クレイ
対象学生：	経営経済学部2年
設置学期：	春
概要：	1年生で学んだ内容をふまえ、それぞれの担当者が選んだテキストをできるだけ多く読み進めていきます。その過程で、受講生は構文、慣用句や熟語表現、単語の数を増やし、内容把握に取り組みます。
授業方法：	第1回目の授業でクラス分けテストを行います。具体的な授業の方法は2回目の授業で担当者から発表されますが、講義形式の授業ですから、予習が非常に大切です。
履修の留意点：	担当者別に履修クラスの指定を受けた後で履修登録の修正が必要となります。第2回目の授業に、十分充電されたPCを忘れないように注意してください。
目標と評価：	全クラスで統一試験を行います。その結果と平常授業とをおよそ3：7の割合で計算し、出席点とともに最終評価とします。
教科書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「英文講読Ⅰ」（担当者：高野 秀之）の履修の手引き

科目名：	英文講読Ⅰ
担当者：	高野 秀之
対象学生：	経営経済学部2年
設置学期：	春
概要：	1年生で学んだ内容をふまえ、それぞれの担当者が選んだテキストをできるだけ多く読み進めていきます。その過程で、受講生は構文、慣用句や熟語表現、単語の数を増やし、内容把握に取り組みます。
授業方法：	第1回目の授業でクラス分けテストを行います。具体的な授業の方法は第2回目の授業で担当者から発表されますが、講義形式の授業ですから、予習が非常に大切です。
履修の留意点：	担当者別に履修クラスの指定を受けた後で履修登録の修正が必要となります。第2回目の授業に、十分充電されたPCを忘れないように注意してください。
目標と評価：	全クラスで統一試験を行います。その結果と平常授業とをおよそ3：7の割合で計算し、出席点とともに最終評価とします。
教科書：	未定

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「英文講読Ⅰ」（担当者：松嶋 哲雄）の履修の手引き

科目名：	英文講読Ⅰ
担当者：	松嶋 哲雄
対象学生：	経営経済学部2年
設置学期：	春
概要：	1年生で学んだ内容をふまえ、それぞれの担当者が選んだテキストをできるだけ多く読み進めていきます。その過程で、受講生は構文、慣用句や熟語表現、単語の数を増やし、内容把握に取り組みます。
授業方法：	第1回目の授業でクラス分けテストを行います。具体的な授業の方法は第2回目の授業で担当者から発表されますが、講義形式の授業ですから、予習が非常に大切です。
履修の留意点：	担当者別に履修クラスの指定を受けた後で履修登録の修正が必要となります。第2回目の授業に、十分充電されたPCを忘れないように注意してください。
目標と評価：	全クラスで統一試験を行います。その結果と平常授業とをおよそ3：7の割合で計算し、出席点とともに最終評価とします。
教科書：	一般クラス：Step Up English 佐藤 哲三ほか 南雲堂 2001
	留学生クラス：College English Grammar Fundamentals 石黒 照博 編 桐原書店 2001

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「英文講読Ⅰ」（担当者：安富 成良）の履修の手引き

科目名：	英文講読Ⅰ
担当者：	安富 成良
対象学生：	経営経済学部2年
設置学期：	春
概要：	1年生で学んだ内容をふまえ、それぞれの担当者が選んだテキストをできるだけ多く読み進めていきます。その過程で、受講生は構文、慣用句や熟語表現、単語の数を増やし、内容把握に取り組みます。
授業方法：	第1回目の授業でクラス分けテストを行います。具体的な授業の方法は第2回目の授業で担当者から発表されますが、講義形式の授業ですから、予習が非常に大切です。
履修の留意点：	担当者別に履修クラスの指定を受けた後で履修登録の修正が必要となります。第2回目の授業に、十分充電されたPCを忘れないように注意してください。
目標と評価：	全クラスで統一試験を行います。その結果と平常授業とをおよそ3：7の割合で計算し、出席点とともに最終評価とします。
教科書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。



「英文講読Ⅰ（再履修用）」（担当者：小野 勝）の履修の手引き

科目名：	英文講読Ⅰ（再履修用）
担当者：	小野 勝
対象学生：	経営経済学部2年・短期大学部2年
設置学期：	秋
概要：	時事英語の読解、さらに専門書講読、各種検定試験に耐えるような基本的読解力の養成と語彙力増強のための演習を行う。しかし英文読解力をつけるために、いきなり難しい文章から取り組むことは得策ではない。むしろ易しい文章を多読し、日本語とは異なる英語表現のニュアンスに慣れることが重要である。
授業方法：	各チャプターで取り上げている英文は、基本的な2000語レベルの英語で書かれているので、すべてを日本語に訳すのではなく、できるだけ英語を英語のまま理解するという態度を身に付けていきたい。授業では、まず重要語句の確認から始め、テープによるリスニングや発音練習、イントネーションに注意した音読の練習を交えながら、テキストの設問に従って段階的に要旨の把握を行っていく。また、語彙力を増すために適宜単語テストを行う。
履修の留意点：	文章にあらかじめ目を通し、知らない単語を辞書で調べておく程度の予習は必要である。また日頃から英語に接する機会を持ち、毎日少しずつでもボキャブラリーを増やすように心掛けてもらいたい。外国語学習の成果は、日々の積み重ねの和として現れてくるものである。
目標と評価：	英語独特の表現に多く触れ、その面白みを味わうことによって、英語に対する抵抗感を出来るだけなくしてもらいたい。そうならば、文章のレベルが上がっても、辞書さえ引けばおおよその内容を把握できるようになるであろう。評価については、授業への参加姿勢を50%、数回行う予定のスモール・テスト、および単語テストの合計点を50%の割合で算出する。ただし、欠席回数が3分の1以上の場合、実質的に単位の取得は困難である。
教科書：	Reading MINI WORLD Book2 Adrian Clarke, 佐々木由美 松柏社 2003年

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「英文講読Ⅰ（再履修用）」（担当者：小野 勝）の履修の手引き

科目名：	英文講読Ⅰ（再履修用）
担当者：	小野 勝
対象学生：	経営経済学部2年
設置学期：	春
概要：	時事英語の読解、さらに専門書講読、各種検定試験に耐えるような基本的読解力の養成と語彙力増強のための演習を行う。しかし英文読解力をつけるために、いきなり難しい文章から取り組むことは得策ではない。むしろ易しい文章を多読し、日本語とは異なる英語表現のニュアンスに慣れることが重要である。
授業方法：	各チャプターで取り上げている英文は、基本的な2000語レベルの英語で書かれているので、すべてを日本語に訳すのではなく、できるだけ英語を英語のまま理解するという態度を身に付けていきたい。授業では、まず重要語句の確認から始め、テープによるリスニングや発音練習、イントネーションに注意した音読の練習を交えながら、テキストの設問に従って段階的に要旨の把握を行っていく。また、語彙力を増すために適宜単語テストを行う。
履修の留意点：	文章にあらかじめ目を通し、知らない単語を辞書で調べておく程度の予習は必要である。また日頃から英語に接する機会を持ち、毎日少しずつでもボキャブラリーを増やすように心掛けてもらいたい。外国語学習の成果は、日々の積み重ねの和として現れてくるものである。
目標と評価：	英語独特の表現に多く触れ、その面白みを味わうことによって、英語に対する抵抗感を出来るだけなくしてもらいたい。そうならば、文章のレベルが上がっても、辞書さえ引けばおおよその内容を把握できるようになるであろう。評価については、授業への参加姿勢を50%、数回行う予定のスモール・テスト、および単語テストの合計点を50%の割合で算出する。ただし、欠席回数が3分の1以上の場合、実質的に単位の取得は困難である。
教科書：	Reading MINI WORLD Book2 Adrian Clarke, 佐々木由美 松柏社 2003年

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「英文講読 I」（担当者：松嶋 哲雄）の履修の手引き

科目名：	英文講読 I
担当者：	松嶋 哲雄
対象学生：	経営経済学部2年
設置学期：	春
概要：	1年生で学んだ内容をふまえ、それぞれの担当者が選んだテキストをできるだけ多く読み進めていきます。その過程で、受講生は構文、慣用句や熟語表現、単語の数を増やし、内容把握に取り組みます。
授業方法：	第1回目の授業でクラス分けテストを行います。具体的な授業の方法は第2回目の授業で担当者から発表されますが、講義形式の授業ですから、予習が非常に大切です。
履修の留意点：	担当者別に履修クラスの指定を受けた後で履修登録の修正が必要となります。第2回目の授業に、十分充電されたPCを忘れないように注意してください。
目標と評価：	全クラスで統一試験を行います。その結果と平常授業とをおよそ3：7の割合で計算し、出席点とともに最終評価とします。
教科書：	一般クラス：Step Up English 佐藤 哲三ほか 南雲堂 2001
	留学生クラス：College English Grammar Fundamentals 石黒 照博 編 桐原書店 2001

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「英会話 I (再履修用)」 (担当者: ポール エトガ) の履修の手引き

科目名:	英会話 I (再履修用)
担当者:	ポール エトガ
対象学生:	経営経済学部2年
設置学期:	春
概要:	The emphasis of this course is on self-expression. Students will be required to take part in reading, translating, answering questions, and in role-plays. A short report will be submitted once a week. Each student must possess an English/Japanese dictionary.
授業方法:	Sentence patterns will be taught and exercises will be taken from daily life activities, such as at a hotel, restaurant, etc... 1)The emphasis will be on pronunciation through reading. 2)The understanding of the course will be checked through exercises and translations. 3)Videos & cassettes audio will be used so that the students can become familiar with both American and British English.
履修の留意点:	なし
目標と評価:	The objective of this course is to allow the student to become familiar with the language, be able to read properly, and express themselves with self-confidence. Evaluation: Attendance to class and participation 10%, short reports submitted 40%, tests 50%
教科書:	New Interchange Jack C. Richards & Jonathan Hull & Susan Proctor CAMBRIDGE UNIVERSITY PRESS Genius (English/Japanese Dictionary) ジーニアス英和辞典 大修館書店

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「英会話 I (再履修用)」 (担当者: ポール エトガ) の履修の手引き

科目名:	英会話 I (再履修用)
担当者:	ポール エトガ
対象学生:	経営経済学部1年
設置学期:	秋
概要:	The emphasis of this course is on self-expression. Students will be required to take part in reading, translating, answering questions, and in role-plays. A short report will be submitted once a week. Each student must possess an English/Japanese dictionary
授業方法:	Sentence patterns will be taught and exercises will be taken from daily life activities, such as at a hotel, restaurant, etc... 1)The emphasis will be on pronunciation through reading. 2)The understanding of the course will be checked through exercises and translations. 3)Videos & cassettes audio will be used so that the students can become familiar with both American and British English.
履修の留意点:	なし
目標と評価:	The objective of this course is to allow the student to become familiar with the language, be able to read properly and express themselves with self-confidence. Evaluation: Attendance to class and participation 10%, short reports submitted 40%, tests 50%
教科書:	New Interchange Jack C. Richards & Jonathan Hull & Susan Proctor CAMBRIDGE UNIVERSITY PRESS
	Genius (English/Japanese Dictionary) ジーニアス英和辞典 大修館書店

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「英会話Ⅱ（再履修用）」（担当者：ポール エトガ）の履修の手引き

科目名：	英会話Ⅱ（再履修用）
担当者：	ポール エトガ
対象学生：	経営経済学部2年
設置学期：	春
概要：	The emphasis of this course is on self-expression. Students will be required to take part in reading, translating, answering questions, and in role-plays. A short report will be submitted once a week. Each student must possess an English/Japanese dictionary
授業方法：	Sentence patterns will be taught and exercises will be taken from daily life activities, such as at a hotel, restaurant, etc... 1)The emphasis will be on pronunciation through reading. 2)The understanding of the course will be checked through exercises and translations. 3)Videos & cassettes audio will be used so that the students can become familiar with both American and British English.
履修の留意点：	なし
目標と評価：	The objective of this course is to allow the student to become familiar with the language, be able to read properly and express themselves with self-confidence. Evaluation: Attendance to class and participation 10%, short reports submitted 40%, tests 50%
教科書：	New Interchange Jack C. Richard & Jonathan Hull & Susan Proctor CAMBRIDGE UNIVERSITY PRESS Genius (English/Japanese Dictionary) ジーニアス英和辞典 大修館書店

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「英会話Ⅱ（再履修用）」（担当者：ポール エトガ）の履修の手引き

科目名：	英会話Ⅱ（再履修用）
担当者：	ポール エトガ
対象学生：	経営経済学部2年
設置学期：	秋
概要：	The emphasis of this course is on self-expression. Students will be required to take part in reading, translating, answering questions, and in role-plays. A short report will be submitted once a week. Each student must possess an English/Japanese dictionary.
授業方法：	Sentence patterns will be taught and exercises will be taken from daily life activities, such as at a hotel, restaurant, etc... 1)The emphasis will be on pronunciation through reading. 2)The understanding of the course will be checked through exercises and translations. 3)Videos & cassettes audio will be used so that the students can become familiar with both American and British English.
履修の留意点：	なし
目標と評価：	The objective of this course is to allow the student to become familiar with the language, be able to read properly and express themselves with self-confidence. Evaluation: Attendance to class and participation 10%, short reports submitted 40%, tests 50%
教科書：	New Interchange JACK C. Richards & Janathan Hull & Susan Proctor CAMBRIDGE UNIVERSITY PRESS Genius (English/Japanese Dictionary) ジーニアス英和辞典 大修館書店

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「TOEIC英語Ⅲ (Listening)」 (担当者: 安富 成良) の履修の手引き

科目名:	TOEIC英語Ⅲ (Listening)
担当者:	安富 成良
対象学生:	短期大学部1年
設置学期:	春
概要:	TOEICは「英語圏で必要とされるコミュニケーション能力」を問う英語能力テストで4パートから成るListeningと3パートから成るReadingの二つのセクションに分かれています。この授業ではListening能力強化の為に市販のTOEICテストのリスニング用の本をテキストとして学習します。またTOEICのテストの吹き込み者はアメリカ人であるために、「アメリカ英語」に慣れることが得点アップにつながる。そこでプリント教材を用いてアメリカ英語の発音を訓練し、リスニング能力とアメリカ英語らしい発音を身につける。
授業方法:	1) テキストの「ウォーミングアップ編」と「ボキャビル問題」を毎時間1ユニット学習する。 2) 実際の問題に対応するためにテキストの「実践編」を1ユニット学習する。 3) プリント教材を用いて、「アメリカ英語」の法則を学習する。
履修の留意点:	1. テキストとプリントは毎時間必携 2. 座席は最初の授業で受講生が決めた席に学期を通して固定化する。 3. Reading Testを学期の後半に行う。(読む箇所については追って連絡する)
目標と評価:	最終目標として学年末に実施するTOEIC (IP) のテストでのListeningセクションにおいて200点をを目指す。 評価は学期末の定期試験の結果を中心に、毎時間の授業の取り組み、Reading Testを加味する。
教科書:	新装版TOEIC テスト・リスニング基礎強化編 George Pifer アルク 2000年

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。



「TOEIC英語Ⅳ (Listening)」 (担当者：安富 成良) の履修の手引き

科目名：	TOEIC英語Ⅳ (Listening)
担当者：	安富 成良
対象学生：	短期大学部1年
設置学期：	秋
概要：	TOEICは「英語圏で必要とされるコミュニケーション能力」を問う英語能力テストで4パートから成るListeningと3パートから成るReadingの二つのセクションに分かれています。この授業では春学期に引き続きListening能力強化の為に市販のTOEICテストのリスニング用の本をテキストとして学習します。またTOEICのテストの吹き込み者はアメリカ人であるために、「アメリカ英語」に慣れることが得点力アップにつながる。そこでプリント教材を用いてアメリカ英語の発音を訓練し、リスニング能力とアメリカ英語らしい発音を身につける。
授業方法：	1)テキストの「ウォーミングアップ編」と「ボキャビル問題」を毎時間1ユニット学習する。 2)実際の問題に対応するためにテキストの「実践編」を1ユニット学習する。 3)プリント教材を用いて、「アメリカ英語」の法則を学習する。
履修の留意点：	1. テキストとプリントは毎時間必携 2. 座席は春最初の授業で受講生が決めた席に、秋学期においても学期を通して固定化する。 3. Reading Testを学期の後半に行う。(読む箇所については追って連絡する)
目標と評価：	最終目標として学年末に実施するTOEIC (IP) のテストでのListeningセクションにおいて200点を旨とする。 評価は学期末の定期試験の結果を中心に、毎時間の授業の取り組み、Reading Testを加味する。
教科書：	新装版TOEIC テスト・リスニング基礎強化編 George Pifer アルク 2000年

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「TOEIC英語Ⅴ（実践トレーニング）」（担当者：松嶋 哲雄）の履修の手引き

科目名：	TOEIC英語Ⅴ（実践トレーニング）
担当者：	松嶋 哲雄
対象学生：	短期大学部1年
設置学期：	春
概要：	日本の多くの企業がこのテストを非常に重要視しております。またTOEICは英検と違い合格・不合格の判定はありません。得点結果で英語能力が専門別、職業別にどのレベルに位置するのかわかるために活用されるテストです。TOEICのリーディングとリスニングの両部門に関し、実際の試験問題レベルの教材を使い、実践的トレーニングでスコア・アップを目指します。問題形式はリスニングのPart 1が写真描写問題で4選択肢で20問、Part 2は応答問題で短い英文を聞き質問も選択肢もテープから流れてくるだけで3選択肢が30問、Part 3は会話問題でダイアログ形式の4選択肢が30問、Part 4は説明文問題で比較的長い文を聞いて答える形式の20問。リーディングはPart 5が文法・語彙問題の40問、Part 6は誤文訂正形式の20問、Part 7が読解問題で40問となっています。
授業方法：	ほぼ毎回オーディオテープでリスニングの練習。ビデオテープは適宜使用。毎回復習テスト（文法・語彙）を実施。リーディング・リスニング・文法と語彙の各能力強化のために自宅での復習と下調べが必要。
履修の留意点：	この授業では得点力アップを目指し、指定されたテキストを基にリスニング、リーディング、文法と語彙の3部門の学力と得点スキルのアップを行います。そのために、自宅での復習や暗記作業及び予習として下調べが求められます。各授業の始めに前回のテキスト内容や表現の復習、授業の最後には文法・語彙の復習小テストを実施します。学期の終りの2回くらいでTOEICのミニ模擬テストをテスト得点技術強化と力だめしのために行います。この授業のない日は自宅で自己リスニング練習への取組をすすめます。なお、指定したテキストはリスニングとリーディング用ですので、文法・語彙のテキストは授業中にこちらで準備したプリントを使用します。なるべく欠席しないこと。
目標と評価：	最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。普段点の評価方式。 目標はTOEICのトータルスコア400点以上
教科書：	ECC Intermediate Reading and Listening for the TOE ECC外語学院 南雲堂 2003

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「TOEIC英語VI（実践トレーニング）」（担当者：松嶋 哲雄）の履修の手引き

科目名：	TOEIC英語VI（実践トレーニング）
担当者：	松嶋 哲雄
対象学生：	短期大学部1年
設置学期：	秋
概要：	日本の多くの企業がこのテストを非常に重要視しております。またTOEICは英検と違い合格・不合格の判定はありません。得点結果で英語能力が専門別、職業別にどのレベルに位置するのかわかるために活用されるテストです。TOEICは大きくリスニングとリーディングの両部門から成り、実際の試験問題レベルの教材を使い、実践的トレーニングでスコア・アップを目指します。リスニングは4つのパートに、リーディングは3つのパートに分かれています。リスニングのPart 1が写真描写問題で4選択肢で20問、Part 2は応答問題で短い英文を聞き質問も選択肢もテープから流れてくるだけで3選択肢が30問、Part 3は会話問題でダイアログ形式の4選択肢が30問、Part 4は説明文問題で比較的長い文を聞いて答える形式の20問。リーディングはPart 5が文法・語彙問題の40問、Part 6は誤文訂正形式の20問、Part 7が読解問題で40問となっています。
授業方法：	ほぼ毎回オーディオテープでリスニングの練習。ビデオテープは適宜使用。毎回復習テスト（文法・語彙）を実施。リーディング・リスニング・文法と語彙の各能力強化のために自宅での復習と下調べが必要。
履修の留意点：	受講者全員TOEICテストを秋学期終了後受験しなければなりません。この授業では得点力アップを目指し、指定されたテキストを基にリスニング、リーディング、文法と語彙の3部門の学力と得点スキルのアップを行います。そのために、自宅での復習や暗記作業及び予習として下調べが求められます。各授業の始めに前回のテキスト内容や表現の復習、授業の最後には文法・語彙の復習小テストを実施します。学期の終りの2回くらいでTOEICのミニ模擬テストをテスト得点技術強化と力ためしのために行います。この授業のない日は自宅で自己リスニング練習への取組をすすめます。なお、指定したテキストはリスニングとリーディング用ですので、文法・語彙のテキストは授業中にこちらで準備したプリントを使用します。なるべく欠席しないこと。
目標と評価：	最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。普段点評価方式。 目標はTOEICのトータル・スコア470点以上。
教科書：	Intermediate Reading and Listening for the TOEIC T ECC外語学院 南雲堂 2003

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「基礎英会話 I」（担当者：サイモン クレイ）の履修の手引き

科目名：	基礎英会話 I
担当者：	サイモン クレイ
対象学生：	短期大学部1年
設置学期：	春
概要：	Conversation not grammar. We use class practice in speaking and listening to build on skills that you already have. 日本語でも説明を付け加えます。
授業方法：	Students must bring their text book. There will be group work and pair work but you must be prepared to participate.
履修の留意点：	You must be enthusiastic and willing to participate fully.
目標と評価：	Assessment will be made on the basis of participation in class as well as the results of a final exam. 試験は面接のかたちで行います。
教科書：	New Interchange I, Jack C. Richards, Cambridge University Press, 2001

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「基礎英会話Ⅱ」（担当者：サイモン クレイ）の履修の手引き

科目名：	基礎英会話Ⅱ
担当者：	サイモン クレイ
対象学生：	短期大学部1年
設置学期：	秋
概要：	Conversation not grammar. We use class practice in speaking and listening to build on skills that you already have. 日本語でも説明を付け加えます。
授業方法：	Students must bring their text book. There will be group work and pair work but you must be prepared to participate.
履修の留意点：	You must be enthusiastic and willing to participate fully.
目標と評価：	Assessment will be made on the basis of participation in class as well as the results of a final exam. 試験は面接のかたちで行います。
教科書：	New Interchange I, Jack C. Richards, Cambridge University Press, 2001

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「英文講読Ⅱ」（担当者：嘉悦 康太）の履修の手引き

科目名：	英文講読Ⅱ
担当者：	嘉悦 康太
対象学生：	経営経済学部2年
設置学期：	秋
概要：	経営経済学部1年次に履修した英語I, IIと英文講読Iで習得した諸知識を武器に、実際に英語で書かれたテキストを読み進む2年次設置科目である「英文講読」のII。テキストとして、英語運用能力の検定試験として世界的に用いられるTOEICのReadingパートで実際に使われるものを使用し、学年末に予定されている同模擬テスト（IPテスト）の受験に備える。TOEICの実際の出題形式にそった様々な種類の英文をテキストにすることにより、規定時間内で解答に至るための解法テクニックを習得するとともに、解答に至る道筋を考えることを通じて、英文の読解力を総合的に強化することを目的としている。
授業方法：	（TOEICの過去問題を中心とした）演習問題を実際に授業内外で解いた上で、それらに対する解答法の講義を行う。
履修の留意点：	特になし。
目標と評価：	以下のステップを踏んで、英語の読解力を伸ばし、その進展を最終的にTOEICの当該Partでのスコア・アップを通じて実感できるようにします。 1) TOEICとはどのようなテストか？の理解 2) Reading Partで求められる読解力のテストパターンを網羅 3) 各パターン毎の演習・解答 4) 他のPartの概観 5) 模擬IPテストの実施以上。  評価はいずれも授業期間内に予定されている中間テスト（40%）と期末テスト（60%）を元になされる。
教科書：	逐次こちらでコピーを用意する予定 _____ _____ _____ _____

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「英文講読Ⅱ」（担当者：高野 秀之）の履修の手引き

科目名：	英文講読Ⅱ
担当者：	高野 秀之
対象学生：	経営経済学部2年
設置学期：	秋
概要：	これまで学んできたすべての力を定着させるための講座ですから、4つの技能（聴く、話す、読む、書く）を総合的に見直します。個々の受講生がもつ弱点は、得意な部分を伸ばすことによって克服していきます。耳で聞いたことを声に出す、声に出したことを書いてみる。そして、それが誰にでも通じるものであるかどうかをたずねる。このように、日常的な行為として接する言葉に対して、同じ方法でアプローチしていきます。
授業方法：	毎回異なるトピック（或いは、ターゲット）に触れながら、それぞれの場面で最も効果的な表現を身につけていきます。学習した内容は、その時間中に用いることが求められますので、受講生は作業に追われる時間が30分ほどあります。次に、小さなテキストを読み、その内容把握を行います。英語の質問に対応するには十分な予習が必要となるでしょう。授業の最後は、小テストとアンケートを行い、どれだけ力が身についたかを確かめます。
履修の留意点：	毎回の授業でPCを利用しますから、忘れずに用意しておきましょう（特に、充電）。また、出席点の不足で学期末に困らないよう、十分に注意してください。
目標と評価：	毎回の授業が評価対象となるので、欠席すると出席点が下がるだけでなく、授業点が減ることになります。十分に注意してください。試験は第13回目の授業中に行い、最終授業では春学期のまとめをします。授業点と試験は、およそ7：3の割合で計算され、出席点とともに最終評価を出します。
教科書：	未定

※最終評価は、評価点7割，出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「中国語会話入門Ⅰ」（担当者：王 建新）の履修の手引き

科目名：	中国語会話入門Ⅰ
担当者：	王 建新
対象学生：	経営経済学部2年
設置学期：	春
概要：	<p>この授業は、「聞く」「話す」「読む」「書く」の4技能のうち特に「聞く」「話す」技能を高めるために設定された科目であり、簡単な日常会話を中心に、聞く・話す訓練を行い、さらに数多くの練習問題を解くことによって一年次に学習した中国語の基礎を固めながら、中国語の実用的運用能力をつけることを目標とする。</p> <p>この春学期（半年間）予定されるテーマは次の通りである。1、挨拶 2、姓名を尋ねる 3、身の廻りに関する表現 4、専攻は 5、相手の都合を尋ねる 6、家族構成について 7、買い物 8、道を尋ねる 9、出迎え 10、友人について 11、工芸品について 12、家族に関する話題 13、万里の長城</p>
授業方法：	<p>講義と演習形式で行う。</p> <p>本文の意味等を説明した上で、場面を設定して口頭による応用練習を行い、反復練習を通して上記の目標の達成を目指す。またテープによるヒアリングも行う予定である。</p>
履修の留意点：	中国語Ⅱを修了した程度の人を対象とする。
目標と評価：	<p>中国語の実用的運用能力をつけることを目標とする。</p> <p>普段の小テストや授業への参加度等を加味して総合的に評価する。</p>
教科書：	『実用中国語（応用編Ⅰ）』、馮雪梅・朱徳君・劉海芳、白帝社、2001

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。



「中国語会話入門Ⅱ」（担当者：王 建新）の履修の手引き

科目名：	中国語会話入門Ⅱ
担当者：	王 建新
対象学生：	経営経済学部2年
設置学期：	秋
概要：	<p>中国語会話入門Ⅰに引き続き、中国語の4技能のうち特に「聞く」「話す」技能の習得を目指す。日常の様々な場面での実用的な会話を中心に、耳と口の訓練を行い、それによって今まで学んだ中国語の知識の定着を図りながら、各種場面での応用会話力をつけてゆく。最終的な目標としては、様々な日常場面での基本的な表現をマスターし、実践的な伝達能力の向上を目指す。</p> <p>この秋学期（半年間）予定されるテーマは次の通りである。1、バスに乗って 2、約束 3、相手の予定を尋ねる 4、友人宅を訪問する 5、週末の予定について 6、キャンパス生活 7、天候について 8、海外旅行 9、デパートで 10、夏休みに 11、勉強について 12、友達を誘う 13、郵便局で</p>
授業方法：	<p>講義と演習形式で行う。</p> <p>本文の意味等を説明した上で、場面を設定して口頭による応用練習を行い、反復練習を通して上記の目標の達成を目指す。またテープによるヒアリングも行う予定である。</p>
履修の留意点：	中国語会話入門Ⅰを修了した程度の人を対象とする。
目標と評価：	<p>最終的な目標としては、様々な日常場面での基本的な表現をマスターし、実践的な伝達能力の向上を目指す。</p> <p>普段の小テストや授業への参加度等を加味して総合的に評価する。</p>
教科書：	『実用中国語（応用編Ⅰ）』、馮雪梅・朱徳君・劉海芳、白帝社、2001

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「中国語Ⅰ」（担当者：馮 雪梅）の履修の手引き

科目名：	中国語Ⅰ
担当者：	馮 雪梅
対象学生：	経営経済学部1年
設置学期：	春
概要：	<p>この授業では現代中国語を習得するための初歩を学習する。入門期に正しい発音を身につけるために先ず音声面の学習に重点を置き、次に中国語のリズムと日中両国語の発想の違いに注意しながら、基本的な文型・文法を日常の初級程度の口語表現を学ぶ中で学習する。</p> <p>授業の前半では、主として発音、形容詞述語文、動詞述語文、名詞述語文、語気助詞“ ”を用いる疑問文、疑問詞疑問文、反復疑問文、選択疑問文、構造助詞“的”、助数詞、連用修飾、数量補語、結果補語を、後半では、動態助詞“了”、語気助詞“了”、動態助詞“ ”、連体修飾、語気助詞“吧”、連動文、方向補語、不定代詞“什么”、否定を表す副詞、比較表現、主な程度を表す副詞、程度補語、主述語文などについて学習する。</p> <p>具体的な授業の進め方としては、先ず文法、本文等について必要な説明を教師が行い、その後数多くの練習問題を学生が解答する。それによって知識の定着をはかると共に応用力をつけ、上記の目標の達成を目指す。</p>
授業方法：	講義と演習形式で行う。黒板に出てもらって板書する機会が多い。
履修の留意点：	初学者を対象とする。
目標と評価：	<p>最終的な目標を、基本的に中国語の発音をマスターし、文法の基礎的事項を身につけ、表現や理解の基礎を作ることに置く。</p> <p>普段の小テストや受講態度等を加味して総合的に評価する。</p>
教科書：	『実用中国語（基礎編Ⅰ）』、馮雪梅・李芳傑、白帝社、2000

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「中国語Ⅰ」（担当者：林平）の履修の手引き

科目名：	中国語Ⅰ
担当者：	林平
対象学生：	経営経済学部1年
設置学期：	春
概要：	<p>この授業では現代中国語を習得するための初歩を学習する。入門期に正しい発音を身につけるために先ず音声面の学習に重点を置き、次に中国語のリズムと日中両国語の発想の違いに注意しながら、基本的な文型・文法を日常の初級程度の口語表現を学ぶ中で学習する。</p> <p>授業の前半では、主として発音、形容詞述語文、動詞述語文、名詞述語文、語気助詞“ ”を用いる疑問文、疑問詞疑問文、反復疑問文、選択疑問文、構造助詞“的”、助数詞、連用修飾、数量補語、結果補語を、後半では、動態助詞“了”、語気助詞“了”、動態助詞“ ”、連体修飾、語気助詞“吧”、連動文、方向補語、不定代詞“什么”、否定を表す副詞、比較表現、主な程度を表す副詞、程度補語、主述語文などについて学習する。</p> <p>具体的な授業の進め方としては、先ず文法、本文等について必要な説明を教師が行い、その後数多くの練習問題を学生が解答する。それによって知識の定着をはかると共に応用力をつけ、上記の目標の達成を目指す。</p>
授業方法：	講義と演習形式で行う。黒板に出てもらって板書する機会が多い。
履修の留意点：	初学者を対象とする。
目標と評価：	<p>最終的な目標を、基本的に中国語の発音をマスターし、文法の基礎的事項を身につけ、表現や理解の基礎を作ることに置く。</p> <p>普段の小テストや受講態度等を加味して総合的に評価する。</p>
教科書：	『実用中国語（基礎編Ⅰ）』、馮雪梅・李芳傑、白帝社、2000

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「中国語Ⅰ」（担当者：王 建新）の履修の手引き

科目名：	中国語Ⅰ
担当者：	王 建新
対象学生：	経営経済学部1年
設置学期：	春
概要：	<p>この授業では現代中国語を習得するための初歩を学習する。入門期に正しい発音を身につけるために先ず音声面の学習に重点を置き、次に中国語のリズムと日中両国語の発想の違いに注意しながら、基本的な文型・文法を日常の初級程度の口語表現を学ぶ中で学習する。</p> <p>授業の前半では、主として発音、形容詞述語文、動詞述語文、名詞述語文、語気助詞“ ”を用いる疑問文、疑問詞疑問文、反復疑問文、選択疑問文、構造助詞“的”、助数詞、連用修飾、数量補語、結果補語を、後半では、動態助詞“了”、語気助詞“了”、動態助詞“ ”、連体修飾、語気助詞“吧”、連動文、方向補語、不定代詞“什么”、否定を表す副詞、比較表現、主な程度を表す副詞、程度補語、主述語文などについて学習する。</p> <p>具体的な授業の進め方としては、先ず文法、本文等について必要な説明を教師が行い、その後数多くの練習問題を学生が解答する。それによって知識の定着をはかると共に応用力をつけ、上記の目標の達成を目指す。</p>
授業方法：	講義と演習形式で行う。黒板に出てもらって板書する機会が多い。
履修の留意点：	初学者を対象とする。
目標と評価：	<p>最終的な目標を、基本的に中国語の発音をマスターし、文法の基礎的事項を身につけ、表現や理解の基礎を作ることに置く。</p> <p>普段の小テストや受講態度等を加味して総合的に評価する。</p>
教科書：	『実用中国語（基礎編Ⅰ）』、馮雪梅・李芳傑、白帝社、2000

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「中国語Ⅰ（再履修用）」（担当者：李 彩蓉）の履修の手引き

科目名：	中国語Ⅰ（再履修用）
担当者：	李 彩蓉
対象学生：	経営経済学部1年
設置学期：	秋
概要：	<p>この授業では現代中国語を習得するための初歩を学習する。入門期に正しい発音を身につけるために先ず音声面の学習に重点を置き、次に中国語のリズムと日中両国語の発想の違いに注意しながら、基本的な文型・文法を日常の初級程度の口語表現を学ぶ中で学習する。</p> <p>授業の前半では、主として発音、形容詞述語文、動詞述語文、名詞述語文、語気助詞“ ”を用いる疑問文、疑問詞疑問文、反復疑問文、選択疑問文、構造助詞“的”、助数詞、連用修飾、数量補語、結果補語を、後半では、動態助詞“了”、語気助詞“了”、動態助詞“ ”、連体修飾、語気助詞“吧”、連動文、方向補語、不定代詞“什么”、否定を表す副詞、比較表現、主な程度を表す副詞、程度補語、主述語文などについて学習する。</p> <p>具体的な授業の進め方としては、先ず文法、本文等について必要な説明を教師が行い、その後数多くの練習問題を学生が解答する。それによって知識の定着をはかると共に応用力をつけ、上記の目標の達成を目指す。</p>
授業方法：	講義と演習形式で行う。黒板に出てもらって板書する機会が多い。
履修の留意点：	初学者を対象とする。
目標と評価：	<p>最終的な目標を、基本的に中国語の発音をマスターし、文法の基礎的事項を身につけ、表現や理解の基礎を作ることに置く。</p> <p>普段の小テストや受講態度等を加味して総合的に評価する。</p>
教科書：	『実用中国語（基礎編Ⅰ）』、馮雪梅・李芳傑、白帝社、2000

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「中国語Ⅱ」（担当者：馮 雪梅）の履修の手引き

科目名：	中国語Ⅱ
担当者：	馮 雪梅
対象学生：	経営経済学部1年
設置学期：	秋
概要：	中国語Ⅰで学んだ中国語の基礎に基づき、日常生活での様々な場面での口語表現を学ぶ。中で中国語文法の一般的事項を学習する。それによって中国語の構文と日常の様々な場面での基本的な表現に慣れ親しみながら、中国語の基礎をマスターする。 授業の前半では、主として前置詞、未来の表現、動作の持続を表す表現、「進行」を表す“在”、特殊疑問文、概数表現、可能補語、助動詞、仮定表現、動態助詞“着”、様態補語、構造助詞“地”、兼語文、接続詞を、後半では、反語表現、受け身文、“動詞の重ね型等十看”、接頭語、方向補語の派生用法、緊縮文、縮略語、“把”構文による処置の表現、4種類の述語文、使役表現、前置詞などについて学習する。
授業方法：	講義と演習形式で行う。黒板に出てもらって板書する機会が多い。
履修の留意点：	中国語Ⅰ修了者を対象とする。
目標と評価：	最終的には中国語の基本文法、日常生活に必要な基礎表現法の習得を目指すこととする。 普段の小テストや受講態度等を加味して総合的に評価する。
教科書：	『実用中国語（基礎編Ⅰ）』、馮雪梅・李芳傑、白帝社、2000

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「中国語Ⅱ」（担当者：林 平）の履修の手引き

科目名：	中国語Ⅱ
担当者：	林 平
対象学生：	経営経済学部1年
設置学期：	秋
概要：	中国語Ⅰで学んだ中国語の基礎に基づき、日常生活での様々な場面での口語表現を学ぶ。中で中国語文法の一般的事項を学習する。それによって中国語の構文と日常の様々な場面での基本的な表現に慣れ親しみながら、中国語の基礎をマスターする。 授業の前半では、主として前置詞、未来の表現、動作の持続を表す表現、「進行」を表す“在”、特殊疑問文、概数表現、可能補語、助動詞、仮定表現、動態助詞“着”、様態補語、構造助詞“地”、兼語文、接続詞を、後半では、反語表現、受け身文、“動詞の重ね型等十看”、接頭語、方向補語の派生用法、緊縮文、縮略語、“把”構文による処置の表現、4種類の述語文、使役表現、前置詞などについて学習する。
授業方法：	講義と演習形式で行う。黒板に出てもらって板書する機会が多い。
履修の留意点：	中国語Ⅰ修了者を対象とする。
目標と評価：	最終的には中国語の基本文法、日常生活に必要な基礎表現法の習得を目指すこととする。 普段の小テストや受講態度等を加味して総合的に評価する。
教科書：	『実用中国語（基礎編Ⅰ）』、馮雪梅・李芳傑、白帝社、2000

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「中国語Ⅱ」（担当者：王 建新）の履修の手引き

科目名：	中国語Ⅱ
担当者：	王 建新
対象学生：	経営経済学部1年
設置学期：	秋
概要：	中国語Ⅰで学んだ中国語の基礎に基づき、日常生活での様々な場面での口語表現を学ぶ。中で中国語文法の一般的事項を学習する。それによって中国語の構文と日常の様々な場面での基本的な表現に慣れ親しみながら、中国語の基礎をマスターする。 授業の前半では、主として前置詞、未来の表現、動作の持続を表す表現、「進行」を表す“在”、特殊疑問文、概数表現、可能補語、助動詞、仮定表現、動態助詞“着”、様態補語、構造助詞“地”、兼語文、接続詞を、後半では、反語表現、受け身文、“動詞の重ね型等十看”、接頭語、方向補語の派生用法、緊縮文、縮略語、“把”構文による処置の表現、4種類の述語文、使役表現、前置詞などについて学習する。
授業方法：	講義と演習形式で行う。黒板に出てもらって板書する機会が多い。
履修の留意点：	中国語Ⅰ修了者を対象とする。
目標と評価：	最終的には中国語の基本文法、日常生活に必要な基礎表現法の習得を目指すこととする。 普段の小テストや受講態度等を加味して総合的に評価する。
教科書：	『実用中国語（基礎編Ⅰ）』、馮雪梅・李芳傑、白帝社、2000

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。



「中国語Ⅱ（再履修用）」（担当者：李 彩蓉）の履修の手引き

科目名：	中国語Ⅱ（再履修用）
担当者：	李 彩蓉
対象学生：	経営経済学部2年
設置学期：	春
概要：	中国語Ⅰで学んだ中国語の基礎に基づき、日常生活での様々な場面での口語表現を学ぶ。中で中国語文法の一般的事項を学習する。それによって中国語の構文と日常の様々な場面での基本的な表現に慣れ親しみながら、中国語の基礎をマスターする。 授業の前半では、主として前置詞、未来の表現、動作の持続を表す表現、「進行」を表す“在”、特殊疑問文、概数表現、可能補語、助動詞、仮定表現、動態助詞“着”、様態補語、構造助詞“地”、兼語文、接続詞を、後半では、反語表現、受け身文、“動詞の重ね型等十看”、接頭語、方向補語の派生用法、緊縮文、縮略語、“把”構文による処置の表現、4種類の述語文、使役表現、前置詞などについて学習する。
授業方法：	講義と演習形式で行う。黒板に出てもらって板書する機会が多い。
履修の留意点：	中国語Ⅰ修了者を対象とする。
目標と評価：	最終的には中国語の基本文法、日常生活に必要な基礎表現法の習得を目指すこととする。 普段の小テストや受講態度等を加味して総合的に評価する。
教科書：	『实用中国語（基礎編Ⅰ）』、馮雪梅・李芳傑、白帝社、2000 _____ _____ _____

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「中国語Ⅲ」（担当者：馮 雪梅）の履修の手引き

科目名：	中国語Ⅲ
担当者：	馮 雪梅
対象学生：	経営経済学部2年
設置学期：	春
概要：	<p>一年次に習得した中国語の成果をふまえ、引き続き日常生活での様々な場面での口語表現を学ぶ中で中国語文法の一般的事項を学習する。それによって日常場面での基本的な表現を習得し、体系的な文法の知識を身につけ、やや高度な表現ができるようになりしつかりした基礎作りをする。</p> <p>授業の前半では、結果補語“ ”、疑問詞の連用、“有 ～有 ～”構文、使役の“ ”、前置詞“ ”、中止を表す“不～了”、“好好儿”、二重否定“非～不可”“不～不行”、離合動詞、方向動詞と方向補語、受身を表す“被”、“叫”、“～～”、方向補語“上去”の派生用法、行為の順序を表す“先～再～”を、後半では、“一心想～”、助動詞“想”と“要”、“一口气儿能～”、“已～了”、“先～、又～、然后～”、完了の“了”、変化の“了”、“是～呢？”、“只～、没～”、“别提多～了”、“～都没～”、動量補語、“～的”、“又开始～了”、“再也没有～了”、時量補語、程度補語、結果補語などについて学習する。</p>
授業方法：	<p>講義と演習形式で行う。黒板に出てもらって板書する機会が多い。</p> <p>具体的な授業の進め方としては、先ず文法、本文等について必要な説明を教師が行い、その後数多くの練習問題を学生が解答する。それによって知識の定着をはかると共に応用力をつけ、下記の目標の達成を目指す。</p>
履修の留意点：	中国語Ⅱ修了者を対象とする。
目標と評価：	<p>最終的にはHSK 2級程度の実力がつくことを目的とする。</p> <p>普段の小テストや受講態度等を加味して総合的に評価する。</p>
教科書：	<p>『留学気分で中国語』、孫暉・劉平・史建偉、白帝社、2001</p> <p>『私の毎日』、焦凡・勝股 高志、白帝社、2001</p>

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「中国語Ⅲ（再履修用）」（担当者：林 平）の履修の手引き

科目名：	中国語Ⅲ（再履修用）
担当者：	林 平
対象学生：	経営経済学部2年
設置学期：	秋
概要：	<p>一年次に習得した中国語の成果をふまえ、引き続き日常生活での様々な場面での口語表現を学ぶ中で中国語文法の一般的事項を学習する。それによって日常場面での基本的な表現を習得し、体系的な文法の知識を身につけ、やや高度な表現ができるようになりしつかりした基礎作りをする。</p> <p>授業の前半では、結果補語“ ”、疑問詞の連用、“有 ～有 ～”構文、使役の“ ”、前置詞“ ”、中止を表す“不～了”、“好好儿”、二重否定“非～不可”“不～不行”、離合動詞、方向動詞と方向補語、受身を表す“被”、“叫”、“～～”、方向補語“上去”の派生用法、行為の順序を表す“先～再～”を、後半では、“一心想～”、助動詞“想”と“要”、“一口气儿能～”、“已～了”、“先～、又～、然后～”、完了の“了”、変化の“了”、“是～呢？”、“只～、没～”、“别提多～了”、“～都没～”、動量補語、“～的”、“又开始～了”、“再也没有～了”、時量補語、程度補語、結果補語などについて学習する。</p>
授業方法：	<p>講義と演習形式で行う。黒板に出てもらって板書する機会が多い。</p> <p>具体的な授業の進め方としては、先ず文法、本文等について必要な説明を教師が行い、その後数多くの練習問題を学生が解答する。それによって知識の定着をはかると共に応用力をつけ、下記の目標の達成を目指す。</p>
履修の留意点：	中国語Ⅱ修了者を対象とする。
目標と評価：	<p>最終的にはHSK 2級程度の実力がつくことを目的とする。</p> <p>普段の小テストや受講態度等を加味して総合的に評価する。</p>
教科書：	<p>『留学気分で中国語』、孫暉・劉平・史建偉、白帝社、2001</p> <p>『私の毎日』、焦凡・勝股 高志、白帝社、2001</p>

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「中国語Ⅲ」（担当者：王 建新）の履修の手引き

科目名：	中国語Ⅲ
担当者：	王 建新
対象学生：	経営経済学部2年
設置学期：	春
概要：	<p>一年次に習得した中国語の成果をふまえ、引き続き日常生活での様々な場面での口語表現を学ぶ中で中国語文法の一般的事項を学習する。それによって日常場面での基本的な表現を習得し、体系的な文法の知識を身につけ、やや高度な表現ができるようになりしつかりした基礎作りをする。</p> <p>授業の前半では、結果補語“ ”、疑問詞の連用、“有 ～有 ～”構文、使役の“ ”、前置詞“ ”、中止を表す“不～了”、“好好儿”、二重否定“非～不可”“不～不行”、離合動詞、方向動詞と方向補語、受身を表す“被、 ”、“ ”、“ ”、“ ”、方向補語“上去”の派生用法、行為の順序を表す“先～再～”を、後半では、“一心想～”、助動詞“想”と“要”、“一口气儿能～”、“已 ～了”、“先～、又～、然后～”、完了の“了”、変化の“了”、“是 ～呢？”、“只～、没～”、“别提多～了”、“～都没～”、動量補語、“～的”、“又开始～了”、“再也没有～了”、時量補語、程度補語、結果補語などについて学習する。</p>
授業方法：	講義と演習形式で行う。黒板に出てもらって板書する機会が多い。具体的な授業の進め方としては、先ず文法、本文等について必要な説明を教師が行い、その後数多くの練習問題を学生が解答する。それによって知識の定着をはかると共に応用力をつけ、下記の目標の達成を目指す。
履修の留意点：	中国語Ⅱ修了者を対象とする。
目標と評価：	<p>最終的にはHSK 2級程度の実力がつくことを目的とする。</p> <p>普段の小テストや受講態度等を加味して総合的に評価する。</p>
教科書：	『留学気分で中国語』、孫暉・劉平・史建偉、白帝社、2001
	『私の毎日』、焦凡・勝股 高志、白帝社、2001

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「中国語Ⅳ」（担当者：王 建新）の履修の手引き

科目名：	中国語Ⅳ
担当者：	王 建新
対象学生：	経営経済学部2年
設置学期：	秋
概要：	<p>今までに身につけた基礎学力をもとに、平易な文体で書かれた中国語のまとまった文章を読むことを通して文法、表現の面でより高度なものを学習しながら、読解力を中心に総合的中国語力、豊かな表現力を身につける。体系的な文法の知識と基礎的表現法を修得することによって中国語の基礎力の定着を図る。</p> <p>この半年間取り扱っていくトピックは次のようなものである。漢字の中日交流、人気の専攻、お茶の飲み方、煙草を勧める、宴会、商売のコツ、若者のアフター、音楽、スポーツ、中国女性、貴族学校、住宅、出稼ぎラッシュ、方言、健康づくりは何？、「かみさん」は「神様」ではない、ユーモア、夢を実現しよう、共通の願い、数字言葉、うまくいかない、記憶力アップの鍵は右脳を鍛えることにある、ポディランゲージ</p>
授業方法：	<p>講義と演習形式で行う。</p> <p>具体的な授業の進め方としては、先ず文法、本文等について必要な説明を教師が行い、その後本文の訳読と数多くの練習問題を学生が解答する。それによって既習文法事項の再確認、新出文法の習得、語彙力の一層の充実、中国語構文の把握なども図りながら、中国の文化、社会についてさらに理解を深めていく。</p>
履修の留意点：	中国語Ⅲ修了者を対象とする。
目標と評価：	<p>最終的にはHSK3級程度の実力がつくことを目的とする。</p> <p>授業への参加度、平常点（授業中の訳読の出来ばえ等）と2回の授業内テスト等を加味して総合的に評価する。</p>
教科書：	<p>『現代中国展望台』、児野道子・渡部昭夫等、三修社、1998</p> <p>『ユーモア中国語』、金路、駿河台出版社、2002</p>

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「基礎中国語Ⅰ」（担当者：賈 軍）の履修の手引き

科目名：	基礎中国語Ⅰ
担当者：	賈 軍
対象学生：	短期大学部1年
設置学期：	春
概要：	<p>この授業では、中国語の学習を進めていく上での基礎的知識を学習する。中国語という言葉に慣れ親しむことを中心に据え、入門期に正しい発音を身につけるために先ず音声面の学習に重点を置き、次に中国語のリズムと日中両国語の発想の違いに注意しながら、中国語の初歩的な文法知識を簡単な口語表現を学ぶ中で学習する。基礎中国語Ⅰが終了した時点で中国語の発音に慣れ、初歩的な文法と簡単な文の表現力を身につけることを目標とする。</p> <p>この授業の前半では、主として発音を、後半では、形容詞述語文、動詞述語文、名詞述語文、語気助詞“”を用いる疑問文、疑問詞疑問文、反復疑問文、構造助詞“的”、連用修飾、姓名の尋ね方と答え方、人称代名詞、指示代名詞などについて学習する。</p>
授業方法：	講義と演習形式で行う。
履修の留意点：	初学者を対象とする。
目標と評価：	<p>中国語の発音に慣れ、初歩的な文法と簡単な文の表現力を身につけることを目標とする。</p> <p>普段の小テストや受講態度等を加味して総合的に評価する。</p>
教科書：	『実用中国語（基礎編Ⅰ）』、馮雪梅・李芳傑、白帝社、2000

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「基礎中国語Ⅱ」（担当者：賈 軍）の履修の手引き

科目名：	基礎中国語Ⅱ
担当者：	賈 軍
対象学生：	短期大学部1年
設置学期：	秋
概要：	<p>春学期授業で学習した基礎中国語Ⅰの持ち上がり授業である。内容的には、基礎中国語Ⅰの学習内容を継続し、発音の矯正をしながら、初級口語表現を中心に、基本的な文型、文法と表現法を学び、会話の基礎力をつける。基礎中国語Ⅱの学習を終えるまでには、中国語文法の基礎的事項の前半を習得し、基本的な文の構造を理解して、簡単な表現ができるようになりしつかりした基礎作りをする。</p> <p>この授業の前半では、主として助数詞、場所を示す指示代詞、二重目的語文、方位詞、疑問代詞、選択疑問文、時刻の表現、数量補語を、後半では、動態助詞“了”、伝聞を表す表現、語気助詞“呢”、語気助詞“呢”、年齢の尋ね方、動態助詞“”、概数表現、連体修飾などについて学習する。</p>
授業方法：	講義と演習形式で行う。
履修の留意点：	基礎中国語Ⅰを修了した程度の人を対象とする。
目標と評価：	<p>中国語文法の基礎的事項の前半を習得し、基本的な文の構造を理解して、簡単な表現ができるようになりしつかりした基礎作りをする。</p> <p>普段の小テストや受講態度等を加味して総合的に評価する。</p>
教科書：	『実用中国語（基礎編Ⅰ）』、馮雪梅・李芳傑、白帝社、2000

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「時事外国語 I」（担当者：サイモン クレイ）の履修の手引き

科目名：	時事外国語 I
担当者：	サイモン クレイ
対象学生：	経営経済学部2年・短期大学部2年
設置学期：	春
概要：	Various texts are chosen from Japanese English-language newspapers, and British and American newspapers and magazines. Students are expected to prepare a translation to be discussed in class. You shouldn't worry if you can't prepare a good translation. The atmosphere is relaxed and I am prepared to accept different versions.
授業方法：	The text to be translated each week will be made available on the Web. Students must prepare a translation to be discussed in class
履修の留意点：	You must be enthusiastic.
目標と評価：	Assessment will be based on how you approach each week's homework.
教科書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。



「時事外国語Ⅰ」（担当者：馮 雪梅）の履修の手引き

科目名：	時事外国語Ⅰ
担当者：	馮 雪梅
対象学生：	経営経済学部2年・短期大学部2年
設置学期：	春
概要：	<p>中国語で時事問題を理解することを目的とする。時事外国語Ⅰでは新聞を材料に、過去一年間の中国国内の状況、中国を取り巻く国際情勢を10のテーマに分けて取り上げ、それぞれ最新の時事用語、新聞独特の表現方法などを理解できる知識、技能を習得させながら、目覚しく発展する現代中国について理解を深めていく。</p> <p>この半年間取り扱っていくトピックは次の通りである。1、バカンス消費がヒートアップ 2、中国製のアニメの星、ブルーキャット 3、砂嵐がわが国の北方地区を襲った 4、中国でのファーストリテイリング 5、2000年大学入試ドキュメント 6、北京の茶館の話 7、台湾の新しい指導者とは如何なる人物？ 8、また華南ドラを発見 9、病院、5つの恐怖 10、月下老人の前で結婚式</p>
授業方法：	<p>講義と演習形式で行う。</p> <p>中国語の語彙と文法事項等について必要な説明を行った後、本文の訳読を中心に授業を進める。訳読終了後は音読の練習を行う。</p>
履修の留意点：	中国語Ⅱを修了した程度の人を対象とする。
目標と評価：	<p>中国語で時事問題を理解することを目的とする。</p> <p>年数回の小テストや授業への参加度（授業中の訳読の出来ばえ）等を加味して総合的に評価する。</p>
教科書：	『時事中国語の教科書』、三瀧正道・陳祖蓓、朝日出版社、2001

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「時事外国語Ⅱ」（担当者：サイモン クレイ）の履修の手引き

科目名：	時事外国語Ⅱ
担当者：	サイモン クレイ
対象学生：	経営経済学部2年・短期大学部2年
設置学期：	秋
概要：	Various texts are chosen from Japanese English-language newspapers, and British and American newspapers and magazines. Students are expected to prepare a translation to be discussed in class. You shouldn't worry if you can't prepare a good translation. The atmosphere is relaxed and I am prepared to accept different versions.
授業方法：	The text to be translated each week will be made available on the Web. Students must prepare a translation to be discussed in class
履修の留意点：	You must be enthusiastic.
目標と評価：	Assessment will be based on how you approach each week's homework.
教科書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「時事外国語Ⅱ」（担当者：馮 雪梅）の履修の手引き

科目名：	時事外国語Ⅱ
担当者：	馮 雪梅
対象学生：	経営経済学部2年・短期大学部2年
設置学期：	秋
概要：	<p>時事外国語Ⅰと同様、中国語で時事問題を理解することを目的とする。時事外国語Ⅱではより高度な専門誌を材料に、過去一年間の中国国内の状況、中国を取り巻く国際情勢を10のテーマに分けて取り上げ、時事問題についてのレベルの高い議論を理解し、そして考えることができるような知識・技能を習得させる。</p> <p>この半年間取り扱っていくトピックは次の通りである。1、西部大開発——新疆ウイグル自治区 2、美味しいウサギの肉 3、中国人は日本人より背が低い？ 4、空から陸からイナゴ退治 5、中国初の車椅子大学生 6、商人は農民に気配りを 7、どう表現する？ 8、個人企業の流行 9、ネット上での清明節 10、敦煌百年</p>
授業方法：	<p>講義と演習形式で行う。</p> <p>中国語の語彙と文法事項等について必要な説明を行った後、本文の訳読を中心に授業を進める。訳読終了後は音読の練習を行う。</p>
履修の留意点：	時事外国語Ⅰを修了した程度の人を対象とする。
目標と評価：	<p>時事外国語Ⅰと同様、中国語で時事問題を理解することを目的とする。</p> <p>年数回の小テストや授業への参加度（授業中の訳読の出来ばえ）等を加味して総合的に評価する。</p>
教科書：	『時事中国語の教科書』、三瀬正道・陳祖蓓、朝日出版社、2001

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「ビジネスコミュニケーションⅠ」（担当者：サイモン クレイ）の履修の手引き

科目名：	ビジネスコミュニケーションⅠ
担当者：	サイモン クレイ
対象学生：	経営経済学部2年・短期大学部2年
設置学期：	春
概要：	Using a textbook we will look at various topics useful for business situations. These include general topics, specialised topics, answering the telephone, making appointments and so on.
授業方法：	Full participation will be expected. There may be tests and homework exercises from week to week. Please check the Internet for details.
履修の留意点：	You must be enthusiastic and prepared to participate fully.
目標と評価：	Assessment will be based on participation in class and on a year-end test.
教科書：	Business Explorer I, Gareth Knight and Mark O'Neil, Cambridge University Press 2001

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「ビジネスコミュニケーションⅡ」（担当者：サイモン クレイ）の履修の手引き

科目名：	ビジネスコミュニケーションⅡ
担当者：	サイモン クレイ
対象学生：	経営経済学部2年・短期大学部2年
設置学期：	秋
概要：	Using a textbook we will look at various topics useful for business situations. These include general topics, specialised topics, answering the telephone, making appointments and so on.
授業方法：	Full participation will be expected. There may be tests and homework exercises from week to week. Please check the Internet for details.
履修の留意点：	You must be enthusiastic and prepared to participate fully.
目標と評価：	Assessment will be based on participation in class and on a year-end test.
教科書：	Business Explorer I, Gareth Knight and Mark O'Neil, Cambridge University Press 2001

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「イタリア語Ⅰ」（担当者：嘉悦 克）の履修の手引き

科目名：	イタリア語Ⅰ
担当者：	嘉悦 克
対象学生：	短期大学部2年
設置学期：	春
概要：	長い歴史と文化を誇るイタリアは、美術、音楽等芸術の分野で魅力に満ちている。取分け昨今、ミラノを発信地とするファッション、或はイタリア料理に興味と魅力を感じる女性が増えているようである。イタリア人は陽気で人なつっこい性格の国民であると共に、長い歴史と伝統をもつ自分たちの文化に誇りを持っている。勿論、自分たちの言語であるイタリア語についても同じである。外国人旅行者が、たどたどしいイタリア語で話しかけると本当に嬉し そうな顔をする。そして、そこから心の交流が始まるのである。
授業方法：	① 教科書が簡単な会話を中心に構成されているので、必ず声をだして反復練習をし、イタリア語の発音に慣れる。 ② 毎回の授業の流れの中で、ラテン系言語特有の文法事項、名詞の性と数それに伴う冠詞、形容詞等の変化を学ぶ。 ③ ラテン系言語の特徴である動詞の人称活用を重点的に学ぶ。
履修の留意点：	春学期はイタリア語に慣れるために、簡単な日常的な挨拶等を中心に授業を進めまた、イタリア語独自の文法にも多少触れる。
目標と評価：	<目 標> 先ず、イタリア語に慣れ親しむこと。 <評 価> テスト、平常点を考慮した上で、評価する。
教科書：	語学王 イタリア語 畑 舜一郎 三修社 99年 イタリア語小事典 下位 英一・坂本 鉄男 大学書林

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「イタリア語Ⅱ」（担当者：嘉悦 克）の履修の手引き

科目名：	イタリア語Ⅱ
担当者：	嘉悦 克
対象学生：	短期大学部1年
設置学期：	秋
概要：	長い歴史と文化を誇るイタリアは、美術、音楽等芸術の分野で魅力に満ちている。取分け昨今、ミラノを発信地とするファッション、或はイタリア料理に興味と魅力を感じる女性が増えているようである。イタリア人は陽気で人なつっこい性格の国民であると共に、長い歴史と伝統をもつ自分たちの文化に誇りを持っている。勿論、自分たちの言語であるイタリア語についても同じである。外国人旅行者が、たどたどしいイタリア語で話しかけると本当に嬉し そうな顔をする。そして、そこから心の交流が始まるのである。
授業方法：	① 教科書が簡単な会話を中心に構成されているので、必ず声をだして反復練習をし、イタリア語の発音に慣れる。 ② 毎回の授業の流れの中で、ラテン系言語特有の文法事項、名詞の性と数それに伴う冠詞、形容詞等の変化を学ぶ。 ③ ラテン系言語の特徴である動詞の人称活用を重点的に学ぶ。
履修の留意点：	春学期はイタリア語に慣れるために、簡単な日常的な挨拶等を中心に授業を進めまた、イタリア語独自の文法にも多少触れる。
目標と評価：	<目 標> 先ず、イタリア語に慣れ親しむこと。 <評 価> テスト、平常点を考慮した上で、評価する。
教科書：	語学王 イタリア語 畑 舜一郎 三修社 99年 イタリア語小事典 下位 英一・坂本 鉄男 大学書林

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「フランス語 I」（担当者：ポール エトガ）の履修の手引き

科目名：	フランス語 I
担当者：	ポール エトガ
対象学生：	短期大学部1年
設置学期：	春
概要：	初めてフランス語を学ぶ人のために、発音やつづりの練習を通じて、フランスの文化にふれていきます。細かい文法よりも、まずはフランス語の楽しさを味わってください。
授業方法：	L' utilisation de la video, cassette audio, livre, et dictionnaire est de mise.
履修の留意点：	なし
目標と評価：	フランス語の基礎をしっかりと学び、日常生活に必要な単語や表現を身につけていきます。このコースの終わりには、フランス人との簡単な会話ができるようになることを目指します。例えばホテルやレストランなどで行われている場面 出席と参加10%；課題40%；小テスト50%
教科書：	L' HEURE DU FRANÇAIS Paul ETOGA CARDINAL 2002 LE DICO、現代フランス語辞典「第2版」 山田、G. メランベルジェ 白水社 又は CROWN学習仏和辞典「第5版 山田、JEAN HENRI LAMARE 三省堂

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。



「フランス語Ⅱ」（担当者：ポール エトガ）の履修の手引き

科目名：	フランス語Ⅱ
担当者：	ポール エトガ
対象学生：	短期大学部1年
設置学期：	秋
概要：	初めてフランス語を学ぶ人のために、発音やつづりの練習を通じて、フランスの文化にふれていきます。細かい文法よりも、まずはフランス語の楽しさを味わってください。(LEVEL UP)
授業方法：	L' utilisation de la video, cassette audio, livre, et dictionnaire est de mise
履修の留意点：	なし
目標と評価：	フランス語の基礎をしっかりと学び、日常生活に必要な単語や表現を身につけていきます。このコースの終わりには、フランス人との簡単な会話ができるようになることを目指します。例えばホテルやレストランなどで行われている場面 出席と参加10%；課題40%；小テスト50%
教科書：	L' HEURE DU FRANÇAIS Paul ETOGA CARDINAL 2002 LE DICO、現代フランス語辞典「第2版」 山田、G.メランベルジェ 白水社 又は CROWN学習仏和辞典「第5版」 山田、JEAN HENRI LAMARE 三省堂

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「原書講読Ⅰ」（担当者：尾村 敬二）の履修の手引き

科目名：	原書講読Ⅰ
担当者：	尾村 敬二
対象学生：	経営経済学部3年
設置学期：	春
概要：	本授業は英語の専門書を読むことによって経済学を学ぶことを目的とする。大学3年生にとってはかなり難しい課題であるが、挑戦意欲のある履修生があることを期待する。教科書は「The Return of Depression Economics」(Paul Krugman著)を使用する。最初は英語を読むことに慣れてもらう。慣れた後は内容を深く理解するようにする。本書には経済学の専門用語が多数出てくるので、経済学の学習をもあわせておこなうことが本授業の特色である。
授業方法：	授業方法：授業方法は、まず英語読解力を付けるために直訳を行い、それに慣れたら、サマリー作成を学ぶ。最終的には英語のサマリー作成ができるようになることを目指す。かなりの予習および復習が必要である。
履修の留意点：	履修時において英語読解力に自信がなくてもよいが、授業に積極的に参加することが望まれる。本授業は3年次生の科目であるが、1年次生および2年次生でも聴講は可能である。ただし、単位の取得にはならない。
目標と評価：	目標とはとにかく専門英語を読みこなせる能力を付け、卒業後にそれを活用できる基礎を形成する。授業の参加度およびペーパー試験によって成績を評価する。
教科書：	The Return of Depression Economics Paul Krugman W.W.Norton & Company, New York 2000

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「原書講読 I」（担当者：山崎 康之）の履修の手引き

科目名：	原書講読 I
担当者：	山崎 康之
対象学生：	経営経済学部3年
設置学期：	春
概要：	<p>以下にあるゲームの理論の教科書を輪読します。</p> <p>授業内容は以下の通りです。</p> <p>In this course, we will examine strategic situaion, where each agent's behavior generally affects the well-being of the other agents. Game theory is a mathematicak framework for such settings. Almost evry type of interaction between living things is strategic. As social scientists, we focus on human interaction, and we shall assume that people behave in a rational, deliberate manner. In adition to exploring theory in the abstract, we will consider a variety of models in economics. (Joel Watson)</p>
授業方法：	<p>最初に原文を読み、それを訳してもらいます。</p> <p>その後で、質疑・応答・解説を行います。</p> <p>教科書の練習問題も解いていきたいと思っています。</p>
履修の留意点：	予習と復習がきちんと出来ること。
目標と評価：	平常点および期末試験によります。
教科書：	<p>Strategy: An Introduction to Game Theory Joel Watson W. W. Norton &amp; Company 2002</p> <p> </p> <p> </p> <p> </p> <p> </p>

※最終評価は、評価点7割，出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「原書講読Ⅰ」（担当者：羅 歆鎮）の履修の手引き

科目名：	原書講読Ⅰ
担当者：	羅 歆鎮
対象学生：	経営経済学部3年
設置学期：	春
概要：	<p>中国経済の高度成長に伴って、日中経済関係はより密接になっています。日進月歩している中国経済・経営を理解するために、中国語文献を読むことが近道でしょう。本講義は中国の経済・経営分野における専門文献を読む前段階として、中国経済・経営の基本知識を中国語を通じて身につけてもらうことを目的とします。</p> <p>授業内容が、2003年3月に開催される全国人民代表大会（全人代）で行われる（予定）朱熔基首相の『政府工作報告』の経済部分を読むことです。『政府工作報告』は、中国経済発展の長期目標、マクロ経済事情、工業化、農村・農業、対外貿易と外国直接投資、企業改革、失業、社会保障など経済・経営分野をすべてカバーしております。したがって、『政府工作報告』を通じて、中国政府の経済政策を理解するとともに、基本的な経済・経営用語を勉強できると思われま。</p>
授業方法：	<p>履修者の中国語力や要望によりますが、基本的にセンテンスごとに履修者が朗読し、日本語に訳すという方法で授業を進めます。担当講師は、語学問題や専門用語について必要に応じて説明や解釈を加えます。</p> <p>教科書はオリエンテーションにてテキストのコピーを配ります。</p>
履修の留意点：	<p>ある程度の中国語学力を要求しますが、事前の予習、事後の復習が不可欠です。中国経済に対する高い関心と積極的な質問を要求します。</p>
目標と評価：	<p>本授業は次の2点を目標とします。</p> <p>1経済・経営関係の中国語用語を正しく発音できること。</p> <p>2中国語専門用語を正しく理解し、日本語に訳すことができること。</p> <p>成績評価は次のように行います。</p> <p>1出席点（20%）。欠席の計算は本学の規定に従います。</p> <p>2予習及び発表を特に重視します（50%）。</p> <p>3質問・発言は10%。</p> <p>4学期末に中国語感想文は20%</p>
教科書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「原書講読Ⅱ」（担当者：尾村 敬二）の履修の手引き

科目名：	原書講読Ⅱ
担当者：	尾村 敬二
対象学生：	経営経済学部3年
設置学期：	秋
概要：	本授業は春学期における原書講読Ⅰの継続科目と位置づける。教科書は継続して使用するが、さらにプリント配布をおこなう。春学期に習得した英語読解力を活用するために、現在の日本を巡る国際経済状況に関する学習をおこなう。
授業方法：	授業方法は予習した英語文献の内容について履修生間の討議を行う。本授業は一般授業科目であるが、履修生の自発的参加を促す。
履修の留意点：	授業への自発的参加を促すために必要なことは予習および復習を徹底すること。教科書は、原書講読Ⅰと同じである。
目標と評価：	原書講読Ⅰと同じく、授業参加度およびペーパー試験を行う。
教科書：	The Return of Depression Economics Paul krugman W. W. Norton & Company, New York 2000

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「原書講読Ⅱ」（担当者：山崎 康之）の履修の手引き

科目名：	原書講読Ⅱ
担当者：	山崎 康之
対象学生：	経営経済学部3年
設置学期：	秋
概要：	<p>以下にあるゲームの理論の教科書を輪読します。</p> <p>授業内容は以下の通りです。</p> <p>In this course, we will examine strategic situaion, where each agent's behavior generally affects the well-being of the other agents. Game theory is a mathematical framework for such settings. Almost evry type of interaction between living things is strategic. As social scientists, we focus on human interaction, and we shall assume that people behave in a rational, deliberate manner. In addition to exploring theory in the abstract, we will consider a variety of models in economics. (Joel Watson)</p>
授業方法：	<p>最初に原文を読み、それを訳してしてもらいます。 その後、質疑・応答・解説を行います。</p> <p>教科書の練習問題も解いていきたいと思っています。</p>
履修の留意点：	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 原書講読Ⅰを履修していること。</li> <li>2. 予習と復習がきちんと出来ること。</li> </ol>
目標と評価：	平常点および期末試験によります。
教科書：	<p>Strategy: An Introduction to Game Theory Joel Watson W. W. Norton &amp; Company 2002</p> <p>_____</p> <p>_____</p> <p>_____</p> <p>_____</p>

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「原書講読Ⅱ」（担当者：羅 歆鎮）の履修の手引き

科目名：	原書講読Ⅱ
担当者：	羅 歆鎮
対象学生：	経営経済学部3年
設置学期：	秋
概要：	履修者の要望を取り入れていきたいが、当面中国国務院発展研究センターをはじめとする中国政府系エコノミスト及び学者による中国経済成長の長期予測、中国のWTO加盟及びその影響、日中経済関係の現状及び展望、中国国有企業及び外資（特に日系）企業における労務管理に関する中国語論文を輪読していくと考えています。
授業方法：	履修者に論文の一部を分担し、分担した部分の要旨を日本語にまとめ、授業で発表してもらいます。重要な経済現象、専門用語については、担当講師が補足説明をします。 教科書はオリエンテーションにて関係論文のコピーを配ります。
履修の留意点：	原書講読Ⅱは原書講読Ⅰの続きです。したがって、原書講読Ⅰの履修が望まれます。原書講読Ⅰを履修していない学生は、原則として原書講読Ⅰの授業内容を自学でマスターする必要があります。履修者全員の事前の予習と準備が必要不可欠です。
目標と評価：	本授業は次の2点を目標とします。 1中国語専門用語を正しく理解し、日本語に訳すことができること。 2中国語を通じて中国経済、経営に対する理解を深めること。 3できるだけ自分が持っている趣味や関心及び卒業論文に役立つこと。 成績評価は次のように行います。 1出席点（20%）。欠席の計算は本学の規定に従います。 2予習及び発表を特に重視します（50%）。 3質問・発言は10%。 4学期末に中国語感想文は20%
教科書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「芸術と社会Ⅰ」（担当者：森 康夫）の履修の手引き

科目名：	芸術と社会Ⅰ
担当者：	森 康夫
対象学生：	短期大学部1年
設置学期：	春
概要：	日常生活の中で「芸術」はどのような意味を持っているのか。そしてそれはどのような働きをしているのか。現代は物質欲を満足させることで豊かさを感じる傾向にある。しかし、真の豊かさは精神面の充実や心の豊かさであり、それを求めなくてはならないことを分かっているが、そのアプローチは様々であり、大変難しい。 当科目はこの問題を「美術」の面からとらえ、考えていこうというものです。具体的には、西洋美術史を中心に展開するが単に知識の吸収に止まらず、見学などを通して自分の目で確認し、自分なりの物の見方や感じ方を磨いて欲しい。「感情」を学ぶ良い機会です。「社交」という面からも必ず役立つはず。
授業方法：	毎回、テーマのポイントを書きプリントを配り、それに沿って講義を行う。画集やビデオを見ながら進めるので理解しやすいと思う。 <年間授業計画と芸術全般について説明> *ルネサンスを中心として印象派までを解説する ／導入として「エジプト美術」のねじれた人物について解説 ／ギリシャ／ローマ／ヴィザンチン ／ロマネスク／ゴシック ／ルネサンス（イタリア）（北方） ／バロック／ロココ ／新古典派／ロマン派 ／バルビゾン派／写実派／印象派
履修の留意点：	自分なりにノートも取ること。
目標と評価：	基本的にはレポート提出によるが、授業態度も加味して総合的に評価する。
教科書：	西洋美術史 高階秀爾 美術出版社 _____ _____ _____

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。



「芸術と社会Ⅱ」（担当者：森 康夫）の履修の手引き

科目名：	芸術と社会Ⅱ
担当者：	森 康夫
対象学生：	短期大学部1年
設置学期：	秋
概要：	日常生活の中で「芸術」はどのような意味を持っているのか。そしてそれはどのような働きをしているのか。現代は物質欲を満足させることで豊かさを感じる傾向にある。しかし、真の豊かさは精神面の充実や心の豊かさであり、それを求めなくてはならないことを分かっているが、そのアプローチは様々であり、大変難しい。当科目はこの問題を「美術」の面からとらえ、考えていこうというものです。具体的には、西洋美術史を中心に展開するが単に知識の吸収に止まらず、見学などを通して自分の目で確認し、自分なりの物の見方や感じ方を磨いて欲しい。「感情」を学ぶ良い機会ですし、「社交」という面からも必ず役立つはず。
授業方法：	毎回、テーマのポイントを書いたプリントを配り、それに沿って講義を行う。画集やビデオを見ながら進めるので理解しやすいと思う。 <年間の授業計画を説明する> * 印象派から現代美術までを解説する  印象派／後期印象派／象徴派／アールヌーボー／新印象派／ナビ派／ ナイーブ派／野獣派（フォーヴィズム）／立体派（キューヴィズム） ドイツ表現派／超現実派（シュールレアリスム）／エコールドパリ 抽象絵画／バウハウス／アールデコ／アメリカの現代美術
履修の留意点：	自分なりにノートも取ること。
目標と評価：	基本的にはレポート提出によるが、授業態度も加味して総合的に評価する。
教科書：	西洋美術史 高階秀爾 美術出版社 _____ _____ _____

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「現代社会と倫理Ⅰ」（担当者：半田 栄一）の履修の手引き

科目名：	現代社会と倫理Ⅰ
担当者：	半田 栄一
対象学生：	経営経済学部1年・短期大学部1年
設置学期：	春
概要：	<p>倫理学や哲学の立場から、近代、現代に至るまでの倫理、政治、宗教について考えていく。現代社会の抱える問題を解決し、未来を志向する上で、特に古代ギリシャにおける哲学と政治的理想（ポリス）、日本固有の文化的伝統や倫理思想、宗教意識に力点が置かれるであろう。</p> <p>近代市民社会以降における権利、人権、自由、平等、公正、正義等の理念と実現は現代の政治的状況を結実させたといえるが、その成果と矛盾について考えてみる。</p> <p>常に、人間として社会に生きるということ（権利と義務など）を中心に据え、21世紀の国際社会の中における日本のあるべき姿をも問いたい。自らの社会的あり方を学生各自が考えて欲しい。</p> <p>授業の体系</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1、倫理学への理解を通し、人が生きることは、社会的に他者と共にあることであるということを知る。</li> <li>2、古代ギリシャから近現代に至る倫理思想と政治のあり方を理解する。</li> <li>3、われわれ現代の日本および日本人は、国際社会の中でどうあるべきか、いかに生きるべきかを日本文化と国際社会の現状を通して考えていく。</li> </ol>
授業方法：	<p>講義を中心とするが、必要に応じて学生による発表、討議も行なう。</p> <p>授業は受け身になって聴いていけばよいというのではなく、学生自らが問題意識を持って考えることが最も大切である。そのため、授業中こちらから頻繁に質問する。</p> <p>ノートは板書してあることを、ただ書きうつすのではなく、考えながらまとめていくことが必要である。ノートは必ず手書きによること。</p> <p>本講義では、特定のテキスト（教科書）は使用しない。必要に応じてプリントを配布する。教科書の欄にあげた本は参考書である。この他の参考書は適宜指示していく。</p>
履修の留意点：	<ol style="list-style-type: none"> <li>1、授業を受ける大前提は、「社会人」としてのエチケットが守られることである。遅刻、授業中の私語、携帯電話の使用（メールの受信を含め）などは厳禁とする。</li> <li>2、上記のように、必ず手書きのノートを持参すること。</li> <li>3、授業を受けて、わからなかった事はそのままにしないこと。必ず自分で調べたり、授業が終わった後で質問すること。</li> </ol>
目標と評価：	<p>習得した知識の量よりも、授業に対する取り組みの熱意（どのくらい自分で考えたか）をみていく。</p> <p>評価は授業期間中の数回の小テスト、宿題（レポート）、発表などを中心に平常点とする。</p> <p>授業態度と出席を重視する。</p>
教科書：	『政治思想史』 小笠原弘親・小野紀明・藤原保信 有斐閣 2000年

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「現代社会と倫理Ⅱ」（担当者：半田 栄一）の履修の手引き

科目名：	現代社会と倫理Ⅱ
担当者：	半田 栄一
対象学生：	経営経済学部1年・短期大学部1年
設置学期：	秋
概要：	<p>近現代の科学・技術の発達は目ざましく、われわれに多大な恩恵を与えているが、同時に、地球環境問題、生命倫理や現代医療の抱える問題等が生じ、コンピューターの発達もかつてない便利さをもたらしたが、これに伴う犯罪の増加や人間疎外が問題となりつつあり、科学・技術は人類の危機、脅威をも生ずる。</p> <p>こうした問題を取り上げつつ、倫理学の立場から科学技術を扱う人間のあるべき姿を問いたい。関連する宗教、コミュニケーション、性、現代文化等にも触れる事になろう。</p> <p>常に人が「生きる」ということ、「いのち」や「自然」の本来の姿を問いつつ文明・文化の意味をふりかえる。</p> <p>授業の体系</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1、科学・技術とは何か？</li> <li>2、現代科学技術文明の現状</li> <li>3、科学技術とわれわれの生き方や文化（自然観、生命観等）</li> <li>4、21世紀の光と闇を分けるもの</li> <li>5、宗教と科学</li> </ol>
授業方法：	<p>講義を中心とするが、必要に応じて学生による発表、討議も行なう。</p> <p>授業は受け身になって聴いていけばよいというのではなく、学生自らが問題意識を持って考えることが最も大切である。そのため、授業中こちらから頻繁に質問する。</p> <p>ノートは板書してあることを、ただ書きうつすのではなく、考えながらまとめていくことが必要である。ノートは必ず手書きによること。</p> <p>本講義では、特定のテキスト（教科書）は使用しない。必要に応じてプリントを配布する。教科書の欄にあげた本は参考書である。この他の参考書は適宜指示していく。</p>
履修の留意点：	<ol style="list-style-type: none"> <li>1、授業を受ける大前提は、「社会人」としてのエチケットが守られることである。遅刻、授業中の私語、携帯電話の使用（メールの受信を含め）などは厳禁とする。</li> <li>2、上記のように、必ず手書きのノートを持参すること。</li> <li>3、授業を受けて、わからなかった事はそのままにしないこと。必ず自分で調べたり授業が終わった後で質問すること。</li> </ol>
目標と評価：	<p>習得した知識の量よりも、授業に対する取り組みの熱意（どのくらい自分で考えたか）をみていく。</p> <p>評価は授業期間中の数回の小テスト、宿題（レポート）、発表などを中心に平常点とする。</p> <p>授業態度と出席を重視する。</p>
教科書：	『現代世界の思想的課題』 中山愈 弘文堂 平成10年

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「現代日本の政治Ⅰ」（担当：倉爪 真一郎）の履修の手引き

科目名：	現代日本の政治Ⅰ
担当者：	倉爪 真一郎
対象学生：	経営経済学部1年・短期大学部1年
設置学期：	春
概要：	できるだけ具体的な事例に即しながら、政治学の基本概念について考えることを目的とする。人間は、社会の中で、一人で生きて（生活して）いるわけではない。個々の人間は、家族、学校・会社等の組織、共同体、国家の中で生きている。政治とは、まずもって、自分たちが生きる場である共同体（特に国家）をつくり、その秩序を維持しようとする営みであると言えるだろう。しかし共同体の秩序を維持するために、場合によっては、メンバーの生命を奪う行為が正当化される（戦争、警察による正当防衛、犯罪者の死刑）。つまり共同体をつくり、その秩序を維持するという政治的営みは、そのメンバーの生命の安全を保障すると同時に、その生命を奪う（あるいは危険にさらす）可能性を合わせもつのである。そしてこの「生命の安全」をめぐる問題は、近年特にわれわれを脅かしている。イラク・北朝鮮をめぐる戦争の危機、テロや凶悪犯罪の脅威、薬害事件や医療ミス、食品の安全をめぐる問題など枚挙にいとまがない。従って本授業では、「生命の安全」というテーマを基軸にして、われわれが置かれている状況を理解すると同時に、具体的な事例に即して、政治学の基本的概念について考えることを目的とする。
授業方法：	講義を14回行う。ただしそのうち数回は、新聞・論文の一部を授業冒頭で配布し、その内容について議論したいと考えている。基本的には毎回2、3のポイントに絞って講義し、授業の後半15分ほど質疑応答の時間をとりたいと思う。その際、学生諸君が議論に積極的に参加されることを希望する。また毎回授業の最後5分間に、授業で重要だと感じた点、感想・要望を「アンケート」として書いて提出してもらおう。それに対するコメントは次回の授業冒頭で行う。また疑問点については、授業に関連したものであれば、授業中に随時質問していただいてもかまわないし、授業最後の「アンケート」あるいはメールで提示していただいてもかまわない。
履修の留意点：	注意点は特にない。WEB上の「授業計画」に次回授業の内容は逐次掲載するので、予習される際には参考にさせていただきたい。ただし基本的には、授業に集中していただきたいし、復習により授業内容の確認を行っていただきたい。学期末試験はそれにより十分対処できるはずである。
目標と評価：	自分の周囲で起こっている問題、新聞やテレビのニュースで取り上げられる問題が、自分の生活、自分の生き方にどう関わるのか。そういう問題意識をもってもらうことが目的である。そのためには問題の内容を理解する必要がある。したがって新聞・ニュースを見て、疑問を疑問として放置しないことが重要であろう。疑問の解決については上記「授業方法」を参照のこと。 評価点は以下の形で算出する。 ・出席時の積極的発言による貢献（10%） ・中間レポート（40%） ・学期末試験（50%）
教科書：	教科書は使わないが、参考文献として以下のものを挙げておく。それ以外にも、授業中、あるいはWEB上で、随時参考すべき文献を紹介する。 はじめて出会う政治学（有斐閣アルマ） 真淵勝・久米郁男・北山俊哉 有斐閣 1,800円

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「現代日本の政治Ⅱ」（担当者：倉爪 真一郎）の履修の手引き

科目名：	現代日本の政治Ⅱ
担当者：	倉爪 真一郎
対象学生：	経営経済学部1年・短期大学部1年
設置学期：	秋
概要：	「現代日本の政治Ⅰ」（春学期）を履修していることを前提に、政治学における基本概念の理解を深めることを目的とする。「現代日本の政治Ⅰ」では「生命の安全」の保障について議論するが、その際、「生命の安全」を保障するのは国家である。そしてその国家、あるいは政治制度の基軸となるのは、国民主権、基本的人権の尊重、平和主義をかかげる日本国憲法である。本授業ではまず、日本国憲法を軸に、議会、政党、官僚制、官と民の関係、安全保障の問題を概観する。その上で、主権者であるわれわれ国民の生命の安全がどのように保障されてきたのか（されているのか）、またわれわれは民主主義という制度の中で自らの生命を守り、自由に生きることができているのか、という問題を考えてみたい。
授業方法：	講義を14回行う。ただしそのうち数回は、新聞・論文の一部を授業冒頭で配布し、その内容について議論したいと考えている。基本的には毎回2、3のポイントに絞って講義し、授業の後半15分ほど質疑応答の時間をとりたいと思う。その際、学生諸君が議論に積極的に参加されることを希望する。また毎回授業の最後5分間に、授業で重要だと感じた点、感想・要望を「アンケート」として書いて提出してもらおう。それに対するコメントは次回の授業冒頭で行う。また疑問点については、授業中に質問していただいてもかまわないし、授業最後の「アンケート」あるいはメールで提示していただいてもかまわない。
履修の留意点：	注意点は特にない。WEB上の「授業計画」に次回授業の内容は逐次掲載するので、予習される際には参考にさせていただきたい。ただし基本的には、授業に集中していただきたいし、復習により授業内容の確認を行っていただきたい。学期末試験はそれにより十分対処できるはずである。
目標と評価：	「現代日本の政治Ⅰ」（春学期）と同様、自分の周囲で起きている問題、新聞やテレビのニュースで取り上げられる問題が、自分の生活、自分の生き方にどう関わるのか。そういう問題意識をもってもらうことが目的である。 さらに本授業では、戦後日本の歴史を確認しつつ、日本国憲法のもとで戦後日本の民主主義が、具体的制度としてどのように機能してきたのか理解していただきたい。 評価点は以下の形で算出する。 ・出席時の積極的発言による貢献（10%） ・中間レポート（40%） ・学期末試験（50%）
教科書：	個人と国家（集英社新書） 樋口陽一 集英社 680円 「心」と戦争 高橋 哲哉 晶文社

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「国際社会と日本Ⅰ」（担当者：山田 寛）の履修の手引き

科目名：	国際社会と日本Ⅰ
担当者：	山田 寛
対象学生：	経営経済学部1年・短期大学部1年
設置学期：	春
概要：	アジア、とくに東アジアの現代史の講義。21世紀の新しい頁を開いて行くには、ぜひとも古い頁、それもすぐ前の頁を読んでおく必要がある。第2次大戦後から現在までアジアで起きたことを学ぶ。戦争、内戦、革命、虐殺、民主化、経済開発・・・アジアは激動してきた。そんなアジアと日本について、できるだけ客観的に、基本的事実を知ろう。それをもとに、21世紀のアジアと日本の関係を考えて行こう。
授業方法：	講義。今学期は教科書を使ってみる。が、ビデオなどもできるだけ使用し、わかりやすく説明する。 ①アジアの中で日本が抱えている問題②日米同盟③北朝鮮・韓国④中国⑤ベトナム⑥カンボジア⑦ミャンマー⑧インドネシア・・・などのできごと、問題を順に取り上げる。
履修の留意点：	とくになし。
目標と評価：	期末試験の成績（理解の度合い）と平常点（関心の度合い）をあわせて評価する。 アジアの問題、国際問題への関心を広げてほしい。
教科書：	現代アジア最新事情－21世紀アジア太平洋諸国と日本 大阪経済法科大学出版部 _____ _____ _____

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「国際社会と日本Ⅱ」（担当者：山田 寛）の履修の手引き

科目名：	国際社会と日本Ⅱ
担当者：	山田 寛
対象学生：	経営経済学部1年・短期大学部1年
設置学期：	秋
概要：	いま世界にどんな問題があるのか、世界で何が起きているか、その中で日本はどうすべきか、日本人はどう生きるべきかを学習する。政治・経済から文化まで、さまざまな問題を取り上げたい。
授業方法：	講義。ビデオなどをできるだけ使い、具体的に説明する。1国の問題より、戦争、テロ、エイズ、開発、地域協力、人権、貧困など、グローバルな問題を中心とする。現に起きているできごと、同時進行で取り上げる。教科書は使用しない。
履修の留意点：	春学期に「国際社会と日本Ⅰ」を履修していることが望ましいが、履修していなくても問題はない。
目標と評価：	グローバルな問題への関心を広げてほしい。期末試験の成績と平常点をあわせて評価する。
教科書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「社会認識の歩みⅠ」（担当者：久保 真）の履修の手引き

科目名：	社会認識の歩みⅠ
担当者：	久保 真
対象学生：	経営経済学部1年・短期大学部1年
設置学期：	春
概要：	我々が住まう近代社会は、それ以前の前近代社会とは根本的に異なるものと考えられてきました。そのような差異ゆえに、社会を如何に認識するかはここ数百年間繰り返し人類のテーマとされてきたのです。本講義では、過去の思想家が「近代社会」を如何に特徴づけてきたかを見てみることで、「近代社会」の「近代性」とはどのようなものかを考えていきたいと思ひます。 取り扱う思想家は、(1)福沢諭吉(2)アダム・スミス(3)カール・マルクス(4)アレクシス・ド・トクヴィル(5)オルテガ・イ・ガゼット(6)フリートリッヒ・ニーチェ(7)中根千枝 を予定しています。
授業方法：	通常の講義によっておこないますが、できるだけ双方向性を確保すべく努力します。
履修の留意点：	特にありません。
目標と評価：	目標は、社会思想上の概念や通念を理解し、概念的な操作がある程度できるようになることです。 評価は、通常授業週の取り組み（20%）と試験期間に行う筆答試験（持ち込み可、80%）にもとづいて下します。
教科書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。



「社会認識の歩みⅡ」（担当者：久保 真）の履修の手引き

科目名：	社会認識の歩みⅡ
担当者：	久保 真
対象学生：	経営経済学部1年・短期大学部1年
設置学期：	秋
概要：	<p>現在地球上のほとんどの人々は、利益社会—市場社会とか商業社会とか資本主義社会とも呼ばれる—のなかで生活をしています。そこでは、人々は他人とお金を介して関係し、お金を巡って競争し、お金が全てという風潮が支配しています。そのために、人々はかつて経験できなかったような自由と富裕を満喫していますが、他方で、そのような自由や富裕を享受できない人間や、身勝手な人間などの存在が問題にされることもしばしばです。本講義では、過去の思想家が、このような利益社会の功罪をどのようにとらえてきたのかを示すことによって、受講生の経済社会認識の第一歩となることを目的としています。</p> <p>取り扱う思想家は、(1)フリードリッヒ・ハイエク(2)ジョン・メイナード・ケインズなどを予定しています。</p>
授業方法：	通常の講義によっておこないますが、できるだけ双方向性を確保すべく努力します。
履修の留意点：	特にありません。
目標と評価：	<p>目標は、社会思想上の概念や通念を理解し、概念的な操作がある程度できるようになることです。</p> <p>評価は、通常授業週の取り組み（20%）と試験期間に行う筆答試験（持ち込み可、80%）にもとづいて下します。</p>
教科書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「文化にみる現代社会Ⅰ」（担当者：有原 誠治）の履修の手引き

科目名：	文化にみる現代社会Ⅰ
担当者：	有原 誠治
対象学生：	経営経済学部1年・短期大学部1年
設置学期：	春
概要：	アニメーションやさまざまな文化に反映された現代社会のさまざまな断面を明らかにしつつ、現実社会を理解する手助けとする。加えて、文化の役割を明らかにし、文化と社会のあり方を考える。学期末には、学生自身が文化(作品)を題材に、そこに現れた現代社会を小論文によって明らかにすることを到達目標とする。
授業方法：	テキスト(レジュメ)に添っての講義。映像鑑賞を多用して授業を進める。
履修の留意点：	1. 「アニメーションと現代の日本の文化」2. 「アニメなどの映像メディアの役割」3. 「メディアとコモディティズム」4. 「メディアと子どもの発達」5. 「メディア・リテラシーの役割」6. 「人間と文化と自然」8. 「平和の文化と国際社会」
目標と評価：	最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。 数回の課題論文の提出で30点。その内容や表現力で50点。出席や授業態度で20点。合計で100点。発言や
教科書：	映像文化と現代社会（各授業ともレジュメを用意） 有原 誠治 なし 子どもたちに夢と平和を 有原誠治 新日本出版社 メディア・リテラシー 菅谷明子 岩波書店 子育ての脳生理学 高木貞敬 朝日新聞社 世界がもしも100人の村だったら 池田香代 マガジンハウス

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「文化にみる現代社会Ⅱ」（担当者：有原 誠治）の履修の手引き

科目名：	文化にみる現代社会Ⅱ
担当者：	有原 誠治
対象学生：	経営経済学部1年・短期大学部1年
設置学期：	秋
概要：	アニメーションやさまざまな芸術文化に反映された現代社会のさまざまな断面を明らかにしつつ、現実社会を理解する手助けとする。加えて、文化の役割を明らかにし、文化と社会のあり方を考える。学期末には、学生自身が文化(作品)を題材にそこに現れた現代社会を小論文によって明らかにすることを到達目標とする。
授業方法：	テキスト(レジュメ)に添った講義。映像鑑賞を多用して授業を進める。
履修の留意点：	1. 「世界のアニメーション」2. 「日本のアニメーションの特徴について」3. 「アニメやマンガ文化と現代社会」4. 「表現の自由と表現規制」5. 「文化がつなぐ現代国際社会」
目標と評価：	最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。 数回の課題論文の提出で30点。内容や表現力で50点。出席や授業態度で20点。合計で100点。 発言や
教科書：	映像文化と現代社会（各授業ともレジュメを用意） 有原 誠治 なし 子どもたちに夢と平和を 有原誠治 新日本出版社 メディア・リテラシー 菅谷明子 岩波書店 子育ての脳生理学 高木貞敬 朝日新聞社 世界がもしも100人の村だったら 池田香代 マガジンハウス

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「現代企業と社会」（担当者：天野 義也）の履修の手引き

科目名：	現代企業と社会
担当者：	天野 義也
対象学生：	経営経済学部1年・短期大学部1年
設置学期：	春
概要：	<p>①「大学生」として、何故この科目を履修するのか？          ——人間としての「風格作り」とは何か</p> <p>②「戦後日本社会・企業の変化」と、「現在の世界の中における日本」の位置付けは？          ——世界工場が「日本から中国へ」移行、何を意味するのか</p> <p>③「労働」の質的变化は我々の生活にどんな変化を求めているのか？          ——肉体労働から「知的労働」へ</p> <p>④「現実の社会・企業生活」とは？          ——社会・企業のなかでどんな「自己実現」を目指すのか          「女性の社会進出」と社会・企業構造の変化とは</p> <p>⑤「アメリカ経営」と「日本経営」の違いは？          ——「経営」の本質はなにか</p> <p>⑥「人間としての生き様」と、「考え抜く」ということ</p>
授業方法：	<p>①社会・企業の具体的事例（私の経験、新聞、雑誌等）を示しながら、「企業の経営理念」や「人間の生き様」について講義する</p> <p>②生徒数によるが、時々、課題を決めリポートの実習をする</p>
履修の留意点：	<p>①教室に出る以上は自分なりの問題意識をもって受講すること</p> <p>②1人でも私の授業を真剣に聞いている限り、私語を許さないので喋りたい生徒は静かに教室を退場すること</p>
目標と評価：	<p>〔目標〕</p> <p>①様々な社会現象を的確に把握し、複眼的な思考で対応する力を養成する</p> <p>②大学生として、真の大人として、社会人への心構えを習得する</p> <p>③自己実現に向け、自分の頭で考える力を身に付ける</p> <p>④人間としての「風格」を身に付ける大切さを知る</p> <p>〔評価〕</p> <p>①自分の頭で考えることを主眼としているために、前期の期間中に2回ほど論文の作成を要求する</p> <p>②出席を重視しているので、授業中に出てくるテーマを課題に論文を書かせるのでよく授業を聞いていないとピント外れの論文になってしまうので注意</p> <p>③時々、生徒諸君と直接議論をしながら生徒諸君の問題意識を確認</p>
教科書：	

※最終評価は、評価点7割，出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「現代企業と人材」（担当者：天野 義也）の履修の手引き

科目名：	現代企業と人材
担当者：	天野 義也
対象学生：	経営経済学部1年・短期大学部1年
設置学期：	秋
概要：	①「大学生」として、何故この科目を履修するのか？——社会は諸君に対して、何を望んでいるか？ ②日本の社会・企業はどのように変化してきたか、また今後、どのような社会が出現するか？この中で諸君はどんな生活をしていくのか？——世界と日本との関係 ③労働の質的変化は、われわれの生活にどんな影響を与えるか？——肉体労働から「知的労働」へ ④現実の社会・企業と自己実現について——「女性の社会進出」により社会・企業の構造はどのように変化するか？ ⑤日本式経営とアメリカ式経営の違いは？——「経営（マネージメント）」とは？ ⑥人間としての生き方と、考えながら生きていくということとは？——「風格」「論理的思考」を持った人間への成長
授業方法：	①社会現象・企業活動の具体的事例（私の経験、新聞、雑誌等）を示しながら、「企業の経営理念」「人間の生き様」について講義する ②生徒数によるが、課題を決めレポートの実習をする
履修上の留意点：	①授業に出る以上は、自分なりの「問題意識」をもって受講すること ②1人でも私の授業を真剣に聞いている限り、私語を許さないので喋りたい生徒は、静かに教室を出ること
目標と評価：	[目標] ①さまざまな社会現象を的確に把握し、「複眼的な思考」で対応する力を養成する ②大学生として、真の大人として「社会人への心構え」を習得する ③「自己実現」に向け、自分の頭で考える力を身に付ける ④人間としての「風格」を身につける大切さを知る [評価] ①自分の頭で考えることを主眼としているために、後期の期間中に2回ほど「論文」の作成を要求する ②出席を重視しているので、授業中に出てくるテーマを課題に論文を書かせるので、よく授業を聞いていないとピント外れの論文になってしまうので注意 ③時々、生徒諸君と直接議論をしながら生徒諸君の問題意識を確認
教科書：	特になし。

「人間社会とテクノロジーⅠ」（担当者：生井 良一）の履修の手引き

科目名：	人間社会とテクノロジーⅠ
担当者：	生井 良一
対象学生：	経営経済学部2年・短期大学部2年
設置学期：	春
概要：	<p>20世紀に科学技術は急激な発達をとげた。身近なところでは、テレビも、車も、エアコンもあり、快適で便利な生活が送れるようになった。飛行機や新幹線を使えば行きたい所へも速く行けるようになった。最近では、携帯電話やインターネットの利用も活発となっている。パソコンはこれまで難しかったことも簡単にやっつけてのけるようになった。</p> <p>その一方で、ややもすると人間が機械に使われてはいないだろうか。便利になったのに、生活が忙しくなっていないだろうか。あるいは人間らしさというものが失われてはいないだろうか。技術と人間の関係をこうした技術のプラス面とマイナス面とから考えてみる。</p> <p>生殖医療や臓器移植について考えてみたい。医療技術は生命そのものの根源まで進歩したが、これは社会的に大きな問題を投げかけている。そこで生殖医療やクローン技術、その倫理的問題、あるいは脳死や臓器移植といったことに、より多くの時間をさきたいと考えている。自分も含めて、人間が生きてはということだろうか。</p> <p>一方で、交通機関の発達についても考えてみたい。人や馬の力に頼っていた時代から鉄道や車の時代になった。そのことで、人の行動様式や町の在りかたが変わってきた。行きたい所へ簡単に行けるようになった。それは、住まいと職場の分離をもたらした。車では、渋滞や大気汚染も問題となっている。放置自転車も問題となっている。便利ではあるが、不便なのだ。これらの解決策はどのようなだろうか。一方、ゼロの発見や時計の歴史などのエピソードも紹介したい。なぜ、うるう年やうるう秒があるのかご存知だろうか。こよみの歴史もおもしろい。そして、過去の先人たちの興味あるエピソードも紹介したい。そこから昔の人と現代人について考えてみたい。</p> <p>また、福祉にかかわる技術や環境にかかわる技術についてもぜひ取り上げてみたい。</p>
授業方法：	講義内容を具体的に理解できるようにいろいろな事例を紹介する。そのためビデオ教材を使用したり、必要に応じプリントを配布する。質問は大歓迎。
履修の留意点：	[人間社会とテクノロジーⅡ]とは別にこの科目だけでも受講することはできる。なお、受講する上で、必ずしも技術に関する知識は必要としない。ただ、できれば生殖技術や臓器移植に関するニュース、技術と人間に関するニュースなどには関心を持って欲しい。
目標と評価：	<p>目標1：技術の進歩はすばらしいが、主体はあくまでも人間であることをしっかり認識して欲しい。</p> <p>目標2：最近の医療技術についてはいろいろな意見があることを知って欲しい。そして、そのケースの背景に目を向けて欲しい。</p> <p>目標3：技術と人間社会の進歩を対比して、現代生活を考えて欲しい。</p> <p>評価については、学期末の試験あるいはそれに替るレポート、それに出席点で決定する。</p>
教科書：	教科書は使用しない。ただ、折にふれ、関係のある参考書を紹介する。

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「人間社会とテクノロジーⅡ」（担当者：生井 良一）の履修の手引き

科目名：	人間社会とテクノロジーⅡ
担当者：	生井 良一
対象学生：	経営経済学部2年・短期大学部2年
設置学期：	秋
概要：	<p>化学技術が発達したおかげで便利な世の中となった。やく20年前に初めてワープロが開発された。その時の値段は一台600万円以上もしたが、日本語を自由に書けるすばらしさに皆驚嘆した。それが今やパソコン、インターネットの時代となった。障害者もパソコンのおかげで世界が広がった。その一方で、情報交換の手段は進んだのに、人間関係が希薄になったとも言われている。これは、どうしたことだろうか。さらには、ややもすると人間が機械に使われるという心配もある。機会は道具であり、それを使うのは人間なのだ。機械は社会の在りかたまで変えてしまうかもしれない。だからこそ、科学技術と社会と人間の関係に注目して、技術のプラス面とマイナス面について考えたい。その中で、科学技術の歴史にも触れることになるだろう。</p> <p>まず、情報化社会について、いろいろな事例を紹介しながら考えたい。情報のやりとりは手軽なものとなった。その便利さは計り知れないほどであるため、多くの人が参加している。したがって、そこには必ずルールが必要となる。匿名だからといって、何を書いてもいいというものではない、相手を傷つけるようなことをしてはいけないのだ。また、プライバシーが漏れてしまう心配もある。加えて、意識的に悪用するケースもある。悪徳商法などがその典型だ。せつかくのすばらしい情報機器も使う人しだいで良くもなり、悪くもなる。情報化社会にあっては、これらプラス面とマイナス面をしっかりと認識し、有効な利用を心がけたいものである。どんなにすばらしい機器であっても、それを使うのは人間なのである。</p> <p>また、インターネットにはさまざまな情報が載っている。正しい情報があれば、誤った情報もある。中には危険な情報もある。どれが信頼できる情報化、それを決めるのは利用者自身である。その判断力をどう養えばよいのだろうか。こう考えてくると、情報とは何だろうか、その意味をあらためて考えてみよう。</p> <p>次にエネルギー使用の歴史について考えてみたい。人類は火の使用に始まり、ついには原子力を手に入れた。その間に産業革命がおこって、石炭の使用が始まった。ついで石油の使用。車や電気製品の開発はエネルギーをますます必要とした。大量の石油石炭の使用は地球温暖化をはじめ、いろいろな環境問題を引き起こした。そこで、石油石炭からのエネルギー変換を迫られている。これをどう乗り切るか、過去のエネルギー危機などと合わせて現在の状況を紹介したい。</p> <p>話は変わるが、人類は宇宙に足を踏み出した。そしてさまざまな危機を使って、宇宙の始まりから宇宙の構造まで解明しようとしている。ときには、こうした宇宙の神秘についても語りた。また、テクノロジーの進歩が障害者にどんな恩恵をもたらしているか、実例をあげながら紹介したい。</p>
授業方法：	講義内容を具体的に理解できるようにいろいろな事例を紹介する。そのためビデオ教材を使用したり、必要に応じプリントを配布する。質問は大歓迎。
履修の留意点：	〔人間社会とテクノロジーⅠ〕を履修していなくても、この科目を履修することはできる。なお、授業に際しては、自分の経験と照らし合わせながら聞いて欲しい。
目標と評価：	<p>目標1：インターネットやメールはルールを守って使うこと          目標2：情報社会の危険なこともしっかりと認識すること          目標3：機械に使われないよう、人間が主体であること          評価については、学期末の試験あるいはそれに替るレポート、それに出席点を合わせて決定する。</p>
教科書：	とくに教科書は使用しない。その時々に応じて関係のある参考書を紹介する。

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「人間・社会・性Ⅰ」（担当者：河村 重行）の履修の手引き

科目名：	人間・社会・性Ⅰ
担当者：	河村 重行
対象学生：	経営経済学部2年・短期大学部2年
設置学期：	春
概要：	<p>「人間・社会・性」の授業の内容は、セクソロジー（性科学）という分野で、学際的な性格をもっています。世の中に存在する私たちの性は、男性と女性しかないように一般的には思われていますが、実際にはいろいろな程度の男性的な女性や女性的な男性がいます。また性愛の指向が同姓に向かうこともあり、両性に向かうこともあります。さらに「性同一性障害」として女性でありながら男性として生きたい人、男性でありながら女性として生きたい人などさまざまです。このような現象を、受精・発生・分化のプロセスを通して考えてみます。私たちはなぜ性に近づくのでしょうか。生殖としての性、人間関係の深まりとしての性、気持ちがいい、楽しいという享楽としての性を考えながら分析してみます。私たちの性は、社会や社会のあり方と深くかかわっています。そのことを女性差別撤廃条約や男女雇用機会均等法を参考にしながら考えてみます。売買春がどうしてなくなるのでしょうか。痴漢行為、セクシャル・ハラスメント、レイプ（性暴力）がどうして起こるのでしょうか。</p>
授業方法：	講義が中心ですが、視聴覚教材をできるだけ使用する。
履修の留意点：	「人間・社会・性Ⅰ」は春学期で完了しますが、「人間・社会・性Ⅱ」はⅠと関係が深いので秋学期のⅡを履修することが望ましいと思います。もちろんⅠを履修しなくてもⅡを履修できます。教科書はⅠ・Ⅱ共通です。復習・予習・レポート作製に教科書は重要な資料となりますから必ず持っていることが必要です。
目標と評価：	<p>この授業は次のような目標をもっています。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 性に関する科学的な知識と人権感覚を身につける。</li> <li>2. 自分と同じように他人の性と性のあり方を大切にし、性の多様性を認め、豊かなセクシュアリティを身につける。</li> <li>3. 女らしさ、男らしさに拘るのではなく自分らしさを大切にする、つまりジェンダーフリーとして生活できること。</li> <li>4. 社会の性差別構造に目を向け、自ら差別観を克服できること。</li> </ol> <p>評価は4～5回のレポートを出題し、その平均で評価します。</p>
教科書：	<p>ニューセクソロジー・ノート 村瀬 幸浩 十月舎（発売・星雲社） 2002</p>

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。



「人間・社会・性Ⅱ」（担当者：河村 重行）の履修の手引き

科目名：	人間・社会・性Ⅱ
担当者：	河村 重行
対象学生：	経営経済学部2年・短期大学部2年
設置学期：	秋
概要：	<p>人類は進化の結果、性と生殖を分離させて生活することができるようになりました。しかし性と生をばらばらに分断することはできないし、許されません。ところが性を生からひきはなして下半身の性だけが一人歩きをしているのが現実ではないでしょうか。性という言葉から性行為や性器しかイメージできないのはそのためでしょう。</p> <p>「人間・社会・性Ⅱ」は、性と生は一体のものであるという視点から「人間・社会・性Ⅰ」の内容を一層深めていきます。</p> <p>皆さんは「リクロダクティブ・ヘルス/ライツ」という言葉を耳にしたことがありますか。「性と生殖にかかわる健康と権利」という意味ですが、この授業ではこの立場に立って、人工妊娠中絶・避妊・出産の意欲や必要性やメカニズムについて学び、さらに性感染症とは何かを考えます。</p> <p>本授業の後半では、性暴力を扱います。皆さんは普通レイプと言っていますね。レイプは特別な人が人気のない所で突然起こすものでしょうか。決してそうではありません。レイプのほとんどは計画的で人間で起こされる日常的なものです。</p>
授業方法：	講義が中心ですが、ビデオをたくさん使います。
履修の留意点：	「人間・社会・性Ⅱ」は春学期の授業を履修してなくても履修できます。教科書を必ず用意してください。
目標と評価：	<p>この授業は次のような目標をもっています。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 性に関する科学的な知識と人権意識を身につける。</li> <li>2. 生殖をめぐる科学と人間関係を深く知る。</li> <li>3. 豊かなセクシュアリティを身につける。</li> <li>4. 性を通して豊かな人間関係がつけられる能力を身につける。</li> </ol> <p>評価は4～5回レポートを出題し、その平均で評価します。</p>
教科書：	<p>ニューセクソロジー・ノート 村瀬幸浩 十月舎(発売・星雲社) 2002 ※改訂片反が出るかも知れません。</p>

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「現代社会とファッション」（担当者：高梨 正見）の履修の手引き

科目名：	現代社会とファッション
担当者：	高梨 正見
対象学生：	経営経済学部2年・短期大学部2年
設置学期：	春
概要：	今日は、何を着ていこうか、友人に今日の自分をどう印象付けようか、自分の家を出るとき、考えた事ありますか？これは自分のファッション感覚を育む生活上の基本の一つではないでしょうか。ファッションは人格を表現（記号）する身近な方法の一つです。 ファッションとは、流行、はやり、服飾と辞書にあります、現在は服飾として主に使われていますが、この授業はファッションを服飾に捕われず「流行」と捉え、日常の生活事例をテーマとして、ライフスタイルとファッションとの係わりを皆さんと一緒に考察します。 同時にクリエイティブ、企画とは何かを考え学びます
授業方法：	テーマ設定による講義。Q&Aによる対話。自分で感想とアイデアをまとめる企画実習。プロジェクターを活用。 講義 40分 対話（実習）30分
履修の留意点：	日々の生活の中で周りに起きているファッションを、常に“自分ならこうする”の視点を持ち、観るよう生活すること。
目標と評価：	<現代社会におけるファッションの意味と役割>への理解と興味の醸成。 自分の日常的出来事に繋がる情報学習を中軸とする。
教科書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「現代社会とデザイン」（担当者：高梨 正見）の履修の手引き

科目名：	現代社会とデザイン
担当者：	高梨 正見
対象学生：	経営経済学部2年・短期大学部2年
設置学期：	秋
概要：	デザインは生活をする我々にとって、心を豊かにしてくれる大切な手段であり、視覚を通じたコミュニケーション表現を豊富に出来る方法の一つです、そして生活に大きな影響を与えてきました。建築、インテリア、インダストリアル、グラフィック、アパレル、広告デザイン等などの世界があります。デザインをするのにも、デザインを感じるのにも、クリエイティビティ（創造力）が必要です。日常的な事象から、デザインと生活との関わりを皆さんと考察し、同時にデザインニング、クリエート、プランニングについて学びます
授業方法：	テーマ設定による講義。Q&Aによる対話。 自分で感想とアイデアをまとめる企画実習。 プロジェクター、VTRを活用した視覚による学習。 講義 40分 対話（実習）30分。
履修の留意点：	日々の生活の中で周りにあるデザインを、常に“自分ならこうする”の視点を持ち、観るよう生活すること。
目標と評価：	<現代社会におけるデザインの意味と役割>への理解と興味の醸成。 自分の日常的出来事に繋がる情報学習を中軸とする。
教科書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「社会と生涯スポーツ」（担当者：坂口 憲政）の履修の手引き

科目名：	社会と生涯スポーツ
担当者：	坂口 憲政
対象学生：	経営経済学部2年・短期大学部1年
設置学期：	通年
概要：	<p>日々、高齢化がすすむ現代社会において、どのようにしたら充実したライフスタイルが築けるだろうか。そのことをスポーツという視点から考えてみると、「健康の維持・増進に励み、スポーツを楽しむ、ゆとりある生活」ということが大前提である。IT化が進む中、自然に目をむけながらスポーツを楽しむことや、恵まれた食生活という反面、健康を害する中高年世代にとって、適度な運動というものはとても重要なはずである。「社会と生涯スポーツ」の授業では、まず、恵まれた自然の中でからだを動かすこと、汗を流すことの快適さをしり、そして、スポーツを「文化」ととらえて学んでいきたい。春学期は実技（各種スポーツ）と講義を行う。秋学期は学内での授業はなく、12月ごろ（予定）の海外スポーツ研修に参加する。</p> <p>《コース紹介》</p> <p>① パラオ・ライセンス取得コース *パラオスケジュール ～パラオにてダイビングC級ライセンス取得を目的としたコース。 費用：2002年度実績 ￥241,600（5泊7日）</p> <p>② パラオ・ファンダイブコース *スケジュール（別途説明） ～すでにライセンスを取得している学生でパラオにてダイビング楽しむコース。 費用：2002年度実績 ￥218,600（5泊7日）</p> <p>③ パラオ・アクティビティコース *スケジュール（別途説明） ～世界一透明度の高い海でシーカヤックやシュノーケルを行い、ジャングルに覆われた島を散策するなど、自然をフルに楽しむコース （TBS「サバイバー」の舞台になったところです。） その他、オプションでダイビングやフィッシングも可 費用：2002年度実績 ￥184,700（5泊7日）（オプション代は含まない）</p>
授業方法：	<ul style="list-style-type: none"> <li>・春学期は様々なスポーツを行う（ゴルフ・バドミント・卓球・ソフトバレーボールなど）</li> <li>・秋学期は講義を含む事前研修と実習の参加のみ（実技授業は行わない）</li> <li>・実習は12月の2週目頃を予定</li> </ul> <p>* 春学期の授業参加が芳しくない場合、実習に参加できないことがある。</p>
履修の留意点：	秋学期の海外スポーツ実習に参加するには、春学期の授業の履修が必須である。（履修希望者は必ず第1週目の授業に参加すること。）
目標と評価：	春学期の実技授業の参加と秋学期の海外スポーツ実習の参加・内容によって評価するが、実習に参加しないと評価できない。
教科書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「社会と生涯スポーツ」（担当者：平田 貴）の履修の手引き

科目名：	社会と生涯スポーツ
担当者：	平田 貴
対象学生：	経営経済学部2年・短期大学部1年
設置学期：	通年
概要：	<p>日々、高齢化がすすむ現代社会において、どのようにしたら充実したライフスタイルが築けるだろうか。そのことをスポーツという視点から考えてみると、「健康の維持・増進に励み、スポーツを楽しむ、ゆとりある生活」ということが大前提である。IT化が進む中、自然に目をむけながらスポーツを楽しむことや、恵まれた食生活という反面、健康を害する中高年世代にとって、適度な運動というものはとても重要なはずである。「社会と生涯スポーツ」の授業では、まず、恵まれた自然の中でからだを動かす、汗を流すことの快適さをしり、そして、スポーツを「文化」ととらえて学んでいきたい。春学期は実技（各種スポーツ）と講義を行う。秋学期は学内での授業はなく、12月ごろ（予定）の海外スポーツ研修に参加する。</p> <p>《コース紹介》</p> <p>① パラオ・ライセンス取得コース *パラオスケジュール ～パラオにてダイビングC級ライセンス取得を目的としたコース。 費用：2002年度実績 ￥241,600（5泊7日）</p> <p>② パラオ・ファンダイブコース *スケジュール（別途説明） ～すでにライセンスを取得している学生でパラオにてダイビング楽しむコース。 費用：2002年度実績 ￥218,600（5泊7日）</p> <p>③ パラオ・アクティビティコース *スケジュール（別途説明） ～世界一透明度の高い海でシーカヤックやシュノーケルを行い、ジャングルに覆われた島を散策するなど、自然をフルに楽しむコース （TBS「サバイバー」の舞台になったところです。） その他、オプションでダイビングやフィッシングも可 費用：2002年度実績 ￥184,700（5泊7日）（オプション代は含まない）</p>
授業方法：	<p>春学期は様々なスポーツを行う（ゴルフ・バトミント・卓球・ソフトバレーボールなど） ・秋学期は講義を含む事前研修と実習の参加のみ（実技授業は行わない） ・実習は12月の2週目頃を予定</p> <p>* 春学期の授業参加が芳しくない場合、実習に参加できないことがある。</p>
履修の留意点：	秋学期の海外スポーツ実習に参加するには、春学期の授業の履修が必須である。（履修希望者は必ず第1週目の授業に参加すること。）
目標と評価：	春学期の実技授業の参加と秋学期の海外スポーツ実習の参加・内容によって評価するが、実習に参加しないと評価できない。
教科書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「社会と生涯スポーツ」（担当者：星 ひろみ）の履修の手引き

科目名：	社会と生涯スポーツ
担当者：	星 ひろみ
対象学生：	経営経済学部2年・短期大学部1年
設置学期：	通年
概要：	<p>日々、高齢化がすすむ現代社会において、どのようにしたら充実したライフスタイルが築けるだろうか。そのことをスポーツという視点から考えてみると、「健康の維持・増進に励み、スポーツを楽しむ、ゆとりある生活」ということが大前提である。IT化が進む中、自然に目をむけながらスポーツを楽しむことや、恵まれた食生活という反面、健康を害する中高年世代にとって、適度な運動というものはとても重要なはずである。「社会と生涯スポーツ」の授業では、まず、恵まれた自然の中でからだを動かし、汗を流すことの快適さをしり、そして、スポーツを「文化」ととらえて学んでいきたい。春学期は実技（各種スポーツ）と講義を行う。秋学期は学内での授業はなく、12月ごろ（予定）の海外スポーツ研修に参加する。</p> <p>《コース紹介》</p> <p>① パラオ・ライセンス取得コース *パラオスケジュール ～パラオにてダイビングC級ライセンス取得を目的としたコース。 費用：2002年度実績 ￥241,600（5泊7日）</p> <p>② パラオ・ファンダイブコース *スケジュール（別途説明） ～すでにライセンスを取得している学生でパラオにてダイビング楽しむコース。 費用：2002年度実績 ￥218,600（5泊7日）</p> <p>③ パラオ・アクティビティコース *スケジュール（別途説明） ～世界一透明度の高い海でシーカヤックやシュノーケルを行い、ジャングルに覆われた島を散策するなど、自然をフルに楽しむコース （TBS「サバイバー」の舞台になったところです。） その他、オプションでダイビングやフィッシングも可 費用：2002年度実績 ￥184,700（5泊7日）（オプション代は含まない）</p>
授業方法：	<ul style="list-style-type: none"> <li>・春学期は様々なスポーツを行う（ゴルフ・バトミント・卓球・ソフトバレーボールなど）</li> <li>・秋学期は講義を含む事前研修と実習の参加のみ（実技授業は行わない）</li> <li>・実習は12月の2週目頃を予定</li> </ul> <p>*春学期の授業参加が芳しくない場合、実習に参加できないことがある。</p>
履修の留意点：	秋学期の海外スポーツ実習に参加するには、春学期の授業の履修が必須である。（履修希望者は必ず第1週目の授業に参加すること。）
目標と評価：	春学期の実技授業の参加と秋学期の海外スポーツ実習の参加・内容によって評価するが、実習に参加しないと評価できない。
教科書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「現代企業とジェンダー」（担当者：青山 悦子）の履修の手引き

科目名：	現代企業とジェンダー
担当者：	青山 悦子
対象学生：	経営経済学部2年・短期大学部2年
設置学期：	春
概要：	ジェンダー（社会的性差）の問題は、様々な分野で取り上げられているが、本講義では、企業が、労働の場において、ジェンダーの問題をいかに取り扱ってきたのか、あるいは、これからいかに取り扱おうとしているのかという点を学びながら、男女が共に平等に処遇される社会について、ヨーロッパの例も参考にしつつ考察する。 1、労働におけるジェンダー・アプローチ 2、雇用の女性化とジェンダー構造 3、ジェンダー・ニュートラル（性に偏らない）社会の構築
授業方法：	教科書は特に指定しないが、参考文献は、そのつど紹介する。資料も随時配布し、最新の統計、情報を使用しながら、履修者参加型の授業にしていく。
履修の留意点：	広く男女の履修者を希望する。
目標と評価：	原則として、春学期末の定期試験で評価するが、平常の授業への参加度も加味される。
教科書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「現代社会と法Ⅰ」（担当者：古川 史麻呂）の履修の手引き

科目名：	現代社会と法Ⅰ
担当者：	古川 史麻呂
対象学生：	経営経済学部1年・短期大学部1年
設置学期：	春
概要：	現代の社会を規律する法律の仕組みを理解することを目的に授業をすすめる。
授業方法：	講義を中心にビデオ等を利用する。 必要に応じて資料等はコピーで配布の予定。
履修の留意点：	日常、社会問題に目を向けるよう新聞などを通じて積極的に求め、自分の意見を持てるよう努力することが求められる。
目標と評価：	①授業中不定期に論述試験やレポートの提出を求める。例えば「～について述べよ」あるいは「～について論ぜよ」といった問題を提示する。 ②評価は、回答の内容が問題に対して的確であると同時に、誤字・脱字がないこと等も評価の対象にする。 また平常点(授業における発言や意見、意思表示等)も重視する。
教科書：	授業において説明する

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。



「現代社会と法Ⅱ」（担当者：古川 史麻呂）の履修の手引き

科目名：	現代社会と法Ⅱ
担当者：	古川 史麻呂
対象学生：	経営経済学部1年・短期大学部1年
設置学期：	秋
概要：	現代社会と法Ⅰをベースにして具体的事例を多くとり上げて授業をすすめる。
授業方法：	講義を中心にビデオ等を利用する。 必要に応じて資料等はコピーで配布の予定。
履修の留意点：	現代社会と法Ⅰを履修しておくことが望ましい。 自分の意見が持てるように常日頃諸問題に留意しておくこと。
目標と評価：	現代社会と法Ⅰと同じ。
教科書：	授業において説明する

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「経済学史 I」（担当者：佐藤 方宣）の履修の手引き

科目名：	経済学史 I
担当者：	佐藤 方宣
対象学生：	経営経済学部2年
設置学期：	春
概要：	この「経済学史 I」では、経済学という独特の思考体系がどのように誕生してきたのか、その歴史的プロセスについて学びます。具体的には、およそ200年ほど前に端を発する古典派と呼ばれる経済学体系の形成期が対象となります。単に経済学や経済学者についての歴史的知識を学ぶだけではなく、それぞれの時代において人々がどのような問題に直面していたのか、そして個々の経済学説・経済思想がそれに対していかなるかたちで解答しようとする試みであったのか、という点に焦点をあてたいと思います。また現在では自明視されている経済学の概念や分析用具がどのような歴史的経緯で確立してきたのかを学ぶことで、経済学をより深く理解できるようになることを目指します。
授業方法：	基本的に講義形式で行いますが、参加人数や時間の許す範囲で出来れば討論の時間やグループ報告の機会をつくりたいと思います。また授業時間内にミニットペーパーを記入してもらい、履修者からの意見・質問を参考になるべくインタラクティブな授業となるようにしたいと考えています。
履修の留意点：	履修に際して特別な理論的・歴史的知識を前提とはしません。ただし適宜指示する参考文献や配布資料などを参照して、積極的な態度で講義に参加することを望みます。
目標と評価：	講義の目標：第一に、経済学の成り立ちとその後の発展についての歴史的知識を習得すること、第二に、基本的な概念や分析用具の歴史的形成過程を知ることで経済学をより深く理解できるようになること。評価について：授業時間中に記入してもらったミニットペーパーならびに討論その他の機会における授業への貢献度を50%、学期末試験の成績を50%の割合で考慮します。
教科書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「経済学史Ⅱ」（担当者：佐藤 方宣）の履修の手引き

科目名：	経済学史Ⅱ
担当者：	佐藤 方宣
対象学生：	経営経済学部2年
設置学期：	秋
概要：	この「経済学史Ⅱ」では古典派以降の経済学の歴史的発展過程について学びます。具体的には19世紀後半から現代に至るまでの時期を扱います。単に経済学や経済学者についての歴史的知識を学ぶだけではなく、それぞれの時代において人々がどのような問題に直面していたのか、そして個々の経済学説・経済思想がそれに対していかなるかたちで解答しようとする試みであったのか、という点に焦点をあてたいと思います。また現在では自明視されている経済学の概念や分析用具がどのような歴史的経緯で確立してきたのかを学ぶことで、経済学をより深く理解できるようになることを目指します
授業方法：	基本的に講義形式で行いますが、参加人数や時間の許す範囲で出来れば討論の時間やグループ報告の機会をつくりたいと思います。また授業時間内にミニットペーパーを記入してもらい、履修者からの意見・質問を参考になるべくインタラクティブな授業となるようにしたいと考えています。
履修の留意点：	「経済学史Ⅰ」を履修しておくことが望ましいですが、必ずしも前提とはしません。ただし適宜指示する参考文献や配布資料などを参照して、積極的な態度で講義に参加することを望みます。
目標と評価：	講義の目標：第一に、現代に至る経済学の歴史的展開について基本的な知識を習得すること、第二に、基本的な概念や分析用具の歴史的形成過程を知ることで経済学を深く理解できるようになること。 評価について：授業時間中に記入してもらったミニットペーパーならびに討論その他の機会における授業への貢献度を50%、学期末試験の成績を50%の割合で考慮します。
教科書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「戦後日本経済史」（担当者：高敷 学）の履修の手引き

科目名：	戦後日本経済史
担当者：	高敷 学
対象学生：	経営経済学部2年・短期大学部2年
設置学期：	春
概要：	第二次世界大戦後の日本経済の歴史を振り返りながら、今日われわれが生きる経済社会における、さまざまな問題について理解を深めること、また現在可能な経済政策、社会政策について具体案を提示することを講義の内容とする。 物価を安定させ、産業部門を活性化し、十分な生産力を維持し、また失業を減らすこと。さらには、より豊かさを実感できるような国民生活をデザインすること。これらは言うまでもなく経済政策の課題、目標である。日本経済が国際化し、高度に金融化するなかで、1990年代はじめにあった、いわゆる「バブル経済の崩壊」と、その後は先例がないほどの長期不況をわれわれは経験した。しかしながら、長期不況問題の打開策を、日本政府はまったく見いだせずに今日に至っている。豊かさを感ずることができない生活を獲得するために現在何がなしえるのか、このことについて経済学の立場から検討し、考察していくことを本講義の課題とする。
授業方法：	講義形式で授業を行う。各時限においては、検討すべき経済問題を提示し、その問題について解説を行う。また意見交換を行う。講義においては指定教科書、配布プリント等教材、そして講義当日の新聞（日本経済新聞など）を使用する。教科書については別途に指示する。成績評価については、期末試験の得点を中心に、講義への出席状況や課題への取り組みの程度などを加味し、総合的評価とする。
履修の留意点：	受講者は、次に示すキーワードの1つ以上に関心をもっていることが望ましい。戦後日本経済のあゆみ、長期不況、不良債権問題、企業倒産、金融ビックパン、都市における貧困、日本銀行、経済の高度情報ネットワーク化、ゲーム理論。 履修期間には日本経済新聞など経済紙を読むことに取り組んでもらいたい。また講義当日の朝刊を講義では使用するので、受講者は各自で購入して講義に持参することが望ましい。
目標と評価：	別の所でも述べたが、戦後日本経済の展開について理解を深め、また特に1980年代半ばから今日に至る日本の経済事情に関する知識を獲得し、これらに依拠しつつ現在の経済問題について具体的に考察することが出来る能力を身につけることを目標および課題とする。
教科書：	履修者の事前知識、関心、理解力などを総合的に判断し、別途に決定しまた受講者に連絡する。

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「経済数学 I」（担当者：山崎 康之）の履修の手引き

科目名：	経済数学 I
担当者：	山崎 康之
対象学生：	経営経済学部1年・短期大学部1年
設置学期：	春
概要：	<p>経済学の理論を学習する上で必要となる数学について講義します。その基礎的知識の習得とそれが経済学とどのように関係しているかを理解することがその目的です。経済数学 I では、その内、ベクトルと行列（高校の数学では、それぞれ「数学B」と「数学C」にあります）と行列式などの線形代数を使って、連立方程式の一般的解法について学びます。</p> <p>この授業で取り上げる主なトピックとその順序は、以下の通りです。</p> <p>線形代数            1. ベクトルと行列            2. 連立1次方程式            3. 行列式</p>
授業方法：	通常の講義によります。
履修の留意点：	高校の数学 I をきちんと理解していることが望ましい。
目標と評価：	中間試験および期末試験（各50%）の結果により評価します。
教科書：	やさしく学べる基礎数学—線形代数・微分積分— 石村園子 共立出版 2001年

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「経済数学Ⅱ」（担当者：山崎 康之）の履修の手引き

科目名：	経済数学Ⅱ
担当者：	山崎 康之
対象学生：	経営経済学部1年・短期大学部1年
設置学期：	秋
概要：	<p>経済学の理論を学習する上で必要となる数学について講義します。その基礎理論の習得とそれが経済学とどのように関係しているのかを理解することがその目的です。経済数学Ⅱでは、その内、微分と積分などの解析（高校の数学では、「数学Ⅱ」と「数学Ⅲ」にあります）について、その初歩的理論と経済学的応用について学びます。</p> <p>この授業で取り上げる主なトピックとその順序は、以下の通りです。</p> <p>微分積分                      1. 関数                      2. 微分                      3. 積分</p>
授業方法：	通常の講義によります。
履修の留意点：	高校の数学Ⅰをきちんと理解していることが望ましい。
目標と評価：	中間試験および期末試験（各50%）の結果により評価します。
教科書：	石村園子 やさしく学べる基礎数学—線形代数・微分積分— 共立出版 2001年 _____ _____ _____ _____

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「統計学 I」（担当者：木村 剛）の履修の手引き

科目名：	統計学 I
担当者：	木村 剛
対象学生：	経営経済学部1年・短期大学部1年
設置学期：	春
概要：	統計学 I では、統計のごく初歩的な学習を行います。統計学は、与えられたデータを記述したり、整理したり、分析するなどして、データからある傾向や示唆を読み取るための手法です。現在、コンピュータが普及し、インターネットが活用しやすい状況ができたことから、データは比較的集めやすいものになってきました。しかし、そのデータから何を読み取り、どのような傾向をつかみとるかは、難しい課題です。データからどのくらいのことを読み取れるのか。そうしたデータ活用の重要性は、情報化社会、知識社会といわれる中にあっただまらず高まっています。統計学で学ぶいろいろな手法は、こうした課題にひとつの答えを導き出してくれます。統計学 I では、データとの付き合い方、そのデータから何が言えるのか、そうした手法を一から学習していきます。
授業方法：	テキストを用い、理解しながらゆっくりと進めていきます。また実際の企業の具体的なデータなども用いながら、より実践的な力を養っていきます。
履修の留意点：	特にありませんが、数学的な知識よりも、データや分析に興味のある学生の履修を望みます。数学にあまり自信のない人の履修も歓迎します。
目標と評価：	統計学 I では、統計学の考え方、体系、データ分析の初歩を習得することを目標とします。評価については、期末試験を中心に、授業態度等を総合的に評価します。また、途中で確認テストを行う場合もあります。
教科書：	入門ビジュアルサイエンス よくわかる統計・確率のしくみ 郡山彬・和泉沢正隆著 日本実業出版社 1997

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「統計学Ⅱ」（担当者：木村 剛）の履修の手引き

科目名：	統計学Ⅱ
担当者：	木村 剛
対象学生：	経営経済学部1年・短期大学部1年
設置学期：	秋
概要：	統計学Ⅱでは、統計学Ⅰで学んだ基礎的な知識をベースに、引き続き、経済分析や経営分析などで使用される統計的手法の初歩的な解説を行います。テキストや授業計画などをみると、難しそうに思えるかもしれませんが、こうした統計の知識は天気予報やコンビニエンス・ストアのPOSデータの解析など、私たちの生活の身近なところで使われています。現在は優秀なコンピュータとソフトがあり、比較的容易に分析できるようになっていますが、それを使いこなしていくためには、統計学の基本が不可欠です。統計学Ⅱでは、その手法や考え方について学んでいきます。
授業方法：	テキストを用い、理解しながらゆっくりと進めていきます。また実際の企業の具体的なデータなども用いながら、より実践的な力を養っていきます。
履修の留意点：	特にありませんが、数学的な知識よりも、データや分析に興味のある学生の履修を望みます。数学にあまり自信のない人の履修も歓迎します。
目標と評価：	統計学Ⅱでは、確率を中心に学んでいきます。評価については、期末試験を中心に、授業態度等を総合的に評価します。また、途中で確認テストを行う場合もあります。
教科書：	入門ビジュアルサイエンス よくわかる統計・確率のしくみ 郡山彬・和泉沢正隆著 日本実業出版社 1997

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。



「経済政策 I」（担当者：佐藤 方宣）の履修の手引き

科目名：	経済政策 I
担当者：	佐藤 方宣
対象学生：	経営経済学部2年
設置学期：	春
概要：	<p>経済政策の問題を考える際にはミクロ・マクロ経済学の基本的知識が必要になりますが、必ずしもそれだけで十分とはいえません。経済成長や雇用の確保、年金や社会保険など社会保障制度のあり方、そして環境・貿易問題への公的介入といった問題を考えるためには、個別の政策論点にそくして、さまざまな観点から政策の望ましさや適切さを考える必要があります。また、そもそも民間の経済活動に政府が介入すべきなのか、という根本的な問題についても、歴史的にさまざまな考え方が提起されてきました。</p> <p>この「経済政策 I」では、まずこれまで経済政策の問題がどのように論じられてきたのか、その歴史について学びます。出来るだけ具体的な歴史的な事例を題材に、過去のさまざまな経済政策上の対立において何が論点となっていたのか、そしてその対立の背景にどのようなビジョン・哲学の対立があったのかということまで見ていきたいと思えます。単に経済政策の問題に関わる歴史的知識を身につけることだけでなく、経済活動への公的介入の問題全般を多様な視点から考えることが目的となります。</p>
授業方法：	基本的に講義形式で行いますが、参加人数や時間の許す範囲で出来れば討論の時間やグループ報告の機会をつくりたいと思えます。また授業時間内にミニットペーパーを記入してもらい、履修者からの意見・質問を参考になるべくインタラクティブな授業となるようにしたいと考えています。
履修の留意点：	履修に際して特別な理論的・歴史的知識を前提とはしません。ただし適宜指示する参考文献や配布資料などを参照して、積極的な態度で講義に参加することを望みます。
目標と評価：	<p>講義の目標：第一に、経済政策の問題がどのように論じられてきたのかについての歴史的知識を習得すること、第二に、現代の政策問題について考慮に入れるべきさまざまな観点到目配りした上で自分自身の判断を下せるようになること。</p> <p>評価について：授業時間中に記入してもらったミニットペーパーならびに討論その他の機会における授業への貢献度を50%、学期末試験の成績を50%の割合で考慮します。</p>
教科書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「経済政策Ⅱ」（担当者：佐藤 方宣）の履修の手引き

科目名：	経済政策Ⅱ
担当者：	佐藤 方宣
対象学生：	経営経済学部2年
設置学期：	秋
概要：	<p>概要 この「経済政策Ⅱ」では、経済政策の問題を考える際にミクロ・マクロ経済学の基本的知識がどのように助けとなるのか、具体的なトピックスに即して学んでいきます。経済学的な考え方もつ“常識破壊的”な魅力を知ると同時に、その考え方の特徴・特色について少し別の観点から考えてみる事が出来ればと思います。最初にミクロ経済学の基礎についてとマクロ政策の基本となる財政政策・金融政策の手法について学んだ上で、そうした知識が所得・分配政策、産業政策、労働政策、福祉政策、環境政策など個別の諸政策について考える際にどのように役立つのかを考えていきます。なるべく身近な論点を選び、具体的に論じていくことにしたいと思います。</p>
授業方法：	<p>授業方法 基本的に講義形式で行いますが、参加人数や時間の許す範囲でできれば討論の時間やグループ報告の機会をつくりたいと思っています。また授業時間内にミニットペーパーを記入してもらい、履修者からの意見・質問を参考になるべくインタラクティブな授業となるようにしたいと考えています。</p>
履修の留意点：	<p>履修上の留意点 経済政策Ⅰを履修しておくことが望ましいですが、必ずしも前提とはしません。ただし適宜指示する参考文献や配布資料などを参照して、積極的な態度で講義に参加することを望みます。</p>
目標と評価：	<p>目標と評価 講義の目標：第一に、経済政策の問題を考える上で最低限必要なミクロ・マクロ経済学の基礎を習得し、具体的な問題を考える際に自分でそれを利用できるようになること。第二に、具体的な政策問題にそくして考えることで経済学的な思考法の特徴・特色を十分に理解すること。 評価について：授業時間中に記入してもらったミニットペーパーならびに討論その他の機会における授業への貢献度を50%、学期末試験の成績を50%の割合で考慮します。</p>
教科書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「地球と環境Ⅰ」（担当者：生井 良一）の履修の手引き

科目名：	地球と環境Ⅰ
担当者：	生井 良一
対象学生：	経営経済学部2年・短期大学部2年
設置学期：	春
概要：	<p>宇宙に浮かぶ地球、そこには多くの生き物が生きている。他の星には生き物は見つかっていない。なぜ、地球にだけ生命が存在するのだろうか。それは水や空気、それに大地や森林といった豊かな自然があるからだ。</p> <p>ところが、現在そのかけがえの無い自然が人間活動によって破壊されようとしている。本来自然と生き物は一体となって、みごとなシステムである生態系をつくりあげている。人間もそのしくみの中の一員である。自然を無視しては、持続的な発展を望むことはむずかしい。地球の大きさにも限界があるからだ。その意味で、自然のしくみのすばらしさ、環境破壊の現状について紹介し、合わせて対策についても考えていく。また環境と経済、環境と南北問題などにも触れていきたい。</p> <p>具体的にはまずオゾン層破壊の問題を取り上げる。オゾン層は生命それ自体が数10年という長い年月をかけてつくりあげてきたものだ。それが人間のつくりだした物質によって破壊されるという問題が起った。破壊の原因、オゾン層とはどんなものか、世界はどう取り組んできたかなどについて解説する。</p> <p>ついで、森林の大切さについて学ぶ。水と緑の関係である。そこには土もかかわってくる。森林と水がある所は自然が豊かであり、森林が無くなると、土地は荒廃していく。それだけに限らない。森と川と海は密接な関係を持っている。そのような事例も紹介したい。</p> <p>ごみ問題も世界的な問題となっている。ごみの現状、ごみとリサイクル、ごみを減らす取り組み、世界の状況などについて紹介する。</p> <p>環境問題はごみのことから分かるように、私たち一人一人が被害者でもあり、加害者でもあるのだ。したがって、一人一人が環境問題をよく理解することが大切なのである。</p>
授業方法：	講義内容を具体的に理解できるように、いろいろな事例を紹介する。そのために、ビデオ教材をひんばんに使用する。プリントは必要に応じて配布する。どんな質問でも大歓迎。
履修の留意点：	[地球と環境] では、いろいろな現象を順に取り上げていく。その意味では、[地球と環境Ⅰ] だけでも受講することは可能であるし、その意義もあると思う。なお、受講に際して、「視野は地球的規模で、行動は足元から」の原則にしたがい、自分でもできることはないか、そんな気持ちで講義を聞いて欲しい。
目標と評価：	<p>目標1：自然はいろいろな要素が密接に関係しあって現在の姿を造っている。その自然のしくみのすばらしさを理解する</p> <p>目標2：生命維持のシステムは微妙なバランスの上に成り立っていることを理解する</p> <p>目標3：人間活動について、その影響の大きさを理解すること</p> <p>目標4：個人の生活スタイルも見直す機会とすること</p> <p>評価は、学期末の試験あるいはそれに替るレポート、それと出席点を合わせて決定する。ときには、授業中の態度が考慮の対象となることもある。</p>
教科書：	とくに教科書は使わない。参考書については、その都度必要に応じて紹介するものとする。

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「地球と環境Ⅰ」（担当者：生井 良一）の履修の手引き

科目名：	地球と環境Ⅰ
担当者：	生井 良一
対象学生：	経営経済学部2年・短期大学部2年
設置学期：	春
概要：	<p>宇宙に浮かぶ地球、そこには多くの生き物が生きている。他の星には生き物は見つかっていない。なぜ、地球にだけ生命が存在するのだろうか。それは水や空気、それに大地や森林といった豊かな自然があるからだ。</p> <p>ところが、現在そのかけがえの無い自然が人間活動によって破壊されようとしている。本来自然と生き物は一体となって、みごとなシステムである生態系をつくりあげている。人間もそのしくみの中の一員である。自然を無視しては、持続的な発展を望むことはむずかしい。地球の大きさにも限界があるからだ。その意味で、自然のしくみのすばらしさ、環境破壊の現状について紹介し、合わせて対策についても考えていく。また環境と経済、環境と南北問題などにも触れていきたい。</p> <p>具体的にはまずオゾン層破壊の問題を取り上げる。オゾン層は生命それ自体が数10年という長い年月をかけてつくりあげてきたものだ。それが人間のつくりだした物質によって破壊されるという問題が起った。破壊の原因、オゾン層とはどんなものか、世界はどう取り組んできたかなどについて解説する。</p> <p>ついで、森林の大切さについて学ぶ。水と緑の関係である。そこには土もかかわってくる。森林と水がある所は自然が豊かであり、森林が無くなると、土地は荒廃していく。それだけに限らない。森と川と海は密接な関係を持っている。そのような事例も紹介したい。</p> <p>ごみ問題も世界的な問題となっている。ごみの現状、ごみとリサイクル、ごみを減らす取り組み、世界の状況などについて紹介する。</p> <p>環境問題はごみのことからも分かるように、私たち一人一人が被害者でもあり、加害者でもあるのだ。したがって、一人一人が環境問題をよく理解することが大切なのである。</p>
授業方法：	講義内容を具体的に理解できるように、いろいろな事例を紹介する。そのために、ビデオ教材をひんばんに使用する。プリントは必要に応じて配布する。どんな質問でも大歓迎。
履修の留意点：	「地球と環境」では、いろいろな現象を順に取り上げていく。その意味では、「地球と環境Ⅰ」だけでも受講することは可能であるし、その意義もあると思う。なお、受講に際して、「視野は地球的規模で、行動は足元から」の原則にしたがい、自分でもできることはないか、そんな気持ちで講義を聞いて欲しい。
目標と評価：	<p>目標1：自然はいろいろな要素が密接に関係しあって現在の姿を造っている。その自然のしくみのすばらしさを理解する</p> <p>目標2：生命維持のシステムは微妙なバランスの上に成り立っていることを理解する</p> <p>目標3：人間活動について、その影響の大きさを理解すること</p> <p>目標4：個人の生活スタイルも見直す機会とすること</p> <p>評価は、学期末の試験あるいはそれに替るレポート、それと出席点を合わせて決定する。ときには、授業中の態度が考慮の対象となることもある。</p>
教科書：	とくに教科書は使わない。参考書については、その都度必要に応じて紹介するものとする。

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「地球と環境Ⅱ」（担当者：生井 良一）の履修の手引き

科目名：	地球と環境Ⅱ
担当者：	生井 良一
対象学生：	経営経済学部2年・短期大学部2年
設置学期：	秋
概要：	<p>人類はおよそ200年前の産業革命依頼、大量のエネルギーを消費してきた。その結果社会が豊かになった、一方でさまざまな環境問題を引き起こしてきた。石炭や石油の大量使用によって、地球温暖化が現実になるうとしている。地球温暖化はいろいろな環境問題の中でも、最も大きな環境問題と言われている。暖かくなることで、海面が上昇し、海水が押し寄せてくるのだ。また、気象にも地球的規模で異変が生じ、異常気象が多発するようになると予想される。熱波や寒波、洪水や旱魃、乾燥化、沙漠化などである。こうしたことが世界的規模で起こると、生き物にとっても人間にとっても生存がそれだけ困難になる。食糧生産もきびしくなり、世界の食糧危機も心配されている。</p> <p>こうした地球温暖化について、そのしくみやさまざまな影響、そして温暖化防止のための種々の取り組みなどについてかなりの時間を費やして説明する。とにかく地球温暖化は一度引き金が引かれると、人間の力ではそれをくい止めることはできないのだ。</p> <p>もう一つの問題として世界の人工爆発がある。途上国を中心に、20世紀に入ってからの100年間で世界人口は4倍ちかくも急増した。60億人を越えたのである。人々はまずは食べなければならない。その食糧をどうするか。それに応えたのが緑の革命である。20世紀後半に起こった緑の革命は食糧増産に成功したが、今は停滞してしまっ。逆に緑の革命は土壌の荒廃、土壌の侵蝕をもたらし、水を使い過ぎて水不足をもたらしている。中国の大河である黄河でさえ水が無くなっているのだ。</p> <p>こうした状況の元であらためて、土のはたらき、森林のはたらき、水の循環といった基本的なことに目を向けて、人間活動と「母なる大地」との関係を考えてみたい。</p>
授業方法：	講義内容を具体的に理解できるように、いろいろな事例を紹介する。そのために、ビデオ教材をひんぱんに使用する。プリントは必要に応じて配布する。どんな質問でも大歓迎。
履修の留意点：	「地球と環境Ⅰ」を履修していなくても、この科目は履修が可能である。なお、受講に際しては、「視野は地球的規模で、行動は足元から」の原則を踏まえて、自分でもできることは実践しよう、そんな気持ちで講義を聞いて欲しい。
目標と評価：	「地球と環境Ⅰ」を履修していなくても、この科目は履修が可能である。なお、受講に際しては、「視野は地球的規模で、行動は足元から」の原則を踏まえて、自分でもできることは実践しよう、そんな気持ちで講義を聞いて欲しい。
教科書：	とくに教科書は使わない。 そのかわり、その都度必要に応じて参考書を紹介する。

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「地球と環境Ⅱ」（担当者：生井 良一）の履修の手引き

科目名：	地球と環境Ⅱ
担当者：	生井 良一
対象学生：	経営経済学部2年・短期大学部2年
設置学期：	秋
概要：	<p>人類はおよそ200年前の産業革命依頼、大量のエネルギーを消費してきた。その結果社会が豊かになった、一方でさまざまな環境問題を引き起こしてきた。石炭や石油の大量使用によって、地球温暖化が現実になるうとしている。地球温暖化はいろいろな環境問題の中でも、最も大きな環境問題と言われている。暖かくなることで、海面が上昇し、海水が押し寄せてくるのだ。また、気象にも地球的規模で異変が生じ、異常気象が多発するようになると予想される。熱波や寒波、洪水や早魃、乾燥化、沙漠化などである。こうしたことが世界的規模で起こると、生き物にとっても人間にとっても生存がそれだけ困難になる。食糧生産もきびしくなり、世界の食糧危機も心配されている。</p> <p>こうした地球温暖化について、そのしくみやさまざまな影響、そして温暖化防止のための種々の取り組みなどについてかなりの時間を費やして説明する。とにかく地球温暖化は一度引き金が引かれると、人間の力ではそれをくい止めることはできないのだ。</p> <p>もう一つの問題として世界の人工爆発がある。途上国を中心に、20世紀に入ってからの100年間で世界人口は4倍ちかくも急増した。60億人を越えたのである。人々はまずは食べなければならない。その食糧をどうするか。それに応えたのが緑の革命である。20世紀後半に起こった緑の革命は食糧増産に成功したが、今は停滞してしまった。逆に緑の革命は土壌の荒廃、土壌の侵蝕をもたらし、水を使い過ぎて水不足をもたらしている。中国の大河である黄河でさえ水が無くなっているのだ。</p> <p>こうした状況の元であらためて、土のはたらき、森林のはたらき、水の循環といった基本的なことに目を向けて、人間活動と「母なる大地」との関係を考えてみたい。</p>
授業方法：	講義内容を具体的に理解できるように、いろいろな事例を紹介する。そのために、ビデオ教材をひんぱんに使用する。プリントは必要に応じて配布する。どんな質問でも大歓迎。
履修の留意点：	「地球と環境Ⅰ」を履修していなくても、この科目は履修が可能である。なお、受講に際しては、「視野は地球的規模で、行動は足元から」の原則を踏まえて、自分でもできることは実践しよう、そんな気持ちで講義を聞いて欲しい。
目標と評価：	「地球と環境Ⅰ」を履修していなくても、この科目は履修が可能である。なお、受講に際しては、「視野は地球的規模で、行動は足元から」の原則を踏まえて、自分でもできることは実践しよう、そんな気持ちで講義を聞いて欲しい。
教科書：	とくに教科書は使わない。 そのかわり、その都度必要に応じて参考書を紹介する。

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「経済データの読み方」（担当者：久保 真）の履修の手引き

科目名：	経済データの読み方
担当者：	久保 真
対象学生：	経営経済学部1年・短期大学部1年
設置学期：	秋
概要：	自らの主張をより説得力のあるものにする最良の方法の一つは、数字を示すことです。逆に、当たり前のことだと考えている事柄でも、数字の裏付けが全くないようなものもあります。また、このような数字は、元データをいかに加工するかによって、まったく異なった結果が得られることも少なくありません。本講義は、経済データを題材に取りながら、そのような数字のマジックやトリックを見破ったり活用したりするために必要な術を身につけることを目的として、行われます。高校まで数学が苦手であったという人でも、数学的思考を深めたいという人なら、大変役に立つ授業になるでしょう。
授業方法：	講義と実習とを組み合わせで行います。実習は、表計算ソフト（Microsoft Excel）を用いて、データ分析を行ってまいります。また、授業情報をウェブにて発信しますので、予復習を必ず行って下さい。
履修の留意点：	(1) 履修を希望するものは必ず初回の授業に出席して下さい。 (2) 授業にはパソコンをかならず持参して下さい。
目標と評価：	具体的には、以下の三つの事柄を行えるようになることが目的です。 (1) 新聞記事やテレビのニュースのもとになっている元データにアクセスする (2) 表計算ソフトを、表作成ソフトとしてではなく、データ分析ソフトとして使う (3) ある主張を、データによって、実証または反証する  授業週に提出される課題や小テスト（50%）と定期試験期間に提出されるレポート（50%）にもとづいて総合的に評価を下します。
教科書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「時事経済Ⅰ」（担当者：下河邊 元春）の履修の手引き

科目名：	時事経済Ⅰ
担当者：	下河邊 元春
対象学生：	経営経済学部2年・短期大学部2年
設置学期：	春
概要：	<p>実体経済の動きに関心を持つことは、経済、経営を学ぶものにとって不可欠の条件です。本講義では、日々の学生生活の中で新聞の経済記事を読む習慣を養いながら、時の経済問題を知り、それを自分自身の身近な問題として理解し、批判する能力を習得することを目指します。当然のことながら、講義のテーマは新聞、テレビが伝える最新のニュースから選択されるので、受講生の皆さんには、全国紙の中から1紙（日本経済新聞が望ましい）を選び、継続的に購読してもらうとともに、主要経済記事の切り抜きが義務づけられます。</p>
授業方法：	<p>この時事経済Ⅰの授業では、講義のテーマを主として最新の国内経済ニュースに求め、それを検証・考察することを通じて実体経済の動きを見通す目を養うことを目指します。国内経済の現状と問題点を正しく認識してもらうために、①景気情勢②財政事情③金融情勢④雇用情勢⑤産業の現状を考察の対象とします。原則として講義で取り上げるテーマを事前に提示し、予備知識を持って講義に臨んでもらいます。インターネットからの関連情報収集などノートパソコンを活用した授業も予定しています。</p>
履修の留意点：	<p>最新の経済ニュースの中から講義テーマを選ぶので、受講生の皆さんが日々読む新聞が教科書となります。</p> <p>なお、参考書として『Q&amp;A 日本経済100の常識』日本経済新聞社（編）、『経済新語辞典』日本経済新聞社（編）、『日経を読むための経済学の基礎知識』岩田規久男一を推奨します。</p>
目標と評価：	<p>国内経済の現状と問題点をしっかりと認識できる目を養うことを目標とします。その上で期末試験の結果に、レポートなど課題での平常点と受講態度を加味して評価点を決定します。</p>
教科書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。



「時事経済Ⅱ」（担当：下河邊 元春）の履修の手引き

科目名：	時事経済Ⅱ
担当者：	下河邊 元春
対象学生：	経営経済学部2年・短期大学部2年
設置学期：	秋
概要：	日々の学生生活の中で新聞の経済欄を読む習慣をさらに確かなものとし、その時々を経済問題を自分自身の身近な問題として理解し、考察する能力を目指します。講義のテーマは時事経済Ⅰと同様、最新の経済ニュースから選びます。日常的に新聞の経済欄を読むことと、主要記事の切り抜きが義務づけられます。
授業方法：	原則として講義のテーマを事前に示すので、予備知識を持った上で授業に臨んでもらいます。授業の際に随時配布するプリントやインターネットを通じて入手した資料の要約、縮訳やレポート提出を課し、受講生の皆さんの習熟度を高めていきます。時事経済Ⅱでは、グローバルに見た日本経済の現状と問題点を把握してもらうことを主眼に①経済のグローバル化②経済ブロックと日本③国際経済機関と日本④経済協力⑤平成16年度予算案と税制改正案などを考察の対象とします。
履修の留意点：	最新の新聞、テレビのニュースから講義テーマを選ぶので、教科書は受講生の皆さんが日常的に購読する新聞が教科書となります。 なお、参考書として『世界経済100の常識』日本経済新聞社（編）、『経済新語辞典』日本経済新聞社（編）、『ゼミナール国際経済入門』日本経済新聞社（編）—を推奨します。
目標と評価：	グローバルにみた日本経済の現状と問題点を認識できる目を養うことを目標にする。 成績の評価は、期末試験の結果にレポートなど提出物の評価による平常点と受講態度を加味して評価点を決定します。
教科書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「時事・社会用語の基礎知識」（担当者：戎野 淑子）の履修の手引き

科目名：	時事・社会用語の基礎知識
担当者：	戎野 淑子
対象学生：	短期大学部1年
設置学期：	秋
概要：	新聞やテレビニュースで報道されている社会問題について、深く理解することが出来る能力を身に付けてもらいたい。これから、社会人として生きていく上で、社会における様々な事件や事象とは無関係でいられない。とりわけ、社会が、国内においても国際的にも大きく変動している今日、それらの社会現象を自分で理解し判断していく能力は不可欠であろう。そこで、日本及び国際的に大きな社会問題となっているテーマについて取り上げ、講義を行なう。
授業方法：	講義の内容については、現在問題となっている、 1、高齢・少子化 2、バブル崩壊、 3、日本的雇用慣行の崩壊 4、金融危機 5、財政破綻（医療費等） 6、国際情勢 などを予定しているが、学期中に起きた事件を優先して取り上げたいと考えている。
履修の留意点：	授業では、発言を求めることもあるので、積極的な参加が望まれる。
目標と評価：	本講義では、政治・経済・社会・文化に関する時事問題を取り上げ、現代社会を理解するための基礎知識の修得を目的とする。そして、それらの内容及び背景を理解し、自分の意見をもてるようになって欲しい。 また、評価については、原則として試験によって行なうが、授業態度等平常点も考慮する。
教科書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「新聞で読む時事問題」（担当者：亀卦川 芽以）の履修の手引き

科目名：	新聞で読む時事問題
担当者：	亀卦川 芽以
対象学生：	短期大学部2年
設置学期：	春
概要：	経済は日々変化しています。したがって、最新の情報や新聞記事を題材にし理解し、知識を深めることはとても重要です。本講義では、日本経済新聞を使い、時事問題について認識を深める講義を行います。
授業方法：	講義形式で行います。
履修の留意点：	特にありません。
目標と評価：	最終的に日本経済新聞が読めるようになることを目標としています。 評価に関しては、学期末にレポートを提出してもらいます。
教科書：	「日経 経済記事の読み方 2003年版」 日本経済新聞社編

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「会計リテラシ」（担当者：井上 行忠）の履修の手引き

科目名：	会計リテラシ
担当者：	井上 行忠
対象学生：	経営経済学部1年
設置学期：	春
概要：	複式簿記の基本原則である取引の範囲・取引の八要素（費用・収益・資産・負債・資本）、の認識、及び会計処理（仕訳）を学び、問題集等を使用して、簿記の基本的な技術を習得する。日商簿記検定3級・全経簿記検定3級の合格を目指す。
授業方法：	テキストを中心に授業を行う。授業体系は、簿記一巡の流れを把握し、前半は個別取引を中心に学習を行い、後半は総合問題対策（試算表作成、精算表作成、補助簿：仕入帳、売上帳、現金出納帳、小口現金出納帳、当座預金出納帳、手形記入帳、商品有高帳等）を中心に授業を行う。7月の全経簿記検定3級に目標を定め学習を行う。6月の日商簿記検定3級を目指す学生は、週二回実施される「会計リテラシ」の補講を聴講すること。
履修の留意点：	学習に当たり、電卓が必要となります。最初の授業で指示をしますので、事前に購入しないで下さい。
目標と評価：	この授業は、日商簿記検定3級または全経簿記検定3級の資格試験に合格しなければ、成績評価（評価点70点）が取得できません。出席点（30点）は通常通り評価します。
教科書：	例解演習 基本簿記 山本孝夫・前川邦生共著 創成社 日商簿記検定3級問題集 前川邦生編著 創成社 簿記検定ワークブック「3級」 英光社

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「会計リテラシ」（担当者：山本 孝夫）の履修の手引き

科目名：	会計リテラシ
担当者：	山本 孝夫
対象学生：	経営経済学部1年
設置学期：	春
概要：	複式簿記の基本原則である取引の範囲・取引の八要素（費用・収益・資産・負債・資本）、の認識、及び会計処理（仕訳）を学び、問題集等を使用して、簿記の基本的な技術を習得する。日商簿記検定3級・全経簿記検定3級の合格を目指す。
授業方法：	テキストを中心に授業を行う。授業体系は、簿記一巡の流れを把握し、前半は個別取引を中心に学習を行い、後半は総合問題対策（試算表作成、精算表作成、補助簿：仕入帳、売上帳、現金出納帳、小口現金出納帳、当座預金出納帳、手形記入帳、商品有高帳等）を中心に授業を行う。7月の全経簿記検定3級に目標を定め学習を行う。6月の日商簿記検定3級を目指す学生は、週二回実施される「会計リテラシ」の補講を聴講すること。
履修の留意点：	学習に当たり、電卓が必要となります。最初の授業で指示をしますので、事前に購入しないで下さい。
目標と評価：	この授業は、日商簿記検定3級または全経簿記検定3級の資格試験に合格しなければ、成績評価（評価点70点）が取得できません。出席点（30点）は通常通り評価します。
教科書：	例解演習 基本簿記 山本孝夫・前川邦生共著 創成社 日商簿記検定3級問題集 前川邦生編著 創成社 簿記検定ワークブック「3級」 英光社

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「会計リテラシ」（担当者：前川 道生）の履修の手引き

科目名：	会計リテラシ
担当者：	前川 道生
対象学生：	経営経済学部1年
設置学期：	春
概要：	複式簿記の基本原則である取引の範囲・取引の八要素（費用・収益・資産・負債・資本）、の認識、及び会計処理（仕訳）を学び、問題集等を使用して、簿記の基本的な技術を習得する。日商簿記検定3級・全経簿記検定3級の合格を目指す。
授業方法：	テキストを中心に授業を行う。授業体系は、簿記一巡の流れを把握し、前半は個別取引を中心に学習を行い、後半は総合問題対策（試算表作成、精算表作成、補助簿：仕入帳、売上帳、現金出納帳、小口現金出納帳、当座預金出納帳、手形記入帳、商品有高帳等）を中心に授業を行う。7月の全経簿記検定3級に目標を定め学習を行う。6月の日商簿記検定3級を目指す学生は、週二回実施される「会計リテラシ」の補講を聴講すること。
履修の留意点：	学習に当たり、電卓が必要となります。最初の授業で指示をしますので、事前に購入しないで下さい。
目標と評価：	この授業は、日商簿記検定3級または全経簿記検定3級の資格試験に合格しなければ、成績評価（評価点70点）が取得できません。出席点（30点）は通常通り評価します。
教科書：	例解演習 基本簿記 山本孝夫・前川邦生共著 創成社 日商簿記検定3級問題集 前川邦生編著 創成社 簿記検定ワークブック「3級」 英光社

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「経済史」（担当者：内藤 勝）の履修の手引き

科目名：	経済史
担当者：	内藤 勝
対象学生：	経営経済学部1年
設置学期：	秋
概要：	日本資本主義の歩みを中心に講義をする。戦後を10年単位で刻みながら歴史を整理する。この中から「歴史の教訓」を導きたい。
授業方法：	ビデオと講義による。
履修の留意点：	なし
目標と評価：	(4) 評価の方法 最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。期末テストによる。
教科書：	自然とエントロピーの経済学 内藤勝 高文堂 1997

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「経済史（再履修用）」（担当者：内藤 勝）の履修の手引き

科目名：	経済史（再履修用）
担当者：	内藤 勝
対象学生：	経営経済学部2年
設置学期：	春
概要：	<p>(1) 科目の概要 資本主義を、歴史的に理解する。特に世界史の中で、日本の歩んだ歴史を資料・ビデオ等を通じて講義する</p> <p>(2) 授業の方法 通年、講義をする。前期数回ビデオ学習をする。後期もビデオ学習を数回する予定である。</p> <p>(3) 授業の体系 世界史のなかで日本を考える。日本の特質を考える。歴史の教訓に学ぶ。長期的視野で物事を見る眼を養う。</p> <p>(4) 評価の方法 最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。 期末テストによる。</p> <p>(5) 履修の条件</p> <p>著者名 書名 出版社 出版年</p> <p>(6) 使用教科書</p> <p>(7) 使用参考書 世界史のなかの日本近現代史 正村公宏 東洋経済新報社 1996</p>
授業方法：	<p>(2) 授業の方法 通年、講義をする。前期数回ビデオ学習をする。後期もビデオ学習を数回する予定である。</p> <p>(3) 授業の体系 世界史のなかで日本を考える。日本の特質を考える。歴史の教訓に学ぶ。長期的視野で物事を見る眼を養う。</p>
履修の留意点：	なし
目標と評価：	<p>(4) 評価の方法 最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。 期末テストによる。</p>
教科書：	なし

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。



「経済史」（担当者：内藤 勝）の履修の手引き

科目名：	経済史
担当者：	内藤 勝
対象学生：	経営経済学部1年
設置学期：	秋
概要：	日本資本主義の歩みを中心に講義をする。戦後を10年単位で刻みながら歴史を整理する。この中から「歴史の教訓」を導きたい。
授業方法：	ビデオと講義による。
履修の留意点：	なし
目標と評価：	(4) 評価の方法 最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。期末テストによる。
教科書：	自然とエントロピーの経済学 内藤勝 高文堂 1997

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「経済史」（担当者：内藤 勝）の履修の手引き

科目名：	経済史
担当者：	内藤 勝
対象学生：	経営経済学部1年
設置学期：	秋
概要：	日本資本主義の歩みを中心に講義をする。戦後を10年単位で刻みながら歴史を整理する。この中から「歴史の教訓」を導きたい。
授業方法：	ビデオと講義による。
履修の留意点：	なし
目標と評価：	(4)評価の方法 最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。期末テストによる。
教科書：	自然とエントロピーの経済学 内藤勝 高文堂 1997

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「会計学総論」（担当者：山本 孝夫）の履修の手引き

科目名：	会計学総論
担当者：	山本 孝夫
対象学生：	経営経済学部1年
設置学期：	秋
概要：	われわれの生活において、組織体と会計とは深いかわりがあり、会計の全体像を把握することは、社会全体を理解する上で有効である。本講義では、会計諸科目の学習を新たに始めようとする学生に対して、会計学の体系的理解を可能にするため、会計諸科目の内容と関連性について解説する。特に企業会計を取り上げ、経営・経済活動の中で会計の果たす役割について概説する。
授業方法：	講義形式で授業を進めるが、会計の基本項目について、随時小テストを行う。
履修の留意点：	企業会計の枠組みを理解するため、会計報告書のぐたいてきな例示を取り上げ、会計諸科目との関連性を学習する。授業計画は、以下の内容を予定している。 1. 会計と社会 2. 会計とディスクロージャー 3. 企業会計の主要領域 4. 損益計算書の本質と表示形態 5. 貸借対照表の本質と表示形態 6. 法会計と会計監査
目標と評価：	会計学総論の理解を深めるためには、簿記の知識が必要なので日商簿記検定試験と併せて学習することが望ましい。定期試験および課題レポートの内容を総合的に評価する。
教科書：	簿記の基礎構造ワークブック 中原章吉編著 創成社

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「会計学総論（再履修用）」（担当者：山本 孝夫）の履修の手引き

科目名：	会計学総論（再履修用）
担当者：	山本 孝夫
対象学生：	経営経済学部2年
設置学期：	春
概要：	われわれの生活において、組織体と会計とは深いかわりがあり、会計の全体像を把握することは、社会全体を理解する上で有効である。本講義では、会計諸科目の学習を新たに始めようとする学生に対して、会計学の体系的理解を可能にするため、会計諸科目の内容と関連性について解説する。特に企業会計を取り上げ、経営・経済活動の中で会計の果たす役割について概説する。
授業方法：	講義形式で授業を進めるが、会計の基本項目について、随時小テストを行う。
履修の留意点：	<p>企業会計の枠組みを理解するため、会計報告書のぐたいきな例示を取り上げ、会計諸科目との関連性を学習する。授業計画は、以下の内容を予定している。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 会計と社会</li> <li>2. 会計とディスクロージャー</li> <li>3. 企業会計の主要領域</li> <li>4. 損益計算書の本質と表示形態</li> <li>5. 貸借対照表の本質と表示形態</li> <li>6. 法会計と会計監査</li> </ol>
目標と評価：	<p>会計学総論の理解を深めるためには、簿記の知識が必要なので日商簿記検定試験と併せて学習することが望ましい。</p> <p>定期試験および課題レポートの内容を総合的に評価する。</p>
教科書：	

※最終評価は、評価点7割，出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「会計学総論」（担当者：山本 孝夫）の履修の手引き

科目名：	会計学総論
担当者：	山本 孝夫
対象学生：	経営経済学部1年
設置学期：	秋
概要：	われわれの生活において、組織体と会計とは深いかわりがあり、会計の全体像を把握することは、社会全体を理解する上で有効である。 本講義では、会計諸科目の学習を新たに始めようとする学生に対して、会計学の体系的理解を可能にするため、会計諸科目の内容と関連性について解説する。特に企業会計を取り上げ、経営・経済活動の中で会計の果たす役割について概説する。
授業方法：	講義形式で授業を進めるが、会計の基本項目について、随時小テストを行う。
履修の留意点：	企業会計の枠組みを理解するため、会計報告書のぐたいきな例示を取り上げ、会計諸科目との関連性を学習する。授業計画は、以下の内容を予定している。 1. 会計と社会 2. 会計とディスクロージャー 3. 企業会計の主要領域 4. 損益計算書の本質と表示形態 5. 貸借対照表の本質と表示形態 6. 法会計と会計監査
目標と評価：	会計学総論の理解を深めるためには、簿記の知識が必要なので日商簿記検定試験と併せて学習することが望ましい。 定期試験および課題レポートの内容を総合的に評価する。
教科書：	簿記の基礎構造ワークブック 中原章吉編著 創成社 _____ _____ _____

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「会計学総論」（担当者：山本 孝夫）の履修の手引き

科目名：	会計学総論
担当者：	山本 孝夫
対象学生：	経営経済学部1年
設置学期：	秋
概要：	われわれの生活において、組織体と会計とは深いかわりがあり、会計の全体像を把握することは、社会全体を理解する上で有効である。 本講義では、会計諸科目の学習を新たに始めようとする学生に対して、会計学の体系的理解を可能にするため、会計諸科目の内容と関連性について解説する。特に企業会計を取り上げ、経営・経済活動の中で会計の果たす役割について概説する。
授業方法：	講義形式で授業を進めるが、会計の基本項目について、随時小テストを行う。
履修の留意点：	企業会計の枠組みを理解するため、会計報告書のぐたいてきな例示を取り上げ、会計諸科目との関連性を学習する。授業計画は、以下の内容を予定している。 1. 会計と社会 2. 会計とディスクロージャー 3. 企業会計の主要領域 4. 損益計算書の本質と表示形態 5. 貸借対照表の本質と表示形態 6. 法会計と会計監査
目標と評価：	会計学総論の理解を深めるためには、簿記の知識が必要なので日商簿記検定試験と併せて学習することが望ましい。 定期試験および課題レポートの内容を総合的に評価する。
教科書：	簿記の基礎構造ワークブック 中原章吉編著 創成社 _____ _____ _____

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「企業論」（担当者：古賀 義弘）の履修の手引き

科目名：	企業論
担当者：	古賀 義弘
対象学生：	経営経済学部2年
設置学期：	秋（集中授業）
概要：	授業を前半と後半に分け、前半を総論、後半を各論とする。前半では企業が成立し展開してきた、日・英・米を中心とした諸国の特徴について述べるとともに、「そもそも企業とは何か」という基本的なことについて講義を進めていく。 後半では、日本の企業の現段階の特質や動向に視点を当てて、その経営管理、労務管理、生産管理など多方面から見た現状や課題について述べる。
授業方法：	講義形式を原則とするが、受講者数が少ない場合はゼミナール形式などフレキシブルに考え、輪読を中心として授業を進めていく予定である。
履修の留意点：	毎回きちんとノートを整理し、事前準備をすること。質問、発表もあるので、このことも考えて授業に臨む。
目標と評価：	特になし。
教科書：	別途指示する。    

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「企業論」（担当者：古賀 義弘）の履修の手引き

科目名：	企業論
担当者：	古賀 義弘
対象学生：	経営経済学部2年
設置学期：	通年
概要：	春学期は総論と位置づけ、企業の成立から現代への過程について、日本、イギリス、アメリカの事例を取り上げて講義を進める。今日の経済のグローバル化、国際的展開の動向を知ることは、経済社会を歴史のかつ総合的に認識して始めて可能となる。 秋学期では主に各論について、特に日本企業の特質に焦点を当てて述べる予定である。経営管理システム、労務管理、生産管理、企業の分割やコーポレートガバナンスなどについての説明を行う。
授業方法：	授業は講義形式とし、必要に応じて諸資料を渡し説明をする。また講義レジュメについても準備が整った段階で配布し、より集中した授業が出来るような工夫を考えている。 また授業の途中で理解度を確認するための「まとめの文章」を書くことやレポート提出を求めることもあるので留意しておくこと。
履修の留意点：	新聞や雑誌には日常的に目を通しておくこと。きちんとノートを取り、問題点や疑問点は自ら調べて整理する習慣をもつ。
目標と評価：	授業時間の「まとめの文章」とレポートは、評価点として最大限30%を加算する。
教科書：	別途指示する

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。



「企業論」（担当者：古賀 義弘）の履修の手引き

科目名：	企業論
担当者：	古賀 義弘
対象学生：	経営経済学部2年
設置学期：	通年
概要：	春学期は総論と位置づけ、企業の成立から現代への過程について、日本、イギリス、アメリカの事例を取り上げて講義を進める。今日の経済のグローバル化、国際的展開の動向を知ることは、経済社会を歴史のかつ総合的に認識して始めて可能となる。 秋学期では主に各論について、特に日本企業の特質に焦点を当てて述べる予定である。経営管理システム、労務管理、生産管理、企業の分割やコーポレートガバナンスなどについての説明を行う。
授業方法：	授業は講義形式とし、必要に応じて諸資料を渡し説明をする。また講義レジュメについても準備が整った段階で配布し、より集中した授業が出来るような工夫を考えている。 また授業の途中で理解度を確認するための「まとめの文章」を書くことやレポート提出を求めることもあるので留意しておくこと。
履修の留意点：	新聞や雑誌には日常的に目を通しておくこと。きちんとノートを取り、問題点や疑問点は自ら調べて整理する習慣をもつ。
目標と評価：	授業時間の「まとめの文章」とレポートは、評価点として最大限30%を加算する。
教科書：	別途指示する

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「企業論」（担当者：平井 東幸）の履修の手引き

科目名：	企業論
担当者：	平井 東幸
対象学生：	経営経済学部2年
設置学期：	春（集中授業）
概要：	<p>私たちは企業と無関係では一日たりとも生活ができません。その企業（会社）とは、どういうものか、その仕組み、役割や使命について基礎的な説明をします。企業についての理解を深めておくことは、経済や産業、経営を理解するにも、また、就職する上でも、将来ビジネスをするためにも必要不可欠です。</p> <p>この講義では、家計と政府（それに最近ではNPO）とともに経済活動の主体である企業について、著名な大企業だけではなく、有名無名の中小企業にも焦点を当てて、メーカーはもとより、小売業、外食産業などの業種についてもトピック的、具体的な諸問題を取り上げるほか、企業をめぐる新しい課題（企業統治、商法改正など）についても広く取り上げて解説します。</p> <p>主な項目は次の通りです。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 会社とは、企業とは</li> <li>2 企業経営学とは</li> <li>3 企業の定義と仕組み</li> <li>4 企業と生産と流通</li> <li>5 企業と従業員</li> <li>6 企業と経営財務</li> <li>7 日本的経営とは</li> <li>8 企業の社会的責任</li> <li>9 中小企業の重要性</li> <li>10 優れた企業とは</li> <li>11 これからの企業像</li> </ol> <p>※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。</p>
授業方法：	<p>授業方法：プリントとテキストを参照しながら、上記の項目について講義するほか、毎回経済・産業・企業に関する時事問題（トピック）を取り上げて解説します。必要に応じて、ビデオの上映、また可能であれば外部講師の招聘も行います。</p>
履修の留意点：	<p>履修上の留意点は とくにありません。</p> <p>なお、参考書としては次のものを薦めます。</p> <p>奥村宏『会社とはなにか』（岩波ジュニア新書、岩波書店、2001年）</p> <p>森 清『会社で働くということ』（同上、同上、1996年）</p> <p>野中郁次郎『企業進化論』（日経ビジネス人文庫、日本経済新聞社、2002年）</p>
目標と評価：	<p>目標は、上記の概要で述べたように、企業についての基礎的理解を深めることであり、経営経済学部で学ぶ上での入門的な科目です。</p> <p>評価については、課題、平常点、定期試験で行います。</p>
教科書：	<p>企業経営学の基礎 猪平・海野・籠・阪野・平井 税務経理協会 2002年</p>

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「企業論」（担当者：平井 東幸）の履修の手引き

科目名：	企業論
担当者：	平井 東幸
対象学生：	経営経済学部2年
設置学期：	通年
概要：	<p>私たちは企業と無関係では一日たりとも生活ができません。その企業（会社）とは、どういうものか、その仕組み、役割や使命について基礎的な説明をします。企業についての理解を深めておくことは、経済や産業、経営を理解するにも、また、就職する上でも、将来ビジネスをするためにも必要不可欠です。</p> <p>この講義では、家計と政府（それに最近ではNPO）とともに経済活動の主体である企業について、著名な大企業だけではなく、有名無名の中小企業にも焦点を当てて、メーカーはもとより、小売業、外食産業などの業種についてもトピック的、具体的な諸問題を取り上げるほか、企業をめぐる新しい課題（企業統治、商法改正など）についても広く取り上げて解説します。</p> <p>主な項目は次の通りです。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 会社とは、企業とは</li> <li>2 企業経営学とは</li> <li>3 企業の定義と仕組み</li> <li>4 企業と生産と流通</li> <li>5 企業と従業員</li> <li>6 企業と経営財務</li> <li>7 日本的経営とは</li> <li>8 企業の社会的責任</li> <li>9 中小企業の重要性</li> <li>10 優れた企業とは</li> <li>11 これからの企業像</li> </ol>
授業方法：	プリントとテキストを参照しながら、上記の項目について講義するほか、毎回経済・産業・企業に関する時事問題（トピック）を取り上げて解説します。必要に応じて、ビデオの上映、また可能であれば外部講師の招聘も行います。
履修の留意点：	とくにありません。 なお、参考書としては次のものを薦めます。 奥村宏『会社とはなにか』（岩波ジュニア新書、岩波書店、2001年） 森 清『会社で働くということ』（同上、同上、1996年） 野中郁次郎『企業進化論』（日経ビジネス人文庫、日本経済新聞社、2002年）
目標と評価：	目標は、上記の概要で述べたように、企業についての基礎的理解を深めることであり、経営経済学部で学ぶ上での入門的な科目です。 評価については、課題、平常点、定期試験で行います。
教科書：	『企業経営学の基礎』 猪平・海野・籠・阪野・平井 税務経理協会 2002年

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「日本経済論」（担当者：渡辺 広明）の履修の手引き

科目名：	日本経済論
担当者：	渡辺 広明
対象学生：	経営経済学部2年
設置学期：	通年
概要：	本講義は専門共通科目の一つで、必修科目です。21世紀を向えた現在でも、日本経済は平成不況の中、もがき苦しんでいます。政権が内閣改造を行い、「構造改革」の強行実施を繰り返しても、景気の刺激策も模索されている様です。本科目は現段階の日本経済の特徴や構造を解明しつつ、システムの限界を解決する糸口・突破口を考えて行きたい。そのため、最初に歴史的視点からのアプローチを実施します。すなわち、第2次世界大戦後の日本経済の展開過程、戦後の復興期、高度成長、二つのショック、構造調整期、プラザ合意、バブル経済の進展、平成不況の深化などを学習します。その後で、1980年代以降を強調して講義を行います。特に、日本経済の構造を解明する上で金融からのアプローチを重要視します。金融に関わる「経済事件」や金融諸問題について分析を行い、日本経済の構造・システムを改編する出発点を模索したい。教科書は下記の図書を利用します。矢部洋三・その他編『新訂 現代日本経済史年表』日本経済評論社（3000円＋税）
授業方法：	基本的には、講義形式です。毎回、作業を行います。これが出席の証になります。
履修の留意点：	この講義では、ホームランを打つ事が出来ません。毎日の積み重ねが大切です。ヒットをこつこつ打ってください。毎日、日本経済のことを少しでも考えてもらいたい。そのため授業に出席するのはもとより、毎回、作業が課されます。それらを積極的に取り組んでください。
目標と評価：	○日本経済に関する基本的な経済用語をマスターする事が出来る。○授業で出てくる数値の意味を学ぶ事が出来る。○新聞の経済欄の理解を深める事が出来る。評価：学期末テスト（70%）、毎回の作業（30%）
教科書：	現代日本経済史年表 矢部洋三 その他編著 日本経済評論社 2002年

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「日本経済論」（担当者：渡辺 広明）の履修の手引き

科目名：	日本経済論
担当者：	渡辺 広明
対象学生：	経営経済学部2年
設置学期：	通年
概要：	本講義は専門共通科目の一つで、必修科目です。21世紀を向えた現在でも、日本経済は平成不況の中、もがき苦しんでいます。政権が内閣改造を行い、「構造改革」の強行実施を繰り返しても、景気の刺激策も模索されている様です。本科目は現段階の日本経済の特徴や構造を解明しつつ、システムの限界を解決する糸口・突破口を考えて行きたい。そのため、最初に歴史的視点からのアプローチを実施します。すなわち、第2次世界大戦後の日本経済の展開過程、戦後の復興期、高度成長、二つのショック、構造調整期、プラザ合意、バブル経済の進展、平成不況の深化などを学習します。その後で、1980年代以降を強調して講義を行います。特に、日本経済の構造を解明する上で金融からのアプローチを重要視します。金融に関わる「経済事件」や金融諸問題について分析を行い、日本経済の構造・システムを改編する出発点を模索したい。教科書は下記の図書を利用します。矢部洋三・その他編『新訂 現代日本経済史年表』日本経済評論社（3000円＋税）
授業方法：	基本的には、講義形式です。毎回、作業を行います。これが出席の証になります。
履修の留意点：	この講義では、ホームランを打つ事が出来ません。毎日の積み重ねが大切です。ヒットをこつこつ打ってください。毎日、日本経済のことを少しでも考えてもらいたい。そのため授業に出席するのはもとより、毎回、作業が課されます。それらを積極的に取り組んでください。
目標と評価：	○日本経済に関する基本的な経済用語をマスターする事が出来る。○授業で出てくる数値の意味を学ぶ事が出来る。○新聞の経済欄の理解を深める事が出来る。評価：学期末テスト（70%）、毎回の作業（30%）
教科書：	現代日本経済史年表 矢部洋三 その他編著 日本経済評論社 2002年

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「日本経済論」（担当者：飯島 正義）の履修の手引き

科目名：	日本経済論
担当者：	飯島 正義
対象学生：	経営経済学部2年
設置学期：	春（集中授業）
概要：	本講座は専門共通科目の一つで、必修科目です。20世紀末から21世紀を向えた現在、日本経済は平成大不況の中で、展開してきています。新政権が誕生し、「構造改革」を実施しつつ、景気の刺激策も模索されているようです。本科目は現段階の日本経済の特徴や構造を解明しつつ、システムの限界を解決する糸口を考えて行きたい。そのためには、最初に歴史的視点からのアプローチを実施します。すなわち、第2次世界大戦後の日本経済の展開過程、戦後の復興、高度成長、二つのショック、構造調整期、ブラザ合意、バブル経済、平成不況の経済過程を学びます。その後、1980年代の以降を強調して講義を行います。日本経済の構造を解明する上で金融からのアプローチが大切であると考えています。特に、金融に関する「経済事件」・問題について理解を深め、「経済事件」を分析する中で日本経済の限界や問題点を明かにしたい。その講義の中で、基本的な経済用語や数値の意味を学び、新聞の経済欄の理解を深めることも目的にしたいと考えています。
授業方法：	講義形式です。ビデオなどの視聴覚機器を利用したい。 本講座は経営経済学部の名称にある経済学体系の一分野に属します。すなわち、通常、経済学の体系ではつぎのようなものになります。 1. 経済理論 2. 経済史 3. 経済政策・経済事情 の3つの体系が掲げられています。その中で経済事情に本科目は位置します。特に日本の経済事情を対象にします。
履修の留意点：	経済新聞を毎日、読み、日本の経済状況の理解を深めてください。
目標と評価：	評価について 学期末に行われるテストの成績と宿題や授業中の課題達成度によって評価します。
教科書：	現代日本経済史年表 矢部・古賀・渡辺・飯島 日本経済評論社 2001    

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「経済学入門」（担当者：久保 真）の履修の手引き

科目名：	経済学入門
担当者：	久保 真
対象学生：	短期大学部1年
設置学期：	秋
概要：	我々現代人は日々買い物などの経済活動をしているにも拘わらず、いやそれだからこそというべきでしょうか、経済の仕組みや成り立ちには無関心な人が少なくありません。しかし他方で、いわゆる「自己責任」の時代の到来とともに、経済に関する知識や理解は普通の人々にもますます求められるようになって来ています。このような現実を鑑み、本講義は、経済学の初学者そして必ずしも経済学を専攻しない学生が、経済というものに興味を持つよう促すことを目的とします。このような目的を果たすために、できるだけ身近なトピックも取り上げるようにしますので、受講生諸君は、新聞やテレビなどで報じられる経済関連ニュースに、日頃から接するように心がけてください。 講義において扱う具体的なテーマは、(1)経済学とは？(2)市場(3)株式会社(4)資本蓄積(5)通貨と中央銀行(6)政府の役割と政府財政(7)景気循環とポリシーミックス(8)国際経済を予定しています。
授業方法：	通常の講義によって行いますが、できるだけ双方向性を確保するよう努力するつもりです。特に教科書は使いませんので、授業中は講義内容の理解に全身全霊を注いでください。また、ウェブにて授業情報を発信しますので、予習復習を欠かさず行って下さい。
履修の留意点：	春学期終了時点で「経済学入門」の単位を修得できていない学生は必ず履修登録をして下さい。また、初回の授業には必ずパソコンを持参して下さい。パソコンは授業を実施する上で欠かせないツールとなります。
目標と評価：	目標は以下の三点です。 (1) 経済学の基本的な概念を理解する。 (2) 日常的な経済事象や言葉を、経済学の概念を用いて説明する。 (3) 大学における授業形態や試験形式に馴れる。  評価は、通常授業週での取り組み(20%)と定期試験に行われる筆答試験(持ち込み可、80%)とを総合して下します。
教科書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「経済学入門」（担当者：久保 真）の履修の手引き

科目名：	経済学入門
担当者：	久保 真
対象学生：	短期大学部1年
設置学期：	春
概要：	我々現代人は日々買い物などの経済活動をしているにも拘わらず、いやそれだからこそというべきでしょうか、経済の仕組みや成り立ちには無関心な人が少なくありません。しかし他方で、いわゆる「自己責任」の時代の到来とともに、経済に関する知識や理解は普通の人々にもますます求められるようになって来ています。このような現実を鑑み、本講義は、経済学の初学者そして必ずしも経済学を専攻しない学生が、経済というものに興味を持つよう促すことを目的とします。このような目的を果たすために、できるだけ身近なトピックも取り上げるようにしますので、受講生諸君は、新聞やテレビなどで報じられる経済関連ニュースに、日頃から接するように心がけてください。 講義において扱う具体的なテーマは、(1)経済学とは？(2)市場(3)株式会社(4)資本蓄積(5)通貨と中央銀行(6)政府の役割と政府財政(7)景気循環とポリシーミックス(8)国際経済を予定しています。
授業方法：	通常の講義によって行いますが、できるだけ双方向性を確保するよう努力するつもりです。特に教科書は使いませんので、授業中は講義内容の理解に全身全霊を注いでください。また、ウェブにて授業情報を発信しますので、予習復習を欠かさず行って下さい。
履修の留意点：	初回の授業には必ずパソコンを持参して下さい。パソコンは授業を実施する上で欠かせないツールとなります。
目標と評価：	目標は以下の三点です。 (1) 経済学の基本的な概念を理解する。 (2) 日常的な経済事象や言葉を、経済学の概念を用いて説明する。 (3) 大学における授業形態や試験形式に馴れる。  評価は、通常授業週での取り組み(20%)と定期試験に行われる筆答試験(持ち込み可、80%)とを総合して下します。
教科書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。



「経済学入門」（担当者：久保 真）の履修の手引き

科目名：	経済学入門
担当者：	久保 真
対象学生：	短期大学部1年
設置学期：	春
概要：	我々現代人は日々買い物などの経済活動をしているにも拘わらず、いやそれだからこそというべきでしょうか、経済の仕組みや成り立ちには無関心な人が少なくありません。しかし他方で、いわゆる「自己責任」の時代の到来とともに、経済に関する知識や理解は普通の人々にもますます求められるようになって来ています。このような現実を鑑み、本講義は、経済学の初学者そして必ずしも経済学を専攻しない学生が、経済というものに興味を持つよう促すことを目的とします。このような目的を果たすために、できるだけ身近なトピックも取り上げるようにしますので、受講生諸君は、新聞やテレビなどで報じられる経済関連ニュースに、日頃から接するように心がけてください。 講義において扱う具体的なテーマは、(1)経済学とは？(2)市場(3)株式会社(4)資本蓄積(5)通貨と中央銀行(6)政府の役割と政府財政(7)景気循環とポリシーミックス(8)国際経済を予定しています。
授業方法：	通常の講義によって行いますが、できるだけ双方向性を確保するよう努力するつもりです。特に教科書は使いませんので、授業中は講義内容の理解に全身全霊を注いでください。また、ウェブにて授業情報を発信しますので、予習復習を欠かさず行って下さい。
履修の留意点：	初回の授業には必ずパソコンを持参して下さい。パソコンは授業を実施する上で欠かせないツールとなります。
目標と評価：	目標は以下の三点です。 (1) 経済学の基本的な概念を理解する。 (2) 日常的な経済事象や言葉を、経済学の概念を用いて説明する。 (3) 大学における授業形態や試験形式に馴れる。  評価は、通常授業週での取り組み(20%)と定期試験に行われる筆答試験(持ち込み可、80%)とを総合して下します。
教科書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「経済学入門」（担当者：久保 真）の履修の手引き

科目名：	経済学入門
担当者：	久保 真
対象学生：	短期大学部1年
設置学期：	春
概要：	我々現代人は日々買い物などの経済活動をしているにも拘わらず、いやそれだからこそというべきでしょうか、経済の仕組みや成り立ちには無関心な人が少なくありません。しかし他方で、いわゆる「自己責任」の時代の到来とともに、経済に関する知識や理解は普通の人々にもますます求められるようになって来ています。このような現実を鑑み、本講義は、経済学の初学者そして必ずしも経済学を専攻しない学生が、経済というものに興味を持つよう促すことを目的とします。このような目的を果たすために、できるだけ身近なトピックも取り上げるようにしますので、受講生諸君は、新聞やテレビなどで報じられる経済関連ニュースに、日頃から接するように心がけてください。 講義において扱う具体的なテーマは、(1)経済学とは？(2)市場(3)株式会社(4)資本蓄積(5)通貨と中央銀行(6)政府の役割と政府財政(7)景気循環とポリシーミックス(8)国際経済を予定しています。
授業方法：	通常の講義によって行いますが、できるだけ双方向性を確保するよう努力するつもりです。特に教科書は使いませんので、授業中は講義内容の理解に全身全霊を注いでください。また、ウェブにて授業情報を発信しますので、予習復習を欠かさず行って下さい。
履修の留意点：	初回の授業には必ずパソコンを持参して下さい。パソコンは授業を実施する上で欠かせないツールとなります。
目標と評価：	目標は以下の三点です。 (1) 経済学の基本的な概念を理解する。 (2) 日常的な経済事象や言葉を、経済学の概念を用いて説明する。 (3) 大学における授業形態や試験形式に馴れる。  評価は、通常授業週での取り組み(20%)と定期試験に行われる筆答試験(持ち込み可, 80%)とを総合して下します。
教科書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「経済学入門」（担当者：渡辺 広明）の履修の手引き

科目名：	経済学入門
担当者：	渡辺 広明
対象学生：	経営経済学部1年
設置学期：	春
概要：	<p>受講生の皆さん、「経済学」と言うコトバを聞いて、どんな感想・イメージをお持ちになりますか。多くは「難しい専門用語があり、分かり難い科目」とか、「数値を扱うので嫌いな科目」とか、マイナスなイメージがあります。残念ながら、経済学の専門学部の学生諸君にも不人気の学科目の一つです。多くの学生諸君にとって経済学は「経済が苦」となってしまうのです。でも、最近のニュースを見ると、経済に関係している事柄が多いのも事実です。景気の継続的な悪化、大企業の倒産、リストラの激化、不良債権の拡大、財政の赤字、失業率の史上最高など経済問題に事欠きません。市民としてこのような経済的諸問題を避けて生活する事は出来ないと思われれます。まして、専門学部に所属する皆さんですから、経済学を究めてもらいたいと思います。その第一歩がこの経済学入門です。経済学の基礎の基礎を学習します。その後で、ステップを踏んで上級の内容に進んでください。初学者の経済学ですから授業展開で留意した点は、身近な経済問題を取り上げると共に内容を絞り込み、分かりやすい授業を行う事に力を入れました。主な内容は、パンダ・タイムマシンに乗る（経済学とは何か）、パンダの身体の仕組み（国民経済の仕組みと循環）、パンダ・お元気ですか（景気の話とGDP）、パンダ海外旅行に行こう（外国為替とその相場、円高・円安）、パンダの体調と血圧（銀行の仕事、中央銀行の役割、株式）、パンダの頭痛の種（財政の役割、赤字財政の問題）、パンダの日記（3大経済学者の考え方）等です。教科書は特に有りません。参考文献は、下記の図書を参照して下さい。日本経済新聞社編『やさしい経済学』日経ビジネス人文庫、細野真宏『経済のニュースが面白いほどわかる本・日本経済編、世界経済編』中経出版、小塩隆士『高校生のための経済学入門』ちくま新書。</p>
授業方法：	基本的には、講義形式です。毎回、作業があります。これが出席の証になります。
履修の留意点：	この講義では、ホームランを打つ事が出来ません。毎日の積み重ねが大切です。ヒットをこつこつ打ってください。毎日、経済学のことを少しでも考えてもらいたい。そのため授業に出席するのはもとより、毎回、作業が課されます。それらを積極的に取り組んでください。
目標と評価：	経済学の基本的な用語を学ぶ事が出来る。評価：学期末テスト（70%）、作業（30%）
教科書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「経済学入門」（担当者：渡辺 広明）の履修の手引き

科目名：	経済学入門
担当者：	渡辺 広明
対象学生：	経営経済学部1年
設置学期：	秋（再履修用）
概要：	<p>受講生の皆さん、「経済学」と言うコトバを聞いて、どんな感想・イメージをお持ちになりますか。多くは「難しい専門用語があり、分かり難い科目」とか、「数値を扱うので嫌いな科目」とか、マイナスなイメージがあります。残念ながら、経済学の専門学部の学生諸君にも不人気な学科目の一つです。多くの学生諸君にとって経済学は「経済が苦」となってしまうのです。でも、最近のニュースを見ると、経済に関係している事柄が多いのも事実です。景気の継続的な悪化、大企業の倒産、リストラの激化、不良債権の拡大、財政の赤字、失業率の史上最高など経済問題に事欠きません。市民としてこのような経済的諸問題を避けて生活する事は出来ないと思われまます。まして、専門学部に所属する皆さんですから、経済学を究めてもらいたいと思います。その第一歩がこの経済学入門です。経済学の基礎の基礎を学習します。その後で、ステップを踏んで上級の内容に進んでください。初学者の経済学ですから授業展開で留意した点は、身近な経済問題を取り上げると共に内容を絞り込み、分かりやすい授業を行う事に力を入れました。主な内容は、パンダ・タイムマシンに乗る（経済学とは何か）、パンダの身体の仕組み（国民経済の仕組みと循環）、パンダ・お元気ですか（景気の話とGDP）、パンダ海外旅行に行こう（外国為替とその相場、円高・円安）、パンダの体調と血圧（銀行の仕事、中央銀行の役割、株式）、パンダの頭痛の種（財政の役割、赤字財政の問題）、パンダの日記（3大経済学者の考え方）等です。教科書は特に有りません。参考文献は、下記の図書を参照して下さい。日本経済新聞社編『やさしい経済学』日経ビジネス人文庫、細野真宏『経済のニュースが面白いほどわかる本・日本経済編、世界経済編』中経出版、小塩隆士『高校生のための経済学入門』ちくま新書。</p>
授業方法：	基本的には、講義形式です。毎回、作業があります。これが出席の証になります。
履修の留意点：	この講義では、ホームランを打つ事が出来ません。毎日の積み重ねが大切です。ヒットをこつこつ打ってください。毎日、経済学のことを少しでも考えてもらいたい。そのため授業に出席するのはもとより、毎回、作業が課されます。それらを積極的に取り組んでください。
目標と評価：	経済学の基本的な用語を学ぶ事が出来る。評価：学期末テスト（70%）、作業（30%）
教科書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「経済学入門」（担当者：渡辺 広明）の履修の手引き

科目名：	経済学入門
担当者：	渡辺 広明
対象学生：	経営経済学部1年
設置学期：	春
概要：	<p>受講生の皆さん、「経済学」と言うコトバを聞いて、どんな感想・イメージをお持ちになりますか。多くは「難しい専門用語があり、分かり難い科目」とか、「数値を扱うので嫌いな科目」とか、マイナスなイメージがあります。残念ながら、経済学の専門学部の学生諸君にも不人気の学科目の一つです。多くの学生諸君にとって経済学は「経済が苦」となってしまうのです。でも、最近のニュースを見ると、経済に関係している事柄が多いのも事実です。景気の継続的な悪化、大企業の倒産、リストラの激化、不良債権の拡大、財政の赤字、失業率の史上最高など経済問題に事欠きません。市民としてこのような経済的諸問題を避けて生活する事は出来ないと思われれます。まして、専門学部に所属する皆さんですから、経済学を究めてもらいたいと思います。その第一歩がこの経済学入門です。経済学の基礎の基礎を学習します。その後で、ステップを踏んで上級の内容に進んでください。初学者の経済学ですから授業展開で留意した点は、身近な経済問題を取り上げると共に内容を絞り込み、分かりやすい授業を行う事に力を入れました。主な内容は、パンダ・タイムマシンに乗る（経済学とは何か）、パンダの身体の仕組み（国民経済の仕組みと循環）、パンダ・お元気ですか（景気の話とGDP）、パンダ海外旅行に行こう（外国為替とその相場、円高・円安）、パンダの体調と血圧（銀行の仕事、中央銀行の役割、株式）、パンダの頭痛の種（財政の役割、赤字財政の問題）、パンダの日記（3大経済学者の考え方）等です。教科書は特に有りません。参考文献は、下記の図書を参照して下さい。日本経済新聞社編『やさしい経済学』日経ビジネス人文庫、細野真宏『経済のニュースが面白いほどわかる本・日本経済編、世界経済編』中経出版、小塩隆士『高校生のための経済学入門』ちくま新書。</p>
授業方法：	基本的には、講義形式です。毎回、作業があります。これが出席の証になります。
履修の留意点：	この講義では、ホームランを打つ事が出来ません。毎日の積み重ねが大切です。ヒットをこつこつ打ってください。毎日、経済学のことを少しでも考えてもらいたい。そのため授業に出席するのはもとより、毎回、作業が課されます。それらを積極的に取り組んでください。
目標と評価：	経済学の基本的な用語を学ぶ事が出来る。評価：学期末テスト（70%）、作業（30%）
教科書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「経済学入門」（担当者：渡辺 広明）の履修の手引き

科目名：	経済学入門
担当者：	渡辺 広明
対象学生：	経営経済学部1年
設置学期：	春
概要：	<p>受講生の皆さん、「経済学」と言うコトバを聞いて、どんな感想・イメージをお持ちになりますか。多くは「難しい専門用語があり、分かり難い科目」とか、「数値を扱うので嫌いな科目」とか、マイナスなイメージがあります。残念ながら、経済学の専門学部の学生諸君にも不人気の学科目の一つです。多くの学生諸君にとって経済学は「経済が苦」となってしまうのです。でも、最近のニュースを見ると、経済に関係している事柄が多いのも事実です。景気の継続的な悪化、大企業の倒産、リストラの激化、不良債権の拡大、財政の赤字、失業率の史上最高など経済問題に事欠きません。市民としてこのような経済的諸問題を避けて生活する事は出来ないと思われれます。まして、専門学部に所属する皆さんですから、経済学を究めてもらいたいと思います。その第一歩がこの経済学入門です。経済学の基礎の基礎を学習します。その後で、ステップを踏んで上級の内容に進んでください。初学者の経済学ですから授業展開で留意した点は、身近な経済問題を取り上げると共に内容を絞り込み、分かりやすい授業を行う事に力を入れました。主な内容は、パンダ・タイムマシンに乗る（経済学とは何か）、パンダの身体の仕組み（国民経済の仕組みと循環）、パンダ・お元気ですか（景気の話とGDP）、パンダ海外旅行に行こう（外国為替とその相場、円高・円安）、パンダの体調と血圧（銀行の仕事、中央銀行の役割、株式）、パンダの頭痛の種（財政の役割、赤字財政の問題）、パンダの日記（3大経済学者の考え方）等です。教科書は特に有りません。参考文献は、下記の図書を参照して下さい。日本経済新聞社編『やさしい経済学』日経ビジネス人文庫、細野真宏『経済のニュースが面白いほどわかる本・日本経済編、世界経済編』中経出版、小塩隆士『高校生のための経済学入門』ちくま新書。</p>
授業方法：	基本的には、講義形式です。毎回、作業があります。これが出席の証になります。
履修の留意点：	この講義では、ホームランを打つ事が出来ません。毎日の積み重ねが大切です。ヒットをこつこつ打ってください。毎日、経済学のことを少しでも考えてもらいたい。そのため授業に出席するのはもとより、毎回、作業が課されます。それらを積極的に取り組んでください。
目標と評価：	経済学の基本的な用語を学ぶ事が出来る。評価：学期末テスト（70%）、作業（30%）
教科書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「経営学入門」（担当者：加藤 敦宣）の履修の手引き

科目名：	経営学入門
担当者：	加藤 敦宣
対象学生：	短期大学部1年
設置学期：	秋
概要：	経営学入門では組織の仕組みや株式の制度、資金の調達といった、企業経営における基本的な枠組みについて学ぶことを目的としています。社会における企業の役割と機能について、今後の経営学関連科目の勉強に必要な基本的な考察力を養うことを、学習到達目標の1つとしています。
授業方法：	講義形式です。
履修の留意点：	特になし。
目標と評価：	期末テストを基準とし、これに授業参画の度合いを、適宜加味して評価します。
教科書：	経営学入門 占部都美・加護野忠男 中央経済社 1997年

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「経営学入門」（担当者：加藤 敦宣）の履修の手引き

科目名：	経営学入門
担当者：	加藤 敦宣
対象学生：	経営経済学部1年
設置学期：	春
概要：	経営学入門では組織の仕組みや株式の制度、資金の調達といった、企業経営における基本的な枠組みについて学ぶことを目的としています。社会における企業の役割と機能について、今後の経営学関連科目の勉強に必要な基本的な考察力を養うことを、学習到達目標の1つとしています。
授業方法：	講義形式です。
履修の留意点：	特になし。
目標と評価：	期末テストを基準とし、これに授業参画の度合いを、適宜加味して評価します。
教科書：	経営学入門 占部都美・加護野忠男 中央経済社 1997年

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。



「経営学入門」（担当者：加藤 敦宣）の履修の手引き

科目名：	経営学入門
担当者：	加藤 敦宣
対象学生：	短期大学部1年
設置学期：	秋
概要：	経営学入門では組織の仕組みや株式の制度、資金の調達といった、企業経営における基本的な枠組みについて学ぶことを目的としています。社会における企業の役割と機能について、今後の経営学関連科目の勉強に必要な基本的な考察力を養うことを、学習到達目標の1つとしています。
授業方法：	講義形式です。
履修の留意点：	特になし。
目標と評価：	期末テストを基準とし、これに授業参画の度合いを、適宜加味して評価します。
教科書：	経営学入門 占部都美・加護野忠男 中央経済社 1997年

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「経営学入門（再履修用）」（担当者：加藤 敦宣）の履修の手引き

科目名：	経営学入門（再履修用）
担当者：	加藤 敦宣
対象学生：	短期大学部2年
設置学期：	春
概要：	経営学入門では組織の仕組みや株式の制度、資金の調達といった、企業経営における基本的な枠組みについて学ぶことを目的としています。社会における企業の役割と機能について、今後の経営学関連科目の勉強に必要な基本的な考察力を養うことを、学習到達目標の1つとしています。
授業方法：	講義形式です。
履修の留意点：	特になし。
目標と評価：	期末テストを基準とし、これに授業参画の度合いを、適宜加味して評価します。
教科書：	経営学入門 占部都美・加護野忠男 中央経済社 1997年

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「経営学入門」（担当者：山川 肇）の履修の手引き

科目名：	経営学入門
担当者：	山川 肇
対象学生：	経営経済学部1年
設置学期：	春
概要：	経営学の対象とするものは何かを理解し、現代社会における企業経営の基本的な仕組みや実務運用に係わる知識や用語を体系的に学習する。 企業経営とは何か総合的・基本的な展望ができるように理解しやすい内容・構成とし、情報化、グローバル化、高齢化といった変化・進展している最新トレンドを踏まえて、出来るだけ実践的に講義する。 社会人になってから経営の概念を体系的に学ぶ機会ほとんどないのが実情であり、企業業務で実際に活用できる知識とスキルを学生時代に身に付けておくことが有効かつ重要であるという観点から指導する。
授業方法：	企業に入社してからの具体的な業務事例や、実在する企業のケーススタディを説明しながら、正しい用語や実務ノウハウを習得するための大切なポイントを重点的に解説する。教科書を使用するが、一部レポート提出も行う。
履修の留意点：	①体系的・継続的に学習するので、欠席や早退・遅刻は不利となる場合が多いので十分注意すること。 ②企業の良否を判断する簡単な分析の実習も行うので、卓上計算機を常備すること。 ③教科書、参考書を利用するが、重要な用語等は板書きで指導する。きちんとノートに記述することが大切である。
目標と評価：	企業等に入社してすぐに実力を発揮出来るように、また自分が起業して経営にあたるために、経営の概念をしっかりと習得すると同時に、上級経営学に進むための基本を学ぶことが目標である。 評価は原則として筆記試験によるが、授業中の積極性や課題レポートの内容を加味する。
教科書：	経営の基本（日経文庫 665） 武藤 泰明 日本経済新聞社 平成7年初版 （参考書）改定 経営学入門 石井 武俊 他 八千代出版 平成7年初版

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「経営学入門」（担当者：山川 肇）の履修の手引き

科目名：	経営学入門
担当者：	山川 肇
対象学生：	経営経済学部1年
設置学期：	春
概要：	経営学の対象とするものは何かを理解し、現代社会における企業経営の基本的な仕組みや実務運用に係わる知識や用語を体系的に学習する。企業経営とは何か総合的・基本的な展望ができるように理解しやすい内容・構成とし、情報化、グローバル化、高齢化といった変化・進展している最新トレンドを踏まえて、出来るだけ実践的に講義する。社会人になってから経営の概念を体系的に学ぶ機会ほとんどないのが実情であり、企業業務で実際に活用できる知識とスキルを学生時代に身に付けておくことが有効かつ重要であるという観点から指導する。
授業方法：	企業に入社してからの具体的な業務事例や、実在する企業のケーススタディを説明しながら、正しい用語や実務ノウハウを習得するための大切なポイントを重点的に解説する。教科書を使用するが、一部レポート提出も行う。
履修の留意点：	①体系的・継続的に学習するので、欠席や早退・遅刻は不利となる場合が多いので十分注意すること。 ②企業の良否を判断する簡単な分析の実習も行うので、卓上計算機を常備すること。 ③教科書、参考書を利用するが、重要な用語等は板書きで指導する。きちんとノートに記述することが大切である。
目標と評価：	企業等に入社してすぐに実力を発揮出来るように、また自分が起業して経営にあたるために、経営の概念をしっかりと習得すると同時に、上級経営学に進むための基本を学ぶことが目標である。評価は原則として筆記試験によるが、授業中の積極性や課題レポートの内容を加味する。
教科書：	経営の基本（日経文庫 665） 武藤 泰明 日本経済新聞社 平成7年初版 （参考書）改定 経営学入門 石井 武俊 他 八千代出版 平成7年初版

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「経営学入門（再履修用）」（担当者：山川 肇）の履修の手引き

科目名：	経営学入門（再履修用）
担当者：	山川 肇
対象学生：	経営経済学部2年
設置学期：	秋
概要：	経営学の対象とするものは何かを理解し、現代社会における企業経営の基本的な仕組みや実務運用に係わる知識や用語を体系的に学習する。企業経営とは何か総合的・基本的な展望ができるように理解しやすい内容・構成とし、情報化、グローバル化、高齢化といった変化・進展している最新トレンドを踏まえて、出来るだけ実践的に講義する。社会人になってから経営の概念を体系的に学ぶ機会はほとんどないのが実情であり、企業業務で実際に活用できる知識とスキルを学生時代に身に付けておくことが有効かつ重要であるという観点から指導する。1年次の授業内容を復習すると同時に、より具体的な実例研修によって基礎を完全に習得する。
授業方法：	企業に入社してからの具体的な業務事例や、実在する企業のケーススタディを説明しながら、正しい用語や実務ノウハウを習得するための大切なポイントを重点的に解説する。教科書を使用するが、一部レポート提出も行う。
履修の留意点：	①体系的・継続的に学習するので、欠席や早退・遅刻は不利となる場合が多いので十分注意すること。 ②企業の良否を判断する簡単な分析の実習も行うので、卓上計算機を常備すること。 ③教科書、参考書を利用するが、重要な用語等は板書きで指導する。きちんとノートに記述することが大切である。
目標と評価：	企業等に入社してすぐに実力を発揮出来るように、また自分が起業して経営にあたるために、経営の概念をしっかりと習得すると同時に、上級経営学に進むための基本を学ぶことが目標である。評価は原則として筆記試験によるが、授業中の積極性や課題レポートの内容を加味する。
教科書：	経営の基本（日経文庫 665） 武藤 泰明 日本経済新聞社 平成7年初版 （参考書）改定 経営学入門 石井 武俊 他 八千代出版 平成7年初版

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「人間関係論」（担当者：石川 直弘）の履修の手引き

科目名：	人間関係論
担当者：	石川 直弘
対象学生：	短期大学部1年
設置学期：	春
概要：	この講義では、日常生活の中で見られる人間の社会的な行動から、いくつかのテーマをとりあげて、自己と他者との関係およびその背景にある心理的特質を、科学的に分析し考察していく。 最初に、人間関係を科学的に考えていくために必要な基礎的な事項について学ぶ。 いかにしてデータが集められ、分析されていくかその方法について学習する。 その後で、さまざまな形の人間関係を例にあげて具体的に学んでいく。
授業方法：	通常の講義形式で授業を行う。
履修の留意点：	特になし
目標と評価：	定期試験によって成績を評価する。
教科書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「人間関係論」（担当者：石川 直弘）の履修の手引き

科目名：	人間関係論
担当者：	石川 直弘
対象学生：	短期大学部1年
設置学期：	春
概要：	この講義では、日常生活の中で見られる人間の社会的な行動から、いくつかのテーマをとりあげて、自己と他者との関係およびその背景にある心理の特質を、科学的に分析し考察していく。 最初に、人間関係を科学的に考えていくために必要な基礎的な事項について学ぶ。 いかにしてデータが集められ、分析されていくかその方法について学習する。 その後で、さまざまな形の人間関係を例にあげて具体的に学んでいく。
授業方法：	通常の講義形式で授業を行う。
履修の留意点：	特になし
目標と評価：	定期試験によって成績を評価する。
教科書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「人間関係論」（担当者：石川 直弘）の履修の手引き

科目名：	人間関係論
担当者：	石川 直弘
対象学生：	短期大学部1年
設置学期：	春
概要：	この講義では、日常生活の中で見られる人間の社会的な行動から、いくつかのテーマをとりあげて、自己と他者との関係およびその背景にある心理の特質を、科学的に分析し考察していく。 最初に、人間関係を科学的に考えていくために必要な基礎的な事項について学ぶ。 いかにしてデータが集められ、分析されていくかその方法について学習する。 その後で、さまざまな形の人間関係を例にあげて具体的に学んでいく。
授業方法：	通常の講義形式で授業を行う。
履修の留意点：	特になし
目標と評価：	定期試験によって成績を評価する。
教科書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。



「人間関係論（再履修用）」（担当者：石川 直弘）の履修の手引き

科目名：	人間関係論（再履修用）
担当者：	石川 直弘
対象学生：	短期大学部1年
設置学期：	秋
概要：	この講義では、日常生活の中で見られる人間の社会的な行動から、いくつかのテーマをとりあげて、自己と他者との関係およびその背景にある心理の特質を、科学的に分析し考察していく。 最初に、人間関係を科学的に考えていくために必要な基礎的な事項について学ぶ。 いかにしてデータが集められ、分析されていくかその方法について学習する。 その後で、さまざまな形の人間関係を例にあげて具体的に学んでいく。
授業方法：	通常の講義形式で授業を行う。
履修の留意点：	特になし
目標と評価：	定期試験によって成績を評価する。
教科書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「コンピュータと社会」（担当者：南 憲一）の履修の手引き

科目名：	コンピュータと社会
担当者：	南 憲一
対象学生：	短期大学部1年
設置学期：	秋
概要：	<p>インターネットに代表される情報技術が社会において重要な位置をしめている。本講義では、コンピュータおよびネットワークと社会の関わり、情報の個人および組織における活用とその問題点について学習する。高度情報化社会の進展、コンピュータやネットワークの取り扱うメディアの変遷とマルチメディアの実現、われわれを取り巻く情報環境、オフィスや家庭、学校のデジタル化、インターネットを使う上で留意すべき点、といった事項について最新のトピックにも触れながら学習を進めていく。</p> <p>(内容)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>デジタル社会の展望</li> <li>マルチメディア</li> <li>オフィスのデジタル化</li> <li>イントラネットとSOHO</li> <li>家庭におけるデジタル化</li> <li>学生生活におけるデジタル化</li> <li>インターネットのリテラシー</li> <li>WWWと情報発信</li> </ul>
授業方法：	パソコンを使用しながら講義を進めていくので、ノートパソコンを必ず持参すること。
履修の留意点：	嘉悦e-Campusを活用して授業を進めるので、授業時間内だけでなく自宅でも授業情報のページを開き、予習・復習に役立てること。
目標と評価：	レポートと定期試験（筆記）で評価する。
教科書：	デジタル社会の情報リテラシー 斉藤 孝 弘学出版 2002年

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「コンピュータと社会」（担当者：宮本 勉）の履修の手引き

科目名：	コンピュータと社会
担当者：	宮本 勉
対象学生：	短期大学部1年
設置学期：	秋
概要：	<p>インターネットに代表される情報技術が社会において重要な位置をしめている。本講義では、コンピュータおよびネットワークと社会の関わり、情報の個人および組織における活用とその問題点について学習する。高度情報化社会の進展、コンピュータやネットワークの取り扱うメディアの変遷とマルチメディアの実現、われわれを取り巻く情報環境、オフィスや家庭、学校のデジタル化、インターネットを使う上で留意すべき点、といった事項について最新のトピックにも触れながら学習を進めていく。</p> <p>(内容)</p> <p>デジタル社会の展望                      マルチメディア                      オフィスのデジタル化                      イン트라ネットとSOHO                      家庭におけるデジタル化                      学生生活におけるデジタル化                      インターネットのリテラシー                      WWWと情報発信</p>
授業方法：	<p>パソコンを使用しながら講義を進めていくので、ノートパソコンを必ず持参すること。                      嘉悦e-Campusを活用して授業を進めるので、授業時間内だけでなく自宅でも授業情報のページを開き、予習・復習に役立てること。</p>
履修の留意点：	特になし。
目標と評価：	レポートと定期試験で評価する。
教科書：	デジタル社会の情報リテラシー 齊藤 孝 弘学出版 2002年 _____ _____ _____ _____

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「コンピュータと社会」（担当者：宮本 勉）の履修の手引き

科目名：	コンピュータと社会
担当者：	宮本 勉
対象学生：	短期大学部1年
設置学期：	秋
概要：	<p>インターネットに代表される情報技術が社会において重要な位置をしめている。本講義では、コンピュータおよびネットワークと社会の関わり、情報の個人および組織における活用とその問題点について学習する。高度情報化社会の進展、コンピュータやネットワークの取り扱うメディアの変遷とマルチメディアの実現、われわれを取り巻く情報環境、オフィスや家庭、学校のデジタル化、インターネットを使う上で留意すべき点、といった事項について最新のトピックにも触れながら学習を進めていく。</p> <p>(内容)</p> <p>デジタル社会の展望                      マルチメディア                      オフィスのデジタル化                      イン트라ネットとSOHO                      家庭におけるデジタル化                      学生生活におけるデジタル化                      インターネットのリテラシー                      WWWと情報発信</p>
授業方法：	<p>パソコンを使用しながら講義を進めていくので、ノートパソコンを必ず持参すること。                      嘉悦e-Campusを活用して授業を進めるので、授業時間内だけでなく自宅でも授業情報のページを開き、予習・復習に役立てること。</p>
履修の留意点：	特になし。
目標と評価：	レポートと定期試験で評価する。
教科書：	デジタル社会の情報リテラシー 齊藤 孝 弘学出版 2002年 _____ _____ _____ _____

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「経営管理論Ⅰ」（担当者：加藤 敦宣）の履修の手引き

科目名：	経営管理論Ⅰ
担当者：	加藤 敦宣
対象学生：	短期大学部2年
設置学期：	春
概要：	経営管理論では経営管理の歴史について、学ぶことを目的としています。経営管理は20世紀初頭の工場管理という現場の必要性からスタートし、その後、企業制度の成長と歩調を合わせて、飛躍的な展開を見せます。今日では経営管理の対象は、工場という小さな範囲を超え、企業全般に渡っています。経営管理のあり方は、時代の流れも敏感に反映します。企業が成熟することで、働く人たちにも変化が生じます。経営管理における歴史展開を勉強することは、経営学の世界観を理解することに繋がることでしょう。そこで本講では、そのような経営管理における見方や考え方について、自らが考えられる能力を養うことを、学習到達目標の1つとしています。
授業方法：	講義形式です。
履修の留意点：	特になし。
目標と評価：	期末テスト（参照不可）を基準とし、これに授業参画の度合いを、適宜加味して評価します。
教科書：	新訂・経営管理論 占部都美 白桃書房 1984年    

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「経営管理論Ⅰ」（担当者：白坂 亨）の履修の手引き

科目名：	経営管理論Ⅰ
担当者：	白坂 亨
対象学生：	短期大学部2年
設置学期：	春
概要：	産業が発展し、企業が巨大化するにしたがって、会社経営には管理の必要性が生じてきました。本講義においては、生産技術の進化、政治経済情勢の変化、価値観の多様化、情報通信の高度化に伴い、経営管理論も変化、発展してきた過程を確認、理解していく。
授業方法：	先ず講義に先立ち、板書し、次いで資料を配布、出席をとったうえで、板書事項の説明を中心に講義します。 1 企業形態と株式会社の発展 2 企業の組織と管理 というテーマの下、それぞれ4～5回に分けて講義します
履修の留意点：	特になし。
目標と評価：	評価について 出席については厳格にとりますのでそのつもりで出席してください。
教科書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「経営管理論 I（再履修用）」（担当者：白坂 亨）の履修の手引き

科目名：	経営管理論 I（再履修用）
担当者：	白坂 亨
対象学生：	短期大学部2年
設置学期：	秋
概要：	産業が発展し、企業が巨大化するにしたがって、会社経営には管理の必要性が生じてきました。本講義においては、生産技術の進化、政治経済情勢の変化、価値観の多様化、情報通信の高度化に伴い、経営管理論も変化、発展してきた過程を確認、理解していく。
授業方法：	先ず講義に先立ち、板書し、次いで資料を配布、出席をとったうえで、板書事項の説明を中心に講義します。 1 企業形態と株式会社の発展 2 企業の組織と管理 というテーマの下、それぞれ4～5回に分けて講義します
履修の留意点：	特になし。
目標と評価：	評価について 出席については厳格にとりますのでそのつもりで出席してください。
教科書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「経営管理論Ⅰ」（担当者：白坂 亨）の履修の手引き

科目名：	経営管理論Ⅰ
担当者：	白坂 亨
対象学生：	短期大学部2年
設置学期：	春
概要：	産業が発展し、企業が巨大化するにしたがって、会社経営には管理の必要性が生じてきました。本講義においては、生産技術の進化、政治経済情勢の変化、価値観の多様化、情報通信の高度化に伴い、経営管理論も変化、発展してきた過程を確認、理解していく。
授業方法：	先ず講義に先立ち、板書し、次いで資料を配布、出席をとったうえで、板書事項の説明を中心に講義します。 1 企業形態と株式会社の発展 2 企業の組織と管理 というテーマの下、それぞれ4～5回に分けて講義します
履修の留意点：	特になし。
目標と評価：	評価について 出席については厳格にとりますのでそのつもりで出席してください。
教科書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。



「経営学Ⅰ」（担当者：小沢 勝之）の履修の手引き

科目名：	経営学Ⅰ
担当者：	小沢 勝之
対象学生：	経営経済学部1年
設置学期：	秋
概要：	経営学は企業や組織のしくみや行動を明らかにする学問です 私達は生活するために必要な商品やサービスのほとんどは企業や組織から買っていますし 生活資金を得るためにほとんどの人は企業や組織で働き給料を貰っています このように企業や組織は私達の生活と大変深い関係があるのですが、どのようなしくみでどのように 運営されどのように行動しているのか、まだよく分からないとおもいます こうした事について、ひとつひとつ分かりやすく理解してもらうことがこの授業の目的です 国内外の企業の競争はどのように行われているか、企業や組織で働くためにはどんなことが大切 になるか、企業の環境対策のありかたや社会的責任は、など企業と関係する幅ひろい現代的問題も 取り上げていきます。
授業方法：	講義形式主体ですが、分かりやすくするために理論だけでなく、できるだけ多くの 実際の企業の行っている実例も紹介しますし、また質問し答えてもらう質疑形式の 方法も時々採用する予定にしています
履修の留意点：	特にありませんが、ノートはきちんと作ってください それから、私語をしない、帽子を取る、携帯電話の電源を切る、など 授業をうける最低のマナーは守ってください
目標と評価：	経営経済学部の学生として必要な経営学の知識や経営学的考え方を身につけて 貰うことを目標にしています 評価は期末試験7割、出席3割の合計点です 授業態度は悪ければ注意しますが 評価点にだいたいでいいので、あくまで期末のテストの点を中心になります
教科書：	教科書は使いませんが、参考書は授業中に紹介します    

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「経営学 I（再履修用）」（担当者：小沢 勝之）の履修の手引き

科目名：	経営学 I（再履修用）
担当者：	小沢 勝之
対象学生：	経営経済学部2年
設置学期：	春
概要：	経営学は企業や組織のしくみや行動を明らかにする学問です 私達は生活するために必要な商品やサービスのほとんどは企業や組織から買っていますし 生活資金を得るためにほとんどの人は企業や組織で働き給料を貰っています このように企業や組織は私達の生活と大変深い関係があるのですが、どのようなしくみでどのように 運営されどのように行動しているのか、まだよく分からないとおもいます こうした事について、ひとつひとつ分かりやすく理解してもらおうことがこの授業の目的です 国内外の企業の競争はどのように行われているか、企業や組織で働くためにはどんなことが大切 になるか、企業の環境対策のありかたや社会的責任は、など企業と関係する幅ひろい現代的問題も 取り上げていきます。
授業方法：	講義形式主体ですが、分かりやすくするために理論だけでなく、できるだけ多くの 実際の企業の行っている実例も紹介しますし、また質問し答えてもらう質疑形式の 方法も時々採用する予定にしています
履修の留意点：	特にありませんが、ノートはきちんと作ってください それから、私語をしない、帽子を取る、携帯電話の電源を切る、など 授業をうける最低のマナーは守ってください
目標と評価：	経営経済学部の学生として必要な経営学の知識や経営学的考え方を身につけて 貰うことを目標にしています 評価は期末試験 7割、出席 3割の合計点です 授業態度は悪ければ注意しますが 評価点にだいたいでいいので、あくまで期末のテストの点を中心になります
教科書：	教科書は使いませんが、参考書は授業中に紹介します    

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「経営学Ⅰ」（担当者：松行 彬子）の履修の手引き

科目名：	経営学Ⅰ
担当者：	松行 彬子
対象学生：	経営経済学部1年
設置学期：	秋
概要：	<p>経営学は、企業を対象とし、それに関連して経営や組織などを研究する。また、経営学は、理論的であるとともに実践的であり、企業の経営革新をするための専門的な知識体系である。現代の経営学は、具体的には、市場経済体制下における製造業を中心とする大規模株式会社企業を研究対象にして、生成・発展してきた。本講では、このような企業とその経営に関する基本的な知識を修得ことにより、経営学の原理や経営的なものの見方を学習することを目的とする。とくに、経営学の基礎理論として、テイラーの科学的管理法・20世紀の代表的な大量生産方式であるフォードシステム・新しい世紀の生産方式として注目されているトヨタ生産方式などを中心に講述する。</p> <p>本講における主要な講義内容は、つぎの通りである。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 経営学の発展</li> <li>2. 経営学の課題</li> <li>3. 経営理論の展開</li> <li>4. 経営理念と企業行動</li> <li>5. 経営者の職能</li> </ol>
授業方法：	講述を中心とするが、理解を促進させるために、スライドやビデオなどの視聴覚機材を利用する。
履修の留意点：	パソコンを使うので、必ずパソコンを携帯すること。
目標と評価：	試験の結果に、小テスト、授業中の発表、受講態度などを加味して評価する。
教科書：	

※最終評価は、評価点7割，出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「経営学Ⅰ」（担当者：松行 彬子）の履修の手引き

科目名：	経営学Ⅰ
担当者：	松行 彬子
対象学生：	経営経済学部1年
設置学期：	秋
概要：	<p>経営学は、企業を対象とし、それに関連して経営や組織などを研究する。また、経営学は、理論的であるとともに実践的であり、企業の経営革新をするための専門的な知識体系である。現代の経営学は、具体的には、市場経済体制下における製造業を中心とする大規模株式会社企業を研究対象にして、生成・発展してきた。本講では、このような企業とその経営に関する基本的な知識を修得ことにより、経営学の原理や経営的なものの見方を学習することを目的とする。とくに、経営学の基礎理論として、テイラーの科学的管理法・20世紀の代表的な大量生産方式であるフォードシステム・新しい世紀の生産方式として注目されているトヨタ生産方式などを中心に講述する。</p> <p>本講における主要な講義内容は、つぎの通りである。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 経営学の発展</li> <li>2. 経営学の課題</li> <li>3. 経営理論の展開</li> <li>4. 経営理念と企業行動</li> <li>5. 経営者の職能</li> </ol>
授業方法：	講述を中心とするが、理解を促進させるために、スライドやビデオなどの視聴覚機材を利用する。
履修の留意点：	パソコンを使うので、必ずパソコンを携帯すること。
目標と評価：	試験の結果に、小テスト、授業中の発表、受講態度などを加味して評価する。
教科書：	

※最終評価は、評価点7割，出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「簿記論 I」（担当者：井上 行忠）の履修の手引き

科目名：	簿記論 I
担当者：	井上 行忠
対象学生：	経営経済学部1年
設置学期：	秋
概要：	複式簿記の基本原則である取引の範囲・取引の八要素（費用・収益・資産・負債・資本）、の認識、及び会計処理（仕訳）を学び、問題集等を使用して、簿記の基本的な技術を習得する。日商簿記検定3級・全経簿記検定3級の合格を目指す。
授業方法：	テキストを中心に授業を行う。授業体系は、簿記一巡の流れを把握し、前半は個別取引を中心に学習を行い、後半は総合問題対策（試算表作成、精算表作成、補助簿：仕入帳、売上帳、現金出納帳、小口現金出納帳、当座預金出納帳、手形記入帳、商品有高帳等）を中心に授業を行う。1 1月または2月の日商簿記検定試験 3級および全経簿記検定 3級に目標を定め学習を行う。
履修の留意点：	学習に当たり、電卓が必要となります。
目標と評価：	この授業は、日商簿記検定 3級または全経簿記検定 3級の資格試験の合格を目標に授業を行う。
教科書：	例解演習 基本簿記 山本孝夫・前川邦生共著 創成社
	日商簿記検定 3級問題集 前川邦生編著 創成社
	簿記検定ワークブック「3級」 英光社

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「簿記論Ⅰ」（担当者：前川 道生）の履修の手引き

科目名：	簿記論Ⅰ
担当者：	前川 道生
対象学生：	経営経済学部1年
設置学期：	秋
概要：	<p>企業には、財務部（総務部）といった日々の取引を統括する部署が必ずあり、そのような取引を集計することによって、財務諸表という形で外部に公表する。これら取引の処理に用いられているものが、簿記である。簿記を学ぶことによって、企業内で行われている取引の概要の一端を理解する力をつけることが、この講義の目的である。</p> <p>まず初めに、個人商店を対象範囲とする簿記3級レベルの実力をつけていくことを目指す。その後は、株式会社を対象範囲とする簿記2級につなげるための知識（簿記2級のための導入部分）を習得することを目指す。</p> <p>資格としては、全国経理学校協会主催の簿記検定3級および日本商工会議所主催の簿記検定3級の合格を目標とする。</p>
授業方法：	<p>毎回講義を行い、その後練習問題を解くことで理解を深める。 また、必要に応じて確認テストを行う。電卓必携。 授業体系は、以下のとおりである。</p> <p>（簿記3級の範囲）</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 簿記の概要 意義、目的、貸借対照表と損益計算書の関係、取引の要素など</li> <li>2. 諸取引の処理 現金・預金、商品売買、手形、有価証券、固定資産、その他の債権・債務など</li> <li>3. 試算表の作成</li> <li>4. 決算</li> <li>5. 精算表の作成</li> <li>6. 財務諸表の作成</li> <li>7. 補助簿、帳簿の締切り</li> </ol>
履修の留意点：	特になし
目標と評価：	定期試験および小テストにより評価する（評価点70点）。出席点（30点）は通常通り評価する。
教科書：	<p>『例解演習 基本簿記（第2版）』 山本孝夫、前川邦生編著 創成社</p> <p>『簿記検定ワークブック 3級』 英光社</p> <p>『日商簿記検定 3級出題傾向と対策』 税務経理協会編 税務経理協会</p>

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「簿記論 I」（担当者：松田 真由美）の履修の手引き

科目名：	簿記論 I
担当者：	松田 真由美
対象学生：	経営経済学部1年
設置学期：	秋
概要：	個人商店を対象とした日商簿記検定3級程度の簿記について学びます。 特に、日商簿記検定の問題に取り組むなど、より実践に即した授業を展開することにより、検定の合格を目指します。
授業方法：	講義及び関連問題への取り組みや、その問題の解説を行います。
履修の留意点：	簿記の基礎を取得していることが望ましい。
目標と評価：	この授業を取得することによって、以下のことを理解することを望みます。 ●日商簿記検定3級程度の商業簿記の知識をつけること。  評価は以下の方法によって行います。 ●学期末試験
教科書：	教科書・3級商業簿記 三訂版 寫村剛雄監修 近田典行著 2002年10月1日

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「国際関係論」（担当者：安田 利枝）の履修の手引き

科目名：	国際関係論
担当者：	安田 利枝
対象学生：	経営経済学部2年
設置学期：	秋（集中授業）
概要：	<p>近現代の国際秩序は、西欧に生まれた主権国家体系の世界的拡大というかたちで展開してきました。20世紀の終わり頃から、この国際秩序はさまざまな点で行き詰まりを見せ、経済面での一体化（グローバリゼーション）が進む一方、世界の貧富の格差が拡大、宗教や文明の違いがさまざまなエスニック集団間の紛争をもたらし、先進地域での排外主義も生じています。諸個人がさまざまなレベルで異質な集団間の共生を模索しなければならない時代だといえます。</p> <p>こうした国際社会のありようを考える基本的な知識を身につけるための科目です。</p> <p>冷戦後、楽観的期待に満ちて諸国家、諸民族の国際協調が語られた一時期は終わり、2000年のアメリカ同時多発テロ、そしてタリバン政権崩壊から、現在はイラクのフセイン政権に対する軍事攻撃の可能性に世界は揺れています。こうした目下の情勢から国際社会の基本構造と国際紛争、戦争に焦点を宛てた授業にします。</p> <p>授業の体系</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 個人と国家：国籍・人権から考える</li> <li>2. 国家間の関係：西欧国際体系 華夷秩序 イスラム国際体系</li> <li>3. バランス・オブ・パワーと第一次世界大戦</li> <li>4. 集団安全保障の挫折と第二次世界大戦</li> <li>5. 核兵器と冷戦</li> <li>6. 中東地域：湾岸戦争 イスラム原理主義 パレスチナ問題</li> <li>7. 同時多発テロとタリバン政権崩壊</li> <li>8. 国際連合とアメリカの攻防</li> <li>9. 国際関係の構図：国力の分布 アメリカは「帝国」化しつつあるか？</li> <li>10. 主権、介入、地域紛争：民族自決と人道的介入を中心に</li> <li>11. 相互依存とグローバリゼーション</li> </ol>
授業方法：	受講者には「ただ授業を聞きに来る」、「黙って座っていればいい」ということ以上の積極的な参加を求めます。レジュメと教科書に基づいた講義を中心としますが、部分的にはビデオの視聴を入れながら、トピックスごとに学生自身に問題を整理し話してもらいたいと考えています。
履修の留意点：	前述のように、授業への積極的な参加、その前提として、事前の下調べなしに授業は成立しません。人数が30名以下の場合は、できるだけお互いのやり取りの中で授業を展開したいと考えています。集中講義の場合、その期間はほとんど「国際関係論漬け」になることを覚悟で履修してください。
目標と評価：	<p>この科目を履修することによって、次のような成果が得られることを期待します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分が生き、生かされている世界への想像力を持つこと。</li> <li>・国際情勢へのその場その場の評論や感想ではなく、どのような視点で、どのような枠組みで国際関係を見ていくのかを自分なりに意識すること。</li> </ul> <p>成績評価は、以下の項目によって行ないます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業への参加度 30%</li> <li>・授業内容の理解度 40%</li> <li>・勉学度 30%</li> </ul>
教科書：	<p>「国際紛争 理論と歴史」 ジョセフ・S・ナイ著 田中明彦/村田晃嗣訳 有斐閣 2002年7月</p> <hr/> <hr/> <hr/> <hr/>

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。



「国際関係論」（担当者：安田 利枝）の履修の手引き

科目名：	国際関係論
担当者：	安田 利枝
対象学生：	経営経済学部2年
設置学期：	春
概要：	<p>近現代の国際秩序は、西欧に生まれた主権国家体系の世界的拡大というかたちで展開してきました。20世紀の終わり頃から、この国際秩序はさまざまな点で行き詰まりを見せ、経済面での一体化（グローバル化）が進む一方、世界の貧富の格差が拡大、宗教や文明の違いがさまざまなエスニック集団間の紛争をもたらし、先進地域での排外主義も生じています。諸個人がさまざまなレベルで異なる集団間の共生を模索しなければならない時代だといえます。</p> <p>こうした国際社会のありようを考える基本的な知識を身につけるための科目です。</p> <p>冷戦後、楽観的期待に満ちて諸国家、諸民族の国際協調が語られた一時期は終わり、2000年のアメリカ同時多発テロ、アフガニスタン、イラク、北朝鮮問題とテロという暴力、国家の行なう武力行使に世界は翻弄されています。前半では国際社会の基本構造と国際紛争、戦争に焦点を宛てた授業、後半では、国際経済の構造、グローバル化が進む中で広がりつつある貧富の格差などを取り上げます。</p> <p>授業の体系</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 個人と国家：国籍・人権から考える</li> <li>2. 国家間の関係：西欧国際体系 華夷秩序 イスラム国際体系</li> <li>3. バランス・オブ・パワーと第一次世界大戦</li> <li>4. 集団安全保障の挫折と第二次世界大戦</li> <li>5. 核兵器と冷戦</li> <li>6. 中東地域：湾岸戦争 イスラム原理主義 パレスチナ問題</li> <li>7. 同時多発テロとタリバン政権崩壊</li> <li>8. 国際連合とアメリカの攻防</li> <li>9. フレイトンウッズ体制：IMFと世界銀行 GATT</li> <li>10. 相互依存とグローバル化</li> <li>11. 発展途上国のグローバル化</li> <li>12. 主権、介入、地域紛争：民族自決と人道的介入を中心に</li> <li>13. 国際政治経済学の諸理論</li> </ol>
授業方法：	受講者には「ただ授業を聞きに来る」、「黙って座っていればいい」ということ以上の積極的な参加を求めます。レジュメと教科書に基づいた講義を中心としますが、部分的にはビデオの視聴を入れながら、トピックスごとに学生自身に問題を整理し語ってもらうようにしたいと考えています。
履修の留意点：	前述のように、授業への積極的な参加、その前提として、事前の下調べなしに授業は成立しません。
目標と評価：	<p>目標と評価：この科目を履修することによって、次のような成果が得られることを期待します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分が生き、生かされている世界への想像力を持つこと。</li> <li>・国際情勢へのその場その場の感情的な評論や感想ではなく、どのような視点で、どのような枠組みで国際関係を見ていくのかを自分なりに意識すること。</li> </ul> <p>成績評価は、以下の項目によって行ないます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業への参加度 30%</li> <li>・授業内容の理解度 40%</li> <li>・勉学度 30%</li> </ul>
教科書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「生活経済学」（担当者：大木 麗子）の履修の手引き

科目名：	生活経済学
担当者：	大木 麗子
対象学生：	経営経済学部2年
設置学期：	春
概要：	<p>私たちは、食料や衣服などの生活資料を購入し、それを消費して日々生活を営んでいます。また、TVを観たりCDを聴いたり、時には旅行やスポーツ観戦に出かけて文化的欲求を満たしています。街にはさまざまな情報や商品が溢れていますが、欲しいものを全て入手できるわけではありません。家庭の経済（家計）の状態から、アルバイトで生活費の一部を確保せざるを得ないこともあります。近年は、消費者金融（サラ金）から借金してますます生活苦に陥る人が増えています。どこに問題があるのでしょうか。</p> <p>共働き世帯が増えていますが、女性の収入は家計でどれくらいの比重を占めているのでしょうか。また高齢社会になり、年金生活者が増大していますが、高齢者の暮らしはどうなのでしょう。こうした暮らしの経済をめぐる諸問題をより正確により深く知ることは、現代社会で生きていく上で不可欠な課題の一つといえます。同時に、家計は国民経済の中で最も主要な部分を占める位置にもあるのです。この授業では、初めに現代の商品生産社会の仕組みと家計の関係を把握します。そのうえで、世帯タイプ別に家計の実態と特徴をつかみ、さらに生活保障と家計および税金と家計のかかわりなど今日の家計の構造と問題点を多角的に考察します。さらに、ジェンダーや環境問題にも触れながら、真に豊かな消費生活のあり方を考えます。</p>
授業方法：	講義を中心としますが、テキストのほかに資料をプリントで用意します。必要に応じて指名してテキストの読み合わせをします。質問は随時かまいません。
履修の留意点：	経済学に理論的基礎を置きながらも、消費領域をメインに扱う「生活経済学」のイメージをあらかじめ持つために、テキストの第1章に目を通して置くことが望ましい。
目標と評価：	<ul style="list-style-type: none"> <li>・主体的な生活者としての視点を把握することを目指します。</li> <li>・また上記の視点は、暮らしにとどまらずビジネスの世界でも役立つことを期待します。</li> <li>・評価は、中間テスト1回と本試験および授業中の態度も加味して総合的にを行います。</li> </ul>
教科書：	<p>新版消費生活経済学 伊藤セツ・川島美保 共編著 光生館 2002年</p> <p>_____</p> <p>_____</p> <p>_____</p> <p>_____</p>

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「生活経済学」（担当者：大木 麗子）の履修の手引き

科目名：	生活経済学
担当者：	大木 麗子
対象学生：	経営経済学部2年
設置学期：	秋
概要：	<p>私たちは、食料や衣服などの生活資料を購入し、それを消費して日々生活を営んでいます。また、TVを観たりCDを聴いたり、時には旅行やスポーツ観戦に出かけて文化的欲求を満たしています。街にはさまざまな情報や商品が溢れていますが、欲しいものを全て入手できるわけではありません。「学生は勉強が本分」とはいえ、家庭の経済状態から、アルバイトで生活費の一部を確保せざるを得ないこともあります。近年は、消費者金融（サラ金）から借金をますます生活苦に陥る人が増えています。どこに問題があるのでしょうか。共働き世帯が増えていますが、女性の収入は家計でどれくらいの比重を占めているのでしょうか。また高齢社会になり、年金生活者が増大していますが、高齢者の暮らしはどうなのでしょう。こうした暮らしの経済をめぐる諸問題をより正確により深く知ることは、現代社会で生きていく上で不可欠な課題の一つといえます。同時に、家計は国民経済の中で最も主要な部分を占める位置にもあるのです。</p> <p>この授業では、初めに現代の商品生産社会の仕組みと家計の関係を把握します。そのうえで、世帯タイプ別に家計の実態と特徴をつかみ、さらに生活保障と家計および税金と家計のかかわりなど今日の家計の構造と問題点を多角的に考察します。さらに、ジェンダーや環境問題にも触れながら、真に豊かな消費生活のあり方を考えます。</p>
授業方法：	講義を中心としますが、テキストのほかに資料をプリントで用意します。必要に応じて指名してテキストの読み合わせをします。質問は随時かまいません。
履修の留意点：	経済学に理論的基礎を置きながらも、消費領域をメインに扱う「生活経済学」のイメージをあらかじめ持つために、テキストの第1章に目を通して置くことが望ましい。
目標と評価：	<ul style="list-style-type: none"> <li>・主体的な生活者としての視点を把握することを目指します。</li> <li>・また上記の視点は、暮らしにとどまらずビジネスの世界でも役立つことを期待します。</li> <li>・評価は、中間テスト1回と本試験および授業中の態度も加味して総合的に行います。</li> </ul>
教科書：	<p>新版消費生活経済学 伊藤セツ・川島美保 共編著 光生館 2002年</p> <p>_____</p> <p>_____</p> <p>_____</p>

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「高等簿記論」（担当者：松田 真由美）の履修の手引き

科目名：	高等簿記論
担当者：	松田 真由美
対象学生：	経営経済学部2年
設置学期：	春
概要：	株式会社でも特に大企業を対象とした日商簿記検定1級程度の簿記について学びます。また、簿記の知識のみではなく、例えば、なぜ株式の評価が企業にとり大きな関心事なのかなど、その各取引の背景にある会計的な時事問題点等を含めた講義を行うつもりです。
授業方法：	講義及び関連問題へと取り組みや、その問題の解説を行います。
履修の留意点：	簿記検定2級の知識を取得していることが望ましい。
目標と評価：	この授業を取得することによって、以下のことを理解することを望みます。 ●日商簿記検定1級程度の商業簿記の知識をつけること。 ●各取引において、その選択した会計方針が企業にどのような財務的影響を与えるかを説明できること。 評価は以下の方法によって行います。 ●学期末試験
教科書：	教科書・1級商業簿記 畠村剛雄 2002年9月1日

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「経営学Ⅱ」（担当者：松行 彬子）の履修の手引き

科目名：	経営学Ⅱ
担当者：	松行 彬子
対象学生：	経営経済学部2年
設置学期：	春
概要：	<p>経営学Ⅰにおいて、経営学に関する基礎的な専門知識を体系的にすでに講義している。このことを踏まえて、経営学Ⅱでは、伝統的な経営学の領域だけではなく、現代経営学において新しく注目されている領域も同時に網羅し、講義する。近年、企業を取り巻く経営環境の変化は激しい。企業はこの変化をいかにとらえ、いかに創造的に適応しようとしているのか。このような経営の現実をも射程に入れ、今後、学生が経営学の勉学を続けていくにあたって、必要と考えられる興味深い研究テーマを紹介する。とくに、本講では経営学の基礎理論である経営組織論を踏まえて現代のネットワーク型組織・企業のグローバリゼーションおよびイノベーション（企業革新）へとテーマを展開する。</p> <p>本講における主要な講義内容は、次の通りである。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 経営組織論</li> <li>2. 企業のグローバリゼーション</li> <li>3. ベンチャービジネス論</li> <li>4. イノベーション</li> </ol>
授業方法：	講述を中心とする。理解を促進するために、スライドやビデオなどの視聴覚教材を使用することがある。
履修の留意点：	パソコンを使用するので、必ず携行すること。
目標と評価：	試験の結果に、小テスト、発表、受講態度などを加味して評価する。
教科書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「経営学Ⅱ」（担当者：松行 彬子）の履修の手引き

科目名：	経営学Ⅱ
担当者：	松行 彬子
対象学生：	経営経済学部2年
設置学期：	春
概要：	<p>経営学Ⅰにおいて、経営学に関する基礎的な専門知識を体系的にすでに講義している。このことを踏まえて、経営学Ⅱでは、伝統的な経営学の領域だけではなく、現代経営学において新しく注目されている領域も同時に網羅し、講義する。近年、企業を取り巻く経営環境の変化は激しい。企業はこの変化をいかにとらえ、いかに創造的に適応しようとしているのか。このような経営の現実をも射程に入れ、今後、学生が経営学の勉学を続けていくにあたって、必要と考えられる興味深い研究テーマを紹介する。とくに、本講では経営学の基礎理論である経営組織論を踏まえて現代のネットワーク型組織・企業のグローバリゼーションおよびイノベーション（企業革新）へとテーマを展開する。</p> <p>本講における主要な講義内容は、次の通りである。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 経営組織論</li> <li>2. 企業のグローバリゼーション</li> <li>3. ベンチャービジネス論</li> <li>4. イノベーション</li> </ol>
授業方法：	講述を中心とする。理解を促進するために、スライドやビデオなどの視聴覚教材を使用することがある。
履修の留意点：	パソコンを使用するので、必ず携帯すること。
目標と評価：	試験の結果に、小テスト、発表、受講態度などを加味して評価する。
教科書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「経営学Ⅱ」（担当者：松行 彬子）の履修の手引き

科目名：	経営学Ⅱ
担当者：	松行 彬子
対象学生：	経営経済学部2年
設置学期：	春
概要：	<p>経営学Ⅰにおいて、経営学に関する基礎的な専門知識を体系的にすでに講義している。このことを踏まえて、経営学Ⅱでは、伝統的な経営学の領域だけではなく、現代経営学において新しく注目されている領域も同時に網羅し、講義する。近年、企業を取り巻く経営環境の変化は激しい。企業はこの変化をいかにとらえ、いかに創造的に適応しようとしているのか。このような経営の現実をも射程に入れ、今後、学生が経営学の勉学を続けていくにあたって、必要と考えられる興味深い研究テーマを紹介する。とくに、本講では経営学の基礎理論である経営組織論を踏まえて現代のネットワーク型組織・企業のグローバリゼーションおよびイノベーション（企業革新）へとテーマを展開する。</p> <p>本講における主要な講義内容は、次の通りである。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 経営組織論</li> <li>2. 企業のグローバリゼーション</li> <li>3. ベンチャービジネス論</li> <li>4. イノベーション</li> </ol>
授業方法：	講述を中心とする。理解を促進するために、スライドやビデオなどの視聴覚教材を使用することがある。
履修の留意点：	パソコンを使用するので、必ず携帯すること。
目標と評価：	試験の結果に、小テスト、発表、受講態度などを加味して評価する。
教科書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「経営学Ⅱ」（担当者：山川 肇）の履修の手引き

科目名：	経営学Ⅱ
担当者：	山川 肇
対象学生：	経営経済学部2年
設置学期：	秋
概要：	経営学の基本的理論を、古典から最新のマネジメント手法までを時系列的に踏まえながら、企業において実際に行われるマネジメントの詳細や、経営計画の手順・手法ならびに戦略立案手法を具体的に演習する。国内外の实在企業の経営をケーススタディしながら、経営学理論と実際とを比較研究する。特に、今後起業を志す者にとって即行動に移せるレベルまで、理論・知識とスキルを確実に習得する。
授業方法：	経営学の体系的な概念を、教科書をベースにして講義する。板書による用語解説や課題レポートの提出を行う。ビジネススクールの初期段階レベルでの演習（企業実例による討議、提案や起業企画策定等）も常時設定する。
履修の留意点：	①経営課題解決のシミュレーションを討議するので、参加意欲と積極的な発言を期待する。ただ漫然と聞いているだけでは自己のレベル向上には結びつかないし、評価もできない。 ②最新の経営・経済情報をテーマとするので、毎日の経済・社会情報データをチェックすること。 ③経営判定や、取引企業と信のための事例経営分析を行うので、卓上計算機を常備すること。
目標と評価：	企業構造とマネジメントを十分に把握し、実際に企業で業務にたずさわれるレベルへの到達を目標とする。 評価は、通常授業の出席・態度の状況ならびに討議の積極性を重視し、各種課題に対するレポート内容（自分自身の考え方とアイデアを示すことが大切）を加味して行う。
教科書：	現代経営学要論 市川 彰 / 名取 修一 編著 同友館 平成7年初版 (参考書) 経営学 KPSシリーズ ⑧ 堀 正久 / 船越 弘 編著 建帛社 (KENPAKUSHA) 平成4年初版

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。



「経営情報論」（担当者：中村 修）の履修の手引き

科目名：	経営情報論
担当者：	中村 修
対象学生：	経営経済学部2年
設置学期：	春
概要：	<p>情報処理およびネットワークを基盤とする現在の企業活動には、各種の情報をコンピュータで扱えるようにするための情報化が企業の生き残りのために必須となっています。それは、ITバブル崩壊後の現在においても、情報系企業のみならず業種を越えて、さらに世界的規模で進められています。本講義では、この情報化に関連する歴史、技術、システム、制度、等について基礎知識の習得を目的として学習を進めます。さらに、基本情報処理技術者試験の出題範囲の内、システム開発と運用、ならびに情報化と経営(情報戦略、企業会計を除く)の内容について学習を進めます。講義の具体的な内容は、後述の2冊の教科書に従い、下記を予定しています。</p> <p>第I部 システム開発と運用</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 開発手法</li> <li>(2) プログラム言語</li> <li>(3) プログラミング手法</li> <li>(4) テスト・レビューの手法</li> <li>(5) 開発環境</li> <li>(6) 開発管理</li> <li>(7) ソフトウェアパッケージ</li> <li>(8) システムの運用と保守</li> </ol> <p>第II部 情報化と経営</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 経営工学</li> <li>(2) 情報システムの活用</li> <li>(3) 関連法規と標準化</li> <li>(4) セキュリティ</li> </ol>
授業方法：	<p>基本的には、講義を中心としますが、演習、レポート、実習、等を適宜取り入れていきます。また、e-Campusをフルに活用するため、毎回の授業では、ノートPCが必須となります。そこで、斡旋パソコンを購入した人は、大容量バッテリーへの充電を十分にしてください。また、斡旋パソコン以外の人は、嘉悦e-Campusに無線LANカードで接続できるようにし、さらに、大容量のバッテリーを用意し、十分に充電して授業に臨んで下さい。</p>
履修の留意点：	<p>毎回、ノートPCを利用しますので、パソコン講習会には必ず出席して下さい。また、授業中、e-Campusへの接続が必須ですので、講義が開設されるまでには、必ずe-Campusネットワークに接続できるようにしておいて下さい。</p> <p>主に、インターネット検索により関連情報の収集をおこなったり、グループに別れた調査研究発表などもできたら行っていきたくと考えています。</p> <p>授業は、受講生の平均的な知識レベルを前提に進めますので、既に知識のある人には退屈になり、初めての人には難しすぎるという問題が生じます。そうならないように、講師側も努力をしますが、皆さんも、特に初めての人は予習・復習、講師への質問等をe-Campusを活用して行って下さい。</p>
目標と評価：	<p>嘉悦では、出席点が30点あります。1回の欠席で3点減点、3回の遅刻（開始から15分まで）で1回の欠席となってしまいます。本講義の内容は多岐にわたっていますので、自分が興味のある内容の回や興味のない回もあると思いますが、知らないことを知ること、または興味のないことに興味を持つことの方が却って新しい世界との出会いがあり、自信の進路の選択肢を広げる可能性があります。ですから、授業には、欠かさずに出席しましょう。また、出席するからには、授業に集中しましょう。期末には、筆記試験を予定しています。落とすための試験ではありません。普通に学習し、授業に出席していれば、A以上の評点がつくはずですよ。</p>
教科書：	<p>基本情報技術者テキスト2003年版（2） システム開発と運用 （財）日本情報処理開発協会 監修 CA コンピュータ・エージ社 2003年3月（¥2,100）</p> <p>情報処理技術者試験 情報化と経営 攻略ハンドブック 切通 博朗 リックテレコム 2001年8月1日初版第1刷（¥2,000）</p> <p>（参考図書）基本情報技術者テキスト2003年版（2） 情報化と経営 （財）日本情報処理開発協会 監修 CA コンピュータ・エージ社 2003年3月（¥2,400）</p>

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「経営情報論」（担当者：宮本 勉）の履修の手引き

科目名：	経営情報論
担当者：	宮本 勉
対象学生：	経営経済学部2年
設置学期：	春
概要：	<p>情報処理およびネットワークを基盤とする現在の企業活動には、各種の情報をコンピュータで扱えるようにするための情報化が企業の生き残りのために必須となっています。それは、ITバブル崩壊後の現在においても、情報系企業のみならず業種を越えて、さらに世界的規模で進められています。本講義では、この情報化に関連する歴史、技術、システム、制度、等について基礎知識の習得を目的として学習を進めます。さらに、基本情報処理技術者試験の出題範囲の内、システム開発と運用、ならびに情報化と経営(情報戦略、企業会計を除く)の内容について学習を進めます。講義の具体的な内容は、後述の2冊の教科書に従い、下記を予定しています。</p> <p>第I部 システム開発と運用</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 開発手法</li> <li>(2) プログラム言語</li> <li>(3) プログラミング手法</li> <li>(4) テスト・レビューの手法</li> <li>(5) 開発環境</li> <li>(6) 開発管理</li> <li>(7) ソフトウェアパッケージ</li> <li>(8) システムの運用と保守</li> </ol> <p>第II部 情報化と経営</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 経営工学</li> <li>(2) 情報システムの活用</li> <li>(3) 関連法規と標準化</li> <li>(4) セキュリティ</li> </ol>
授業方法：	<p>基本的には、講義を中心としますが、演習、レポート、実習、等を適宜取り入れていきます。また、e-Campusをフルに活用するため、毎回の授業では、ノートPCが必須となります。そこで、斡旋パソコンを購入した人は、大容量バッテリーへの充電を十分にしてください。また、斡旋パソコン以外の人は、嘉悦e-Campusに無線LANカードで接続できるようにし、さらに、大容量のバッテリーを用意し、十分に充電して授業に臨んで下さい。</p>
履修の留意点：	<p>毎回、ノートPCを利用しますので、パソコン講習会には必ず出席して下さい。また、授業中、e-Campusへの接続が必須ですので、講義が開講されるまでには、必ずe-Campusネットワークに接続できるようにしておいて下さい。</p> <p>主に、インターネット検索により関連情報の収集をおこなったり、グループに別れた調査研究発表などもできたら行っていきたいと考えています。</p> <p>授業は、受講生の平均的な知識レベルを前提に進めますので、既に知識のある人には退屈になり、初めての人には難しすぎるという問題が生じます。そうならないように、講師側も努力をしますが、皆さんも、特に初めての人は予習・復習、講師への質問等をe-Campusを活用して行って下さい。</p>
目標と評価：	<p>嘉悦では、出席点が30点あります。1回の欠席で3点減点、3回の遅刻（開始から15分まで）で1回の欠席となってしまいます。本講義の内容は多岐にわたっていますので、自分が興味のある内容の回や興味のない回もあると思いますが、知らないことを知ること、または興味のないことに興味を持つことの方が却って新しい世界との出会いがあり、自信の進路の選択肢を広げる可能性があります。ですから、授業には、欠かさずに出席しましょう。また、出席するからには、授業に集中しましょう。期末には、筆記試験を予定しています。落とすための試験ではありません。普通に学習し、授業に出席していれば、A以上の評点がつくはずです。</p>
教科書：	<p>基本情報技術者テキスト2003年版（2） システム開発と運用 （財）日本情報処理開発協会 監修 CA コンピュータ・エージ社 2003年3月（¥2,100）</p> <p>情報処理技術者試験 情報化と経営 攻略ハンドブック 切通 博朗 リックテレコム 2001年8月1日初版第1刷（¥2,000）</p> <p>（参考図書）基本情報技術者テキスト2003年版（6） 情報化と経営 （財）日本情報処理開発協会 監修 CA コンピュータ・エージ社 2003年3月（¥2,400）</p>

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「経営情報論（再履修用）」（担当者：宮本 勉）の履修の手引き

科目名：	経営情報論（再履修用）
担当者：	宮本 勉
対象学生：	経営経済学部2年
設置学期：	秋
概要：	<p>情報処理およびネットワークを基盤とする現在の企業活動には、各種の情報をコンピュータで扱えるようにするための情報化が企業の生き残りのために必須となっています。それは、ITバブル崩壊後の現在においても、情報系企業のみならず業種を越えて、さらに世界的規模で進められています。本講義では、この情報化に関連する歴史、技術、システム、制度、等について基礎知識の習得を目的として学習を進めます。さらに、基本情報処理技術者試験の出題範囲の内、システム開発と運用、ならびに情報化と経営（情報戦略、企業会計を除く）の内容について学習を進めます。講義の具体的な内容は、後述の2冊の教科書に従い、下記を予定しています。</p> <p>第Ⅰ部 システム開発と運用</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 開発手法</li> <li>(2) プログラム言語</li> <li>(3) プログラミング手法</li> <li>(4) テスト・レビューの手法</li> <li>(5) 開発環境</li> <li>(6) 開発管理</li> <li>(7) ソフトウェアパッケージ</li> <li>(8) システムの運用と保守</li> </ol> <p>第Ⅱ部 情報化と経営</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 経営工学</li> <li>(2) 情報システムの活用</li> <li>(3) 関連法規と標準化</li> <li>(4) セキュリティ</li> </ol>
授業方法：	<p>基本的には、講義を中心としますが、演習、レポート、実習、等を適宜取り入れていきます。また、e-Campusをフルに活用するため、毎回の授業では、ノートPCが必須となります。そこで、斡旋パソコンを購入した人は、大容量バッテリーへの充電を十分にしてください。また、斡旋パソコン以外の人は、嘉悦e-Campusに無線LANカードで接続できるようにし、さらに、大容量のバッテリーを用意し、十分に充電して授業に臨んで下さい。</p>
履修の留意点：	<p>毎回、ノートPCを利用しますので、パソコン講習会には必ず出席して下さい。また、授業中、e-Campusへの接続が必須ですので、講義が開設されるまでには、必ずe-Campusネットワークに接続できるようにしておいて下さい。</p> <p>主に、インターネット検索により関連情報の収集をおこなったり、グループに別れた調査研究発表などもできたら行っていきたいと考えています。</p> <p>授業は、受講生の平均的な知識レベルを前提に進めますので、既に知識のある人には退屈になり、初めての人には難しすぎるという問題が生じます。そうならないように、講師側も努力をしますが、皆さんも、特に初めての人は予習・復習、講師への質問等をe-Campusを活用して行って下さい。</p>
目標と評価：	<p>嘉悦では、出席点が30点あります。1回の欠席で3点減点、3回の遅刻（開始から15分まで）で1回の欠席となってしまいます。本講義の内容は多岐にわたっていますので、自分が興味のある内容の回や興味のない回もあると思いますが、知らないことを知ること、または興味のないことに興味を持つことの方が却って新しい世界との出会いがあり、自信の進路の選択肢を広げる可能性があります。ですから、授業には、欠かさずに出席しましょう。また、出席するからには、授業に集中しましょう。期末には、筆記試験を予定しています。落とすための試験ではありませんので、最後まで諦めずに頑張ってください。</p>
教科書：	<p>基本情報技術者テキスト2003年版（2） システム開発と運用（財）日本情報処理開発協会 監修 CA コンピュータ・エージ社 2003年3月（¥2,100）</p> <p>情報処理技術者試験 情報化と経営 攻略ハンドブック 切通 博朗 リックテレコム 2001年8月1日初版第1刷（¥2,000）</p> <p>（参考図書）基本情報技術者テキスト2003年版（6） 情報化と経営（財）日本情報処理開発協会 監修 CA コンピュータ・エージ社 2003年3月（¥2,400）</p>

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「国際経済学」（担当者：馬田 啓一）の履修の手引き

科目名：	国際経済学
担当者：	馬田 啓一
対象学生：	経営経済学部2年
設置学期：	通年
概要：	<p>本講義では、最新かつ重要な国際経済の諸問題を平易に解説する。講義を通じて、国際経済の実際の展開に対する学生諸君の関心と理解を高めたいと思う。このため、単なる基礎的な経済理論の説明にとどまらず、いま論議を呼んでいる国際経済のトピックス、例えば、通商摩擦、企業の海外投資、WTO交渉、地域統合の動きなどをできるだけ講義のテーマに取り上げて、わかり易く解説していく方針である。</p> <p>前期は、日本の対外経済政策、とくにアメリカ、東アジアとの経済関係について取り上げ、日米通商摩擦、東アジアとの競争の問題を中心に、日本の対応のあり方を講義する。後期は、世界貿易システムの問題を取り上げ、WTO交渉と地域統合の動きを中心に、新たな秩序の構築について講義する。</p>
授業方法：	授業は一回完結方式。毎回の講義テーマについては「授業計画」を参照。講義内容を要約した簡単なレジュメを毎回配布する予定である。
履修の留意点：	経済学の基礎知識があることが望ましいが、なくてもよい。国際経済問題に対する旺盛な問題意識さえあれば、必ず興味深く受講できる。焦眉の時事問題も積極的に講義で取り上げるので、新聞の経済記事を是非よく読んでほしい。
目標と評価：	レポート提出（1回）と定期試験の結果により評価する。試験の方法は、講義で取り上げたテーマの中から自由に二つ選んで論述。持ち込み可。
教科書：	<p>「日本の通商政策入門」 青木健・馬田啓一編著 東洋経済新報社 2002年</p> <p>「経済検証／グローバリゼーション」 青木健・馬田啓一編著 文真堂 2001年</p> <p>「地域統合の経済学」 青木健・馬田啓一編著 勁草書房 1999年</p> <p>「WTOとアジアの経済発展」 青木健・馬田啓一編著 東洋経済新報社 1998年</p>

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「社会福祉概論」（担当者：坂田 伸子）の履修の手引き

科目名：	社会福祉概論
担当者：	坂田 伸子
対象学生：	経営経済学部2年
設置学期：	通年
概要：	この授業では、現代が抱える社会福祉問題について考える力を身につけることを目指し、問題を克服するために取り組まれている社会福祉実践、社会福祉制度の現状と課題を学んでいきます。さらに、1年間の講義を通して「社会福祉とは何か」を明らかにしていきたいと思っています。前期は、社会福祉の概念・歴史・制度・法律などの基本的なことを学び、後期は、少子高齢化、児童虐待、介護などの社会問題に毎回テーマを絞り、一緒に考えていきたいと思っています。
授業方法：	講義（プリント配布）とビデオを使用しての授業をおこないます。
履修の留意点：	特になし
目標と評価：	<p>目標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・社会福祉問題を取上げた新聞の記事、TVの報道番組などが理解できること</li> <li>・社会福祉情報を収集し利用する方法を身につけること</li> <li>・自分にとっての「社会福祉」とは何かを明らかにすること</li> </ul> <p>評価</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・レポート(夏季・冬季)</li> <li>・授業時の提出物</li> <li>・定期試験</li> </ul> <p>上記による総合評価</p>
教科書：	『社会福祉小六法 2003』, ミネルヴァ書房編集部編, ミネルヴァ書房, 2002
	『現代の社会福祉』, 一番ヶ瀬康子他監修, 一橋出版, 2002

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「会計学」（担当者：山本 孝夫）の履修の手引き

科目名：	会計学
担当者：	山本 孝夫
対象学生：	経営経済学部2年
設置学期：	秋
概要：	会計は、企業の経営活動についての情報を利害関係者に報告するため、一定期間を人為的に区切り、体系化された経営成績と財政状態の報告内容を研究領域とする学問である。本講座では、現行会計制度の基本構造を明確に捉えるため、会計学の歴史の変遷を通して、アングロ・アメリカン系の会計体系について解説する。
授業方法：	会計学は、きわめて実践的な学問である。そのため、現行の会計実務を参照しながら、会計思考を養いたい。
履修の留意点：	わが国の企業会計原則に準拠して、利益計算構造の基礎分析と応用的技術を具体的に解説する。講義は、主に以下の内容を予定している。 1. 会計理論の形成と会計の社会的役割 2. 企業会計の基礎概念と会計法規 3. 企業会計原則の体系 4. 損益計算書の基礎構造と分配可能利益 5. 貸借対照表の基礎構造と資産評価 会計学の学習は、段階的であるため、積極的に取り組もうとする学生の履修を期待する。また、過去に簿記を学んだことのある者が望ましい。
目標と評価：	理解度を評価するために、適宜、課題レポートの提出および小テストを実施し、総合的な成績評価を行う。
教科書：	

※最終評価は、評価点7割，出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「中小企業論（再履修用）」（担当者：和田 耕治）の履修の手引き

科目名：	中小企業論（再履修用）
担当者：	和田 耕治
対象学生：	経営経済学部3年
設置学期：	春
概要：	20世紀において進展した資本の集中・集積に伴う企業の大規模化は、大量生産・大量消費型の社会を構築させ、我々の生活を飛躍的に豊かにさせた。しかしながら、近年においては、大企業支配型の社会の問題性も顕在化するようになり、20世紀型生産体制（フォーティズム）の変革の必要性が唱えられている。変革に関しては、さまざまな方向性が考えられるが、その回答のひとつは、中小企業型社会の構築があげられよう。中小企業の柔軟性ある専門化（フレキシブルスペシャライゼーション）による協業は、フォーティズムにとって代わる可能性を秘めている。本講義では以上を問題意識としつつ、歴史的、空間的な広がりの中なかで中小企業の位置付けを考える。
授業方法：	講義形式で行う。受講者の理解を促進するために視聴覚教材を使用する。  講義は以下の点を触れつつ、進める。 1. 中小企業をみる視点、中小企業概念 2. 中小企業の存立形態 3. 大企業と中小企業 4. 中小企業の歴史的展開 5. 二重構造論、中小企業の近代化 6. ベンチャービジネス 7. 地域社会と中小企業（産業集積、商業集積） 8. 中小企業政策
履修の留意点：	講義ノートは必ず取ること。
目標と評価：	学期末試験による評価
教科書：	中小企業読本(第3版) 清成忠男 東洋経済 1997年 _____ _____ _____

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「中小企業論」（担当者：和田 耕治）の履修の手引き

科目名：	中小企業論
担当者：	和田 耕治
対象学生：	経営経済学部2年
設置学期：	秋
概要：	20世紀において進展した資本の集中・集積に伴う企業の大規模化は、大量生産・大量消費型の社会を構築させ、我々の生活を飛躍的に豊かにさせた。しかしながら、近年においては、大企業支配型の社会の問題性も顕在化するようになり、20世紀型生産体制（フォーディズム）の変革の必要性が唱えられている。変革に関しては、さまざまな方向性が考えられるが、その回答のひとつは、中小企業型社会の構築があげられよう。中小企業の柔軟性ある専門化（フレキシブルスペシャライゼーション）による協業は、フォーディズムにとって代わる可能性を秘めている。本講義では以上を問題意識としつつ、歴史的、空間的な広がりの中なかで中小企業の位置付けを考える。
授業方法：	講義形式で行う。受講者の理解を促進するために視聴覚教材を使用する。  講義は以下の点を触れつつ、進める。 1. 中小企業をみる視点、中小企業概念 2. 中小企業の存立形態 3. 大企業と中小企業 4. 中小企業の歴史的展開 5. 二重構造論、中小企業の近代化 6. ベンチャービジネス 7. 地域社会と中小企業（産業集積、商業集積） 8. 中小企業政策
履修の留意点：	講義ノートは必ず取ること。 【参考書】中小企業読本（第3版） 清成忠男 東洋経済 1997年
目標と評価：	学期末試験による評価
教科書：	経営者のための図で見る中小企業白書 中小企業庁編 ぎょうせい 2003年版    

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。



「経済学Ⅰ（マクロ経済学）」（担当者：山崎 康之）の履修の手引き

科目名：	経済学Ⅰ（マクロ経済学）
担当者：	山崎 康之
対象学生：	経営経済学部1年・短期大学部1年
設置学期：	秋
概要：	<p>現代経済学理論のマクロ経済学(国民所得理論)の部分について講義します。GDP（国内総生産）や国民所得、物価上昇率、失業率および経常収支などの一国経済全体の活動水準を示す代表的な変数の意味を明らかにするとともに、それらの変数の決定要因や相互依存関係について学びます。マクロ経済学の分析の基本的枠組みを理解することがその目的です。</p> <p>この講義で取り上げる主なトピックとその順序は、以下の通りです。</p> <p>マクロ経済学</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. マクロ経済学のデータ</li> <li>2. 長期の実物経済</li> <li>3. 長期における貨幣と価格</li> <li>4. 開放経済のマクロ経済学</li> <li>5. 短期の景気変動</li> </ol>
授業方法：	通常の講義によります。
履修の留意点：	ありません。
目標と評価：	期末試験の結果により評価します。
教科書：	<p>マンキュー-経済学Ⅱ マクロ編 N・グレゴリー・マンキュー 東洋経済新報社 2001年</p> <p> </p> <p> </p> <p> </p>

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「経済学 I (再履修用)」 (担当者: 山崎 康之) の履修の手引き

科目名:	経済学 I (再履修用)
担当者:	山崎 康之
対象学生:	経営経済学部2年・短期大学部2年
設置学期:	春
概要:	<p>現代経済学理論のマクロ経済学(国民所得理論)の部分について講義します。GDP(国内総生産)や国民所得、物価上昇率、失業率および経常収支などの一国経済全体の活動水準を示す代表的な変数の意味を明らかにするとともに、それらの変数の決定要因や相互依存関係について学びます。マクロ経済学の分析の基本的枠組みを理解することがその目的です。</p> <p>この講義で取り上げる主なトピックとその順序は、以下の通りです。</p> <p>マクロ経済学</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. マクロ経済学のデータ</li> <li>2. 長期の実物経済</li> <li>3. 長期における貨幣と価格</li> <li>4. 開放経済のマクロ経済学</li> <li>5. 短期の景気変動</li> </ol>
授業方法:	通常の講義によります。
履修の留意点:	ありません。
目標と評価:	期末試験の結果により評価します。
教科書:	マンキュー経済学II マクロ編 N・グレゴリー・マンキュー 東洋経済新報社 2001年

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「経済学Ⅰ（マクロ経済学）」（担当者：山崎 康之）の履修の手引き

科目名：	経済学Ⅰ（マクロ経済学）
担当者：	山崎 康之
対象学生：	経営経済学部1年・短期大学部1年
設置学期：	秋
概要：	<p>現代経済学理論のマクロ経済学(国民所得理論)の部分について講義します。GDP（国内総生産）や国民所得、物価上昇率、失業率および経常収支などの一国経済全体の活動水準を示す代表的な変数の意味を明らかにするとともに、それらの変数の決定要因や相互依存関係について学びます。マクロ経済学の分析の基本的枠組みを理解することがその目的です。</p> <p>この講義で取り上げる主なトピックとその順序は、以下の通りです。</p> <p>マクロ経済学</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. マクロ経済学のデータ</li> <li>2. 長期の実物経済</li> <li>3. 長期における貨幣と価格</li> <li>4. 開放経済のマクロ経済学</li> <li>5. 短期の景気変動</li> </ol>
授業方法：	通常の講義によります。
履修の留意点：	ありません。
目標と評価：	期末試験の結果により評価します。
教科書：	<p>マンキュー-経済学Ⅱ マクロ編 N・グレゴリー・マンキュー 東洋経済新報社 2001年</p> <p>_____</p> <p>_____</p> <p>_____</p>

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「コンピュータソフトウェア」（担当者：宮澤 信一郎）の履修の手引き

科目名：	コンピュータソフトウェア
担当者：	宮澤 信一郎
対象学生：	短期大学部1年
設置学期：	春
概要：	<p>Microsoft Windows XPを題材に、パソコンのオペレーティングシステム(OS)の操作・環境設定について学びながら、OSの機能に関する基本知識を身に付けます。</p> <p>授業の体系</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・起動と終了</li> <li>・ファイル操作</li> <li>・ネットワーククライアントの環境設定</li> <li>・プリンタの利用</li> <li>・バックアップ</li> <li>・効率的な利用</li> <li>・トラブル対策</li> </ul>
授業方法：	実習中心で授業を行います。
履修の留意点：	特になし。
目標と評価：	<p>Windows XPを高度に使えるようにし、各自の専門分野や日常でパソコンを活用出来るようにすることを目標としています。</p> <p>小テスト、レポート、受講態度によって総合的に評価します。</p>
教科書：	<p>「速効！図解 Windows XP 徹底活用編」 阿久津良和著 毎日コミュニケーションズ 2002年</p> <p> </p> <p> </p> <p> </p> <p> </p>

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「コンピュータソフトウェア」（担当者：宮澤 信一郎）の履修の手引き

科目名：	コンピュータソフトウェア
担当者：	宮澤 信一郎
対象学生：	短期大学部1年
設置学期：	春
概要：	<p>Microsoft Windows XPを題材に、パソコンのオペレーティングシステム(OS)の操作・環境設定について学びながら、OSの機能に関する基本知識を身に付けます。</p> <p>授業の体系</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・起動と終了</li> <li>・ファイル操作</li> <li>・ネットワーククライアントの環境設定</li> <li>・プリンタの利用</li> <li>・バックアップ</li> <li>・効率的な利用</li> <li>・トラブル対策</li> </ul>
授業方法：	実習中心で授業を行います。
履修の留意点：	特になし。
目標と評価：	<p>Windows XPを高度に使えるようにし、各自の専門分野や日常でパソコンを活用出来るようにすることを目標としています。</p> <p>小テスト、レポート、受講態度によって総合的に評価します。</p>
教科書：	<p>「速効！図解 Windows XP 徹底活用編」 阿久津良和著 毎日コミュニケーションズ 2002年</p> <p> </p> <p> </p> <p> </p> <p> </p>

※最終評価は、評価点7割，出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「コンピュータソフトウェア（再履修用）」（担当者：宮澤 信一郎）の履修の手引き

科目名：	コンピュータソフトウェア（再履修用）
担当者：	宮澤 信一郎
対象学生：	短期大学部1年
設置学期：	秋
概要：	<p>Microsoft Windows XPを題材に、パソコンのオペレーティングシステム(OS)の操作・環境設定について学びながら、OSの機能に関する基本知識を身に付けます。</p> <p>授業の体系</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・起動と終了</li> <li>・ファイル操作</li> <li>・ネットワーククライアントの環境設定</li> <li>・プリンタの利用</li> <li>・バックアップ</li> <li>・効率的な利用</li> <li>・トラブル対策</li> </ul>
授業方法：	実習中心で授業を行います。
履修の留意点：	特になし。
目標と評価：	<p>Windows XPを高度に使えるようにし、各自の専門分野や日常でパソコンを活用出来るようにすることを目標としています。</p> <p>小テスト、レポート、受講態度によって総合的に評価します。</p>
教科書：	<p>「速効！図解 Windows XP 徹底活用編」 阿久津良和著 毎日コミュニケーションズ 2002年</p> <p> </p> <p> </p> <p> </p> <p> </p>

※最終評価は、評価点7割，出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「プレゼンテーション技法（再履修用）」（担当者：古閑 博美）の履修の手引き

科目名：	プレゼンテーション技法（再履修用）
担当者：	古閑 博美
対象学生：	短期大学部2年
設置学期：	秋
概要：	言葉や態度表現能力を高めることは、社会人として不可欠です。「読む・書く・聞く・話す」能力を総合的に向上させることは、就職活動や職場において大きな武器になります。演習を豊富に取り入れることで、日本語表現能力と提示能力を高めることが期待されます。
授業方法：	講義と演習。
履修の留意点：	教科書を携帯する。課題に真摯に取り組む。
目標と評価：	すべての課題に取り組み、日本語表現能力の向上を目指す。提出物や授業への参加態度等を総合して評価する。
教科書：	『日本語会話表現法とプレゼンテーション』 古閑・倉田・金子 学文社 1999年

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「プレゼンテーション技法」（担当者：古閑 博美）の履修の手引き

科目名：	プレゼンテーション技法
担当者：	古閑 博美
対象学生：	短期大学部2年
設置学期：	春
概要：	ことばは人間の武器のひとつです。古来、口頭による伝達や発表の仕方を、技術的にも正話術としての観点からも身につけることが重要視されてきました。実社会で活躍するためにも、言語表現能力の向上は必要不可欠とされています。本講座は、口頭発表能力はもちろんですが、実際に文章を書くこともおろそかにするものではありません。日本語表現能力を磨くことで、自己提示をいっそう効果的に行うことが出来ると期待できます。
授業方法：	講義と演習。
履修の留意点：	教科書を通読してから授業に参加すること。教科書携帯のこと。関連図書を2冊読破すること。
目標と評価：	口頭発表および文書による提示能力の向上をはかる。積極的に発表する学生を歓迎するほか、提出物、発表等から総合的に評価する。
教科書：	『日本語会話表現法とプレゼンテーション』 古閑・倉田・金子 学文社 1999年 _____ _____ _____

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。



「プレゼンテーション技法」（担当者：古閑 博美）の履修の手引き

科目名：	プレゼンテーション技法
担当者：	古閑 博美
対象学生：	短期大学部2年
設置学期：	春
概要：	ことばは人間の武器のひとつです。古来、口頭による伝達や発表の仕方を、技術的にも正話術としての観点からも身につけることが重要視されてきました。実社会で活躍するためにも、言語表現能力の向上は必要不可欠とされています。本講座は、口頭発表能力はもちろんですが、実際に文章を書くこともおろそかにするものではありません。日本語表現能力を磨くことで、自己提示をいっそう効果的に行うことが出来ると期待できます。
授業方法：	講義と演習。
履修の留意点：	教科書を通読してから授業に参加すること。教科書携帯のこと。関連図書を2冊読破すること。
目標と評価：	口頭発表および文書による提示能力の向上をはかる。積極的に発表する学生を歓迎するほか、提出物、発表等から総合的に評価する。
教科書：	『日本語会話表現法とプレゼンテーション』 古閑・倉田・金子 学文社 1999年

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「プレゼンテーション技法」（担当者：古閑 博美）の履修の手引き

科目名：	プレゼンテーション技法
担当者：	古閑 博美
対象学生：	短期大学部2年
設置学期：	春
概要：	ことばは人間の武器のひとつです。古来、口頭による伝達や発表の仕方を、技術的にも正話術としての観点からも身につけることが重要視されてきました。実社会で活躍するためにも、言語表現能力の向上は必要不可欠とされています。本講座は、口頭発表能力はもちろんですが、実際に文章を書くこともおろそかにするものではありません。日本語表現能力を磨くことで、自己提示をいっそう効果的に行うことが出来ると期待できます。
授業方法：	講義と演習。
履修の留意点：	教科書を通読してから授業に参加すること。教科書携帯のこと。関連図書を2冊読破すること。
目標と評価：	口頭発表および文書による提示能力の向上をはかる。積極的に発表する学生を歓迎するほか、提出物、発表等から総合的に評価する。
教科書：	『日本語会話表現法とプレゼンテーション』 古閑・倉田・金子 学文社 1999年

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「ホスピタリティ入門」（担当者：山田 みどり）の履修の手引き

科目名：	ホスピタリティ入門
担当者：	山田 みどり
対象学生：	短期大学部1年
設置学期：	春
概要：	この講義では、感性にあふれ主体性かつ創造性を持った行動のできる企業人の養成を主眼とする。前半では「サービス」と「ホスピタリティ」の理論を学ぶが、それに合わせて一般企業におけるホスピタリティの具体的な取り組みについても学習する。後半では、企業経営におけるホスピタリティの必要性の検証を行いつつ自らがサービスを提供する立場に立ったときどのようにしたらホスピタリティに裏打ちされたサービスを提供できるかについて学んでいく。
授業方法：	<p>授業方法： 講義、実演、実習、視聴覚教材（ビデオ等）による</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① オリエンテーション</li> <li>② サービスとホスピタリティ</li> <li>③ ホスピタリティの歴史</li> <li>④ マナーとエチケット(1)</li> <li>⑤ マナーとエチケット(2)</li> <li>⑥ 企業におけるホスピタリティ実践・実例</li> <li>⑦ 航空業界の「ホスピタリティ」の取り組み</li> <li>⑧ プレゼンテーション・スキルアップ(1)</li> <li>⑨ プレゼンテーション・スキルアップ(2)</li> <li>⑩ 敬語を正しく使おう(1)</li> <li>⑪ 敬語を正しく使おう(2)</li> <li>⑫ 顧客心理(1)</li> <li>⑬ 顧客心理(2)</li> <li>⑭ ホスピタリティまとめレポート(試験)</li> </ol>
履修の留意点：	手近な情報源である新聞記事からホスピタリティに関する事例を探してみる。
目標と評価：	<p>「目標」：ホスピタリティの理解と実践を経験することにより、個人生活においても、社会生活においても豊かな人生の獲得を目指す。</p> <p>「評価」 授業への参画度・レポート</p>
教科書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「ホスピタリティ入門」（担当者：山田 みどり）の履修の手引き

科目名：	ホスピタリティ入門
担当者：	山田 みどり
対象学生：	短期大学部1年
設置学期：	春
概要：	この講義では、感性にあふれ主体性かつ創造性を持った行動のできる企業人の養成を主眼とする。前半では「サービス」と「ホスピタリティ」の理論を学ぶが、それに合わせて一般企業におけるホスピタリティの具体的な取り組みについても学習する。後半では、企業経営におけるホスピタリティの必要性の検証を行いつつ自らがサービスを提供する立場に立ったときどのようにしたらホスピタリティに裏打ちされたサービスを提供できるかについて学んでいく。
授業方法：	<p>授業方法： 講義、実演、実習、視聴覚教材（ビデオ等）による</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① オリエンテーション</li> <li>② サービスとホスピタリティ</li> <li>③ ホスピタリティの歴史</li> <li>④ マナーとエチケット(1)</li> <li>⑤ マナーとエチケット(2)</li> <li>⑥ 企業におけるホスピタリティ実践・実例</li> <li>⑦ 航空業界の「ホスピタリティ」の取り組み</li> <li>⑧ プレゼンテーション・スキルアップ(1)</li> <li>⑨ プレゼンテーション・スキルアップ(2)</li> <li>⑩ 敬語を正しく使おう(1)</li> <li>⑪ 敬語を正しく使おう(2)</li> <li>⑫ 顧客心理(1)</li> <li>⑬ 顧客心理(2)</li> <li>⑭ ホスピタリティまとめレポート(試験)</li> </ol>
履修の留意点：	手近な情報源である新聞記事からホスピタリティに関する事例を探してみる。
目標と評価：	<p>「目標」：ホスピタリティの理解と実践を経験することにより、個人生活においても、社会生活においても豊かな人生の獲得を目指す。</p> <p>「評価」 授業への参画度・レポート</p>
教科書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「ホスピタリティ I」（担当者：古閑 博美）の履修の手引き

科目名：	ホスピタリティ I
担当者：	古閑 博美
対象学生：	短期大学部1年
設置学期：	秋
概要：	「ホスピタリティ」を総合的に理解できるよう、講義を進めます。社会のさまざまな場面で実行されるホスピタリティについて考察します。実際に役立つ、ホスピタリティ言語や態度を身につけることが期待されます。また、共通テーマを「身近なホスピタリティ」とする発表の場を設けます。受講生は、各自、副題をつけて発表するものとします。
授業方法：	講義と演習。ワーク・ショップを実施。学生の発表を義務付ける。
履修の留意点：	教科書を通読しておくこと。教科書携帯のこと。関連図書を2冊読破する。
目標と評価：	ホスピタリティを行為と精神の観点から理解し、実際の生活において実行できるようにする。授業態度や参加の積極性等を総合的に評価する。
教科書：	『看護のホスピタリティとマナー』 古閑博美 鷹書房弓プレス 2001年

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「ホスピタリティ I」（担当者：古閑 博美）の履修の手引き

科目名：	ホスピタリティ I
担当者：	古閑 博美
対象学生：	短期大学部1年
設置学期：	秋
概要：	「ホスピタリティ」を総合的に理解できるよう、講義を進めます。社会のさまざまな場面で実行されるホスピタリティについて考察します。実際に役立つ、ホスピタリティ言語や態度を身につけることが期待されます。また、共通テーマを「身近なホスピタリティ」とする発表の場を設けます。受講生は、各自、副題をつけて発表するものとします。
授業方法：	講義と演習。ワーク・ショップを実施。学生の発表を義務付ける。
履修の留意点：	教科書を通読しておくこと。教科書携帯のこと。関連図書を2冊読破する。
目標と評価：	ホスピタリティを行為と精神の観点から理解し、実際の生活において実行できるようにする。授業態度や参加の積極性等を総合的に評価する。
教科書：	『看護のホスピタリティとマナー』 古閑博美 鷹書房弓プレス 2001年

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「ホスピタリティ I」（担当者：古閑 博美）の履修の手引き

科目名：	ホスピタリティ I
担当者：	古閑 博美
対象学生：	短期大学部1年
設置学期：	秋
概要：	「ホスピタリティ」を総合的に理解できるよう、講義を進めます。社会のさまざまな場面で実行されるホスピタリティについて考察します。実際に役立つ、ホスピタリティ言語や態度を身につけることが期待されます。また、共通テーマを「身近なホスピタリティ」とする発表の場を設けます。受講生は、各自、副題をつけて発表するものとします。
授業方法：	講義と演習。ワーク・ショップを実施。学生の発表を義務付ける。
履修の留意点：	教科書を通読しておくこと。教科書携帯のこと。関連図書を2冊読破する。
目標と評価：	ホスピタリティを行為と精神の観点から理解し、実際の生活において実行できるようにする。授業態度や参加の積極性等を総合的に評価する。
教科書：	『看護のホスピタリティとマナー』 古閑博美 鷹書房弓プレス 2001年

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「サービスコミュニケーション」(担当者: 山田 みどり) の履修の手引き

科目名:	サービスコミュニケーション
担当者:	山田 みどり
対象学生:	短期大学部1年
設置学期:	春
概要:	IT革命にも後押しされた結果「企業経営」においてサービスの競争力が大きく問われる時代となった。今や病院からIT産業に至るまで各企業で「顧客満足度」に目が向けられ「CS経営」が重要な戦略とされている。そしてヒューマン部分の重要性が認識されると共にその能力活用に力が注がれている。この講座では「CS」の理論と知識のみならず「コミュニケーション能力」の技量アップ重点を置き、演習、実技をとおして実際に社会で役立つ「実学」を学んでいく。
授業方法:	講義、実演、実習、視聴覚教材「ビデオ」等 1 オリエンテーション 2 第一印象は何によって作られるか、コミュニケーションとは 3 自己診断、自己プロデュース 4 サービスとホスピタリティについて 5 航空業界のホスピタリティへの取り組み 6 マナー美人とは 7 接客の基本と敬語の使い方 8 接客実技 9 自己アピールVTR 10 自己アピールVTRフィードバック 11 「顧客満足度調査」 12 「顧客満足度調査」結果の分析と発表 13 苦情対応 14 試験(レポート)
履修の留意点:	1. 過去に経験したサービス(受ける側と提供する側の両方の経験)についての記憶を呼び起こしてみること。 2. 手近な情報源としては新聞が第一にあげられる。できるだけ毎日読んでおくことが望ましい。
目標と評価:	[目標] 演習、実技を通して実践的に社会で役立つ「コミュニケーション能力」を身に付ける。 [評価] 授業への参画度・レポート
教科書:	正しい会話のすすめ方 市川 和明 新星出版社 _____ _____ _____ _____

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。



「サービスコミュニケーション」(担当者: 山田 みどり) の履修の手引き

科目名:	サービスコミュニケーション
担当者:	山田 みどり
対象学生:	短期大学部1年
設置学期:	春
概要:	IT革命にも後押しされた結果「企業経営」においてサービスの競争力が大きく問われる時代となった。今や病院からIT産業に至るまで各企業で「顧客満足度」に目が向けられ「CS経営」が重要な戦略とされている。そしてヒューマン部分の重要性が認識されると共にその能力活用に力が注がれている。この講座では「CS」の理論と知識のみならず「コミュニケーション能力」の技量アップ重点を置き、演習、実技をとおして実際に社会で役立つ「実学」を学んでいく。
授業方法:	講義、実演、実習、視聴覚教材「ビデオ」等 1 オリエンテーション 2 第一印象は何によって作られるか、コミュニケーションとは 3 自己診断、自己プロデュース 4 サービスとホスピタリティについて 5 航空業界のホスピタリティへの取り組み 6 マナー美人とは 7 接客の基本と敬語の使い方 8 接客実技 9 自己アピールVTR 10 自己アピールVTRフィードバック 11 「顧客満足度調査」 12 「顧客満足度調査」結果の分析と発表 13 苦情対応 14 試験(レポート)
履修の留意点:	1. 過去に経験したサービス(受ける側と提供する側の両方の経験)についての記憶を呼び起こしてみること。 2. 手近な情報源としては新聞が第一にあげられる。できるだけ毎日読んでおくことが望ましい。
目標と評価:	[目標] 演習、実技を通して実践的に社会で役立つ「コミュニケーション能力」を身に付ける。 [評価] 授業への参画度・レポート
教科書:	正しい会話のすすめ方 市川 和明 新星出版社 _____ _____ _____ _____

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「CS実践論」（担当者：長谷川 真知子）の履修の手引き

科目名：	CS実践論
担当者：	長谷川 真知子
対象学生：	短期大学部1年
設置学期：	秋
概要：	<p>先進国では経済の成熟化に伴い大三次産業「サービス産業」の比率が高まってきたが、第二次産業である「製造業」においてもアフターケアを含めた「サービスの善し悪し」が製品の付加価値を左右するようになった。</p> <p>21世紀は、IT革命にも後押しされた結果「企業経営」においてサービスの競争力が大きく問われる時代となり「CS経営」が重要な戦略とされている。今や、病院からIT産業に至るまで各企業で「顧客満足度」に目が向けられ、ヒューマン部分の重要性が認識されると共にその能力活用に力が注がれている。</p> <p>この講座では、「コミュニケーション」・「サービス」及び「ホスピタリティ」の理論と一般企業における具体的な取り組みを学ぶことにより、人間としての感性を磨き、主体的でクリエイティブな力をつけていく。</p> <p>又、演習、実技を通して実践的に上記の理論への理解を深め、実際に社会で役立つ「コミュニケーション能力」も身につける。</p> <p>後半には、「CS経営」について研究しながら、企業の発展の為にどのような事が必要かを考える目も養えるよう講義に加え実際に「顧客満足度調査」を行い、顧客（学生・社会人）としての「サービスの見方」を通してサービス提供者（企業人）としての「サービスのあり方、考え方」を学んでいく。</p>
授業方法：	<p>講義、演習、実習、視聴覚教材（ビデオ）による。特定の教科書は使用しない。受講者にも積極的に参加してもらう授業にするため、実践的な部分を多く取り入れる。教材は毎回教師より配布を行う。</p> <p>&lt;参考書&gt;          書名 サービスの本質          著者名 田辺英蔵          出版社名 ダイヤモンド社          出版年 1996年1月 6刷          書名 サービスが伝説になる時          著者名 ベッツィサンダース          出版社名 ダイヤモンド社          出版年 1996年9月          書名 ホスピタリティサービス論          著者名 不破篤郎          出版社名 産能大学          出版年 2002年2月          書名 いきいきマナー講座          著者名 今村道子          出版社名 日本能率協会          出版年 1991年5月</p>
履修の留意点：	受講生は、各種サービス業に関心、興味がある事
目標と評価：	<p>[目標] 次の項目について基礎的理解を得る事を目標とする</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 人間を知ろう！</li> <li>2. マナーとエチケット</li> <li>3. CSとは</li> <li>4. ホスピタリティとコミュニケーション</li> <li>5. サービスとホスピタリティについて</li> <li>6. 顧客価値創造の歴史と企業戦略</li> <li>7. プレゼンテーション・スキル確認と向上（1）</li> <li>8. プレゼンテーション・スキル確認と向上（2）</li> <li>9. 苦情対応こそ「CS」そのもの</li> <li>10. 企業における「CS経営」</li> <li>11. サービスマネージメント</li> <li>12. ブランドマネージメント</li> <li>13. ESとは</li> <li>14. まとめ・クイズ</li> </ol> <p>[評価] 出席状況、授業への取り組み姿勢、宿題、発表、レポート提出</p>
教科書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「CS実践論」（担当者：長谷川 真知子）の履修の手引き

科目名：	CS実践論
担当者：	長谷川 真知子
対象学生：	短期大学部1年
設置学期：	秋
概要：	<p>先進国では経済の成熟化に伴い大三次産業「サービス産業」の比率が高まってきたが、第二次産業である「製造業」においてもアフターケアを含めた「サービスの善し悪し」が製品の付加価値を左右するようになった。</p> <p>21世紀は、IT革命にも後押しされた結果「企業経営」においてサービスの競争力が大きく問われる時代となり「CS経営」が重要な戦略とされている。今や、病院からIT産業に至るまで各企業で「顧客満足度」に目が向けられ、ヒューマン部分の重要性が認識されると共にその能力活用に力が注がれている。</p> <p>この講座では、「コミュニケーション」・「サービス」及び「ホスピタリティ」の理論と一般企業における具体的な取り組みを学ぶことにより、人間としての感性を磨き、主体的でクリエイティブな力をつけていく。</p> <p>又、演習、実技を通して実践的に上記の理論への理解を深め、実際に社会で役立つ「コミュニケーション能力」も身につける。</p> <p>後半には、「CS経営」について研究しながら、企業の発展の為にどのような事が必要かを考える目も養えるよう講義に加え実際に「顧客満足度調査」を行い、顧客（学生・社会人）としての「サービスの見方」を通してサービス提供者（企業人）としての「サービスのあり方、考え方」を学んでいく。</p>
授業方法：	<p>講義、演習、実習、視聴覚教材（ビデオ）による。特定の教科書は使用しない。受講者にも積極的に参加してもらう授業にするため、実践的な部分を多く取り入れる。教材は毎回教師より配布を行う。</p> <p>&lt;参考書&gt;</p> <p>書名 サービスの本質 著者名 田辺英蔵 出版社名 ダイアモンド社 出版年 1996年1月 6刷</p> <p>書名 サービスが伝説になる時 著者名 ベッツィサンダース 出版社名 ダイアモンド社 出版年 1996年9月</p> <p>書名 ホスピタリティサービス論 著者名 不破篤郎 出版社名 産能大学 出版年 2002年2月</p> <p>書名 いきいきマナー講座 著者名 今村道子 出版社名 日本能率協会 出版年 1991年5月</p>
履修の留意点：	受講生は、各種サービス業に関心、興味がある事
目標と評価：	<p>[目標] 次の項目について基礎的理解を得る事を目標とする</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 人間を知ろう！</li> <li>2. マナーとエチケット</li> <li>3. CSとは</li> <li>4. ホスピタリティとコミュニケーション</li> <li>5. サービスとホスピタリティについて</li> <li>6. 顧客価値創造の歴史と企業戦略</li> <li>7. プレゼンテーション・スキル確認と向上（1）</li> <li>8. プレゼンテーション・スキル確認と向上（2）</li> <li>9. 苦情対応こそ「CS」そのもの</li> <li>10. 企業における「CS経営」</li> <li>11. サービスマネージメント</li> <li>12. ブランドマネージメント</li> <li>13. ESとは</li> <li>14. まとめ・クイズ</li> </ol> <p>[評価] 出席状況、授業への取り組み姿勢、宿題、発表、レポート提出</p>
教科書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「ビジネス実務論Ⅰ」（担当者：藤井 秀子）の履修の手引き

科目名：	ビジネス実務論Ⅰ
担当者：	藤井 秀子
対象学生：	短期大学部1年
設置学期：	春
概要：	ビジネスとは？ ビジネス実務とは？ 現代に生きる人間にとって、ビジネスと無関係であることはできないといってもよいほど、毎日の身近な生活から世界の経済情勢にいたるまで、どっぷりとビジネスの波に覆われている。 ビジネスとは何か、そして実際の姿はどうなっているのかを解明し、それを仕事の場で現実に行う場合のビジネス実務をさぐる。
授業方法：	講義は14回だが、そのうちの数回は、ビジネスに関することを調べたり、身近な人から企業に関する実態を取材したりして、レポート作成や、その発表をするという参加型形式とする。
履修の留意点：	日ごろから政治・経済に関心を持つことが必要なので、新聞を読む習慣を持ってほしい。「ビジネス実務論Ⅰ」と秋学期の「ビジネス実務論Ⅱ」は、連続しているので、ビジネスに関心のある学生は、できれば両方履修するとよい。
目標と評価：	<p>&lt;目標&gt; 世の中の動きに関心を持ち、常に「今の社会状況」を考える習慣をつけることと、問題意識を持ち、その解決能力をつけることを目指す。</p> <p>&lt;評価&gt; 次の4つの平均点からの総合評価とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1、期末テスト</li> <li>2、随時行う小テスト</li> <li>3、レポート</li> <li>4、発表</li> </ol>
教科書：	ビジネス実務総論 森脇道子／編著 実教出版株式会社 2000年6月 _____ _____ _____ _____

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「ビジネス実務論Ⅰ」（担当者：藤井 秀子）の履修の手引き

科目名：	ビジネス実務論Ⅰ
担当者：	藤井 秀子
対象学生：	短期大学部1年
設置学期：	春
概要：	ビジネスとは？ ビジネス実務とは？ 現代に生きる人間にとって、ビジネスと無関係であることはできないといってもよいほど、毎日の身近な生活から世界の経済情勢にいたるまで、どっぷりとビジネスの波に覆われている。 ビジネスとは何か、そして実際の姿はどうなっているのかを解明し、それを仕事の場で現実に行う場合のビジネス実務をさぐる。
授業方法：	講義は14回だが、そのうちの数回は、ビジネスに関することを調べたり、身近な人から企業に関する実態を取材したりして、レポート作成や、その発表をするという参加型形式とする。
履修の留意点：	日ごろから政治・経済に関心を持つことが必要なので、新聞を読む習慣を持ってほしい。「ビジネス実務論Ⅰ」と秋学期の「ビジネス実務論Ⅱ」は、連続しているので、ビジネスに関心のある学生は、できれば両方履修するとよい。
目標と評価：	<p>&lt;目標&gt; 世の中の動きに関心を持ち、常に「今の社会状況」を考える習慣をつけることと、問題意識を持ち、その解決能力をつけることを目指す。</p> <p>&lt;評価&gt; 次の4つの平均点からの総合評価とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1、期末テスト</li> <li>2、随時行う小テスト</li> <li>3、レポート</li> <li>4、発表</li> </ol>
教科書：	ビジネス実務総論 森脇道子／編著 実教出版株式会社 2000年6月 _____ _____ _____ _____

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「ビジネス実務論Ⅱ」（担当者：藤井 秀子）の履修の手引き

科目名：	ビジネス実務論Ⅱ
担当者：	藤井 秀子
対象学生：	短期大学部1年
設置学期：	秋
概要：	春学期の「ビジネス実務論1」を基にして、ビジネスの現場で働く個人からの視点に立ったビジネス実務論を展開する。 自分と仕事、自分と仕事仲間との関係、現在のビジネス環境や将来的なビジネス開発等、より具体的なテーマに取り組む。
授業方法：	講義は14回行う。前半は講義形式だが、後半は与えられたテーマのレポート作成やプレゼンテーションなどの参加型授業とする。
履修の留意点：	出来れば春学期の「ビジネス実務論1」を取った上で、受講することが望ましい。 日ごろから政治・経済に関心を持つことが必要なので、新聞を読む習慣を持ってほしい。
目標と評価：	<目標>世の中の動きに関心を持ち、常に「今の社会状況」を考える習慣をつけることと、問題意識を持ち、その解決能力をつけることを目指す。  <評価>次の4つの平均点からの総合評価とする。 1、期末テスト 2、随時行う小テスト 3、レポート 4、発表
教科書：	ビジネス実務総論 森脇道子／編著 実教出版株式会社 2000年6月

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「ビジネス実務論Ⅱ」（担当者：藤井 秀子）の履修の手引き

科目名：	ビジネス実務論Ⅱ
担当者：	藤井 秀子
対象学生：	短期大学部1年
設置学期：	秋
概要：	春学期の「ビジネス実務論1」を基にして、ビジネスの現場で働く個人からの視点に立ったビジネス実務論を展開する。 自分と仕事、自分と仕事仲間との関係、現在のビジネス環境や将来的なビジネス開発等、より具体的なテーマに取り組む。
授業方法：	講義は14回行う。前半は講義形式だが、後半は与えられたテーマのレポート作成やプレゼンテーションなどの参加型授業とする。
履修の留意点：	出来れば春学期の「ビジネス実務論1」を取った上で、受講することが望ましい。 日ごろから政治・経済に関心を持つことが必要なので、新聞を読む習慣を持ってほしい。
目標と評価：	<目標>世の中の動きに関心を持ち、常に「今の社会状況」を考える習慣をつけることと、問題意識を持ち、その解決能力をつけることを目指す。  <評価>次の4つの平均点からの総合評価とする。 1、期末テスト 2、随時行う小テスト 3、レポート 4、発表
教科書：	ビジネス実務総論 森脇道子／編著 実教出版株式会社 2000年6月

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「簿記Ⅰ（普通）」（担当者：井上 行忠）の履修の手引き

科目名：	簿記Ⅰ（普通）
担当者：	井上 行忠
対象学生：	短期大学部1年
設置学期：	春
概要：	複式簿記の基本原理である取引の範囲・取引の八要素（費用・収益・資産・負債・資本）、の認識、及び会計処理（仕訳）を学び、問題集等を使用して、簿記の基本的な技術を習得する。日商簿記検定3級・全経簿記検定2級の合格を目指す。
授業方法：	テキストを中心に授業を行う。授業体系は、簿記一巡の流れを把握し、前半は個別取引を中心に学習を行い、後半は総合問題対策（試算表作成、精算表作成、補助簿：仕入帳、売上帳、現金出納帳、小口現金出納帳、当座預金出納帳、手形記入帳、商品有高帳等）を中心に授業を行う。7月の全経簿記検定3級に目標を定め学習を行う。6月の日商簿記検定3級を目指す学生は、週二回実施される「簿記Ⅱ」の授業を履修すること。
履修の留意点：	学習に当たり、電卓が必要となります。最初の授業で指示をしますので、事前に購入しないで下さい。
目標と評価：	この授業は、日商簿記検定3級または全経簿記検定2級の資格試験に合格する事を目標にしている。
教科書：	例解演習 基本簿記 山本孝夫・前川邦生共著 創成社
	日商簿記検定3級問題集 前川邦生編著 創成社
	簿記検定ワークブック「2・3級」 英光社

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。



「簿記Ⅱ（普通）」（担当者：井上 行忠）の履修の手引き

科目名：	簿記Ⅱ（普通）
担当者：	井上 行忠
対象学生：	短期大学部1年
設置学期：	春
概要：	複式簿記の基本原理である取引の範囲・取引の八要素（費用・収益・資産・負債・資本）、の認識、及び会計処理（仕訳）を学び、問題集等を使用して、簿記の基本的な技術を習得する。日商簿記検定3級・全経簿記検定2級の合格を目指す。
授業方法：	テキストを中心に授業を行う。授業体系は、簿記一巡の流れを把握し、前半は個別取引を中心に学習を行い、後半は総合問題対策（試算表作成、精算表作成、補助簿：仕入帳、売上帳、現金出納帳、小口現金出納帳、当座預金出納帳、手形記入帳、商品有高帳等）を中心に授業を行う。7月の全経簿記検定3級に目標を定め学習を行う。6月の日商簿記検定3級を目指す学生は、週二回実施される「簿記Ⅱ」の授業を履修すること。
履修の留意点：	学習に当たり、電卓が必要となります。最初の授業で指示をしますので、事前に購入しないで下さい。
目標と評価：	この授業は、日商簿記検定3級または全経簿記検定2級の資格試験に合格する事を目標にしている。
教科書：	例解演習 基本簿記 山本孝夫・前川邦生共著 創成社
	日商簿記検定3級問題集 前川邦生編著 創成社
	簿記検定ワークブック「2・3級」 英光社

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「国際協力論」（担当者：安田 利枝）の履修の手引き

科目名：	国際協力論
担当者：	安田 利枝
対象学生：	経営経済学部2年
設置学期：	秋
概要：	<p>国際協力とは、諸国の政府や民間団体が協力するパターンやメカニズム、協力の原因や影響を考える分野です。</p> <p>国際協力を途上国の経済開発、開発協力の分野に限定して考えることも多いのですが、本学カリキュラムでは「国際援助論」という独立した科目を置いているため、この「国際協力論」では様々な問題領域を扱います。すなわち、（通貨、貿易、金融などの国際経済学の問題を除いて）地球規模の問題群である、人口、食糧、資源（海洋・森林）、環境保全と汚染防止、人権、貧困と開発、軍縮、紛争予防、平和維持などの課題について、主要な国際協定、国際組織、各国の協力関係を探っていきます</p> <p>授業の体系</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. レジーム論</li> <li>2. 武器管理と軍縮</li> <li>3. 人権保障</li> <li>4. 平和維持と予防外交</li> <li>5. 地球環境問題</li> <li>6. 途上国への開発協力</li> </ol>
授業方法：	配布するレジメと部分的なビデオ教材の視聴に基づいて問題の概略をお話していきます。受講者には「ただ授業を聞きに来る」、「黙って座っていればいい」ということ以上の積極的な参加を、質疑応答やディスカッションのかたちで求めます。
履修の留意点：	前述のように、授業への積極的な参加、その前提として皆さんの事前の下調べなしに授業は成立しません。
目標と評価：	<p>この科目を履修することによって、次のような成果が得られることを期待します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・一人一人の関心と行動が、国家の政策決定に影響を及ぼし、そして何かを変えていくことに気付くこと</li> </ul> <p>成績評価は、以下の項目によって行ないます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業への参加度 30%</li> <li>・授業内容の理解度 40%</li> <li>・勉学度 30%</li> </ul>
教科書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「国際援助論」（担当者：尾村 敬二）の履修の手引き

科目名：	国際援助論
担当者：	尾村 敬二
対象学生：	経営経済学部2年
設置学期：	秋
概要：	21世紀の国際援助の焦点は経済開発重視から貧困の撲滅へと重点を移し始めている。その過程で先進国の開発援助政策や制度は変わり始めている。援助の役割の重要性そのものには変化はないが、その中身は大きく変化し始めている。それゆえ、本授業では20世紀の援助政策や制度を振り返り、21世紀の援助政策のあり方について学習する。学習内容は日本や国際機関の援助が実際にどのように実施されているかを具体的事例によって学び、かつ、特定の援助される地域や国の事例を基に、援助の実施方法や実務について学習する。
授業方法：	21世紀の国際援助の焦点は経済開発重視から貧困の撲滅へと重点を移し始めている。その過程で先進国の開発援助政策や制度は変わり始めている。援助の役割の重要性そのものには変化はないが、その中身は大きく変化し始めている。それゆえ、本授業では20世紀の援助政策や制度を振り返り、21世紀の援助政策のあり方について学習する。学習内容は日本や国際機関の援助が実際にどのように実施されているかを具体的事例によって学び、かつ、特定の援助される地域や国の事例を基に、援助の実施方法や実務について学習する。
履修の留意点：	積極的な授業参加を期待する。英語の資料を読むことがあるので、授業には英語辞書を必携すること。
目標と評価：	援助政策とは何かを理解するとともに、日本や国際機関が実際にどのような援助政策を実施しているかを理解し、将来の援助行政に実際に携われるようになる初期条件を会得する。評価は授業への参加度や試験によっておこなわれる。
教科書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「地域経済論」（担当者：渡辺 広明）の履修の手引き

科目名：	地域経済論
担当者：	渡辺 広明
対象学生：	経営経済学部2年
設置学期：	秋
概要：	<p>私達は、現実にはごく限られた地域に生活し、学んだり、働いている。そのため、地域には経済や産業の側面に限っても地域独自の仕組みや特徴を持っていることが分かる。地域分析をすると、日本経済全体の平均的な分析では見えてこない地域の独自性を学ぶことが出来ます。本講義は、日本経済論の視点では十分解明できない地域の経済的・産業的独自性を学ぶことが出来ます。地域経済を横軸に産業を縦軸にして授業の展開がなされます。また、いくつかの地域を具体的なケースとして取り上げ、その地域の抱えている問題やその特徴を学ぶことが出来ます。同時に受講生諸君が生活している居住地域と比較検討し、いろいろな地域の理解を深める事が出来ます。この授業では、教科書は特に有りません。授業で配布するプリントや資料を参照して下さい。参考書として以下の図書を上げておきます。竹内淳彦、出井策夫『日本経済地理読本 第6版』東洋経済新報社。高村寿一、小山博之編『日本産業史（3）（4）』日本経済新聞社、宮本憲一・その他編『地域経済論』有斐閣。</p>
授業方法：	<p>基本的には講義形式ですが、地域の経済実態などを知るためにビデオやスライドを見ることもあります。また、受講生の居住地域の特徴などを調査してもらいプレゼンを必ず行ことにより、参加型の授業展開も実施します。</p>
履修の留意点：	<p>この講義では、ホームランを打つ事が出来ません。毎日の積み重ねが大切です。ヒットをこつこつ打ってください。毎日、経済や地域のことを少しでも考えてもらいたい。そのため授業に出席するのはもとより、毎回、課題や作業が課されます。それらを積極的に取り組んでください。</p>
目標と評価：	<p>&lt;目標&gt;○日本各地の地域における経済と産業の特徴を学ぶ事が出来ます。○地域経済の発展一内発型地域経済と外来型地域経済の事例研究が出来ます。○受講生がどんな地域に生活しているのか、自分の居住地域の調査をする事が出来ます。○産業の種類と産業構造の変化・発展について学ぶ事が出来ます。&lt;評価&gt;○学期末テスト50%○毎回の課題・作業30%○居住地域の調査・プレゼン20%</p>
教科書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「農業経済論」（担当者：内藤 勝）の履修の手引き

科目名：	農業経済論
担当者：	内藤 勝
対象学生：	経営経済学部3年
設置学期：	春
概要：	自然の摂理に基づき農業のメカニズムを解明する。
授業方法：	講義とビデオにより世界の農業を研究する。特に「水（仮想水）」との関連で生産を分析する。そして人の命と食料の関連を考察する。
履修の留意点：	なし。
目標と評価：	興味のある所をレポートに作成する。
教科書：	自然と産業 内藤勝 高文堂 1996

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「金融論Ⅰ」（担当者：松田 岳）の履修の手引き

科目名：	金融論Ⅰ
担当者：	松田 岳
対象学生：	経営経済学部3年
設置学期：	春
概要：	<p>「不良債権問題」「電子マネー」「ペイオフ」「金融危機」... 最近の経済ニュースに金融問題が登場しない日が無いと言っても過言ではありません。なぜなら、最近起こった、あるいは起こりつつある経済問題には必ずと言って良いほど金融が関わっているからです。政治・財界・行政・マスコミが常に金融に関心を払っているのも当然のことといえます。学生の皆さんとて例外ではありません。関心の有無にかかわらず、社会生活・日常生活を送る上で、金融への理解は今や必須のものとなりつつあります。</p> <p>しかしその一方で、金融は「難しいものだ」と捉えられており、敬遠されがちです。そして、皆さんは難解さの原因が「金融に関する自分の知識不足だ」と考える傾向にあります。ところが事実は逆です。金融が難しく見えるのは、情報の発信者の側で金融理論への理解が欠如しているためです。決して情報の受信者側の原因ではありません。誤解を多く含んだ「幻想的」な主張こそが、みなさんの混乱を招く主因なのです。</p> <p>金融論Ⅰでは、金融の基礎理論と制度についてわかりやすく解説し、それら基礎知識を応用し、現在金融に関して生じつつある様々な事態を検討します。その際、一般的な見解・議論がもつ誤解や「幻想」を併せて指摘することで、みなさんの混乱を解きほぐし、金融への理解を深めてもらおうと考えています。</p>
授業方法：	<p>授業は全て講義形式で行われ、基本的に以下のプロセスで行う予定です。</p> <p>[1] 新聞記事とコメントの提出（受講者→松田） *前回のテーマに関連する新聞記事を提出してもらいます。 （授業時以外にも金融のことに意識してくれることを期待しています） *記事に対する感想・疑問も併せて提出してもらいます。 （予習・復習効果を期待しています） [2] 前回の復習（松田→受講者） *前回のまとめを行います。 （前回の授業を思い出し、理解を深めてもらいます） *前回提出していただいた質問に対して回答します。 （授業内容への疑問を解消します） [3] 今週のテーマ（松田→受講者） *一回の授業につき、原則として一つのテーマに取り組みます。 （内容にまとまりを持たせるためです） *時折授業時間中に質問を出し、理解度を確認します。 （授業への積極的な参加が求められます） [4] 授業に関する質問等の提出（受講者→松田） *授業の最後に、授業内容への質問提出を求めます。 （「どこが解らないのか」を自分に問いかけることで理解度がより深まります） *授業内容・構成等への注文・希望を受け付けます。</p>
履修の留意点：	<p>[1] 私語をする学生は退出を求め、欠席扱いとします。 [2] 携帯電話等の授業を妨げる行為にも同様の扱いとします。 [3] 課題提出は必須です（予習・復習が求められます）。 [4] 質問提出は必須です（授業への積極的な取り組みが求められます）。</p>
目標と評価：	<p>[目標] [1] 金融についての基礎的な知識（新聞の金融面を読める程度）の獲得。 [2] 金融問題に関する様々な見解とその論理の理解。 [3] 金融問題に対する自分自身の見解と論理の確立。</p> <p>[評価] 評価点の構成要素と評価ポイントは以下のとおりです。 [1] 課題点 (20%) *新聞記事の提出の有無 *コメントの有無 *コメントの内容 [2] 質問点 (50%) *質問提出の有無 *質問内容及びその論理性 [3] 試験点 (30%) *上記三つの目標の達成度 （なお、全ての学生を公平に取り扱うため、遅刻は評価点から減点します）</p>
教科書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「金融論Ⅱ」（担当者：松田 岳）の履修の手引き

科目名：	金融論Ⅱ
担当者：	松田 岳
対象学生：	経営経済学部3年
設置学期：	秋
概要：	<p>「不良債権問題」「電子マネー」「ペイオフ」「金融危機」... 最近の経済ニュースに金融問題が登場しない日が無いと言っても過言ではありません。なぜなら、最近起こった、あるいは起こりつつある経済問題には必ずと言って良いほど金融が関わっているからです。政治・財界・行政・マスコミが常に金融に関心を払っているのも当然のことといえます。学生の皆さんとて例外ではありません。関心の有無にかかわらず、社会生活・日常生活を送る上で、金融への理解は今や必須のものとなりつつあります。</p> <p>しかしその一方で、金融は「難しいものだ」と捉えられており、敬遠されがちです。そして、皆さんは難解さの原因が「金融に関する自分の知識不足だ」と考える傾向にあります。</p> <p>ところが事実とは逆です。金融が難しく見えるのは、情報の発信者の側で金融理論への理解が欠如しているためです。決して情報の受信者側の原因ではありません。誤解を多く含んだ「幻想的」な主張こそが、みなさんの混乱を招く主因なのです。</p> <p>金融の基礎理論と制度についてわかりやすく解説する点では金融論Iと共通ですが、金融論IIでは、Iに比べ、より複雑な金融問題に取り組みたいと考えています。その際、金融論Iと同様に、一般的な見解・議論がもつ誤解や「幻想」を併せて指摘することで、みなさんの混乱を解きほぐし、金融への理解を深めてもらおうと考えています。</p>
授業方法：	<p>授業は全て講義形式で行われ、基本的に以下のプロセスで行う予定です。</p> <p>[1] 新聞記事とコメントの提出（受講者→松田）</p> <p>*前回のテーマに関連する新聞記事を提出してもらいます。 （授業時以外にも金融のことに意識してくれることを期待しています）</p> <p>*記事に対する感想・疑問も併せて提出してもらいます。 （予習・復習効果を期待しています）</p> <p>[2] 前回の復習（松田→受講者）</p> <p>*前回のまとめを行います。 （前回の授業を思い出し、理解を深めてもらいます）</p> <p>*前回提出していただいた質問に対して回答します。 （授業内容への疑問を解消します）</p> <p>[3] 今週のテーマ（松田→受講者）</p> <p>*一回の授業につき、原則として一つのテーマに取り組みます。 （内容にまとまりを持たせるためです）</p> <p>*時折授業時間中に質問を出し、理解度を確認します。 （授業への積極的な参加が求められます）</p> <p>[4] 授業に関する質問等の提出（受講者→松田）</p> <p>*授業の最後に、授業内容への質問提出を求めます。 （「どこが解らないのか」を自分に問いかけることで理解度がより深まります）</p> <p>*授業内容・構成等への注文・希望を受け付けます。</p>
履修の留意点：	<p>[1] 私語をする学生は退出を求め、欠席扱いとします。</p> <p>[2] 携帯電話等の授業を妨げる行為にも同様の扱いとします。</p> <p>[3] 課題提出は必須です（予習・復習が求められます）。</p> <p>[4] 質問提出は必須です（授業への積極的な取り組みが求められます）。</p>
目標と評価：	<p>[目標]</p> <p>[1] 金融についての基礎的な知識（新聞の金融面を読める程度）の獲得。</p> <p>[2] 金融問題に関する様々な見解とその論理の理解。</p> <p>[3] 金融問題に対する自分自身の見解と論理の確立。</p> <p>[評価]</p> <p>評価点の構成要素と評価ポイントは以下のとおりです。</p> <p>[1] 課題点 (20%)</p> <p>*新聞記事の提出の有無</p> <p>*コメントの有無</p> <p>*コメントの内容</p> <p>[2] 質問点 (50%)</p> <p>*質問提出の有無</p> <p>*質問内容及びその論理性</p> <p>[3] 試験点 (30%)</p> <p>*上記三つの目標の達成度 （なお、全ての学生を公平に取り扱うため、遅刻は評価点から減点します）</p>
教科書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「経済学Ⅱ（ミクロ経済学）」（担当者：山崎 康之）の履修の手引き

科目名：	経済学Ⅱ（ミクロ経済学）
担当者：	山崎 康之
対象学生：	経営経済学部2年・短期大学部2年
設置学期：	春
概要：	<p>現代経済学理論のミクロ経済学（価格理論）の部分について講義します。市場経済において価格がどのように決定され、どのような役割を果たしているかについて学びます。すなわち、さまざまな財・サービスの価格の決定メカニズムと一國経済を構成する家計・企業・政府などの個々の経済主体の消費・生産といった経済行動がこの価格メカニズムを通じていかにして決定、調整されていくのか、またされるべきなのかについて講義します。ミクロ経済学の分析の基本的枠組みを理解することがその目的です。</p> <p>この講義で取り上げる主なトピックとその順序は、以下の通りです。</p> <p>ミクロ経済学</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 市場における需要と供給の作用。</li> <li>2. 弾力性とその応用。</li> <li>3. 需要、供給および政府の政策。</li> <li>4. 消費者、生産者、市場の効率性。</li> </ol>
授業方法：	通常の講義によります。
履修の留意点：	特にありません。
目標と評価：	期末試験の結果により評価します。
教科書：	N・グレゴリー・マンキュー マンキュー経済学Ⅱ ミクロ編 東洋経済新報社 2000年

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。



「世界の民族と宗教」（担当者：畑中 敏夫）の履修の手引き

科目名：	世界の民族と宗教
担当者：	畑中 敏夫
対象学生：	経営経済学部2年・短期大学部2年
設置学期：	秋
概要：	この講義では、日常私達が意識することの少ない宗教を取り上げ、三大宗教を中心にその成立、教義、歴史的発展を勉強していきます。又、それと同時に日本人の固有信仰である神道を対象に日本人にとって宗教とはどういうものであるかを問題にしていこうと思います。上記のテーマの他にこの講義のもう一つの内容は、現代世界における宗教の意義を考えていくことにあります。その為に各地で起きている民族紛争を宗教という観点からアプローチしていくつもりです。
授業方法：	講義主体の授業ですが、私達になじみのない宗教をテーマとする時には、ビデオ教材を活用し単に観念的な理解にとどまることをさけるつもりです。
履修の留意点：	ある意味では宗教問題は現代世界で最もヴィヴィッドな問題です。そういう意味で現代世界のアクチュアルな問題に興味のある人が望ましい。
目標と評価：	目標 宗教という観点から今、現に起きている世界の出来事を説き解いていくことが目標です。 評価： 学期末に実施する筆記試験とレポートの出来事とを加味し、総合的に判断する、
教科書：	教科書使用せず 参考書は授業時に指示    

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「国際理解と交流」（担当者：サイモン クレイ）の履修の手引き

科目名：	国際理解と交流
担当者：	サイモン クレイ
対象学生：	短期大学部1年
設置学期：	秋
概要：	For students planning to travel abroad and for students interested in international relations, this course looks at both international issues close to home and on a world scale. This course is compulsory for those travelling to UK or China in February and strongly recommended for students wishing to spend their second year in Wuhan or USM
授業方法：	Please check the Internet for the content of each class. In addition to class discussion and group work, there will be speeches by outside guests and video materials. Students will also be given homework exercises. Discussion will form a large part of each class and full participation will be expected. **細かい内容については「授業計画」をチェックして下さい**
履修の留意点：	Nothing in particular
目標と評価：	Students will be assessed according to their participation in class and their homework assignments, including a final essay assignment
教科書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「国際理解と交流」（担当者：山田 寛）の履修の手引き

科目名：	国際理解と交流
担当者：	山田 寛
対象学生：	短期大学部1年
設置学期：	春
概要：	国際関係入門編。①国際理解②国際交流をどう進めるか、わかりやすく説明し、演習してもらう。この春学期の「国際理解と交流」は、夏休みの「国際交流研修」（10日間ぐらいの国際ボランティア体験旅行）の前提科目。つまり、国際交流研修旅行に参加して、交流研修の単位をとるには、あらかじめ春学期のこの授業を履修しておく必要がある。
授業方法：	講義と演習をミックスし、ビデオなどをできるだけ使用する。教科書は使わない。
履修の留意点：	旅行に行かず、この「国際理解と交流」の単位だけとることももちろんできるし、「国際交流研修」の単位を考えずに旅行に参加することもできる。
目標と評価：	平常点と期末試験をあわせて評価する。
教科書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「開発経済学Ⅰ」（担当者：尾村 敬二）の履修の手引き

科目名：	開発経済学Ⅰ
担当者：	尾村 敬二
対象学生：	経営経済学部3年
設置学期：	春
概要：	<p>開発経済学Ⅰの授業の目的は、開発途上国経済について以下の諸点に焦点をあてて理解することにある。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 開発途上国の経済開発に関する理論の学習。</li> <li>2. 開発途上国経済の現状と問題点</li> <li>3. 東南アジア諸国の経済開発の問題点</li> <li>4. 開発に伴う諸問題に対する対応（グローバリズムと地域協力）</li> <li>5. 21世紀の開発問題としての環境協力</li> <li>6. 経済開発における開発プロジェクトの事例</li> </ol>
授業方法：	<p>本授業は一般講義方式による科目と設定されているので、基本的には教科書を活用する講義形式でおこなう。しかし、普通の講義では履修生の関心度を高めることに限界が生じるので、履修生の授業への参加を図り、理解度を高める。参加の方法はグループによる課題についての調査、レポートの作成などをおこなう。また、履修生は調査した課題についての発表を授業時間内に義務付けられる。</p>
履修の留意点：	<p>原則として、やむをえない場合を除き、出席を義務付ける。本授業は国際経済問題の一環であり、国際経済全般との関連付けでおこなわれるので、国際経済についての知識慣用にも心がけてもらう。履修登録時点で、英語力に自信がなくてもよいが、履修後には英語文献を読めるように努力することが必要である。授業には英和辞典必携である。なお、英語力を付けるために原書購読の授業を履修することが望ましい。最初は教科書を使用するが、そのほかに、教材を適宜配布し、予習および復習を義務付ける。</p>
目標と評価：	<p>学習の目標は、一般情報誌紙に取り上げられる開発問題を批判的に理解できる能力を付けることにある。評価方法は日常の授業参加度、レポート提出、ペーパー試験などでおこなう。</p>
教科書：	<p>開発経済学入門 渡辺利夫 東洋経済新報社 2001年</p> <hr/> <hr/> <hr/> <hr/>

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「開発経済学Ⅱ」（担当者：尾村 敬二）の履修の手引き

科目名：	開発経済学Ⅱ
担当者：	尾村 敬二
対象学生：	経営経済学部3年
設置学期：	春
概要：	本授業は春学期に1週二コマの授業の一つであり、開発経済学Ⅰと連続するものである。それゆえ、概要、授業方法履修上の留意点、目標と評価、教科書については、開発経済学Ⅰとまったく同じである。
授業方法：	開発経済学Ⅰと同じ
履修の留意点：	開発経済学Ⅰと同じ
目標と評価：	合格の評価については2単位の取得となるが、開発経済学ⅠおよびⅡ合わせて4単位となる。
教科書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「世界経済と資源」(担当者:南坊 進二)の履修の手引き

科目名:	世界経済と資源
担当者:	南坊 進二
対象学生:	経営経済学部3年
設置学期:	春(集中講義)
概要:	<p>私たちが住んでいるこの日本はどのように発展してきたのでしょうか?前近代的社会から近代的社会に至るのに苦労に苦労を重ね、第二次世界大戦を経て、1970年代には資本主義陣営でアメリカに次ぐ世界第2位、そして1980年代以降は世界第2位の経済大国となりました。日本経済が急速に伸びたのは貿易が大きな原動力であり、そして成功要因は間違いなく、付加価値のあるものや技術、あるいはサービスを世界に送り続けていることにあります。自動車、パソコン、家電製品などの日本ブランドは世界のどこに行っても見事にあります。しかしその一方、日本は世界から様々なものを資源や原材料を輸入しています。最も重要で大量に輸入しているものは、原油・石油であります。日本の消費の99%は輸入に依存しています。また鉄鉱石や石炭、金属などの資源も輸入しております。こうした資源は日本に賦存するものの、少量であり経済的に成り立ちません。さらに食料も量の多少を別にすれば全種類を輸入していると言えます。従って世界との結びつきなくしては日本経済は成り立ちません。</p> <p>そして1990年代に入り、インターネットの爆発的普及により世界の距離感がなくなりました。ホームページを検索すれば、あっという間にアメリカやフランス、あるいはペルーやインドのサイトを見つけることができ、そこへ飛ぶことができるし、世界のあらゆる地域の人々と気軽にメール交換もできるようになりました。実物経済は勿論、こうしたバーチャルな分野までも世界が一体化しており、もはや日々の生活も世界経済抜きに語ることはできません。</p> <p>この授業では、こうした背景を念頭に置き、世界を知ることを見ず第一目的として考えたいと思います。そのためには、皆さんが知らないような世界を構成する人々の暮らし、日本と世界の結びつき、世界経済の発展過程、貿易原理、国際資源開発、環境問題、資源保護など、世界を知るためのキーを見て行きたいと考えています。</p>
授業方法:	<p>授業は、夏季集中講義です。本講義を有意義なものとするために、ビデオ教材を毎日活用し、世界のビビッドな情報を共有したいと考えています。</p> <p>&lt;参考書&gt;          書名 環境・資源経済学          著者名 時政つとむ          出版社名 中央経済社          出版年 2001年</p> <p>書名 環境評価入門          著者名 藤田豊明          出版社名 劉草書房          出版年 1999年</p> <p>書名 貿易の知識          著者名 小峰隆夫          出版社名 日本経済新聞社          出版年 1993年</p> <p>書名 資源論入門          著者名 佐々木信行          出版社名 コロナ社          出版年 2001年</p> <p>書名 資源開発とその方法          著者名 高多明          出版社名 東京大学出版会          出版年 1987</p> <p>書名 環境技術論          著者名 黒岩俊郎          出版社名 東洋経済新報社          出版年 1991</p> <p>書名 資源経済学の進め 世界の鉱物資源を考える          著者名 西山孝          出版社名 中央公論社          出版年 1993</p>
履修の留意点:	マイクロ経済学、マクロ経済学の一般的な知識があることを前提としております。
目標と評価:	<p>この授業を受講した学生は、以下のことを理解するようになっているはずですが、またそうなるように学習することをのぞみます。</p> <p>目標</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 世界経済の現状、先進国と途上国の格差</li> <li>2. 貿易の効用と問題</li> <li>3. 資源開発の効用と問題</li> <li>4. 環境保全の難しさ</li> </ol> <p>評価</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 出席と議論への発言の積極性(50%)</li> <li>2. 最終試験(50%)</li> </ol>
教科書:	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「欧米経済論」（担当者：馬田 啓一）の履修の手引き

科目名：	欧米経済論
担当者：	馬田 啓一
対象学生：	経営経済学部3年
設置学期：	春
概要：	本講義では、最新かつ重要な欧米経済の諸問題を平易に解説する。前半はアメリカ経済を取り上げ、米景気の動向と財政金融政策、米通商政策の新たな展開、米企業のグローバル戦略、日米経済関係の展望などについて講義する。後半はヨーロッパ経済を取り上げ、欧州統合の歴史、通貨統合の意義、ユーロの課題と行方、EUの通商政策とWTO、日本企業の対EU戦略などについて講義する。
授業方法：	授業は一回完結方式。毎回の講義テーマについては「授業計画」を参照。講義内容を要約した簡単なレジュメを毎回配布する予定である。
履修の留意点：	経済学の基礎知識があることが望ましいが、なくてもよい。欧米経済問題に対する旺盛な問題意識さえあれば、必ず興味深く受講できる。
目標と評価：	レポート提出（1回）と定期試験の結果により評価する。試験の方法は、講義で取り上げたテーマの中から自由に一つ選んで論述。持ち込み可。
教科書：	「日米経済関係」 青木健・馬田啓一編著 勁草書房 1996年
	「単一市場・単一通貨とEU経済改革」 田中素香編著 文真堂 2002年

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「国際金融論」（担当者：徳永 潤二）の履修の手引き

科目名：	国際金融論
担当者：	徳永 潤二
対象学生：	経営経済学部3年
設置学期：	秋
概要：	<p>円高・円安、デリバティブ、グローバル化、ドル化、欧州単一通貨ユーロ．．．皆さんもテレビや新聞などでこのような国際的なマネーをめぐるニュースに接したことがあると思います。これらの国際的なマネーをめぐるニュースはとて複雑で難解そうに見えます。ところが、国際金融にかかわる人たちが共通に使っている言葉や分析道具を身に付ければ、複雑で難解そうに見える現象も理解ができるようになります。そのためには、外国為替、国際収支、国際金融市場についての基礎知識をマスターする必要があります。授業では、これらの基礎知識をマスターした上で、複雑で難解に見える国際金融の現象を理解できるようになることが目標です。</p> <p>最近、インターネットから国際金融についての様々なデータを入手できるようになりました。この方法と処理についても学びます。</p> <p>なお、国際金融情勢において激動が生じた場合は、随時、現実の問題を取り上げていきます（授業内容は一部変更する可能性があります）。</p>
授業方法：	<p>授業は講義形式で行います。理解度の確認のために、授業時間中に皆さんに対して質問を出します。プリントを授業の最初に配布しますので、特定の教科書は使用しません。参考書は適宜紹介します。</p>
履修の留意点：	<p>毎回の授業の最後に小テストを行います。次回の授業の最初には、小テストの回答と説明を行います。受講する皆さんの理解度を確かめながら、分かりやすく興味深い授業をしていきますので、毎回の授業に出席してください。</p> <p>なお、授業には遅刻をしないようにしてください。そして、授業では、私語や携帯電話の利用等の授業を妨げる行為は慎んでください。</p>
目標と評価：	<p>授業の目標は、国際金融の基礎的な知識を学ぶことによって、複雑で難解のように見える国際金融の現象を「自分の頭」で正しく理解できるようになることです。</p> <p>評価点の構成要素と評価方法は以下のとおりです。</p>
教科書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。



「日中比較経済論」（担当者：羅 歆鎮）の履修の手引き

科目名：	日中比較経済論
担当者：	羅 歆鎮
対象学生：	経営経済学部3年
設置学期：	秋
概要：	<p>先進国の日本経済と途上国の中国経済が比較できるのか。比較してもどこに意味があるのか。皆さんは上記科目名を見ると、このような疑問を湧いてくるでしょう。しかし、先進国と途上国の構図を超えて、視点を転換し、長いスパンで日中経済を眺めると、両者を比較することによって、今までに見えてこなかったことが見えてくるのが可能です。それが日中比較経済論の意味となります。</p> <p>ここでの視点とは、開発経済論の視点のことです。また、長いスパンとは、日本にとっては明治維新以来の日本経済発展をさすが、中国が1949年中華人民共和国成立してからのことをさします。開発経済論で日中経済発展を観察すると、両者の共通点は自然に出てきます。例えば、明治政府と共和国政府は同じような経済開発、工業化という歴史的課題を抱えていました。経済開発と工業化を実現するために、両者はそれぞれ異なる内外環境の下で同様な政策を採る一方、違う政策も多く採っていました。また、70年代末から中国は改革開放政策を実施し、従来の計画経済体制を市場経済体制へ移行しようとしています。これは、終戦直後の日本の戦時体制から戦後体制に転換することと似ています。そして、今中国は7～8%の成長率で高度経済成長を続けているが、日本は50年代半ばから70年代初めまで同じく高度経済成長を経験していました。同じ高度経済成長ではあるが、その中身は多くの側面が異なっています。</p> <p>本講義は、上述したような課題を主に開発経済論というアプローチで検討していきます。具体的には、次のことを取り上げます。</p> <p>近代経済成長初期における政府と市場（近代化・工業化戦略）          経済体制転換と移行経済          高度経済成長の比較          日本の経営システムと中国国有企業改革          日中経済の現状と展望</p>
授業方法：	基本的に講義を中心としますが、履修者のディスカッションも要求します。
履修の留意点：	日本経済と中国経済に対する興味を持ち、その概要を事前に勉強すること。指定した参考文献を予習し、積極的に授業参加をすること。
目標と評価：	<p>本授業は次のような目標を目指します。</p> <p>1日本経済発展と中国経済発展の歴史を再整理し、把握できること。          2日中経済の異同を自分なりに整理していくこと。          3日本が抱える問題を自分なりに整理し、自分なりの対策をまとめられること。</p> <p>成績評価は次のように行います。</p> <p>1出席点（40%）。欠席の計算は本学の規定に従います。          2質問・発言は10%。          3学期末の試験は50%</p>
教科書：	<p>『日本の経済発展（第3版）』 南亮進 東洋経済新報社 2002</p> <p>『中国経済入門』 南亮進・牧野文夫 日本評論社 2001</p> <p>『中国の経済発展』 林毅夫・蔡昉・李周 日本評論社 1997</p>

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「アジア経済論」（担当者：平井 東幸）の履修の手引き

科目名：	アジア経済論
担当者：	平井 東幸
対象学生：	経営経済学部3年
設置学期：	秋
概要：	「21世紀はアジアの時代」といわれますが、日本とアジア諸国との貿易や投資、そして人的な交流を通じて、アジアの経済社会が国・地域別にどのように発展しているかについて学ぶことを目標にします。「世界の工場」の中国、先進国の仲間入りを果たした韓国、そして台湾や東南アジア諸国の状況、日本との関係を業種（たとえば繊維産業）のケーススタディを含めて紹介します。世界は経済発展する国と停滞を続ける国・地域に別れますが、なぜアジア、とくに東アジアは過去半世紀にわたって経済発展が目覚ましいのか、「後発の利益」「開発独裁」「雁行形態発展論」などの開発経済学の初歩的な解説も含めて、また話題のF T A（自由貿易協定）など地域統合の課題なども講義する予定です。
授業方法：	講義形式で行います。なお、できれば外部から講師を招聘する予定です。なお、参考文献については、取り敢えずは、山形『やさしい開発経済学』（アジア経済研究所）、渡辺利夫『成長のアジア 停滞のアジア』（講談社学芸文庫）を推薦します。
履修の留意点：	とくにありません。
目標と評価：	目標は上記の概要で述べたとおり、21世紀はアジアの時代だとすれば、日本とアジアとのビジネスがさらに広範囲に躍進するはずで、この講義を通じて、アジアの経済について日本との関係において理解を深めてもらいたいと思います。
教科書：	使用しない予定です。

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「国際貿易論」（担当者：亀卦川 芽以）の履修の手引き

科目名：	国際貿易論				
担当者：	亀卦川 芽以				
対象学生：	経営経済学部3年				
設置学期：	秋				
概要：	国際経済は国境のボーダレス化が進み、グローバル経済が進んでいます。本講義では、国際貿易に焦点をあて、貿易の仕組みの理解や国際貿易の歴史的な展開について認識を深める講義を行います。				
授業方法：	講義形式で行います。				
履修の留意点：	特にありませんが、国際経済学の授業を履修していなくても理解していることが前提とします。				
目標と評価：	評価に関しては、課題及び学期末試験、授業態度を考慮します。				
教科書：	特にありません。 <table border="1" style="width: 100%; height: 40px;"> <tr><td> </td></tr> <tr><td> </td></tr> <tr><td> </td></tr> <tr><td> </td></tr> </table>				

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「国際文化論」（担当者：畑中 敏夫）の履修の手引き

科目名：	国際文化論
担当者：	畑中 敏夫
対象学生：	経営経済学部2年・短期大学部2年
設置学期：	春
概要：	この講義は大別すれば二つの内容から成っています。 一つは、私達日本人がどこから来たかという日本人の起源についての問題。 もう一つは、日本語の起源とその特色に関する問題です。前者の問題については考古学的な観点と生物学的な観点から考察していきます。この問題の展開を通じて人類の身体的差異がどのように生じてきたかを明らかにし、人種という概念自体を相対化していきたいと思っています。後者の問題は、比較言語学の方法でアプローチしていきます。そして、世界の言語の中で日本語がどう位置づけられるかを考えていこうと思っています。いわば外国語という鏡に映った日本語を通して日本文化の特性にまで話が及べたらと考えています。
授業方法：	講義主体の授業となりますが、適時ビデオ教材を用いて現在の学問水準で上記の問題がどこまで説明されているかを実感してもらう予定です。
履修の留意点：	特別ありませんが、上記のテーマに興味のある人が望ましい。
目標と評価：	目標 「外国語を知らない者は自国語も知らない。」 ゲーテの言葉だそうですが、この授業の目標とは端的に言えばこの一見、逆説的な言葉の内実を真に理解することにあると言えます。  評価の方法 学期末に実施する筆記試験とレポートとを総合的に判断し評価を下す。
教科書：	教科書は使用しない 参考書については授業中に指示

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「日本文化Ⅰ」（担当者：石田 雅彦）の履修の手引き

科目名：	日本文化Ⅰ
担当者：	石田 雅彦
対象学生：	経営経済学部2年
設置学期：	春
概要：	本科目は嘉悦大学の主たる目的である、国際的な経営経済科目の中にあつて、日本文化に直接触れることの出来る数少ないものである。科目の目的は国際人として本学を巣立つ学生たちに、自分の国日本の文化を少しでも認識し身につかせるにある。従つて本科目は「日本文化とは何か」の問い掛けから始まつて、伝統的な日本文化に実際に触れた意見するを主たる目的とする。
授業方法：	本科目は国際人たる教養を身につける目的から、昨年度に続いてジョアン・ロドリゲス・ツツが外から日本人や日本文化をどう見ていたかを探るにある。その上で彼が日本文化の中心として高く評価し述べている、「茶道」を通じていろいろな伝統文化に触れた意見する。
履修の留意点：	本科目の特徴は日本文化に直接触れるにある。従つて1回1回の出席が非常に重要になる。日本文化の片鱗に触れるだけでも春学期のみでは時間が不足する。ゆゑ日本講座は基本的に休講はない。まず出席すること。その上で日本文化の持つ素晴らしさと奥深さを体験しよう。
目標と評価：	目標は日本の文化が自分たちにとって以下に重要で世界に誇れるかを認識することにある。評価は出席点を重要視する。その上で学期末に、提示したテーマに従つて論文を提出し評価をしたい。
教科書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「日本文化Ⅱ」（担当者：石田 雅彦）の履修の手引き

科目名：	日本文化Ⅱ
担当者：	石田 雅彦
対象学生：	経営経済学部2年
設置学期：	秋
概要：	「日本文化Ⅱ」は春学期の後を引き継ぐ形で授業を構成する。 この授業は、本校が国際経済に役に立つ学生を育てるのを目的とするのを受けて、国際人たらしめる学生諸君に自国の文化「日本の文化」を認識させるにある。短い学期の間に学問する方法として、本授業は君たちに学校の協力を得て日本文化を実体験させる。春学期は着物・香道・茶道・茶道の歴史を学んだ。
授業方法：	「日本文化」の授業の根幹は、日本という国で育った学生・または日本という国に興味を持った留学生そのものにある。したがって学生諸君一人一人が「日本文化の何に興味を持つか」が非常に大切になる。授業の構成はまず学生諸君のその興味から出発するから、正式なカリキュラムは学生諸君と共に決めたい。秋学期も春に続いて石田の主たる文化「茶道」を中心にして、着物・能楽・源氏物語などを取り上げていきたい。 なお必要な資料（史料）は随時にコピーを配布するので、教科書は不要である。
履修の留意点：	特になし
目標と評価：	特になし
教科書：	特に使用しない。    

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「家庭経営論」（担当：青山 理恵子）の履修の手引き

科目名：	家庭経営論
担当者：	青山 理恵子
対象学生：	経営経済学部2年
設置学期：	春
概要：	<p>少子・高齢化と相俟って、晩婚・非婚化、女性の就労構造の変化など、家族を取りまく環境は多様化している。急激に変化する家族関係、そして、社会経済の変化に対応する家計管理、衣食住を巡る消費生活という3つの側面から、家庭経営を考え、基礎的知識を幅広く学ぶ。</p> <p>自立した生活者となるためには、家庭、社会、政治、経済、ひいては地球環境と無縁ではられない自己を認識することから始める必要がある。日常のヒトコマ、ヒトコマから社会の仕組みを洞察する力を身につけるためにも消費者運動史、消費者行政の歴史、消費者法の実態、衣・食・住・家計管理などを具体的に学び、半年の終了時には、消費生活アドバイザーの資格取得にチャレンジできる力を身につけられるよう講義をしたい。</p>
授業方法：	<p>基本的には講義形式である。講義には、時間の都度、講師が資料を用意し、ホットな情報も提供していきたい。</p> <p>適宜、商品選択の際の表示の見方、適切な表示の確認など、フィールドワークも取り入れたい。</p>
履修の留意点：	<p>教材としては下記に数点挙げているが、基本的には、消費者法の改正など、逐次ホットな情報を提供していきたいので、その都度プリントを講師が用意したいと考えている。</p> <p>したがって、授業に出席しないと、資料が受け取れないので、注意を要す。</p> <p>それ以外の履修の条件は特に設けていない。</p>
目標と評価：	<p>ペーパーテストではなく、講義の半ばで課題を挙げ、最終の講義時間を、課題発表の時間にあて、ディスカッションを行いながら、採点を行う。なお、課題発表を行うことによりプレゼンテーションの技術も身につけられるよう指導をおこなう。</p> <p>昨年より、資格取得に年齢制限がなくなった、消費生活アドバイザーの資格取得にチャレンジできるよう、目標を設定したい。</p> <p>なお、成績の評価については、日頃の受講態度を50点、課題の論文提出を25点、発表のプレゼンテーション方法を25点と考えている。</p>
教科書：	<p>消費者問題入門 吉田良子編著 建ばく社 2001年</p> <p>ハンドブック消費者 内閣府国民生活局 内閣府国民生活局 2002年</p> <p>くらしの豆知識 国民生活センター 国民生活センター 2003年</p> <p>新版 消費生活論 (社)日本衣料管理協会 日本衣料管理協会 2001年</p>

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「生活環境論」（担当者：生井 良一）の履修の手引き

科目名：	生活環境論
担当者：	生井 良一
対象学生：	経営経済学部2年
設置学期：	秋
概要：	<p>生活空間にもさまざまな環境問題が起きている。車による大気汚染、飲み水の問題、騒音問題、食品の安全性などが問題となっている。とくにごみの問題はどこの町でもきびしい状態である。また、子供のアレルギーが増えている。花粉症も10人に一人の割合という。これらは、大気汚染や化学物質によるところが大きいのではないかとされている。</p> <p>まずは、ごみの問題を取り上げる。どこの自治体でも一番困っているのが埋立地の不足である。そのためさまざまなごみの減量に取り組んでいる。リサイクルや有料化もその一つである。焼却場からはダイオキシンも発生する。これら、ごみ問題の実情とさまざまな取り組みを紹介する。</p> <p>水は生活に欠かせない。水道の蛇口に来るまでの水の旅、家庭から流れ去った後の水の行方。これを追いかけていくことで、水の汚染や水の処理といったことを学ぶ。また、水道の歴史などにも言及したい。</p> <p>都市の水をつくってくれているのが上流の山村地帯。水と緑の関係について、ぜひとも知って欲しい。森のはたらきはそれだけではない。都市から林が無くなると、ヒートアイランド現象がいつそうすすむ。都市の温暖さも年々ひどくなっている。それをやわらげてくれるのが樹木なのである。</p> <p>車による大気汚染も進んでいる。排気ガスに含まれる窒素酸化物や粒子状物質（すす）がぜんそくなど呼吸器系の病の原因となっている。それに排気ガスは酸性雨の原因にもなっているのだ。車の数をどう減らすか、排気ガスをどう改善するか、渋滞をどう改善のかなど最近の動きを紹介する。</p> <p>地球温暖化問題と関連して、省エネルギーをどう進めるか、生活スタイルをどう変えていくかなど、エネルギーと生活の関係についても考える。</p> <p>いろいろなことを知って、少しでも暮らしやすい町づくりを進めたい。暮らしやすい町づくり、それは子供にとっても、障害者にとっても、お年寄りにとっても暮らしやすいものであって欲しい。いわゆるバリアフリーの町づくりである。その前に、人間の心のバリアもフリーにしたい。そんな取り組みも紹介する。</p> <p>他に、公害の原点でもある有機水銀による水俣病、大気汚染による四日市ぜんそく、カドミウム汚染によるイタイイタイ病についても紹介したいと思っている。</p>
授業方法：	内容を具体的に理解できるように、いろいろな事例を紹介する。そのために、ビデオ教材をひんばんに使用する。プリントは必要に応じて配布する。とにかく、どんな質問でも大歓迎。
履修の留意点：	自分の住んでいる地域の環境と対応しながら話を聞いて欲しい。
目標と評価：	<p>目標1：身近な環境に関心を持つこと</p> <p>目標2：身近なことで、できるところから実践すること</p> <p>目標3：世界の環境にも関心を持つこと</p> <p>学期末の試験あるいはそれに替るレポートと出席点によって評価を決定する。ときには、授業中の態度が考慮の対象となることもある。</p>
教科書：	教科書は使わない。そのかわり、必要に応じ参考書を紹介する。

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。



「NGO・NPO論」（担当者：内田 和夫）の履修の手引き

科目名：	NGO・NPO論
担当者：	内田 和夫
対象学生：	経営経済学部3年
設置学期：	春
概要：	<p>だれでもが、市民として、みんなのための活動に取り組む時代となりました。めざすは、「共生型の社会」ということができるでしょう。</p> <p>そうした社会を築くために、登場したのが、市民がつくる「NGO（非政府組織）」であり「NPO（非営利組織）」です。</p> <p>こうした市民組織は、政府のような公的セクターとも企業のような経済セクターともことなり、行政のもつ硬直性を免れ、企業のもつ営利性を免れていることから、大きな期待が寄せられています。</p> <p>この講義では、途上国で活動するNGOの活動のいくつか、国内で活動するNPOのいくつかを具体的に紹介する中で、こうした市民組織の可能性と課題を一緒に考えていきたいと思います。</p>
授業方法：	<p>1) NGOとはなにか。NPOとはなにか。出発の定義を紹介します。</p> <p>2) ビデオやスライド、ゲストに活動の実際を聞き、現場レポートをよみ、その実際に振れながら、自分の理解するところ、自分の意見をレポートにまとめます。</p> <p>3) 今後を考えるための課題について整理します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・理念はどうあるべきか。</li> <li>・運営はどうあるべきか。</li> <li>・経営をどう持続させるか。</li> <li>・開かれた組織であるためには。</li> <li>・法人格をどう考えるか。</li> <li>・非営利会計について</li> </ul>
履修の留意点：	<p>1) 非営利活動、国際協力、ボランティア活動に興味のある諸君を歓迎します。</p> <p>2) 将来、非営利団体で仕事をしたい諸君もぜひ受講してください。</p>
目標と評価：	<p>1) 自分のNGO観、NPO観を築くことを目標とします。</p> <p>2) 授業レポート、フィールドレポート、最終レポートで評価します。</p>
教科書：	<p> </p> <p> </p> <p> </p> <p> </p>

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「環境経済論」（担当者：内藤 勝）の履修の手引き

科目名：	環境経済論
担当者：	内藤 勝
対象学生：	経営経済学部3年
設置学期：	春
概要：	(1) 科目の概要 農業の原理は、リサイクルである。ところが、工業はその機能が無い。例えば、石油からナイロンを作る過程を考えたらよい。まず、石油という資源を失う。製造過程で、大量の排ガス(高エントロピー)を環境に捨てる。これが公害の原因である。厳密に言えば、原油から石油に精製する過程からも高エントロピーは排出される。更に、ナイロン等の工業製品が捨てられ焼却される過程からも高エントロピーは生まれる。これ等が、環境の汚染、つまり公害の発生源だと言ってよい。経済学は、市場メカニズムにのったものしか評価できない。しかし、今後の社会では、排ガス等の高エントロピーをCO2税、環境税等によって課税し環境経済活動をエントロピー（エネルギーの汚す。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。
授業方法：	(2) 授業の方法 ビデオ等を利用して、講義をする。
履修の留意点：	なし
目標と評価：	(3) 授業の体系 自然・経済・生活の中から環境問題を考える。自然の視点より現代社会を観る。経済活動をエントロピー（エネルギーの汚れ）から分析する。 4) 評価の方法 最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。レポートによる。
教科書：	自然トエントロピーの経済学 内藤勝 高文堂 1998

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「児童福祉論」（担当者：出川 聖尚子）の履修の手引き

科目名：	児童福祉論
担当者：	出川 聖尚子
対象学生：	経営経済学部3年
設置学期：	春
概要：	ひとりひとりの個性が違うように、ひとりひとりが生まれ育った環境は異なっています。健康な人もいます。体の不自由な人もいます。両親がいる人もいます。母親だけがいる人もいます。みんなさまざまな状況で暮らしています。同じ社会に生きているだれもがどんな環境の中でも幸福な状況で生活できるように保障されることは必要です。そういった生活上の困難や障害などの問題を解決、緩和、予防することを目的とした社会のなかでの制度、政策、実践的なとりくみが社会福祉といわれるものであり、0—18歳までの子どもを対象とした子ども、子育て家庭に対しての生活上のとりくみが児童福祉です。 この授業では皆さんの知らない暮らしをしている子どもたちや子育て家庭に出会います。この出会いの中でみなさんに多くのことを感じ、考えてほしいと思っています。
授業方法：	講義14回
履修の留意点：	提出物はきちんと提出すること
目標と評価：	<p>目標・児童福祉の意義を理解し、生活に密着した理解を得ること</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 児童福祉に関心を持ち、その理解につとめる積極性をもちうること</li> </ul> <p>評価・ 出席&lt;30%&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 授業中・後のレビューシートなど提出物&lt;20%&gt;</li> <li>・ 中間レポート&lt;30%&gt;</li> <li>・ 学期末テスト&lt;20%&gt;</li> </ul>
教科書：	子ども家庭福祉とソーシャルワーク 高橋重宏その他 有斐閣 2002年

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「家計と金融」（担当者：湯元 健治）の履修の手引き

科目名：	家計と金融
担当者：	湯元 健治
対象学生：	経営経済学部3年
設置学期：	春
概要：	<p>金融の基本について、理論と現実の制度の双方について理解を深めることを目的とする。以下は、講義の概略的なイメージですが、受講者の方で是非とも学びたい項目があれば、第1回目の講義でうかがいたいと思います。</p> <p>単に、知識を学ぶだけでなく、物事の本質について皆さんといっしょに考えてみたいと思います。マスコミやいわゆる識者の考え方を鵜呑みにせず、自分独自の考え方、判断ができるようになっていただければと思います。</p> <p>① 金融とは何かーマクロ経済と金融の相互関係                  ② 金融資本市場とは何かー短期金融市場、債権市場、株式市場など                  ③ 金利・為替・株価はどのように決まるか                  ④ 中央銀行の役割と金融政策ーインフレ・ターゲティング政策とは何か                  ⑤ 公的金融（郵便貯金、政府系金融機関）の役割と問題点                  ⑥ 金融システムとペイオフ、不良債権問題                  ⑦ わが国のマネーフロー構造ー家計の金融資産保有構造を中心に                  ⑧ 資産運用とリスク・テイクー金融商品の種類とリスク                  ⑨ 金融税制について学ぶ                  ⑩ 金融の新しい潮流</p>
授業方法：	<p>講義10回、討論4回                  講義は、適宜、ディスカッションを交えた形で実施。                  討論は、希望する受講生をレポーターに指名して実施します。</p>
履修の留意点：	特になし
目標と評価：	特になし
教科書：	<p>「スローライフのマネー学」 三井住友銀行 コンサルティング事業部 小学館スクウェア 2003年2月</p> <p>図解 金融を読む辞典 日本総合研究所 調査部 東洋経済新報社 2003年5月頃 改訂版出版予定</p>

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「社会保障論」（担当者：南雲 智映）の履修の手引き

科目名：	社会保障論
担当者：	南雲 智映
対象学生：	経営経済学部3年
設置学期：	春
概要：	初めの数回の講義では社会保障の意義、役割、基本的な考え方を学ぶ。そのあと、わが国の社会保障制度（医療保険、生活保護、社会福祉制度、介護保険、年金、雇用保険、社会福祉事業、社会保険など）の概要を整理し、高齢化と財政の問題などこれから国民が直面する問題点を解説する。またわが国の社会保障制度の変遷をその時代背景とともに解説する。
授業方法：	講義形式を基本とする。
履修の留意点：	この講義は、受講者が初めて社会保障を体系的に学ぶ人であることを想定しているため、社会福祉士などの資格試験を考えている人にとっては、この講義の内容だけでは少し不足だと思う。そのような人たちには別途、相談に乗る。
目標と評価：	わが国の社会保障制度を体系的に理解するとともに、その背後にある考え方も理解することが目標である。 評価は期末試験（持込不可）による。レポート等はなし。
教科書：	平成15年版 社会保障入門 社会保障入門編集委員会 中央法規出版 2003年3月 社会福祉士養成講座 新版 5 社会保障論 福祉士養成講座編集委員会 中央法規出版 2003年1月 改訂版 福祉の総合政策 駒村康平 創成社 2002年4月 はじめての社会保障 福祉を学ぶ人へ 椋野美智子・田中耕太郎 有斐閣アルマ 2001年5月

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「現代消費論」（担当者：三村 光代）の履修の手引き

科目名：	現代消費論
担当者：	三村 光代
対象学生：	経営経済学部3年
設置学期：	春
概要：	<p>私たちは、毎日の生活の中で、生活に必要なさまざまなモノやサービスを購入しています。昔と違って現代の生活では、殆どの方が事業者の製造した商品や事業者の提供するサービスを購入しなければ生活が成り立たない状況に置かれています。しかも消費者は自立する消費者と言われて久しくなりますが、消費者が自立するためには、消費者と事業者との情報の格差をなくすことが必須です。しかも規制緩和の流れの中で、消費者の自己責任も今まで以上に要求されるようになってきました。消費者が自由に生活したり、活動していくためには、消費者被害を回避する必要があります。なぜ消費者問題が発生するのか。消費者問題の発生を防止するのは、社会の責任であると同時に消費者の責任でもあります。消費者問題の発生と予防方法のメカニズムについて共に考えていきます。</p> <p>授業の内容は、消費者問題の基礎、消費者運動の歴史、消費者行政の歴史と現状、企業の消費者対応、消費者教育、消費生活情報、環境問題などに亘り、その中で消費生活を円滑に運ぶための消費者関連法についても学んで頂きます。</p> <p>更に社会の中で、今、何が起きているかまで広げて一緒に考える時間になりたいと思っています。学生には、この授業で得た知識をもとに、自立し、考える消費者に成長してもらいたいと願っています。</p>
授業方法：	<p>毎回、講義とその内容について学生と共に考えるために、意見交換の討論をしてもらいます。授業内容によっては、300字くらいのレポートを提出する方法をとります。特に問題すべきことが起こった場合は、課題レポートをていしゅつしていただきます。</p>
履修の留意点：	<p>社会の動きを知ることが、社会問題としての消費者問題を意識することにつながります。そのためには毎日の新聞をじっくり読んでおくことが望ましいといえます。問題によっては消費生活センターに足りよって見ることもなにかの役にたつでしょう。</p>
目標と評価：	<p>この事業を受講した学生は、消費者問題に付いて考えるようになり、正しい消費生活を行い悪質商法から自分を守ることが出来る消費者に、また、一人の生活者として自己責任をとる消費者になることとあわせ、消費者問題を自分の問題として考えられる消費者に育つことと願っています。</p> <p>評価方法は、期末試験にレポート、及び出席律と発言律及び内容も加味する方法で行う。</p>
教科書：	<p>新版 消費生活論 社団法人 日本衣料管理協会刊行委員会（鈴木 深雪（日本女子大）他）社団法人 日本衣料管理協会 平成13年4月1日 初版発行</p> <p>ハンドブック消費者2002 内閣府国民生活局 財務省印刷局 平成14年6月20日 発行（平成15年版 2003があればその方がよい）</p>

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「環境と開発」（担当者：新里 達也）の履修の手引き

科目名：	環境と開発
担当者：	新里 達也
対象学生：	経営経済学部3年
設置学期：	秋
概要：	<p>環境アセスメント（環境影響評価）は、開発に伴う自然環境に及ぶ影響について、現況の調査を実施し、その結果に基づいて影響予測を行い、代替案や保全措置の検討等の必要な対策を講じる、開発計画と環境保全について、社会における合意形成ツールです。</p> <p>環境に及ぼす影響は2つに大別されます。まず、大気や騒音・振動、水質汚濁などの人間の生活に関わる影響で、これらを影響評価の生活環境項目と呼んでいます。もうひとつは、動植物や生態系、自然景観などで、こちらは自然環境項目と呼ばれています。いずれの評価項目も、生物多様性保および全未来世代にわたる私たち人間の生活を保障するうえで、きわめて重要なパラメータと言えます。</p> <p>わが国の環境影響評価制度は、「環境影響評価の実施について」の1984年閣議決定が運用されてきましたが、その後1993年の環境基本法制定のなかで、はじめて「環境影響評価法」として法制化が行なわれました。なお、この法制化は先進国ではきわめて遅い異例のものです。環境アセスメントの手続き概要を右図に示します。</p> <p>現在の環境影響評価法では、事業者が環境アセスメント実施判定を行う、環境や事業特性に応じた評価項目・手法の設定を導入する、生態系などの評価項目が設定されるなど、多くの点で手続き内容が改善されています。</p> <p>この授業では、基礎知識として、環境アセスメントの仕組みや課題を理解してもらったうえで、応用編として、実際に行なわれている環境アセスメントの事例を紹介していきます。また、現状にある問題点を取り上げて、研究テーマとして皆さんと一緒に考えてみたいと思います。</p>
授業方法：	<p>講義（12回）および研究発表（2回）。</p> <p>通常の講義は、テキスト学習のほかに、パワーポイント映像による具体的事例を適宜行なう。研究発表は、講義の前半・後半の最後に、講義復習と調査研究を目的として行なう。この発表は、講師がテーマを与えて、学生の任意グループが20分間の発表および討論を行なう。1時間あたりの研究発表は3題で、最終的には6テーマを消化する。</p>
履修の留意点：	<p>基本的にはとくに準備は要しない。</p> <p>講義では、環境アセスメントを中心に、行政サイトの新着情報などともに、時事トピックを紹介していくので、受講者はインターネット検索が可能な方が望ましい。</p>
目標と評価：	<p>本講義の受講修了者は次のような知識を見つけることができます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 日本および世界の環境アセスメントに関する幅広い知識を持つ。</li> <li>● 環境アセスメントの応用による社会合意形成の手法が身につく。</li> <li>● 日本の自然環境の現状と課題に関する知識を持つ。</li> <li>● 環境に関する時事問題に常に知的欲求を覚える習慣が身につく。</li> </ul> <p>評価点は以下の項目ごとに加算方式で算出します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 出席回数および議論に対する積極性（20%）</li> <li>● 研究発表のレポーターおよびレビューアとしての貢献（20%）</li> <li>● 中間レポート（20%）</li> <li>● 学期末レポート（40%）</li> </ul>
教科書：	<p>わかりやすい環境アセスメント 寺田達志 学校法人 東京環境工科学園出版部 1999年9月1日 初版</p> <p>野生生物保全技術 佐藤正孝・新里達也（編著） 海游舎 2003年3月31日 初版</p> <p>*教科書2は使用しない場合もある。そのときはプリント配布で対応。</p>

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「食糧経済論」（担当者：大木 麗子）の履修の手引き

科目名：	食糧経済論
担当者：	大木 麗子
対象学生：	経営経済学部3年
設置学期：	秋
概要：	<p>私たちは毎日食料を摂取することによって生きています。マクドナルドのハンバーガーやコンビニのおにぎりなどのお世話になっている人も少なくないと思います。いつでも、どこでも、何でも食べられる「豊かな食生活」の社会が現代の日本と言えそうです。しかし、たとえば1ヶ59円のハンバーガーについて「どうしてこんなに安いのか」とか「この食べ物本当に安全なのかしら」などと思うことはないでしょうか。実際、0157による食中毒事件やBSE（牛海綿状脳症）の発生あるいは遺伝子組み換え食品の問題などで、消費者は食の安全性に強い関心を示しています。</p> <p>他方、輸入農産物の増大はわが国の食糧自給率の低下をもたらし、農業生産の後退に大きな影響を与えています。農業の担い手の減少や農村地域の荒廃は、消費者の食卓ばかりではなく緑や治水など環境問題にも影響します。</p> <p>この授業では、以上のような「食と農」をめぐる状況を経済学的に把握するため、農産物・畜産物等について、流通と市場および価格における諸問題を中心に学びます。また、食料問題への政府のかかわり方、すなわち食料政策について理解を深めるとともにWTO下のわが国農業の置かれた状況と課題について考察し、安全・安心な食料を安定的に供給できるわが国農業のあり方を考えます。</p>
授業方法：	講義を中心としますが、テキストのほかにはたいいてい資料をプリントで用意します。また、必要に応じてビデオで学習します。
履修の留意点：	食糧経済論に関連があると思われる科目、たとえば『現代消費論』などの履修もお勧めします。
目標と評価：	<ul style="list-style-type: none"> <li>・食料と農業の密接な結びつきについて理解を深める。</li> <li>・農業の産業としての特質を把握する。</li> <li>・食糧問題は国内的かつ国際的問題であることを理解する。</li> </ul> <p>・評価は、期末試験に授業中の態度を加味して行います。</p>
教科書：	<p>食料・農産物の流通と市場 滝澤昭義・甲斐論・細川允史・早川治編 筑波書房 2003年</p> <p> </p> <p> </p> <p> </p> <p> </p>

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。



「労働と余暇の経済学」（担当者：戎野 淑子）の履修の手引き

科目名：	労働と余暇の経済学
担当者：	戎野 淑子
対象学生：	経営経済学部3年
設置学期：	秋
概要：	従来まで安定的であった日本の雇用関係が、様々な諸条件の変化により近年崩れつつあり、大きな動揺が生じている。その変化の内容を、終身雇用慣行の崩壊や就業形態の多様化など、具体的な問題を取り上げながら考察する。そして、なぜ、このような雇用関係の変化がおきたのか。その原因を探り、また、今後どのようになっていくのか考える。
授業方法：	講義形式で行なうが、数回授業内にレポートを書いてもらう。
履修の留意点：	授業中に発言を求めることがよくあるので、積極的な参加が望まれる。
目標と評価：	原則として、試験によって行なうが、授業ないレポート、授業態度などの平常点も考慮する。
教科書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「土地・住宅経済学」（担当者：恵藤 晃朗）の履修の手引き

科目名：	土地・住宅経済学
担当者：	恵藤 晃朗
対象学生：	経営経済学部3年
設置学期：	秋
概要：	私の時間は教える（ティーチング）ではなく、その人の住宅経済に対する能力をひき出すよう指導（コーチング）するものである。私は学者ではない、住宅業界で身をもって体験した実務（人材開発）美学をお話し申し上げたいと思っております。 衣食住という基本的なもののうち、「住」これは人にとって生活の場であり、コミュニケーションの場でもある。 講義は秋学期である日本の住宅メーカーがどのような人間を育て求めているか土地・住宅問題を主として、住宅メーカーの動き、土地の有効利用、規制緩和、住宅税制の現状と課題を考えていく、その為に住宅の歴史、材料というものを考えていかなければならないので生活という視点から土地・住宅経済学をスタートさせていく。
授業方法：	講義中心の授業であるが授業中テーマを与え討論してもらう場合もある、これは人の意見を耳をかたむける訓練（ヒアリング）でもある。 はじめに ①、② 特に土地というものの考え方と木（材料）は住宅の基礎となるので学習する。 ③、④ 住宅の歴史にふれ、戸建の在来工法住宅、プレハブ住宅、2×4工法住宅を学習する。 ⑤ 賃貸住宅、土地活用（日本の土地利用規制による生活空間の質確保） ⑥、⑦ 住宅金融と税制の返還 ⑧ 住宅物件の今後の方向性 プライバシーの質的变化、商品開発、住宅メーカーの価格方策他 ⑨ インターネットの可能性、生産中心から消費者中心に移行していく問題点、住宅業界、建材業界のネット事業の実態 ⑩ 宅建材のリサイクル市場について資源循環型社会の実現化 ⑪ 住宅の資産価格について ⑫ 住宅建築の将来 高齢社会が進むにつれてバリアフリー住宅を考えねばならない、住む人の心のバリアフリーも大切である。 ⑬ 今後の住宅業界の課題について ⑭ 総まとめ、将来住宅業界に進む学生へアドバイス、常に自分の考え方が主張出来るようにし、自分の魅力が十分発揮出来ると共に住宅業界で生きていく人物を育てる。（住宅メーカーの求めている人物とは・・・）。
履修の留意点：	土地・住宅経済学とむずかしく考える必要はない。 自分達がいかに快適に生活していくかが問題なのだから。 先づは人の話を聞く（リスニング）事からはじめるとよい。 数字、データ等はデータ集を見ればわかる、だが土地・住宅にたずさわる方々の心は、人と話し聞き、自分で感ずるしかない。
目標と評価：	この授業を受講した学生しょくんは、人の話を聞く姿勢を学び、住宅業界用語を理解し、自己主張が出来、相手に感動を与える表現が自然に身につく事を望みます。 評価については ・ 出席および議論における積極性（30%） ・ 中間レポート ① 我国の住宅税制について ② 住宅建設の動向について 上記の①②のいずれかを選び12月中旬までに提出すること（30%） ・ 学期末レポート試験 ① 本格的な長寿社会の到来 ② 木のいのち木のころ 上記より①②のいずれかを選びレポートを書く（40%）
教科書：	住宅経済データ集（※かならず必要という事ではなく参考書として持っておくのが良い） 監修 国土交通省住宅局住宅対策課 発行 ㈱住宅産業新聞社 平成13年度版でも平成14年度版でもよい

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「高齢化社会論」（担当者：南雲 智映）の履修の手引き

科目名：	高齢化社会論
担当者：	南雲 智映
対象学生：	経営経済学部3年
設置学期：	秋
概要：	わが国の急速な高齢化は社会に大きな変化をもたらしている。この講義では、まずわが国の高齢化がなぜ、どのように、どれくらい進行しているのかを解説する。その後、高齢化に伴う家族、生計、年金、就業、医療、介護等の諸問題を考察する。
授業方法：	講義形式が基本。場合によっては履修者に報告をしてもらう。
履修の留意点：	最初の数回の授業で評価方法を決めるので、履修者は出席することを勧める。春学期の「社会保障論」を履修することによって、この講義の理解が深まると思われる。
目標と評価：	高齢社会とはどのようなものなのか理解すると同時に、履修者各人が高齢社会にどのように関わるかということについて、自らの考えを持つようになることを目標とする。成績は期末試験（持込不可）の結果もしくは履修者の報告内容をもとにつける。履修者と相談しながら決めたい。
教科書：	図説高齢者白書 2002年度版 三浦 文夫 全国社会福祉協議会 2002年12月 高齢社会白書 平成15年版 内閣府 財務省印刷局 2003年6月（予定） 生涯現役社会の条件 働く自由と引退の自由と 清家篤 中公新書 1998年3月

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「現代社会と福祉Ⅰ」（担当者：山崎 常雄）の履修の手引き

科目名：	現代社会と福祉Ⅰ
担当者：	山崎 常雄
対象学生：	短期大学部1年
設置学期：	春
概要：	豊かな社会の繁栄の中であって、児童を取り巻く環境は必ずしも良好とは言えない。少子化傾向が進む中、不登校児童・生徒は年々増加し、いじめによる自殺者も後を絶たない。非行も残虐化し、マスコミによって社会問題として大きく報道され、その原因を究明するが根拠は至って希薄である。一方政府は、子育てを支援する施策を「エンゼルプラン」として事業の目標を示しているが、女性就労の増大と核家族化による児童の環境整備も緊急の課題である。保育所待機数の解消や児童虐待も深刻である。児童福祉の視点から、児童福祉のサービス体系を「法と施策」について紹介し、健全な子育て及び支援のあり方について学習する。
授業方法：	講義形式による。内容は理論と共に実践例を取り上げ、問題を日常的に考え、児童理解を深めることを目指す。
履修の留意点：	現在の児童問題がどういう点にあり、現状はどうなっているのかという問題意識をもって授業に臨むこと。それには新聞・テレビなど日常的で身近な報道に関心を持ち、講義で学んでいることと実情はどう異なるかという意識を持つことが必要である。
目標と評価：	<p>目標 「少子・高齢社会」といわれて久しいが、子どもの数が減少してゆく中で、様々な問題が起こっている。何故子どもの数が少なくなってゆくのか、それによってどういう問題が起こるのか、国の施策はどうなっているのか等を把握できるように学ぶ。</p> <p>評価方法 基本的には筆記試験による。受講学生が少人数の場合は、レポートによる評価方法も考慮したい。</p>
教科書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「現代社会と福祉Ⅱ」（担当者：山崎 常雄）の履修の手引き

科目名：	現代社会と福祉Ⅱ
担当者：	山崎 常雄
対象学生：	短期大学部1年
設置学期：	秋
概要：	わが国の高齢者問題は、世界一の長寿国であると同時に総人口に占める65歳以上の高齢者の割合が2015年には4人に1人になるという他に例をみない高齢化の速さにある。この人口構成は様々な分野において問題化し、労働人口不足を始め、年金、介護、医療、生きがい等避けて通ることのできない重要な課題である。誰もが高齢者問題を、健康で生きがいのある生活を送れることは幸せである。一方要介護者の問題も年を追うごとに様々な分野で増加し、その対応が追いつかないのが現状である。老後の問題は身近な家族だけのもの、或いは他人事という考えから、いずれ自分たちの問題であるとの認識をもって学習する。
授業方法：	講義形式による。内容は理論と共に新聞などによる実践例をとりあげ、高齢者をめぐる日常的報道を念頭に置き問題意識をもち理解を深める。
履修の留意点：	現在の高齢者問題がどういう点にあり、現状はどうなっているのかという問題意識をもって授業に臨むこと。 それには新聞・テレビなど日常的で身近な報道に関心を持ち、講義で学んでいることと実情はどう異なるかという意識を持つことが必要である。
目標と評価：	目標 「少子・高齢社会」といわれる中で、わが国は世界に類を見ないほどの速さで高齢化が進み、高齢化率も年々高くなっている。高齢社会になると、どういう問題があって、それに対し国の施策はどうなっているのかということ把握する。  評価方法 基本的には筆記試験による。受講学生が少ない場合は、レポートによる採点方法も考慮したい。
教科書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「ボランティア論」（担当者：内田 和夫）の履修の手引き

科目名：	ボランティア論
担当者：	内田 和夫
対象学生：	経営経済学部2年
設置学期：	秋
概要：	<p>ボランティアってなんだろう。それは、なんといっても、ひとりひとりの自由な意志でするものだ。――するかしらないか。なにをするか。どうしたこと、するか。どのくらいの時間かけるか。どのくらいの負担を引き受けるか。それは、のびやかにのびやかに、あなた自身で決めることで始まる世界だ。</p> <p>だから、この講義自体も受講者であるあなた自身の発見が生まれる小さな旅にしたい。実際のボランティア活動に取り組むゲストの登場、ドキュメンタリー・ビデオの上映、体験記録の輪読など、考え込むことのある本の読破など、あなた自身がボランティアの世界と出会い機会を提供します。そして、いろいろ感じ、いろいろ考えるところとなるでしょう。そして、あなた自身の思うところを表現に見ましよう。あなた自身のオリジナルなボランティアのイメージをつくって見てください。そして、なにかしたくなってしまった人には『ボランティア実習がまっています』</p>
授業方法：	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) ゲストがきたり、ビデオがあったり、体験記録を読んだり、講義というよりワークショップだと思ってください。</li> <li>2) 教室でのショートレポートがあったり、課題図書を読んだレポートがあったりと、自分が受け止め、考えたことを書いてみることも大切にします。</li> <li>3) 受講者と教員、受講者と受講者のやり取りの中で気づくこと、発見することを大事に進めます。</li> <li>4) だから、教室に出てきての作業を重視します。</li> </ol>
履修の留意点：	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 新しい出会いをして、自身を違う自分であって見たい人。お金ばかりの世の中はいやな人、つい人のためのを考えてしまう人、などなど、ぜひ受講してください。</li> <li>2) 短期大学の学生もぜひ受講してください。</li> <li>3) 「ボランティア実習」に参加希望の諸君は事前の受講が必要です。</li> <li>4) 教科書は使用しない予定ですが、課題図書を複数購入することになると思います。</li> </ol>
目標と評価：	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 自身のボランティア観をどれだけ広げたり深めたりできるか、人間世界はなかなかのものじゃ、よくもわるくも――というように思わず思えることが第1目標です。</li> <li>2) そして、出会ったこと、思ったことをしっかり文章として表現してみることが第2の目標です。</li> <li>3) 出席点3割、授業中のミニレポート2割、課題レポート5割で評価します。</li> </ol>
教科書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「財政学」（担当者：大澤 覚）の履修の手引き

科目名：	財政学
担当者：	大澤 覚
対象学生：	経営経済学部3年
設置学期：	春
概要：	<p>今日の経済は、日本をはじめとして、ほとんどの国が資本主義という経済システムをとっています。資本主義経済ですから、「民間の経済活動が中心になっている」と考えてよいわけですが、それぞれの国の政治・経済活動を細かく見ると、国や地方の政府の経済活動がしだいに比重を増してきて、こんにちでは4割から6割以上を占めるようになってきているのがわかります。したがって、資本主義経済とはいうものの、政府の役割や資金の使われ方（財政）をよく知らないで、じつはその国の経済そのものもよくわからないということになってしまいます。ちなみに、日本の国家財政の規模は約80兆円です。これは1億2600万人いる国民が1人当たり約63万円負担している金額です。</p> <p>同時に、政府は行政機関ですから、民間と異なり、その資金は、民間の営利活動と比べて非常に政治的意味をもって使われます。したがって、「財政学」とは、80兆円もの大きな金額が、どのような過程を経て、どういう意味をもって使われているのかということ把握することによって政治のあり方を知ることのできる「生きた、役に立つ学問」といえます。</p>
授業方法：	「財政とは、どうあるべきものか、どうみるべきものか」ということを主眼に講義をします。講義の順序は、大筋では、「経費－租税－公債－予算－財政と金融－国と地方の財政関係」という順ですが、このほかに、そのときどきのニュースや報道で財政にかかわることがあればとりあげます。
履修の留意点：	自分の考え（イデオロギー）をもてるように努力してください。そのためには、大学で勉強する意味やそのありがたさを考え、見通しをもって20年先（たとえば親の年齢になったとき）を考えて勉強してください。
目標と評価：	<p>この授業を受講した学生は、国の政治・経済が読めるようになります。そのためには、新聞（できれば複数）にかならず目を通し、ニュース・報道に注意するようにして、いろいろな問題を「財政問題として考える」ようにしてみてください。</p> <p>* 評価は、学期末試験、出席によります。講義にかかわって、大きな出来事があれば感想・意見を求め、評価に加えることがあります。</p>
教科書：	プリントを使用します。頒布方法は未定。

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「日本企業と雇用システム」（担当者：戎野 淑子）の履修の手引き

科目名：	日本企業と雇用システム
担当者：	戎野 淑子
対象学生：	経営経済学部3年
設置学期：	春
概要：	「働く」ということを通じて、人間は生活し、さらに社会を形成し発展させてきた。つまり、労働は、人間にとって基本的で非常に大切な営みである。そこで、この講義では、日本社会における労働、特に「雇用」に関する具体的な仕組み（採用・賃金・労働時間・昇進・退職など）や制度（労働基準法・ILO）について理論と政策の両面から学ぶ。
授業方法：	講義形式で行ない、数回授業内にレポートを書いてもらう。
履修の留意点：	授業内に発言を求められることがよくあるので、積極的な参加が望まれる。
目標と評価：	原則として、試験によって評価するが、授業内レポート、授業態度などの平常点も考慮する。
教科書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。



「人口論」（担当者：渡辺 真知子）の履修の手引き

科目名：	人口論
担当者：	渡辺 真知子
対象学生：	経営経済学部3年
設置学期：	春
概要：	<p>人が生まれてから死ぬまでの一生の間にかかる出来事は極めて個人的なことです。でも、社会を構成する全ての個人的な出来事が結びつくとき、そこにはその時代を反映した現実社会の「人口現象」が見えてきます。例えば、結婚するとか、子供を産むとかといったことは、その人が決めることです。でも、本人が意識していなくても「皆が大学に進学する」とか「女性も仕事をするのが当然」といったその時代の考え方に強く影響を受けているのも事実です。その結果として日本の場合、晩婚化、非婚化が進み、少子化が進んでいるのです。人口現象と経済社会との関係は一方的なものではありません。経済社会環境が出生、死亡、移動などの人口現象に影響を与えるだけでなく、人口現象そのものも経済社会活動に対する規定要因となります。</p> <p>この授業では「人口現象」をどう捉えるのか、それがその時代の経済社会にどのように影響を受けているのか、経済社会活動に対するどのような条件となっているのかを学んでいきます。題材として取り上げるのは日本の人口ですが、テーマによっては世界の人口についても扱います。少子化、高齢社会といった日本社会の問題だけでなく、発展途上地域の経済開発や貧困と人口爆発の問題なども取り上げます。</p>
授業方法：	授業は原則として講義の形をとりますが、テーマによっては受講者に課題を与え、各人が調べたことを発表してもらい場合もあります。
履修の留意点：	履修の条件はありませんが、課題を出しますので、積極的に取り組む学生、知的好奇心が旺盛な学生の履修を望みます。
目標と評価：	この授業を履修した学生は、①人口現象を統計的に把握する方法とデータの読み方について基本的技術を身に付けること、②人口現象が社会経済的にどのような意味を持ちうるのかを考えるフレームを身に付けることが期待されています。評価点は、学期末の試験結果（6割）、課題の提出状況と質問や発言などを含む授業での態度（4割）などを加味して算出します。
教科書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「地方財政学」（担当者：大澤 覚）の履修の手引き

科目名：	地方財政学
担当者：	大澤 覚
対象学生：	経営経済学部3年
設置学期：	秋
概要：	現在、日本には3000をこえる自治体があります。このなかには、東京都のように人口1000万人、予算規模約6兆円の大規模な自治体から、人口200人、予算規模10億円程度の東京都青ヶ島村のような小規模自治体まであります。したがって、この全部を扱うことはできませんが、テキストをもとに基本知識を習得したうえで、いくつかの自治体の予算や決算をとりあげて財政分析を試みます。
授業方法：	「財政とは、どうあるべきものか、どうみるべきものか」ということを主眼に講義をします。講義の順序は、大筋では、テキストの第I編第9章のあと第2章・第4～8章、第II編第1章、6章、4章の順ですが、このほかに、そのときどきのニュースや報道で地方財政にかかわることがあればとりあげます。
履修の留意点：	自分の考え（イデオロギー）をもてるように努力してください。そのためには、大学で勉強する意味やそのありがたさを考え、見通しをもって20年先（たとえば親の年齢になったとき）を考えて勉強してください。 * 履修者は、自分の出身地の「決算状況についてのまとめたもの」を11月くらいまでに入手しておいてください。これは、大きな自治体なら図書館に納められていますし、なければ、役所の「財政課」とか「企画調整課」といった財政関係の部署へいけばあります。
目標と評価：	目標と評価：この授業を受講した学生は、地方財政が読めるようになりますし、自分の出身地のことがより深く理解できるようになります。新聞（できれば複数）にかならず目を通し、ニュース・報道に注意するようにすること、出身地のいろいろな問題を「財政問題として考える」ようにしてみてください。 * 評価は、学期末試験、出席によります。講義にかかわって、大きな出来事があれば感想・意見を求め、評価に加えることがあります。
教科書：	現代の地方財政[新版] 和田八束・野呂邦明・星野泉・青木宗明編 有斐閣ブックス 2002年12月27日新版第6刷発行

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「証券論」（担当者：福光 寛）の履修の手引き

科目名：	証券論
担当者：	福光 寛
対象学生：	経営経済学部3年
設置学期：	秋
概要：	1) 市場の形態 2) 原取引としての証券 3) 金融システム 4) 企業形態 5) 企業財務 6) 株式 7) 株式価格 8) エクイティファイナンス 9) 債券 10) 利子 11) 外国為替 12) 派生商品取引
授業方法：	●本来は通年で講義する内容を、ポイントだけにして半年で話します。いわゆる講義です。 ●大事なポイントを話して、できれば視覚教材も使いたいと思います。 ●お話のスピードは、皆さんとお話し合いながら調整します。
履修の留意点：	証券に関する用語はむつかしく感じると思いますが、これは、慣れれば大丈夫です。その意味でもきちんと出席して、よく話を聞いてください。
目標と評価：	証券市場、証券会社が果たしている役割について理解する。証券取引に関わる用語を理解して文章を作成できるようにする。以上が目標です。一般的な経済知識も念のために説明して行きます。したがって経済常識がある程度、身につくことも期待しています。期末試験を考えています。証券の専門用語を正しく使って作文できいるかどうかを見たいと思っています。
教科書：	証券分析論 福光 寛 中央経済社 1997年

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「簿記論Ⅱ」（担当者：松田 真由美）の履修の手引き

科目名：	簿記論Ⅱ
担当者：	松田 真由美
対象学生：	経営経済学部1年
設置学期：	秋
概要：	株式会社を対象とした日商簿記検定2級程度の簿記について学びます。 中でも商業簿記に焦点を当て、3級の基礎的問題を復習しながら、2級レベルの実践的問題に取り組み、その解説を行います。
授業方法：	講義及び関連問題への取り組みや、その問題の解説を行います。
履修の留意点：	簿記検定3級の知識を取得していることが望ましい。
目標と評価：	この授業を取得することによって、以下のことを理解することを望みます。 ●日商簿記検定2級程度の商業簿記の知識をつけること。  評価は以下の方法によって行います。 ●学期末試験
教科書：	教科書・2級商業簿記 四訂版 畠村剛雄監修 近田典行著 2002年6月1日

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「原価計算論Ⅰ」（担当者：釜谷 彰一）の履修の手引き

科目名：	原価計算論Ⅰ
担当者：	釜谷 彰一
対象学生：	経営経済学部2年
設置学期：	春
概要：	複式簿記の基本原則である取引の範囲・取引の八要素（費用・収益・資産・負債・資本）、の認識及び会計処理（仕訳）を学び、製造業会計にける工業簿記・原価計算を中心に問題集等を使用して、簿記の基本的な技術を習得する。日商簿記検定2級工業簿記・原価計算の範囲を学習する。
授業方法：	テキストを中心に授業を行う。 授業体系は、費目別原価計算、部門別原価計算、個別原価計算、製造原価報告書の作成、を中心に授業を行う。
履修の留意点：	原価計算論Ⅱ、高等簿記論の科目とともに履修しなければならない。
目標と評価：	評価方法 出席状況・定期試験等による。
教科書：	例解演習 工業簿記 前川邦生 テイハン
	日商簿記検定2級出題傾向と対策 税務経理協会

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「原価計算論Ⅱ」（担当者：釜谷 彰一）の履修の手引き

科目名：	原価計算論Ⅱ
担当者：	釜谷 彰一
対象学生：	経営経済学部2年
設置学期：	春
概要：	複式簿記の基本原理解である取引の範囲・取引の八要素（費用・収益・資産・負債・資本）、の認識及び会計処理（仕訳）を学び、製造業会計にける工業簿記・原価計算を中心に問題集等を使用して、簿記の基本的な技術を習得する。日商簿記検定2級工業簿記・原価計算の範囲を学習する。
授業方法：	テキストを中心に授業を行う。 授業体系は、総合原価計算（単純、工程別、等級別、連産品）標準原価計算（差異分析）、直接原価計算、CVP分析、本社工場会計等を中心に授業を行う。
履修の留意点：	原価計算論Ⅰ・高等簿記論の科目とともに履修しなければならない。
目標と評価：	出席状況・定期試験等による。
教科書：	例解演習 工業簿記 前川邦生 テイハン
	日商簿記検定2級出題傾向と対策 税務経理協会

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「財務諸表論」（担当者：井上 行忠）の履修の手引き

科目名：	財務諸表論
担当者：	井上 行忠
対象学生：	経営経済学部2年
設置学期：	秋
概要：	会計理論は簿記によって具体化し、簿記は会計理論の助けを得て機能する。会計は、企業の経営活動を貨幣単位で計算し、報告することに妥当性を与えるための基準を提供する会計（理論）と、その基準に従って経営活動を性格に記録し、報告するための技術である会計（簿記）に分けることが出来る。したがって、会計は簿記と理論を共に理解することにより、会計の全体を理解したことになる。ここに本講義は、会計学（理論）に制約を与える会計法令（商法・証券取引法・企業会計原則・法人税等）を中心に会計学の基本的事項を学習する。
授業方法：	授業体型は、前半は、企業会計の意義・目的（会計公準論・会計主体論・商法会計・証券取引法会計等）を中心に学習する。後半は、一般原則（真实性の原則、正規の簿記の原則、資本取引・損益取引区別の原則、明瞭制の原則、継続性の原則、保守主義の原則、単一性の原則等）を中心に学習する。
履修の留意点：	特になし
目標と評価：	定期試験等
教科書：	ゼミナール財務諸表論 菊谷正人著 中央経済社

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「財務会計論Ⅰ」（担当者：山本 孝夫）の履修の手引き

科目名：	財務会計論Ⅰ
担当者：	山本 孝夫
対象学生：	経営経済学部3年
設置学期：	春
概要：	財務会計は、株主、債権者、取引先、税務当局、従業員、消費者など企業外部の利害関係者（ステイクホルダーまたは情報利用者）に対して、当該企業の経済活動による財務情報を提供することを目的としている。 本講義では、現行財務会計のフレームワークを学習するため、「商法」、「法人税法」および「証券取引法」から成る企業会計基準について解説する。また、社会環境のめまぐるしい変化から生じている財務会計の新しい問題についても検討を加える予定である。
授業方法：	授業は、講義形式で行うが、各企業で公表している決算書類を用いて分析・検討を加える方法も取り入れたいと考えている。
履修の留意点：	財務会計は、社会的な規範に裏付けられた会計であるので、簿記の知識をもっている者の履修が望ましい。講義内容は、以下のとおりである。 1. 財務会計の基礎的前提とフレームワーク 2. ストック情報と会計基準 3. フロー情報と会計基準 4. 株式会社の資本概念と会計処理 5. 原価会計と時価会計
目標と評価：	成績評価は、課題レポートの提出および小テストの総合評価による。
教科書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。



「財務会計論Ⅱ」（担当者：山本 孝夫）の履修の手引き

科目名：	財務会計論Ⅱ
担当者：	山本 孝夫
対象学生：	経営経済学部3年
設置学期：	秋
概要：	財務会計は、株主、債権者、取引先、税務当局、従業員、消費者など企業外部の利害関係者（ステイクホルダーまたは情報利用者）に対して、当該企業の経済活動による財務情報を提供することを目的としている。 本講義では、現行財務会計のフレームワークを学習するため、「商法」、「法人税法」および「証券取引法」から成る企業会計基準について解説する。また、社会環境のめまぐるしい変化から生じている財務会計の新しい問題についても検討を加える予定である。
授業方法：	授業は、講義形式で行うが、各企業で公表している決算書類を用いて分析・検討を加える方法も取り入れたいと考えている。
履修の留意点：	財務会計は、社会的な規範に裏付けられた会計であるので、簿記の知識をもっている者の履修が望ましい。講義内容は、以下のとおりである。 1. 在外支店の外貨換算会計 2. 在外子会社の外貨換算会計 3. キャッシュフロー計算書 4. 税効果会計 5. リース取引の会計 6. 金融商品の会計
目標と評価：	成績評価は、課題レポートの提出および小テストの総合評価による。
教科書：	

※最終評価は、評価点7割，出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「管理会計論Ⅰ」（担当者：中原 章吉）の履修の手引き

科目名：	管理会計論Ⅰ
担当者：	中原 章吉
対象学生：	経営経済学部3年
設置学期：	春
概要：	<p>企業等の会計は、企業等の言葉なのですが、その言葉の中で企業等の「内部」で使われる言葉と「外部」で使われる言葉があるのです。その二種類の言葉の中で企業等の「内部」で使われる言葉を「管理会計」というのです。</p> <p>企業の内部の言葉ですから「管理会計」は、あなたが知っていることは決して多くない会計の言葉であると思います。</p> <p>この授業では、基本的な管理会計の知識を出発点としながら、「管理会計」という会計の言葉と厳密に一般的に説明しようと思います。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 管理会計の基礎</li> <li>2. 管理会計の本質・原価概論等</li> <li>3. 業績管理会計</li> <li>4. 直接原価計算</li> <li>5. 標準原価計算</li> <li>6. 原価企画と原価管理</li> <li>7. ABC/ABM</li> <li>8. 分権管理</li> </ol>
授業方法：	講義に討論をまじえて行います。毎時間末に簡単なテストを行います。
履修の留意点：	「簿記」および「会計学」を履修を必ずしも前提としませんが、簿記や会計学を「履修の手引き」に記載されている簿記・会計学を呼んでおくことが望ましいです。
目標と評価：	<ul style="list-style-type: none"> <li>●講義時間末に行う簡易テストにできる限り答えること。</li> <li>●学期末レポートを提出すること。</li> </ul>
教科書：	管理会計論 中原章吉 税務経理協会 2000年 _____ _____ _____ _____

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「管理会計論Ⅱ」（担当者：中原 章吉）の履修の手引き

科目名：	管理会計論Ⅱ
担当者：	中原 章吉
対象学生：	経営経済学部3年
設置学期：	秋
概要：	<p>企業内部の会計のことばとしての管理会計は、その基礎、マネジメント、コントロールのための業績管理会計に次いで段階に入る。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 意思決定会計の基礎</li> <li>2. 価格決定と価格戦略</li> <li>3. 設備投資の意思決定</li> <li>4. 広告費の管理</li> <li>5. 研究開発費の管理</li> <li>6. 品質原価計算</li> <li>7. 経営戦略管理会計</li> <li>8. 付加価値管理会計</li> <li>9. 環境管理会計</li> <li>10. 管理会計の展望</li> </ol>
授業方法：	講義に討論をまじえて行います。毎時間末に簡単なテストを行います。
履修の留意点：	管理会計論Ⅰを履修していることを前提とします。ただし、「履修の手引き」に記載されている管理会計論Ⅰを学習してあれば受講して理解できると思います。
目標と評価：	<ul style="list-style-type: none"> <li>●講義時間末に行う簡易テストにできる限り答えること。</li> <li>●学期末レポートを提出すること。</li> </ul>
教科書：	<p>管理会計論 中原章吉 税務経理協会 2000年</p> <p> </p> <p> </p> <p> </p> <p> </p>

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「税務会計論Ⅰ」（担当者：前川 邦生）の履修の手引き

科目名：	税務会計論Ⅰ
担当者：	前川 邦生
対象学生：	経営経済学部3年
設置学期：	春
概要：	財務会計(企業の一定期間の経営成績と財政状態の真実な報告内容を決算書で利害関係者に報告するための会計)で算定された「利益」を法人税法を中心とする税務会計(商法などの確定決算にもとずき、企業の課税所得を算定し、それに係わる税法により調整された「税額」を計算して申告・納付するための会計)の理解を深めることを目標とする。 課税の公平という面から適正な課税所得の算定システムを理解する。 会計学を理解する上で、歴史・理解・政策の3面からすると会計政策面からの解明となろう。 今後益々、実社会では重要な課題となるであろう。
授業方法：	講義方式を取り、ホームワーク問題の課題も与え、演習問題等と取り組み、企業が算出した利益を法人税法等により調整し、適正な課税所得の算出を理解させる。 さらに、将来職業会計人(税理士・公認会計士)を目指す学習者に役立つ様な展開を考えている。
履修の留意点：	まず財務会計を基礎として、法人税法を理解しつつ、適正な課税所得算出システムを理解するために、テキストを読むこと。 予習……………テキストを読むこと。 復習……………ホームワーク、課題をしっかりとこなすこと。 演習問題を例解演習で学ぶこと。 新聞・雑誌……………日経や専門雑誌を読んでおくこと。 税理士・公認会計士を目指す諸君へ……………過去問題を分析しながら学ぶことを整理しておくこと。
目標と評価：	確定決算主義を中心に、法人税等の「別税の定め」を中心に学ぶことにある。 「別税の定め」とは何かをよく理解することを目指す。 期末テストとホームワーク、演習問題の総合的判断により評価する。
教科書：	現代税務会計要論 代表、五味雄治 編著 税務経理協会 1999年7月 _____ _____ _____

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「税務会計論Ⅱ」（担当者：前川 邦生）の履修の手引き

科目名：	税務会計論Ⅱ
担当者：	前川 邦生
対象学生：	経営経済学部3年
設置学期：	秋
概要：	主な損金、損金算入、損金本算入項目を中心に理解させ、法人税額等の計算および法人税の申告、納付、還付および更正・決定等について理解度を深める。（応用編）
授業方法：	講義形式を導入し、ホームワーク、例解演習問題を導入しながら展開する。
履修の留意点：	<p>Iを基本に応用編となるので、しっかりと法人税法等を中心に学ぶ必要がある。</p> <p>予習 テキストをしっかりと読み込むこと</p> <p>復習 ホームワーク、例解演習をマスターし、応用問題の理解度を深めるよう努力すること</p> <p>税理士、公認会計士を目指す諸君へ 過去問題を分析し、学ぶ必要性を身に付け、しっかりと例解演習をマスターすること。</p>
目標と評価：	<p>法人税法を中心に「利益」の税務調整の意味を理解すること。</p> <p>法人税の算出、申告、納付、還付、更正、決定等のシステムと応用を理解すること。</p> <p>期末テスト、ホームワーク、例解演習等を参考に総合的評価を行う。</p>
教科書：	法人税法要説（新版） 菊谷正人著 同文館 2003.3

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「連結会計論Ⅰ」（担当者：松井 泰則）の履修の手引き

科目名：	連結会計論Ⅰ
担当者：	松井 泰則
対象学生：	経営経済学部3年
設置学期：	春
概要：	<p>連結会計といえば、以前は、一部の大企業における高度な会計領域として考えられていたものですが、現在では、基本財務諸表といえば連結財務諸表を意味しています。企業はさまざまな目的から、いろいろな会社の株式を保有していますが、そこでは、多くの企業集団が形成されることとなります。こうした企業グループの経済的な実態を正しく表示しようとしたのが連結財務諸表です（これに対して一つの企業の財務諸表を個別財務諸表といいます）。連結会計論で主に中心に学ぶのがこの連結財務諸表です。</p> <p>この授業では、最初からすぐ連結財務諸表を取り上げることはしません。まずは日本経済の心臓部である資本市場（特に株式市場）について、経営者や株主などさまざまな角度から理解を深めます。そして連結財務諸表を学習するにあたっては、その構造を理解することに重点をおきますので、高度で複雑な計算例は極力避けながら、わかりやすく説明していきたいと思っています。</p>
授業方法：	講義形式です。前期と後期にレポート提出を予定しています。
履修の留意点：	<p>簿記と会計学の復習をきっちりと済ませておくこと。          毎日の（例えば株式欄でもよいから）企業の動きに関心を持つこと。          教科書は、しっかりと読みこなしておくこと。特に巻末のビジネス必須用語は完全にマスターすること。</p>
目標と評価：	<p>この授業を受講した学生は、以下のことができるようになっているはずですが、そうなるように学習することを望みます。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 新聞にでてくるレベルの企業経済については正しく理解できる。</li> <li>2. 日本における現代の会計のしくみや状況、そして今のような動きにあるのが説明できること。</li> <li>3. 基本的な会計キーワードはしっかりマスターしていること。</li> </ol> <p>評価点は、以下の項目に加算方式で算出します。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 出席点は基本評価とします。</li> <li>2. 中間ならびに学期末レポートを重視します。</li> </ol>
教科書：	<p>企業会計原則の解説（四訂版） 松井泰則著 一橋出版 2002年11月15日</p> <p> </p> <p> </p> <p> </p>

※最終評価は、評価点7割，出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「連結会計論Ⅱ」（担当者：松井 泰則）の履修の手引き

科目名：	連結会計論Ⅱ
担当者：	松井 泰則
対象学生：	経営経済学部3年
設置学期：	秋
概要：	<p>連結会計といえば、以前は、一部の大企業における高度な会計領域として考えられていたものですが、現在では、基本財務諸表といえば連結財務諸表を意味しています。企業はさまざまな目的から、いろいろな会社の株式を保有していますが、そこでは、多くの企業集団が形成されることとなります。こうした企業グループの経済的な実態を正しく表示しようとしたのが連結財務諸表です（これに対して一つの企業の財務諸表を個別財務諸表といいます）。連結会計論で主に中心に学ぶのがこの連結財務諸表です。</p> <p>この授業では、最初からすぐ連結財務諸表を取り上げることはしません。まずは日本経済の心臓部である資本市場（特に株式市場）について、経営者や株主などさまざまな角度から理解を深めます。そして連結財務諸表を学習するにあたっては、その構造を理解することに重点をおきますので、高度で複雑な計算例は極力避けながら、わかりやすく説明していきたいと思っています。</p>
授業方法：	講義形式です。前期と後期にレポート提出を予定しています。
履修の留意点：	<p>簿記と会計学の復習をきっちりと済ませておくこと。          毎日の（例えば株式欄でもよいから）企業の動きに関心を持つこと。          教科書は、しっかりと読みこなしておくこと。特に巻末のビジネス必須用語は完全にマスターすること。</p>
目標と評価：	<p>この授業を受講した学生は、以下のことができるようになっているはずですが、また、そうなるように学習することを望みます。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 新聞にでてくるレベルの企業経済については正しく理解できる。</li> <li>2. 日本における現代の会計のしくみや状況、そして今のような動きにあるのが説明できること。</li> <li>3. 基本的な会計キーワードはしっかりマスターしていること。</li> </ol> <p>評価点は、以下の項目に加算方式で算出します。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 出席点は基本評価とします。</li> <li>2. 中間ならびに学期末レポートを重視します。</li> </ol>
教科書：	<p>企業会計原則の解説（四訂版） 松井泰則著 一橋出版 2002年11月15日</p> <p> </p> <p> </p> <p> </p>

※最終評価は、評価点7割，出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「国際会計論Ⅰ」（担当者：松井 泰則）の履修の手引き

科目名：	国際会計論Ⅰ
担当者：	松井 泰則
対象学生：	経営経済学部3年
設置学期：	春
概要：	<p>会計と聞いただけで、「もう、簿記だけで手一杯。私には苦手科目だ」という人も少なくないかもしれませんが、ましてや「国際会計論」などという「とてもむずかしくてつまらなそうだ」と思う人が多いかもしれません。でもよく考えてみてください。そもそも皆さんが勉強してきた簿記も、実は明治時代にアメリカからはいつてきたもので、皆さんが勉強してきた簿記は、すでにビジネスにおける国際言語なのです。現在、世界各国の会社が公表している財務諸表は、ほぼ同じルール（会計基準）にしたがって作成されています。ですから、簿記を学び、会計学をきちんと学んだ後で、会計学をこんどは外国から逆に見つめなおしてみようというのが、この科目の大きな学習目的の一つです。</p> <p>国際会計に登場する、例えば財務諸表情報は確かに大変難しい内容を含んでおり、高度な計算知識がそこでは要求されます。しかしこの授業では、難しい計算問題は取り扱いません。それぞれの会計の意味するところをわかりやすくするために、つまりあくまでその内容をわかりやすくするための手段として簡単な計算例を活用することになります。</p> <p>国際会計を学びながら、ある意味での国際感覚も身に付けていただければと思っています。</p>
授業方法：	講義形式です。前期と後期にレポート提出を予定しています。
履修の留意点：	<p>毎日の世界の経済に関心を持つこと。 教科書の「要点整理」の箇所は、しっかりと読みこなしておくこと。</p>
目標と評価：	<p>この授業を受講した学生は、以下のことができるようになっているはずですが、また、そうなるように学習することを望みます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新聞にでてくる（国際）経済、特に企業経済についてちゃんと理解できる。</li> <li>・世界の会計の状況が今、どのような動きにあるのかが説明できること。</li> <li>・基本的な会計キーワードは英語（単語）でマスターし、基本的な英文財務諸表は読めるようにすること。</li> </ul> <p>評価点は、以下の項目に加算方式で算出します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・出席点は基本評価とします。</li> <li>・中間ならびに学期末レポートを重視します。</li> </ul>
教科書：	『新会計基準解説 A to Z（四訂版）』 松井泰則著 一橋出版 2002年11月15日

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。



「国際会計論Ⅱ」（担当者：松井 泰則）の履修の手引き

科目名：	国際会計論Ⅱ
担当者：	松井 泰則
対象学生：	経営経済学部3年
設置学期：	秋
概要：	<p>会計と聞いただけで、「もう、簿記だけで手一杯。私には苦手科目だ」という人も少なくないかもしれませんが、ましてや「国際会計論」などという「とてもむずかしくてつまらなそうだ」と思う人が多いかもしれません。でもよく考えてみてください。そもそも皆さんが勉強してきた簿記も、実は明治時代にアメリカからはいつてきたもので、皆さんが勉強してきた簿記は、すでにビジネスにおける国際言語なのです。現在、世界各国の会社が公表している財務諸表は、ほぼ同じルール（会計基準）にしたがって作成されています。ですから、簿記を学び、会計学をきちんと学んだ後で、会計学をこんどは外国から逆に見つめなおしてみようというのが、この科目の大きな学習目的の一つです。</p> <p>国際会計に登場する、例えば財務諸表情報は確かに大変難しい内容を含んでおり、高度な計算知識がそこでは要求されます。しかしこの授業では、難しい計算問題は取り扱いません。それぞれの会計の意味するところをわかりやすくするために、つまりあくまでその内容をわかりやすくするための手段として簡単な計算例を活用することになります。</p> <p>国際会計を学びながら、ある意味での国際感覚も身に付けていただければと思っています。</p>
授業方法：	講義形式です。前期と後期にレポート提出を予定しています。
履修の留意点：	<p>毎日の世界の経済に関心を持つこと。 教科書の「要点整理」の箇所は、しっかりと読みこなしておくこと。</p>
目標と評価：	<p>この授業を受講した学生は、以下のことができるようになっているはずですが、また、そうなるように学習することを望みます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新聞にでてくる（国際）経済、特に企業経済についてちゃんと理解できる。</li> <li>・世界の会計の状況が今、どのような動きにあるのかが説明できること。</li> <li>・基本的な会計キーワードは英語（単語）でマスターし、基本的な英文財務諸表は読めるようにすること。</li> </ul> <p>評価点は、以下の項目に加算方式で算出します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・出席点は基本評価とします。</li> <li>・中間ならびに学期末レポートを重視します。</li> </ul>
教科書：	『新会計基準解説 A to Z（四訂版）』 松井泰則著 一橋出版 2002年11月15日

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「監査論Ⅰ」（担当者：佐々木 隆志）の履修の手引き

科目名：	監査論Ⅰ
担当者：	佐々木 隆志
対象学生：	経営経済学部3年
設置学期：	春
概要：	<p>企業は、株主、投資者あるいは社会に対して、アカウンタビリティ（説明責任）を有しています。このとき、企業は財務諸表等を用いる会計報告によってその責任を果たそうとしますが、それを第三者がチェックして、その内容の信頼性を保証する、ないし高めることを「監査」といいます。したがって「会計」と「監査」とは、切っても切り離せないものだ、とよくいわれるのです。</p> <p>日本の企業会計に関連する局面で、監査が重要な役割を果たす局面は、主として次のような場合です。第一に、上場企業は一般投資家に対して企業情報を開示するという形でのアカウンタビリティを負っています。したがって上場企業の公表する財務諸表は、公認会計士や監査法人によって監査されなくてはなりません。この枠組みは、第二次世界大戦後にアメリカの証券市場を模範とし、健全な資本市場を日本に確立するため成立した法律である「証券取引法」の下のものであります。</p> <p>第二に、株式会社の経営者は、株主に対して報告義務を負っています。したがって、株式会社の経営者の行動や、その作成する計算書類は、監査役や会計監査人の監査を受ける必要があります。この枠組みは、明治時代にドイツの法制度を下敷きにして作られた「商法」の下のものであります。</p> <p>この授業では、主として証券取引法に基づく株式会社の財務諸表監査について学習しますが、それ以外の監査についても学習する予定です。</p>
授業方法：	講義（14回）が中心となりますが、数回、授業中に小レポートを書いて提出していただきます。
履修の留意点：	会計学または財務諸表論を履修済みであることが望ましいのですが、必ずしも前提とはしません。ただし、上記科目をまだ履修していない方は、財務会計論に関する諸科目を平行受講して基礎知識を補ってください。
目標と評価：	<p>企業会計の変容期における監査の問題点を把握し、現代監査論の体系的理解を得ることがこの授業の目標です。教科書『監査・会計構造の研究』第1章～第4章および終章のエッセンスを理解することによってこれが達成できます。</p> <p>評価点は、学期末試験50%、中間レポート25%、授業中に提出する小レポートの合計点25%として算定します。</p>
教科書：	<p>監査・会計構造の研究 佐々木 隆志 森山書店 平成14年10月15日初版発行</p> <p>_____</p> <p>_____</p> <p>_____</p> <p>_____</p>

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「監査論Ⅱ」（担当者：佐々木 隆志）の履修の手引き

科目名：	監査論Ⅱ
担当者：	佐々木 隆志
対象学生：	経営経済学部3年
設置学期：	秋
概要：	監査論Ⅰで学習した内容をふまえ、さまざまな具体的ケースを用いて、さらに監査論を学習していきます。
授業方法：	講義（14回）が中心となりますが、数回、授業中に小レポートを書いて提出していただきます。
履修の留意点：	監査論Ⅰを履修済みであることが望ましいと思います。
目標と評価：	具体的なケースにより、現代監査の諸問題点を把握し、理解することがこの授業の目標です。評価点は、学期末試験50%、中間レポート25%、授業中に提出する小レポートの合計点25%として算定します。
教科書：	ケースブック監査論 吉見 宏 新世社 2001年5月10日初版発行
	監査・会計構造の研究 佐々木 隆志 森山書店 2002年10月15日初版発行

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「コンピュータ会計論Ⅰ」（担当者：町田 耕一）の履修の手引き

科目名：	コンピュータ会計論Ⅰ
担当者：	町田 耕一
対象学生：	経営経済学部3年
設置学期：	春
概要：	会計システムはメインシステムとサブシステムから成っています。前期は財務会計メインシステムを課題とします。会計情報システムの意義、データを蓄えるファイル、データより元帳や財務諸表を作成するアルゴリズムを考えます。システムはブラックボックスですが、学習者はホワイトボックスとなるでしょう。データ作成には検証可能性を必要としています。監査証跡を跡付けするファイル構造、データ作成の、会計統制の仕方を学びます。かくして、目的適合性のある会計情報を獲得できるようになります。
授業方法：	教室の設備によります。 コンピュータ実習室であれば、実習を通して、学習します。
履修の留意点：	簿記の仕訳ができることが前提です。
目標と評価：	知識と技術に、目標を定めます。（新開講であり、教室を見てから決めます）
教科書：	コンピュータ簿記会計 町田 耕一 創成社 1995

※最終評価は、評価点7割，出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「コンピュータ会計論Ⅱ」（担当者：町田 耕一）の履修の手引き

科目名：	コンピュータ会計論Ⅱ
担当者：	町田 耕一
対象学生：	経営経済学部3年
設置学期：	秋
概要：	会計システムにはメインシステムとサブシステムがあります。サブシステムである販売管理システム、固定資産システム、給与計算システムなどを学びます。また、「コンピュータ会計論Ⅰ」で学んだメインシステムとの連携をまなびます。
授業方法：	教室の環境によります。知識の講義と技能の実習(コンピュータ実習室であれば)を行います。
履修の留意点：	簿記の単位履修者 実習授業では、休むと、物理的にできなくなります。休まないこと。
目標と評価：	知識と技能により評価されます。
教科書：	コンピュータ簿記会計 町田耕一 創成社 1995

※最終評価は、評価点7割，出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「財務管理論」（担当者：宮永 賢久）の履修の手引き

科目名：	財務管理論
担当者：	宮永 賢久
対象学生：	経営経済学部3年
設置学期：	春
概要：	<p>現代の財務管理は複雑な様相を示しています。ここでは基本的な側面を学んで基礎的な知識や理解を得るようにします。</p> <p>財務管理を知るためには、これまでの大きな二つの流れを理解する必要があります。一つは、第2次大戦後から今日まで50年にわたって形成・展開されてきた法人資本主義のもとでの取引拡大経営です。もう一つは、1990年代後半から日本に上陸してきた欧米機関株主資本主義のもとでの株主価値経営です。</p> <p>取引拡大経営は、企業集団など企業相互の取引を拡大していくことによって、売上げ、資産、シェアなどを多面的に成長させようとするものです。株主価値経営は、株主の成長を目的に利益率の引上げをはかるため適正な資本規模を維持するとともに無駄なコストを排除するというものです。</p> <p>取引拡大経営のもとでの財務は、資産規模の成長を目指し、株主価値経営のもとでの財務は、株主上昇のための利益率の引き上げを目指しています。</p> <p>現代の状況は、このように売上げ、資産、シェアの引上げを狙った取引拡大経営のための財務が底流に存在し、その上に株主引上げのための利益率向上を目的とするコスト削減財務が流れ込んでいます。財務管理論では、こうした規模拡大とコスト削減という二つの対立的な様相をしめす現代の複雑な財務管理の基本的な側面を、できるだけ解りやすく、基礎的知識や理解が得られるように講義をします。</p>
授業方法：	講義（10回）および討論（4回）、討論は、特定の受講生をレポーターに指名して行います。
履修の留意点：	財務管理論で学ぶ事柄では、新しい概念や事柄が多数あります。実社会で必ず必要になるので、予習をし、講義の中身で理解が不足したと思った事柄については、その都度復習をしておくようにしましょう。
目標と評価：	<p>この授業では、経済活動の主役をになう企業・会社が社会でどのような役割や動きをしているのか、新聞紙上や経済週刊誌などを使い、基礎的な理解ができていくかどうか、次のチャプターに沿って評価をします。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①企業の形態・責任制度について、実態経済の基本的な知識がついているか。</li> <li>②株式資本の調達と所有の法人化がどのように進むのか、説明できること。</li> <li>③自己金融の形態と方法について、説明できること。</li> <li>④借入金の調達が企業における金融でどのような役割を果たしているか説明できること。</li> <li>⑤日本の銀行が問題となっているBIS規制と成長財務について説明できること。</li> <li>⑥経営計画と財務計画の立案と分析を簡単な事例でレポートすること。</li> <li>⑦高度なデリバティブやM&amp;Aの基本的な戦略について説明できること。</li> <li>⑧中小企業やベンチャービジネスの財務について説明できること。</li> <li>⑨財務諸表の仕組みについて説明できること。</li> </ol> <p>上記の各チャプターの理解度と問題意識を評価します。評価の方法は以下の項目毎に加算方式で算出します。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①出席態度、議論における発言の積極性[ 10%]</li> <li>②レポーター、質問者としての積極性、小課題の提出状況[ 20%]</li> <li>③討論4回の課題提出状況、参加意識・態度、レポート内容[ 30%]</li> <li>④学期末レポート試験[ 40%]</li> </ol>
教科書：	<p>テキスト 財務管理論 坂本恒夫（編）現代財務管理論研究会（著）中央経済社 平成14年5月20日初版 第1刷発行</p>

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「上級簿記（普通）」（担当者：釜谷 彰一）の履修の手引き

科目名：	上級簿記（普通）
担当者：	釜谷 彰一
対象学生：	短期大学部1年
設置学期：	秋
概要：	複式簿記の基本原則である取引の範囲・取引の八要素（費用・収益・資産・負債・資本）、の認識、及び会計処理（仕訳）を学び、問題集等を使用して、簿記の基本的な技術を習得する。日商簿記検定3級・全経簿記検定3級の合格を目指す。
授業方法：	テキストを中心に授業を行う。 授業体系は、簿記一巡の流れを把握し、前半は個別取引を中心に学習を行い、後半は総合問題対策（試算表作成、精算表作成、補助簿：仕入帳、売上帳、現金出納帳、小口現金出納帳、当座預金出納帳、手形記入帳、商品有高帳等）を中心に授業を行う。
履修の留意点：	特になし
目標と評価：	出席状況・定期試験等による。
教科書：	例解演習 基本簿記 山本孝夫・前川邦生共著 創成社
	日商簿記検定3級出題傾向と対策 税務経理協会

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「上級簿記（中級）」（担当者：前川 道生）の履修の手引き

科目名：	上級簿記（中級）
担当者：	前川 道生
対象学生：	短期大学部1年
設置学期：	秋
概要：	簿記とは、小規模な個人商店から大企業に至るまで、日々行われている活動（営業活動）を記録・計算・整理するために利用されているツール（道具）である。 本講義では、株式会社を対象とした簿記（簿記2級）を中心に進めていくが、基本となる知識（簿記3級）を完全に理解していることが必要である。簿記3級の内容も簿記2級の内容も基本的な処理は全く同じである。違うのは、扱う取引の種類・処理方法が増えたということだけである。これまでに学んだ知識と新しく学んだ知識との違いをはっきり認識しながら、勉学に専念してもらいたい。 資格としては、日本商工会議所主催の簿記検定2級の合格を目標とする。
授業方法：	毎回講義を行い、その後練習問題を解くことで理解を深める。 また、必要に応じて確認テストを行う。電卓必携。 授業体系は、簿記2級の範囲が中心となる。各項目について、詳しく解説していく。 〔簿記2級の範囲〕 1. 諸取引の処理 (1) 現金・当座預金、有価証券、手形など (2) 特殊商品売買（未着商品、委託販売、割賦販売、試用販売など） (3) 資本（法定準備金）、負債（社債、引当金）、その他 2. 本店会計 3. 試算表・精算表 4. 貸借対照表・損益計算書 5. 伝票式会計、特殊仕訳帳
履修の留意点：	日商簿記検定3級、全経簿記検定3級もしくは同程度の学力があることが望ましい。 テキストのうち『簿記検定ワークブック 1級 会計』の購入は、別途、授業内で指示する。
目標と評価：	定期試験および小テストにより評価する（評価点70点）。出席点（30点）は通常通り評価する。
教科書：	『新簿記講義 2級 商業簿記』 加古宜士・渡部裕巨 編著 中央経済社 『日商簿記検定 2級出題傾向と対策』 税務経理協会編 税務経理協会 『簿記検定ワークブック 1級 会計』 英光社

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。



「原価計算」（担当者：井上 行忠）の履修の手引き

科目名：	原価計算
担当者：	井上 行忠
対象学生：	短期大学部1年
設置学期：	秋
概要：	複式簿記簿記の基本原理解である取引の範囲・取引の八要素（費用・収益・資産・負債・資本）、の認識、及び会計処理（仕訳）を学び、製造業会計にける原価計算を中心に問題集等を使用して、簿記の基本的な技術を習得する。日商簿記検定2級工業簿記範囲を学習する
授業方法：	授業体系は、標準原価計算、直接原価計算、個別原価計算、総合原価計算等を中心に授業を行う。
履修の留意点：	建設業会計、簿記実務Ⅰ・Ⅱの科目とともに履修しなければならない。
目標と評価：	出席状況・定期試験等による。
教科書：	新検定簿記講義2級 工業簿記 岡本清 中央経済社
	日商簿記検定試験2級出題傾向と対策 税務経理協会

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「建設業会計」（担当者：井上 行忠）の履修の手引き

科目名：	建設業会計
担当者：	井上 行忠
対象学生：	短期大学部1年
設置学期：	秋
概要：	複式簿記簿記の基本原則である取引の範囲・取引の八要素（費用・収益・資産・負債・資本）、の認識、及び会計処理（仕訳）を学び、製造業会計にける原価計算を中心に問題集等を使用して、簿記の基本的な技術を習得する。日商簿記検定2級工業簿記範囲を学習する
授業方法：	授業体系は、標準原価計算、直接原価計算、個別原価計算、総合原価計算等を中心に授業を行う。
履修の留意点：	原価計算、簿記実務Ⅰ・Ⅱの科目とともに履修しなければならない。
目標と評価：	出席状況・定期試験等による。
教科書：	新検定簿記講義2級 工業簿記 岡本清 中央経済社
	日商簿記検定試験2級出題傾向と対策 税務経理協会

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「コンピュータ会計Ⅰ」（担当者：町田 耕一）の履修の手引き

科目名：	コンピュータ会計Ⅰ
担当者：	町田 耕一
対象学生：	短期大学部2年
設置学期：	春
概要：	会計情報の作成は、非営利組織や行政組織まで広がっています。前期は検証可能性のあるデータ作成能力を訓練します。システムへのデータ作成能力を養成し、就職に有利な能力が形成されるでしょう。
授業方法：	昨年のサーバーが継続されるならば、e-learningで各種の取引を学習します。また、会計アプリケーション(小番頭)の利用を学びます。
履修の留意点：	簿記の基本的な仕訳が理解していること。 休むと、学習者の環境設定がなされないため、利用できません。また、会計システムでは前のデータが欠けているため、正しく財務諸表が作成できません。休まないこと。
目標と評価：	教材の出来具合で評価します。
教科書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「コンピュータ会計Ⅰ（再履修用）」（担当者：大塚 俊仁）の履修の手引き

科目名：	コンピュータ会計Ⅰ（再履修用）
担当者：	大塚 俊仁
対象学生：	短期大学部2年
設置学期：	秋
概要：	今日の情報社会において、パソコンの役割はビジネスツールとしてどんどん広がっています。会社の経理業務においてもOA化する事により、転記や集計ミスがなくなり時間の短縮になる等、数多くのメリットがあります。授業内容としては、商業における財務諸表の作成を目標に、いかに効率よく利用者の目的にあったコンピュータ処理を行えるかという利用者の視点に立脚した利用技術の習得を中心に行います。
授業方法：	講義及びパソコンを使用した実習
履修の留意点：	簿記3級程度の知識
目標と評価：	授業中の実習結果（印刷物）により評価する
教科書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「コンピュータ会計Ⅰ」（担当者：大塚 俊仁）の履修の手引き

科目名：	コンピュータ会計Ⅰ
担当者：	大塚 俊仁
対象学生：	短期大学部2年
設置学期：	春
概要：	今日の情報社会において、パソコンの役割はビジネスツールとしてどんどん広がっています。会社の経理業務においてもOA化する事により、転記や集計ミスがなくなり時間の短縮になる等、数多くのメリットがあります。授業内容としては、商業における財務諸表の作成を目標に、いかに効率よく利用者の目的にあったコンピュータ処理を行えるかという利用者の視点に立脚した利用技術の習得を中心に行います
授業方法：	講義及びパソコンを使用した実習
履修の留意点：	簿記3級程度の知識
目標と評価：	授業中の実習結果（印刷物）により評価する。
教科書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「コンピュータ会計Ⅱ」（担当者：町田 耕一）の履修の手引き

科目名：	コンピュータ会計Ⅱ
担当者：	町田 耕一
対象学生：	短期大学部2年
設置学期：	秋
概要：	会計情報は経営管理者に有用な情報を提供します。原価管理のための原価情報の作成を学びます。また、利益管理、予算管理などの概念と技法をまなびます。
授業方法：	E-learningで工業簿記を学びます。会計システム(小番頭)で製造原価報告書の作成法を学びます。Excel教材にて管理会計諸概念を学びます。
履修の留意点：	簿記の基本的な仕訳ができること。 休むと、設定ができまいので、できません。システムへの前回データがないと正しい財務諸表が作成されません。休まないこと。
目標と評価：	毎日の教材の出来具合。
教科書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「コンピュータ会計Ⅱ」（担当者：大塚 俊仁）の履修の手引き

科目名：	コンピュータ会計Ⅱ
担当者：	大塚 俊仁
対象学生：	短期大学部2年
設置学期：	秋
概要：	今日の情報社会において、パソコンの役割はビジネスツールとしてどんどん広がっています。会社の経理業務においてもOA化する事により、転記や集計ミスがなくなり時間の短縮になる等、数多くのメリットがあります。授業内容としては、商業における財務諸表の作成を目標に、いかに効率よく利用者の目的にあったコンピュータ処理を行えるかという利用者の視点に立脚した利用技術の習得を中心に行います。
授業方法：	講義及びパソコンを使用した実習
履修の留意点：	簿記3級程度の知識
目標と評価：	授業中の実習結果（印刷物）により評価する。
教科書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「パソコン財務会計Ⅰ」（担当者：大塚 俊仁）の履修の手引き

科目名：	パソコン財務会計Ⅰ
担当者：	大塚 俊仁
対象学生：	短期大学部2年
設置学期：	春
概要：	今日の情報社会において、パソコンの役割はビジネスツールとして広がっています。企業の財務業務をシステム化することにより、作業のスピード化や効率化等のメリットがあります。本講座では、財務諸表からキャッシュフロー計算書や分析表を表計算ソフトで作成し、それらの表を見る為の知識を学びます。
授業方法：	講義及びパソコンを使用した実習
履修の留意点：	E x c e l 及び簿記3級程度の知識
目標と評価：	授業中の実習結果（印刷物）により評価する。
教科書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。



「パソコン財務会計Ⅱ」（担当者：大塚 俊仁）の履修の手引き

科目名：	パソコン財務会計Ⅱ
担当者：	大塚 俊仁
対象学生：	短期大学部2年
設置学期：	秋
概要：	今日の情報社会において、パソコンの役割はビジネスツールとして広がっています。企業の財務業務をシステム化することにより、作業のスピード化や効率化等のメリットがあります。本講座では、財務諸表からキャッシュフロー計算書や分析表を表計算ソフトで作成し、それらの表を見る為の知識を学びます。
授業方法：	講義及びパソコンを使用した実習
履修の留意点：	E x c e l 及び簿記3級程度の知識
目標と評価：	授業中の実習結果（印刷物）により評価する。
教科書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「会計学Ⅰ」（担当：中原 章吉）の履修の手引き

科目名：	会計学Ⅰ
担当者：	中原 章吉
対象学生：	短期大学部2年
設置学期：	春
概要：	<p>みなさんは、言葉をもって自分の意思をみなさんのまわりにいる人々と伝えあうことをしています。「企業」その他の個別経済体は、それぞれの言葉として「会計」を使います。「会計」は企業という言葉なのです。</p> <p>でも、あなたが知っている「会計」という言葉のうち、いくつをあなたは知っていますか？あなたが企業などに入って「会計」という言葉で他の企業等の人々と話し合おうとすると、かなり多くの「会計」という言葉を知っていないと、有効な話できません。</p> <p>この授業では基本的な知識を出発点としながら、「会計」という言葉を厳密に、一般的に説明しようと思います。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 会計制度</li> <li>2. 企業会計のルール</li> <li>3. 期間収益の計算</li> <li>4. 期間費用の計算</li> <li>5. 資産</li> <li>6. 負債</li> <li>7. 資本</li> </ol>
授業方法：	講義に討論をまじえながら行います。毎時間末に簡単なテストを行います。
履修の留意点：	「簿記論」「簿記学」といった簿記の履修を必ずしも前提としませんが、簿記を履修していない者は「履修の手引き」に記されている簿記のテキストを読んでおくこと。
目標と評価：	<p>この授業を受講した学生は簿記の初歩ができるようになっているはずですが、そうなるように学習することを望みます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●時間（講義）末に行う簡易テストにできる限り答えること。</li> <li>●学期末レポートを提出すること。</li> </ul>
教科書：	<p>企業会計の基礎 中原章吉 創世社 2002年最新版</p> <hr/> <hr/> <hr/> <hr/>

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「会計学Ⅰ（再履修用）」（担当者：中原 章吉）の履修の手引き

科目名：	会計学Ⅰ（再履修用）
担当者：	中原 章吉
対象学生：	短期大学部2年
設置学期：	秋
概要：	<p>みなさんは、言葉をもって自分の意思をみなさんのまわりにいる人々と伝えあうことをしています。「企業」その他の個別経済体は、それぞれの言葉として「会計」を使います。「会計」は企業という言葉なのです。</p> <p>でも、あなたが知っている「会計」という言葉のうち、いくつをあなたは知っていますか？あなたが企業などに入って「会計」という言葉で他の企業等の人々と話し合おうとすると、かなり多くの「会計」という言葉を知っていないと、有効な話できません。</p> <p>この授業では基本的な知識を出発点としながら、「会計」という言葉を厳密に、一般的に説明しようと思います。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 会計制度</li> <li>2. 企業会計のルール</li> <li>3. 期間収益の計算</li> <li>4. 期間費用の計算</li> <li>5. 資産</li> <li>6. 負債</li> <li>7. 資本</li> </ol>
授業方法：	講義に討論をまじえながら行います。毎時間末に簡単なテストを行います。
履修の留意点：	「簿記論」「簿記学」といった簿記の履修を必ずしも前提としませんが、簿記を履修していない者は「履修の手引き」に記されている簿記のテキストを読んでおくこと。
目標と評価：	<p>この授業を受講した学生は簿記の初歩ができるようになっているはずですが、そうなるように学習することを望みます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●時間（講義）末に行う簡易テストにできる限り答えること。</li> <li>●学期末レポートを提出すること。</li> </ul>
教科書：	<p>企業会計の基礎 中原章吉 創世社 2002年最新版</p> <hr/> <hr/> <hr/> <hr/>

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「会計学Ⅱ」（担当者：中原 章吉）の履修の手引き

科目名：	会計学Ⅱ
担当者：	中原 章吉
対象学生：	短期大学部2年
設置学期：	秋
概要：	<p>みなさんは、言葉をもって自分の意思をみなさんのまわりにいる人々と伝えあうことをしています。「企業」その他の個別経済体は、それぞれの言葉として「会計」を使います。「会計」は企業という言葉なのです。</p> <p>でも、あなたが知っている「会計」という言葉のうち、いくつをあなたは知っていますか？あなたが企業などに入って「会計」という言葉で他の企業等の人々と話し合おうとすると、かなり多くの「会計」という言葉を知っていないと、有効な話ができせん。</p> <p>この授業では基本的な知識を出発点としながら、「会計」という言葉を厳密に、一般的に説明しようと思ひます。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 個別企業の財務諸表</li> <li>2. 中間財務諸表</li> <li>3. 連結財務諸表</li> <li>4. 財務諸表会計の展開</li> </ol>
授業方法：	講義に討論をまじえながら行ひます。毎時間末に簡単なテストを行ひます。
履修の留意点：	「簿記論」「簿記学」といった簿記の履修を必ずしも前提としませんが、簿記を履修していない者は「履修の手引き」に記されている簿記のテキストを読んでおくこと。
目標と評価：	<p>この授業を受講した学生は簿記の初歩ができるようになっているはずです。そうなるように学習することを望みます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●時間（講義）末に行う簡易テストにできる限り答えること。</li> <li>●学期末レポートを提出すること。</li> </ul>
教科書：	<p>企業会計の基礎 中原章吉 創世社 2002年最新版</p> <hr/> <hr/> <hr/> <hr/>

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「簿記実務 I（中級）」（担当者：井上 行忠）の履修の手引き

科目名：	簿記実務 I（中級）
担当者：	井上 行忠
対象学生：	短期大学部1年
設置学期：	秋
概要：	複式簿記の基本原則である取引の範囲・取引の八要素（費用・収益・資産・負債・資本）、の認識、及び会計処理（仕訳）を学び、日商簿記検定試験2級商業簿記の試験範囲を中心に問題集等を使用して、簿記の基本的な技術を習得する。
授業方法：	授業体系は、取引、試算表作成問題、伝票会計、特殊仕訳帳制度、精算表作成、財務諸表（貸借対照表・損益計算書）等を中心に授業を行う。
履修の留意点：	建設業会計、原価計算、上級簿記の科目とともに履修しなければならない。
目標と評価：	出席状況・定期試験等による。
教科書：	新検定簿記講義 2級 商業簿記 加古宜士 中央経済社
	日商簿記検定試験 2級出題傾向と対策 税務経理協会

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「簿記実務Ⅰ」（担当者：前川 道生）の履修の手引き

科目名：	簿記実務Ⅰ
担当者：	前川 道生
対象学生：	短期大学部1年
設置学期：	春
概要：	<p>企業には、財務部（総務部）といった日々の取引を統括する部署が必ずあり、そのような取引を集計することによって、財務諸表という形で外部に公表する。これら取引の処理に用いられているものが、簿記である。簿記を学ぶことによって、企業内で行われている取引の概要の一端を理解する力をつけることが、この講義の目的である。</p> <p>まず初めに、個人商店を対象範囲とする簿記3級レベルの実力をつけていくことを目指す。その後は、株式会社を対象範囲とする簿記2級につなげるための知識（簿記2級のための導入部分）を習得することを目指す。</p> <p>資格としては、全国経理学校協会主催の簿記検定3級および日本商工会議所主催の簿記検定3級の合格を目標とする。</p>
授業方法：	<p>毎回講義を行い、その後練習問題を解くことで理解を深める。 また、必要に応じて確認テストを行う。電卓必携。 授業体系は、以下のとおりである。</p> <p>（簿記3級の範囲）</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 簿記の概要 意義、目的、貸借対照表と損益計算書の関係、取引の要素など</li> <li>2. 諸取引の処理 現金・預金、商品売買、手形、有価証券、固定資産、その他の債権・債務など</li> <li>3. 試算表の作成</li> <li>4. 決算</li> <li>5. 精算表の作成</li> <li>6. 財務諸表の作成</li> <li>7. 補助簿、帳簿の締切り</li> </ol>
履修の留意点：	使用する電卓については、最初の講義時に説明をするので、事前に購入する必要はない。
目標と評価：	定期試験および小テストにより評価する（評価点70点）。出席点（30点）は通常通り評価する。
教科書：	『例解演習 基本簿記（第2版）』 山本孝夫、前川邦生編著 創成社
	『簿記検定ワークブック 3級』 英光社

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「簿記実務Ⅱ（中級）」（担当者：井上 行忠）の履修の手引き

科目名：	簿記実務Ⅱ（中級）
担当者：	井上 行忠
対象学生：	短期大学部1年
設置学期：	秋
概要：	複式簿記の基本原則である取引の範囲・取引の八要素（費用・収益・資産・負債・資本）、の認識、及び会計処理（仕訳）を学び、製造業会計にける原価計算を中心に問題集等を使用して、簿記の基本的な技術を習得する。日商簿記検定2級工業簿記範囲を学習する
授業方法：	授業体系は、標準原価計算、直接原価計算、個別原価計算、総合原価計算等を中心に授業を行う。
履修の留意点：	建設業会計、原価計算、上級簿記の科目とともに履修しなければならない。
目標と評価：	出席状況・定期試験等による。
教科書：	新検定簿記講義2級 工業簿記 岡本清 中央経済社
	日商簿記検定試験2級出題傾向と対策 税務経理協会

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「簿記実務Ⅱ」（担当者：前川 道生）の履修の手引き

科目名：	簿記実務Ⅱ
担当者：	前川 道生
対象学生：	短期大学部1年
設置学期：	秋
概要：	<p>企業内で行われている実務（会計処理）を理解するための最低限の知識を取得することを目標として、講義を進めていく。最低限の知識とは、日常取引の処理（記録・計算・整理）および取引に用いられる用語（勘定科目）の名称・内容を理解することである。</p> <p>簿記実務Ⅰの概要で説明したとおり、簿記は企業で日常の営業活動を会計的に記録し、集計するためのツール（道具）である。ここでは、簿記実務Ⅰで習得した知識をもとに、より高度な知識を身につけていく。</p> <p>具体的には、初めに春学期（簿記実務Ⅰ）の復習、総合問題の練習へと進む予定である。資格取得としては、日本商工会議所主催の簿記検定3級（11月）の合格を目標とし、さらに、全国経理学校協会主催の簿記検定2級（2月）合格を目指す。</p>
授業方法：	<p>毎回講義を行い、その後練習問題を解くことで理解を深める。</p> <p>また、必要に応じて確認テストを行う。電卓必携。</p> <p>授業体系は、以下のとおりである。</p> <p>簿記3級の基礎固めが主となるが、以下の項目についても、簡単に触れていく。</p> <p>（簿記2級の範囲）</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 諸取引の処理</li> <li>(1) 現金・当座預金、有価証券、手形など</li> <li>(2) 特殊商品売買（未着商品、委託販売、割賦販売、試用販売など）</li> <li>(3) 資本（法定準備金）、負債（社債、引当金）、その他</li> <li>2. 本支店会計</li> <li>3. 試算表・精算表</li> <li>4. 貸借対照表・損益計算書</li> <li>5. 伝票式会計、特殊仕訳帳</li> </ol>
履修の留意点：	<p>簿記実務Ⅰ（春学期）を受講していることが望ましい。</p> <p>また、テキストのうち『簿記検定ワークブック 2級』（英光社）の購入は、別途、授業内で指示する。</p>
目標と評価：	<p>定期試験および小テストにより評価する（評価点70点）。出席点（30点）は通常通り評価する。</p>
教科書：	<p>『例解演習 基本簿記（第2版）』 山本孝夫、前川邦生編著 創成社</p> <p>『日商簿記検定 3級出題傾向と対策』 税務経理協会編 税務経理協会</p> <p>『簿記検定ワークブック 2級』 英光社</p>

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。



「産業構造論」（担当者：古賀 義弘）の履修の手引き

科目名：	産業構造論
担当者：	古賀 義弘
対象学生：	経営経済学部1年・短期大学部1年
設置学期：	秋
概要：	70年代初頭に「崩壊」した世界資本主義体制の機構は、その後さまざまな形で矛盾が生じて今日に至っている。かかる中で日本の産業構造もそれまでの重厚長大型産業による主導から自動車、家電そして半導体といった加工組立型産業へと急速に比重を移して来ている。加えて積極的な海外展開と中国やASEAN、アジアNIESなどの台頭により日本企業は苦境に陥り、新たな対応を迫られている。同時に業種の面から見ても製造業の比重の低下、サービス業など第三次産業の発展と大きな変化が到来している。本講義ではこのような構造的特徴について述べていく予定である。
授業方法：	講義形式を中心とする。時宜に応じて資料を配布して、その説明をする。授業中に理解度を確認するための「まとめの文章」を書くことやレポート提出を求めることもあるので留意しておくこと。
履修の留意点：	新聞には日常的に目を通しておくこと。きちんとノートを取り、問題点や疑問点は自ら調べ整理する習慣をもつ。
目標と評価：	授業時間の「まとめの文章」とレポートは評価点として最大限30%を加算する。
教科書：	別途指示する。

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「マーケティング論Ⅰ」（担当者：小泉 徹）の履修の手引き

科目名：	マーケティング論Ⅰ
担当者：	小泉 徹
対象学生：	経営経済学部2年・短期大学部2年
設置学期：	春
概要：	資本、労働コストの上昇による激しいコスト・プッシュ、景気後退による消費水準の低下、販売促進戦術によるプロダクト・ライフ・サイクルの短縮といった企業環境の悪化の中で、企業の需要創造、市場拡大努力としてのマーケティング戦略・戦術への関心は顕著なものとなってきた。この講義では、マーケティングの概念、マーケティング視点での物の見方、考え方について解説し、非営利組織のマーケティングについても触れていきたい。
授業方法：	講義中心である。また、理解を促進するためにビデオ教材を適時使用する予定である。
履修の留意点：	「マーケティング論Ⅱ」を続けて履修すると理解がより深まると思う。単位取得だけが目的ではなく、多くの知識を吸収しようとする意欲ある学生の履修を希望する。ただ教室にいるというだけで、友人との友情確認の場や、情報交換の場として出席だけしている学生は、何も得るものがないだろう。したがって、そのような学生の履修は御遠慮願いたい。
目標と評価：	マーケティングの誕生から現代までのマーケティングの考え方の変化、基本的マーケティングの理論を理解することを目的とする。評価は定期試験の成績が中心であるが、適時行う小テストの成績、受講態度を含めて総合的に判断する。
教科書：	『テキストブック・現代マーケティング論』[新版] 木綿良行・懸田豊・三村優美子[著] 有斐閣ブックス 1999年

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「マーケティング論Ⅱ」（担当者：小泉 徹）の履修の手引き

科目名：	マーケティング論Ⅱ
担当者：	小泉 徹
対象学生：	経営経済学部2年・短期大学部2年
設置学期：	秋
概要：	資本、労働コストの上昇による激しいコスト・プッシュ、景気後退による消費水準の低下、販売促進戦術によるプロダクト・ライフ・サイクルの短縮といった企業環境の悪化の中で、企業の需要創造、市場拡大努力としてのマーケティング戦力・戦術への関心は顕著なものとなってきた。この講義では、「マーケティング論Ⅰ」に引き続いて、具体的なマーケティング政策について解説していく。
授業方法：	講義中心であるが、理解を促進するためにビデオ教材を適時使用する予定である。
履修の留意点：	「マーケティング論Ⅰ」の履修を必ずしも前提とはしないが、履修しておくことが望ましい。春学期に「マーケティング論Ⅰ」を履修していない者は、「履修の手引き」に記載されている教科書の第一章から第三章までを読み込んでおくこと。単位取得だけを目的とし、出席点だけを稼ぐために教室にやって来る学生、友人との友情確認や情報交換のために教室を利用する学生は、この講義が全て終わっても何も得るものがないだろう。したがって、多くの知識を獲得しようと意欲を持って授業に参加している学生の妨げになるので、履修は御遠慮願いたい。
目標と評価：	マーケティング視点での物の見方、考え方を学び、複眼で発想ができるような柔軟な頭をもてるように導きたい。定期試験の成績を中心に、適時実施する小テストの成績、受講態度などを含めて総合的に評価する。
教科書：	『テキストブック・現代マーケティング論』[新版] 木綿良行・懸田豊・三村優美子[著] 有斐閣ブックス 1999年

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「組織行動論」（担当者：柴崎 孝夫）の履修の手引き

科目名：	組織行動論
担当者：	柴崎 孝夫
対象学生：	経営経済学部2年・短期大学部2年
設置学期：	春
概要：	本講義では、企業等のように「ある目的をもった人の集合体を組織と捉え、組織内に生じる諸現象」を理解することを目的としている。経営組織やその中での人間行動に関する理論を学び、経営組織内の現象を見る視点を身につけることを目的としている。 組織行動は個を基本とした心理学、集団に焦点を合わせる社会学・社会心理学、そして組織全体の価値観を研究する文化人類学、もちろん経営管理論などの学問の成果を体系づけられた学際的問題領域である。本講義では、組織における個人や集団の行動を様々な側面から考察していきたい。
授業方法：	講義形式をとっていく。
履修の留意点：	特になし。
目標と評価：	組織行動論の基本的なことを理解し、その見方、考え方を身につけることを目標としたい。その成果を、定期試験、小テスト、レポートの状況を勘案して評価する。
教科書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「経営戦略論」（担当者：松行 彬子）の履修の手引き

科目名：	経営戦略論
担当者：	松行 彬子
対象学生：	経営経済学部2年・短期大学部2年
設置学期：	秋
概要：	<p>現代企業による経営戦略は、1980年代後半を境として、企業を取り囲む経営環境の急激な変化に対応して、大きく変容した。それは、従来の「競争」重視の経営戦略から、「協力と競争」重視の経営戦略へと、明らかにパラダイム転換が行われた。このような経営戦略転換を踏まえて、本講では、まず、経営戦略論を理解するために必要とされる基本的知識を講述する。さらに、従来の伝統的な経営戦略理論から現在の先端的理論にいたるまでの主要な理論を事例をも含め紹介する。そして、日本企業が真のグローバル企業として成長・発展するための経営戦略もあわせて検討・考察する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 経営戦略の概念</li> <li>2. 経営戦略の構造</li> <li>3. 経営戦略の構成</li> <li>4. 経営戦略と経営計画</li> <li>5. 経営戦略策定理論</li> <li>6. 企業間関係と戦略的提携</li> </ol>
授業方法：	講述を中心とする。理解を深めるためにスライドやビデオ等視聴覚教材を併用する。
履修の留意点：	パソコンを使用するので、必ずパソコンを携帯すること。
目標と評価：	期末試験・小テスト・授業時の発表・受講態度等により評価する。
教科書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「経営組織論Ⅰ」（担当者：柴崎 孝夫）の履修の手引き

科目名：	経営組織論Ⅰ
担当者：	柴崎 孝夫
対象学生：	経営経済学部2年・短期大学部2年
設置学期：	春
概要：	本講義では、企業経営を中心として経営組織のもつ意義や役割などについて学び、またマクロ的な視点から経営組織構造を把握していきたい。そして、実際の企業経営の事例を参照しながら、基本的な専門知識と実践的なものの考え方を身に着けることを目標とした。 経営組織論は、企業経営の規模が拡大し経営活動が複雑につれて、その重要性が増し、理論的にも実証的にも盛んに研究されている。そこで、このことをふまえて本講義では、企業の経営目的を達成するために経営組織がどのように編成され、それがどのように機能するかということを理論的・実証的に分析する。
授業方法：	原則として講義形式をとっていく。講義内容の理解を深めるために、テキストを使用し、参考文献を提示し、またプリントを配布して講義を進めていきたい。
履修の留意点：	特になし。
目標と評価：	経営組織の基本を学び、また、企業における事例を学ぶことによって、実践的なものの考え方を深めることを目標にしたい。そこで、その成果を定期試験、小テスト、レポートの状況を勘案して評価したい。
教科書：	日本のビックビジネス本田技研・三菱自動車 岡本武昭他編 大概書店 1997

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「経営組織論Ⅱ」（担当者：柴崎 孝夫）の履修の手引き

科目名：	経営組織論Ⅱ
担当者：	柴崎 孝夫
対象学生：	経営経済学部2年・短期大学部2年
設置学期：	秋
概要：	本講義では、経営組織論Ⅰをふまえて、さらに経営組織論の理解を深めていきたい。企業経営の発展にともない、経営組織の変革が行われてきた。その中で、経営組織論の研究は理論的にも実証的にも進められ、その重要性は増している。そこで、本講義は、経営組織論の発展を企業の実例を示しながら、その理論の系譜を学ぶ。また、今日の企業経営で取り組まれている問題にも言及して、実践的なものの考え方を深めることを目標としたい。
授業方法：	原則として講義形式をとっていく。講義内容の理解を深めるために、テキストを使用し、参考文献を提示し、またプリントを配布して講義を進めていきたい。
履修の留意点：	経営組織論Ⅰを履修していることが望ましい。
目標と評価：	経営組織の主な理論を学び、また、企業における実例を学ぶことによって、実践的なものの考え方を深めることを目標にしたい。そこで、その成果を定期試験、小テスト、レポートの状況を勘案して評価したい。
教科書：	現代組織の基本問題 岡本武昭他編 税務経理協会 1997

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「経営管理論」（担当者：加藤 敦宣）の履修の手引き

科目名：	経営管理論
担当者：	加藤 敦宣
対象学生：	経営経済学部2年
設置学期：	秋
概要：	経営管理論では経営管理の歴史について、学ぶことを目的としています。経営管理は20世紀初頭の工場管理という現場の必要性からスタートし、その後、企業制度の成長と歩調を合わせて、飛躍的な展開を見せます。今日では経営管理の対象は、工場という小さな範囲を超え、企業全般に渡っています。経営管理のあり方は、時代の流れも敏感に反映します。企業が成熟することで、働く人たちにも変化が生じます。経営管理における歴史展開を勉強することは、経営学の世界観を理解することに繋がることでしょう。そこで本講では、そのような経営管理における見方や考え方について、自らが考えられる能力を養うことを、学習到達目標の1つとしています。
授業方法：	講義形式です。
履修の留意点：	特になし。
目標と評価：	期末テスト（参照不可）を基準とし、これに授業参画の度合いを、適宜加味して評価します。
教科書：	新訂・経営管理論 占部都美 白桃書房 1984年

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。



「マーケティングリサーチ」（担当者：小泉 徹）の履修の手引き

科目名：	マーケティングリサーチ
担当者：	小泉 徹
対象学生：	経営経済学部2年・短期大学部2年
設置学期：	秋
概要：	マーケティングが我国に導入されてから半世紀が経過し、その地位は社会において確立されるようになってきた。マーケティング活動を展開するにあたって、過去の慣例や勘に頼ることなく、データと論理に基づいた科学的手法が重要になってきている。適確な情報なくして適確なマーケティング活動は実行できず、情報なしのマーケティングは無謀であり、マーケティングに寄与しないマーケティング・リサーチは無意味である。この講義では、マーケティングとマーケティング・リサーチの関係を整理し、マーケティング・リサーチの理論と方法を解説していくつもりである。
授業方法：	講義中心であるが、理解を促進するためにビデオ教材を適時使用する。また、学生への課題として実際にリサーチを計画、実施してもらう。2～3人のグループをつくり、調査の計画、調査票の作成、調査の実施、集計・分析といった手順で行う。その過程の途中でグループごとに数回の発表を行う。
履修の留意点：	「マーケティング論Ⅰ」、「マーケティング論Ⅱ」を履修することが望ましい。グループをつくって調査を計画・実施していくので、欠席をすると同じグループの人に迷惑をかけることになる。したがって欠席をしないように努力してもらいたい。また、単位取得だけが目的の学生は、出席だけしていても何も得られないであろう。
目標と評価：	適時実施する小テストの成績、調査の進め方（計画、調査票、分析）、発表、報告書（レポート）、受講態度などを総合的に評価する。
教科書：	講義前にプリントを配布する。特に教科書は指定しない。

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「労務管理論Ⅰ」（担当者：青山 悦子）の履修の手引き

科目名：	労務管理論Ⅰ
担当者：	青山 悦子
対象学生：	経営経済学部3年
設置学期：	春
概要：	企業の経営管理活動の一環としての「労務管理」は、企業にとっては、従業員をいかに有効に活用するかといった役割を担っているが、皆さんにとっては、その有り様は、それぞれの就職・働き方・生活を大きく左右するものである。例えば、採用、配置と昇進・昇格、賃金、労働時間、教育・訓練など、企業に雇用されて働く限り、常に必要となる領域である。本講義では、企業への入り口から出口に至るまでのそれぞれの局面に沿って、労務管理の最新の動向を提供することで、日本企業における人事労務管理についての理解を深めていきたい。
授業方法：	教科書黒田、関口他『現代の人事労務管理』（八千代出版）にそって授業を進めていく。資料、統計も随時配布し、最新の情報を提供しながら、理解を深めていく。
履修の留意点：	新聞を読むことによって、社会・労働全般に関する関心を広げていくことが大切。
目標と評価：	大多数の学生が就職することになる日本企業の人事労務管理の動向について、事前に理解を深めることが目標。成績は、原則として、春学期末の定期試験で評価するが、平常の授業への参加度も加味される。
教科書：	『現代の人事労務管理』 黒田、関口他著 八千代出版 2001年 _____ _____ _____

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「労務管理論Ⅱ」（担当者：青山 悦子）の履修の手引き

科目名：	労務管理論Ⅱ
担当者：	青山 悦子
対象学生：	経営経済学部3年
設置学期：	秋
概要：	本講義では、「労務管理論Ⅰ」で学んだなかで、特に今焦点となっている問題、例えば、成果主義賃金、労働時間の弾力化、雇用形態の多様化等々の問題について、より深く考察する予定である。なお講義では、欧米諸国の動向にも言及しながら、受講者と共に、激動期にある日本の労務管理の今後を考えてみることにしたい。
授業方法：	教科書は使用しない予定。資料、データを配布するので、それを基に学生参加型の授業を進めていく。
履修の留意点：	毎日、新聞を読むことによって、労務管理を取り巻く社会環境について広く学ぶことが必要。
目標と評価：	1990年代以降、大きく変貌している日本企業の人事労務管理についての理解を深めることが目標。評価は、秋学期末の定期試験と平常の授業への参加度による。
教科書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「販売管理論」（担当者：宮永 賢久）の履修の手引き

科目名：	販売管理論
担当者：	宮永 賢久
対象学生：	経営経済学部3年
設置学期：	秋
概要：	<p>企業活動では、ユーザーと接し営業活動をおこなって、売上をたてるところが販売部門です。現代では、商売と取引の仕組み・形態が、製造業や流通・小売など活動分野によってさまざまに異なっているように見えます。また、営業・企画・マーケティングが、ますます一体となって活動が行われているのが特徴だと言えます。</p> <p>こうした企業の販売部門における活動を、より計画的・効率的に行うためには、商品の管理、販売組織の編成、受注・発注、売上、仕入れ・在庫の科学的管理等の方法が必要となります。これらの方法論は、基本的なところはメーカー、流通、小売のいずれにおいても、共通のものが大部分です。</p> <p>この講義では、販売に関する戦略的な管理を扱う「マーケティング論」に対し、上述の部門管理の方法論を、流通・商業をとりあげて2冊の教科書にもとづき学びます。特に、今日ではITを使ったマネジメントが当たり前となっています。実践的なシステムの基本構造の概念を学んでいくようにします。また、ケース・スタディを、皆さんにとってなじみの深い自動車業界とPC業界を事例として、発表・討論をおこない、レポートを提出してもらいます。</p>
授業方法：	講義（8回）および討論（6回）。討論は、特定の受講生ごとにグループに分け、グループごとに発表し、かつ各人にそのレポートを提出してもらいます。
履修の留意点：	販売管理の基本的な方法論は、今日ではそのほとんどがIT化されています。そのマネジメント・ソフトウェアの基本構造を、併せて商売の原則・商人の行動原理などを、できるだけ解りやすく学んでいくようにします。しかし、取引構造などは業種によって様々な形態が存在し、それによって方法論も異なっていますので、教科書2の「商売と取引のしくみ」を併せて読んで、どんどん積極的に自ら理解を深めてください。
目標と評価：	<p>次に示している①から⑭に従って、商取引の基本を理解し、流通チャネルの結びつき、業界別の産業組織や商取引の仕組みを学びます。併せて、IT化されているマネジメント・ソフトウェアの概要を知ってもらうようにします。実体経済・産業界で必須の知識なので、実学として学んだ事柄を評価します。</p> <p>①流通の社会的役割と流通機構 ……流通業界の変革                  ②流通機能—所有権の流れ ……商取引の基本部分                  流通機能—財の流れ                  流通機能—情報の伝達                  ③商取引の形態について（討論1）                  ④流通機能の分化と結合 ……流通チャネルの結びつき                  消費者と流通                  生産者と流通                  商業の存立基盤                  ⑤流通チャネルの変革（討論2）                  ⑥小売業の役割と機能                  小売業の構造                  小売業の諸形態                  ⑦卸売業の役割と機能                  卸売業の構造と諸形態                  ⑧卸売業と小売業について（討論3）                  ⑨e - コマースの仕組みと変革インパクト                  流通・商業に対する公共政策                  ⑩インターネット取引について（討論4）                  ⑪受注・出荷システムおよび販売管理システムの概要                  ⑫サプライチェーン・マネジメントの概要                  ⑬業種別ケース・スタディ1[自動車業界]（討論5）                  ⑭業種別ケース・スタディ2[PC業界]（討論6）</p> <p>以上の講義・討論項目について、以下の項目毎に加算方式で算出します。</p> <p>①出席および討論における積極的な態度・建設的な意見[20%]                  ②レポーター、質問者としての貢献および課題提出の状況[20%]                  ③ケース・スタディにおけるレポート提出および討論への積極発言[20%]                  ④学期末レポート試験[40%]</p>
教科書：	<p>新・流通と商業 鈴木安昭 有斐閣 2002年9月15日改定版第2補訂第2刷</p> <p>商売と取引のしくみ 藤岡仁吉 全日出版(株) 2002年11月5日 第1刷</p>

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「ベンチャー経営論」（担当者：鈴木 勘一郎）の履修の手引き

科目名：	ベンチャー経営論
担当者：	鈴木 勘一郎
対象学生：	経営経済学部3年
設置学期：	春（集中授業）
概要：	ベンチャー経営はビジネス創造の最前線である。ベンチャー経営論の授業を通じて目指しているものは、(1)将来のベンチャー企業経営者、(2)ベンチャー企業の経営チームとして貢献できる人材、(3)大企業、中堅企業、中小企業においてベンチャー精神を持った能力ある人材、などを養成することである。様々な演習を通じてベンチャープロセスの知識（事業機会の評価、環境分析、事業プランの策定、経営資源の調達・管理など）の理解を深め、履修者に対して、起業家精神、実践的な思考、積極的な行動、組織メンバーとしての規律、的確な判断力を身につけてもらう。 本科目を履修するには、①価値を創造し新しいことにチャレンジしようという意欲があること、②ハードな課題をこなす意欲があること、③グループ活動に積極的に参加する意欲があること、などを条件とする。この3条件に合わない場合には、最初から履修しないこと。しかし、意欲ある学生であれば大歓迎である。必ずや得るものがあるはず。
授業方法：	本授業は5日間の集中コースとなっているが、講義に加えて、グループ作業や発表など、様々なプレゼン能力を磨く機会を提供する。グループ活動は、各人が数人ずつのグループに分かれて実習課題をこなす、それをクラスで発表し評価される。  <スケジュール> 一日目 「ベンチャー経営とは」 前半：教師の自己紹介、講義/議論（1）、グループ編成 後半：グループ作業、発表、議論 二日目 「ベンチャープロセス」 前半：クイズ（1）、講義/議論（2） 後半：グループ作業、発表、議論 三日目 「ベンチャーの戦略と組織Ⅰ」 前半：クイズ（2）、講義/議論（3） 後半：グループ作業、発表、議論 四日目 「ベンチャーの戦略と組織Ⅱ」 前半：クイズ（3）、講義/議論（4） 後半：グループ作業、発表、議論 五日目 「ベンチャー経営の課題」 前半：試験、講義/議論（5） 後半：グループ作業、発表、議論、試験、表彰
履修の留意点：	本科目は(1)基礎的知識の習得と(2)起業家的意識の涵養を目指しており、この科目単独でも履修できるが、総合的な起業家能力の向上には、引き続き秋学期で「経営事例研究」並びに「起業家論」の履修することを薦める。 なお授業時間が足りないので、時間を効率利用するために、本授業が始まる前週までに授業計画に従ってテキストを読み、予習をしておく。事前準備がないと、結果として成績は低下する。（目標と評価の項を参照） 授業計画その他については、履修者に直接メールで通知する。  <学生と教師の役割>（起業家論と共通） 「学生」：起業家精神やベンチャー経営を学ぶのであるから、クラスへの積極的な参加が求められる。なぜなら起業家精神とは、指示待ちの受身な態度ではなく、何かを付け加えようという積極的な態度だからである。その起業家精神を養うことが授業の目的の一つである。また授業では、議論を通じて学んでいくことが大切だと考えている。そのためにも積極的に自分の意見を言うことが評価される。さらにグループ活動でのリーダーシップや協調性を重視する。組織は一人では動かせない。他のメンバーをよく理解し、自分も他のメンバーに理解してもらうにはどうすれば良いか、を常に考え行動する。 「教師」：授業に参加して「積極的に学ぼうとする学生」の手助けをする。
目標と評価：	目標と評価（起業家論と共通） 本科目は、次の3つの能力を養成することを目指している。 (1) 起業家精神の発揮、(2) ベンチャー経営の理解、(3) チームワーク能力の向上  評価の視点 % グループ活動（発表、課題提出） 30 個人活動（クイズ、試験） 20 参加（出席：30%、クラス議論：20%） 50  * 出席では当然差はつかない。また出席するだけではクラスへの貢献はない。この授業は、積極的に参加して初めて意味がある。成績は(1)「努力した人」>「努力しない人」と、(2)「積極的に参加する人」>「積極的に参加しない人」となるように考慮する。「起業家精神を養成したい人で、努力を惜しまない人」を評価する。（例えば、クラスでの発言回数など。）  テスト <クイズ>： 15分間で、2問の設問に答える。問題はキーワード・リスト（テキストの中からピックアップ）に選ばれたコンセプトの簡単な説明が求められる。キーワード・リストは、履修者に対して事前に告知される。設問はその中から2問ずつ出されるので、事前準備をしておくこと。 <試験>： 30分間で、キーワードの説明と1つのテーマに関する論述。
教科書：	「ベンチャー企業」<新版> 松田修一 日経文庫 日本経済新聞 1999年 角川Oneテーマ21「組織IQ」 鈴木勘一郎 角川書店 2000年 「グレートゲーム・オブ・ビジネス」 ジャック・スタック 徳間書店 2002年

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法で

す.

「生産管理論」（担当者：宮永 賢久）の履修の手引き

科目名：	生産管理論
担当者：	宮永 賢久
対象学生：	経営経済学部3年
設置学期：	秋
概要：	<p>これまで日本経済は高度な生産技術を背景にして目覚ましい発展を遂げて来ました。明治以来、欧米の技術を真似ることから始まった生産活動は、独自のTQC運動を産み出し経営環境を大きく変え、トヨタ自動車のかんばん方式などの生産活動を産み出しながら、世界トップレベルに位置付けられるようになってきました。</p> <p>しかし、今日の日本産業は、安価な人件費などを武器に台頭してきたアジア諸国がライバルとなり、新たな生産システムの構築をせまられている環境下にあると言えます。</p> <p>生産管理論では、取り上げる領域が極めて多岐にわたっています。それは、製品の生産を中心に実施されてきた現場周りの生産管理（production control）活動（activity）が、企業全体の問題として総合的な視点から把握される（production management）ようになり、さらにサービス産業をも対象となってきたからです。</p> <p>企業における生産活動を学するためには、ベースといえる骨格を、より計画的・効率的に行うために必要となる生産計画（production planning）と生産活動の統制（現場周りの生産管理＝production control）との一連の流れから、理解を深めていくことが大切です。生産計画の種類とその特徴を学び、生産統制の手順、特に計画と実績との差異の測定、その原因の追求と対策を考えていきます。</p> <p>生産管理全体では、小骨にあたる周辺のいくつかの大切なシステムがあります。需要予測では需要変動の原因・種類・予測方法、製品計画では主に新製品開発の必要性、資材管理では資材の流れに沿って購買・外注業務・受け入れ検査業務・保管業務・運搬業務という生産対象に対する管理、設備管理では保守活動を中心に生産手段に対する管理、品質管理では品質の定義・品質管理手法などです。</p> <p>生産管理論では、このような構成を念頭に入れながら、生産の科学的な管理手法を実務的知識を中心に学ぶことをめざします。</p>
授業方法：	講義（10回）と討論形式の演習（4回）で、後者の討論形式の演習では受講生各人にテーマを割り当てレポートを提出し、特定の受講生をレポーターに指名して簡単な発表を行います。
履修の留意点：	履修にあたって、前もって「履修の手引き」に記されている教科書の第1章「生産管理の定義」（P1からP25）を必ず読んでおくこと。
目標と評価：	<p>この授業を受講した学生は、生産管理の全体を理解し、各論にあたるシステムを知ることとなります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>* 生産管理のなかで、計画の内容、統制の内容を具体的に説明できること。</li> <li>* 周辺のシステムで、需要予測、製品計画、資材管理、設備管理、品質管理、作業管理、工程管理、外注管理の意味を具体的に正確に説明できること。</li> <li>* 成績評価の基準は、実務の理解度を重要視し、レポートと試験を半々して見ることにします。</li> </ul>
教科書：	<p>「生産管理論」 西尾 篤人 創成社 2002年11月10日 初版 第1刷</p> <p>_____</p> <p>_____</p> <p>_____</p> <p>_____</p>

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「起業家論」（担当者：鈴木 勘一郎）の履修の手引き

科目名：	起業家論
担当者：	鈴木 勘一郎
対象学生：	経営経済学部3年
設置学期：	秋（集中授業）
概要：	<p>起業家を生み出す背景には、先天的な性格や能力といった個人的側面だけではなく、起業家取り巻く環境やロールモデルの有無、知識経験などが大きく影響している。「ベンチャー経営論」が起業家のための基礎編だとすれば、「起業家論」は応用編である。内外の独立型起業家を取り上げて、議論を通じて彼らの成功要因や失敗原因を明らかにする。</p> <p>また、ベンチャープロセスに関するグループ活動を通して、体験的な学習を行う。</p>
授業方法：	<p>本授業は、「ベンチャー経営論」と同様に5日間の集中コースとなっている。講義に加えて、グループ作業や発表など、様々なプレゼン能力を磨く機会を提供する。グループ活動は、各人が数人ずつのグループに分かれて実習課題をこなし、それをクラスで発表する。</p> <p>＜スケジュールの概略＞          一日目 「本田宗一郎 夢を力に」          前半：教師の自己紹介、講義/議論（1）、グループ編成          後半：グループ作業、発表、議論          二日目 「デルの革命」          前半：クイズ（1）、講義/議論（2）          後半：グループ作業、発表、議論          三日目 「経営はロマンだ」          前半：クイズ（2）、講義/議論（3）          後半：グループ作業、発表、議論          四日目 「社長失格」          前半：クイズ（3）、講義/議論（4）          後半：グループ作業、発表、議論          五日目 「すべては一杯のコーヒーから」          前半：試験、講義/議論（5）          後半：グループ作業、発表、議論、表彰</p>
履修の留意点：	<p>本科目は(1)知識の発展と(2)起業家的意識の涵養を目指しており、この科目単独でも履修できるが、総合的な起業家能力の向上には、春学期で「ベンチャー経営論」、秋学期で「経営事例研究」を履修することを薦める。</p> <p>授業時間が足りないので、時間を効率的に利用するために、本授業が始まる前週末までに（1）テキスト5冊を必ず読んでおく、（2）授業計画に従って予習しておく、等が求められる。事前準備がないと、結果として成績は低下する。（目標と評価の項を参照） 授業計画その他については、履修者に直接メールで通知する。</p> <p>＜学生と教師の役割＞（ベンチャー経営論と共通）          「学生」：起業家精神やベンチャー経営を学ぶのであるから、クラスへの積極参加が求められる。なぜなら起業家精神とは、指示待ちの受身な態度ではなく、何かを付け加えようという積極的な態度だからである。その起業家精神を養うことが授業の目的の一つである。また授業では、議論を通じて学んでいくことが大切だと考えている。そのためにも積極的に自分の意見を言うことが評価される。さらにグループ活動でのリーダーシップや協調性などを重視する。組織は一人では動かせない。他のメンバーをよく理解し、自分も他のメンバーに理解してもらうにはどうすれば良いか、を常に考え行動する。          「教師」：授業に参加して「積極的に学ぼうとする学生」の手助けをする。</p>
目標と評価：	<p>目標と評価（ベンチャー経営論と共通）          本科目は、次の3つの能力を養成することを目指している。          (1) 起業家精神の発揮、(2) ベンチャー経営の理解、(3) チームワーク能力の向上</p> <p>評価の視点 %          グループ活動（発表、課題提出） 30          個人活動（クイズ、試験） 20          参加（出席：30%、クラス議論：20%） 50</p> <p>* 出席では当然差はつかない。また出席するだけではクラスへの貢献はない。この授業は、積極的に参加して初めて意味がでる。成績は(1)「努力した人」&gt;「努力しない人」と、(2)「積極的に参加する人」&gt;「積極的に参加しない人」となるように考慮する。「起業家精神を養成したい人で、努力を惜しまない人」を評価する。（例えば、クラスでの発言回数など。）</p> <p>テスト          ＜クイズ＞： 15分間で、2問の設問に答える。問題はキーワード・リスト（テキストの中からピックアップ）に選ばれたコンセプトの簡単な説明が求められる。キーワード・リストは、履修者に対して事前に通知される。設問はの中から2問ずつ出されるので、事前準備しておくこと。          ＜試験＞： 30分間で、キーワードの説明と1つのテーマに関する論述。</p>
教科書：	<p>日経ビジネス人文庫「本田宗一郎 夢を力に」 日本経済新聞社 2001年</p> <p>「すべては一杯のコーヒーから」 松田公太 新潮社 2002年</p> <p>日経経営文庫「デルの革命」 マイケル・デル 日本経済新聞社 2000年</p> <p>「社長失格-ぼくの会社がつぶれた理由」 板倉雄一郎 日経BP社 1998年</p> <p>日経ビジネス人文庫「経営はロマンだ」 日本経済新聞社 2003年</p>

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。



「企業診断論」（担当者：小沢 勝之）の履修の手引き

科目名：	企業診断論
担当者：	小沢 勝之
対象学生：	経営経済学部3年
設置学期：	秋
概要：	企業診断（企業経営コンサルティング）の目的、役割、発展について学んだのち、主要な手法や体系およびその進め方を、講義と実際の診断実習の形を通して理解する。 企業診断の国家資格に中小企業診断士があるように、この学問はかなり専門的な職業に就きたい人に役立つものである。必ずしも経営コンサルタントにならなくても、企業経営を分析、診断、提言ができることは、これからの社会で重要視されよう。
授業方法：	最初は講義が中心となるが、やがて実際に分析、診断、提言のしかたの実習の形となる。
履修の留意点：	経営学や簿記会計学関係についてその基礎をきちんと身につけていないと、履修は困難になる。また毎回出席し、積み上げて理解していかないと全く分からなくなる。予習、復習もきちんとやれる人の受講が望ましい科目です。
目標と評価：	企業診断の基本を理解し、実際に簡単な企業診断ができる人になることが目標です。 評価は期末テストが中心で約6割、3回位の提出レポートが約4割の形を予定しています。
教科書：	企業診断の実際 宮崎一紀、柳田 譲 日経文庫 1998年 他の参考書は授業中に紹介します

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「経営事例研究」（担当者：田舞 徳太郎）の履修の手引き

科目名：	経営事例研究
担当者：	田舞 徳太郎
対象学生：	経営経済学部3年
設置学期：	秋
概要：	<p>この経営事例研究は、単に難しい講義を聴くということではありません。経営の「何たるか」を、実際に存在する企業の事例を紐解き「体得」するものです。あらかじめ「教育ケース」が準備され、その短い教育ケースを読みながら、準備された設問に基づき自分自身で考えます。つまり、個人授業を行うのです。</p> <p>その後実際の授業でグループ討議を行い、大体の考えが出来上がった時点でクラス討議に入ります。このような勉強方法は、普通の大学では行われておらず、通常MBA（経営大学院）で行われているものです。ケースメソッド授業と呼ばれています。</p> <p>この「経営事例研究」では5社の「教育ケース」を使います。ブロードバンド時代に対応して成功している企業や、環境リサイクル事業で高収益を上げていく企業など興味深い事例で学んでいくのです。</p> <p>① どのような目的でビジネスが始まったのか？                  ② 資金調達をどうしたのか？                  ③ どのように顧客を創造し成功に結び付けたのか？                  ④ マネジメント全般に関してどのような手を打って成功したのか？</p> <p>など、解りやすく経営の事が勉強できる仕組みになっています。</p> <p>事前にケースメソッド授業の進め方の講義と、ケースメソッド授業の効果性について学び、参加者が授業を受けやすい環境を作った後に「経営」に必要な色々な条件を体験的に「ディスカッション」を中心に学ぶものです。</p> <p>ビジネスリテラシー（企業経営の理解力）を高め、参加者のインプット知力・プロセス知力・アウトプット知力を磨きます。</p>
授業方法：	<p>教育ケースを通して5つの企業の事例を研究します。授業終了後に次の授業の時に使用する「教育ケース」をお渡しします。それを読んで個人授業を行い、実際の授業で「グループ討議」「クラス討議」を行うと同時に、色々な企業経営のあり方を講義します。</p> <p>第一回目                  ケースメソッド授業の効果性について講義をします。その後、「教育ケース」の読み方のポイントについて学び、「企業経営」の実際について解りやすくレクチャーをいたします。特に、企業経営の体験のない学生に「個人生活」に置き換えて講義をします。簡単な経営用語とコンセプトの理解を促進します。</p> <p>第二回目                  実際に「教育ケース」を読みながら、教育ケースに出てくる企業の失敗要因や成功要因を講義し、教育ケースとは何か？そこから何を読み取るか？を勉強します。</p> <p>第三回目以降は同じように「教育ケース」を使用して「ケースメソッド授業」を行います。</p> <p>（ケースメソッド授業とは何か）アメリカで生まれた勉強法で、1881年ペンシルバニア大学で最初に行われました。有名なのはハーバード大学ですが、現在ではスタンフォード大学などほとんどのMBA（経営大学院）で活用されています。</p> <p>近年日本の大学院でも取り入れられ、経営のゼネラリスト養成に必要な不可欠なものとして認識され、総合的なマネジメント能力を身に付ける方法としては一番の近道とされています。</p> <p>日本ではかつて現場主義や、年功序列（経験主義）や、OJT（仕事を通じた教育訓練）を通して企業経営の教育をしましたが、アメリカの場合は「ケースメソッド授業」を通して、企業経営の体系的な知識や理論を教育しています。</p> <p>つまり、色々な事例を通して教育ケースとしてまとめ、その教育ケースの「討議」を通して経営実態を模擬体験し、実際の企業経営を学び自分の身に付けていくのです。その効果性は大きく、単なる講義から学ぶまでの教育方法より格段に中身の濃いものです。</p> <p>具体的には、「教育ケース」に基づいて個人授業を行い、個人の意見を出し合いながら「グループ」で討議をし、最終的にクラス全員が討議するという方法が取られます。「これが正しい」という結論はなく、楽しく、討議を通して授業を行うものです。</p>
履修の留意点：	<p>この「経営事例研究」の授業を受ける前に、簡単にビジネスに関する用語を勉強しておくのは効果的です。授業の中で様々なビジネス用語や言葉の定義を学びますが、事前に「ベンチャー経営論」の授業を受けていると理解が深まります。又、P・F・ドラッカーの「現代の経営 新訳・上下（ダイヤモンド社）」を読んでおくのも効果的です。</p>
目標と評価：	<p>① ビジネスリテラシー（企業経営の理解力）を高めます。                  特に、複雑化した経営をシンプルに理解する力が身につきます。</p> <p>② インプット知力が強化されます。                  教育ケースを深く読むことによって、色々な情報が自分の知識として積み重なります。理論的な知的構成能力が高まります。</p> <p>③ プロセス知力が強化されます。                  「教育ケース」を分析したり、仮説を立てたり、推理したりする事で筋道立てて考えを構築する能力が高まります。</p> <p>④ アウトプット知力が高まります。                  グループ討議・クラス討議を通して、人前で自分の意見を述べたり、人の意見に反駁したりすることで、理論的に自分の考えを主張することが出来るようになります。</p> <p>評価は下記のようにします。</p> <p>① 教育ケースの設問シートの提出「30%」                  幾つかの設問を出しますが、個人授業を如何にしたかが大きな評価の一つです。設問シートの内容を検討して、教育ケースを如何に読みこなしているかを評価の基準にします。</p> <p>② 事前配布の「教育ケース」を読んで レポート提出「20%」                  テーマ：「ケースから読み取れる経営者像」400字詰め原稿用紙 5枚以上</p> <p>③ グループ討議・クラス討議について レポート提出「20%」                  テーマ：「何を学んだか」 400字詰め原稿用紙 5枚以上</p>
教科書：	<p>ルネッサンス 再生への挑戦 カルロス・ゴーン/著 中川治子/訳 ダイヤモンド社 2001年</p> <p>現代の経営 新訳 上・下 P・F・ドラッカー/著 上田惇生/訳 ダイヤモンド社 1996年</p> <p>理念経営のすすめ 田舞徳太郎 致知出版社 2002年</p>

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法で

す.

「資金調達論」（担当者：中野 正健）の履修の手引き

科目名：	資金調達論
担当者：	中野 正健
対象学生：	経営経済学部3年
設置学期：	春
概要：	経済のグローバル化が進む中、金融業界も同業者間との合併、提携、そして異業種間との垣根の撤廃、海外企業の参入等、正にボーダレスの時代に突入。資金の調達、運用、投資戦略面を軸にした金融システムそのものが大きな変革の時代に突入した。 この結果、各企業共に経営システムの改革を迫られることとなり、海外での変革動向も見据えながら、今後日本の金融業界は、どう再生、活性化していくべきか、この問題を探り上げる。
授業方法：	講義と、より実践的に修得する目的で映像教育を実施する。
履修の留意点：	資金調達論と投資戦略論は、一貫して受講することが望まれる。
目標と評価：	銀行、証券、保険、損保、消費者金融、政府系金融機関等、日本の金融機関の現状と将来像を学習する。 評価は定期試験等。授業態度等平常点も考慮する。
教科書：	なし

※最終評価は、評価点7割，出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「投資戦略論」（担当者：中野 正健）の履修の手引き

科目名：	投資戦略論
担当者：	中野 正健
対象学生：	経営経済学部3年
設置学期：	秋
概要：	経済のグローバル化が進む中、金融業界も同業者間との合併、提携、そして異業種間との垣根の撤廃、海外企業の参入等、正にボーダレスの時代に突入。資金の運用、投資戦略面を軸にした金融システムそのものが大きな変革の時代に突入した。 この結果、各企業共に経営システムの改革を迫られることとなり、海外での変革動向も見据えながら、今後日本の金融業界は、どう再生、活性化していくべきか、この問題を探り上げる
授業方法：	講義と、より実践的に修得する目的で映像教育を実施する。
履修の留意点：	資金調達論と投資戦略論は、一貫して受講することが望まれる。
目標と評価：	銀行、証券、保険、損保、消費者金融、政府系金融機関等、日本の金融機関の現状と将来像を学習する。 評価は定期試験等。授業態度等平常点も考慮する。
教科書：	なし

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「中小企業経営論」（担当者：宮永 賢久）の履修の手引き

科目名：	中小企業経営論
担当者：	宮永 賢久
対象学生：	経営経済学部3年
設置学期：	春
概要：	<p>中小企業とよばれる企業規模の領域には、実に多数の業種、業態の企業が存在しています。あるいは耳にしたことがあると思いますが、「中小企業はわが国産業の礎」とか、「中小企業によって大企業は支えられている」と言われています。</p> <p>これらの中小企業について、全体像を簡単にとらえることは難しいのですが、産業の重要な部分を担っている事実を知って、正しくその動向や役割を理解することがとても大切です。</p> <p>この講義では、「最近の中小企業をめぐる動向」と「誕生、発展・成長する存在としての中小企業」の姿を学び、具体的に理解するするようにして下さい。皆さんが実社会へ出た時にしばしば出会う幾多の課題が、中小企業の生き様に必ず存在しているはずで、問題解決にそのことを知らずして当ることは、稚拙であり、産業人として資質を疑われかねません。</p> <p>授業では、中小企業白書を使いながら、複雑で多面的な動きを見せている中小企業の経営について、豊富な統計数値やグラフ、図にもとづき、課題や動向を理解していくようにします。</p>
授業方法：	講義（8回）、および討論（6回）。討論は特定の受講生ごとに6グループをつくり、6回のグループ討論を傍聴する形で、各人がレポートを提出。テーマはその都度与える。
履修の留意点：	<p>「中小企業論」は、一元的に把握することが難しく、ともすると学問的な観点が薄いと見がちですが、実はそうではなくて、広い分野で多くの学べき事柄を我々に教えています。現実の経済・産業を理解する入り口であり、他方、永遠の問題をはらんでいるところでもあります。その中のいくつかの課題は、職業につけば、たちまち何らかの形で係りを持つようになります。身近な問題意識をもって、できるだけ広い視野と理解力をつけるようにして下さい。</p>
目標と評価：	<p>中小企業を広く、深く捉え、抱えている問題を具体的に理解するようにして下さい。</p> <p>①中小企業の定義と特徴、これまで担ってきた産業・経済における役割                  ②最近の中小企業の動向                  ③デフレ下の中小企業と海外進出                  ④創業と廃業問題                  ⑤創業の促進（討論1）                  ⑥発展成長と経営革新                  ⑦廃業・倒産問題（討論2）                  ⑧金融の課題                  ⑨雇用創出と喪失問題（討論3）                  ⑩まちの起業家と経済活性化                  ⑪中小企業の経営革新支援策（討論4）                  ⑫まちづくりと中小商業対策（討論5）                  ⑬ものづくりと技術開発支援                  ⑭総括の討論（討論6）</p> <p>評価点は以上の項目の理解度を評価し、項目毎に加算方式で算出します。</p> <p>①各テーマ毎に学習の程度をチェックし、評価〔20%〕                  ②出席および議論における発言の積極性〔10%〕、                  ③発表・レポートの中身での問題把握の努力〔10%〕                  ④レポーター、質問者としての貢献度合い〔10%〕                  ⑤レポート提出〔20%〕                  ⑥学期末レポート試験〔30%〕</p>
教科書：	中小企業白書 2002年版 中小企業庁 編 株ぎょうせい 平成14年5月15日 _____ _____ _____ _____

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「ベンチャーキャピタル論」（担当者：西澤 民夫）の履修の手引き

科目名：	ベンチャーキャピタル論
担当者：	西澤 民夫
対象学生：	経営経済学部3年
設置学期：	秋
概要：	ベンチャーキャピタルは第二次世界大戦後の米国で初めて事業として開始されました。国を支える若くて、急成長の可能性のある企業に事業資金を投資して、その成長を支援するものです。支援は事業資金を供給するだけでなく、マネージメント支援、販路開拓支援等多岐にわたります。その結果、企業が成長し、株式公開を果たし、投資資金を回収します。ベンチャーキャピタル事業を行う人をベンチャーキャピタリストと呼びますが、ベンチャーキャピタリストは広範囲な経験、知識、経営力を要求されます。この講義では日米のベンチャーキャピタルの歴史から始まって、ベンチャーキャピタルの仕組み、ベンチャー企業の支援の実際、投資資金の回収の場としての株式市場について、学びます。また、ベンチャー企業がベンチャーキャピタルにプレゼンテーションするために必要な事業計画書の作り方、分析の仕方を学びます。
授業方法：	講義（8回程度）、実習（6回程度）を行います。各受講生は簡易な事業計画書を作成し、レポートとして提出いたします。
履修の留意点：	できれば初歩の簿記をマスターしておいてもらいたい。ただ、必須というわけではありません。
目標と評価：	この授業を受講した学生は、日米のベンチャーキャピタル及びベンチャー企業について、初歩的な理解を得られます。なぜ、このような事業が必要なのか、また、自分の生き方についても見直すチャンスが得られるはずで 評価点は以下の項目毎に加算方式で算出します。 1. 授業における発言の積極性[50%] 2. 提出される事業計画書の出来具合[50%]
教科書：	ベンチャーキャピタル・サイクル P. ゴンパース、J. ラーナー シュプリングー・フェアラーク東京株式会社 2002年12月16日 産業としてのベンチャーキャピタル 齋藤 篤 株式会社白桃社 2002年1月21日

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「事業創造論」（担当者：和田 耕治）の履修の手引き

科目名：	事業創造論
担当者：	和田 耕治
対象学生：	経営経済学部3年
設置学期：	春
概要：	本講義では、起業、創業、新分野進出などといった企業のイノベーション、経営革新といった分野に焦点をあて、その理論を踏まえつつも具体的なケースを紹介しながら、歴史的、空間的な広がりの中での事業創造のあり方を考える。
授業方法：	講義形式による授業。 講義は以下の点に触れながら展開される。 1. 事業創造にかかわる理論 2. 企業のライフサイクル 3. 第一次ベンチャーブーム 4. 第二次ベンチャーブーム 5. 第三次ベンチャーブーム 6. ベンチャーキャピタルと証券市場 7. インキュベーション施設と地域プラットフォーム 8. 産学官連携と地域振興 9. ベンチャー支援政策の展開 10. ケーススタディー
履修の留意点：	講義ノートは必ずとること
目標と評価：	学期末試験による評価 ただし、履修者人数が少なければ、平常点での評価とする。
教科書：	ベンチャー企業経営論 金井・角田編 有斐閣 2002年    

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。



「産業集積論」（担当者：平井 東幸）の履修の手引き

科目名：	産業集積論
担当者：	平井 東幸
対象学生：	経営経済学部3年
設置学期：	春
概要：	<p>京都・西陣などの伝統的な繊維産地、日立などの企業城下町、東京・渋谷の商業・情報産業・エンターテインメントなどの複合集積・・・これらはいずれも特定地域に特定の産業が集中して立地することでメリットを発揮するもので、産業集積といいます。</p> <p>長期低迷する日本経済活性化の切り札のひとつとして、このような産業集積をどう活用したらよいかを明らかにします。</p> <p>講義の主要な項目は次の通りです（予定）。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 産業集積の定義と分類</li> <li>2 その役割・・・地域経済社会への貢献</li> <li>3 なぜ今、注目されるのか</li> <li>4 工業集積・・・産地（繊維、眼鏡、陶磁器など）、工業団地、企業城下町の場合</li> <li>5 商業集積・・・流通団地、複合商業施設の場合</li> <li>6 複合集積・・・東京・渋谷ほか</li> <li>7 海外の産業集積・・・シリコンバレーの場合</li> <li>8 集積が形成される歴史的な要因背景</li> <li>9 集積のメリットとデメリット</li> <li>10 産業集積が直面する課題と展望</li> </ol>
授業方法：	講義形式で行います。 参考文献としては、取り敢えずは『産業集積の本質』（有斐閣）を薦めます。
履修の留意点：	とくにありません。
目標と評価：	上記の概要で触れたように、産業集積が、モノ作りを基盤とするわが国経済社会を支えていること、そして地域の活性化、経済活性化の有力な手段であることを理解していただきたい。 評価については、出席・平常点と定期試験によります。
教科書：	未定です。

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「経営分析論Ⅰ」（担当者：社本 公一）の履修の手引き

科目名：	経営分析論Ⅰ
担当者：	社本 公一
対象学生：	経営経済学部3年
設置学期：	春
概要：	経営分析は、会社の決算書（財務諸表）の数値に基づいて、自社の経営状態を知る「経営管理目的」と金融機関や取引先、投資家等が自己の取引や投資を行う際の判断材料として行う「投資目的」の二つの側面から行われるものです。経営分析を行うことにより、その企業の安全性、収益性、生産性、成長性等の数値が明らかになりますが、この数値はあくまでも過去の決算書を分析したものであり、将来の成長性等を正確に予測できるものではありません。従って、経営分析を行う上で、重要なことは、分析値の個々の数値がどのような意味を持ち、またなぜそのような数値になったかを理解することであり、その上で現時点での問題点や将来の経営計画に役立てるための総合的な判断を行う必要があります。本講義では、こうした経営分析の目的・種類・体系に関する基礎的な知識を学習・理解した上で、財務諸表分析の手法を中心として、法人税（税効果会計）との関連及び近年実務上においても注目されているキャッシュフロー分析、EVA等についても基礎的な学習を行う予定です。
授業方法：	講義を中心として、理解度を確認するために月一回程度の演習を行う。
履修の留意点：	財務会計の基礎的な知識を身につけていることが必要である。
目標と評価：	企業の決算書に基づいて経営分析を行った上で、その数値の持つ意味を理解し総合的な判断を行えることを最終的な目標とします。 評価点は、学期末の試験による評価点及び出席点を中心に、授業中に定期的に行う演習の評価も加味した上で、総合的に算出します。
教科書：	①大塚宗春・辻正雄 共著『現代会計学の基礎5 管理会計の基礎』（税務経理協会、1999年）②高田直芳 著『決定版ほんとうにわかる経営分析』（PHP研究所、2002年）③川口勉 著『Q&A経営分析の実際（日経文庫）』（日本経済出版社、1997年）④佐藤紘光・飯泉清・齋藤正章 著『株主価値を高めるEVA経営』（中央経済社、2002年）

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「経営分析論Ⅱ」（担当者：社本 公一）の履修の手引き

科目名：	経営分析論Ⅱ
担当者：	社本 公一
対象学生：	経営経済学部3年
設置学期：	秋
概要：	概要： 経営分析論Ⅰで学習した基本的な概念・手法に基づき、本講義では実際の企業の財務データを活用し演習の形式で分析を行います。その上で、優良企業・不良企業の比較、個々の企業の抱える問題点を見つける手法を、実践的な演習を行っていく中で学習します。 また、経営分析論Ⅰで学習することの出来なかった、バランス・スコアカード等の新しい手法についても出来る限り言及する予定です。
授業方法：	授業方法： 企業の財務データに基づいて、計算・演習を中心に行う。
履修の留意点：	履修上の留意点： 経営分析論Ⅰを履修した上で受講することが望ましい。
目標と評価：	目標と評価： 本講義は経営分析論Ⅰの延長線にあるため、Ⅰで身につけた基本的な経営分析の手法を更にふくらませ、企業の問題点等を総合的に判断できるようになることとともに、新たな方法についても基礎的な知識を身につけることを目標とします。  評価点は、学期末の試験による評価点及び出席点を中心に、授業中に定期的に行う演習の評価も加味した上で、総合的に算出します。
教科書：	プリント等配布のため、特定の教科書は指定しません。①佐藤裕一 著『ビジュアル経営分析の基本（日経文庫）』（日本経済新聞社、1999年）②大塚宗春・辻正雄 共著『現代会計学の基礎5 管理会計の基礎 ③佐藤紘光・飯泉清・齋藤正章 著『株主価値を高めるEVA経  ④高田直芳 著『決定版ほんとうにわかる経営分析』（PH ⑤川口勉 著『Q&A経営分析の実際（日経文庫）』（日本経済出版社、1997年）

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「人的資源 I」（担当者：佐野 陽子）の履修の手引き

科目名：	人的資源 I
担当者：	佐野 陽子
対象学生：	経営経済学部3年
設置学期：	春
概要：	<p>* 人的資源という聞きなれないかもしれませんが、労働力とか従業員とか言われているものです。資源というのは、企業にとって、資金・原材料・機械設備・情報などと並んで、経営資源の一つです。人的資源は企業だけではなく、自治体などの公的機関や学校・病院などの非営利団体においても、その目的を達成するために必要な経営資源となります。</p> <p>* 経営資源は、組織体の目的達成のために、効率のよい活用をすることが重要です。人的資源は、どのように調達し、管理するばよいでしょうか。</p> <p>* 働く側から見ると、企業はどのように人を募集し、採用し、育成し、報酬を払い、職場生活を運営するのでしょうか。</p> <p>* 国際化、IT化、高齢化の波が押し寄せる環境の中で、企業の人的資源施策はどのような舵取りをすればよいのでしょうか。またそれに併せて、働く人はどのように行動すればよいのでしょうか。</p>
授業方法：	人数によりますが、できるだけ双方向の情報や意見の交換をしたいと思います。
履修の留意点：	テキストは、授業で半分程度しか使いませんが、毎回、持参してください。
目標と評価：	<p>以下の習得が目標です。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 日本的ヒューマン・リソース・マネジメント</li> <li>2. 経営環境</li> <li>3. 従業員の特色</li> <li>4. ヒューマン・リソースの調達</li> <li>5. 人員の配置と異動</li> <li>6. 教育訓練とキャリア・デベロップメント</li> </ol> <p>評価は定期試験によります。試験は論述式で、持ち込みは何でもOKです。</p>
教科書：	ヒューマン・リソース・マネジメント 佐野陽子 日本労働研究機構・日本労使関係研究協会 平成15年 価格1,000円

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「人的資源Ⅱ」（担当者：佐野 陽子）の履修の手引き

科目名：	人的資源Ⅱ
担当者：	佐野 陽子
対象学生：	経営経済学部3年
設置学期：	秋
概要：	<p>* 人的資源という聞きなれないかもしれませんが、労働力とか従業員とか言われているものです。資源というのは、企業にとって、資金・原材料・機械設備・情報などと並んで、経営資源の一つです。人的資源は企業だけではなく、自治体などの公的機関や学校・病院などの非営利団体においても、その目的を達成するために必要な経営資源となります。</p> <p>* 経営資源は、組織体の目的達成のために、効率のよい活用をすることが重要です。人的資源は、どのように調達し、管理するばよいでしょうか。</p> <p>* 働く側から見ると、企業はどのように人を募集し、採用し、育成し、報酬を払い、職場生活を運営するのでしょうか。</p> <p>* 国際化、IT化、高齢化の波が押し寄せる環境の中で、企業の人的資源施策はどのような舵取りをすればよいのでしょうか。またそれに併せて、働く人はどのように行動すればよいのでしょうか。</p>
授業方法：	人数によりますが、できるだけ双方向の情報や意見の交換をしたいと思います。
履修の留意点：	テキストは、授業で半分程度しか使いませんが、毎回、持参してください。
目標と評価：	<p>以下の習得が目標です。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 生産性・業績・人事考課</li> <li>2. 給与システム</li> <li>3. 企業福祉と退職金</li> <li>4. 従業員関係マネジメント</li> <li>5. 労働生活の質</li> <li>6. 国際化とヒューマン・リソース</li> </ol> <p>評価は定期試験によります。試験は論述式で、持ち込みは何でもOKです。</p>
教科書：	<p>ヒューマン・リソース・マネジメント 佐野陽子 日本労働研究機構・日本労使関係研究協会 平成15年 価格1,000円</p>

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「経営プレゼンテーション論」（担当者：由木尾 武）の履修の手引き

科目名：	経営プレゼンテーション論
担当者：	由木尾 武
対象学生：	経営経済学部3年
設置学期：	春
概要：	<p>企業活動における会議や営業の際に利用されることの多いプレゼンテーションソフトウェアの利用法を中心に、デジタル時代のプレゼンテーション手法を学ぶ。</p> <p>使用ソフト：PowerPoint、Outlook、Word&amp;Excel          到達目標：企業活動を通じて自己実現を図るための自己表現手法を身に付ける。          受講対象：ピカールの企業人を指す人</p>
授業方法：	<p>机上の講義ではなく、プレゼンテーションのための作品作成と実習を通じて、実践的なプレゼンテーション手法を学ぶ。</p> <p>自己実現のための自己PR          ・名刺 ・プロフィール ・CD-R          組織目的のためのプレゼンテーション          ・会社のPR ・商品説明 ・グラフ ・論点整理          グループによる作業の効率化          ・Outlook Today ・ワークフロー 会議計画&amp;出席依頼等          起業家をめざすためのプランニング          ・企画書 ・法人の種類、資本金等 ・登記手続等</p>
履修の留意点：	<ul style="list-style-type: none"> <li>・プレゼンテーション手法を習得するためには、初回はもとより、毎回継続して受講すること。</li> <li>・市販の教科書は使いません。毎回、履修内容にそったマニュアルを用意します。</li> </ul>
目標と評価：	<ul style="list-style-type: none"> <li>・履修状況と制作する作品の出来栄（プレゼンテーション力）で評価する。</li> <li>・定期試験は行わない。</li> </ul>
教科書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「多国籍企業論」（担当者：馬田 啓一）の履修の手引き

科目名：	多国籍企業論
担当者：	馬田 啓一
対象学生：	経営経済学部3年
設置学期：	秋
概要：	本講義では、最新かつ重要な多国籍企業と海外直接投資の諸問題について平易に解説する。前半は多国籍企業の海外投資戦略に関する一般的な問題を取り上げ、海外直接投資の諸要因と形態、企業内貿易の実態、投資摩擦への対応などについて講義する。後半は日本企業のグローバル化を取り上げ、その現状と問題点、今後のグローバル戦略の行方などについて講義する。
授業方法：	授業は一回完結方式。毎回の講義テーマについては、「授業計画」を参照。講義内容を要約した簡単なレジュメを毎回配布する予定。
履修の留意点：	経済学や経営学の基礎知識があることが望ましいが、なくてもよい。日本企業のグローバル化に対する旺盛な問題意識さえあれば、必ず興味深く受講できる。
目標と評価：	レポート提出（1回）と定期試験の結果により評価する。試験の方法は、講義で取り上げたテーマの中から自由に一つ選んで論述。持ち込み可。
教科書：	「日本企業と直接投資」 青木健・馬田啓一編著 勁草書房 1997年

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「経営史」（担当者：小沢 勝之）の履修の手引き

科目名：	経営史
担当者：	小沢 勝之
対象学生：	経営経済学部2年・短期大学部2年
設置学期：	春
概要：	コンビニエンスストアのセブンイレブンやアメリカのゼネラルモーター自動車会社など、現代を代表する企業はどのようにして発展してきたのかを明らかにするのが経営史です。理論よりも実際の企業が行ってきた経営革新の軌跡を比較検討して、現代企業経営の成り立ちや特徴を明らかにしていきます。経営史は経営の歴史ですが、決して古い時代を扱うわけではありません。私達の生活と深い関係にある企業経営を理解するために、その成り立ちや特徴を実際の企業の経験の比較から明らかにするのです
授業方法：	そのため理論よりも実際の企業が行ってきた経営革新の事例（ケース）を多数紹介します。ノートの取り方を工夫してください。また事例を示して、もし自分が経営者であったらどのような戦略をとりますか？ というような質問をして、答えてもらい、そのうえで皆でディスカッションする形も時々とります。
履修の留意点：	特にありませんが、経営学の基本は理解しててください
目標と評価：	経営史の基本的な見方ができ、企業の成り立ちの概要を理解できるようになるのが目標です。評価は年度末のテストが中心になりますが、事例を前提に回答する形ですので、テストの際はノートやテキストなど持込OKの形になります。
教科書：	経営史—欧米 山下幸夫 編著 日本評論社 1977年
	参考書は授業で紹介します

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。



「商品企画」（担当者：上田 卓爾）の履修の手引き

科目名：	商品企画
担当者：	上田 卓爾
対象学生：	短期大学部2年
設置学期：	春
概要：	<p>新製品（商品）を開発することは、企業における1つの社会的役割でもあるが、ただ漫然と開発し、販売するだけでおそれとヒット商品が生まれるわけではない。また、売れる商品でなければ会社に経済的損失をもたらすばかりでなく、その商品の開発・販売に携わった担当者のやる気をそいで、人的な損失までもたらすことになる。</p> <p>不況かつモノ余りといわれる現代においても「ヒット（売れ筋）商品」は次々に現われるが、宣伝が良いから売れるのか、ネーミングが良いからか、あるいは本当に良い品質の商品だからなのか。それを理解するためには購入する側の視点でなく売る側・作る側の視点から商品を見る必要がある。商品企画とは、商品を「売れる商品」として開発するために必要となるプロセスであると言える。本講では①過去の商品開発事例を検証しつつ、②商品企画の概念とその手順、CS（顧客満足）、ネーミングの基礎などについて学ぶこととし、③旅行商品を企画の対象として取り上げてみる。</p>
授業方法：	<p>特定の教科書は使用しない。受講者にも積極的に参加してもらい授業にするため、毎回ネーミングに必要な基礎トレーニングや文書の書き方などの練習も実施する。また、商品開発事例の研究も行う。</p> <p>① オリエンテーション/商品企画とは                  ② 商品企画の目標                  ③ CSと商品企画（1）                  ④ CSと商品企画（2）                  ⑤ 売れる商品企画のために                  ⑥ 商品企画のシステム化（1）                  ⑦ 商品企画のシステム化（2）                  ⑧ ヒットを生む発想（1）                  ⑨ ヒットを生む発想（2）                  ⑩ ネーミング（1）                  ⑪ ネーミング（2）                  ⑫ 稟議書・企画書・提案書・社外文書                  ⑬ 旅行商品を企画する（1）                  ⑭ 旅行商品を企画する（2）</p>
履修の留意点：	<p>身近な商品だけでなくいろいろなジャンルの商品に興味を持つことが望ましい。また後掲の参考書を手にとってみることで、できれば読んでみる。授業中に頻繁に使用するので、国語辞典（実用的なものを持っていないければ三省堂発行の新明解国語辞典第五版が最も適当）を毎回持参することが望ましい。</p> <p>&lt;参考書&gt;                  商品企画七つ道具 神田範明 編著 日科技連出版社 2000年9月 6刷                  匠の時代2巻・5巻 内橋克人 講談社文庫 1982年3月                  すべてはネーミング 岩永嘉弘 光文社新書 2002年2月                  カタカナ語の正体 小林忠夫 丸善ライブラリー 1999年7月</p>
目標と評価：	<p>商品企画のシステム化などについて理解し、最終的には自分の力で商品の企画ができるようになることが究極の目標であるが、そのための基礎力を蓄えることはもっと大切である。講義内容の理解度はもとより、豊かなあるいはユニークな発想、しっかりしたネーミングや文書作成の能力を評価する。評価は期末試験と受講態度により行う。</p>
教科書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「広報・宣伝企画」（担当者：柴生田 俊一）の履修の手引き

科目名：	広報・宣伝企画
担当者：	柴生田 俊一
対象学生：	短期大学部2年
設置学期：	秋
概要：	企業が、消費者・取引先・従業員・株主・マスコミなどから、その商品や経営に対する理解・協力・支持を得るためには、広報及び宣伝というコミュニケーション活動が不可欠である。我々はテレビや新聞を通じて、さまざまなニュースや広告(CM)に接しているが、これらはほとんど企業の広報・宣伝活動によるものである。 日本の企業はどこも、経済のグローバル化・成熟化・情報化などにより、大きな転換期を迎えている。広報活動や宣伝活動も、新たな課題をいろいろ抱えている。 ここでは、企業の広報・宣伝活動の意義や役割を考えるとともに、コミュニケーション活動やマーケティング活動の視点から、その実務や課題を学ぶ。実例研究や演習をまじえながら、実践的理解を深めていきたい。
授業方法：	講義、実例研究、ネット検索、アンケート(学ナビ)
履修の留意点：	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. コミュニケーションとは(発信者、受信者、媒体)</li> <li>2. メディア(4媒体、インターネットなど)の性格、潮流</li> <li>3. 広報とは、マネジメントとは。</li> <li>4. 広報の企画(実例研究、演習)</li> <li>5. これからの広報(新メディア、企業倫理、危機管理など)</li> <li>6. 宣伝とは、マーケティングとは。</li> <li>7. 宣伝の企画(実例研究、演習)</li> <li>8. これからの宣伝(新メディア、ブランディング、IMCなど)</li> </ol>
目標と評価：	最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。 ミニレポート、演習、期末レポート
教科書：	使用しません。

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「経営情報論Ⅰ（再履修用）」（担当者：坂口 寿一）の履修の手引き

科目名：	経営情報論Ⅰ（再履修用）
担当者：	坂口 寿一
対象学生：	短期大学部2年
設置学期：	秋
概要：	経営における情報技術（IT）の活用度は日増しに高まっており、ITを制することが企業生き残りの条件とも言われています。また、企業の情報システムに対する考え方や取り組み方も大きく変化しつつあり、その要因になっているのがインターネットを中心とするコンピュータネットワークです。本講では、企業や社会組織における各種情報システムの概要について今昔併せて学びながら、企業のITへの取り組み姿勢やIT活用の実態を勉強します。
授業方法：	講義形式を主体にしますが、パソコンを使った授業も行います（「履修上の留意点」の項を参照してください）。
履修の留意点：	予習・復習のために、授業情報（授業計画など）を常に関覧するようにしてください。また、パソコン携行が必要な場合などの連絡事項も、授業計画のページに記載します。
目標と評価：	特に以下の5項目について深く理解し、自分の考えや意見が述べられるようになることが目標です。 <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 企業組織と経営活動および情報化戦略</li> <li>2. 企業の情報システム</li> <li>3. マーケティングやCS向上の為の情報システム</li> <li>4. オープンネットワークを活用したシステム</li> <li>5. ビジネス分野における情報システムの活用</li> </ol> <p>評価は、本試験を主体としますが、途中に課すレポートも加味して行います。</p>
教科書：	<書名>基本情報技術者テキストNo.6「情報化と経営」【2003年版】<著者名>（財）日本情報処理開発協会監修 <出版社名>コンピュータ・エージ社 <出版年>2003年3月1日第一版第一刷

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「経営情報論Ⅰ」（担当者：宮本 勉）の履修の手引き

科目名：	経営情報論Ⅰ
担当者：	宮本 勉
対象学生：	短期大学部2年
設置学期：	春
概要：	<p>情報処理およびネットワークを基盤とする現在の企業活動には、各種の情報をコンピュータで扱えるようにするための情報化が企業の生き残りのために必須となっています。それは、ITバブル崩壊後の現在においても、情報系企業のみならず業種を越えて、さらに世界的規模で進められています。</p> <p>(1) 経営工学                  (2) 情報システムの活用                  (3) 関連法規と標準化                  (4) セキュリティ</p>
授業方法：	<p>基本的には、講義を中心としますが、演習、レポート、実習、等を適宜取り入れていきます。また、e-Campusをフルに活用するため、毎回の授業では、ノートPCが必須となります。そこで、斡旋パソコンを購入した人は、大容量バッテリーへの充電を十分にしてきて下さい。また、斡旋パソコン以外の人は、嘉悦e-Campusに無線LANカードで接続できるようにし、さらに、大容量のバッテリーを用意し、十分に充電して授業に臨んで下さい</p>
履修の留意点：	<p>毎回、ノートPCを利用しますので、パソコン講習会には必ず出席して下さい。また、授業中、e-Campusへの接続が必須ですので、講義が開設されるまでには、必ずe-Campusネットワークに接続できるようにしておいて下さい。</p> <p>主に、インターネット検索により関連情報の収集をおこなったり、グループに別れた調査研究発表などもできたら行っていきたいと考えています。</p> <p>授業は、受講生の平均的な知識レベルを前提に進めますので、既に知識のある人には退屈になり、初めての人には難しすぎるという問題が生じます。そうならないように、講師側も努力をしますが、皆さんも、特に初めての人は予習・復習、講師への質問等をe-Campusを活用して行って下さい</p>
目標と評価：	<p>嘉悦では、出席点が30点あります。1回の欠席で3点減点、3回の遅刻（開始から15分まで）で1回の欠席となってしまいます。本講義の内容は多岐にわたっていますので、自分が興味のある内容の回や興味のない回もあると思いますが、知らないことを知ること、または興味のないことに興味を持つことの方が却って新しい世界との出会いがあり、自信の進路の選択肢を広げる可能性があります。ですから、授業には、欠かさずに出席しましょう。また、出席するからには、授業に集中しましょう。期末には、筆記試験を予定しています。落とすための試験ではありません。普通に学習し、授業に出席していれば、A以上の評点がつくはずですよ。</p>
教科書：	<p>情報処理技術者試験 情報化と経営 攻略ハンドブック 切通 博朗 リックテレコム 2001年8月1日初版第1刷（¥2,000）</p>

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「経営情報論Ⅱ」（担当者：南 憲一）の履修の手引き

科目名：	経営情報論Ⅱ
担当者：	南 憲一
対象学生：	短期大学部2年
設置学期：	秋
概要：	<p>企業経営において求められる分析手法の代表的な二つの体系、IE (Industrial Engineering)、OR (Operations Research) の基礎的な技法について、基本情報技術者の試験範囲に従って学習を進める。IE、ORともに数学的な理論が含まれるが、コンピュータを用いた処理を合わせて行いながら、具体的な分析手法を身につけられるように授業を進めていきたい。</p> <p>(内容)</p> <p>IE分析手法 品質管理技法 確率と統計 線形計画法 日程計画 (スケジューリング) 待ち行列理論 在庫管理 需要予測</p>
授業方法：	パソコンを使用しながら講義を進めていくので、ノートパソコンを必ず持参すること。
履修の留意点：	嘉悦e-Campusを活用して授業を進めるので、授業時間内だけでなく自宅でも授業情報のページを開き、予習・復習に役立てること。
目標と評価：	定期試験で評価する。
教科書：	<p>基本情報技術者テキストNo6 情報化と経営 (財)日本情報処理開発協会 中央情報教育研究所 コンピュータエージ社 2001年</p> <p> </p> <p> </p> <p> </p> <p> </p>

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「情報産業論」（担当者：宮澤 信一郎）の履修の手引き

科目名：	情報産業論
担当者：	宮澤 信一郎
対象学生：	短期大学部2年
設置学期：	秋
概要：	伝統的な新聞社やテレビ局から最新のネットビジネスまで、各種のメディアを利用して情報というソフトウェアを販売する産業の役割りとその現状について学びます。
授業方法：	講義が中心ですが、出来るだけマルチメディア等を使用して、視覚的にも分かるように多角的な授業にしたいと考えています。
履修の留意点：	特にありません。
目標と評価：	情報産業やe-ビジネスの現状と近い将来を知り、就職にも役立つことを目標にします。評価は小テスト、レポート、受講態度によって総合的に評価します。
教科書：	情報産業勢力地図—IT技術はビジネスをどう変えたの 城井田 勝仁（監修）、浜屋 敏（著）かんき出版 1,500円＋税

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「ネットワークビジネス論」（担当者：滑川 光裕）の履修の手引き

科目名：	ネットワークビジネス論
担当者：	滑川 光裕
対象学生：	短期大学部2年
設置学期：	春
概要：	ネットワークビジネスを知るためには、まず知的所有権について知る必要がある。知的所有権には、工業所有権と著作権があり、これらが知的労働をコンピュータのコピー文化から保護する役目をしている。しかしながら、近年では、「ビジネスモデル特許」といわれるものが表れ、工業所有権の仕組みによってビジネスの方法を保護する動きがある。しかしながら、知的所有権は、昔から国際勢力による「グレイゾーン」があり、難しい側面を持っている。 また、P2P（ピアツーピア）という技術により、特に著作権の保護が難しくなっている。しかし、これについても今後は、新たな情報技術とビジネスモデルの導入によって解決が図られるものと思われる。これについては、音楽関係部門を持つ幾つかの先進企業が様々な取り組みをしている。 以上について、ネットワークビジネスを技術と法律の面からの考察を行う。
授業方法：	講義形式で行う。 授業中に小テスト・レポート提出を行う。
履修の留意点：	特になし。
目標と評価：	授業中の小テスト・レポートと期末テストによる評価を行う。
教科書：	(授業中に指示する)    

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「経営管理論Ⅱ」（担当者：白坂 亨）の履修の手引き

科目名：	経営管理論Ⅱ
担当者：	白坂 亨
対象学生：	短期大学部2年
設置学期：	秋
概要：	産業が発展し、企業が巨大化するにしたがって、会社経営には管理の必要性が生じてきました。本講義においては、生産技術の進化、政治経済情勢の変化、価値観の多様化、情報通信の高度化に伴い、経営管理論も変化、発展してきた過程を確認、理解していく。
授業方法：	先ず講義に先立ち、板書し、次いで資料を配布、出席をとったうえで、板書事項の説明を中心に講義します。 1 企業行動と経営戦略 2 経営の国際化と多国籍企業 3 日本的経営論 というテーマの下、それぞれ4～5回に分けて講義します
履修の留意点：	特になし
目標と評価：	評価 出席については厳格にとりますのでそのつもりで出席してください。
教科書：	新世紀の経営学 佐久間信夫編著 学文社 2000 _____ _____ _____

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。



「ファイナンシャルベーシック」（担当者：梶原 稔）の履修の手引き

科目名：	ファイナンシャルベーシック
担当者：	梶原 稔
対象学生：	短期大学部1年
設置学期：	春
概要：	<p>みなさんは、2年後実社会に出てお金に関する様々なことを経験することとなります。たとえば、①給与振り込みのための普通預金口座を開設します。②お給料をもらう際に、所得税、社会保険料などが差し引かれます。③自動車を購入して、ローンを組む人もいるかもしれません。④何年かして結婚するとどうやって家計をやりくりするか考えます。⑤子供ができると親として子供の養育費の準備をする必要があります。⑥自宅あるいはマンションを購入するためにはお金を借りる人がほとんどです。⑦まだ早い話ですが、自分自身が働けなくなった老後をどのようにして生活していったらよいか考えなくてはなりません。</p> <p>このような、今から迎える様々な人生の場面において、無理のない安心した生活を送れるようにしたいものです。そのためには、その場になって困らないように事前にゆとりを持った人生設計をしていくことが大事です。この設計をすることがライフプランニングです。</p> <p>この授業では、このライフプランニングができるようになることが目標です。</p> <p>具体的には、FP7科目のうち、①ファイナンシャルプランニング（FP）基礎（FPの歴史、現状）②ライフプランニング、リタイアメントプランニング③不動産有用設計の基礎知識を習得します。</p>
授業方法：	講義形式によるます。
履修の留意点：	FP関連科目（マネーポートフォリオ・タックスプランニング）を同時に履修することが望ましいです。
目標と評価：	<p>目標：FP3技能士 FP2級技能士合格</p> <p>評価：授業に臨む姿勢と期末テスト、ならびに、FP技能士試験結果により評価します。</p>
教科書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「ライフプランニング」（担当者：梶原 稔）の履修の手引き

科目名：	ライフプランニング
担当者：	梶原 稔
対象学生：	短期大学部1年
設置学期：	秋
概要：	春学期で習得した知識をもとにして、FP3級技能士、FP2級技能士試験に向けた受験対策を行います。
授業方法：	講義形式で行います。
履修の留意点：	FP関連科目（リスクマネジメント・タックスプランニング）を同時に履修することが望ましいです。
目標と評価：	目標：受講者が自らのライフプランを作成することができること。 評価：授業に臨む姿勢とレポート（ライフプランの提案書）により評価します。
教科書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「リスクマネジメント」（担当者：山崎 博司）の履修の手引き

科目名：	リスクマネジメント
担当者：	山崎 博司
対象学生：	短期大学部1年
設置学期：	春
概要：	この科目の最終目標は、2級ファイナンシャルプランニング技能士の資格取得にある。その最終目標を達成するために、この科目では保険と金融商品の初歩的な知識を学ぶ。保険は万一の時に備える保障であり、生命保険と損害保険（火災保険や自動車保険など）がある。また、金融商品には、預貯金のほか、債券、株式、投資信託などがある。これらのしくみや活用方法の初歩を説明する。保険や金融商品の知識は、資格取得のためだけでなく、自分自身の将来に役立つものであり、ぜひ、学んで欲しい。
授業方法：	講義を中心に、授業を進める。前半7回は保険を、後半7回は金融商品を説明する。資料やレジュメを配布し、できるだけわかりやすく解説したい。授業で得た知識の整理と定着のために、自習用の練習問題も用意する。
履修の留意点：	2級ファイナンシャルプランニング技能士の資格取得のためには、この科目のほかに、春学期に「ファイナンシャルベーシック」、「タックスプランニングⅠ」を履修し、秋学期に「ライフプランニング」、「マネーポートフォリオ」、「タックスプランニングⅡ」を履修する必要がある。
目標と評価：	保険と金融商品の初歩的な知識の修得が目標となる。保険の初歩的な知識の修得状況を確認するため、第8回の授業で中間試験を実施する。また、金融商品の基礎的な知識の修得状況を確認するため、定期試験を実施する。成績は、中間試験、定期試験、および日常の学習状況をもとに総合的に評価する。
教科書：	特に指定しない。必要に応じて、資料やレジュメを配布する。

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「マネーポートフォリオ」（担当者：山崎 博司）の履修の手引き

科目名：	マネーポートフォリオ
担当者：	山崎 博司
対象学生：	短期大学部1年
設置学期：	秋
概要：	この科目の最終目標は、2級ファイナンシャルプランニング技能士の資格取得にあるその最終目標を達成するために、この科目では保険と金融商品分野の検定試験問題を中心に学習する。
授業方法：	過去に行われた検定試験問題の解説を中心に授業を進める。自習用の演習問題もできる限り多く用意したい。知識の定着を図るため、毎回、小テストを行う。検定試験の直前には、放課後などに模擬テストも行う。
履修の留意点：	2級ファイナンシャルプランニング技能士の資格取得のためには、この科目のほかに、春学期に「リスクマネージメント」、「ファイナンシャルベーシック」、「タックスプランニングⅠ」を履修し、秋学期に「ライフプランニング」、「タックスプランニングⅡ」を履修する必要がある。
目標と評価：	保険と金融商品分野について、検定試験に合格できるレベルの知識を修得することが目標となる。成績は、毎回の小テスト、定期試験、および日常の学習状況をもとに総合的に評価する。
教科書：	特に指定しない。必要に応じて、資料やレジュメを配布する。

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「タックスプランニングⅠ」（担当者：井上 行忠）の履修の手引き

科目名：	タックスプランニングⅠ
担当者：	井上 行忠
対象学生：	短期大学部1年
設置学期：	春
概要：	日本における税制（所得税・法人税・地方税・消費税等）の概要、一人医療法人の基礎知識・節税に関する倫理及び税理士の業務に関する基礎知識について学ぶ。
授業方法：	授業体系は、所得税、法人税、その他地方税、相続税、贈与税、等について学び、ファイナンシャルプランナー（AFP）取得のための提案書作成書を重点的に行う。
履修の留意点：	他のAFP取得科目（ファイナンシャルベーシック・リスクマネジメント）とともに履修しなければならない。
目標と評価：	AFP取得のための提案書が合格点に達した者のみ単位修得できる。
教科書：	AFP資格審査試験問題集Ⅲ 日本ファイナンシャル・プランナーズ協会

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「タックスプランニングⅡ」（担当者：井上 行忠）の履修の手引き

科目名：	タックスプランニングⅡ
担当者：	井上 行忠
対象学生：	短期大学部1年
設置学期：	秋
概要：	日本における税制（相続税・贈与税・消費税等）の概要、一人医療法人の基礎知識・節税に関する倫理及び税理士の業務に関する基礎知識について学ぶ。
授業方法：	授業体系は、所得税、法人税、その他地方税、相続税、贈与税、等について学び、ファイナンシャルプランナー（AFP）取得のための提案書作成書を重点的に行う。
履修の留意点：	他のAFP取得科目（ライフプランニング・マネーポートファリオ）とともに履修しなければならない。
目標と評価：	AFP取得のための提案書が合格点に達した者のみ単位修得できる。
教科書：	AFP資格審査試験問題集Ⅲ 日本ファイナンシャル・プランナーズ協会

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「オフィス実務Ⅰ」（担当者：藤井 秀子）の履修の手引き

科目名：	オフィス実務Ⅰ
担当者：	藤井 秀子
対象学生：	短期大学部1年
設置学期：	春
概要：	企業に代表される組織体の中で「働く」ということを想定して、基本的な知識と具体的な業務との両面から学ぶ。 まず基本的なこととして、組織といわれるものの種類、企業の種類・形態・目的など概論的な知識を得た上で、企業の各部署において日常的に行われる業務について、具体的な処理の仕方を、実務を通して身につけるようにする。 日常的な業務の中でも、職場におけるコミュニケーションや人間関係、職場のルールやマナーなど、主に対人関係の業務について深く掘り下げて、学習する。
授業方法：	14回の授業を行うが、前半は講義形式、後半は「イン・バスケット」という実習形式で進める。 なお、毎回授業の初めに「カタカナ言葉」を5語ずつ覚える。それが20語になると小テストを行う。
履修の留意点：	「働く」ということに関心を持ち、自分は何のために働くのか、自分は仕事とどう関わり方をしたいのかということを考えておいてほしい。
目標と評価：	<目標> 企業というものの本質を捉え、その中での自分の位置や仕事に対する考え方を確立する。 社会人として、立派に企業の業務に携われる知識と技能を身につける。 <評価> 次の4つの平均点からの総合評価とする。 1、期末テスト 2、随時行う小テスト 3、実務の評価 4、授業中の態度
教科書：	ビジネスワーク演習 有賀秀春／編著・藤井秀子共著 同文書院 2003年3月

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「オフィス実務Ⅰ」（担当者：藤井 秀子）の履修の手引き

科目名：	オフィス実務Ⅰ
担当者：	藤井 秀子
対象学生：	短期大学部1年
設置学期：	春
概要：	企業に代表される組織体の中で「働く」ということを想定して、基本的な知識と具体的な業務との両面から学ぶ。 まず基本的なこととして、組織といわれるものの種類、企業の種類・形態・目的など概論的な知識を得た上で、企業の各部署において日常的に行われる業務について、具体的な処理の仕方を、実務を通して身につけるようにする。 日常的な業務の中でも、職場におけるコミュニケーションや人間関係、職場のルールやマナーなど、主に対人関係の業務について深く掘り下げて、学習する。
授業方法：	14回の授業を行うが、前半は講義形式、後半は「イン・バスケット」という実習形式で進める。 なお、毎回授業の初めに「カタカナ言葉」を5語ずつ覚える。それが20語になると小テストを行う。
履修の留意点：	「働く」ということに関心を持ち、自分は何のために働くのか、自分は仕事とどう関わり方をしたいのかということを考えておいてほしい。
目標と評価：	<目標> 企業というものの本質を捉え、その中での自分の位置や仕事に対する考え方を確立する。 社会人として、立派に企業の業務に携われる知識と技能を身につける。 <評価> 次の4つの平均点からの総合評価とする。 1、期末テスト 2、随時行う小テスト 3、実務の評価 4、授業中の態度
教科書：	ビジネスワーク演習 有賀秀春／編著・藤井秀子共著 同文書院 2003年3月

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。



「オフィス実務Ⅱ」（担当者：藤井 秀子）の履修の手引き

科目名：	オフィス実務Ⅱ
担当者：	藤井 秀子
対象学生：	短期大学部1年
設置学期：	秋
概要：	春学期に学んだ「オフィス実務Ⅰ」を基礎に、企業の中での各部署における日常業務の詳細を学ぶ。企業の中の日常業務の内、文書・会議・日程管理・ファイリングなど、主に情報処理業務について学習する。
授業方法：	授業は14回行う。前半は講義形式、後半は自分で業務の処理をする「イン・バスケット」という実習形式で進める。 なお、毎回授業の初めに「カタカナ言葉」を5語ずつ覚える。それが20語になると小テストを行う。
履修の留意点：	「働く」ということに関心を持ち、自分は何のために働くのか、自分は仕事とどう関わり方をしたいのかということを考えておいてほしい。 自分の理想とする働き方をしている人に関する本を、探して読んでおいてほしい。
目標と評価：	<目標> 企業というものの本質を捉え、その中で自分の位置や仕事に対する考え方を確立する。 社会人として、立派に企業の業務に携われる知識と技能を身につける。
教科書：	ビジネスワーク演習 有賀秀春／編著・藤井秀子共著 同文書院 2003年3月

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「オフィス実務Ⅱ」（担当者：藤井 秀子）の履修の手引き

科目名：	オフィス実務Ⅱ
担当者：	藤井 秀子
対象学生：	短期大学部1年
設置学期：	秋
概要：	春学期に学んだ「オフィス実務Ⅰ」を基礎に、企業の中での各部署における日常業務の詳細を学ぶ。企業の中の日常業務の内、文書・会議・日程管理・ファイリングなど、主に情報処理業務について学習する。
授業方法：	授業は14回行う。前半は講義形式、後半は自分で業務の処理をする「イン・バスケット」という実習形式で進める。 なお、毎回授業の初めに「カタカナ言葉」を5語ずつ覚える。それが20語になると小テストを行う。
履修の留意点：	「働く」ということに関心を持ち、自分は何のために働くのか、自分は仕事とどう関わり方をしたいのかということを考えておいてほしい。 自分の理想とする働き方をしている人に関する本を、探して読んでおいてほしい。
目標と評価：	<目標> 企業というものの本質を捉え、その中で自分の位置や仕事に対する考え方を確立する。 社会人として、立派に企業の業務に携われる知識と技能を身につける。
教科書：	ビジネスワーク演習 有賀秀春／編著・藤井秀子共著 同文書院 2003年3月

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「ビジネス文書Ⅰ」（担当者：下河邊 元春）の履修の手引き

科目名：	ビジネス文書Ⅰ
担当者：	下河邊 元春
対象学生：	短期大学部2年
設置学期：	春
概要：	企業においては、社内的な意思伝達を目的とした文書（社内文書）と、取引先などとの業務を円滑に進めるための文書（社外文書）が欠かせません。特に最近のようにファクシミリ（FAX）や電子メール（E-mail）が多用される状況では、誰もが文書を書くことと無縁ではいられなくなりました。この授業ではこうした社会的な要請を踏まえて、ビジネス文書を作成するのに不可欠な約束事などの基礎知識や文書作成の技法を学びます。
授業方法：	実例を用いてビジネス文書作成するために必要な基本を講義するとともに、ノートパソコンを使用して実際に文書作成を体験してもらいます。 授業での講義テーマは、①事務における文書の重要性と役割②文書作成の基本③文章力を伸ばすための方法④文書ツールのTP⑤手紙の書き方を通じての文書作成の実際—が中心になります。
履修の留意点：	授業によっては、ノートパソコンの携行が必要となります。
目標と評価：	受講生の皆さん全員が文書作法にかなった手紙が書けるようになることを目指します。 成績評価は、期末試験の結果に講義内容の理解度を測るために随時提出を求める課題の評価ならびに受講態度を加味して評価点を決定します。
教科書：	文書技法テキスト キャリア教育教材開発研究会 実教出版 1991 記者ハンドブック 社団法人共同通信社 株式会社共同通信社 2002

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「ビジネス文書Ⅱ」（担当者：下河邊 元春）の履修の手引き

科目名：	ビジネス文書Ⅱ
担当者：	下河邊 元春
対象学生：	短期大学部2年
設置学期：	秋
概要：	ビジネス文書Ⅰで習得した知識をもとに、文書作成能力をさらに発展させることを目指して、メモの活用法や会議議事録、報告書・企画書のまとめ方、ビジネス敬語、差別語・不快語の存在など、実務に即した文書技法、文書の発受信管理、ファイリングの方法について学びます。
授業方法：	実例に基づく講義のほか、ノートパソコンを用いての各種文書作成の練習や双方向形式の授業によるビジネス敬語などの習得を目指します。 授業の講義テーマとしては①社内文書および社外文書の種類と内容の実際、その取り扱いの注意点②メモの活用法③報告書、会議議事録のまとめ方の実際④ビジネスの場での禁句、差別語・不快語の実際⑤文書の発受信とファイリングの実際—が中心になります。
履修の留意点：	授業によってはノートパソコンの携行が必要となります。
目標と評価：	ビジネスの場で通用するための文書作成の基本を身につけることを到達目標とします。 成績評価は、期末試験の結果に、講義内容の理解度を測るために随時提出を求める課題の評価ならびに受講態度を加味して評価点を決定します。
教科書：	文書技法テキスト キャリア教育教材開発研究会 文教出版 1991 記者ハンドブック 社団法人共同通信社 株式会社共同通信社

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「事務管理論Ⅰ」（担当者：杉浦 允）の履修の手引き

科目名：	事務管理論Ⅰ
担当者：	杉浦 允
対象学生：	短期大学部2年
設置学期：	春
概要：	企業を取り巻く環境の変化には、目を見張るものがあります。事務を執ると言うことは、情報を生産し、活用する活動に等しいのです。そこで、オフィスにおける事務管理活動について、事務とは何か、事務システムや事務の効率化の問題、事務と情報との関連、事務処理の知識・技術をやさしく講義します。
授業方法：	授業は、講義を主体に行います。 理解促進のためにときどき演習問題を付加しながら進めます。
履修の留意点：	毎回、授業に出て、講義を聞いてその場で理解する。
目標と評価：	情報化社会の到来に伴い、企業を発展させ行くには、広範囲の知識と情報が必要になります。企業経営に於いて情報を生産し、活用する活動が事務なのです。 ここでは、事務とは何かを明確にし、事務と情報との関連に於いて、事務システムをどう組み立てたらよいか、それを構築する考え方の基本を習得することをねらいとする。 出席条件を満たした者に対して、春学期本試験を実施する。試験の得点に平常点を勘案して評価します。
教科書：	「オフィス・マネジメント」 杉浦 允 学 文 社 2000年 _____ _____ _____

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「事務管理論Ⅰ」（担当者：杉浦 允）の履修の手引き

科目名：	事務管理論Ⅰ
担当者：	杉浦 允
対象学生：	短期大学部2年
設置学期：	春
概要：	企業を取り巻く環境の変化には、目を見張るものがあります。事務を執ると言うことは、情報を生産し、活用する活動に等しいのです。そこで、オフィスにおける事務管理活動について、事務とは何か、事務システムや事務の効率化の問題、事務と情報との関連、事務処理の知識・技術をやさしく講義します。
授業方法：	授業は、講義を主体に行います。 理解促進のためにときどき演習問題を付加しながら進めます。
履修の留意点：	毎回、授業に出て、講義を聞いてその場で理解する。
目標と評価：	情報化社会の到来に伴い、企業を発展させ行くには、広範囲の知識と情報が必要になります。企業経営に於いて情報を生産し、活用する活動が事務なのです。 ここでは、事務とは何かを明確にし、事務と情報との関連に於いて、事務システムをどう組み立てたらよいか、それを構築する考え方の基本を習得することをねらいとする。 出席条件を満たした者に対して、春学期本試験を実施する。試験の得点に平常点を勘案して評価します。
教科書：	「オフィス・マネジメント」 杉浦 允 学 文 社 2000年 _____ _____ _____

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「事務管理論Ⅱ」（担当者：杉浦 允）の履修の手引き

科目名：	事務管理論Ⅱ
担当者：	杉浦 允
対象学生：	短期大学部2年
設置学期：	秋
概要：	オフィスには、多くの情報が発生しています。この情報を上手に使いこなす仕事は事務なのです。この情報は、主として文書によって流通しています。オフィスにおける文書情報を管理するには？それを活用するにはどうすべきか、基本的な知識について講義します。主に、文書の作り方や扱い方及び文書の整理の仕方など情報管理に近い考え方で講座を進めます。
授業方法：	授業は、講義を主体に行います。理解促進のためにときどき演習問題を付加しながら進めます。
履修の留意点：	毎回、授業に出て、講義を聞いて、その場で理解する。
目標と評価：	情報時代の到来に伴い、企業を発展させ行くには、正しい情報を正しく処理しなければなりません。それを可能にするには広範囲の知識と情報が必要になります。企業経営において情報を生産し、活用する活動が事務なのです。ここでは、文書の作成・文書の活用・文書の整理の仕方など文書事務を中心に講義をします。評価については、出席条件を満たした者に対して、秋学期本試験を実施する。試験の得点に平常点を勘案して評価します。
教科書：	「オフィス・マネジメント」 杉浦 允 学 文 社 2000年

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「事務管理論Ⅱ」（担当者：杉浦 允）の履修の手引き

科目名：	事務管理論Ⅱ
担当者：	杉浦 允
対象学生：	短期大学部2年
設置学期：	秋
概要：	オフィスには、多くの情報が発生しています。この情報を上手に使いこなす仕事は事務なのです。この情報は、主として文書によって流通しています。オフィスにおける文書情報を管理するには？それを活用するにはどうすべきか、基本的な知識について講義します。主に、文書の作り方や扱い方及び文書の整理の仕方など情報管理に近い考え方で講座を進めます。
授業方法：	授業は、講義を主体に行います。理解促進のためにときどき演習問題を付加しながら進めます。
履修の留意点：	毎回、授業に出て、講義を聞いて、その場で理解する。
目標と評価：	情報時代の到来に伴い、企業を発展させ行くには、正しい情報を正しく処理しなければなりません。それを可能にするには広範囲の知識と情報が必要になります。企業経営において情報を生産し、活用する活動が事務なのです。ここでは、文書の作成・文書の活用・文書の整理の仕方など文書事務を中心に講義をします。評価については、出席条件を満たした者に対して、秋学期本試験を実施する。試験の得点に平常点を勘案して評価します。
教科書：	「オフィス・マネジメント」 杉浦 允 学 文 社 2000年

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。



「ビジネスルールとマナー」（担当者：古閑 博美）の履修の手引き

科目名：	ビジネスルールとマナー
担当者：	古閑 博美
対象学生：	短期大学部1年
設置学期：	秋
概要：	<p>学生生活から社会人生活への変化は、学生が想像する以上に大きいものです。その変化に対応し、新しい環境に前向きな生活を築く為には、ビジネスルールとマナーの学習が必要です。この学習により積極的に自己実現をはかり、職業人としての楽しい生活が送れるような基礎を築きます。</p> <p>学習の重点1、経済やビジネス社会の大きな変化を理解し、変わる部分と変わらない部分の基本を学ぶ。</p> <p>2、ビジネスルールとマナーの本質を十分に理解することで、応用力を習得する。</p> <p>3、学習成果を企業実習、就職、進学などでの活用を視野に入れて実践的に学ぶ。</p> <p>4、ビジネス能力検定3級以上の取得を具体的な目標レベルとする。</p>
授業方法：	<p>テキストとともに新聞・テレビの引用も含め現実社会を、ビデオ・パワーポイント等活用し興味を引出し、わかりやすく実戦力を指導する。</p> <p>主なポイントは、</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1、ビジネスを取り巻く環境と変化</li> <li>2、ビジネス社会における成功と成長</li> <li>3、社会や会社のルール</li> <li>4、仕事に対する取り組み、基本姿勢</li> <li>5、対人関係とマナー、コミュニケーション</li> </ol>
履修の留意点：	この科目の履修条件はないが、企業実習（インターンシップ）を履修する学生は、この科目の履修が原則的に必要である。
目標と評価：	評価方法：授業に対する取り組み姿勢、テスト、資格取得等。
教科書：	<p>インターンシップ 職業教育の理論と実践 古閑 博美 編・著 学文社 2001年</p> <p> </p> <p> </p> <p> </p> <p> </p>

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「ホテルビジネスⅠ」（担当者：須藤 眞一）の履修の手引き

科目名：	ホテルビジネスⅠ
担当者：	須藤 眞一
対象学生：	短期大学部1年
設置学期：	春
概要：	<p>ホテルは、しばしば Home way from Homeと言われるように、我が家にいるかのようなサービスを求められ、そして、そのサービスは良質のホスピタリティに基づくものでなければならない。</p> <p>ホテルビジネスは、サービス産業の中でもとりわけホスピタリティの質が明瞭に顧客に伝わる事業である。この観点から、ホテル事業におけるホスピタリティについて、その基礎を考察する。</p> <p>また、ホテルビジネスは、観光、業務出張、会議、宴会、結婚式と、それらに伴う宿泊など、さまざまな機能を持つが、その実態について、実例に則しながら、全貌を理解する。</p> <p>春学期においては、ホテルビジネスの基礎とホスピタリティの基本理念を学ぶ。</p>
授業方法：	講義、演習、実習（ホテル見学を含む）、視聴覚教材（OHP、ビデオ）、パソコン等。
履修の留意点：	受講生は、ホテルビジネスに関心、興味があること。
目標と評価：	<p>[目標]</p> <p>次の項目について基礎的理解を得ることを目標とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. ホテルビジネスの定義</li> <li>2. ホテルビジネスにおけるホスピタリティ</li> <li>3. ホテル産業の歴史</li> <li>4. ホテル事業の組織形態</li> <li>5. 宿泊部門における業務</li> <li>6. 料飲部門における業務</li> <li>7. 購買部門における業務</li> <li>8. マーケティングとセールス部門における業務</li> <li>9. ホテルの施設・設備とコンピューター・システム</li> <li>10. ホテル関連法規と管理部門における業務</li> <li>11. 経理部門における業務</li> <li>12. ホテル英語</li> <li>13. ホテル事業の将来展望</li> <li>14. ホテルにおける実業務（見学）</li> </ol> <p>[評価]</p> <p>授業への参画度。各授業における小テスト、小問題、及び、期末レポート。</p>
教科書：	<p>基礎からわかるホテルマンの仕事 高月章介（株）柴田書店 2001年</p> <p>_____</p> <p>_____</p> <p>_____</p> <p>_____</p>

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「ホテルビジネスⅡ」（担当者：須藤 眞一）の履修の手引き

科目名：	ホテルビジネスⅡ
担当者：	須藤 眞一
対象学生：	短期大学部1年
設置学期：	秋
概要：	<p>21世紀はホスピタリティ産業の時代ともいわれ、なかでもホテル事業は、観光業、旅行業と関連して、その重要な位置を占めるものである。</p> <p>ホテルビジネスⅡにおいては、ホテルビジネスⅠ（春学期）に比し、専門性を高め、ホテル事業の各部門の具体的な機能に関し、管理者の視点から考察し、顧客から求められるホスピタリティの、より一層深化した理念について学ぶ。</p> <p>春学期のホテルビジネスⅠを受講した学生は、ホテルビジネスⅡにおいて、より高度なレベルのホテルの業務知識とホスピタリティについて理解する。</p> <p>また、ホテルビジネスⅠを受講していない学生も、業務管理者の視点でのホテルビジネスの概要を理解し、ホテル事業に必要なサービスとその基本となるホスピタリティについて学習する。</p>
授業方法：	講義、演習、実習（ホテル見学を含む）、視聴覚教材（OHP、ビデオ）、パソコン等。
履修の留意点：	ホテルビジネスに関心、興味があること。 また、ホテルビジネスⅠ（春学期）を受講していない学生も受講可能。
目標と評価：	<p>[目標]</p> <p>次の項目について基礎的理解を得ることを目標とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. ホテル産業の歴史・その発達と変遷</li> <li>2. ホテルビジネスにおけるホスピタリティ</li> <li>3. ホテル産業の社会的意義</li> <li>4. ホテル事業の組織形態</li> <li>5. 宿泊部門における管理業務</li> <li>6. 料飲部門における管理業務</li> <li>7. 購買部門における管理業務</li> <li>8. マーケティングとセールス部門における管理業務</li> <li>9. ホテルの施設・設備とコンピューター・システムの管理業務</li> <li>10. ホテル関連法規と管理部門における業務とその管理</li> <li>11. 経理部門における業務とその管理</li> <li>12. ホテル英語</li> <li>13. 世界のホテル産業の将来展望</li> <li>14. ホテルにおける実業務（見学）</li> </ol> <p>[評価]</p> <p>授業への参画度。各授業における小テスト、小問題、及び、期末レポート。</p>
教科書：	<p>基礎からわかるホテルマンの仕事 高月章介（株）柴田書店 2001年</p> <p> </p> <p> </p> <p> </p> <p> </p>

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「トラベルビジネスⅠ」（担当者：山内 直美）の履修の手引き

科目名：	トラベルビジネスⅠ
担当者：	山内 直美
対象学生：	短期大学部1年
設置学期：	春
概要：	<p>トラベルビジネスとは、広義では交通業・宿泊業・飲食業・レジャー業などの旅行関連ビジネスも含まれますが、狭義では旅行業をいいます。          本講座では旅行業の中の国内旅行業務を中心に旅行業法・旅行業約款・運賃計算・観光資源などの基礎知識を学びます。ここでは9月に実施される国家試験「国内旅行業務取扱主任者」に挑戦出来る内容になっています。従ってこの講座を受講する場合は「旅行業務取扱主任者トレーニングⅠ」および「旅行業務取扱主任者Ⅱ」を必ず受講すること。          また広く旅行産業に関する知識や実務を習得したい学生にとっても基礎知識として本講座は不可欠です。</p>
授業方法：	<p>講義形式。資料などは適宜プリントとして配布します。          板書しますのでノートなどを用意してください。</p>
履修の留意点：	<p>概要にも述べましたが「旅行業務取扱主任者トレーニングⅠ」および「旅行業務取扱主任者トレーニングⅡ」を併せて受講すること。「旅行業務取扱主任者トレーニングⅡ」は試験直前の夏期休暇中に集中講義として実施しますので注意してください。          9月実施予定の国家試験「国内旅行業務取扱主任者」を受験する事。          （テキストは「旅行業務取扱主任者トレーニングⅠ」と同じものを使います。）</p>
目標と評価：	<p>積極的な姿勢を評価します。特に出席を重視します。          レポート1回とミニテストを実施します。</p>
教科書：	<p>①旅行業法・旅行業約款 JTB能力開発 JTB能力開発 2003年度版          ②運送・宿泊約款 JTB能力開発 JTB能力開発 2003年度版          ③国内運賃・料金 JTB能力開発 JTB能力開発 2003年度版          ④国内旅行実務・観光資源 JTB能力開発 JTB能力開発 2003年度版</p>

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「トラベルビジネスⅡ」（担当者：柴生田 俊一）の履修の手引き

科目名：	トラベルビジネスⅡ	
担当者：	柴生田 俊一	
対象学生：	短期大学部1年	
設置学期：	秋	
概要：	<p>トラベルビジネスとは、狭義では旅行業をいうが、広義では輸送業・宿泊業・飲食業・レジャー業なども含まれる。  「トラベルビジネスⅠ」では、旅行業の国内旅行業務で必要とされる法令・約款、運賃計算、観光資源、旅行実務などの基礎知識を学習した。  「トラベルビジネスⅡ」では、海外旅行に重点を置いて、旅行業の基礎知識や実務を中心に、輸送業・宿泊業などの関連実務についても、学習する。  さらに、トラベルビジネスの学習を通じて、サービス産業全般に関する実践的理解も深めていきたい。</p>	
履修の留意点：	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. トラベル・ビジネスとは</li> <li>2. 旅行の意義・市場規模</li> <li>3. 海外旅行の基礎知識（渡航・出入国、時差・時刻、観光資源など）</li> <li>4. 旅行業の役割・業務</li> <li>5. 旅行業のマーケティング</li> <li>6. 旅行業のサービス</li> <li>7. 旅行業の情報技術</li> <li>8. 旅行業の動向・課題</li> <li>9. 臨地研修</li> </ol>	
目標と評価：	<p>最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。  演習、電子会議室、ミニレポート、期末テスト、臨地研修</p>	
教科書：		

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「ホスピタリティⅡ」（担当者：古閑 博美）の履修の手引き

科目名：	ホスピタリティⅡ
担当者：	古閑 博美
対象学生：	短期大学部2年
設置学期：	春
概要：	「ホスピタリティ」を経済財とみなす考えに立つと、その具現化を目指す動きは経済活動の一環とみなすことが出来ます。また、一方、ホスピタリティは、語源や行為の歴史から、人間社会に広く求められ実行されてきた行為といえます。本講座では、より根源的な視野に立つてホスピタリティの精神や行為を探るほか、「キャンパス・ホスピタリティ」をテーマに研究します。
授業方法：	講義と演習。研究テーマ（「キャンパス・ホスピタリティ」）と取り組む。
履修の留意点：	教科書を通読してから授業に参加すること。教科書携帯のこと。関連図書を2冊読破すること。
目標と評価：	課題と積極的に取組み、論文の完成を目指す。提出物や発表の態度等から総合的に評価する。
教科書：	『ホスピタリティ概論』 古閑博美 学文社 2003年

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「フードサービス」（担当者：佐藤 恭弘）の履修の手引き

科目名：	フードサービス
担当者：	佐藤 恭弘
対象学生：	短期大学部2年
設置学期：	秋
概要：	①CS(CUSTOMER SATISFACTION顧客満足)の理論と実際を学ぶと共に、フードビジネスにおいてどうしたら顧客満足が得られるかを考察する。 ②機内食サービスの概要と食品衛生の重要性について学ぶ。
授業方法：	講義形式によります。
履修の留意点：	フードビジネスあるいは機内食サービスに興味のある学生の履修を望みます。 【参考書】フードサービス接客テキスト ㈱日本コンサルタントグループ・フードサービス研究室 ㈱日本コンサルタントグループ
目標と評価：	目標：①CSの考え方を理解し、実際のフードビジネスにてそれを実行できる素地を作り上げること。 ②食品衛生を守るための基本を身に付けること。 評価：出席点30%、評価点70% 評価点は、授業での発表・態度・小テスト・試験の総合評価。
教科書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「現代社会と観光Ⅰ」（担当者：柴生田 俊一）の履修の手引き

科目名：	現代社会と観光Ⅰ
担当者：	柴生田 俊一
対象学生：	短期大学部1年
設置学期：	春
概要：	観光（Tourism）は自由時間活動の中でもっとも人気が高く、現代社会の代表的なライフスタイルである。観光産業の経済規模は、直接関連（交通・宿泊・飲食・レジャー・旅行業など）だけでGDPの約5%、間接関連（自動車、ガソリン、別荘など）を含めると約10%を占め、経済的な影響力は極めて大きい。観光産業は、経済の成熟化・サービス化・情報化・グローバル化に伴い、ホスピタリティ産業の代表として、脚光を浴びつつある。「現代社会と観光Ⅰ」では、まず、観光の意義、旅行市場の構成を学習し、次に、主として観光客の視点から、観光資源や観光地、国内・海外旅行の動向、観光スタイルの特長や変化を学習する。最後に、観光産業（直接関連）の動向や課題を学習する。
授業方法：	講義、演習、レポートの作成指導
履修の留意点：	1. 観光とは、観光の意義2. 旅行市場の構造・規模・動向3. 観光資源、観光地（自然的資源、文化的資源）4. 観光の動向（日本人・外国人、国内・海外）5. 観光のスタイル・変遷（参詣、温泉、周遊型、滞在型）6. 観光産業の動向・課題（顧客満足、IT、共生、アジア）国内旅行取扱主任者試験（9月初）にも役立つように、観光資源や観光地、観光スタイルなどに関しては、国内旅行を重点的に学習する。なお、本科目は観光を通して、現代社会（性格、動向）に対する理解を深め、社会人としての知識・教養を涵養することを目的とする。
目標と評価：	最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。 演習、ミニレポート、期末レポート
教科書：	観光白書（最新版） 国土交通省 政府刊行物センター 2002 観光の実態と志向（最新版） 日本観光協会 日本観光協会 2002 国内旅行実務・観光資源 教材出版事業部 JTB能力開発 2002 旅行ノススメ 白幡洋三郎 中公新書 1996

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。



「現代社会と観光Ⅱ」（担当者：柴生田 俊一）の履修の手引き

科目名：	現代社会と観光Ⅱ
担当者：	柴生田 俊一
対象学生：	短期大学部1年
設置学期：	秋
概要：	<p>観光は、現代社会の代表的なライフスタイルである。「現代社会と観光Ⅰ」では、国内的・短期的視点から現代社会の観光動向を学習した。「現代社会と観光Ⅱ」では、世界的・長期的視点から、現代社会とは何か、観光とは何か、観光を左右する要因は何かなどについて、考察する。まず、産業革命以降の社会の推移を概観し、現代社会における観光の意義、観光産業の役割を学習する。次に、移動手段の変遷、観光スタイルの変遷を学習する。さらに、価値観の変化、観光のまなざしの変化を辿り、最後に、これからの観光を展望する。</p>
授業方法：	講義、演習、レポートの作成指導
履修の留意点：	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 観光の意義（経済的意義、文化的意義、社会的意義）</li> <li>2. 観光の発展（近代社会、工業化社会、情報化社会）</li> <li>3. 移動手段の変遷（馬車・帆船、鉄道、汽船、自動車、航空機）</li> <li>4. 現代社会の観光（工業化、情報化）</li> <li>5. 観光のまなざし（名所旧跡、山岳・高原、温泉・海浜、都市・テーマパーク）</li> <li>6. これからの観光（アジア地域、訪日観光）</li> </ol> <p>春学期は、現代の観光市場、国内の観光資源や観光地、日本人の観光スタイルなどを学習したが、秋学期は、近代・現代観光の変遷、移動手段の変遷、海外の観光資源や観光地、欧米人の観光スタイルなどを学習する。</p>
目標と評価：	<p>最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。 演習、ミニレポート、期末レポート</p>
教科書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「紛争の政治経済学」（担当者：山田 寛）の履修の手引き

科目名：	紛争の政治経済学
担当者：	山田 寛
対象学生：	経営経済学部2年
設置学期：	秋
概要：	いま世界には紛争がいっぱい。日本だっていつでも戦争やテロに巻き込まれる可能性がある。国境紛争、民族紛争、宗教紛争、資源争いなど種類もさまざま。そうした最近の紛争、現在の紛争を、政治や経済やこどもへの影響など、さまざまな視点から取り上げて行く。紛争を予防する予防外交についても考えたい。
授業方法：	教科書は使わない。ビデオなどをできるだけ使う。
履修の留意点：	国際経済コースの学生は、履修することが望ましい。
目標と評価：	期末試験と平常点をあわせて評価する。
教科書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「地方自治論Ⅰ」（担当者：内田 和夫）の履修の手引き

科目名：	地方自治論Ⅰ
担当者：	内田 和夫
対象学生：	経営経済学部2年
設置学期：	春
概要：	地方自治というと、ちょっと、硬い感じがするかもしれません。でも、自治体という地方の政府は私達にとってとても身近な存在です。なぜなら、私達の誕生から、幼年期、少年期をはじめとして、結婚や就業、そして老後や天寿のまっとうのときまで、人生のそれぞれの場面で必要とされる公共サービスの多くが自治体によって提供されているからです。逆をいえば、あなたの暮らす地域の自治体をどうしたものとしてつくりあげているか、あなたの人生のありようがかなりちがったものになるといっても過言ではありません。この講義を履修すると、こんなにもあなたの暮らしと地方自治は密接なのだということにびっくりすることになるかもしれません。そんな地方自治の基礎の入門講座です。
授業方法：	<p>1) 学校給食など、わかりやすい事例を取り上げ、意見レポートを書いたり、実際に現場レポートを書いてもらったり、自分でみたり読んだりして考えたことをどしどし書いてもらう。ちょうど統一地方選の時期でもあるので、議員の選挙カーに1日乗ってもらうことも検討中。</p> <p>2) 地方自治の基本的考え方や自治体のしくみの基礎的理解を図ります。独自に教材を用意します。</p> <p>3) 新聞記事の要約紹介に取り組んでもらうことも考えています。</p>
履修の留意点：	<p>1) 市民としての活動、地域づくり、自治体の役割、地方公務員の仕事に興味のある人はどなたでも歓迎します。</p> <p>2) 特定の教科書は使用しない予定です。</p> <p>3) 秋学期の地方自治論Ⅱとセット履修してください。</p>
目標と評価：	<p>1) 地方自治とは、なかなかのものだという実感がもてること。</p> <p>2) 地方自治という発想方法を理解し、地方自治を考える上での基礎タームを身につけること。以上の2点を目標とします。</p> <p>3) 意見レポートやフィールドレポート、基礎理解チェック、最終試験の結果を勘案します。</p>
教科書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「地方自治論Ⅱ」（担当者：内田 和夫）の履修の手引き

科目名：	地方自治論Ⅱ
担当者：	内田 和夫
対象学生：	経営経済学部2年
設置学期：	秋
概要：	<p>地方自治論Ⅰで、地方自治に興味と覚え、地方自治のしくみの基礎的理解をもった諸君を対象に、地方自治をめぐる現在の課題を考えてみようとおもいます。つぎのような課題を中心に取り上げる予定です。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 人にとって、地域ってやっぱり必要、それとも不必要。</li> <li>2) 市町村合併は地方自治が深まる道か。それとも一。</li> <li>3) 公共サービスの民間委託はなぜ進むのか。</li> <li>4) 自治体の財政危機とはどういうことか。</li> <li>5) 自治体職員のつらさと楽しみ</li> <li>6) 開かれたまちと自治体の役割</li> </ol>
授業方法：	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) ビデオ・ドキュメンタリーを見たり、資料を読んだりしながら、自分の意見をまとめることを重視する。</li> <li>2) 2冊くらいは受講者それぞれが関連書を読破したい。</li> <li>3) 引き続き、新聞の切り抜きの要約作業を課す場合あり。</li> </ol>
履修の留意点：	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 市民としての活動、地域づくり、自治体の役割、地方公務員の仕事に興味のある人はどなたでも歓迎します。</li> <li>2) 春学期の地方自治論Ⅰとセット履修してください。</li> <li>3) 特定の教科書は使用しない予定です。</li> </ol>
目標と評価：	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 地方自治の課題を自分で考えていく、基礎的なスタンスがそれぞれの人に芽生えてくることを目指す。</li> <li>2) 地方自治的な課題についての文章がいわんとして読むことを読みぬけるようにしたい。</li> <li>3) 何をどうしらべたらいいのかの勘所にいたる基礎的素養の習得。</li> <li>4) 意見レポートやフィールド・レポート、基礎理解チェック、最終試験の結果を勘案します。</li> </ol>
教科書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「行政学」（担当者：高野 恵亮）の履修の手引き

科目名：	行政学
担当者：	高野 恵亮
対象学生：	経営経済学部3年
設置学期：	春
概要：	近年、ニュース番組だけでなくワイドショーやバラエティー番組においても総理大臣の動向、官僚の不祥事、公共事業に関する問題など政治や行政にまつわる話題がとりあげられ、国民の関心は以前にも増して高まってきています。その反面で、こうした様々な問題について、自分とは直接関係のない、言ってみればテレビの中で映し出される娯楽のひとつとして受け止められがちであるということもまた現実です。 しかしながら都市型社会となった現在、この自分たちとは縁遠い世界のように思われる政治や行政は、皆さんの想像よりもずっと深く皆さんの生活の中に入り込んでいます。 そこでこの授業では、都市型社会における行政の意義を理解するとともに、こうした行政を動かしている仕組みについてより深く理解することを目指します。そのためにこの授業では国家行政組織の変遷、公務員制度、中央省庁の意思決定過程、予算・財政のしくみ、行政改革、地方分権、政策評価、行政の市民参加などについて、主に日本の事例を中心に学んでいきたいと考えています。
授業方法：	講義形式で授業をすすめます。授業で取り扱う予定の項目は以下のとおりです。 1) 都市型社会と行政 2) 行政の概念① 3) 行政の概念② 4) 国家行政組織の変遷と現在① 5) 国家行政組織の変遷と現在② 6) 中央省庁の意思決定過程 7) 公務員制度① 8) 公務員制度② 9) 行政管理 10) 予算・財政の仕組み 11) 行政改革をめぐる経緯と現状 12) 地方分権 13) 政策評価 14) 行政の市民参加
履修の留意点：	特になし
目標と評価：	この授業を受講した学生は以下のことができるようになっているはずですが、また、そうなるように学習することを望みます。 ● 都市型社会における行政の意義について説明できること ● 国家行政組織についてその変遷と現在の体制について説明できること ● 日本における公務員制度の歴史と現状について説明できること ● 中央省庁の意思決定過程について説明できること ● 行政改革をめぐる経緯と現状について説明できること  評価点は以下の項目毎に加算方式で算出します。 ● ミニテスト（3回実施する）[30%] ● 学期末試験[70%]
教科書：	行政学 [新版] 西尾勝 有斐閣 2001年4月20日 新版 第1刷発行 _____ _____ _____

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「地方行政学」（担当者：南島 和久）の履修の手引き

科目名：	地方行政学
担当者：	南島 和久
対象学生：	経営経済学部3年
設置学期：	秋
概要：	<p>都市の生活においては行政活動が提供する公共サービスを欠かすことができません。行政学ではこれを「政策」といいます。しかしこの「政策」は行政のものではありません。「政策」は主権を持ち、納税の義務を果たし、あるいはサービスを受けている「みんなのもの」です。この授業では身近な政府としての市町村を取り上げ、この市町村が提供している身近な行政サービスを中心に理解を深めていきたいと考えています。</p> <p>ところでこの「政策」は日本社会が都市化していった結果、拡大してきたものです。都市とは人が集まる場所ですが、人が集まって生活するから、水道やガス、電気や地下鉄・電車などの様々な「政策」が必要になってきます。この授業におけるもうひとつの視点はこうした「都市」に注目することです。「政策」と「都市」が交錯する場所、それが、現在私達が住んでいる「まち」だからです。この授業では、日常的な「行政サービス」を提供してくれる自治体をより深く理解することを目指します。また行政学としてこれを理解しようとする中で、行政活動のダイナミックな側面を把握しようとする。そのためには歴史的側面や比較都市論の要素も必要になります。これらのインターディシプリナリーな学問が地方行政学です。</p>
授業方法：	<p>講義形式で授業をすすめます。授業で取り扱う予定の項目は以下のとおりです。</p> <p>1) 都市政策／2) 分権改革／3) 基礎自治／4) 自治体史／5) 二元代表／6) 機構制度／7) 内部組織／8) 公務員制／9) 地方財政／10) 合併論議／11) 公共管理／12) 政策評価／13) 住民参加／14) 市民社会</p>
履修の留意点：	<p>この授業を受講する学生は、前期に開講される「行政学」を履修することが望ましいと考える。理由は基礎的な知識に共通することが多く、本講座の理解を助けてくれると考えるからである。なお教科書で指定されているもののうち、授業で主に用いるのは『市民のための地方自治入門』である。このテキストの第1章「私達が地域づくりの主人公」を読んで授業に臨むこと。</p>
目標と評価：	<p>この授業を受講した学生は以下のことができるようになっているはず。また、そうなるように学習することを望みます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 自治がなぜ重要か説明できること</li> <li>● 自治と都市の問題を説明できること</li> <li>● 自治体の歴史を説明できること</li> <li>● 自治体の仕組みを説明できること</li> <li>● 市民社会と自治体との関係を説明できること</li> </ul> <p>評価点は以下の項目毎に加算方式で算出します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● ミニテスト（穴埋め、3回実施する）[30%]</li> <li>● 学期末試験[70%]</li> </ul>
教科書：	<p>市民のための地方自治入門 佐藤竺監修・今川晃編著 実務教育出版 2002年</p> <p>自治体は変わるか 松下圭一 岩波書店 1999年</p>

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「労働法」（担当者：古川 史麻呂）の履修の手引き

科目名：	労働法
担当者：	古川 史麻呂
対象学生：	経営経済学部3年
設置学期：	秋
概要：	「労働法」という名の法律は「ありません」。「民法」で形式的平等を示した雇傭規定（第623条～第631条）がありますが、真に自由かつ対等な労働関係を実現させるために、沢山の労働に関する法律ができています。それらの中でも労働基準法や労働組合法が中心となっています。これらを中心に、労働法の全体像を一通り把握した上で、近代的な市民法の考え方に基づく労働者と使用者との労働関係、労働者の義務と権利を理解することを目的に授業をすすめる。
授業方法：	講義を中心に行う。 必要に応じて資料等を配布する。
履修の留意点：	新聞等で常日頃から労働に関する問題に関心をもって自分の意見をもてるように努力することが求められる。
目標と評価：	①授業中、不定期に論述試験やレポートの提出を求める。たとえば「～について述べよ。」あるいは「～について論ぜよ。」といった問題を提示する。 ②評価は回答の内容が問題に対して的確であると同時に誤字・脱字がないこと等も評価の対象にする。また平常点（授業における発言や意見、意思表示等）も重視する。
教科書：	授業において説明する。    

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「労働法」（担当者：古川 史麻呂）の履修の手引き

科目名：	労働法
担当者：	古川 史麻呂
対象学生：	経営経済学部3年
設置学期：	春
概要：	「労働法」という名の法律は「ありません」。「民法」で形式的平等を示した雇傭規定（第623条～第631条）がありますが、真に自由かつ対等な労働関係を実現させるために、沢山の労働に関する法律ができています。それらの中でも労働基準法や労働組合法が中心となっています。これらを中心に、労働法の全体像を一通り把握した上で、近代的な市民法の考え方に基づく労働者と使用者との労働関係、労働者の義務と権利を理解することを目的に授業をすすめる。
授業方法：	講義を中心に行う。 必要に応じて資料等を配布する。
履修の留意点：	新聞等で常日頃から労働に関する問題に関心をもって自分の意見をもてるように努力することが求められる。
目標と評価：	①授業中、不定期に論述試験やレポートの提出を求める。たとえば「～について述べよ。」あるいは「～について論ぜよ。」といった問題を提示する。 ②評価は回答の内容が問題に対して的確であると同時に誤字・脱字がないこと等も評価の対象にする。また平常点（授業における発言や意見、意思表示等）も重視する。
教科書：	授業において説明する。    

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。



「民法」（担当者：和知 恵一）の履修の手引き

科目名：	民法
担当者：	和知 恵一
対象学生：	経営経済学部1年・短期大学部1年
設置学期：	春
概要：	民法は、市民生活における様々な問題に対処するために、自由・平等を基調として、規律をたてて整えられた法律である。「法律なんて、関係ないわ。」と思っている人も多いと思う。しかし、実は私たちの生活は、すべてが法的な側面を持っているのだ。例えば、スーパーで食品を買う場合には、民法555条以下の売買契約に関する規定が、アパートを借りる場合には、民法601条以下の賃貸借に関する規定が適用される。ただ、私たちは、そのことに気づいていないだけなのだ。「買った食品で、中毒を起こし入院したら」、「折角引越したのに、急に出て行けと言われたら」、「電器店で購入したMDプレーヤーが、故障していたら」どうすべきか？など、市民生活に発生する紛争に対処するために、前もって定められた原則が民法である。半年という短期間ではあるが、この民法の概要を理解するための法的な考え方（リーガルマインド）・基礎知識を身につけることを目的とする。
授業方法：	講義を中心に進める。具体的な事例を通して、市民生活関係を捕えられるよう、教科書にあげられた身近で興味ある問題を題材にする。全員が授業に参加することを義務付けられる。授業中時々質問をするので、全員が挙手で答えること。 <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 初めに</li> <li>2. 民法の構成と指導原理</li> <li>3. 民法の基本原則</li> <li>4. 基本原則の修正</li> <li>5. 私権の主体である「人」について</li> <li>6. 私権の客体である「物」について</li> <li>7. 法律行為とは</li> <li>8. 代理と時効</li> <li>9. 所有権を中心に物権について</li> <li>10. 売買契約を中心に債権について</li> <li>11. 親族とは何か</li> <li>12. 結婚と親子関係</li> <li>13. 相続と遺言</li> <li>14. まとめ・予備</li> </ol>
履修の留意点：	できるだけ、法学に関する基礎知識を持っていることが望ましい。が、1年生にそれを望むのは酷であるので、真剣に勉強しようとする意欲のある者ならば履修を認める。遅刻・私語することなく、初回から全回出席し、真面目に授業に取り組むこと。 教科書の「新六法」はすでに持っている六法=法律集があればそれで良い。
目標と評価：	（目標） 民法の概要を理解するための法的な考え方（リーガルマインド）・基礎知識を身につけること。 （評価） 定期試験（論文式）の成績に、授業態度をもとにした平常点を加味して、評価する。
教科書：	新六法 平成15年版 三省堂 三省堂 2001 トピックス くらしの法 大久保治男編 芦書房 2001

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「民法」（担当者：和知 恵一）の履修の手引き

科目名：	民法
担当者：	和知 恵一
対象学生：	経営経済学部1年・短期大学部1年
設置学期：	秋
概要：	民法は、市民生活における様々な問題に対処するために、自由・平等を基調として、規律をたてて整えられた法律である。「法律なんて、関係ないわ。」と思っている人も多いと思う。しかし、実は私たちの生活は、すべてが法的な側面を持っているのだ。例えば、スーパーで食品を買う場合には、民法555条以下の売買契約に関する規定が、アパートを借りる場合には、民法601条以下の賃貸借に関する規定が適用される。ただ、私たちは、そのことに気づいていないだけなのだ。「買った食品で、中毒を起こし入院したら」、「折角引越したのに、急に出て行けと言われたら」、「電器店で購入したMDプレーヤーが、故障していたら」どうすべきか？など、市民生活に発生する紛争に対処するために、前もって定められた原則が民法である。半年という短期間ではあるが、この民法の概要を理解するための法的な考え方（リーガルマインド）・基礎知識を身につけることを目的とする。
授業方法：	講義を中心に進める。具体的な事例を通して、市民生活関係を捕えられるよう、教科書にあげられた身近で興味ある問題を題材にする。全員が授業に参加することを義務付けられる。授業中時々質問をするので、全員が挙手で答えること。 <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 初めに</li> <li>2. 民法の構成と指導原理</li> <li>3. 民法の基本原則</li> <li>4. 基本原則の修正</li> <li>5. 私権の主体である「人」について</li> <li>6. 私権の客体である「物」について</li> <li>7. 法律行為とは</li> <li>8. 代理と時効</li> <li>9. 所有権を中心に物権について</li> <li>10. 売買契約を中心に債権について</li> <li>11. 親族とは何か</li> <li>12. 結婚と親子関係</li> <li>13. 相続と遺言</li> <li>14. まとめ・予備</li> </ol>
履修の留意点：	できるだけ、法学に関する基礎知識を持っていることが望ましい。が、1年生にそれを望むのは酷であるので、真剣に勉強しようとする意欲のある者ならば履修を認める。遅刻・私語することなく、初回から全回出席し、真面目に授業に取り組むこと。  教科書の「新六法」はすでに持っている六法=法律集があればそれで良い。
目標と評価：	（目標） 民法の概要を理解するための法的な考え方（リーガルマインド）・基礎知識を身につけること。  （評価） 定期試験（論文式）の成績に、授業態度をもとにした平常点を加味して、評価する。
教科書：	新六法 平成15年版 三省堂 三省堂 2001 トピックス くらしの法 大久保治男編 芦書房 2001

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「商法」（担当者：和知 恵一）の履修の手引き

科目名：	商法
担当者：	和知 恵一
対象学生：	経営経済学部2年・短期大学部2年
設置学期：	春
概要：	商法とは、企業の組織・活動といった企業生活関係に特有の法規をひとまとめにして、呼ばれているものである。これには、商法総則・会社に関する法、商行為・保険・海商・手形・小切手に関する法の分野などがある。この前半部分は、会社法において、後半部分を商法で取り扱うこととする。本講座では、企業の取引や、企業の支払い手段はどうなっているのかという視点から、商法の基礎をわかりやすく解説する。
授業方法：	講義を中心に進める。具体的な事例を通して、企業生活関係を捕えられるよう、なるべく身近で興味ある問題を題材にしようと思う。 授業の体系 1. はじめに 2. 商法の意義、商法が規律しようとするもの 3. 商行為の種類と、商法適用の法的効果 4. 企業間及び消費者との取引 5. 約款の性質と規制 6. 消費者保護 7. 企業取引の補助者 8. 物や人の移動・管理に関わる取引 9. 保険 10. 海商 11. 手形・小切手の機能と仕組み 12. 手形行為 13. 為替手形・小切手 14. まとめ・予備 15. まとめ
履修の留意点：	法学的基礎知識のある学生を対象とする。まず民法を履修しておいてほしい。会社法もあわせて履修することが望ましい。真剣に勉強しようとする意欲のある者に履修を認める。遅刻・私語することなく、初回から全回出席し、真面目に授業に取り組むこと。
目標と評価：	(目標) 企業法としての商法の規律する対象について理解し、消費者として知っておくべき法的基礎知識の習得を目的とする。 (評価) 定期試験（論文式）の成績に、授業態度をもとにした平常点を加味して、評価する。
教科書：	現代商法入門第6版 近藤光男 編 有斐閣 2003 新六法 平成15年版 三省堂 三省堂 2002

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「税法」（担当者：前川 邦生）の履修の手引き

科目名：	税法
担当者：	前川 邦生
対象学生：	経営経済学部2年・短期大学部2年
設置学期：	秋
概要：	<p>憲法30条に「国民は法律の定めるところにより、納税の義務を負う」と規定され、84条では「新たに租税を課し、又は利行の租税を変更するには、法律又は法律の定める条件によることを必要とする」とのとの関係を明確に解明するために、「租税法律主義」を明らかにする。                  さらに、国および地方公共団体の課税権に一定の制限が加えられる。われわれ国民は、納税義務者としての納税の責任を自覚し、税法と税金に関する諸問題を学んでいくことにする。</p> <p>租税法の基礎理論について                  ①人と国家と法                  ②近代自然法における国家観と租税理念                  ③租税法律主義                  ④租税と租税法                  ⑤租税法構成と基礎的諸原則                  ⑥課税手続                  ⑦租税争訟                  国税通則法について</p>
授業方法：	<p>憲法と租税(税)の関係を講義方式で授業展開をし、受講生の理解度のチェックのため、復習問題をホームページ形式で課題として演習問題を課し、より理解度を深める。                  新聞・雑誌等のテーマを取りあげ、税法と税(税金)問題について考える機会を与える。                  日常生活と税の係わりを考えてみる。</p>
履修の留意点：	<p>なぜ国民は納税の義務を負うのか。を解明することにある。国および地方公共団体の課税権と国民の納税義務の理解。                  予習……………基本的にはテキストを読んでくること                  復習……………学んだことをノートに整理しながら発展                  問題についても考える                  新聞、雑誌……………経済問題、財政問題との係わりで税問題を考える                  まとめ……………各自がテーマごとにまとめの練習</p>
目標と評価：	<p>税法と税(金)を日常生活を通じ、理解することを目標とする。                  国の課税権と国民の納税義務との関係。                  税の種類。税原則。税の使途。                  公平、簡素、申立の意味を理解させる。                  期末テストとホームワーク、出席等を総合的に評価する。</p>
教科書：	<p>租税法全説 前川 邦夫・菊谷正人編著 同文館 2001.4</p>

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「税法」（担当者：前川 邦生）の履修の手引き

科目名：	税法
担当者：	前川 邦生
対象学生：	経営経済学部2年・短期大学部2年
設置学期：	春
概要：	<p>憲法30条に「国民は法律の定めるところにより、納税の義務を負う」と規定され、84条では「新たに租税を課し、又は利行の租税を変更するには、法律又は法律の定める条件によることを必要とする」とのとの関係を明確に解明するために、「租税法律主義」を明らかにする。                  さらに、国および地方公共団体の課税権に一定の制限が加えられる。われわれ国民は、納税義務者としての納税の責任を自覚し、税法と税金に関する諸問題を学んでいくことにする。</p> <p>租税法の基礎理論について                  ①人と国家と法                  ②近代自然法における国家観と租税理念                  ③租税法律主義                  ④租税と租税法                  ⑤租税法構成と基礎的諸原則                  ⑥課税手続                  ⑦租税争訟                  国税通則法について</p>
授業方法：	<p>憲法と租税(税)の関係を講義方式で授業展開をし、受講生の理解度のチェックのため、復習問題をホームページ形式で課題として演習問題を課し、より理解度を深める。                  新聞・雑誌等のテーマを取りあげ、税法と税(税金)問題について考える機会を与える。                  日常生活と税の係わりを考えてみる。</p>
履修の留意点：	<p>なぜ国民は納税の義務を負うのか。を解明することにある。国および地方公共団体の課税権と国民の納税義務の理解。                  予習……………基本的にはテキストを読んでくること                  復習……………学んだことをノートに整理しながら発展                  問題についても考える                  新聞、雑誌……………経済問題、財政問題との係わりで税問題を考える                  まとめ……………各自がテーマごとにまとめの練習</p>
目標と評価：	<p>税法と税(金)を日常生活を通じ、理解することを目標とする。                  国の課税権と国民の納税義務との関係。                  税の種類。税原則。税の使途。                  公平、簡素、申立の意味を理解させる。                  期末テストとホームワーク、出席等を総合的に評価する。</p>
教科書：	<p>租税法全説 前川 邦夫・菊谷正人編著 同文館 2001.4</p>

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「会社法」（担当者：和知 恵一）の履修の手引き

科目名：	会社法
担当者：	和知 恵一
対象学生：	経営経済学部2年・短期大学部2年
設置学期：	秋
概要：	現代社会の構成員である我々は、社会にとって必要不可欠である多くの法に取り囲まれています。たとえば、電車やバスに乗ること、本やジュースを買うこと、洋服を買うことなど、すべて「法」というルールによって規制されたり、保護されたりしているのです。自分は法と無縁であると思っている人は、そのことを知らないだけなのです。「商法」はこの「法」の中でも特に、会社を中心とした企業生活関係を対象とする法なのです。専門的でも細かい制度が定められていると思いき敬遠されがちですが、そこには企業社会において知っておくべき、大切な事がたくさん書かれています。この企業社会を生き抜いていくためには、商法についての理解が不可欠です。そこで、本講座においては、会社法を中心として、企業法としての商法の基礎をわかりやすく解説します。
授業方法：	講義を中心に進めます。具体的な事例を通して、企業生活関係を捕えられるように、なるべく身近で興味ある問題を題材にしようと思います。法律の条文も参照します。 1 はじめに 2 一般法と特別法 3 商人とは何か 4 商人と営業 5 企業の形態について 6 商号と登記 7 会社とは何か 8 会社の特質 9 会社の設立について 10 会社の機関について（その1） 11 会社の機関について（その2） 12 会社の機関について（その3） 13 株式と会社の計算 14 まとめと予備
履修の留意点：	法学的基礎知識のある学生を対象とする。まず民法を履修しておいてほしい。商法もあわせて履修することが望ましい。 教科書の「新六法」は既に所有している六法があればそれを持参すればよい。 また、参考書として大久保治男編 トピックス ぐらしの法 声書房 2001をあげておきます。
目標と評価：	目標 社会人として、身につけておくべきである、企業法に関する基礎知識を習得すること。 評価 定期試験に平常点（受講態度及び出席を重視します）を加味して評価します。
教科書：	近藤光男編 現代商法入門（第5版）有斐閣 2003 新六法 三省堂 三省堂 2002

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「デザインの基礎」（担当者：森 康夫）の履修の手引き

科目名：	デザインの基礎
担当者：	森 康夫
対象学生：	短期大学部1年
設置学期：	春
概要：	人がコミュニケーションをしていく上で言葉や文字だけでは表現しきれない物がある。それらに対しては色や形、材料という造形言語表現を使って情報をビジュアルに表わしコミュニケーションする方法がある。ここではDTPやウェブページなどをデザインする上で役立つ一般的なデザインとレイアウトの基礎を学ぶ。
授業方法：	講義だけではなく実習を行うことで更に認識を高める。 <講義> ・デザインとは何か／デザインと芸術 ・デザインの基本（点、線、面） ・視覚伝達デザイン（サイン、マーク、ポスターの効果） ・レイアウトの基本（様式の8要素／視覚度、図版率、文字のジャンプ率、写真のジャンプ率、グリッド拘束率、版面率、構成の原則、書体のイメージ）（造形の8原則／主役を明示する、純主役を離す、群化、あいまいは不安、流れを整理する、余白は主役の領域、四隅をおさえる、反面線を利用する） ・レイアウトの手順 <実習> 様々なレイアウトの実習
履修の留意点：	* 実習により覚えることが多いので休まない努力が必要です。
目標と評価：	授業への取組方、提出物の状況などを重視する。また、知識も必要なのでテストを行い、総合して評価する。
教科書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「デザインと色彩」（担当者：森 康夫）の履修の手引き

科目名：	デザインと色彩
担当者：	森 康夫
対象学生：	短期大学部1年
設置学期：	秋
概要：	人がコミュニケーションをしていく上で言葉や文字だけでは表現しきれない物がある。それらに対しては色や形、材料という造形言語表現を使って情報をビジュアルに表わしコミュニケーションする方法がある。ここではDTPやウェブページなどをデザインする上で役立つ一般的なデザインと色彩の基礎を学ぶ。
授業方法：	講義だけではなく実習を行うことで更に認識を高める。 <講義> 1、日常生活の色彩（流行色、インテリア、ファッションなど） 色彩の心理的効果／環境と色彩／経済と色彩 色の表現（絵画と色彩、ポスター、サイン、標識） 2、三原色（色料、色光）／色の三属性（色相、明度、彩度） ト ーンの概念／色の分類と体系／混色／色の見え・対比 配色の基本 <実習> 様々な配色の実習
履修の留意点：	実習があるので必ず教科書及び配色カードを用意すること。
目標と評価：	授業への取組方、提出物の状況などを重視する。また、知識も必要なので、テストも行い、総合して評価する。
教科書：	デザインの色彩 日本色研事業株式会社 配色カード 199a 日本色研事業株式会社 _____ _____ _____

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。



「人の心理と行動」（担当者：石川 直弘）の履修の手引き

科目名：	人の心理と行動
担当者：	石川 直弘
対象学生：	短期大学部1年
設置学期：	秋
概要：	この講義では、人間の心理と行動を3つの側面から考察していく。 第1は、行動の力動性である。人を行動に駆り立てるものは何かという問いに答えるために、欲求、動機づけについて学ぶ。 第2は、人の知的過程である。人はどのようにして自分をとりまく環境を認知するのであろうか。感覚、知覚、認知というテーマを通してそれを学んでいく。 第3は、パーソナリティである。第1の側面と第2の側面は、個人の中で高次のレベルで統一され、ユニークな特徴を示している。ここであらためて人間を全体としてみつめていく。
授業方法：	通常の講義形式で授業を行う。
履修の留意点：	特になし
目標と評価：	定期試験によって、成績を評価する。
教科書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「心と造形」（担当者：森 康夫）の履修の手引き

科目名：	心と造形
担当者：	森 康夫
対象学生：	短期大学部1年
設置学期：	秋
概要：	近年、人々の抱えている悩みや不安が増大し深刻化してきているなかで、「心の癒し」の問題が取り上げられるようになってきた。その解消法は様々だが、当授業ではそれを美術（造形）の面から考えていく。悩みや不安は考えているだけでは解消されるものではない。頭で考えるだけでなく行動することも大事であり、体験することで何かが得られると考える。そこで、当授業では講義だけでなく、造形の遊びを通して心の解放を目指し、どんなことが「心の癒し」に効果があるのかも探究していく。様々な体験を通して新たな発見や感動、創造することの喜びなどを実感して欲しい。
授業方法：	前提講義の後、各テーマに添って作業をする。主に平面に取り組む。 <講義> 造形とは何か、人とどのように関わっているのか。 子供のこころの発達／美術教育の弊害 <各テーマの講義と実習> 形の遊び（既成概念にとられない自由な表現について） （抽象画／素朴画を描く） 【形の深層心理】（形が人に与える影響） 【形と色の深層心理】 フロッタージュ／デカルコマニー／コラージュからヒントを得る。
履修の留意点：	手を使って何かを創造することが好きな学生が望ましい。 うまい、へた、は関係ない作品作りをするので安心して来てください。
目標と評価：	授業への取り組み及び作品提出状況を重視し、最終的にはレポート提出により決定する。
教科書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「人間性の発達」（担当者：石川 直弘）の履修の手引き

科目名：	人間性の発達
担当者：	石川 直弘
対象学生：	短期大学部2年
設置学期：	春
概要：	生理的早産のかたちで誕生した人間が、どのような経過をたどって人間的発達をとげていくのかを考察していく。 直立二足歩行、手の操作、ことばの使用から、最終的には形式的操作思考にいたるまで、そのプロセスを可能な限り、詳細にみていく。
授業方法：	通常の講義形式で授業を行う。
履修の留意点：	特になし
目標と評価：	定期試験によって、成績を評価する。
教科書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「コンピュータ入門」（担当者：中村 修）の履修の手引き

科目名：	コンピュータ入門
担当者：	中村 修
対象学生：	経営経済学部1年・短期大学部1年
設置学期：	春
概要：	<p>コンピュータの内、特にパーソナルコンピュータ（パソコン）の基礎知識を習得するとともにパソコン検定（P検）3級出題範囲の一部を学習します。講義は2部構成とし、それぞれの具体的な内容は以下のとおりです。</p> <p>第Ⅰ部 知識編（パソコンリテラシの教科書（P検テキスト）を使用）</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 情報モラル</li> <li>2. パソコン一般知識</li> <li>3. LAN</li> </ol> <p>第Ⅱ部 しゅくみ編（本講義の教科書を使用）</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. パソコン起動</li> <li>2. CPUとメモリとディスク</li> <li>3. 機器が動くのは</li> <li>4. ファイル</li> <li>5. インターネット</li> </ol>
授業方法：	<p>基本的には、講義を中心としますが、演習、レポート、実習、等を適宜取り入れていきます。また、e-Campusをフルに活用するため、毎回の授業では、ノートPCが必須となります。そこで、斡旋パソコンを購入した人は、大容量バッテリーへの充電を十分にしてください。また、斡旋パソコン以外の人は、嘉悦e-Campusに無線LANカードで接続できるようにすること、大容量のバッテリーを用意し、十分に充電して授業に臨んでください。</p>
履修の留意点：	<p>毎回、ノートPCを利用しますので、パソコン講習会には必ず出席して下さい。また、授業中、e-Campusへの接続が必須ですので、講義が開設されるまでには、必ずe-Campusネットワークに接続できるようにしておいて下さい。</p> <p>教科書は、後述のように2種類使用します。それは、本講義が、パソコンの知識を身につけるだけでなく、パソコン検定3級の合格を目指して学習するためです。</p> <p>授業は、受講生の平均的な知識レベルを前提に進めますので、既に知識のある人には退屈になり、初めての人には難しすぎるという問題が生じます。そうならないように、講師側も努力をしますが、皆さんも、特に初めての人は予習・復習、講師への質問等をe-Campusを活用して行って下さい。この授業で遅くと、これからのキャンパスライフに何らかの悪影響が出ますので頑張ってください。</p>
目標と評価：	<p>第Ⅰ部では、パソコン検定3級の合格を目標として学習を進めます。</p> <p>第Ⅱ部では、受講生の皆さんがパソコンのしゅくみを納得することを目標に、パソコンを触りながら授業を進めていきます。使用する教科書は、とても興味をひく内容となっていますので自分で読み進んでも構いません。</p> <p>嘉悦では、出席点が30点あります。1回の欠席で3点減点、3回の遅刻（開始から15分まで）で1回の欠席となってしまいます。パソコンに自信のある人も、また逆でない人も、授業には、欠かさず出席しましょう。また、出席するからには、授業に集中しましょう。</p> <p>期末には、持ち込み不可の筆記試験を予定しています。落とすための試験ではありません。普通に学習し、授業に出席していれば、A以上の評点がつくはずですよ。</p>
教科書：	<p>中上級者へのステップアップ パソコンのしゅくみ 試して納得！ WindowsXP対応 藤田 英時(ライター／ジャーナリスト) ナツメ社 2002年6月3日初版（¥1,600）</p> <p>（パソコンリテラシで使用のテキスト）詳細はパソコンリテラシⅠを参照</p>

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「コンピュータ入門」（担当者：滑川 光裕）の履修の手引き

科目名：	コンピュータ入門
担当者：	滑川 光裕
対象学生：	経営経済学部1年・短期大学部1年
設置学期：	春
概要：	コンピュータはハードウェアとソフトウェアで構成され、最近では、コンピュータ同士が、お互いにネットワークで接続されるような形で利用される。本講義では最初に、ハードウェアを構成する5つの基本装置と、これに接続して利用される周辺機器について学ぶ。次に、コンピュータを利用する上で最も基本的なソフトウェアであるオペレーティングシステム（Windows XP）の利用方法について学ぶ。さらに、学内のネットワーク（LAN）のしくみと利用方法について学び、最後にインターネットについて学習する。
授業方法：	講義形式で行うが、途中でコンピュータの操作を行う。 また、授業中に小テスト・レポート提出を行う。
履修の留意点：	特になし。
目標と評価：	授業中に行う幾つかの小テストやレポートの点数と期末の試験での評価を行う。
教科書：	パソコン検定試験3級対策テキスト P検2002対応版 富士通オフィス機器株式会社 FOM出版 2002年    

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「コンピュータ入門」（担当者：滑川 光裕）の履修の手引き

科目名：	コンピュータ入門
担当者：	滑川 光裕
対象学生：	経営経済学部1年・短期大学部1年
設置学期：	春
概要：	コンピュータはハードウェアとソフトウェアで構成され、最近では、コンピュータ同士が、お互いにネットワークで接続されるような形で利用される。本講義では最初に、ハードウェアを構成する5つの基本装置と、これに接続して利用される周辺機器について学ぶ。次に、コンピュータを利用する上で最も基本的なソフトウェアであるオペレーティングシステム（Windows XP）の利用方法について学ぶ。さらに、学内のネットワーク（LAN）のしくみと利用方法について学び、最後にインターネットについて学習する。
授業方法：	講義形式で行うが、途中でコンピュータの操作を行う。 また、授業中に小テスト・レポート提出を行う。
履修の留意点：	特になし。
目標と評価：	授業中に行う幾つかの小テストやレポートの点数と期末の試験での評価を行う。
教科書：	パソコン検定試験3級対策テキスト P検2002対応版 富士通オフィス機器株式会社 FOM出版 2002年    

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「コンピュータ入門」（担当者：南 憲一）の履修の手引き

科目名：	コンピュータ入門
担当者：	南 憲一
対象学生：	経営経済学部1年・短期大学部1年
設置学期：	春
概要：	<p>コンピュータはハードウェアとソフトウェアで構成され、最近では、コンピュータ同士が、お互いにネットワークで接続されるような形で利用される。本講義では最初に、ハードウェアを構成する5つの基本装置と、これに接続して利用される周辺機器について学ぶ。次に、コンピュータを利用する上で最も基本的なソフトウェアであるオペレーティングシステム (Windows XP) の利用方法について学ぶ。さらに、学内のネットワーク (LAN) のしくみと利用方法について学び、最後にインターネットについて学習する。</p> <p>(内容)</p> <p>パソコン一般知識 LAN OS (オペレーティングシステム) インターネット 情報モラル</p>
授業方法：	パソコンを使用しながら講義を進めていくので、ノートパソコンを必ず持参すること。
履修の留意点：	嘉悦e-Campusを活用して授業を進めるので、授業時間内だけでなく自宅でも授業情報のページを開き、予習・復習に役立てること。
目標と評価：	パソコン検定試験 (P検) の3級に受かるレベルを目標に、学習を進めていく。定期試験で評価する。
教科書：	<p>パソコン検定試験3級対策テキスト P検2002対応版 富士通オフィス機器株式会社 FOM出版 2002年</p> <p> </p> <p> </p> <p> </p> <p> </p>

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「コンピュータ入門」（担当者：宮本 勉）の履修の手引き

科目名：	コンピュータ入門
担当者：	宮本 勉
対象学生：	経営経済学部1年・短期大学部1年
設置学期：	春
概要：	<p>コンピュータの知識のうち、パーソナルコンピュータの基礎知識を習得するとともにパソコン検定（P検）3級の出題範囲の一部を学習する。講義は主に2部構成として行う</p> <p>第Ⅰ部 一般知識（P検テキスト：リテラシー用のテキスト）</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1、情報モラル</li> <li>2、パソコンの一般知識</li> <li>3、LAN</li> </ol> <p>第Ⅱ部 パソコンの仕組み（下記の本講義の教科書）</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1、派損の起動と終了</li> <li>2、CPUとメモリ、ディスク</li> <li>3、機器の動作</li> <li>4、ファイル</li> <li>5、インターネット</li> </ol>
授業方法：	基本的には講義であるが演習、レポート、実習等をおこなうので各自のノートPCを持参することが必須。授業開始までにネットワークに接続しておくこと。
履修の留意点：	基本的には講義であるが演習、レポート、実習等をおこなうので各自のノートPCを持参することが必須。《大容量バッテリーを使用すること》 テキストは下記の2種類使用する
目標と評価：	パソコン検定3級を目標とします パソコンを使いこなすための基本知識を身に着けること
教科書：	パソコンの仕組み 試して納得 WindowsXP対応 藤田英時 ナツメ社 2002年

※最終評価は、評価点7割，出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。



「コンピュータアーキテクチャ」（担当者：中村 修）の履修の手引き

科目名：	コンピュータアーキテクチャ
担当者：	中村 修
対象学生：	経営経済学部1年・短期大学部1年
設置学期：	秋
概要：	<p>本授業では、主にコンピュータのハードウェアを中心とした講義を行う。最初に情報科学の基礎的な知識についての講義を行う。そして、コンピュータの基本機能、プロセッサ内部およびメモリでの処理方法、プロセッサ、メモリの種類、入出力とのインタフェースなどのコンピュータの仕組みについての講義を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・情報科学の基礎（基数変換・演算など）</li> <li>・情報素子（集積回路・半導体メモリ）</li> <li>・プロセッサアーキテクチャ</li> <li>・メモリアーキテクチャ</li> <li>・補助記憶装置</li> <li>・入出力アーキテクチャと装置</li> <li>・コンピュータの種類とアーキテクチャの特徴</li> </ul>
授業方法：	講義形式で行う。 授業中に小テスト・レポート提出を行う。
履修の留意点：	パソコン必携(大容量バッテリー充電含め)
目標と評価：	授業中の小テスト・レポートと期末のテストによる評価する。
教科書：	<p>基本情報技術者テキスト「コンピュータシステム」 中央情報教育研究所 コンピュータ・エージ社</p> <hr/> <hr/> <hr/> <hr/>

※最終評価は、評価点7割，出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「コンピュータアーキテクチャ」（担当者：滑川 光裕）の履修の手引き

科目名：	コンピュータアーキテクチャ
担当者：	滑川 光裕
対象学生：	経営経済学部1年・短期大学部1年
設置学期：	秋
概要：	<p>本授業では、主にコンピュータのハードウェアを中心とした講義を行う。最初に情報科学の基礎的な知識についての講義を行う。そして、コンピュータの基本機能、プロセッサ内部およびメモリでの処理方法、プロセッサ、メモリの種類、入出力とのインタフェースなどのコンピュータの仕組みについての講義を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・情報科学の基礎（基数変換・演算など）</li> <li>・情報素子（集積回路・半導体メモリ）</li> <li>・プロセッサアーキテクチャ</li> <li>・メモリアーキテクチャ</li> <li>・補助記憶装置</li> <li>・入出力アーキテクチャと装置</li> <li>・コンピュータの種類とアーキテクチャの特徴</li> </ul>
授業方法：	<p>講義形式で行う。</p> <p>授業中に、小テスト・レポート提出を行う。</p>
履修の留意点：	パソコン必携(大容量バッテリー充電含め)
目標と評価：	授業中の小テスト・レポートと期末のテストによる評価を行う。
教科書：	<p>基本情報技術者テキスト「コンピュータシステム」 中央情報教育研究所 コンピュータ・エージ社</p> <p> </p> <p> </p> <p> </p> <p> </p>

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「オペレーティングシステム論」（担当者：南 憲一）の履修の手引き

科目名：	オペレーティングシステム論
担当者：	南 憲一
対象学生：	経営経済学部2年・短期大学部2年
設置学期：	春
概要：	オペレーティングシステム (OS:Operating System) はコンピュータを利用する上で必要不可欠なソフトウェアである。本講義ではパソコン用の代表的なOSであるWindows XPについて学習する。 (内容) 基本的な操作 ネットワークの利用 パソコンの共用 ファイルとフォルダの利用 カスタマイズ システムの管理
授業方法：	パソコンを使用しながら講義を進めていくので、ノートパソコンを必ず持参すること。
履修の留意点：	嘉悦e-Campusを活用して授業を進めるので、授業時間内だけでなく自宅でも授業情報のページを開き、予習・復習に役立てること。
目標と評価：	Windows XPを自由に取り扱えるようになることを目標とする。 定期試験で評価する。
教科書：	ひと目でわかる Windows XP Professional 日経BPソフトプレス編 Microsoft Press 2001年

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「情報社会論Ⅰ」（担当者：坂口 寿一）の履修の手引き

科目名：	情報社会論Ⅰ
担当者：	坂口 寿一
対象学生：	経営経済学部2年
設置学期：	春
概要：	東西ドイツを隔てたベルリンの壁の崩壊やソ連の崩壊は、まさしく情報の力によるものでありました。また、コンピュータやインターネットは、皮肉にも戦争や冷戦が生みそして育てたと言ってもよいでしょう。本講では、このような事実を理解し、さらコンピュータや通信ネットワークなどによって生み出された情報社会の歴史的特質を学びます。また、それが企業、家庭など社会の様々な側面にもたらす影響について考察します。
授業方法：	講義形式を主体にしますが、パソコンを使った授業も行います（「履修上の留意点」の項参照ください）。
履修の留意点：	予習・復習のために、授業情報（授業計画など）を常に関覧するようにしてください。また、パソコン携行が必要な場合などの連絡事項も、授業計画のページに記載します。
目標と評価：	特に次の5項目について深く理解し、自分の考えや意見が述べられるようになることを目標とします。 1. 社会の変化 2. 高度情報社会 3. 情報 4. コンピュータの歴史 5. メディアの変化  評価は、本試験／レポートによって行います。
教科書：	<書名>「新・情報社会論」改訂版 <著者名>小池澄男 <出版社名>学文社 <出版年>2002年 4月15日改訂版第三刷

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「情報社会論Ⅱ」（担当者：坂口 寿一）の履修の手引き

科目名：	情報社会論Ⅱ
担当者：	坂口 寿一
対象学生：	経営経済学部2年
設置学期：	秋
概要：	東西ドイツを隔てたベルリンの壁の崩壊やソ連の崩壊は、まさしく情報の力によるものでありました。また、コンピュータやインターネットは、皮肉にも戦争や冷戦が生み、そして育てたと言ってもよいでしょう。本講では、このような事実を直視しながら、社会が情報化するにつれて浮き彫りになりつつある諸問題、特に情報社会におけるプライバシー保護、著作権保護、セキュリティ保持などをいかに達成するかについて、総合的観点から考察し、学習します。
授業方法：	講義形式を主体にしますが、パソコンを使った授業も行います（「履修上の留意点」の項参照ください）。
履修の留意点：	予習・復習のために、授業情報（授業計画など）を常に閲覧するようにしてください。また、パソコン携行が必要な場合などの連絡事項も、授業計画のページに記載します。
目標と評価：	特に次の5項目について理解を深め、自分の考えや意見が述べられるようになることを目標とします。 <ol style="list-style-type: none"> <li>1. インターネットの基礎知識</li> <li>2. インターネットのビジネスでの活用</li> <li>3. プライバシーの保護</li> <li>4. 著作権、知的所有権の保護</li> <li>5. セキュリティ保持</li> </ol> 評価は、本試験／レポートによって行います。
教科書：	<書名>「新・情報社会論」改訂版 <著者名> 小池澄男 <出版社名>学文社 <出版年>2002年4月15日改訂版第三刷 _____ _____ _____

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「情報システム論Ⅰ」（担当者：滑川 光裕）の履修の手引き

科目名：	情報システム論Ⅰ
担当者：	滑川 光裕
対象学生：	経営経済学部2年
設置学期：	秋
概要：	「情報」の概念について考え、「情報システム」の役割について考える。 実際に社会で運用されているシステムの実例をもとに、そこで利用されている情報技術（マンマシンインタフェース・データベースの設計技法など）や、システムのライフサイクルについて学ぶことで、情報システムの本質を理解することを目的としている。
授業方法：	講義形式で行う。 授業中に、小テスト・レポート提出を行う。
履修の留意点：	特になし。
目標と評価：	授業中の小テスト・レポートと期末のテストによる評価を行う。
教科書：	(授業中に指示する)

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「情報システム論Ⅱ」（担当者：滑川 光裕）の履修の手引き

科目名：	情報システム論Ⅱ
担当者：	滑川 光裕
対象学生：	経営経済学部2年
設置学期：	秋
概要：	<p>情報システムを支える高度な理論・技術について学び、より複雑な情報システムの構築についての講義を行う。</p> <p>また、最新のネットワーク技術と情報システムの関わりなどについても学ぶ。</p> <p>具体的には、情報システムの分析・設計技法としての予測・最適化・シミュレーション技術、並列・分散処理技術などである。</p> <p>また、ファジィ理論、ニューラルコンピューティング理論などについても触れたい。</p>
授業方法：	<p>講義形式で行う。</p> <p>授業中に、小テスト・レポート提出を行う。</p>
履修の留意点：	特になし。
目標と評価：	授業中の小テスト・レポートと期末テストによる評価を行う。
教科書：	<p>(授業中に指示する)</p> <p> </p> <p> </p> <p> </p> <p> </p>

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「データ構造とアルゴリズム」（担当者：南 憲一）の履修の手引き

科目名：	データ構造とアルゴリズム
担当者：	南 憲一
対象学生：	経営経済学部2年・短期大学部2年
設置学期：	秋
概要：	データ構造とアルゴリズムはコンピュータのプログラムを構成する重要な概念である。最初に基本データ構造として、基本データ型、構造型、抽象データ型、問題向きデータ構造としてリスト構造、スタック、キュー、ツリー構造、ハッシュについて学ぶ。次に、探索アルゴリズム、整列アルゴリズム、再起的アルゴリズムといった各種のアルゴリズムについて学ぶ。最後にアルゴリズムの評価とアルゴリズムの設計方法について学習する。
授業方法：	C言語によるプログラミングを取り入れながら授業を進めるのでパソコンを必ず持参すること。
履修の留意点：	嘉悦e-Campusを活用して授業を進めるので、授業時間内だけでなく自宅でも授業情報のページを開き、予習・復習に役立てること。
目標と評価：	定期試験で評価する。
教科書：	基本情報技術者テキストNo3 内部設計とプログラミング（財）日本情報処理開発協会 中央情報教育研究所 コンピュータエージ社 2001年

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。



「インターネットビジネス論」（担当者：佐々木 洋）の履修の手引き

科目名：	インターネットビジネス論
担当者：	佐々木 洋
対象学生：	経営経済学部3年
設置学期：	春
概要：	みなさんは、例えば、「IT革命」と「IT革新」の違い、「デフレ」と「不況」の違いについてはどのように考えられていますか。このような言葉は、連日マスコミでも取り上げられていますが、それぞれの論者によって違う解釈をして使われています。そして、言葉自体ではなく、言葉の解釈の背後にある事実認識の違いによって、現実に対する対応行動が違って行くことがよくあります。経済や経営の世界には、経理の世界の会計原則のような一律的に適用されるようなルールや判断基準（正解）がありません。これは、多かれ少なかれ、「情報不足のままリスクを犯して意思決定しなければならない」要素があるためであると考えられます。従って、ビジネスやマーケティングの当事者として最適な意思決定をするためには、限られた情報の中から「正解」に最も近くと考えられる考え方（仮説）を自ら導き出していく必要があります。特に、生成してから未だ日が浅く絶えず流動している「インターネット・ビジネス」については、いたずらに表層的な事象や言葉に目を奪われることなく、本質に遡って因果関係を考察し、自分なりの仮説を構成してこれを体系化してゆくことが極めて重要になります。当講座では、インターネット・ビジネスの可能性、方法、利点、問題点などについて考察した結果をそれぞれの仮説の体系に取り込むことを学ぶことによって、将来、事業家、起業家ないしは企業人としてビジネスチャンスを的確に捉えるための基礎的な能力を習得していただきたいと思っております。
授業方法：	自分自身が大学生時代に経済学部で学んだ事柄、（株）東芝に於けるIT部門を中心とした業務で経験した事項、三井産研研究所関連で出会った三井系各企業、MIT等のキーマンたちから得た教訓、更には、日経連関連の国際IT研修の企画運営を通じて見聞した事柄等々私自身の体験の中から得て組み立てた仮説を交えて、有用と考えられる内容を講義によりお伝えしていきたいと思っております。全14回の講義の構成は概ね以下のようにしたいと考えておりますが、極力質疑応答などによる双方向情報交換の機会を増やすとともに、受講者数やリクエスト次第では、受講生自身による事例研究のプレゼンテーションや企業における実務者の講話聴取などをプログラムに採り入れるなど、柔軟な講座運営の編成と運営を図ってゆくつもりです。 第1回 導入 第2-4回 インターネットの歴史的・社会的意義 第5-9回 ビジネスに及ぼすインパクトの諸相 第10-13回 ケース・スタディー（先進企業事例研究） 第14回 総括
履修の留意点：	「情報リテラシー＝ITリテラシー＋ビジネス・リテラシー」という仮説に基づいて、前期の「インターネット・ビジネス論」はビジネス・リテラシー、後期の「コミュニケーション・メディア論」はITリテラシーに、それぞれ焦点を当てて講座を構成したいと思っております。両講座は視点を異にするものであるうえ、ともに自己完結する形をとりましますので、必ずしも両講座を併せて受講する必要はありません。 教科書 日本経済新聞を講義構成のための基本的な情報源としますので、同紙のインターネット・ビジネス関連記事については常々問題意識を持って目を通しておくことをお勧めします。 また、具体的なテキストは、マイホームページ「東芝38年生の酒記」の「情報通信論」のページに逐次講義内容を掲載してゆく予定です。以下のURLで参照し、自分の見解（仮説）の検証と構成に役立ててください。積極的反論も大歓迎です。 <a href="http://www4.ocn.ne.jp/~daimajin/Jouhoutsushin.htm">http://www4.ocn.ne.jp/~daimajin/Jouhoutsushin.htm</a>
目標と評価：	具体的に「日本経済新聞のインターネット・ビジネスに関する記事を読みこなすだけの力をつける」ことを学習目標として掲げます。“読みこなす”ということは、記事の内容を単に“理解する／覚える”のではなくて“評価しながら自分の見解（仮説）に取り入れる”ことに重点がありますので、受講の結果が情報の評価能力と仮説の構成能力の向上の形で結実することを願っております。従って、学習成果の評価のためのテストとしては、指定した日本経済新聞のインターネット・ビジネス関連の記事について「A. 大意の把握、B. 内容の評価、C. 自分としての見解」を内容とするレポートを作成願ひ、Aに20点、BおよびCに各40点をそれぞれ配点し100点満点にて評価を行う予定です。
教科書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「エンドユーザコンピューティング論」（担当者：中村 修）の履修の手引き

科目名：	エンドユーザコンピューティング論
担当者：	中村 修
対象学生：	経営経済学部3年
設置学期：	秋
概要：	<p>従来のエンドユーザコンピューティング（EUC）では、パソコンに関する一般知識、ワープロや表計算などのアプリケーションプログラムの使用方法を学習し、初級システム・アドミニストレータ試験レベルの内容と範囲を対象としてきました。しかし、社会における情報化の普及はめざましく、さらにインターネットを利用したビジネスが急速に拡大していく状況においては、従来のEUCの学習範囲は、本来のエンドユーザとしての能力を活用するには陳腐化し、不足する状況にあります。</p> <p>幸いにして、嘉悦大学では本講義以外の科目でも、より丁寧なEUCに関連する講義がなされています。そこで、本講義では、時代の要請に速やかに応えるため、e-ビジネスというより広い枠組みで、必要な基礎知識の学習を進めます。具体的には、以下に示す教科書の項目に従って学習を進めます。</p> <p>【使用教科書目次】          プロローグ 本書のねらいとe-ビジネスの現在          第1部 インターネットビジネスをモデルから理解する          第1章 e-ビジネスモデル入門          第2章 e-ビジネスモデルの作りかた          第3章 進化するe-ビジネスモデル～B2Bを例として～          第2部 e-ビジネスを実現技術の面から解剖する          ～e-ビジネスを可能にするIT～          第1章 e-ビジネス向け情報システム          第2章 コンテンツの圧縮とe-ビジネス          第3章 情報セキュリティとe-ビジネス          第4章 データベースと情報検索、そしてデータマイニング          第5章 オブジェクト指向技術          第6章 インターネットとWeb統合技術          第7章 XMLとe-ビジネス～データベースの視点から～</p>
授業方法：	<p>基本的には、講義を中心としますが、演習、レポート、実習、等を適宜取り入れていきます。また、e-Campusをフルに活用するため、毎回の授業では、ノートPCが必須となります。そこで、斡旋パソコンを購入した人は、大容量バッテリーへの充電を十分にできて下さい。また、斡旋パソコン以外の人は、嘉悦e-Campusに無線LANカードで接続できるようにし、さらに、大容量のバッテリーを用意し、十分に充電して授業に臨んで下さい。</p>
履修の留意点：	<p>毎回、ノートPCを利用しますので、パソコン講習会には必ず出席して下さい。また、授業中、e-Campusへの接続が必須ですので、講義が開設されるまでには、必ずe-Campusネットワークに接続できるようにしておいて下さい。</p> <p>主に、インターネット検索により関連情報の収集をおこなったり、グループに別れた調査研究発表などもできたら行っていきたいと考えています。</p> <p>授業は、受講生の平均的な知識レベルを前提に進めますので、既に知識のある人には退屈になり、初めての人には難しすぎるという問題が生じます。そうならないように、講師側も努力をしますが、皆さんも、特に初めての人は予習・復習、講師への質問等をe-Campusを活用して行って下さい。</p>
目標と評価：	<p>嘉悦では、出席点が30点あります。1回の欠席で3点減点、3回の遅刻（開始から15分まで）で1回の欠席となってしまいます。本講義の内容は多岐にわたっていますので、自分が興味のある内容の回や興味のない回もあると思いますが、知らないことを知ること、または興味のないことに興味を持つことの方が却って新しい世界との出会いがあり、自信の進路の選択肢を広げる可能性があります。ですから、授業には、欠かさずに出席しましょう。また、出席するからには、授業に集中しましょう。期末には、筆記試験を予定しています。落とすための試験ではありません。普通に学習し、授業に出席していれば、A以上の評点がつくはずで。</p>
教科書：	<p>IT TEXT e-ビジネス技術 入門教科書 e-ビジネスモデルと情報技術（IT）－ 石川 博（群馬大学） CQ出版株式会社 2002年8月10日 初版（¥2,200）税別</p>

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「データベース特論」（担当者：村上 哲也）の履修の手引き

科目名：	データベース特論
担当者：	村上 哲也
対象学生：	経営経済学部3年
設置学期：	春
概要：	現代社会において、コンピュータ・ネットワークを対象とするデータベースおよびデータベースシステムは、情報の管理、蓄積、編集、運用などを実現するための役割を担っている。本講義ではデータベースの概念とデータ構造、データベース管理システム(DBMS)の機能、データ操作言語の定義方法について理解した上で、ネットワークを前提とした経営支援のためのデータベースシステムの構築と運用の実際を学ぶ。
授業方法：	ノートパソコンを用い、リレーショナルデータベースシステム(Microsoft Access)およびデータベース言語SQLにより、データベースの設計・構築を行う。
履修の留意点：	データベース入門の履修を前提とする。
目標と評価：	講義・実習によりデータベースシステムの概念、データ構造を理解し、データベースの設計・構築方法、操作方法を演習を通し理解する。 ■評価は提出課題による。
教科書：	Access+MySQL実用データベースシステム構築 豊崎 直也 秀和システム 2003年

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「UNIX論」（担当者：滑川 光裕）の履修の手引き

科目名：	UNIX論
担当者：	滑川 光裕
対象学生：	経営経済学部1年・短期大学部1年
設置学期：	春
概要：	<p>一般的にUNIXという言葉は聞き慣れないが、WindowsやMacOSなどのいわゆるエンドユーザレベルのコンピュータよりも一段上のレベルのコンピュータであり、主にエンジニアたちが利用している。このUNIXは、1969年にベル研究所で生まれてからネットワーク社会を発展させるために非常に大きな貢献をしてきたキャラクタ（コマンド）ベースの操作によるコンピュータシステムである。本授業では、その一種であるLinuxを使ってUNIXの本質を知ることが目的である。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・UNIXの概要（種類・歴史）</li> <li>・UNIXの特徴</li> <li>・PC-UNIXの環境</li> <li>・インターネットとUNIX</li> <li>・UNIXコマンド</li> <li>・エディタの利用</li> </ul>
授業方法：	講義が中心であるが、UNIXの動作・特徴を知るために、実際にUNIXの操作も行う。また、授業中に小テスト・レポート提出を行う。
履修の留意点：	特になし。
目標と評価：	授業中の提出物・小テストの点数と期末テストによる評価を行う。
教科書：	<p>（授業中に指示する）</p> <hr/> <hr/> <hr/> <hr/>

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「インターネットの理論と実際」（担当者：山際 基）の履修の手引き

科目名：	インターネットの理論と実際
担当者：	山際 基
対象学生：	短期大学部1年
設置学期：	秋
概要：	現在いたるところでインターネットを利用する機会が増えてきている。それは単なるホームページの閲覧だけでなく、ネットショッピングやネットバンキングなど様々な利用が行なわれている。そして新たなサービスや技術が毎日のように提供されておりインターネットに関する技術の変化は著しいものになっている。またインターネットを利用した犯罪も増加していることも事実である。本講義では、コンピュータネットワークの通信方式、通信形態、各種サーバーの働きといったインターネットを支える基礎技術、メーリングリストやFTPなどのインターネット上の各種サービス、CGIやXML、Javaなどのインターネット関連技術、さらにそれらを応用したインターネットビジネス（エレクトロニックコマース）やファイアーウォール、暗号化などのインターネットセキュリティについて学習する。
授業方法：	講義中心に行なうが、各種実例をパソコン、インターネットを利用して実習、閲覧することで理解を深める。
履修の留意点：	インターネット活用演習を履修していることが望ましい。
目標と評価：	単にインターネットを使用するのではなく、その仕組みや周辺事情に関しても理解することが必要である。またインターネットをより安全に、より便利に利用できるような知識を有し、実践できることが目標である。 講義中の演習課題および期末のレポートで評価する。
教科書：	なし

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「コンピュータ科学の基礎」（担当者：滑川 光裕）の履修の手引き

科目名：	コンピュータ科学の基礎
担当者：	滑川 光裕
対象学生：	短期大学部1年
設置学期：	秋
概要：	<p>基数変換・論理演算・符号理論・情報量などの情報における数学を交えた基礎理論について勉強する。また、情報処理の信頼・効率などの面からプログラム構築技法を考えるアルゴリズムの概念について学ぶ。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・基数変換</li> <li>・数値表現</li> <li>・文字表現</li> <li>・演算方法と精度</li> <li>・最適化問題</li> <li>・論理演算</li> <li>・符号理論</li> <li>・データ構造</li> <li>・アルゴリズム</li> </ul>
授業方法：	講義形式で行う。 授業中に小テスト・レポート提出を行う。
履修の留意点：	特になし。
目標と評価：	授業中の小テスト・提出物と期末テストによる評価を行う。
教科書：	(授業中に指示する)

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「インターネット入門」（担当者：五十嵐 忠夫）の履修の手引き

科目名：	インターネット入門
担当者：	五十嵐 忠夫
対象学生：	経営経済学部1年
設置学期：	春
概要：	インターネットは、世界中のコンピュータを通信回線でつないだ、大規模なコンピュータネットワーク（情報網）です。企業、個人、研究機関、行政機関などのコンピュータがつながって文字や画像、音声、映像といった情報を自由にやり取りできます。いまや、社会的な活動を営むにはインターネットを使いこなすことが不可欠になっています。将来もますますこの傾向は加速されることでしょう。この科目はインターネットの仕組みを理解して、使いこなすことができるようにすることを目標にします。また、電子メール（Eメール）の有効な利用法を習得しましょう。同時に、インターネット利用のため正しい使い方のエチケット（ネチケット）についても充分配慮することが必要です。この点についても正しい知識と操作法を理解してください。
授業方法：	インターネットの基礎的な知識（歴史、仕組み）を講義によって理解して、パソコンを使って操作を演習しましょう。
履修の留意点：	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 理論と実習が知識技術の習得には欠かせません。</li> <li>2. 学習はステップ・バイ・ステップで積み重ねです。</li> <li>3. 欠かせずに授業を受けてください。</li> <li>4. もし、やむを得ず欠席した場合は、遅れたステップを学習してください。</li> <li>5. 楽しみながら学習できる科目にしたいと思っています。</li> </ol>
目標と評価：	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 目標 インターネットの仕組みを理解し、インターネットを使って情報収集ができること 電子メールによる情報伝達ができること 情報倫理を理解して、情報に関する法律、ルール、マナーを守り、情報の加害者、被害者になることのないよう、ネチケットを身につけること。</li> <li>2. 評価 授業中のテスト、レポート提出などと期末テスト</li> </ol>
教科書：	「インターネットのしくみをきちんと知って使う本」 びん 技術評論社 2002年（定価 790円） 「Z式マスター インターネット」 浅丘直希+アルシエン編集部 アスキー 2002年（定価 980円）   

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「インターネット入門」（担当者：五十嵐 忠夫）の履修の手引き

科目名：	インターネット入門
担当者：	五十嵐 忠夫
対象学生：	経営経済学部1年
設置学期：	春
概要：	インターネットは、世界中のコンピュータを通信回線でつないだ、大規模なコンピュータネットワーク（情報網）です。企業、個人、研究機関、行政機関などのコンピュータがつながって文字や画像、音声、映像といった情報を自由にやり取りできます。いまや、社会的な活動を営むにはインターネットを使いこなすことが不可欠になっています。将来もますますこの傾向は加速されることでしょう。この科目はインターネットの仕組みを理解して、使いこなすことができるようにすることを目標にします。また、電子メール（Eメール）の有効な利用法を習得しましょう。同時に、インターネット利用のため正しい使い方のエチケット（ネチケット）についても充分配慮することが必要です。この点についても正しい知識と操作法を理解してください。
授業方法：	インターネットの基礎的な知識（歴史、仕組み）を講義によって理解して、パソコンを使って操作を演習しましょう。
履修の留意点：	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 理論と実習が知識技術の習得には欠かせません。</li> <li>2. 学習はステップ・バイ・ステップで積み重ねです。</li> <li>3. 欠かせずに授業を受けてください。</li> <li>4. もし、やむを得ず欠席した場合は、遅れたステップを学習してください。</li> <li>5. 楽しみながら学習できる科目にしたいと思っています。</li> </ol>
目標と評価：	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 目標 インターネットの仕組みを理解し、インターネットを使って情報収集ができること 電子メールによる情報伝達ができること 情報倫理を理解して、情報に関する法律、ルール、マナーを守り、情報の加害者、被害者になることのないよう、ネチケットを身につけること。</li> <li>2. 評価 授業中のテスト、レポート提出などと期末テスト</li> </ol>
教科書：	「インターネットのしくみをきちんと知って使う本」 びん 技術評論社 2002年（定価 790円） 「Z式マスター インターネット」 浅丘直希+アルシエン編集部 アスキー 2002年（定価 980円）   

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。



「インターネット応用」（担当者：五十嵐 忠夫）の履修の手引き

科目名：	インターネット応用
担当者：	五十嵐 忠夫
対象学生：	経営経済学部1年
設置学期：	秋
概要：	インターネットは、世界中のコンピュータを通信回線でつないだ、大規模なコンピュータネットワーク（情報網）です。企業、個人、研究機関、行政機関などのコンピュータがつながって文字や画像、音声、映像といった情報を自由にやり取りできます。インターネットを積極的に利用するにはインターネットの各種のサービス、サーバーの仕組み、セキュリティ、プライバシーの問題を理解することが大切です。さらに、情報を自分から発信するには、WEBページ（ホームページ）を作成する技法を習得したいものです。HTMLによるWEBページ作成の方法を学習しましょう。
授業方法：	講義による理解と演習による習得を行いましょう。 HTMLのよるWEBページ作成を中心に学習します。
履修の留意点：	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. インターネットの基礎知識を前提に授業を進めます。</li> <li>1. 理論と実習が知識技術の習得には欠かせません。</li> <li>2. 学習はステップ・バイ・ステップで積み重ねです。</li> <li>3. 欠かせずに授業を受けてください。</li> <li>4. もし、やむを得ず欠席した場合は、遅れたステップを学習してください。</li> <li>5. 楽しみながら学習できる科目にしたいと思っています。</li> </ol>
目標と評価：	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 目標 情報発信の手段であるWebページの作成ができること。 電子メールを十分に使いこなす情報伝達に上達すること。 ネットケットに関するの十分な知識を理解し、情報発信、情報収集に関する自己防衛ができること。</li> <li>2. 評価 授業中のテスト、レポート提出など期末テスト</li> </ol>
教科書：	30時間でマスター ホームページデザイン 実務出版社

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「インターネット応用」（担当者：五十嵐 忠夫）の履修の手引き

科目名：	インターネット応用
担当者：	五十嵐 忠夫
対象学生：	経営経済学部1年
設置学期：	秋
概要：	インターネットは、世界中のコンピュータを通信回線でつないだ、大規模なコンピュータネットワーク（情報網）です。企業、個人、研究機関、行政機関などのコンピュータがつながって文字や画像、音声、映像といった情報を自由にやり取りできます。インターネットを積極的に利用するにはインターネットの各種のサービス、サーバーの仕組み、セキュリティ、プライバシーの問題を理解することが大切です。さらに、情報を自分から発信するには、WEBページ（ホームページ）を作成する技法を習得したいものです。HTMLによるWEBページ作成の方法を学習しましょう。
授業方法：	講義による理解と演習による習得を行いましょう。 HTMLのよるWEBページ作成を中心に学習します。
履修の留意点：	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. インターネットの基礎知識を前提に授業を進めます。</li> <li>1. 理論と実習が知識技術の習得には欠かせません。</li> <li>2. 学習はステップ・バイ・ステップで積み重ねです。</li> <li>3. 欠かせずに授業を受けてください。</li> <li>4. もし、やむを得ず欠席した場合は、遅れたステップを学習してください。</li> <li>5. 楽しみながら学習できる科目にしたいと思っています。</li> </ol>
目標と評価：	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 目標 情報発信の手段であるWebページの作成ができること。 電子メールを十分に使いこなす情報伝達に上達すること。 ネットケットに関するの十分な知識を理解し、情報発信、情報収集に関する自己防衛ができること。</li> <li>2. 評価 授業中のテスト、レポート提出など期末テスト</li> </ol>
教科書：	30時間でマスター ホームページデザイン 実務出版社

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「ビジネスアプリケーション応用Ⅰ」（担当者：木下 恂）の履修の手引き

科目名：	ビジネスアプリケーション応用Ⅰ
担当者：	木下 恂
対象学生：	経営経済学部2年
設置学期：	春
概要：	テーマ：Excelによる表計算 パソコンの代表的なアプリケーションソフトであるExcelを用いて、表計算の概念を学び、様々な表やデータを整理するために必要な基本操作を習得する。
授業方法：	毎回、実践的な例題による演習中心で進める。 内容は概略、以下のスケジュールによる。 <第1週> 表作成（1）：Excelの基本操作 入力と編集 <第2週> 表作成（2）：計算式を使った表の作成 <第3週> 関数（1）：関数の設定方法 <第4週> 関数（2）：いろいろな関数 <第5週> 関数（3）：関数の活用 <第6週> グラフ（1）：グラフの作成とアレンジ <第7週> グラフ（2）：目的に合ったグラフの選択（1） <第8週> グラフ（3）：目的に合ったグラフの選択（2） <第9週> グラフ（4）：複雑なグラフ、グラフでの分析 <第10週> 分析とシミュレーション <第11週> 複数ページの利用 <第12週> データ処理（1）：データ処理用の表の規則 <第13週> データ処理（2）：データの集計 <第14週> マクロの利用
履修の留意点：	ノートパソコン等を使用する。 遅刻/早退の場合は、必ず理由を報告すること
目標と評価：	Excelの基本的な操作ができるようになる。 評価は、試験、レポート、出席状況による。
教科書：	使用しない（資料を配布する）    

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「ビジネスアプリケーション応用Ⅱ」（担当者：木下 恂）の履修の手引き

科目名：	ビジネスアプリケーション応用Ⅱ
担当者：	木下 恂
対象学生：	経営経済学部2年
設置学期：	秋
概要：	表計算アプリケーションExcelに付属するプログラミング言語Visual Basic for Application (VBA)を利用した独自のプログラミングの作成により、データ処理の自動化、データベースなど他のアプリケーションとの連携、効果的なユーザーインターフェースの設計を行う技法を身に付けることを目的とする。更に、一般的なプログラミングを行う際に必要となる技法や作法を学ぶ。
授業方法：	Excelが搭載されているノート型パソコンを用い、実習と演習を中心とした実践的な授業をすすめる。概略以下のスケジュールによる。 <第1週> VBAの基本(1) <第2週> VBAの基本(2) <第3週> VBAの基本(3) <第4週> プログラミングの基本(1) <第5週> プログラミングの基本(2) <第6週> プログラミングの基本(3) <第7週> プログラミングの基本(4) <第8週> ちょっと高度なプログラミング(1) <第9週> ちょっと高度なプログラミング(2) <第10週> ちょっと高度なプログラミング(3) <第11週> ダイアログとユーザーインターフェースの設計(1) <第12週> ダイアログとユーザーインターフェースの設計(2) <第13週> ダイアログとユーザーインターフェースの設計(3) <第14週> ダイアログとユーザーインターフェースの設計(4)
履修の留意点：	本講座を受講するには、 ・「ビジネスアプリケーション応用Ⅰ」をあらかじめ受講済みであること。 ・Windowsを中心とするパソコン開発環境に慣れていること 遅刻/早退の場合は、必ず理由を報告すること
目標と評価：	VBAによる一般的なプログラミング技法や作法を身につける。 評価は、課題、レポートの成績、および日頃の実習態度により総合判断する。
教科書：	使用しない。(必要な資料は配布する)

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「データベース入門」（担当者：村上 哲也）の履修の手引き

科目名：	データベース入門
担当者：	村上 哲也
対象学生：	経営経済学部2年
設置学期：	春
概要：	ワードプロセッサ、表計算、データベースの三つは、パーソナルコンピュータで利用するソフトウェアの基本と言われている。その中でワードプロセッサと表計算は文書作成のために使われるいわば付随的なソフトウェアであるのに対し、データベースは、パーソナルコンピュータに限らず、本来コンピュータの事務的な使用の基本であるデータ処理を行うためのソフトウェアである。このソフトウェアを使って作るのは、文書のようなデータではなく、データを処理するための様々な仕組みである。この仕組みを理解するためにデータベースの設計・データ入力・データベースの利用を演習を通し習得する。
授業方法：	ノートパソコンを用い、リレーショナルデータベースソフトウェア「Access」の基本的利用法を実習中心に進める
履修の留意点：	特になし
目標と評価：	身近な情報をもとに、データベースシステムを構成する各要素の作成を通し、システム全体関係を理解する。 ・ テーブル ・ フォーム ・ レポート ・ クエリ 最終的にはリレーションシップ・マクロの利用により、ある程度実用に耐えられるデータベースシステムの作成ができることを目標とする。 ■評価は提出課題による。
教科書：	学生のためのAccess 若山芳三郎 東京電機大学 1999年

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「データベース応用」（担当者：村上 哲也）の履修の手引き

科目名：	データベース応用
担当者：	村上 哲也
対象学生：	経営経済学部2年
設置学期：	秋
概要：	データを効率良く管理、蓄積する手段としてデータベースがある。データベースを利用することでデータを容易に管理することができるため、顧客管理や仕入れ・受注管理から個人の住所録まで企業や個人を問わず広く利用されている。本講義では、データベースの意味や利用例から講義を行ない、実際にデータベースを設計、運用することによりデータベースの作成法やデータの操作、編集といったデータベースの基礎について学習する。データベースの設計にはRDBMS (Relational DataBase Management System)を採用し、データベースの作成やデータの操作を行なうための基礎ともいえるプログラム言語SQLを学習する。さらに、パーソナルコンピュータ向けの RDBMS ソフトウェアの代表格” Microsoft Access “を使用してデータベースを設計・運用していく。
授業方法：	ノートパソコンを用いた実習を中心に講義を進めていく。
履修の留意点：	データベース入門の履修を前提とする。
目標と評価：	データベースとは何かについて講義を行なう。データベースがどのような場所でどのような場合において利用されているか、データベースの種類などについて講義する。さらに実際に RDBMS を使用してデータベースを設計、運用することによりデータベースの使用法の基礎を学ぶ。まじめにリレーショナル・データベース向けに規格化、標準化された言語である SQL の基礎について講義・実習を行なうことでデータベースの作成やデータの検索、操作を行なうための基本手法を学ぶ。 その後、Microsoft Access を使用してデータベースを設計・運用する。まずMicrosoft Accessのもつ機能やその使用方法について学習し、テーブルの作成ではデータベースの作成方法を、クエリの作成ではデータの操作法を、フォームの作成やレポートの作成では運用時のデータの表示や印刷について順次学習する。また他のアプリケーションとの連携やマクロなど独自の機能についても学習する。 ■評価は提出課題による。
教科書：	最新SQLがわかる 小野哲 他 技術評論社 2001年

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「マルチメディア演習Ⅰ」（担当者：由木尾 武）の履修の手引き

科目名：	マルチメディア演習Ⅰ
担当者：	由木尾 武
対象学生：	経営経済学部2年
設置学期：	春
概要：	<p>パソコンを使用して文書を編集し、仮想のレイアウト用紙上にデザインして、印刷を行う「DTP (DeskTop Publishing)」に必要な知識と技能を習得する。</p> <p>使用ソフト：Adobe InDesign 2.0          到達目標：InDesignの操作方法を習得することにより、自己表現力を豊かにする。          受講対象：DTPソフト使用未経験者</p>
授業方法：	<p>机上の講義やマニュアル的な操作学習ではなく、下記の5つの作品の制作を通じてInDesignの操作方法を習得し、自己の表現力を磨く。</p> <p>① 名刺用紙の設計と名刺の作成          ② はがき用紙の設計とはがきの作成          ③ A4の見開きパンフレットの設計と作成          ④ A4の段組みパンフレットの設計と作成          ⑤ A4、8ページのパンフレット作成</p>
履修の留意点：	<p>① InDesignの操作方法を取得するためには、初回はもとより、毎回継続して受講すること。          ② 操作方法の習得は、あくまでも自己表現力を豊かにするためのものなので、ものまねではなく、5つの作品を制作することを通じて、自分をいかに表現するかが大切です。          ③ 市販の教科書は使いません。毎回、履修内容にそったマニュアルを用意します。</p>
目標と評価：	<p>① 履修状況と作成する作品の出来栄え（自己表現力）で評価する。          ② 定期試験は行わない。</p>
教科書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「マルチメディア演習Ⅱ」（担当者：由木尾 武）の履修の手引き

科目名：	マルチメディア演習Ⅱ
担当者：	由木尾 武
対象学生：	経営経済学部2年
設置学期：	秋
概要：	<p>パソコンを使ったビデオ編集やオーディオ編集など、これからの時代のパソコンの活用方法を習得する。また、インターネット上でのリアルタイム音声会議およびビデオ会議など、最新の通信・コミュニケーション方法を学習する。</p> <p>使用ソフト：PowerPoint Ulead MediaStudio Pro 6.0 Windows Messenger</p> <p>到達目標：自己表現のツールとして、PowerPointやMediaStudio Pro 6.0などのマルチメディア機能を学び、デジタル・コミュニケーションによる自己表現力を身に付ける。</p> <p>受講対象：ビデオ編集、オーディオ編集の初心者</p>
授業方法：	<p>机上の講義ではなく、操作実習を中心に、下記の各項目を履修しながら、ビデオ編集、オーディオ編集、インターネットでの通信・コミュニケーション方法を習得する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. PowerPointによるビデオスライドの作成</li> <li>2. Ulead MediaStudio Proによるビデオ編集</li> <li>3. Ulead MediaStudio Proによるオーディオ編集</li> <li>4. Windows Messenger機能の学習</li> </ol>
履修の留意点：	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 各ソフトの操作方法を習得するためには、初回はもとより、毎回継続して受講すること。</li> <li>2. 操作方法の習得は、あくまでも自己表現力を豊かにするためのものなので、ものまねではなく、自分の発想で、自分の創作物を制作することが大切です。</li> <li>3. 市販の教科書は使いません。毎回、履修内容にそったマニュアルを用意します。</li> </ol>
目標と評価：	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 履修状況と制作する作品の出来栄え（自己表現力）で評価する。</li> <li>2. 定期試験は行わない。</li> </ol>
教科書：	<hr/> <hr/> <hr/> <hr/>

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。



「コンピュータグラフィクスⅠ」（担当者：小林 憲夫）の履修の手引き

科目名：	コンピュータグラフィクスⅠ
担当者：	小林 憲夫
対象学生：	短期大学部1年
設置学期：	秋
概要：	コンピュータグラフィクス（CG）の知識、および活用技術に関する基礎的把握 コンピュータを使った図形・画像・映像処理はCGと総称される。CGIは特殊な専門的分野であるが、CG技術の習得に必要な知識や技術は、デジタルデータを理解する上で非常に役に立つ。本講座は、CG-ARTS協会によるCG技能検定向けのテキストを利用し、デジタルデータのより高度な活用を目指した授業を行う。
授業方法：	講義と実習の併用 テキスト（教科書）の講読をベースに、実際に画像などの編集・加工処理を行い、その効果や意味を確認しながら、コンピュータグラフィクスの技術・知識について学習する。単に名称や機能を覚えるのではなく、それぞれの技術の背景となる原理や目的などを重視した講義展開にする。
履修の留意点：	コンピュータによる図形・画像処理に興味があること 授業においては、数多くの専門用語や技術説明が出てくる。可能な限りわかりやすく説明するが、デジタルを活用した表現形式に対する関心がないと理解は難しい。少なくとも、CGを使った映画やアニメーションを何本か見ている必要がある。
目標と評価：	試験期間中のテストは行わず、授業内で小テストを実施する 授業の進行に応じて、数回の小テストを実施する。講義内容の理解度を測り、以降の授業の進め方の参考にもしたい。
教科書：	入門コンピュータグラフィクス 入門編CG CG-ARTS協会 財団法人 画像情報教育振興協会 2002年 _____ _____ _____

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「コンピュータグラフィクスⅡ」（担当者：小林 憲夫）の履修の手引き

科目名：	コンピュータグラフィクスⅡ
担当者：	小林 憲夫
対象学生：	短期大学部2年
設置学期：	春
概要：	コンピュータグラフィクス（CG）の活用技術に関する高度な把握 コンピュータグラフィクスをさらに深く理解するため、CG-ARTS協会によるCG技能検定向けのテキストを利用し、デジタルデータのより高度な活用を目指した授業を行う。 コンピュータグラフィクスⅠの未履修者でも理解できる授業内容である。
授業方法：	講義と実習の併用 テキスト（教科書）の講読をベースに、実際に画像などの編集・加工処理を行い、その効果や意味を確認しながら、コンピュータグラフィクスの技術・知識について学習する。単に名称や機能を覚えるのではなく、それぞれの技術の背景となる原理や目的などを重視した講義展開にする。 時間があれば、CG合成や特殊効果を使った動画（ビデオ）作品を制作したい。
履修の留意点：	コンピュータによる図形・画像処理に興味があること 授業においては、数多くの専門用語や技術説明が出てくる。可能な限りわかりやすく説明するが、デジタルを活用した表現形式に対する関心がないと理解は難しい。少なくとも、CGを使った映画やアニメーションを何本か見ていることが必要である。
目標と評価：	試験期間中のテストは行わず、授業内で小テストを実施する 授業の進行に応じて、数回の小テストを実施する。講義内容の理解度を測り、以降の授業の進め方の参考にもしたい。
教科書：	入門コンピュータグラフィクス 入門編CG CG-ARTS協会 財団法人 画像情報教育振興協会 2002年 _____ _____ _____

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「インターネット活用演習」（担当者：山際 基）の履修の手引き

科目名：	インターネット活用演習
担当者：	山際 基
対象学生：	短期大学部1年
設置学期：	春
概要：	インターネットは単に画像や文字情報を得るだけのものではない。音声や映像を得ることはもちろんのこと、情報交換やその応用とも言えるバーチャルショッピングやインターネットオークション、また時には自ら情報を発信することも可能であり、それらを利用するためのソフトウェアが数多く提供されている。それらをうまく使いこなしてこそインターネットを活用していると言える。本講義ではメール、メッセージング、telnet、ftpなど他の人やサーバーと情報をやりとりするアプリケーションの活用、音声や動画の視聴、情報の検索、Web会議室の活用、バーチャルショップでの購入・決済方法の知識などインターネットの多様な利用法について学習する。またインターネットを通じて、所有するノートパソコンのOSやインストール済みのソフトウェアのアップグレードについても実習していく。
授業方法：	ノートパソコンを用いた実習を中心に講義を進めていく。
履修の留意点：	特になし。
目標と評価：	インターネットを学生生活をより便利にするためのツールとして使いこなせることを目標とする。 評価は毎回の演習課題および期末のレポートで行なう。
教科書：	なし

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「インターネット活用演習」（担当者：山際 基）の履修の手引き

科目名：	インターネット活用演習
担当者：	山際 基
対象学生：	短期大学部1年
設置学期：	春
概要：	インターネットは単に画像や文字情報を得るだけのものではない。音声や映像を得ることはもちろんのこと、情報交換やその応用とも言えるバーチャルショッピングやインターネットオークション、また時には自ら情報を発信することも可能であり、それらを利用するためのソフトウェアが数多く提供されている。それらをうまく使いこなしてこそインターネットを活用していると言える。本講義ではメール、メッセージング、telnet、ftpなど他の人やサーバーと情報をやりとりするアプリケーションの活用、音声や動画の視聴、情報の検索、Web会議室の活用、バーチャルショップでの購入・決済方法の知識などインターネットの多様な利用法について学習する。またインターネットを通じて、所有するノートパソコンのOSやインストール済みのソフトウェアのアップグレードについても実習していく。
授業方法：	ノートパソコンを用いた実習を中心に講義を進めていく。
履修の留意点：	特になし。
目標と評価：	インターネットを学生生活をより便利にするためのツールとして使いこなせることを目標とする。 評価は毎回の演習課題および期末のレポートで行なう。
教科書：	なし

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「ウェブページ作成演習」(担当者: 暮田 豊)の履修の手引き

科目名:	ウェブページ作成演習
担当者:	暮田 豊
対象学生:	短期大学部1年
設置学期:	春
概要:	インターネットは情報を得るだけのものではない。自ら情報を発信することも可能である。情報を発信するにはHTML(Hyper Text Markup Language)を記述してホームページを作成し、なおかつ作成したホームページをサーバーコンピュータへアップロードしなければならない。 本講義では、インターネット上に自分の情報を発信する為の基本作業であるホームページの作成とサーバーコンピュータとのアクセス方法(アップロード・ダウンロードなど)についての実習を行なう。 ホームページの作成には、エディタを利用してHTMLを記述することでHTMLの文字修飾やページレイアウトを構成する為の各種文法といった基本的な技法を身につける。また、作成・変更したホームページを随時サーバーコンピュータへアップロード、または不要となったファイルの削除を行なうことで情報の発信・更新の手法を身につける。
授業方法:	各自所有のノートパソコンを主に、実習を中心にした講義を進めていく。又デジカメ、イメージスキャナー等の機器も、必要に応じて使用する。
履修の留意点:	実習が中心となり、評価も作成したホームページで行う。その為に、休みの多い学生にはどうしても不利になる事を留意しておいて欲しい。
目標と評価:	まず情報の発信に必要な環境や既に公開されているホームページがどのような構成になっているか講義を行なう。そしてホームページを作成するのに必要なHTMLについてその概念、基本文法について学習する。 基本文法は文字の大きさや色などの変更といったワープロ的なことから学習を始め、ページの色つけやリンクの作成、図の貼り付けといったホームページならではの機能の実現、表組みや送信フォーム、フレーム、スタイルシートといった応用を学習し、徐々に作成したホームページを充実した内容にしていく。 作成されたホームページはFTP Explorerを使用して学内に用意されたサーバーコンピュータに接続し、HTMLファイルやホームページを構成するファイルのアップロード・ダウンロード、サーバーコンピュータにアップロードされたファイルのアクセス権の設定を行なう。  評価は各自が作成したホームページについて行う。履修した事項がどこ迄習得されているかが評価の基準となる。
教科書:	ホームページの制作 河西朝雄・河西雄一 技術評論社    

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「ウェブページ作成演習」(担当者: 暮田 豊)の履修の手引き

科目名:	ウェブページ作成演習
担当者:	暮田 豊
対象学生:	短期大学部1年
設置学期:	春
概要:	インターネットは情報を得るだけのものではない。自ら情報を発信することも可能である。情報を発信するにはHTML(Hyper Text Markup Language)を記述してホームページを作成し、なおかつ作成したホームページをサーバーコンピュータへアップロードしなければならない。 本講義では、インターネット上に自分の情報を発信する為の基本作業であるホームページの作成とサーバーコンピュータとのアクセス方法(アップロード・ダウンロードなど)についての実習を行なう。 ホームページの作成には、エディタを利用してHTMLを記述することでHTMLの文字修飾やページレイアウトを構成する為の各種文法といった基本的な技法を身につける。また、作成・変更したホームページを随時サーバーコンピュータへアップロード、または不要となったファイルの削除を行なうことで情報の発信・更新の手法を身につける。
授業方法:	各自所有のノートパソコンを主に、実習を中心にした講義を進めていく。又デジカメ、イメージスキャナー等の機器も、必要に応じて使用する。
履修の留意点:	実習が中心となり、評価も作成したホームページで行う。その為に、休みの多い学生にはどうしても不利になる事を留意しておいて欲しい。
目標と評価:	まず情報の発信に必要な環境や既に公開されているホームページがどのような構成になっているか講義を行なう。そしてホームページを作成するのに必要なHTMLについてその概念、基本文法について学習する。 基本文法は文字の大きさや色などの変更といったワープロ的なことから学習を始め、ページの色つけやリンクの作成、図の貼り付けといったホームページならではの機能の実現、表組みや送信フォーム、フレーム、スタイルシートといった応用を学習し、徐々に作成したホームページを充実した内容にしていく。 作成されたホームページはFTP Explorerを使用して学内に用意されたサーバーコンピュータに接続し、HTMLファイルやホームページを構成するファイルのアップロード・ダウンロード、サーバーコンピュータにアップロードされたファイルのアクセス権の設定を行なう。  評価は各自が作成したホームページについて行う。履修した事項がどこ迄習得されているかが評価の基準となる。
教科書:	ホームページの制作 河西朝雄・河西雄一 技術評論社    

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「ウェブページ作成演習」（担当者：山際 基）の履修の手引き

科目名：	ウェブページ作成演習
担当者：	山際 基
対象学生：	短期大学部1年
設置学期：	春
概要：	インターネットは情報を得るだけのものではない。自ら情報を発信することも可能である。情報を発信するにはHTML (Hyper Text Markup Language)を記述してホームページを作成し、なおかつ作成したホームページをサーバーコンピュータへアップロードしなければならない。本講義では、インターネット上に自分の情報を発信する為の基本作業であるホームページの作成とサーバーコンピュータとのアクセス方法(アップロード・ダウンロードなど)についての実習を行なう。ホームページの作成には、エディタを利用してHTMLを記述することでHTMLの文字修飾やページレイアウトを構成する為の各種文法といった基本的な技法を身につける。また、作成・変更したホームページを随時サーバーコンピュータへアップロード、または不要となったファイルの削除を行なうことで情報の発信・更新の手法を身につける。
授業方法：	ノートパソコンを用いた実習を中心に講義を進めていく。
履修の留意点：	特になし。
目標と評価：	HTMLのタグの使用方法や機能を理解し、基本的なwebページの作成ができるようになること、また作成したwebページを公開できるようになることが目標である。 評価は講義中の演習課題および期末の課題で行なう。
教科書：	ホームページの制作 河西朝雄・河西雄一 技術評論社 _____ _____ _____

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「ウェブページデザイン演習」（担当者：暮田 豊）の履修の手引き

科目名：	ウェブページデザイン演習
担当者：	暮田 豊
対象学生：	短期大学部1年
設置学期：	秋
概要：	<p>エディタを使用してHTML(Hyper Text Markup Language)を記述しホームページを作成するのは、時間も手間もかかる。さらに作成したホームページが作成者の思った通りに作成されているかどうかWWWブラウザを使用して確認しなければならない。</p> <p>一般にホームページを作成する場合、ウェブページ作成専用ソフトを用いて作成されている。本講義ではウェブページ作成専用ソフトを使用して、動画や音声といった様々な素材を活用した、より複雑なホームページの作成を行ったり、既存のCGIやJava Scriptを配置してより充実したホームページの作成を行なう。また、情報を閲覧する側からの観点に基づいたホームページ作りやホームページの管理に必要な知識、実習を行なう。</p>
授業方法：	各自所有のノートパソコンを用いた実習を中心に講義を進めていく。又適宜デジカメ、イメージスキャナー等の機器も使用する。
履修の留意点：	春期「ウェブページ作成演習」を履修済みである事、又はHTMLの基礎知識がある事が望ましい。
目標と評価：	<p>代表的なホームページ作成専用ソフトである、Microsoft FrontPage2002を使用してホームページの作成を行なう。</p> <p>まず、それぞれのソフトの機能や使用方法を学ぶ。その後、文字やページの修飾といったワープ的な機能の利用したり、画像や音声、映像といった様々な素材の活用していくことにより、より複雑なホームページを作成していく。</p> <p>ホームページの作成についてひととおり学習した後、情報を閲覧する側からの観点に基づいたホームページ作成について講義・実習を行なう。具体的には、より見やすいホームページにするにはどうしたら良いのか？ホームページにアクセスした時にすばやく表示させるにはどうしたら良いか？について学習する。さらにアクセス解析やゲストブックなどの設置、アクセス権の管理といったホームページ全体の管理についても学習する。</p> <p>評価は作成したホームページについて行う。学習事項がどこ迄反映されているかが、評価の元となる。</p>
教科書：	未定

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。



「ウェブページデザイン演習」（担当者：暮田 豊）の履修の手引き

科目名：	ウェブページデザイン演習
担当者：	暮田 豊
対象学生：	短期大学部1年
設置学期：	秋
概要：	<p>エディタを使用してHTML(Hyper Text Markup Language)を記述しホームページを作成するのは、時間も手間もかかる。さらに作成したホームページが作成者の思った通りに作成されているかどうかWWWブラウザを使用して確認しなければならない。一般にホームページを作成する場合、ウェブページ作成専用ソフトを用いて作成されている。本講義ではウェブページ作成専用ソフトを使用して、動画や音声といった様々な素材を活用した、より複雑なホームページの作成を行ったり、既存のCGIやJava Scriptを配置してより充実したホームページの作成を行なう。また、情報を閲覧する側からの観点に基づいたホームページ作りやホームページの管理に必要な知識、実習を行なう。</p>
授業方法：	各自所有のノートパソコンを用いた実習を中心に講義を進めていく。又適宜デジカメ、イメージスキャナー等の機器も使用する。
履修の留意点：	春期「ウェブページ作成演習」を履修済みである事、又はHTMLの基礎知識がある事が望ましい。
目標と評価：	<p>代表的なホームページ作成専用ソフトである、Microsoft FrontPage2002を使用してホームページの作成を行なう。まず、それぞれのソフトの機能や使用方法を学ぶ。その後、文字やページの修飾といったワープ的な機能の利用したり、画像や音声、映像といった様々な素材の活用していくことにより、より複雑なホームページを作成していく。ホームページの作成についてひととおり学習した後、情報を閲覧する側からの観点に基づいたホームページ作成について講義・実習を行なう。具体的には、より見やすいホームページにするにはどうしたら良いのか？ホームページにアクセスした時にすばやく表示させるにはどうしたら良いか？について学習する。さらにアクセス解析やゲストブックなどの設置、アクセス権の管理といったホームページ全体の管理についても学習する。</p> <p>評価は作成したホームページについて行う。学習事項がどこ迄反映されているかが、評価の元となる。</p>
教科書：	未定

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「ウェブページデザイン演習」（担当者：山際 基）の履修の手引き

科目名：	ウェブページデザイン演習
担当者：	山際 基
対象学生：	短期大学部1年
設置学期：	秋
概要：	エディタを使用してHTML(Hyper Text Markup Language)を記述しホームページを作成するのは、時間も手間もかかる。さらに作成したホームページが作成者のおもったとおりに作成されているかどうかWWWブラウザを使用して確認しなければならない。一般にホームページを作成する場合、ウェブページ作成専用ソフトを用いて作成されている。本講義ではウェブページ作成専用ソフトを使用して動画や音声といった様々な素材を活用したより複雑なホームページの作成を行ったり、既存のCGIやJava Scriptを配置してより充実したホームページの作成を行なう。また、情報を閲覧する側からの観点に基づいたホームページ作りやホームページの管理に必要な知識、実習を行なう。
授業方法：	ノートパソコンを用いた実習を中心に講義を進めていく。
履修の留意点：	ウェブページ作成演習を履修済みであることが望ましい。
目標と評価：	webページ作成ソフトの使用法を理解し、春学期以上に機能的で見た目もよいページ作成を目指す。CGIやJAVA Scriptといったものも取り入れることによりより充実した内容のページを作れるようになることが目標である。 講義中の演習課題および期末の課題で評価する。
教科書：	ひと目でわかるMicrosoft FrontPage2002 Stephen.L.Nelson 日経BPソフトプレス 2001

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「ウェブページデザイン演習」（担当者：山際 基）の履修の手引き

科目名：	ウェブページデザイン演習
担当者：	山際 基
対象学生：	短期大学部1年
設置学期：	秋
概要：	エディタを使用してHTML(Hyper Text Markup Language)を記述しホームページを作成するのは、時間も手間もかかる。さらに作成したホームページが作成者のおもったとおりに作成されているかどうかWWWブラウザを使用して確認しなければならない。一般にホームページを作成する場合、ウェブページ作成専用ソフトを用いて作成されている。本講義ではウェブページ作成専用ソフトを使用して動画や音声といった様々な素材を活用したより複雑なホームページの作成を行ったり、既存のCGIやJava Scriptを配置してより充実したホームページの作成を行なう。また、情報を閲覧する側からの観点に基づいたホームページ作りやホームページの管理に必要な知識、実習を行なう。
授業方法：	ノートパソコンを用いた実習を中心に講義を進めていく。
履修の留意点：	ウェブページ作成演習を履修済みであることが望ましい。
目標と評価：	webページ作成ソフトの使用法を理解し、春学期以上に機能的で見た目もよいページ作成を目指す。CGIやJAVA Scriptといったものも取り入れることによりより充実した内容のページを作れるようになることが目標である。 講義中の演習課題および期末の課題で評価する。
教科書：	ひと目でわかるMicrosoft FrontPage2002 Stephen.L.Nelson 日経BPソフトプレス 2001

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「コンピュータプレゼンテーション演習」（担当者：湖東 善明）の履修の手引き

科目名：	コンピュータプレゼンテーション演習
担当者：	湖東 善明
対象学生：	短期大学部2年
設置学期：	秋
概要：	代表的なプレゼンテーション用アプリケーションであるマイクロソフトPowerPointの基本操作について学ぶ。続いて、目的に応じた適切なプレゼンテーションをおこなう能力を養成する。
授業方法：	パソコンを使用して講義と実習を行う。 パワーポイントの基本操作 スライドの作成 特殊効果  プレゼンテーション企画立案 ストーリの作成 プログラムの作成
履修の留意点：	Windowsの基本操作ができること
目標と評価：	目標 自由にPowerPointの操作ができ、簡単なプレゼンテーションを作成できる。 評価点 平常の実習課題 60% 最終課題 40%
教科書：	30時間でマスター プレゼンテーション+PowerPoint2002 池内健治 実教出版 2003年2月

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「Microsoft Word特別演習」（担当者：大橋 けい子）の履修の手引き

科目名：	Microsoft Word特別演習
担当者：	大橋 けい子
対象学生：	短期大学部1年
設置学期：	秋
概要：	「MOUS (Microsoft Office User Specialist) 試験 Word 2002 一般レベル」の高得点での合格を目標に、問題演習を行いながらMOUS 2002の評価スキルを身につけることを目標とする。「コンピュータリテラシI」が、パソコン検定 (P検) 3級を目標にWord 2002の機能を全般的に学ぶのに対して、この演習では、より実践的にMOUS Word試験一般レベルの評価スキル単位でWordの機能を学ぶ。
授業方法：	ノートパソコンにインストールされたWord 2002 (Office XP) を利用した演習形式。(ノートパソコンの持参が必須)
履修の留意点：	短期大学部情報インストラクターコースの学生は履修できない。 授業ではノートパソコンを利用するので、忘れないように気をつけること。
目標と評価：	「MOUS (Microsoft Office User Specialist) 試験 Word 2002 一般レベル」の合格を目標に、問題演習を行いながらMOUS 2002の評価スキルを身につけることを目標とする 評価点は、最後の週の授業時間中に実施するMOUSの実技テストに基づき決定する。
教科書：	MOUS Word 2002 試験対策テキスト 一般編 山本麻津子 著、アスキー書籍編集部 編 アスキー 2003年度 MOUS Word 2002 模擬問題集 一般編 システムインテリジェント株式会社 著、アスキー書籍編集部 編 アスキー 2003年度

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「Microsoft Word特別演習」（担当者：大橋 けい子）の履修の手引き

科目名：	Microsoft Word特別演習
担当者：	大橋 けい子
対象学生：	短期大学部1年
設置学期：	秋
概要：	「MOUS (Microsoft Office User Specialist) 試験 Word 2002 一般レベル」の高得点での合格を目標に、問題演習を行いながらMOUS 2002の評価スキルを身につけることを目標とする。「コンピュータリテラシI」が、パソコン検定 (P検) 3級を目標にWord 2002の機能を全般的に学ぶのに対して、この演習では、より実践的にMOUS Word試験一般レベルの評価スキル単位でWordの機能を学ぶ。
授業方法：	ノートパソコンにインストールされたWord 2002 (Office XP) を利用した演習形式。(ノートパソコンの持参が必須)
履修の留意点：	短期大学部情報インストラクターコースの学生は履修できない。 授業ではノートパソコンを利用するので、忘れないように気をつけること。
目標と評価：	「MOUS (Microsoft Office User Specialist) 試験 Word 2002 一般レベル」の合格を目標に、問題演習を行いながらMOUS 2002の評価スキルを身につけることを目標とする 評価点は、最後の週の授業時間中に実施するMOUSの実技テストに基づき決定する。
教科書：	MOUS Word 2002 試験対策テキスト 一般編 山本麻津子 著、アスキー書籍編集部 編 アスキー 2003年度 MOUS Word 2002 模擬問題集 一般編 システムインテリジェント株式会社 著、アスキー書籍編集部 編 アスキー 2003年度

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「Microsoft Excel特別演習」（担当者：大橋 けい子）の履修の手引き

科目名：	Microsoft Excel特別演習
担当者：	大橋 けい子
対象学生：	短期大学部2年
設置学期：	春
概要：	1年次の「コンピュータリテラシⅡ」でMicrosoft Excel 2002について一通り学んだ学生を対象とする授業。「MOUS(Microsoft Office User Specialist)試験 Excel 2002 一般」合格を目標に、問題演習を行いながらMOUS 2002の評価スキルを身につけることを目標とする。「コンピュータリテラシⅡ」が、Excel 2002の機能を全般的に学ぶのに対して、この演習では、より実践的にMOUSの評価スキル単位でのExcelの機能を学ぶ。
授業方法：	ノートパソコンにインストールされたExcel 2002(Office XP)を利用した演習形式。(ノートパソコンの持参が必須)
履修の留意点：	履修の条件は特に無い。 授業ではノートパソコンを利用するので、忘れないように気をつけること。
目標と評価：	「MOUS(Microsoft Office User Specialist)試験 Excel 2002 一般」合格を目標に、問題演習を行いながらMOUS 2002の評価スキルを身につけることを目標とする。 評価点は、最後の週の授業時間中に実施する実技テストに基づき決定する。
教科書：	MOUS Excel 2002 試験対策テキスト 一般編 木村千鶴子 著、アスキー書籍編集部 編 アスキー 2003年 MOUS Excel 2002 模擬問題集 一般編 システムインテリジェント株式会社 著、アスキー書籍編集部 編 アスキー 2003年

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「Microsoft Excel特別演習」（担当者：大橋 けい子）の履修の手引き

科目名：	Microsoft Excel特別演習
担当者：	大橋 けい子
対象学生：	短期大学部2年
設置学期：	春
概要：	1年次の「コンピュータリテラシⅡ」でMicrosoft Excel 2002について一通り学んだ学生を対象とする授業。「MOUS(Microsoft Office User Specialist)試験 Excel 2002 一般」合格を目標に、問題演習を行いながらMOUS 2002の評価スキルを身につけることを目標とする。「コンピュータリテラシⅡ」が、Excel 2002の機能を全般的に学ぶのに対して、この演習では、より実践的にMOUSの評価スキル単位でのExcelの機能を学ぶ。
授業方法：	ノートパソコンにインストールされたExcel 2002(Office XP)を利用した演習形式。(ノートパソコンの持参が必須)
履修の留意点：	履修の条件は特に無い。 授業ではノートパソコンを利用するので、忘れないように気をつけること。
目標と評価：	「MOUS(Microsoft Office User Specialist)試験 Excel 2002 一般」合格を目標に、問題演習を行いながらMOUS 2002の評価スキルを身につけることを目標とする。 評価点は、最後の週の授業時間中に実施する実技テストに基づき決定する。
教科書：	MOUS Excel 2002 試験対策テキスト 一般編 木村千鶴子 著、アスキー書籍編集部 編 アスキー 2003年 MOUS Excel 2002 模擬問題集 一般編 システムインテリジェント株式会社 著、アスキー書籍編集部 編 アスキー 2003年

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。



「Microsoft Office特別演習 I」（担当者：太田 幸雄）の履修の手引き

科目名：	Microsoft Office特別演習 I
担当者：	太田 幸雄
対象学生：	短期大学部1年
設置学期：	春
概要：	『MOUS (Microsoft Office User Specialist) 試験 Word 2002 一般レベル』の合格を目標に、問題演習を行ないながらMOUS 2002 の評価スキルを身につけることを目標とする。また、秋学期に行なう同上級レベルの学習につなげる知識、方法を身につけることを目標とする。 なお、『コンピュータリテラシー』が概要の修得をめざすのに対して、この演習では、より実践的にMOUS Word試験一般レベルを評価スキル単位で学ぶものとする。
授業方法：	教科書にある操作を解説し、その後、各自がノートパソコンを利用して、問題の演習を行なう形式とする。 ※ 授業はノートパソコンにインストールされたWord 2002 (Office XP) を利用して行なう。
履修の留意点：	授業は教科書に沿って操作方法を解説し、その後、各自において問題の演習を行なうので、ノートパソコンと教科書は毎回必ず持参する必要がある。
目標と評価：	①目標：MOUS試験Word 2002一般レベル試験に合格する程度の実力を身につける。 ②評価：評価点は、授業中の提出物および授業の最終週に行なう実力判定をもとに採点する。なお、試験期間中の定期試験は実施しない。
教科書：	10日間でマスター MOUS 公認標準テキスト Office XP Word2002 一般編 マイクロメイツ オーム社 平成13年第1版

※最終評価は、評価点7割，出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「Microsoft Office特別演習 I」（担当者：太田 幸雄）の履修の手引き

科目名：	Microsoft Office特別演習 I
担当者：	太田 幸雄
対象学生：	短期大学部1年
設置学期：	春
概要：	『MOUS (Microsoft Office User Specialist) 試験 Word 2002 一般レベル』の合格を目標に、問題演習を行ないながらMOUS 2002 の評価スキルを身につけることを目標とする。また、秋学期に行なう同上級レベルの学習につなげる知識、方法を身につけることを目標とする。 なお、『コンピュータリテラシー』が概要の修得をめざすのに対して、この演習では、より実践的にMOUS Word試験一般レベルを評価スキル単位で学ぶものとする。
授業方法：	教科書にある操作を解説し、その後、各自がノートパソコンを利用して、問題の演習を行なう形式とする。 ※ 授業はノートパソコンにインストールされたWord 2002 (Office XP) を利用して行なう。
履修の留意点：	授業は教科書に沿って操作方法を解説し、その後、各自において問題の演習を行なうので、ノートパソコンと教科書は毎回必ず持参する必要がある。
目標と評価：	①目標：MOUS試験Word 2002一般レベル試験に合格する程度の実力を身につける。 ②評価：評価点は、授業中の提出物および授業の最終週に行なう実力判定をもとに採点する。なお、試験期間中の定期試験は実施しない。
教科書：	10日間でマスター MOUS 公認標準テキスト Office XP Word2002 一般編 マイクロメイツ オーム社 平成13年第1版

※最終評価は、評価点7割，出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「Microsoft Office特別演習Ⅱ」（担当者：太田 幸雄）の履修の手引き

科目名：	Microsoft Office特別演習Ⅱ
担当者：	太田 幸雄
対象学生：	短期大学部1年
設置学期：	秋
概要：	『MOUS (Microsoft Office User Specialist) 試験』は、ユーザレベルでは代表的なパソコンの資格である。パソコンの資格には多くのものがあるが、一般に筆記試験が主体であるため、実際の技量を正確に反映できないものがある。このような中で、MOUS試験は実技を主体としていて、普段からどの程度使いこなせるかという実力を証明できる資格である。この授業では『MOUS試験 Word 2002上級レベル』の合格を目標に、問題演習を行ないながらMOUS 2002の評価スキルを身につけることを目標とする。
授業方法：	教科書に沿ってWordの操作方法を解説し、その後、各自がノートパソコンを利用して、問題の演習を行なう形式とする。 ※ 授業はノートパソコンにインストールされたWord 2002 (Office XP) を利用して行なう。
履修の留意点：	授業は教科書に沿って操作方法を解説し、その後、各自において問題の演習を行なうので、ノートパソコンと教科書は毎回必ず持参する必要がある。
目標と評価：	①目標：MOUS試験Word 2002上級レベル試験に合格できる実力を身に付ける。 ②評価：授業中の提出物および授業の最終週に行なう実力判定をもとに採点する。なお、試験期間中の定期試験は実施しない。
教科書：	2週間でマスター MOUS 公認標準テキスト Word 2002 上級編 マイクロメイツ オーム社 平成13年

※最終評価は、評価点7割，出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「Microsoft Office特別演習Ⅱ」（担当者：太田 幸雄）の履修の手引き

科目名：	Microsoft Office特別演習Ⅱ
担当者：	太田 幸雄
対象学生：	短期大学部1年
設置学期：	秋
概要：	『MOUS (Microsoft Office User Specialist) 試験』は、ユーザレベルでは代表的なパソコンの資格である。パソコンの資格には多くのものがあるが、一般に筆記試験が主体であるため、実際の技量を正確に反映できないものがある。このような中で、MOUS試験は実技を主体としていて、普段からどの程度使いこなせるかという実力を証明できる資格である。この授業では『MOUS試験 Word 2002上級レベル』の合格を目標に、問題演習を行ないながらMOUS 2002の評価スキルを身につけることを目標とする。
授業方法：	教科書に沿ってWordの操作方法を解説し、その後、各自がノートパソコンを利用して、問題の演習を行なう形式とする。 ※ 授業はノートパソコンにインストールされたWord 2002 (Office XP) を利用して行なう。
履修の留意点：	授業は教科書に沿って操作方法を解説し、その後、各自において問題の演習を行なうので、ノートパソコンと教科書は毎回必ず持参する必要がある。
目標と評価：	①目標：MOUS試験Word 2002上級レベル試験に合格できる実力を身に付ける。 ②評価：授業中の提出物および授業の最終週に行なう実力判定をもとに採点する。なお、試験期間中の定期試験は実施しない。
教科書：	2週間でマスター MOUS 公認標準テキスト Word 2002 上級編 マイクロメイツ オーム社 平成13年

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「Microsoft Office特別演習Ⅲ」（担当者：仲島 暁美）の履修の手引き

科目名：	Microsoft Office特別演習Ⅲ
担当者：	仲島 暁美
対象学生：	短期大学部2年
設置学期：	春
概要：	現在執筆中です。もうしばらくお待ち下さい。

「Microsoft Office特別演習Ⅲ」（担当者：仲島 暁美）の履修の手引き

科目名：	Microsoft Office特別演習Ⅲ
担当者：	仲島 暁美
対象学生：	短期大学部1年
設置学期：	秋
概要：	現在執筆中です。もうしばらくお待ち下さい。

「Microsoft Office特別演習Ⅲ（再履修用）」（担当者：堤 郁子）の履修の手引き

科目名：	Microsoft Office特別演習Ⅲ（再履修用）
担当者：	堤 郁子
対象学生：	短期大学部2年
設置学期：	秋
概要：	現在執筆中です。もうしばらくお待ち下さい。

「Microsoft Office特別演習Ⅲ」（担当者：堤 郁子）の履修の手引き

科目名：	Microsoft Office特別演習Ⅲ
担当者：	堤 郁子
対象学生：	短期大学部2年
設置学期：	春
概要：	現在執筆中です。もうしばらくお待ち下さい。



「Microsoft Office特別演習Ⅳ」（担当者：仲島 暁美）の履修の手引き

科目名：	Microsoft Office特別演習Ⅳ
担当者：	仲島 暁美
対象学生：	短期大学部2年
設置学期：	秋
概要：	現在執筆中です。もうしばらくお待ち下さい。

「Microsoft Office特別演習Ⅳ」（担当者：堤 郁子）の履修の手引き

科目名：	Microsoft Office特別演習Ⅳ
担当者：	堤 郁子
対象学生：	短期大学部2年
設置学期：	秋
概要：	現在執筆中です。もうしばらくお待ち下さい。

「エンドユーザコンピューティング」（担当者：宮本 勉）の履修の手引き

科目名：	エンドユーザコンピューティング
担当者：	宮本 勉
対象学生：	短期大学部1年
設置学期：	秋
概要：	ワープロソフトや表計算ソフト、データベースソフトの利用等企業におけるコンピュータの利用技術について、ソフトの利用の高度化が進み、より広範囲な利用が進んでいます。このような状況において個別業務の情報化は現場での対応となる。このようにエンドユーザーレベルのIT化について各種の導入事例を参考にしながらシステムアドミニストレータによる自発的なコンピュータ応用の企画、基本設計、運用にいたる過程について学ぶ。
授業方法：	テキストと例題を中心に学ぶ。パソコン等を利用して授業を進める。 各種のソフトに利用にかんする実習も行う 1、仕事とコンピュータ 2、基幹業務とのかかわり 3、エンドユーザーコンピューティング
履修の留意点：	講義にかんするレポート作成と授業への意欲についてを評価する。 なお、初級システムアドミニストレータ試験の午後の範囲の内容を含む。
目標と評価：	テキストの学習の結果とレポート、テキストに関する実習によって評価する
教科書：	授業時に指示する

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「データベース基礎」（担当者：山際 基）の履修の手引き

科目名：	データベース基礎
担当者：	山際 基
対象学生：	短期大学部2年
設置学期：	春
概要：	ワードプロセッサ、表計算、データベースの三つは、パーソナルコンピュータで利用するソフトウェアの基本と言われている。その中でワードプロセッサと表計算は文書作成のために使われるいわば付随的なソフトウェアであるのに対し、データベースは、パーソナルコンピュータに限らず、本来コンピュータの事務的な使用の基本であるデータ処理を行うためのソフトウェアである。このソフトウェアを使って作るのは、文書のようなデータではなく、データを処理するための様々な仕組みである。この仕組みを理解するためにデータベースの設計・データ入力・データベースの利用を演習を通し習得する。
授業方法：	ノートパソコンを用いた実習及び講義による。
履修の留意点：	特になし。
目標と評価：	データベースシステムを構成する各要素（テーブル、フォーム、レポート、クエリ）の作成を通し、システム全体関係を理解する。最終的にはリレーションシップ・マクロの利用により、ある程度実用に耐えられるデータベースシステムの作成ができることを目標とする。 授業中の課題の提出で評価する。
教科書：	ひと目でわかるMicrosoft Access Version 2002 Perspection, Inc. 日経BPソフトプレス 2001年

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「データベース演習」（担当者：山際 基）の履修の手引き

科目名：	データベース演習
担当者：	山際 基
対象学生：	短期大学部2年
設置学期：	秋
概要：	データを効率良く管理、蓄積する手段としてデータベースがある。データベースを利用することでデータを容易に管理することができるため、顧客管理や仕入れ・受注管理から個人の住所録まで企業や個人を問わず広く利用されている。本講義では、データベースの意味や利用例から講義を行ない、実際にデータベースを設計、運用することによりデータベースの作成法やデータの操作、編集といったデータベースの基礎について学習する。データベースの設計にはRDBMS (Relational DataBase Management System) を採用し、データベースの作成やデータの操作を行なうための基礎ともいえるプログラム言語”SQL”を学習する。さらに、パーソナルコンピュータ向けのRDBMSソフトウェアの代表格”Microsoft Access”を使用してデータベースを設計・運用していく。
授業方法：	ノートパソコンを用いた実習を中心に講義を進めていく。
履修の留意点：	特になし
目標と評価：	SQLを学ぶことにより単にAccessの使用法を理解するのではなく、「データベースの運用方法」の理解を目標とする。 提出課題により評価する。
教科書：	Accessで学ぶSQLとデータベースの基礎 2002/2000対応 矢野まどか 毎日コミュニケーションズ 2002年 _____ _____ _____

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「データベース設計」（担当者：湖東 善明）の履修の手引き

科目名：	データベース設計
担当者：	湖東 善明
対象学生：	短期大学部2年
設置学期：	秋
概要：	データベースの設計方法に関する講義を行う。 最初にデータベースの目的、データベースのモデルといった、データベースの概要について学ぶ。 次にSQLを用いたデータベースの操作について学ぶ。 さらにDBMS（データベース管理システム）、分散型データベースによるデータベースの制御、および、データウェアハウス等のデータベースの応用について学ぶ。 最後にデータベースシステムの構成と方式について学ぶ。
授業方法：	Microsoft AccessによるSQLプログラミングを取り入れながら授業を進める。
履修の留意点：	Windowsの基本操作ができること。
目標と評価：	目標 簡単なデータベースの設計ができる。 SQLでデータベースの操作ができる。  評価方法 定期試験で評価する
教科書：	Accessで学ぶSQLとデータベースの基礎 矢野まどか 毎日コミュニケーションズ 2002年9月    

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「エンドユーザプログラミングⅠ」（担当者：松嶋 璋幸）の履修の手引き

科目名：	エンドユーザプログラミングⅠ
担当者：	松嶋 璋幸
対象学生：	経営経済学部3年
設置学期：	春
概要：	Windows上のプログラミング言語であるVisual Basicによるプログラム作成の基礎を学びます。編集、コンパイル、実行、デバッグなどのプログラム作成ツールの利用方法とプログラミング言語の基本的文法を習得することにより簡単なプログラムを作成できる能力を養います。 ここで学んだ手法がインターネット用のプログラム作成にも通用するように、またVisual basicに限らず他の言語の場合にも通用するプログラム作成ツールを身につけられるよう昨年発表されたVisual Studio .NETの手法を学びます。
授業方法：	14回の講義は演習や実習を随所にとり入れて進めてゆきます。つまりパソコンを使って実際にプログラムの動作を確かめながら習得してゆく方法です。
履修の留意点：	パソコンを使ってWindowsの基本的な操作ができることを前提としています。
目標と評価：	この授業を受講した学生は以下のことができるようになっていと思いますし、またそうなるように学習してください。 ○Windowsとアプリケーションプログラムの関係を説明できる。 ○Visual Basic .NETの基本的文法を理解している。 ○主な関数の使い方が分かっている。 ○プログラミング手順とプログラムの実行方法などを理解している。 評価は以下の項目ごとの数値を加算して算出します。 ○出席状況・・・20% ○授業態度・・・10% ○中間レポート・・・30% ○学期末試験・・・40%
教科書：	実力アップ Visual Basic .NET 基礎編 田中 亨 オーム社 2002年8月23日 第1版第1刷発行

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「エンドユーザプログラミングⅡ」（担当者：松嶋 璋幸）の履修の手引き

科目名：	エンドユーザプログラミングⅡ
担当者：	松嶋 璋幸
対象学生：	経営経済学部3年
設置学期：	秋
概要：	Windows上のプログラミング言語であるVisual Basicにより高度なプログラミング技法を身につけ、情報技術を会計や経営に活かすことができるよう実務的な能力を養います。 Windowsが提供する機能の利用（API）、COMをはじめとする各種コンポーネントを利用したプログラミング技法、データベースの操作や通信システムの作成方法を習得することにより、幅広く実務に通用するプログラムの作成能力を身につけることを目指します。
授業方法：	14回の講義は演習や実習を随所にとり入れて進めてゆきます。つまりパソコンを使って実際にプログラムの動作を確かめながら習得してゆく方法です。
履修の留意点：	エンドユーザプログラミングⅠを履修していることが望ましいのですが、そうでない場合はその「履修の手引き」に記されている教科書の第一章から第十二章までの知識を何らかの方法で得ておいて下さい。
目標と評価：	この授業を受講した学生は以下のことができるようになっていと思いますし、またそうなるように学習してください。 ○Windowsが提供する機能をプログラムで利用することができる。 ○コンポーネントを組み合わせてプログラムを作成することができる。 ○プログラムからデータベースを操作することができる。 ○サーバなどとやりとりをする通信プログラムを作成することができる。 評価は以下の項目ごとの数値を加算して算出します。 ○出席状況・・・20％ ○授業態度・・・10％ ○中間レポート・・・30％ ○学期末試験・・・40％
教科書：	実力アップ Visual Basic .NET 応用編 田中 亨 オーム社 2002年8月23日 第1版第1刷発行

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。



「ウェブページプログラミング」（担当者：湖東 善明）の履修の手引き

科目名：	ウェブページプログラミング
担当者：	湖東 善明
対象学生：	短期大学部2年
設置学期：	春
概要：	HTMLによる静的（表示のみ）なWebページとはことなり、Webサーバーで動作するインタラクティブなWebページ作成技法を習得する。 アクセスカウンタ、会議室、メール送信フォームなどの作成を行う。 言語としては、perl&cgiを使用するが、言語そのものは入門程度としサンプル集にあるものを修正する方法で行う。またJavaScriptについても学ぶ。
授業方法：	パソコンを使用して講義と実習を行う。 Webサーバーの基本的な仕組み サーバーの利用方法（FTP、Telnetなど） perl、JavaScript入門 アクセスカウンタ、会議室、メール送信フォームの作成
履修の留意点：	Windowsの基本操作ができること。
目標と評価：	目標 自分のホームページにアクセスカウンタ、会議室、メール送信フォームを作ることができる。 評価方法 平常の実習課題100%
教科書：	はじめてのWebプログラミング 国司明宏 明日香出版社 2001年 _____ _____ _____ _____

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「プログラミング I」（担当者：清水 智）の履修の手引き

科目名：	プログラミング I
担当者：	清水 智
対象学生：	短期大学部1年
設置学期：	春
概要：	C言語はそれが持ついくつかの特徴（文の簡潔さや記述性の良さなど）により、種々のソフトウェア開発で現在最も広く利用されているプログラミング言語の1つです。また、C言語は情報処理技術者試験の対象言語でもあります。本科目では、基礎的プログラミングの学習の場として、C言語によるプログラミングの理論と実際を実習を通じて学習します。最初に、Cの基本的なプログラム、使用するCシステムの基本的な利用法について学習し、続いて、各種のアルゴリズムとデータ構造を理解します。学期の最後には、まとめとしての応用プログラムの製作を各自で行えるようになることを目標とします。
授業方法：	基本的にコンピュータを利用した実習を中心としていますが、必要に応じて講義や机上演習の授業形態をとります。
履修の留意点：	各自に一層理解を深めてもらう場として、ほぼ毎時間、課題を出題するつもりです。
目標と評価：	出席とレポート（課題）提出の状況、および期末試験の結果を総合的に評価します。
教科書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「プログラミングⅡ」（担当者：清水 智）の履修の手引き

科目名：	プログラミングⅡ
担当者：	清水 智
対象学生：	短期大学部1年
設置学期：	秋
概要：	C言語はそれが持ついくつかの特徴（文の簡潔さや記述性の良さなど）により、種々のソフトウェア開発で現在最も広く利用されているプログラミング言語の1つです。また、C言語は情報処理技術者試験の対象言語でもあります。本科目では、プログラミングⅠで学んだC言語によるプログラミングをさらに発展させ、より実用的なプログラム技術の修得を目指し、学期の最後には各自で応用プログラムの開発を行えるよう継続的学習を実践していきます。また、本科目でのプログラム例は、最終的な学習目標に合わせ、段階的に発展させていく方式で取り上げていきたいと思ひます。
授業方法：	基本的にコンピュータを利用した実習を中心としていますが、必要に応じて講義や机上演習の授業形態をとります。
履修の留意点：	各自に一層理解を深めてもらう場として、ほぼ毎時間、課題を出題するつもりです。
目標と評価：	出席とレポート（課題）提出の状況、および期末試験の結果を総合的に評価します。
教科書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「プログラミングⅢ」（担当者：南 憲一）の履修の手引き

科目名：	プログラミングⅢ
担当者：	南 憲一
対象学生：	短期大学部2年
設置学期：	春
概要：	C言語を用いたプログラム作成方法について学習する。C言語は、柔軟性が高い上に、低レベルの（つまり機械に近い）処理についても行えることから、様々な場所で利用されている。資格試験においても、最近では、C言語をサポートしないものはないほど、重要なプログラム言語となっている。 本講義では、 ・文字列の操作 ・ポインタ ・文字列とポインタ ・構造体 について学習する。
授業方法：	パソコンを用いた実習を中心に授業を進める。
履修の留意点：	プログラミングⅠ・Ⅱの単位を修得していることを履修の条件とする。 嘉悦e-Campusを活用して授業を進めるので、授業時間内だけでなく自宅でも授業情報のページを開き、予習・復習に役立てること。
目標と評価：	基本情報処理試験のプログラムが作成できるレベルを目標とする。 定期試験（筆記）で評価する。
教科書：	明解C言語第Ⅰ巻入門編 柴田望洋 ソフトバンク 1999年    

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「プログラミングⅣ」（担当者：南 憲一）の履修の手引き

科目名：	プログラミングⅣ
担当者：	南 憲一
対象学生：	短期大学部2年
設置学期：	秋
概要：	C言語を用いたプログラム作成方法について学習する。C言語は、柔軟性が高い上に、低レベルの（つまり機械に近い）処理についても行えることから、様々な場所で利用されている。資格試験においても、最近では、C言語をサポートしないものはないほど、重要なプログラム言語となっている。プログラミングⅣでは、プログラミングⅠ～Ⅲで学んだ内容を元に、種々のプログラムの作成方法を学ぶ。
授業方法：	パソコンを用いた実習を中心に授業を進める。
履修の留意点：	プログラミングⅢの単位を修得していることを履修の条件とする。 嘉悦e-Campusを活用して授業を進めるので、授業時間内だけでなく自宅でも授業情報のページを開き、予習・復習に役立てること。
目標と評価：	基本情報処理試験のプログラムが作成できるレベルを目標とする。 定期試験（筆記）で評価する。
教科書：	明解C言語第Ⅰ巻入門編 柴田望洋 ソフトバンク 1999年

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「アプリケーションプログラミングⅠ」（担当者：五十嵐 忠夫）の履修の手引き

科目名：	アプリケーションプログラミングⅠ
担当者：	五十嵐 忠夫
対象学生：	短期大学部1年
設置学期：	春
概要：	<p>アプリケーションプログラムとは特定の目的や仕事のために使うプログラムのことをいいます。目的とする仕事（情報処理）を行うには、既存の汎用的なソフトウェアだけを使うだけでなく、目的に最適なプログラムを自分で作成することも必要になります。</p> <p>Visual Basicはそのようなことができるプログラム言語です。問題解決のために計算や処理を行うことができます。ExcelやAccessを自動処理するマクロもVBAというVisual Basicをもとに作成されています。その意味でこのプログラミングを理解することは今後パソコンを有効に利用する上で欠かせない知識です。</p> <p>VB（Visual Basic）はデータ処理はもちろん画像などマルチメディアを取り扱うことができ、多目的なGUI（ディスプレイ画面を使った処理）のプログラムですので、楽しみながらプログラミングの基本をマスターすることがこの科目のねらいです。</p>
授業方法：	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. パソコンを使って講義と演習を進めます。</li> <li>2. 基本的な例題を解説して理解した上で、例題をパソコンで確認します。</li> <li>3. さらに、理解を深めるために、応用問題プログラムを作成します。</li> <li>4. 応用問題プログラムの解答例も示して説明をします。</li> </ol>
履修の留意点：	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 理論と実習がプログラミング習得に欠かせません。</li> <li>2. プログラミング習得はステップ・バイ・ステップで積み重ねながら学習することです。</li> <li>3. 欠かせずに授業を受けてください。</li> <li>4. もし、やむを得ず欠席した場合は、遅れたステップを学習してください。応用問題の解答例は教員からお渡したいと考えています。</li> <li>5. 楽しみながら学習できる科目にしたいと思っています。</li> </ol>
目標と評価：	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 目標 Visual Basicを利用した基本的なプログラミングを習得することを目標とします。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ Visual Basicの基本操作ができること。</li> <li>・ プログラミングの基礎を習得すること。</li> <li>・ Visual Basicの各コントロールを利用したプログラミングを作成できること。</li> </ul> </li> <li>2. 評価 平常の実習課題の達成度と授業態度と課題提出をもって評価点（7割）とします。</li> </ol>
教科書：	<p>30時間でマスター Visual basic 川口広美・水上慎吾・新井智恵子 実教出版株式会社</p> <hr/> <hr/> <hr/> <hr/>

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「アプリケーションプログラミングⅡ」（担当者：五十嵐 忠夫）の履修の手引き

科目名：	アプリケーションプログラミングⅡ
担当者：	五十嵐 忠夫
対象学生：	短期大学部1年
設置学期：	秋
概要：	アプリケーションプログラミングⅠで習得したVisual Basicによるプログラミングの能力をもとに、より高度なプログラミング技法をVisual Basicを使って学習します。各種の標準コントロールを使ったプログラミングやアルゴリズム（算法：基本的な計算方法）を確認した上で、カスタムコントロールを使ったプログラムも作成してみましょう。さらに、各種ゲームプログラムの作成でプログラミングの技法を習得しましょう。また、データベースの操作やシステムコールなどのオペレーティングシステムを操作するプログラミングも体験してみましょう。この科目によって、Visual Basicを使った実用的なプログラミング能力を習得することを目標とします。
授業方法：	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 各テーマを例題プログラムを解説をします。関連知識技法をあわせて説明します。</li> <li>2. 例題プログラム作成を各自実施しプログラミングの方法と計算結果を確認します。</li> <li>3. 練習問題、応用問題のプログラミングを各自作成しましょう。</li> <li>4. 上の練習問題、応用問題のプログラム解答例を示し、解説をします。</li> </ol>
履修の留意点：	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 科目「アプリケーションプログラミングⅠ」の履修者もしくはプログラミングの基礎知識を有することが望ましい。</li> <li>2. 理論と実習がプログラミング習得に欠かせません。</li> <li>3. プログラミング習得はステップ・バイ・ステップで積み重ねながら学習することです。</li> <li>4. 欠かせずに授業を受けてください。</li> <li>5. もし、やむを得ず欠席した場合は、遅れたステップを学習してください。練習問題・応用問題の解答例は教員からお渡したいと考えています。</li> <li>6. 楽しみながら学習できる科目にしたいと思っています。</li> </ol>
目標と評価：	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 目標 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ Visual Basicを利用した応用的なプログラミングを習得することを目標とします。</li> <li>・ Visual Basicの操作ができること。</li> <li>・ プログラミングのアルゴリズムを習得すること。</li> <li>・ Visual Basicの各コントロールを利用したプログラミングを作成できること。</li> </ul> </li> <li>2. 評価 平常の実習課題達成度と授業態度および課題提出を持って評価点（7割）とします。</li> </ol>
教科書：	30時間でマスター Visual Basic 川口広美・水上慎吾・新井智恵子 実教出版株式会社

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「ソフトウェア設計」（担当者：湖東 善明）の履修の手引き

科目名：	ソフトウェア設計
担当者：	湖東 善明
対象学生：	短期大学部2年
設置学期：	春
概要：	ソフトウェア設計の3つの過程、内部設計、プログラム設計、プログラム実装について学ぶ。 最初に内部設計の手順として、機能分割と構造化、物理データ設計、入出力詳細設計、プログラムの部品化と再利用、内部設計書の作成について学ぶ。 次にプログラム設計の手順としてプログラムの構造化設計、モジュール仕様とテスト仕様の作成、プログラム設計書の作成について学ぶ。 最後に、プログラミングとテストの方法について学習する。
授業方法：	講義形式で授業を行う。 設計書の作成にパソコンを使用する。
履修の留意点：	Windowsの基本操作ができること。
目標と評価：	目標 簡単なプログラム設計ができること。 評価方法 定期試験で評価する
教科書：	基本情報技術者試験テキスト2 システムの開発と運用 鎌田、松本ほか 実教出版 2002年

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。



「広報戦略とメディア I」（担当者：高梨 正見）の履修の手引き

科目名：	広報戦略とメディア I
担当者：	高梨 正見
対象学生：	経営経済学部3年
設置学期：	春
概要：	新聞を読んでいますか、テレビのニュースを見ていますか。コーヒーを飲みながら、今、世界の事件を知る事が出来ます、これはメディアによるものです。メディアによって、会社は経営情報を広く伝える事が出来、その情報は会社の経営を左右します。経営情報を会社の発展に役立てるよう戦略をたてメディアを使って、貢献するのが広報活動です。広報活動の役割とその価値、広報戦略、最新メディアによる情報伝達、の概論を学びます。
授業方法：	テーマ設定による講義。Q&Aによる対話。自分で感想とアイデアをまとめる企画実習。プロジェクター、VTRを活用。 講義 40分 対話（実習）30分
履修の留意点：	新聞をく自分の目>を持って、見るのでは無く、読む事。
目標と評価：	<会社経営と広報活動の役割、広報戦略とメディア>への理解。
教科書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「広報戦略とメディアⅡ」（担当者：高梨 正見）の履修の手引き

科目名：	広報戦略とメディアⅡ
担当者：	高梨 正見
対象学生：	経営経済学部3年
設置学期：	秋
概要：	今、貴方は地球の裏側の事件をほぼ同時に知る事が出来ます、これはメディアによるものです。メディアによって、会社は経営情報を広く伝える事ができますが、その情報によっては経営を良くも悪くもします、情報を企画し、管理し会社の経営が良くなるよう導くのが広報戦略です。効果的なメディアの利用、メディア別の戦略の違い、広報活動の効果的な戦略、戦術の企画、立案を、実習を通して実戦として学びます、
授業方法：	テーマ設定による講義。Q&Aによる対話。自分で感想とアイデアをまとめる企画実習。プロジェクター、VTRを活用。 講義 40分 対話（実習）30分
履修の留意点：	新聞をく“自分がこの記事を書くとしたら”の視点>を持って、読む事。
目標と評価：	<効果的な広報活動の実践的ノウハウ>の学習。 自分の日常的出来事に繋がる情報学習を中軸とする。
教科書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「情報メディア論」（担当者：中村 修）の履修の手引き

科目名：	情報メディア論
担当者：	中村 修
対象学生：	経営経済学部3年
設置学期：	秋
概要：	<p>メディアという言葉は、本来情報を載せる媒体という意味ですが、具体的には様々な解釈が存在し混乱する場合があります。本講義では、計算機が扱うことのできる情報を流通、検索、入力、編集するための基盤技術と、情報の知的財産としての側面について学習を進めていきます。他に、大きな意味としては同じですが、放送メディアという場合には放送番組を伝える媒体として放送組織を指す場合もあることに注意して下さい。本講義では、この解釈に基づく内容は対象外として、他の科目、例えば山田先生のメディア情報論等に譲ります。</p> <p>使用する教科書は後述のとおりですが、授業は採用する教科書に忠実に進めていきます。そこで、以下に、教科書の出版社による解説を載せておきます。本講義がどのような内容なのかこれらの項目から事前に知った上で興味のある人は参加して下さい。</p> <hr/> <p>以下は本講義で使用する教科書の出版社の解説です。 本書は、インターネットの持つ多様な機能の中で、主として電子図書館などのネットワーク上の情報資源の利用という範囲に限定し、この機能を支えているソフトウェアの構造、情報資源の検索、情報の電子化と構造化などについて最新の技術を述べたもので、大変有用なものである。著者はいずれもこの方面の第一線で活躍している人達であり、本書は電子図書館に関心がある人達にとって欠くことができないものである。</p> <p>1章 情報流通技術 2章 情報流通基盤技術 3章 検索技術 4章 入力と編集技術 5章 流通管理と知的財産権管理 6章 電子図書館構築の実例</p> <p>【発刊の目的と内容】 マルチメディア情報が分散的に蓄積され利用される本格的な情報ネットワーク時代を迎えている。その実現のためには、データの管理技術、検索技術とともに情報の編集やセキュリティ技術が必要であり、この分野は急速に技術進展をみた。 本書は、これらネットワーク上で情報（コンテンツ）を流通させる技術全般について、構築法も含めて実務的にまとめた。</p>
授業方法：	<p>基本的には、講義を中心としますが、演習、レポート、実習、等を適宜取り入れていきます。また、e-Campusをフルに活用するため、毎回の授業では、ノートPCが必須となります。そこで、斡旋パソコンを購入した人は、大容量バッテリーへの充電を十分にしてく下さい。また、斡旋パソコン以外の人は、嘉悦e-Campusに無線LANカードで接続できるようにすること、大容量のバッテリーを用意し、十分に充電して授業に臨んで下さい。</p>
履修の留意点：	<p>毎回、ノートPCを利用しますので、パソコン講習会には必ず出席して下さい。また、授業中、e-Campusへの接続が必須ですので、講義が開設されるまでには、必ずe-Campusネットワークに接続できるようにしておいて下さい。</p> <p>主に、インターネット検索により関連情報の収集をおこなったり、グループに別れた調査研究発表などもできたら行っていきたくと考えています。</p> <p>授業は、受講生の平均的な知識レベルを前提に進めますので、既に知識のある人には退屈になり、初めての人には難しすぎるという問題が生じます。そうならないように、講師側も努力をしますが、皆さんも、特に初めての人は予習・復習、講師への質問等をe-Campusを活用して行って下さい。この授業で深く、これからのキャンパスライフに何らかの悪影響が出ますので頑張ってください。</p>
目標と評価：	<p>嘉悦では、出席点が30点あります。1回の欠席で3点減点、3回の遅刻（開始から15分まで）で1回の欠席となってしまいます。本講義の内容は多岐にわたっていますので、自分が興味のある内容の回や興味のない回もあると思いますが、知らないことを知ること、または興味のないことに興味を持つことの方が却って新しい世界との出会いがあり、自信の進路の選択肢を広げる可能性があります。ですから、授業には、欠かさず出席しましょう。また、出席するからには、授業に集中しましょう。</p> <p>期末には、持ち込み不可の筆記試験を予定しています。落とすための試験ではありません。普通に学習し、授業に出席していれば、A以上の評点がつかはずです。</p>
教科書：	<p>インターネット情報流通技術 向山 博、和田 哲三、米田 茂【共編】 Ohmsha（社会をにぎわせたあのオームとは関係ありません） 2000年12月25日第1版第1刷（¥4,700）少し高いですがよくまとめられています</p>

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「データ通信メディア論」（担当者：平井 俊次）の履修の手引き

科目名：	データ通信メディア論
担当者：	平井 俊次
対象学生：	経営経済学部3年
設置学期：	秋
概要：	近年、コンピュータの性能が格段に向上し、ソフトウェアもより高度な情報処理が可能になったことから、従来のデータ（文字、数値）処理に加えて音声や画像情報のデジタル処理が自由にできるようになりました。 そして、データ通信の分野もデジタル通信技術や光通信技術等の発展に伴い、大容量の高速回線（ブロードバンド）が利用可能となり、音声や画像情報を低コストで効率良く伝送できるようになりました。インターネットは正にこれらの技術を集大成したものだといえるでしょう。 一方、放送業界もこれらの情報処理技術と通信技術を積極的に取り入れ、放送の革命に取り組んでいます。特にテレビ放送はデジタル化と双方向通信を実現することによって、視聴者に対するサービスのあり方を根本から変えていこうとしています。日本の法律では通信事業者と放送事業者は別々の法律によって保護され、運営されてきましたが、21世紀はその垣根が低くなり、互いに協力又は競合する関係になります。 この授業ではデータ通信の基礎的な要素技術を習得した上で、コンピュータと通信と放送におけるメディアミックスの現状とその活用法について学びます。
授業方法：	講義14回（内1回はゲスト講師による事例紹介を予定） 及び課題へのレポート提出
履修の留意点：	コンピュータリテラシー、情報システム論Ⅰ・Ⅱ、情報ネットワーク論などを履修し、情報処理や情報ネットワークの基本知識を有することが望ましい。 「履修手引き」に記載されている教科書や参考書で予習・復習を行なうこと。
目標と評価：	この授業を履修した学生は以下のことができるようになることを目標にします。  <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 自分が使っているマルチメディア端末がどのような技術やネットワークを使って通信しているかが分かる。</li> <li>2. 現在のテレビ放送が今後どのように変化し、ビジネス分野でどう活用される可能性を持っているかが分かる。</li> <li>3. 日経産業や日刊工業などの新聞に報道される関連記事が読み取れる。</li> </ol> 評価点（7割）は以下の配分で項目毎に加算方式で算出します。  <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 課題へのレポート提出と内容 40%</li> <li>2. 学期末試験 60</li> </ol>
教科書：	よくわかる最新情報通信と放送の基本と仕組み 中野 明 株式会社秀和システム 平成14年6月10日 第1版発行 ¥1,800税別  デジタル放送がわかる本 吉野武彦・久保田啓一監修、福井一夫・今西正徳共著 株式会社オーム社 平成12年11月25日 第1版発行 ¥1,200税別  _____ _____ _____

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「コミュニケーションメディア論」（担当者：佐々木 洋）の履修の手引き

科目名：	コミュニケーションメディア論
担当者：	佐々木 洋
対象学生：	経営経済学部3年
設置学期：	秋
概要：	「パソコン（PC）がPersonal ComputerからPersonal Communicatorに変わった時に現下のIT革新が始まり、携帯電話機がケータイに変わった時にユビキタス情報社会の端緒が開かれた」と理解しております。「メディア」は「コミュニケーション」を成立させるための必須要素ですが、「メディア」の技術的な進歩により「コミュニケーション」のあり方は大きく違ったものとなります。従って、コミュニケーション系システムを構築し経営支援ツールとして効果的に運用するためには、「メディア」の技術的動向を把握しておく必要があります。当講座で、コミュニケーション・メディアの諸相と技術的趨勢の考察に一つのポイントを置こうとする理由はここにあります。しかし一方では、情報活用の主体があくまで人間であり、「読む・書く・聞く・話す」の言語活動上の四技能を司り、表現・思考・判断・記憶の機能を制御する諸身体メディアのリテラシーが最も重要であるという事実には変わりはありません。むしろ、技術の進展によりコミュニケーション系システムを構築する上でのプラットフォームの選択の自由度がますます高まりつつある現在、システム利用者のメディア・リテラシーが一層重要になってきたと考えられます。将来、事業家、起業家ないしは企業人として、コミュニケーション系システムを構築または運用される場合に選択するメディアや利用方法は当該企業の事業環境次第であり、ここにも一律的な「正解」はありません。いかなる場合にも、基礎的な要件として欠かすことのできないメディア・リテラシーの問題に当講座のもう一つのポイントを置こうとする所以です。
授業方法：	自分自身が（株）東芝の通信機事業部に入社してからコンピュータ事業部を定年退職するまでに情報通信分野で経験した業務体験、三井業際研究所関連で出会った三井系各企業、MIT等のキーマンたちから得た教訓、更には、日経連関連の国際IT研修の企画運営を通じて見聞した事柄等々私自身の体験の中から得て組み立てた仮説を交えて、有用と考えられる内容を講義によりお伝えしていきたいと思っております。 全14回の講義の構成は概ね以下のようにしたいと考えておりますが、極力質疑応答などによる双方向情報交換の機会を増やすとともに、受講者数やリクエスト次第では、受講生自身によるプレゼンテーションや企業における実務者の講話聴取などをプログラムに採り入れるなど、柔軟な講座運営の編成と運営を図ってゆくつもりです。 第1回 導入 第2-3回 デジタルメディア出現前史およびデジタル化のインパクト 第4-5回 インターネットとイントラネット、メディア間競合と融合の動向 第6-8回 モバイル化とブロードバンド化 第9-10回 デジタル放送ネットワークと記憶媒体の動向 第11回 ユビキタス・ネットワーク 第12-14回 メディア・リテラシー
履修の留意点：	「情報リテラシー＝ITリテラシー＋ビジネス・リテラシー」という仮説に基づいて、前期の「インターネット・ビジネス論」はビジネス・リテラシー、後期の「コミュニケーション・メディア論」はITリテラシーに、それぞれ焦点を当てて講座を構成したいと思っております。両講座は視点を異にするものであるうえ、ともに自己完結する形をとりますので、必ずしも両講座を併せて受講する必要はありません。 教科書について 日本経済新聞を講義構成のための基本的な情報源としますので、同紙のコミュニケーション・メディア関連記事については常々問題意識を持って目を通して頂くことをお勧めします。また、具体的なテキストは、マイホームページ「東芝38年生の酒記」の「情報通信論」のページに逐次講義内容を掲載してゆく予定です。以下のURLで参照し、自分の見解（仮説）の検証と構成に役立ててください。積極的議論も大歓迎です。 <a href="http://www4.ocn.ne.jp/~daimajin/Jouhoutsushin.htm">http://www4.ocn.ne.jp/~daimajin/Jouhoutsushin.htm</a>
目標と評価：	具体的に「日本経済新聞のコミュニケーション・メディアに関する記事を読みこなすだけの力をつける」ことを学習目標として掲げます。「読みこなす」ということは、記事の内容を単に「理解する／覚える」のではなくて「評価しながら自分の見解（仮説）に取り入れる」ことに重点がありますので、受講の結果が情報の評価能力と仮説の構成能力の向上の形で結実することを願っております。従って、学習成果の評価のためのテストとしては、指定した日本経済新聞のコミュニケーション・メディア関連の記事について「A. 大意の把握、B. 内容の評価、C. 自分としての見解」を内容とするレポートを作成願ひ、Aに20点、BおよびCに各40点をそれぞれ配点し100点満点にて評価を行う予定です。
教科書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「メディアの現在と未来」（担当者：森本 孝）の履修の手引き

科目名：	メディアの現在と未来
担当者：	森本 孝
対象学生：	短期大学部1年
設置学期：	春
概要：	<p>コンピュータとネットワークという新しいメディアが、印刷媒体・映像媒体など旧来のメディアを如何に変容させつつあるか、そして、その将来像はいかなるものと洋装されるのかについて、実際にコンピュータの操作を行いながら、考察していく。</p> <p>特にノートパソコンを利用して、実際の操作を通じて、さまざまなアプリケーションができることできないことを確認することを通じて、旧来のメディアと比較した場合のコンピュータ・ネットワークというメディアの利点と欠点を具体的なレベルで理解し、そのことを通じて、幅広く新しいメディアの現状に触れることを重視する。</p>
授業方法：	履修人数が極めて多数とならない限り、講義とノートパソコンを利用したグループワークを交えて授業を進行する。 (多人数の場合は、講義中心とならざるを得ない)
履修の留意点：	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ノートパソコンを利用する場合があるので、指示があった場合には、無線LAN接続可能なノートパソコンを必ず持参すること(バッテリー移動が必要な場合もある)。</li> <li>・グループ単位で課題の提出が必要となる場合もあるので、グループ内で協調性を持って自分の役割を積極的に果たすこと。</li> <li>・グループワークの課題やレポート課題に応じて、書籍の購入が必要となった場合に、積極的に購入すること。</li> </ul>
目標と評価：	<p>この授業を受講した学生は以下のことができるようになっているはずである。また、そうなるように学習することを望む。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ノートパソコン付属のアプリケーションやWebアプリケーションのさまざまな活用法について理解すること。</li> <li>・コンピュータやネットワークの発達により実現した新しいメディアの欠点と利点を複眼的に理解すること。</li> <li>・新しいメディアを将来の社会や組織にどのような形で生かしていけばよいか、あるいは生かすべきではないかを理解すること。</li> </ul> <p>評価点は以下の項目毎に加算方式で算出します。          レポーター、質問者としての貢献 [30%]          授業内課題の提出状況 [20%]          学期末レポート試験 [50%]</p>
教科書：	「学ナビ」授業情報ページあるいは他のWebページの形で必要な教材を随時提供する。

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「メディア情報論」（担当者：山田 寛）の履修の手引き

科目名：	メディア情報論
担当者：	山田 寛
対象学生：	短期大学部1年
設置学期：	秋
概要：	新聞、テレビ、インターネットなど、さまざまなメディアがもたらす情報をきちんと読み取り、理解し、判断し、分析し、批判もする。そして、自分の考えや情報もきちんと知らせる。そうしたことができる能力を「メディア・リテラシー」という。情報社会の中で、それを身に着けることがますます重要になっている。メディアの実態を知り、メディア・リテラシーを養う授業である。
授業方法：	講義と演習をミックスする。新聞、ビデオ、インターネットなどもたくさん使う。できたら、メディアの現場も見学する。教科書は使わない。
履修の留意点：	広告、マンガ、写真、映画まで、メディアはさまざま。とにかく、いろいろなメディアに関心を広げてほしい。
目標と評価：	とにかく、考えながら情報に接する習慣をつけてもらう。評価は、期末試験と平常点をミックスして行う。
教科書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「デジタル図形処理入門」（担当者：小林 憲夫）の履修の手引き

科目名：	デジタル図形処理入門
担当者：	小林 憲夫
対象学生：	短期大学部1年
設置学期：	春
概要：	各自のノートパソコンに標準装備されているオフィスソフト上での、図形処理機能の使いこなしを学習する。 オフィスソフトの文字入力ができる学生は多いが、図形処理を知っている社会人は少ない。しかし「図形」は、表現力を高める重要なツールである。将来的なスキルの差別化という意味でも、役に立つ実践的な授業内容を目指す。
授業方法：	講義と実習の併用 実際に図形の編集処理を行いながら、デジタル図形処理の技術・知識について学習する。同時に、必要に応じて基礎的な技術用語などについても説明する。機能を覚えるのではなく、目標とする最終イメージに到達するために、どのような図形処理を行わなくてはならないかという視点から授業を進める。
履修の留意点：	オフィスソフトの基本的な使いこなしができること。 本授業では、Microsoft Word、Excel、PowerPointおよびPaintの各種ソフトにおける図形処理を講義するので、WordとExcelに関しては基本的な技術知識を有することが前提となる。 さらに当大学における他の授業で、WordとExcelについての学習を併せて履修することが望ましい。
目標と評価：	試験期間中のテストは行わず、平常点で評価する。 授業中に課題として指定した内容について、データを「レポート」という形で提出する。講義期間中に数回課題提出を求めるので、提出状況と、その内容から判断できる理解度を勘案して評価を行う。
教科書：	

※最終評価は、評価点7割，出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。



「デジタル図形処理入門」（担当者：小林 憲夫）の履修の手引き

科目名：	デジタル図形処理入門
担当者：	小林 憲夫
対象学生：	短期大学部1年
設置学期：	春
概要：	各自のノートパソコンに標準装備されているオフィスソフト上での、図形処理機能の使いこなしを学習する。 オフィスソフトの文字入力ができる学生は多いが、図形処理を知っている社会人は少ない。しかし「図形」は、表現力を高める重要なツールである。将来的なスキルの差別化という意味でも、役に立つ実践的な授業内容を目指す。
授業方法：	講義と実習の併用 実際に図形の編集処理を行いながら、デジタル図形処理の技術・知識について学習する。同時に、必要に応じて基礎的な技術用語などについても説明する。機能を覚えるのではなく、目標とする最終イメージに到達するために、どのような図形処理を行わなくてはならないかという視点から授業を進める。
履修の留意点：	オフィスソフトの基本的な使いこなしができること。 本授業では、Microsoft Word、Excel、PowerPointおよびPaintの各種ソフトにおける図形処理を講義するので、WordとExcelに関しては基本的な技術知識を有することが前提となる。 さらに当大学における他の授業で、WordとExcelについての学習を併せて履修することが望ましい。
目標と評価：	試験期間中のテストは行わず、平常点で評価する。 授業中に課題として指定した内容について、データを「レポート」という形で提出する。講義期間中に数回課題提出を求めるので、提出状況と、その内容から判断できる理解度を勘案して評価を行う。
教科書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「デジタル画像処理演習」（担当者：小林 憲夫）の履修の手引き

科目名：	デジタル画像処理演習
担当者：	小林 憲夫
対象学生：	短期大学部1年
設置学期：	秋
概要：	<p>コンピュータを利用したデジタルデータの活用技術に関して、今後最も重要になるとされる「画像処理」についての講義。</p> <p>オフィスソフトの使い方を知っている学生は多いが、画像処理のできる社会人は少ない。しかし「画像」は、自己表現力を高める重要なツールである。将来的なスキルの差別化という意味でも、役に立つ実践的な授業内容を目指す。</p>
授業方法：	<p>講義と実習の併用</p> <p>実際に画像の編集処理を行いながら、デジタル画像処理の技術・知識について学習する。同時に、必要に応じて基礎的な技術用語などについても説明する。機能を覚えるのではなく、目標とする最終イメージに到達するために、どのような画像処理を行わなくてはならないかという視点から授業を進める。</p> <p>デジタル画像処理であるので、デジタルカメラおよびスキャナで取り込んだ画像の処理が授業のほとんどを占める。時間があれば、ホームページ用など出力形式に応じた画像の取り扱い技術も講義したい。</p>
履修の留意点：	<p>授業のために画像処理ソフトを購入してもらう</p> <p>この授業を履修する学生は、全員 Paint Shop Pro 7.4J（Jasc Software社、学生割引で実売価格7000円弱）を購入する必要がある。本製品は、価格的には普及レベルだが、機能においては有名な画像処理ソフトと比べて遜色がなく、購入する価値は十分にある。</p> <p>各自のノートパソコンへのインストールについては授業で説明する。</p>
目標と評価：	<p>試験期間中のテストは行わず、平常点で評価する。</p> <p>授業中に課題として指定した内容について、データを「レポート」という形で提出する。講義期間中に数回課題提出を求めるので、提出状況と、その内容から判断できる理解度を勘案して評価を行う。</p>
教科書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「デジタル画像処理演習」（担当者：小林 憲夫）の履修の手引き

科目名：	デジタル画像処理演習
担当者：	小林 憲夫
対象学生：	短期大学部1年
設置学期：	秋
概要：	<p>コンピュータを利用したデジタルデータの活用技術に関して、今後最も重要になるとされる「画像処理」についての講義。</p> <p>オフィスソフトの使い方を知っている学生は多いが、画像処理のできる社会人は少ない。しかし「画像」は、自己表現力を高める重要なツールである。将来的なスキルの差別化という意味でも、役に立つ実践的な授業内容を目指す。</p>
授業方法：	<p>講義と実習の併用</p> <p>実際に画像の編集処理を行いながら、デジタル画像処理の技術・知識について学習する。同時に、必要に応じて基礎的な技術用語などについても説明する。機能を覚えるのではなく、目標とする最終イメージに到達するために、どのような画像処理を行わなくてはならないかという視点から授業を進める。</p> <p>デジタル画像処理であるので、デジタルカメラおよびスキャナで取り込んだ画像の処理が授業のほとんどを占める。時間があれば、ホームページ用など出力形式に応じた画像の取り扱い技術も講義したい。</p>
履修の留意点：	<p>授業のために画像処理ソフトを購入してもらう</p> <p>この授業を履修する学生は、全員 Paint Shop Pro 7.4J（Jasc Software社、学生割引で実売価格7000円弱）を購入する必要がある。本製品は、価格的には普及レベルだが、機能においては著名な画像処理ソフトと比べて遜色がなく、購入する価値は十分にある。</p> <p>各自のノートパソコンへのインストールについては授業で説明する。</p>
目標と評価：	<p>試験期間中のテストは行わず、平常点で評価する。</p> <p>授業中に課題として指定した内容について、データを「レポート」という形で提出する。講義期間中に数回課題提出を求めるので、提出状況と、その内容から判断できる理解度を勘案して評価を行う。</p>
教科書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「編集・出版・印刷の基礎」（担当者：板谷 成雄）の履修の手引き

科目名：	編集・出版・印刷の基礎
担当者：	板谷 成雄
対象学生：	短期大学部2年
設置学期：	春
概要：	私たちのまわりには、おびたしい数の印刷物、出版物があふれています。形態はどうあれ、これらのものに共通していることは、メッセージを他者に伝えたい、という欲求によって作られたものだということです。インターネットの普及などにより情報伝達的手段は多様な展開を見せていますが、すぐ手にできてメッセージを受け取れるというアクセス性に優れた点、保存性がよく後世に残すことができるものであるという点でも、印刷物、出版物の役割はまだまだ大きいものがあります。この授業では、こうした情報伝達に重要な位置を占める紙メディア＝多様な印刷物、出版物はどのようにして作られているのか、特に書籍・雑誌を中心にその制作工程を解説し、各種の印刷物、出版物それぞれの役割を理解していただきます。
授業方法：	印刷物、出版物の制作工程と編集技術の知識についての講義を中心としますが、それに関連する実習やミニテストなどを随時行なう予定です。 教材は授業時間毎に配布します。
履修の留意点：	特にありません。
目標と評価：	以下のことが理解できていることが目標です。 ・印刷物、出版物がどのような制作工程を経てできあがるのか。 ・簡単な編集整理、校正、レイアウトができる。 ・文字、色、印刷、製本、紙の一般的知識。 評価は実習やミニテストなどの課題の提出状況と定期試験の成績を加味して行います。
教科書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「マスメディア論」（担当者：下河邊 元春）の履修の手引き

科目名：	マスメディア論
担当者：	下河邊 元春
対象学生：	短期大学部2年
設置学期：	秋
概要：	新聞、テレビ、ラジオさらには電子情報メディアが世界および日本で果たしている役割と問題点をイラク戦争を具体的な事例の中心に据えて考察していき、新聞、テレビ報道を身近な存在にしてみます。
授業方法：	情報化社会の中でマスメディアが果たしている役割を理解してもらおうと同時にメディアが抱える問題－報道の自由、報道の中立性、誤報、報道と人権、日本の記者クラブ制度－を具体的な事例を用いて、受講生に問題意識を育んでもらいます。授業内において意見発表やレポート提出も求めます。
履修の留意点：	受講生はただ講義に臨むだけでなく、実際に新聞、テレビ、電子メディア等の報道内容について日常的に触れる－読む、見る、聞く－努力を求めます。教科書は使用しません。
目標と評価：	新聞、テレビ、電子メディア情報が果たしている役割と問題点を認識し、それぞれがマスメディアに対して問題意識をもつことをこの授業の最終目標とします。最終評価は、レポート提出などの平常点と期末試験結果を合わせて評価します。
教科書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「マルチメディア論（再履修用）」（担当者：坂口 寿一）の履修の手引き

科目名：	マルチメディア論（再履修用）
担当者：	坂口 寿一
対象学生：	短期大学部2年
設置学期：	秋
概要：	デジタル情報をコンピュータやネットワークを使って、インタラクティブにコミュニケーションするのが、マルチメディアだとすると、私達は、日ごとマルチメディアに関わりを持って生活しているといっても過言ではありません（ケイタイしかりです）。また、マルチメディアを、文字、図形、画像、音声、音響、動画などのマルチな情報を、デジタル情報の形で統合して処理操作できる形態を持つメディア（媒体）と言うこともできます。したがって、マルチメディア機器やマルチメディア情報（コンテンツ）は、従来メディアのそれに比べ、より大きな影響力を持つことになり、その結果、非常に明るい光と暗い影をもたらすことにもなります。このことから、私達は、マルチメディアに対する問題意識を持ち、存在意義を正しく理解し、合理的に操作し、内容を深く咀嚼し、そしてメディアと社会の関係について十分な理解をしておく必要があります。本科目では、マルチメディアに関連する、人間の感覚、デザイン、処理技術、ネットワーク利用、応用システムなどの基礎知識を学び、さらにメディアリテラシと社会倫理や、市民社会とマルチメディアについても勉強します。
授業方法：	講義形式を主体にしますが、パソコンを使った授業も考えています（「履修上の留意点」の項参照）。
履修の留意点：	予習・復習のために、授業情報（授業計画など）を常に関連するようにしてください。また、パソコン携行が必要な場合などの連絡事項も、授業計画のページに記載します。
目標と評価：	①マルチメディアに対する関心と問題意識を持てるようになり、 ②メディアと社会との関係について話ができるようになり、 ③CG-ARTS協会主催のマルチメディア検定のうちの入門レベルである3級までの内容が理解できるようになることを目標とします。  評価は、本試験を主体としますが、途中に課すレポートも加味して行います。
教科書：	<書名>入門編 マルチメディア標準テキストブック <著者名>入門編マルチメディア標準テキストブック編集委員会 <出版社名>CG-ARTS協会（（財）画像情報教育振興協会） <出版年>第三版一刷 平成14年2月22日

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「マルチメディア論」（担当者：坂口 寿一）の履修の手引き

科目名：	マルチメディア論
担当者：	坂口 寿一
対象学生：	短期大学部2年
設置学期：	春
概要：	デジタル情報をコンピュータやネットワークを使って、インタラクティブにコミュニケーションするのが、マルチメディアだとすると、私達は、日ごとマルチメディアに関わりを持って生活しているといっても過言ではありません（ケイタイしかりです）。また、マルチメディアを、文字、図形、画像、音声、音響、動画などのマルチな情報を、デジタル情報の形で統合して処理操作できる形態を持つメディア（媒体）と言うこともできます。したがって、マルチメディア機器やマルチメディア情報（コンテンツ）は、従来メディアのそれに比べ、より大きな影響力を持つことになり、その結果、非常に明るい光と暗い影をもたらすことにもなります。このことから、私達は、マルチメディアに対する問題意識を持ち、存在意義を正しく理解し、合理的に操作し、内容を深く咀嚼し、そしてメディアと社会の関係について十分な理解をしておく必要があります。本科目では、マルチメディアに関連する、人間の感覚、デザイン、処理技術、ネットワーク利用、応用システムなどの基礎知識を学び、さらにメディアリテラシと社会倫理や、市民社会とマルチメディアについても勉強します。
授業方法：	講義形式を主体にしますが、パソコンを使った授業も考えています（「履修上の留意点」の項参照）。
履修の留意点：	予習・復習のために、授業情報（授業計画など）を常に関覧するようにしてください。また、パソコン携行が必要な場合などの連絡事項も、授業計画のページに記載します。
目標と評価：	①マルチメディアに対する関心と問題意識を持てるようになり、 ②メディアと社会との関係について話ができるようになり、 ③CG-A-R-T-S協会主催のマルチメディア検定のうちの入門レベルである3級までの内容が理解できるようになることを目標とします。  評価は、本試験を主体としますが、途中に課すレポートも加味して行います。
教科書：	<書名>入門編 マルチメディア標準テキストブック <著者名>入門編マルチメディア標準テキストブック編集委員会 <出版社名>CG-A-R-T-S協会（（財）画像情報教育振興協会） <出版年>第三版一刷 平成14年2月22日

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「デジタル出版演習 I」（担当者：海野 京子）の履修の手引き

科目名：	デジタル出版演習 I
担当者：	海野 京子
対象学生：	短期大学部2年
設置学期：	春
概要：	ワープロソフトとして定番のMicrosoft Wordを使い、案内状、チラシ、ポスターなどデザイン性の高い印刷物を作るテクニックとノウハウを学びます。 ビジネスでWordは必須ソフトですが、ただ文書が作れるだけではライバルに差が付きません。読みやすい文字組、自由度の高いレイアウト、確実に印刷物を出力する力は、現場で高く評価されます。本講座では、案内状やチラシなど具体的な作品を制作しながらこれらの力を身に付けます。
授業方法：	パソコンによる実習中心、レイアウト作成の知識等については講義形式で行います。
履修の留意点：	パソコンとワードの基本操作(文字入力や簡単な文書の作成程度)ができることを履修の条件とします。
目標と評価：	DTP検定Ⅲ種取得程度の能力を身に付けることを目標とします。 評価点では、実習中に行う提出課題6割、最終作品で4割を評価します。
教科書：	DTP検定Ⅲ種公式ガイドブック 株式会社コンテンツウェア 株式会社オラリオ 2002

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。



「デジタル出版演習Ⅱ」（担当者：海野 京子）の履修の手引き

科目名：	デジタル出版演習Ⅱ
担当者：	海野 京子
対象学生：	短期大学部2年
設置学期：	秋
概要：	現在、DTPは様々な現場で導入されています。雑誌、ポスターなどはもちろん、企業のカタログやパンフレットなど身近な印刷物のほとんどはDTPで作られています。ですから、広報職、編集職などの仕事に携わりたいと思う人にとって、印刷物作成に関する基礎知識、編集やDTPのノウハウを身につけるのは大事なことです。そこで本講座では、印刷物の企画、スタッフの選定、紙面構成の決定、原稿やレイアウトの発注、印刷依頼などについて、実際に印刷物の受注を想定しながら実践的に学びます。In Design、Photoshopなど、実際に現場で使われるDTPソフトも使用し、レイアウトの基本操作についても学びます。
授業方法：	パソコンによる実習中心、レイアウト作成の知識等については講義形式で行います。
履修の留意点：	春学期の「編集・出版・印刷の基礎」をできるだけ履修しておいてください。
目標と評価：	DTP検定Ⅱ種取得程度の能力を身に付けることを目標とします。 評価点では、実習中に行う提出課題6割、最終作品で4割を評価します。
教科書：	DTP検定Ⅱ種公式ガイドブック 株式会社コンテンツウェア 株式会社オラリオ 2002

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「情報ネットワーク論」（担当者：平井 俊次）の履修の手引き

科目名：	情報ネットワーク論
担当者：	平井 俊次
対象学生：	経営経済学部3年
設置学期：	春
概要：	<p>皆さんは既に携帯電話やパソコンを保有し、家族や友人・知人と会話したり電子メールの交換を楽しんでいますね。恋人とデートする時も電車の路線や時刻表、グルメスポット情報をインターネットで検索しているでしょう。</p> <p>企業や公共団体、NPOなども仕事の効率化やサービスの向上を図るために情報ネットワークを活用しています。特に企業では情報ネットワークの構築をベースに如何に「IT化」を進めるかが生き残るための生命線になっています。</p> <p>2001年は「IT元年」と言われ、日本政府は「eJAPAN」構想を打出しました。21世紀の日本は「IT立国」を目指しているのです。</p> <p>しかし、このような高度情報化社会は一朝一夕に出現した訳ではありません。</p> <p>コンピュータによる情報技術の革新と通信技術の革新、更に法律や制度の規制緩和によってコンピュータと通信の融合が可能になったことが、今日の社会を生み出す原動力になりました。</p> <p>この授業ではIT社会のインフラストラクチャーとなる「情報通信ネットワーク」について、その構成や基礎的な技術、利用形態を学び、情報通信リテラシーの入門を目指します。</p>
授業方法：	講義14回 及び 課題へのレポート提出
履修の留意点：	コンピュータリテラシー、情報システム論Ⅰ・Ⅱなどを履修し、情報処理の基本知識を有することが望ましい。「履修手引き」に記載されている教科書で予習・復習を行なうこと。
目標と評価：	<p>この授業を履修した学生は以下のことができるようになることを目標にします。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 自分が使っている端末機がどのような技術や情報ネットワークを使って通信しているかが分かる。</li> <li>2. 自分が志望する将来のビジネス分野でどのような情報ネットワークが使われているか想定できる。</li> <li>3. 日経産業や日刊工業などの新聞に報道される関連記事が読み取れる。</li> <li>4. 事業の継承、自営業を志す者はどのような情報ネットワークを構築すべきか想定できる。</li> </ol> <p>評価点（7割）を以下の配分で項目毎に加算方式で算出します。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 課題へのレポート提出と内容 40%</li> <li>2. 学期末試験 60%</li> </ol>
教科書：	<p>情報ネットワーク論 松本良治 株式会社オーム社 平成12年9月25日 第1版発行 ￥2,600税別</p> <p> </p> <p> </p> <p> </p>

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「ネットワークの基礎」（担当者：滑川 光裕）の履修の手引き

科目名：	ネットワークの基礎
担当者：	滑川 光裕
対象学生：	短期大学部1年
設置学期：	秋
概要：	<p>前半は、インターネットの発展と歴史、それを支える基本技術（クライアント&amp;サーバシステム、TCP/IP、通信速度など）について学ぶ。                  後半は、ネットワークの応用技術・最新技術についての特徴や仕組み、それが社会へ与える影響などについて学ぶ。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・インターネット</li> <li>・クライアント&amp;サーバ</li> <li>・TCP/IP</li> <li>・HUB、LANスイッチ</li> </ul>
授業方法：	講義形式で行う。 授業中に小テスト・レポート提出を行う。
履修の留意点：	特になし。
目標と評価：	授業中の小テスト・レポートと期末テストによる評価を行う。
教科書：	(授業中に指示する) <hr/> <hr/> <hr/> <hr/>

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「ネットワーク技術論」（担当者：滑川 光裕）の履修の手引き

科目名：	ネットワーク技術論
担当者：	滑川 光裕
対象学生：	短期大学部2年
設置学期：	春
概要：	今日の社会では、コンピュータネットワーク（インターネット）なしに成り立たなくなってしまった。通信分野でのデジタル化については、非常に顕著で、携帯電話だけでなく、ついに一般電話さえもコンピュータネットワークに取り込まれつつある。そのコンピュータネットワークについて、身近な話題を取り込みながら、複雑な技術について学ぶ。
授業方法：	講義形式で行う。 授業中に小テストとレポートを行う。
履修の留意点：	特になし。
目標と評価：	授業中の小テスト・レポートと期末テストによる評価を行う。
教科書：	(授業中に指示する)

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「情報検索法」（担当者：藤田 節子）の履修の手引き

科目名：	情報検索法
担当者：	藤田 節子
対象学生：	経営経済学部3年
設置学期：	秋
概要：	<p>情報を収集、分析、加工、蓄積し、利用可能な形態にした情報の集合体を、データベースといいます。現在、インターネット上には、さまざまなデータベースが公開され、情報を検索することが容易になってきました。しかし、実際に検索してみると、必要な情報が漏れたり、いらぬ情報がたくさん検索され、なかなか効率よく検索されないものです。</p> <p>本講座では、下記のように、データベースの種類や特徴、検索の原理と機能、索引システムなどの理論を学ぶと共に、データベースの検索を実際に行うことによって、情報検索のスキルを磨きます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>a. データベースの種類・特徴・歴史</li> <li>b. データベース流通のしくみ</li> <li>c. 情報検索のしくみと機能</li> <li>d. 索引、分類、シソーラス</li> <li>e. データベース検索実習</li> </ul>
授業方法：	講義ならびにパソコン教室と講義時間外での検索演習。
履修の留意点：	遅刻や欠席をしないで、実習レポートを必ず提出すること。講義中不明な点は、質問により明確にして欲しい。
目標と評価：	<p>この講義内容を理解、実践することにより、必要とする情報をデータベースから検索するために必要な、情報検索とその関連領域に関する基礎的な知識と技術、および検索技能を取得することを目標とする。</p> <p>評価は、出席と平常の授業態度（30%）、レポートの提出と自己評価テスト(70%)から総合的に判断する。</p>
教科書：	<p>情報整理・検索に活かす インデックスのテクニック 藤田節子 共立出版 2001</p> <p> </p> <p> </p> <p> </p> <p> </p>

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「情報検索の方法」（担当者：中村 百合子）の履修の手引き

科目名：	情報検索の方法
担当者：	中村 百合子
対象学生：	短期大学部1年
設置学期：	秋
概要：	<p>情報や各種情報メディアの種類と収集法、情報の分析と索引付け、情報の組織化とアクセス提供の使命を持つ機関と専門職など、情報管理の基礎を学びます。その上で、主要なデータベースの種類やデータベース活用に必要な検索コマンドを学びます。効率的なデジタルデータの検索技術を身につけるべく、情報検索の演習をできるだけ多く行いたいと思います。</p> <p>この授業に出席し、その内容をマスターすれば、情報検索基礎能力試験[<a href="http://www.infosta.or.jp/soshiki/shoukaiai1.htm">http://www.infosta.or.jp/soshiki/shoukaiai1.htm</a>]受験の準備ができるでしょう。</p>
授業方法：	講義と演習。演習では、各自実際に検索を行い、発表やレポート提出をしてもらいます。
履修の留意点：	教科書の購入は出席者の義務です。教科書を購入していない者には、成績はつけません。期限内に学期末の課題を提出することは、単位取得のための絶対的な義務です。出席だけでは成績はつけません。
目標と評価：	<p>情報検索技術を身につけることが目標です。データベースの概念を理解し、簡単なデータベースも構築できるようになることを目指します。</p> <p>授業態度と、提出課題(学期末)によって成績をつけます。</p>
教科書：	<p>情報の管理と検索 情報科学技術協会(編) 情報科学技術協会 2000</p> <p>_____</p> <p>_____</p> <p>_____</p> <p>_____</p>

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「インストラクター技法」（担当者：海野 京子）の履修の手引き

科目名：	インストラクター技法
担当者：	海野 京子
対象学生：	短期大学部2年
設置学期：	秋
概要：	インストラクターは、パソコンやソフトウェアの機能や操作手順を人に教えるのが仕事です。そのため、コンピュータに詳しくればよい、自分が操作できれば教えられる、と思われがちですが、そうではありません。よいインストラクターは、パソコンやソフトの知識とともに、モチベーションの持たせ方、説明の組み立て方、教材の作り方、話し方、板書など、「わかりやすさ」のテクニックを身に付けています。この講座では、こうしたインストラクションの基本とそのテクニックを実践を交えながら学習していきます。
授業方法：	講義に実践やトレーニングを交えながら進めます。
履修の留意点：	パソコンとワードの基本操作ができることを履修の条件とします。
目標と評価：	目標は、パソコン操作をわかりやすくインストラクションできるようになることです。評価点では、授業態度や実習意欲、提出課題などを評価します。
教科書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

論理学Ⅱ [担当：花小金井太郎]

科目名：	論理学Ⅱ
担当者名：	花小金井太郎
対象学生：	大学2年・短大2年
設置学期：	秋学期
単位数：	2
概要：	みなさんは、「明日は雨が降らなければグラウンドで体力測定があり、雨が降れば体育館で体力測定がある」から、いずれにせよ「明日は体力測定がある」が論理的に出てくることを知っているでしょう。また、「おまえはまだ子どもなんだから、親の言うことを聞きなさい」と「おまえはもう子どもじゃないんだから、自分のことは自分でしなさい」とが矛盾しているということもわかるでしょう。このように、ある事柄が論理的に出てくるとか、いくつかの事柄を全部合わせると矛盾しているといった判断をおおむね間違いなくできるので、わたしたちは生きていけるのです。でも、あなたが知っているはずの、その「論理的に出てくる」とか「矛盾している」っていったいどういうことか、ということをおまえは知っていますか？ 知っていて、それをどんな場合にも当てはまるように、厳密に、一般的に説明することができますか？ 論理学は、思考や推論、論証が論理的に筋道だっているということはそもそもどういうことかを明らかにし、それをいかなる場合にも判定できるような有効な手続きはあるのか、あるとしたらどのようなものかを考える科学です。 この授業では、日常的な事例を出発点としながら、「論理的に出てくる」とか「矛盾している」ということを厳密に、一般的に説明しようとする、どのような理論的なしかけが必要になるかを考え、ゼロから論理学を作っていくながら、現代の論理学に入門することをめざします。
授業方法：	講義（8回）および討論（6回）。討論は、特定の受講生をレポーターに指名して行います。
履修上の留意点：	「論理学Ⅰ」の履修を必ずしも前提とはしないが、のぞましい。春学期までに「論理学Ⅰ」を履修していない者は、その「履修の手引き」に記載されている教科書の第一章から第三章までを読んでおくこと。
目標と評価※：	この授業を受講した学生は以下のことができるようになっているはずで、また、そうなるように学習することを望みます。 <ul style="list-style-type: none"> <li>日本語・英語などの日常言語の文を論理学の記号言語に翻訳すること</li> <li>論理学に特有の理論的概念のそれぞれについて、なぜそのような概念を導入する必要があるのかということと、その正確な意味が説明できること</li> <li>任意の論証が与えられたときにそれが論理的に正しいものであるかどうか、任意の文の集まりが与えられたときにそれが全体として矛盾しているかいないか、を判定する方法が使えること</li> <li>上の方法がなぜ使えるのかの説明ができること</li> </ul> <p>評価点は以下の項目毎に加算方式で算出します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>出席および議論における発言の積極性 [10%]</li> <li>レポーター、質問者としての貢献および小さな課題の提出状況 [20%]</li> <li>中間レポート：J. S. Mill, "Logic" (全6ページ) を日本語に訳し、その上で課題に答える形式のレポート。締め切りは12月7日。課題はコースパケットにあり。 [30%]</li> <li>学期末レポート試験 [40%]</li> </ul>
教科書	コースパケット（課題文献などの資料を集めた冊子。初回の授業で配布）

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。



「ホテルビジネス検定トレーニング」（担当者：須藤 真一）の履修の手引き

科目名：	ホテルビジネス検定トレーニング
担当者：	須藤 真一
対象学生：	短期大学部1年
設置学期：	秋
概要：	<p>ホテルビジネス実務検定は、(財)日本ホテル教育センターが実施する民間の検定制度である。ホテル業界での実務経験が1カ月以上必要なベーシックレベル2級、同経験が2年以上のベーシックレベル1級、さらに、同経験が3年以上必要なマネージメントレベル2級、および、同経験が3年以上必要で、より高度な業務知識が問われるマネージメントレベル1級の4階級よりなる。</p> <p>本学においては、ベーシックレベル2級を目標として、徹底した問題演習のトレーニングを行うが、原則的には実務研修ができないので、知識の習得にとどめ、将来、ホテル産業に就職した後当該検定を取得し得るよう、能力を身につけることを目標とする。</p> <p>但し、成績優秀者の中から、希望により、夏期または春期休暇期間中等にホテル業務の実地研修を行い、本学在学中にベーシックレベル2級を取得する途も設定している。</p> <p>当該検定は取得は容易ではないが、取得すれば就職には有利である。</p> <p>上記より、将来、ホテル関係業界に就職を希望する学生の受講が望ましい。また、授業は、毎回のテスト演習と、最終の模擬テストを行い、本学において、検定レベルを判定する。</p>
授業方法：	講義、演習、実習（ホテル見学を含む）、視聴覚教材（OHP、ビデオ）、パソコン等。
履修の留意点：	受講生は、将来ホテル関係業界への就職を希望する学生が望ましい。「ホテルビジネス I」および「ホテルビジネス II」を受講していることが望ましいが、当該科目単独の受講も可能。
目標と評価：	<p>[目標]</p> <p>次の項目について理解をすることを目標とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. ホテルの歴史・社会的使命と役割</li> <li>2. ホテルの運営組織と経営形態</li> <li>3. ホテル・サービスの基本とホスピタリティ</li> <li>4. 宿泊部門における基本業務</li> <li>5. 料飲部門における基本業務</li> <li>6. 宴会部門における基本業務</li> <li>7. 調理部門における基本業務</li> <li>8. ホテル関連法規と関連政府機関および団体</li> <li>9. 世界のホテル産業の現状と将来展望</li> <li>10. ホテル英語の基本</li> <li>11. ホテル見学</li> </ol> <p>[評価]</p> <p>授業への参画度。各授業における小テスト、小問題、および期末レポート。</p>
教科書：	<p>ホテルビジネス基礎編 (財)日本ホテル教育センター編集 (財)日本ホテル教育センター発行 3 2 0 0 3 年</p> <p>_____</p> <p>_____</p> <p>_____</p> <p>_____</p>

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「旅行業取扱主任者トレーニングⅠ」（担当者：山内 直美）の履修の手引き

科目名：	旅行業取扱主任者トレーニングⅠ
担当者：	山内 直美
対象学生：	短期大学部1年
設置学期：	春
概要：	旅行業では国内旅行はもとより気軽に出かけられる海外旅行や外国からのお客様を迎える訪日旅行を取扱います。そのため旅行会社では必ず国家資格である旅行業取扱主任者を一店舗に一人以上おこななければなりません。その国家資格に挑戦するのがこの講座です。本講座では年一回9月に実施される「国内旅行業取扱主任者」を受験しその資格取得を目指します。テキストを使用するだけでなく過去問題などで試験の傾向を理解し、予想問題で各自の内容理解および到達度を確認しながら講義を進めます。受験に向けての短期間の集中講座になります。従って本講座では「トラベルビジネスⅠ」と「旅行業務取扱主任者トレーニングⅡ」を併せて受講する必要があります。
授業方法：	講義形式。 資料などは適宜プリントを配布します。 板書をしますので各自ノートなどを用意してください。
履修の留意点：	「トラベルビジネスⅠ」および「旅行業務取扱主任者トレーニングⅡ」を必ず受講すること。 国家試験は9月上旬ですので、「旅行業務取扱主任者トレーニングⅡ」に関しては夏期休暇中に集中講座として実施予定しています。
目標と評価：	9月に実施される国家試験「国内旅行業取扱主任者」を必ず受験する事。 出席を重視します。また積極的な態度を評価します。
教科書：	①旅行業法・旅行業約款 JTB能力開発 JTB能力開発 2003年度版 ②運送・宿泊約款 JTB能力開発 JTB能力開発 2003年度版 ③国内運賃・料金 JTB能力開発 JTB能力開発 2003年度版 国内旅行実務・観光資源 JTB能力開発 JTB能力開発 2003年度版

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「旅行業取扱主任者トレーニングⅡ」（担当者：山内 直美）の履修の手引き

科目名：	旅行業取扱主任者トレーニングⅡ
担当者：	山内 直美
対象学生：	短期大学部1年
設置学期：	春（集中授業）
概要：	「旅行業務取扱主任者トレーニングⅠ」に引き続き、この講座では9月に実施される国家試験「国内旅行業務取扱主任者」を受験しその資格取得を目指します。試験直前のため夏期休暇中に集中講義として実施します。 ここでは「旅行業務取扱主任者トレーニングⅠ」と「トラベルビジネスⅠ」で身に付けた基礎知識を再確認し、応用力を身につけます。
授業方法：	講義形式。プリントを適宜配布します。 予想問題や模擬試験を実施します。 (テキストは「旅行業務取扱主任者トレーニングⅠ」で使用したものと同じです。)
履修の留意点：	出席を重視します。
目標と評価：	9月に実施の国家試験「国内旅行業務取扱主任者」を受験すること。
教科書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「販売士トレーニングⅠ」（担当者：櫻木 孝司）の履修の手引き

科目名：	販売士トレーニングⅠ
担当者：	櫻木 孝司
対象学生：	短期大学部1年
設置学期：	春
概要：	日本商工会議所及び全国商工会連合会主催の販売士検定試験は、わが国の流通業界において、唯一の公的な資格制度として高く評価され、現在注目を集めている。そのため有資格者は就職時の有力な武器ともなり、最近では企業などでも昇給・昇格等の人事考課の際の有力な評価ポイントとして、この制度を採用しているところも増えてきている。本科目はこの販売士検定試験3級合格に必要な力を身に付けていく。
授業方法：	試験科目にあわせた講義を主体に、過去の試験問題などの練習問題もあわせて実施することにより、理解を深めていく。
履修の留意点：	販売士検定試験3級は年2回（7月と2月）に実施される。春学期という短期間で合格を目指すため、予習・復習を必ず行うこと。
目標と評価：	定期試験、レポート、授業態度などを加味して総合的に評価します。
教科書：	販売士検定試験ハンドブック3級 日本商工会議所他編 カリアック 2003

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「販売士トレーニングⅡ」（担当者：櫻木 孝司）の履修の手引き

科目名：	販売士トレーニングⅡ
担当者：	櫻木 孝司
対象学生：	短期大学部1年
設置学期：	秋
概要：	日本商工会議所及び全国商工会連合会主催の販売士検定試験は、わが国の流通業界において、唯一の公的な資格制度として高く評価され、現在注目を集めている。そのため有資格者は就職時の有力な武器ともなり、最近では企業などでも昇給・昇格等の人事考課の際の有力な評価ポイントとして、この制度を採用しているところも増えてきている。 本科目はこの販売士検定試験3級合格に必要な力を身に付けていく。
授業方法：	過去の試験問題、練習問題を実施しながら理解を深めていく。
履修の留意点：	レベルの高い試験なので、合格を目指すために予習・復習を必ず行うこと。
目標と評価：	定期試験、レポート、授業態度などを加味して総合的に評価をします。
教科書：	販売士検定試験ハンドブック3級 日本商工会議所他編 カリアック 2003 _____ _____ _____

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「ボランティア実習」（担当者：内田 和夫）の履修の手引き

科目名：	ボランティア実習
担当者：	内田 和夫
対象学生：	経営経済学部3年
設置学期：	春
概要：	ボランティア活動の実際を経験してみたい人にそのチャンスを提供するためにもうけられました。「ボランティア論」を受講する中で、ぜひ自分もやってみようと考えた諸君に開かれた場です。途上国でのワークショップから、作業者での食事づくりまで、多様なプログラムが容易されています。活動内容と活動場所、活動時間や活動期間を自分流に選択できるようにできるだけ配慮したプログラムとなっています。ふるって参加ください。
授業方法：	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 週1回の実習コース（5月から10月）と夏期集中コース（約2週間）があります。</li> <li>2) 事前研修を必ず受けてください。</li> <li>3) 研修中の中間報告、研修後の最終報告を提出いただきます。</li> <li>4) 1箇所1名を原則にして、派遣します。 あなた自身の新しい世界を開いて見てください。</li> </ol>
履修の留意点：	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 「ボランティア実習」をすでに昨年度、履修していることが前提条件になります。</li> <li>2) 新しい自分の可能性を探る意欲のある諸君を歓迎します。</li> </ol>
目標と評価：	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 相手の役にたつとはどういうことか、実際の場面の中で、自分の足で歩いた経験となることを目標にしています。そして、その経験を表現することも。</li> <li>2) 実習中の活動内容、レポートを総合して評価します。</li> </ol>
教科書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「企業実習Ⅰ」（担当者：中野 正健）の履修の手引き

科目名：	企業実習Ⅰ
担当者：	中野 正健
対象学生：	経営経済学部3年
設置学期：	春
概要：	「百聞は一見にしかず、凡百の論議より実践にあり（趙充国伝）」と言われる如く、本学の理念である実学を自らが実践を通じて勉学する授業である。 秋学期「企業実習Ⅱ」のための事前指導として、ビジネス文書の作成方法、電話の受け答え、ビジネスマナー等企業社会の知識、技能のほか、映像教材を利用して社会人、職業人としての精神（倫理感、責任感、使命感等）、仕事に対する取り組み方を修得する。 また、業界、業種の知識の修得と分析力をつけること、および企業経営者の経営戦略の事例をもとに今後の経済を見据えた業種選択の指針について学ぶ。
授業方法：	前半は社会人、職業人としての精神、仕事に対する取り組み方を修得するために、教材として映像（ビデオ）を活用し、その事柄のポイントを議論し合い、自分自身どうとらえたかをレポートする。 後半の一部は社会人としてのビジネスマナーの専門の講義を受ける。
履修の留意点：	新聞の経済面、株式面に関心を持ち授業に参加すること。
目標と評価：	レポートの提出と日常の授業態度で評価する。
教科書：	会社四季報 2003年度3集 東洋経済新報社 _____ _____ _____

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「日本文化実習Ⅰ」（担当者：井口 浩一）の履修の手引き

科目名：	日本文化実習Ⅰ
担当者：	井口 浩一
対象学生：	短期大学部1年
設置学期：	春
概要：	<p>1. 漢字の三体（楷、行、草）における基礎的・基本的事項を習得する。</p> <p>2. 習得にあたって最大の眼目は、生活の芸術化、即ち、常時美を生きるということである。日本文化の核は、往古より現在にいたるまでこの創造性（彼我一如の世界観をその実践）を父母としている。知的・技術的なことがらは、本質についてくるものである。</p> <p>3. 創造と鑑賞は同義である。この視野から批評が己を開示している。（批評はやさしい。しかし批評はむずかしい。創造と鑑賞が同時・同所にあり続けるためである）</p> <p>4. 天佑の現実を経験する。</p>
授業方法：	<p>1. 書における基礎的・基本的事項の理解・習得 用具・用材；執筆・運筆・用筆法；形・線・空白等</p> <p>2. 楷書・行書・草書を書く 漢字入門；書体；中国書道史 臨書（形臨・倣書・創作）</p> <p>3. 古典の稽古 書の古典と作家達・鑑賞・（臨書の意義の発見） 我が国への影響</p> <p>4. 応用 生活の中の文字を書いてみる。</p> <p>以上を通じ、主として、自己発見を行うことに主眼がおかれる。</p>
履修の留意点：	<p>1. 教科書の購入と活用</p> <p>2. 毎時間、用具を持参し、授業開始前に諸準備を終えていること</p> <p>3. 用具は常に清潔をむえとすること</p> <p>4. ノートを持参し、講義の要点を記載すること</p> <p>5. 提出物は必ず提出すること</p> <p>6. 毎時間・全出席すべく精励すること</p> <p>7. 授業中は己を忘れて、集中すること （集中とは、解放することである）</p>
目標と評価：	<p>1. 目標 ◎三体の基礎的・基本的なことがらが表現できること ◎漢字学習（表現）をとおして書の心を経験すること ◎美的生活を実践すること</p> <p>2. 評価 平常点 出欠状況；授業中の態度；提出物を主とした総合評価</p>
教科書：	<p>だれでも上達する習字の手本 浅見 喜舟 日本習字普及協会 初版 1966年1月10日</p> <p> </p> <p> </p> <p> </p>

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。



「日本文化実習Ⅰ」（担当者：柴生田 俊一）の履修の手引き

科目名：	日本文化実習Ⅰ
担当者：	柴生田 俊一
対象学生：	短期大学部1年
設置学期：	春
概要：	2003年度は江戸幕府誕生400周年にあたる。今日の日本文化は主として江戸時代に形成された。奈良・平安時代の王朝文化、鎌倉以降の武家文化に対して、庶民文化・大衆文化が開花した時期である。特に首都・東京は、こうした文化遺産が今でも随所に息づいている「ドラマチックな舞台」といえる。「日本文化Ⅰ」では、江戸文化をベースに、江戸以前の日本文化、明治以降の日本文化にも言及しながら、身近な日本文化を具体的に検証していく。春学期を通じて、今日の日本文化の特質、日本人の性格、日本社会の特徴などを学び、21世紀における日本人の生き方、ビジネスの仕方を考える。
授業方法：	講義、ネット検索、事例研究、研究指導
履修の留意点：	1. 江戸城、江戸の都市計画、山の手・下町2. 陸運、水運、5街道3. 征夷大將軍、幕藩体制、大名行列、参勤交代4. 人口、土農工商、経済社会5. 東国・西国、關所6. 關八州（太古～ヤマト～江戸～現代）7. 衣食住、祭祀、遊芸、教育8. 思想・宗教、芸術・芸能9. 対外関係、鎖国～開国日本文化の事例研究：グループ別にテーマを選定し、研究発表する。
目標と評価：	最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。 ミニレポート、事例研究（グループ）、期末レポート（個人）
教科書：	文明としての江戸システム、2200円（税別） 鬼頭宏 講談社 2002

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「日本文化実習Ⅰ」（担当者：市川 宗成）の履修の手引き

科目名：	日本文化実習Ⅰ
担当者：	市川 宗成
対象学生：	短期大学部1年
設置学期：	春
概要：	茶道の実習を通じて、日本の伝統文化についての理解を深める。 感謝と思いやりの心、相手の人格を尊重し、仕えあう心など精神力を養うことを目指す。 茶道の作法（湯をわかし、茶を点て、菓子を味わい、茶を呑む）を習い動作の美しさを習得する。
授業方法：	茶道の稽古の実習をベースに講義を進める 1、道（心）精神面の充実 2、学（学問）茶道における日本伝統工芸、文化の知識 3、実（実技）茶道の作法の習得
履修の留意点：	用具等（茶、菓子、懐紙、楊子）の実費を必要とする 1回につき300円、履修申請時に14回分を事務所カウンターにて支払う
目標と評価：	茶道の作法（基本動作）を習得することを目標とする 姿勢の正しい方、お辞儀の仕方、歩き方、お菓子のいただき方、お茶の呑み方、茶室だけでなく人との交わりの場での作法、心の持ち方等々。 平常評価 1、授業中の態度 2、実技習得への積極性 3、出席日数により採点する
教科書：	「新版 茶道」 千宗室 茶道教育センター 昭和57年    

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「日本文化実習 I（留学生用）」（担当者：鶴田 昭子）の履修の手引き

科目名：	日本文化実習 I（留学生用）
担当者：	鶴田 昭子
対象学生：	経営経済学部1年
設置学期：	春
概要：	日本語の四技能（読む、書く、聞く、話す）の中でも特に、書く（レポート、論文作成）、話す（スピーチ）を中心とし、書いたものを正確に、聞く者にわかるように読むことや、論理的なスピーチの練習をし、専門の授業やゼミへの参加に向けて学習する。
授業方法：	演習形式で、学生の皆さんの積極的な参加・活動を中心として授業を行う。
履修の留意点：	一回一回の授業に集中し、その時間内で最大限に学習項目を習得していただきたい。
目標と評価：	<p>目標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・レポート作成やゼミでの発表ができること。・</li> </ul> <p>評価</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・平常点重視</li> </ul>
教科書：	<p>大学・大学院留学生の日本語 ④論文作成編 アカデミック・ジャパニーズ研究会 株式会社アルク 2002年初版</p> <p> </p> <p> </p> <p> </p>

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「日本文化実習Ⅱ」（担当者：井口 浩一）の履修の手引き

科目名：	日本文化実習Ⅱ
担当者：	井口 浩一
対象学生：	短期大学部1年
設置学期：	秋
概要：	<p>1. 和様（漢字・仮名＝上代様）における基礎的基本事項を習得する。</p> <p>2. 本・科目（Ⅰ）；本項2・3・4と同じ。</p>
授業方法：	<p>1. 和様における基礎的・基本的事項の理解習得 用具・用材；執筆・運筆・用筆法；形・線・空白等</p> <p>2. 行書、草書、仮名を書く 和様入門；書体；日本書道史 臨書（形臨、倣書、創作）</p> <p>3. 古典の稽古 和様の古典と作家達・鑑賞・（臨書の意義の発見） 唐様と和様の比較を通じた和・漢の文化（観）</p> <p>4. 応用 生活の中の文字を書いてみる</p> <p>以上を通じて、主として、自己発見を行うことに主眼がおかれる</p>
履修の留意点：	1. 本・科目（Ⅰ）；本項1～7と同。
目標と評価：	<p>1. 目標 ◎上代様の基礎的・基本的なことがらが表現できること ◎仮名学習（表現）をとおして、書の心・日本の心を経験すること ◎美的生活を実践すること</p> <p>2. 評価 平常点 出欠状況；授業中の態度；提出物を主とした総合評価。</p>
教科書：	<p>かなのレッスン 1（入門編） 村上 翠亭 二玄社 初版 昭和60年6月5日【※ 参考書（希望者のみ）】</p> <p> </p> <p> </p> <p> </p> <p> </p>

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「日本文化実習Ⅱ」（担当者：柴生田 俊一）の履修の手引き

科目名：	日本文化実習Ⅱ
担当者：	柴生田 俊一
対象学生：	短期大学部1年
設置学期：	秋
概要：	日本は古来、中国文明の影響のもとで、日本文化を形成してきた。そして、明治維新以降は、脱亜入欧し、欧米文明の影響のもとで、日本文化を発展させてきた。従って、現代の日本文化には、中国や欧米から輸入した文化と、日本固有のものに育て上げてきた独自文化が見られる。「日本文化Ⅱ」では、現代日本の宗教思想・生活文化・精神文化・社会システムなどを、諸外国と比較しながら、日本文化の特質、日本人の性格、日本社会の特徴などを学ぶ。そして、21世紀における日本人の生き方、日本の進路を考えてみる。
授業方法：	講義、ネット検索、研究指導
履修の留意点：	1. 文化比較の意義－欧米と日本、中国・韓国と日本、関西と関東 2. 日本文化の生成過程－中国文明圏、西欧文明圏、日本文化 3. 欧米人による日本文化発見－禅、茶の湯、能、庭園、浮世絵、俳句など 4. 東アジア人による日本文化発見－縮み志向、共通性と異質性 5. 日本の現代文化－ファースト・フード、カラオケ、マンガ、アニメなど 期末には各自、日本文化の事例を1つ選び、個人研究を提出する。
目標と評価：	最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。ミニレポート、電子会議室、期末レポート(個人研究)
教科書：	使用しません。

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「日本文化実習Ⅱ」（担当者：市川 宗成）の履修の手引き

科目名：	日本文化実習Ⅱ
担当者：	市川 宗成
対象学生：	短期大学部1年
設置学期：	秋
概要：	茶道の実習を通じて、日本の伝統文化についての理解を深める。 感謝と思いやりの心、相手の人格を尊重し、仕えあう心など精神力を養うことを目指す。 茶道の作法（湯をわかし、茶を点て、菓子を味わい、茶を呑む）を習い動作の美しさを習得する。
授業方法：	茶道の稽古の実習をベースに講義を進める 1、道（心）精神面の充実 2、学（学問）茶道における日本伝統工芸、文化の知識 3、実（実技）茶道の作法の習得
履修の留意点：	用具等（茶、菓子、懐紙、楊子）の実費を必要とする 1回につき300円、履修申請時に14回分を事務所カウンターにて支払う
目標と評価：	茶道の作法（基本動作）を習得することを目標とする 姿勢の正しい方、お辞儀の仕方、歩き方、お菓子のいただき方、お茶の呑み方、茶室だけでなく人との交わりの場での作法、心の持ち方等々。 平常評価 1、授業中の態度 2、実技習得への積極性 3、出席日数により採点する
教科書：	「新版 茶道」 千宗室 茶道教育センター 昭和57年 _____ _____ _____

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。

「日本文化実習Ⅱ（留学生用）」（担当者：鶴田 昭子）の履修の手引き

科目名：	日本文化実習Ⅱ（留学生用）
担当者：	鶴田 昭子
対象学生：	経営経済学部1年
設置学期：	秋
概要：	日本語の四技能(読む、書く、聞く、話す)を高め、専門の授業やゼミへ参加する際の困難を減らすことを目的とする。 その中でも、レポート、論文作成に必要な書き言葉と書いたものを正確に読み発表することに重点をおいて学習していく。
授業方法：	演習形式で、学生の皆さんの積極的な参加、発言を重視して授業を進める。
履修上の留意点：	一回一回の授業に集中し、その時間内に最大限に学習項目を習得してほしい。
目標と評価：	適切な書き言葉を用いて文章を書けるようになること。書いたものを正確に読み発表できるようになること。 基本的なカタカナ語を含む文を聞いて理解できるようになること。以上の三点を目標とする。 評価については、課題への取り組み姿勢や提出状況等、平常点を重視する。
教科書：	プリントを用意しますのでありません。

「国際交流研修」（担当者：山田 寛）の履修の手引き

科目名：	国際交流研修
担当者：	山田 寛
対象学生：	短期大学部1年
設置学期：	春
概要：	夏休みに、主に東南アジアに出かけて、国際ボランティアの体験をしてもらう。 2001年はラオスで学校建設、2002年はカンボジアで運動会設営を体験した。 2003年の詳細は未定だが、できたらまた運動会設営体験をしたいと考えている。 現地の子供たちに運動の楽しさを知ってほしいと思っている。
授業方法：	授業ではなく、10日間ほどの旅行をする。私（山田）が同行する。
履修の留意点：	この国際交流研修の単位をとるには、春学期に「国際理解と交流」の授業を履修していることが前提となる。ただし、「交流研修の単位をとらずに体験旅行に参加するだけ」もOK。 短大設置科目だが、経営経済学部学生の参加・単位取得もOK。
目標と評価：	積極的に、楽しみながら体験してほしい。
教科書：	

※最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。